



Informatica® Intelligent Cloud Services
October 2025

REST API リファレンス

© 著作権 Informatica LLC 2016, 2025

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica Cloud、Informatica Intelligent Cloud Services、PowerCenter、PowerExchange、および Informatica ロゴは、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2025-12-01

目次

序文	11
Informatica のリソース.....	11
Informatica マニュアル.....	11
Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト.....	11
Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ.....	11
Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス.....	12
データ統合のコネクタのドキュメント.....	12
Informatica ナレッジベース.....	12
Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center.....	12
Informatica グローバルカスタマサポート.....	12
 第 1 章 : Informatica Intelligent Cloud Services REST API	13
プラットフォームの REST API とサービス固有の REST API.....	13
REST API バージョン.....	14
ヘッダーと本文の設定.....	15
要求ヘッダー.....	15
要求本文.....	16
戻りリスト.....	17
JSON 形式の例.....	18
XML 形式の例.....	18
更新モード.....	19
Date/Time 値.....	20
オブジェクト ID.....	21
セッション ID.....	22
REST API 応答.....	23
成功したオブジェクト.....	24
エラーオブジェクト.....	24
REST API のルールとガイドライン.....	25
マニュアルの表記規則.....	25
 第 2 章 : プラットフォーム REST API バージョン 2 リソース	26
アクティビティログ.....	26
完了したジョブのログ.....	27
実行中のジョブのログ.....	38
監査ログ.....	41
バンドル.....	45
バンドルの詳細.....	45
バンドルライセンス.....	47
バンドルのインストールとアンインストール.....	48
ジョブ.....	49

ジョブの開始.	50
ジョブの停止.	52
ジョブのクリーン停止.	53
ログイン.	54
ログインしています.	54
JSON Web トークンを使用したログイン.	58
SAML を使用したログイン.	63
Salesforce を使用したログイン.	66
ログアウト.	69
ロギング出力.	70
ログアウトとすべてのセッションの終了.	70
組織.	71
組織管理.	71
サブ組織の作成.	76
ランタイム環境.	81
ランタイム環境の詳細の取得.	81
Secure Agent グループの作成、更新、および削除.	85
Secure Agent グループの選択の管理.	87
Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティの設定.	90
スケジュール.	93
Secure Agent とサービス.	101
サーバー時間.	106
タスク.	106
ユーザー.	108
第 3 章: プラットフォーム REST API バージョン 3 リソース.	113
エラスティックランタイム環境.	113
環境設定.	113
画像.	121
ランタイム環境 associations.	122
補足ファイル.	125
トークン.	137
エクスポートとインポート.	141
オブジェクトのエクスポート.	143
エクスポートジョブの開始.	143
エクスポートジョブのステータスの取得.	146
エクスポートパッケージのダウンロード.	150
ID プロバイダ.	151
ID プロバイダの登録.	151
ID プロバイダの詳細の取得.	154
ID プロバイダの更新.	155
ID プロバイダの削除.	157
オブジェクトのインポート.	157

インポートパッケージのアップロード.....	158
インポートジョブの開始.....	159
インポートジョブのステータスの取得.....	164
IP アドレス.....	168
キーのローテーション.....	170
キーのローテーション間隔設定の取得.....	170
キーのローテーション間隔の変更.....	171
ライセンス.....	172
ライセンスの詳細の取得.....	172
サブ組織のライセンスの更新.....	173
ログイン.....	174
ログアウト.....	177
ルックアップ.....	178
メータリングデータ.....	182
IPU 使用状況データのサマリの要求.....	183
プロジェクトレベルのメータリングデータの要求.....	187
アセットレベルのデータの要求.....	189
ジョブレベルのメータリングデータの要求.....	191
メータリングデータのエクスポートジョブのステータスの取得.....	193
カスタム IPU アラート設定の取得.....	195
メータリングデータのダウンロード.....	197
メーター ID.....	197
オブジェクトの状態の同期化.....	199
fetchState.....	199
loadState.....	206
オブジェクト.....	212
アセットの検索.....	212
アセットの依存関係の検索.....	219
オブジェクト権限.....	221
権限の作成.....	221
権限の更新.....	223
権限の削除.....	224
権限の詳細の取得.....	224
権限の確認.....	226
パスワード.....	227
パスワードの変更.....	227
パスワードのリセット.....	227
特権.....	228
プロジェクトおよびフォルダ.....	230
プロジェクトの作成.....	230
プロジェクトの更新.....	231
プロジェクトの削除.....	231

フォルダの作成.	232
フォルダの更新.	233
フォルダの削除.	234
ロール.	234
ロールの詳細の取得.	234
ロールの作成.	237
ロールの更新.	238
ロールの削除.	239
SAML グループとロールのマッピング.	239
SAML グループマッピングの追加.	239
SAML ロールマッピングの追加.	241
SAML グループマッピングの削除.	242
SAML ロールマッピングの削除.	242
SAML グループマッピングの詳細の取得.	243
SAML ロールマッピングの詳細の取得.	245
スケジュール.	247
スケジュールの詳細の取得.	247
スケジュールの作成.	251
スケジュールの更新.	255
スケジュールの削除.	260
SCIM トークン.	260
SCIM トークンの一覧表示.	261
SCIM トークンの作成.	261
SCIM トークンの削除.	262
Secure Agent サービス.	262
セキュリティログ.	264
ソース管理.	266
オブジェクトのプル.	267
コミット内のオブジェクトのプル.	273
オブジェクトのチェックアウト.	277
チェックアウトの取り消し.	281
オブジェクトのチェックイン.	286
コミットの詳細の取得.	290
コミット履歴の取得.	292
オブジェクトのバージョンの比較.	295
リポジトリ接続の詳細の取得.	299
ソース管理操作のステータスの取得.	301
タグ.	303
タグの割り当て.	303
タグの削除.	304
ユーザー.	305
ユーザーの詳細の取得.	305

ユーザーの作成.	309
ロールの割り当ての更新.	311
ユーザーグループの割り当ての更新.	312
ユーザーの削除.	313
ユーザーグループ.	313
ユーザーグループの詳細の取得.	314
ユーザーグループの作成.	316
ユーザーグループの更新.	317
ユーザーグループの削除.	318
第 4 章 : データ統合 REST API.	319
コードタスク.	319
コードタスクの作成.	320
コードタスクの開始.	322
コードタスクの表示.	323
コードタスクのステータス.	325
コードタスクのキャンセル.	327
コードタスクのセッションログ.	328
コードタスクの Spark タスクの結果.	328
接続.	329
CSV フラットファイル接続.	336
FTP および SFTP 接続.	337
Microsoft Access 接続.	339
Microsoft Dynamics CRM 接続.	340
Microsoft SQL Server 接続.	341
MySQL 接続.	342
NetSuite 接続.	343
ODBC 接続.	343
Oracle 接続.	344
Oracle CRM On Demand 接続.	345
Salesforce 接続.	346
SAP IDoc Reader 接続.	346
SAP IDoc Writer 接続.	347
Web サービス接続.	348
接続の移行.	350
コネクタ.	351
データプレビュー.	353
データサービス.	358
動的マッピングタスク.	360
ログインしています.	361
動的マッピングタスクの詳細の取得.	362
動的マッピングタスクの実行.	378
フィールド.	380

フィールドの詳細の取得.	380
フラットファイル内のフィールドの更新.	382
非フラットファイル形式のオブジェクト内のフィールドの更新.	383
ファイルリスナ.	386
ファイルリスナの詳細の取得.	387
ファイルリスナの作成.	391
ファイルリスナの更新.	397
ファイルリスナの削除.	402
ファイルリスナの開始.	402
ファイルリスナの停止.	403
ファイルリスナのステータスの表示.	404
ファイルリスナジョブの詳細の取得.	404
ファイルリスナ関連付けの所有者の変更.	405
ファイル転送.	406
リモートサーバーへのファイルの転送.	406
リモートサーバーからのファイルの受信.	408
ジョブステータスの取得.	410
ファイル転送タスク.	410
HTTPS ファイル転送.	423
固定幅の設定.	429
階層マッパー.	433
階層マッパーの作成.	433
階層マッパーの実行.	435
階層マッパーのメタデータの取得.	437
ジョブログファイル.	438
ログインしています.	438
ログ情報の取得.	440
リニアタスクフロー.	445
マッピング.	449
マッピングタスク.	453
マスク方法のマスクルールパラメータ属性.	476
マスクルールパラメータ属性値.	478
PowerCenter マップレット.	482
同期タスクの変換.	487
両立性のテスト.	487
アセットのデータ転送タスクへの変換.	488
タスクフロー.	490
ステータスリソースを使用したタスクフローステータスの監視.	490
タスクフローの一括パブリッシュ.	497
タスクフローの一括パブリッシュ解除.	499
式の検証.	500
Data Integration REST API の補足情報.	501

コネクタのデータ型.....	501
REST API の属性マッピングに対する接続のユーザーインタフェースフィールド.....	503
第 5 章 : ファイル取り込みとレプリケーション REST API.....	504
ジョブ.....	504
アクティビティログ.....	510
タスク.....	517
ファイル取り込みとレプリケーションタスクの表示.....	517
ファイル取り込みとレプリケーションタスクの作成.....	521
ファイル取り込みとレプリケーションタスクの更新.....	527
ファイル取り込みとレプリケーションタスクの場所の表示.....	530
第 6 章 : ストリーミング取り込みとレプリケーション REST API.....	532
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ、デプロイ解除、開始、および停止	532
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ.....	532
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ解除.....	533
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクの開始.....	533
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクの停止.....	534
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのコピー.....	534
ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクの更新.....	536
POST 要求.....	536
POST 応答.....	552
ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブに関する詳細の取得.....	566
ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのリストの取得.....	568
ジョブステータス.....	570
ジョブの統計.....	572
ジョブ履歴.....	574
第 7 章 : RunAJob ユーティリティ.....	576
RunAJob ユーティリティのセットアップ.....	577
ログインプロパティ.....	577
ジョブステータス.....	579
ログファイルの詳細.....	579
Java ヒープサイズ.....	580
RunAJob ユーティリティの使用.....	581
タスクの場所.....	582
RunAJob ユーティリティの引数.....	582
ジョブステータスコード.....	584
第 8 章 : ParamSetCli ユーティリティ.....	585
ParamSetCli ユーティリティの要件.....	585
ParamSetCli ユーティリティのセットアップ.....	585
ログインプロパティ.....	586

ParamSetCli ユーティリティの使用.	587
ParamSetCli ユーティリティの引数.	587
ParamSetCli コマンドの実行.	588
第 9 章 : REST API コード	591
州コード.	591
国コード.	593
タイムゾーンのコード.	599
第 10 章 : REST API リソースクイックリファレンス	603
プラットフォームリソースクイックリファレンス.	603
データ統合リソースクイックリファレンス.	619
索引	626

序文

REST API リファレンスでは、Informatica Intelligent Cloud ServicesSM REST API を使用して Informatica Intelligent Cloud Services 組織とデータのやり取りを行う方法について説明します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト

Informatica Intelligent Cloud Services Web サイト (<http://www.informatica.com/cloud>) にアクセスできます。このサイトには、Informatica Cloud 統合サービスに関する情報が含まれます。

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティ

Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティを使用して、技術的な問題について議論し、解決します。また、技術的なヒント、マニュアルの更新情報、FAQ（よくある質問）への答えを得ることもできます。

次の Informatica Intelligent Cloud Services コミュニティにアクセスします。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration>

開発者は、次の Cloud 開発者コミュニティで詳細情報を確認したり、ヒントを共有したりできます。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/products/cloud-integration/cloud-developers>

Informatica Intelligent Cloud Services マーケットプレイス

Informatica マーケットプレイスにアクセスすると、データ統合コネクタ、テンプレート、およびマップレットを試用したり購入したりできます。

<https://marketplace.informatica.com/>

データ統合のコネクタのドキュメント

データ統合のコネクタのドキュメントには、マニュアルポータルからアクセスできます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center は、Informatica のセキュリティポリシーおよびリアルタイムでのシステムの可用性について情報を提供します。

Trust Center (<https://www.informatica.com/trust-center.html>) にアクセスします。

Informatica Intelligent Cloud Services Trust Center にサブスクライブして、アップグレード、メンテナンス、およびインシデントの通知を受信します。[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページには、すべての Informatica Cloud 製品の実稼働ステータスが表示されます。メンテナンスの更新はすべてこのページに送信され、停止中は最新の情報が表示されます。更新と停止の通知がされるようにするには、Informatica Intelligent Cloud Services の 1 つのコンポーネントまたはすべてのコンポーネントについて更新の受信をサブスクライブします。すべてのコンポーネントにサブスクライブするのが、更新を逃さないようにするための最良の方法です。

サブスクライブするには、[Informatica Intelligent Cloud Services Status](#) ページで **【サブスクライブして更新】** をクリックします。電子メール、SMS テキストメッセージ、Webhook、RSS フィード、またはこの 4 つの任意に組み合わせとして送信される通知を受信するという選択ができます。

Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルサポートセンターには、Informatica Network または電話でお問い合わせください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを検索するには、Informatica Intelligent Cloud Services のヘルプメニューで **【サポートにお問い合わせください】** をクリックして、**Cloud Support** ページに移動します。**Cloud Support** ページには、システムステータス情報とコミュニティディスカッションが記載されています。追加のリソースを検索する場合や電子メールで Informatica グローバルカスタマサポートに問い合わせる場合は、Informatica Network にログインし、**【サポートが必要な場合】** をクリックしてください。

Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica の Web サイト <https://www.informatica.com/services-and-training/support-services/contact-us.html> に掲載されています。

第 1 章

Informatica Intelligent Cloud Services REST API

Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用して、所属する Informatica Intelligent Cloud Services 組織からの情報にアクセスします。また、接続の作成、更新、削除や権限の設定などのタスクも実行できます。

Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用するには、有効な Informatica Intelligent Cloud Services へのログインと REST API ガイドラインについての知識が必要です。

REST API を使用して要求を設定するには、適切なリソースとメソッド、および適用可能なオブジェクトを使用します。Informatica Intelligent Cloud Services では、要求された情報を返すか、要求されたタスクを実行するか、またはエラーおよび関連するメッセージを返します。

Informatica Intelligent Cloud Services REST API は、Transport Layer Security (TLS) バージョン 1.2 プロトコルおよび TLS バージョン 1.3 プロトコルをサポートしています。

このガイドで説明している機能の一部は、ライセンスが原因で所属する組織では使用できない場合があります。

プラットフォームの REST API とサービス固有の REST API

Informatica Intelligent Cloud Services には、Informatica Intelligent Cloud Services のサービスが構築されるプラットフォームという共通機能が含まれます。Informatica Intelligent Cloud Services の各サービスには、プラットフォームの機能に加えて、そのサービスのみに適用される機能があります。

例えば、タスクは Informatica Intelligent Cloud Services のほとんどのサービスに適用されます。組織のタスクのリストを取得するには、プラットフォームリソースの task を使用します。一方、マッピングタスクは、データ統合サービスのみに適用されるタイプのタスクです。マッピングタスクの詳細を取得したり、マッピングタスクを作成したりするには、データ統合リソースの mttask を使用します。

Informatica Intelligent Cloud Services プラットフォーム REST API には 2 つのバージョンがあります。必要なリソースが含まれるバージョンを使用します。同じセッションで両方のバージョンを使用することができますが、ベース URL およびヘッダーが若干異なります。詳細については、[第 2 章、「プラットフォーム REST API バージョン 2 リソース」 \(ページ 26\)](#) および [第 3 章、「プラットフォーム REST API バージョン 3 リソース」 \(ページ 113\)](#) を参照してください。

データ統合リソースの詳細については、[第 4 章、「データ統合 REST API」 \(ページ 319\)](#) を参照してください。

REST API バージョン

Informatica Intelligent Cloud Services は、プラットフォーム REST API バージョン 2 およびバージョン 3 リソース、およびサービス固有のリソースをサポートしています。

Informatica Intelligent Cloud Services へのログインには、プラットフォーム REST API バージョン 2 またはバージョン 3 のどちらの login リソースでも使用できます。その後に使用するリソースのバージョンに合わせる必要はありません。

REST API バージョン 2 とバージョン 3 の呼び出しの違いを次に示します。

形式

使用する API バージョンに応じて次の形式を使用できます。

- バージョン 2 では、XML および JSON 呼び出しがサポートされます。
- バージョン 3 では、JSON 呼び出しがサポートされます。

ログイン URL

次のいずれかのログイン URL を使用します。

- バージョン 2 では、`https://dm-<POD region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/login` を使用します。
- バージョン 3 では、`https://dm-<POD region>.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/login` を使用します。

使用する POD (Point of Deployment) リージョンは、Informatica Intelligent Cloud Services データセンターの場所に基づいて決まります。次のいずれかの POD リージョンを使用します。

- 北米の場合は us
- ヨーロッパの場合は em
- アジアの場合は ap

POD リージョンは、Informatica Intelligent Cloud Services への登録時に受け取る URL に含まれています。

ベース URL

ログイン応答には、後続の呼び出しに含める必要があるベース URL が含まれています。

ベース URL には、次のコンポーネントが含まれています。

- 組織で使用する POD の名前と地域 (例: usw3.dm-us)。
- Informatica Intelligent Cloud Services ドメイン、informaticacloud.com。
- API 呼び出しを管理する内部サービス (saas など)。

次の例は、usw3.dm-us POD 上の組織のベース URL を示しています。

`https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas`

ログイン応答では、ベース URL を提供する属性は、ログインに使用する API バージョンによって異なります。以下に例を示します。

- バージョン 2 の応答では、属性名は `serverUrl` です。
- バージョン 3 の応答では、属性名は `baseApiUrl` です。

要求 URL

要求で使用する URL は、バージョン 2 とバージョン 3 リソースでは異なり、例えば以下のようになります。

- バージョン 2 のリソースの場合は、次のように<serverUrl>/api/v2/<REST API リソース>を使用します。
`https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/activityLog`
- バージョン 3 のリソースの場合は、次のように<baseApiUrl>/public/core/v3/<REST API リソース>を使用します。
`https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/schedule`

セッション ID

ログイン応答には、セッション中のヘッダーに含める必要があるセッション ID が含まれます。バージョン 2 とバージョン 3 のリソースには同じセッション ID を使用できます。ログイン応答では、セッション ID の属性の名前は、ログインに使用する API バージョンによって異なります。次のいずれかの属性を使用します。

- バージョン 2 リソースでは、ヘッダーに `icSessionId` を使用します。
- バージョン 3 リソースでは、ヘッダーに `INFA-SESSION-ID` を使用します。

ヘッダーと本文の設定

必要に応じて、使用する呼び出しの形式やリソースのバージョンを考慮しながら要求ヘッダーおよび要求本文を設定します。

要求ヘッダー

要求ヘッダーはバージョン 2 とバージョン 3 のリソースで少し異なります。

バージョン 2 の呼び出しでは、REST API 要求ヘッダーで次の形式を使用します。

```
<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/<json | xml>
Accept: application/<json | xml>
icSessionId: <SessionId>
```

バージョン 3 の呼び出しでは、REST API 要求ヘッダーで次の形式を使用します。

```
<METHOD> <baseApiUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

Postman などのツールを使用する場合、要求には HTTP バージョンが自動的に含められることに注意してください。URL に HTTP バージョンを入力すると、HTTP バージョンが URL で 2 回出現するため、要求が成功しません。

次のリストは、バージョン 2 とバージョン 3 の要求ヘッダーの形式の属性を示します。

属性	必須	説明
METHOD	はい	使用するメソッド (GET、POST、DELETE など)。
serverUrl	ほとんどの v2 リソースで必須	login と register を除くすべてのバージョン 2 リソースのベース URL。 serverUrl にはプレースホルダを使用し、プレースホルダを login リソースによって返される Informatica Intelligent Cloud Services URL に置き換えます。 login および register リソースでは、リソースにリストされる URL を使用します。
baseApiUrl	ほとんどの v3 リソースで必須	login を除くすべてのバージョン 3 リソースのベース URL。 baseApiUrl にはプレースホルダを使用し、プレースホルダを login リソースによって返される Informatica Intelligent Cloud Services URL に置き換えます。 login リソースでは、リソース定義にリストされる URL を使用します。
URI	ほとんどのリソースで必須	リソース URI。 URI にはベース URL とリソース名を含めます。パラメータを含めることもできます。 login および register リソースでは、リソース定義にリストされる URL を使用します。
HTTP version	はい	使用している HTTP バージョン。 Postman などの一部のツールではヘッダーに HTTP バージョンが自動的に含められます。
Content-Type	POST 要求で必須	要求の形式。次のいずれかのオプションを使用します。 - application/json。要求を JSON として読み取ります。 - application/xml。要求を XML として読み取ります。バージョン 2 リソースにのみ適用できます。 デフォルトは json です。
承認	いいえ	受信する要求形式。次のいずれかのオプションを使用します。 - application/json。要求を JSON として送信します。 - application/xml。要求を XML として送信します。バージョン 2 リソースにのみ適用できます。 デフォルトは json です。
icSessionId	ほとんどの v2 リソースで必須	Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。login と register を除くすべてのバージョン 2 リソースで必須。 sessionId にはプレースホルダを使用し、プレースホルダを login リソースによって返されるセッション ID に置き換えます。
INFA-SESSION-ID	ほとんどの v3 リソースで必須	Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。login を除くすべてのバージョン 3 リソースで必須。 sessionId にはプレースホルダを使用し、プレースホルダを login リソースによって返されるセッション ID に置き換えます。

要求本文

要求本文を使用してリソースの追加属性を渡します。要求本文で属性を渡すとき、属性はオブジェクトの一部として渡します。

例えば、login リソースにログインするには、ログインオブジェクトの必要な username 属性と password 属性を渡します。

一部の要求には、属性のサブオブジェクトが含まれます。サブオブジェクトは、関連する属性をリストする前に宣言します。

JSON 形式

バージョン 2 REST API 呼び出しに JSON 形式を使用するときは、次の例に示すように、必要に応じて、@type 属性の要求オブジェクトを定義することができます。

```
{
  "@type": "<request object>",
  "<attribute1>": "<value1>",
  "<attribute2>": "<value2>",
}
```

属性にオブジェクトが含まれるときは、属性を示し、次のようにオブジェクト名を使用します。

```
{
  "@type": "<request object>",
  "<attribute1>": "<value1>",
  "<attribute2>": {
    "@type": "<attribute object>",
    "<attributeA>": "<valueA>",
    "<attributeB>": "<valueB>",
  },
  "@type": "<attribute object>",
  "<attributeD>": "<valueD>",
  "<attributeE>": "<valueE>",
  "<attribute3>": "<value3>",
}
```

注: バージョン 3 REST API 呼び出しでは、@type 属性を使用しないでください。

XML 形式

XML 形式を使用する場合は、次のように、要求オブジェクトをタグの包含セットとして定義します。

```
<request object>
  <attribute1>value1</attribute1>
  <attribute2>value2</attribute2>
</request object>
```

属性にオブジェクトが含まれるときは、次のように属性オブジェクトを属性タグ内に囲みます。

```
<request object>
  <attribute1>value1</attribute1>
  <attribute2>
    <attribute object>
      <attributeA>valueA</attributeA>
      <attributeB>valueB</attributeB>
    </attribute object>
    <attribute object>
      <attributeC>valueC</attributeC>
      <attributeD>valueD</attributeD>
    </attribute object>
  </attribute2>
  <attribute3>value3</attribute3>
</request object>
```

戻りリスト

REST API は、一連のオブジェクトを XML で返すとき、次のように root タグでリストを囲みます。

```
<root>
  <return object 1>
    <attribute1>value1</attribute1>
    <attribute2>value2</attribute2>
  </return object 1>
```

```

<return object 2>
  <attribute1>value1</attribute1>
  <attribute2>value2</attribute2>
</return object 2>
</root>

```

JSON では、追加の属性は使用しません。REST API は、次のように角カッコ ([]) でリストを囲みます。

```

[
  {
    "<attribute1>": "<value1>",
    "<attribute2>": "<value2>",
  },
  {
    "<attribute1>": "<value1>",
    "<attribute2>": "<value2>",
  },
]

```

JSON 形式の例

JSON を使用してログインするには、次の要求ヘッダーおよび本文を使用できます。

```

POST https://dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/login
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```

```

{
  "username": "user@informatica.com",
  "password": "mypassword"
}

```

ログインによって、次の情報が返される可能性があります。

```

{
  "products": [
    {
      "name": "Integration Cloud",
      "baseApiUrl": "https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas"
    }
  ],
  "userInfo": {
    "sessionId": "9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3",
    "id": "9L1GFroXSDHe2IIg7QhBaT",
    "name": "user",
    "parentOrgId": "52ZSTB0IDK6dXxaEQLUaQu",
    "orgId": "0cuQSDTq5sikyN7x8r1xm1",
    "orgName": "MyOrg_INFA",
    "groups": {},
    "status": "Active"
  }
}

```

次に、sessionId および baseapiUrl を使用して要求を構成し、次のような組織のライセンス情報を取得できます。

```

GET https://https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/license/org/52ZSTB0IDK6dXxaEQLUaQu
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3

```

XML 形式の例

バージョン 2 リソースでは XML 呼び出しを使用できます。

XML を使用してログインするには、次のヘッダーおよび本文を使用できます。

```

POST https://dm-us.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/login
Content-Type: application/xml

```

Accept: application/xml

```
<login>
  <username>useremail@company.com</username>
  <password>mypassword</password>
</login>
```

ログインによって、次の情報が返される可能性があります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<user>
  <id>00000B03000000000001</id>
  <orgId>00000B</orgId>
  <name>user@company.com</name>
  <createTime>2012-06-14T15:00:00.000Z</createTime>
  <updateTime>2012-06-14T15:00:00.000Z</updateTime>
  <createdBy>System</createdBy>
  <updatedBy>user@company.com</updatedBy>
  <firstName>Firstname</firstName>
  <lastName>Lastname</lastName>
  <title>Senior Software Engineer</title>
  <password>*****</password>
  <phone>1111111111111111111</phone>
  <timezone>America/Los_Angeles</timezone>
  <serverUrl>http://example.informatica.com/saas</serverUrl>
  <icSessionId>IV4w0rJmd6YUtmKa8t</icSessionId>
</user>
```

その後、icSessionId と serverUrl を使用すると、次のようにスケジュールを削除する要求を作成できます。スケジュール ID は 000001D00000000000001 です。

```
DELETE http://example.informatica.com/saas/api/v2/schedule/000001D00000000000001
Accept: application/xml
icSessionId: IV4w0rJmd6YUtmKa8t
```

DELETE メソッドには要求本文で渡す追加の属性がないため、Content-Type は必要ありません。

更新モード

データ統合呼び出しでは、完全更新モードまたは部分更新モードを使用して POST 要求を送信できます。

すべてのオブジェクトフィールドを含むのではなく、変更したオブジェクトフィールドのみを含む POST 要求を送信するには、部分モードを使用します。例えば、mttask オブジェクトの接続を更新する場合、次の例のように部分モードを使用して POST 要求を送信できます。

```
POST api/v2/mttask/<taskId>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
Update-Mode: PARTIAL
{
  {
    "@type": "mtTask",
    "parameters": [
      {
        "@type": "mtTaskParameter",
        "name": "$NewSource$",
        "type": "EXTENDED_SOURCE",
        "sourceConnectionId": "<sourceConnectionId>"
      }
    ]
  }
}
```

部分モードを使用しない場合、要求にオブジェクト全体を含める必要があります。デフォルトでは、REST API は完全モードを使用します。

部分モードは次のリソースで使用できます。

- 接続
- fwConfig
- masterTemplate
- mttask
- スケジュール
- ワークフロー

部分モードで POST 要求を送信するときは、JSON を使用して要求をフォーマットし、ヘッダーに次の行を含めます。

Update-Mode=PARTIAL

本文には更新されたオブジェクトの@type 属性を含めます。

一部のフィールドはコレクションにグループ化されます。コレクションに存在するフィールドを更新するには、POST 要求にコレクションのキーフィールドを含めます。以下の表に、コレクションと対応するキーフィールドを示します。

リソース/オブジェクト	コレクション	キーフィールド
fwConfig	fwColumn	name
masterTemplate	mtParameter	name type
mttask	mtTaskInOutParameter	name
mttask	sequenceDefinition	txName
mttask	mtTaskOverriddenField	name
mttask	mtTaskParameter	name type
extendedObject (mttask 内のオブジェクト)	オブジェクト	name
workflow	workflowTask	taskId

Date/Time 値

REST API で、Informatica Intelligent Cloud Services は UTC 日付形式を使用してすべての日付/時刻値を渡します。

要求で渡すすべての日付/時刻値に対し、次の UTC 日付形式を使用します。Informatica Intelligent Cloud Services から返されるすべての日付/時刻値に同じ形式が使用されます。

<yyyy>-<MM>-<dd>T<HH>:<mm>:<ss>.<SSS>Z

次のリストで、UTC 日付形式の属性について説明します。

YYYY

4 桁で表した年。

MM

2 桁で表した月。

dd

2 桁で表した日。

T

形式の時間部分を示します。

HH

時間（24 時間形式）。例えば、12:00:00 a.m.には 0 を、11:00:00 p.m.には 23 を指定します。

mm

2 桁で表した分。

ss

2 桁で表した秒。

SSS

3 桁で表したマイクロ秒。

Z

UTC タイムインジケータ。

例えば、次の日付文字列は 2012 年 12 月 14 日の午後 3 時を表します。

2012-12-14T15:00:00.000Z

オブジェクト ID

多くの要求に接続 ID またはリニアタスクフロー ID などのオブジェクト ID が必要です。必要なオブジェクト ID を検索するには、関連する GET 要求を使用できます。

例えば、リニアタスクフローの更新に必要なリニアタスクフロー ID を決定するために、ワークフローの GET 要求を使用して、組織内のすべてのリニアタスクフローの詳細を表示することができます。リニアタスクフロー詳細の戻りリストにはリニアタスクフロー ID が含まれます。同様に、ユーザーのオブジェクト ID を決定するために、ユーザーの GET 要求を実行することができます。

オブジェクト ID の表示は、使用する REST API のバージョンに応じて異なります。REST API バージョン 2 のリソースは 8 文字のオブジェクト ID を使用し、バージョン 3 のリソースは FRS オブジェクト ID を使用します。Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーインターフェイスでアセットを開くと、FRS オブジェクト ID を見つけることができます。URL の最後の文字列が FRS ID です。その他のオブジェクト ID は、ユーザーインターフェイスから簡単には取得できない場合もあります。

セッション ID

REST API を使用して Informatica Intelligent Cloud Services 組織にログインすると、login リソースは REST API セッション ID を返します。このセッション ID は、セッション中、後続のほとんどの REST API 要求に含めます。

2025 年 11 月 3 日までは、セッション ID による認証タイプは常にユーザーのログイン後に使用されます。

2025 年 11 月 3 日からは、組織管理者は次のいずれかの認証タイプを使用するように組織を設定できます。

- セッション ID。組織がセッション ID による認証タイプを使用している場合、30 分間アクティビティが行われないと、セッション ID が期限切れになります。ネットワークまたは予期しない遅延を考慮して、最大 2 分間の猶予期間が含まれる場合があります。
- JSON Web トークン (JWT)。組織が JSON Web トークン (JWT) による認証タイプを使用している場合、ログイン応答内に返されるセッション ID 値は JWT トークンの値になります。カスタムスクリプトを使用する場合は、中断を避けるために、JWT トークンの有効期限が切れる前にスクリプトが自動再認証を処理するようにしてください。詳細については、[JWT Support](#) に関する Knowledge の記事を参照してください。

ログイン要求以外のすべての API 要求のヘッダーには、セッション ID を含めます。ヘッダーに含める属性名は、リソースによって異なります。

- REST API バージョン 2 のリソースの場合は、ヘッダー内で、セッション ID の値を保持する `icSessionId` 属性を使用します。
- REST API バージョン 3 のリソースの場合は、ヘッダー内で、セッション ID の値を保持する `INFA-SESSION-ID` 属性を使用します。
- その他のリソースの場合は、ヘッダー内で、セッション ID の値を保持する `IDS-SESSION-ID` 属性を使用します。

次の例は、REST API バージョン 2 呼び出しのヘッダーに `icSessionId` を使用する方法を示しています。

```
GET https://app.informaticacloud.com/saas/api/v2/licenseInfo/org/<id>
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <session ID>
```

次の例は、REST API バージョン 3 呼び出しのヘッダーに `INFA-SESSION-ID` を使用する方法を示しています。

```
GET https://app.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/license/org/{orgId}
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
```

POST 要求を送信すると、セッション ID のステータスを確認できます。次の URI を使用して要求を送信します。

```
/api/v2/user/validSessionId
```

要求に次の属性を含めます。

- `userName`。Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー名。
- `icToken`。セッション ID。

例えば、次の要求を使用できます。

```
POST https://app.informaticacloud.com/saas/api/v2/user/validSessionId
Content-Type: application/json
Accept: application/json
```

```
{
  "type": "validatedToken",
  "userName": "user@informatica.com",
  "icToken": "9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3"
}
```

応答では、セッション ID が有効かどうかと、セッション ID の有効期限までの時間（分単位）が返されます。例えば、次の応答を受信します。

```
{
  "@type": "validatedToken",
  "timeUntilExpire": 29,
  "isValidToken": true
}
```

注: セッションが 1 分未満で期限切れになると、timeUntilExpire 値は「0」に変わります。セッションの有効期限が切れると、isValidToken の値が「false」に変わります。認証失敗のリスクを回避するには、timeUntilExpire 値が 0 に変わったときに再認証してください。

REST API 応答

REST API 応答が成功すると、要求されたオブジェクト、オブジェクトの配列、または HTTP 成功コードが返されます。失敗した応答は HTTP エラーコードを返しますが、エラーオブジェクトを返すこともあります。

成功した応答

以下の表に、REST API 要求に対する一般的な成功した応答を示します。

要求タイプ	応答
GET	情報要求では、要求されたオブジェクトまたは該当するオブジェクトの配列が返されます。アクション要求では、HTTP 200 成功コードが返されます。REST API 成功オブジェクトも返すことができます。
POST	作成または更新したオブジェクトを返します。 HTTP 201 成功コードを返すこともあります。
DELETE	HTTP 200 成功コード。 REST API 成功オブジェクトも返すことができます。

例えば、GET 要求を使用してスケジュールを表示した場合、成功した応答とは、要求したスケジュールオブジェクトです。また、POST 要求を使用してスケジュールの実行時間を更新した場合、成功した応答とは、更新を含む更新したスケジュールオブジェクトです。DELETE 要求を使用して不要なスケジュールを削除した場合、成功した応答とは、200 成功コードです。

失敗した応答

応答が失敗した場合、REST API は標準の HTTP エラーコードを返しますが、エラーオブジェクトを返すこともあります。次の表に、返される可能性がある HTTP エラーコードの一部を示します。

HTTP エラーコード	説明
400	不正な要求です。無効な文字や不適切な文字列の長さなど、フィールドまたは形式の問題である可能性があります。
401	認証の問題。例えば、無効な認証情報または無効なセッション ID です。

HTTP エラー コード	説明
403	一般的なエラー。例えば、ユーザーがリソースに必要な権限を持っていない場合などがあります。
404	リソースが見つかりません。
500	予期しないエラーです。予期しない状況が発生したときに表示される一般的なエラーメッセージ。
502	ネットワークの問題。
503	サービスが使用不可能になりました。サーバーが要求を処理できません。

成功したオブジェクト

REST API はアクションの実行に成功すると、200 または 201 成功応答が返されます。また、成功オブジェクトも返すことがあります。

成功オブジェクトの構造は次のとおりです。

```
<xs:complexType name="success">
  <xs:sequence>
    <xs:element name="description" type="xs:string"/>
  </xs:sequence>
</xs:complexType>
```

エラーオブジェクト

REST API でエラーが発生すると、REST API のエラーオブジェクトが返されます。

REST API バージョン 2 呼び出しの場合、エラーオブジェクトには次の構造があります。

```
{
  "code": "UI_10000",
  "description": "User name or password is not valid.",
  "statusCode": 403,
  "@type": "error"
}
```

REST API バージョン 3 呼び出しの場合、エラーオブジェクトには次の構造があります。

```
{
  "error": {
    "code": "IDS_085",
    "message": "User name or password is not valid.",
    "requestId": "9hr8e20bIcChbwYftgDui7",
    "details": null
  }
}
```


REST API のルールとガイドライン

次のリストは、Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用する際に準拠するルールとガイドラインをまとめたものです。

- login リソースを使用して、REST API セッションを開始します。セッション中に実行するすべての要求で、ログイン応答で返されたセッション ID を再利用します。
要求ヘッダーのセッション ID のプレースホルダを使用できます。プレースホルダを、ログイン応答で返されたセッション ID データに置き換えます。
- REST API セッションは、非アクティブ状態が 30 分間続くと期限切れになります。ただし、セッションが期限切れとなる前にログアウトすることをお勧めします。REST API で作業を続行するには、新しいセッションを開始します。
- login および register リソースの要求ヘッダーには、icSessionId または INFA-SESSION-ID を含めないでください。
- 送信したすべての要求が実行されるまで、REST API セッションからログアウトしないでください。
- login を除くすべてのリソースでは、ベース URL にプレースホルダを使用します。バージョン 2 リソースでは、プレースホルダを serverUrl で返される URL に置き換えます。バージョン 3 リソースでは、プレースホルダを baseApiUrl で返される URL に置き換えます。
- すべてのリソースおよび属性は、大文字と小文字が区別されます。
- ヘッダーで要求および応答の形式を指定します。Content-Type 属性を使用して要求形式を指定し、Accept 属性を使用して応答形式を指定します。
- 要求または応答のタイプが指定されていない場合、Informatica Intelligent Cloud Services はデフォルトでは JSON を使用します。
- バージョン 2 リソースを使用する JSON の要求では、必要に応じて @type 属性を使用してオブジェクトを定義します。バージョン 3 リソースを使用する JSON の要求では、@type 属性を使用しません。
- XML の要求では、<object name>タグで囲んでオブジェクトを定義します。
- オブジェクトのリストを含む XML 応答は、<root>タグで囲まれたオブジェクトを返します。
- POST 要求では、部分モードを使用して JSON 形式で要求を送信する場合を除き、要求オブジェクトにすべてのフィールドを含める必要があります。部分モードはほとんどのリソースに適用されません。デフォルトでは、REST API は完全モードを使用します。
- 指定されている場合、指定されたオブジェクトで POST 要求属性を囲みます。オブジェクトを指定しない場合は、要求本文に属性を含めます。

マニュアルの表記規則

Informatica Intelligent Cloud Services REST API マニュアルでは、次の表記規則を使用しています。

- メソッドには大文字を使用する（例: GET）。
- 要求の構文には、次の表記規則を使用する。
 - 変数は山かっこ (<>) で囲む（例: 「ユーザー ID には<id>を使用」）。
 - 選択した属性値をリストする場合、オプションはパイプ記号 (|) で区切る。
 - オプションの属性にはイタリック体を使用する。

第 2 章

プラットフォーム REST API バージョン 2 リソース

このセクションの REST API バージョン 2 リソースは、Informatica Intelligent Cloud Services の複数のサービスに適用されます。

バージョン 2 リソースを使用するときに、次のルールに注意してください。

- JSON 形式または XML 形式を使用する。
- ログイン応答から、次の URI のベース URL として `serverUrl` 値を使用します。以下に例を示します。
`https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas`
- 次の URI を使用します。
`/api/v2/<API name>`
- 次の要求ヘッダー形式を使用します。
`<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>`
`Content-Type: application/json`
`Accept: application/json`
`icSessionId: <SessionId>`

次の例では、`serverUrl` は `https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas` で、URI は `/api/v2/agent` です。

```
<METHOD> https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/agent HTTP/1.1
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: IV4w0rJmd6YUtmKa8t
```

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

アクティビティログ

REST API を使用して、完了したジョブと実行中のジョブのログ情報を要求できます。

完了したジョブのログ

このリソースを使用して、モニタサービスから完了したジョブのログ情報を要求します。また、エラーログやセッションログを要求することもできます。実行中のジョブのログ情報を要求するには、activityMonitor リソースを使用します。

GET 要求

すべてのログの情報を要求するか、ログの応答をフィルタできます。ログからの情報を要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/activity/activityLog

特定のログ ID に関する情報を要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/activity/activityLog/<id>

特定の実行 ID の情報を要求するには、次の URI に実行 ID とタスク ID を含めます。

/api/v2/activity/activityLog?runId=<runId>&taskId=<taskId>

注: タスク ID は、要求に実行 ID が含まれる場合に必要になります。

特定のタスクに関する情報を要求するには、タスク ID を次の URI に含めます。

/api/v2/activity/activityLog?taskId=<taskId>

スキップする行数を指定するには、次の URI を使用します。

/api/v2/activity/activityLog?offset=<offset>

行制限を指定するには、次の URI を使用します。

/api/v2/activity/activityLog?rowLimit=<rowLimit>

上記のオプションは組み合わせて使用することができます。例えば、次のような URI を使用できます。

/api/v2/activity/activityLog?offset=<offset>&rowLimit=<rowLimit>&taskId=<taskId>&runId=<runId>

activityLog リソースを使用して、セッションログを取得することもできます。セッションログを取得するには、次の URI を使用します。

/api/v2/activity/activityLog/<id>/sessionLog

activityLog の GET URI には、オプションで次の属性を使用できます。

フィールド	説明
id	ログのエントリ ID。 特定の ID に関する情報を受け取る場合は、この属性を追加します。
runId	ログのエントリ ID に関連付けられたジョブ ID。runId が要求に含まれる場合は常に taskId が必要です。
taskId	ログのエントリ ID に関連付けられたタスク ID。taskId が指定されていない場合、すべてのタスクの activityLog エントリがすべて返されます。
offset	スキップする行数。例えば、最初の 3 行をスキップする場合に使用します。
rowLimit	返す最大行数。指定可能な最大数値は 1000 です。 この属性を省略すると、activityLog は使用可能な行をすべて返します（最大 200 行）。

GET 応答

ログ内の各行に対する activityLogEntry オブジェクト、または特定の ID に対する activityLogEntry オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

ログの各行に関する情報を要求する場合、activityLogEntry オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ログのエントリ ID。
type	String	タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none">- DMASK。マスキングタスク。- DRS。レプリケーションタスク。- DSS。同期タスク。- MTT。マッピングタスク。- PCS。PowerCenter タスク。- WORKFLOW。リニアタスクフロー。
objectId	String	タスク ID。
objectName	String	タスクの名前。
runId	Long	タスクの実行に必要な ID。
agentId	String	タスクを実行するエージェント。
runtimeEnvironmentId	String	タスクを実行するランタイム環境。
startTime	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。東部標準時 (ET) を使用します。
endTime	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。東部標準時 (ET) を使用します。
startTimeUtc	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
endTimeUtc	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
state	Short	タスクが正常に完了したかどうかを示します。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none">- 1. タスクが正常に完了しました。- 2. タスクは完了しましたが、エラーが発生しました。- 3. タスクを完了できませんでした。
failedSourceRows	Long	タスクによるソースからの読み取りが失敗した行の数。
successSourceRows	Long	タスクによるソースからの読み込みが成功した行の数。
failedTargetRows	Long	タスクによるターゲットへの書き込みが失敗した行の数。
successTargetRows	Long	タスクによるターゲットへの書き込みが成功した行の数。

フィールド	タイプ	説明
scheduleName	String	スケジュール名（タスクがスケジュールによって開始された場合）。
entries		子オブジェクトに関する情報の開始を示します。

entries オブジェクトには *activityLogEntry* 子オブジェクトが含まれます。子オブジェクトには、次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	アクティビティログのエントリ項目 ID。 注: <i>activityLogEntry</i> 子オブジェクトの ID を使用して、特定のログの情報を要求することはできません。
タイプ	文字列	タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。
objectName	文字列	タスクの名前。
runId	文字列	タスクの実行に必要な ID。
agentId	文字列	タスクを実行するエージェント。
runtimeEnvironmentId	文字列	タスクを実行するランタイム環境。
startTime	日付/時刻	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。東部標準時（ET）を使用します。
endTime	日付/時刻	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。東部標準時（ET）を使用します。
startTimeUtc	日付/時刻	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。協定世界時（UTC）が使用されます。
endTimeUtc	日付/時刻	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。協定世界時（UTC）が使用されます。
state	Short	タスクが正常に完了したかどうかを示します。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - 1. タスクが正常に完了しました。 - 2. タスクは完了しましたが、エラーが発生しました。 - 3. タスクを完了できませんでした。 - 4. タスクは開始されていません。
UIState	Short	内部目的でのみ使用されます。
failedSourceRows	長整数型	タスクによるソースからの読み取りが失敗した行の数。

フィールド	タイプ	説明
successSourceRows	長整数型	タスクによるソースからの読み込みが成功した行の数。
failedTargetRows	長整数型	タスクによるターゲットへの書き込みが失敗した行の数。
successTargetRows	長整数型	タスクによるターゲットへの書き込みが成功した行の数。
errorMsg	文字列	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
startedBy	文字列	タスクを開始したユーザー。
runContextType	文字列	タスクの開始時に使用されたメソッド。次のいずれかのオプションを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - ICS_UI。タスクがユーザーインターフェースを使用して開始されました。 - SCHEDULER。タスクがタスクスケジューラを使用して開始されました。 - REST API。タスクが REST API を使用して開始されました。 - OUTBOUND MESSAGE。タスクが送信メッセージを使用して開始されました。
entries		子オブジェクトに関する情報の開始を示します。
subTaskEntries		サブタスクの子オブジェクトに関する情報の開始を示します。
logEntryItemAttrs		タスクの場所やジョブによって使用されたコンピューティングユニットの数など、タスクに関するメタデータの開始を示します。
sessionVariables		タスクで提供される詳細セッションプロパティの開始を示します。
totalSuccessRows	長整数型	ソースから正常に読み取られた行およびターゲットへ正常に書き込まれた行の合計数。
totalFailedRows	長整数型	ソースから読み取られなかった行およびターゲットへ正常に書き込まれなかった行の合計数。
stopOnError	ブール	致命的でないエラーが発生した場合に実行するランタイム環境のアクションを決定します。次の値が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - True。エラーが発生した場合にリニアタスクフローが停止します。 - False。エラーが発生した場合でもリニアタスクフローが処理を継続します。
hasStopOnErrorRecord	ブール	タスクでエラーが発生してタスクが停止したかどうかを示します。
contextExternalId	文字列	親オブジェクトのタスク ID。
isStopped	ブール	タスクがユーザーによって停止されたかどうかを示します。タスクがエラーありで完了したか、完了できなかった場合、値が true になる可能性があります。
transformationEntries		各トランスフォーメーションのエントリオブジェクトにある情報が含まれます。

特定の ID に関するログ情報を要求する場合、activityLogEntry オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ログのエントリ ID。
type	String	タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。
objectId	String	タスク ID。
objectName	String	タスクの名前。
runId	String	タスクの実行に必要な ID。
agentId	String	タスクを実行するエージェント。
runtimeEnvironmentId	String	タスクを実行するランタイム環境。
startTime	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。東部標準時 (ET) を使用します。
endTime	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。東部標準時 (ET) を使用します。
startTimeUtc	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
endTimeUtc	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
state	Short	タスクが正常に完了したかどうかを示します。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - 1. タスクが正常に完了しました。 - 2. タスクは完了しましたが、エラーが発生しました。 - 3. タスクを完了できませんでした。 - 4. タスクは開始されていません。
UIState	Short	内部目的でのみ使用されます。
isStopped	Boolean	タスクがユーザーによって停止されたかどうかを示します。タスクがエラーありで完了したか、完了できなかった場合、値が true になる可能性があります。
failedSourceRows	Long	タスクによるソースからの読み取りが失敗した行の数。
successSourceRows	Long	タスクによるソースからの読み込みが成功した行の数。
failedTargetRows	Long	タスクによるターゲットへの書き込みが失敗した行の数。
successTargetRows	Long	タスクによるターゲットへの書き込みが成功した行の数。

フィールド	タイプ	説明
errorMsg	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
startedBy	String	タスクを開始したユーザー。
runContextType	String	タスクの開始時に使用されたメソッド。次のいずれかのオプションを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - UI。タスクがユーザーインターフェースを使用して開始されました。 - SCHEDULER。タスクがタスクスケジューラを使用して開始されました。 - REST API。タスクが REST API を使用して開始されました。 - OUTBOUND MESSAGE。タスクが送信メッセージを使用して開始されました。
scheduleName	String	スケジュール名（タスクがスケジュールによって開始された場合）。
orgId	String	組織 ID。
totalSuccessRows	Long	ソースから正常に読み取られた行およびターゲットへ正常に書き込まれた行の合計数。
totalFailedRows	Long	ソースから読み取られなかった行およびターゲットへ正常に書き込まれなかった行の合計数。
logFilename	String	生成されるログファイルの名前。
errorFilename	String	生成されるエラーファイルの名前。
errorFileDir	String	Secure Agent マシン上のエラーファイルの場所。
connType	String	接続タイプ。
stopOnError	Boolean	致命的でないエラーが発生した場合に実行するランタイム環境のアクションを決定します。次の値が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - True。エラーが発生した場合にリニアタスクフローが停止します。 - False。エラーが発生した場合でもリニアタスクフローが処理を継続します。
items		各タスクの activityLogEntryItem オブジェクトを含みます。
type	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。
objectId	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスク ID。
objectName	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクの名前。

フィールド	タイプ	説明
runId	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクの実行に必要な ID。
agentId	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクを実行したエージェント。
runtimeEnvironmentId	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクを実行したランタイム環境。
startTime	Date/ Time	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。東部標準時（ET）を使用します。
endTime	Date/ Time	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。東部標準時（ET）を使用します。
startTimeUtc	日付/時刻	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。協定世界時（UTC）が使用されます。
endTimeUtc	日付/時刻	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。協定世界時（UTC）が使用されます。
state	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクが正常に完了したかどうかを示します。次のいずれかのコードを返します。 - 1. タスクが正常に完了しました。 - 2. タスクは完了しましたが、エラーが発生しました。 - 3. タスクを完了できませんでした。
isStopped	Boolean	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 タスクがユーザーによって停止されたかどうかを示します。タスクがエラーありで完了したか、完了できなかった場合、値が true になる可能性があります。
errorMsg	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
connType	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 接続タイプ。
children	String	activityLogEntryItem オブジェクトに含まれています。 リニアタスクフローで各テーブルの activityLogEntryItem オブジェクトを返します。
startedBy	String	タスクを開始したユーザー。

フィールド	タイプ	説明
runContextType	String	タスクの開始時に使用されたメソッド。次のいずれかのオプションを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - UI。タスクがユーザーインターフェースを使用して開始されました。 - SCHEDULER。タスクがタスクスケジューラを使用して開始されました。 - REST API。タスクが REST API を使用して開始されました。 - OUTBOUND MESSAGE。タスクが送信メッセージを使用して開始されました。
scheduleName	String	スケジュール名（タスクがスケジュールによって開始された場合）。
transformationEntries		各トランスフォーメーションの transformationLogEntry オブジェクトにある情報を含みます。
id	String	transformationLogEntry オブジェクトに含まれています。 トランスフォーメーション ID。
txName	String	transformationLogEntry オブジェクトに含まれています。 トランスフォーメーション名。 ターゲットトランスフォーメーションの場合、ターゲットオブジェクト名を返します。
txType	String	transformationLogEntry オブジェクトに含まれています。 トランスフォーメーションタイプ。
successRows	Long	transformationLogEntry オブジェクトに含まれています。 トランスフォーメーションで成功した行の数。
affectedRows	長整数型	transformationLogEntry オブジェクトに含まれています。 定義されたタスク操作の影響を受ける行の数。 データ転送タスクのターゲットトランスフォーメーション、および完全な SQL ELT の最適化用に接続されていないマッピングに基づくマッピングタスクに適用されます。SQL ELT モードのマッピングまたは詳細マッピングには適用されません。
failedRows	Long	transformationLogEntry オブジェクトに含まれています。 トランスフォーメーションで失敗した行の数。
sequenceValues		シーケンスジェネレータートランスフォーメーションを含むタスクから生成された情報を返します。各トランスフォーメーションの sequenceValueLogEntry オブジェクトを含みます。
txName	String	sequenceValueLogEntry オブジェクトに含まれています。 トランスフォーメーション名。 ターゲットトランスフォーメーションの場合、ターゲットオブジェクト名を返します。
nextValue	String	sequenceValueLogEntry オブジェクトに含まれています。 タスクで生成される最後の値。
inOutParameterValues		タスクで使用する入出力パラメータの値。各パラメータの inOutParameterValueLogEntry を含みます。

フィールド	タイプ	説明
name	String	inOutParameterValueLogEntry オブジェクトに含まれています。 パラメータ名。
value	String	inOutParameterValueLogEntry オブジェクトに含まれています。 パラメータ値。

GET の例

JSON 形式のログから返された情報を 20 行要求するには、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/activity/activityLog?rowLimit=20
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

要求が正常に実行されると、ログから返された各エントリの activityLogEntry オブジェクトのリストが返されます。

次のテキストは、JSON 形式で返されたリストのサンプルです。

```
[
  {
    "@type": "activityLogEntry",
    "id": "000001C1000000000000C",
    "type": "DRS",
    "objectName": "drstask1",
    "runId": 1,
    "runtimeEnvironmentId": "00000C2500000000000002",
    "startTime": "2012-07-30T13:30:30.000Z",
    "endTime": "2012-07-30T13:32:30.000Z",
    "startTimeUtc": "2012-07-30T17:30:30.000Z",
    "endTimeUtc": "2012-07-30T17:32:30.000Z",
    "state": 1,
    "failedSourceRows": 0,
    "successSourceRows": 39,
    "failedTargetRows": 0,
    "successTargetRows": 39,
    "errorMsg": null,
    "entries": [
      {
        "@type": "activityLogEntry",
        "id": "128964732",
        "type": "DRS",
        "objectName": "Contact",
        "runId": 0,
        "runtimeEnvironmentId": "00000C2500000000000002",
        "agentId": "0100000800000000000006",
        "startTime": "2012-07-30T13:32:31.000Z",
        "endTime": "2012-07-30T13:35:31.000Z",
        "startTimeUtc": "2012-07-30T17:32:31.000Z",
        "endTimeUtc": "2012-07-30T17:35:31.000Z",
        "state": 1,
        "isStopped": false,
        "failedSourceRows": 0,
        "successSourceRows": 39,
        "failedTargetRows": 0,
        "successTargetRows": 39,
        "errorMsg": "No errors encountered.",
        "entries": []
      }
    ]
  },
]
```

```

"@type": "activityLogEntry",
"id": "010000C10000000000PGP",
"type": "MTT_TEST",
"objectId": "0100000Z000000000001N",
"objectName": "Mapping-MultiSource",
"runId": 12,
"startTime": "2020-03-27T08:05:56.000Z",
"endTime": "2020-03-27T08:06:07.000Z",
"startTimeUtc": "2020-03-27T12:05:56.000Z",
"endTimeUtc": "2020-03-27T12:06:07.000Z",
"state": 2,
"failedSourceRows": 0,
"successSourceRows": 800,
"failedTargetRows": 200,
"successTargetRows": 600,
"startedBy": "di@infa.com",
"runContextType": "ICS_UI",
"entries": [
  {
    "@type": "activityLogEntry",
    "id": "118964723",
    "type": "MTT_TEST",
    "objectName": "",
    "runId": 12,
    "agentId": "0100000800000000000004",
    "runtimeEnvironmentId": "0100002500000000000004",
    "startTime": "2020-03-27T08:05:56.000Z",
    "endTime": "2020-03-27T08:06:07.000Z",
    "startTimeUtc": "2020-03-27T12:05:56.000Z",
    "endTimeUtc": "2020-03-27T12:06:07.000Z",
    "state": 2,
    "failedSourceRows": 0,
    "successSourceRows": 800,
    "failedTargetRows": 200,
    "successTargetRows": 600,
    "errorMsg": null,
    "startedBy": "di@infa.com",
    "runContextType": "ICS_UI",
    "entries": [],
    "subTaskEntries": [],
    "logEntryItemAttrs": {
      "CONSUMED_COMPUTE_UNITS": "0.0",
      "ERROR_CODE": "0",
      "IS_SERVER_LESS": "false",
      "REQUESTED_COMPUTE_UNITS": "0.0",
      "Session Log File Name": "s_mtt_0Sr7LdcbAG2ldG33Lp8koQ_2.log"
    },
    "totalSuccessRows": 0,
    "totalFailedRows": 0,
    "stopOnError": false,
    "hasStopOnErrorRecord": false,
    "contextExternalId": "0100000Z000000000001N",
    "transformationEntries": [
      {
        "@type": "transformationLogEntry",
        "id": "141332309",
        "txName": "FFSource2",
        "txType": "SOURCE",
        "successRows": 600,
        "failedRows": 0
      },
      {
        "@type": "transformationLogEntry",
        "id": "141332310",
        "txName": "FFSource1",
        "txType": "SOURCE",
        "successRows": 200,
        "failedRows": 0
      }
    ]
  }
]

```

```

        "@type": "transformationLogEntry",
        "id": "141332311",
        "txName": "FFTarget.csv",
        "txType": "TARGET",
        "successRows": 600,
        "affectedRows": 600,
        "failedRows": 0
      },
      {
        "@type": "transformationLogEntry",
        "id": "141332312",
        "txName": "MYSQLTarget",
        "txType": "TARGET",
        "successRows": 0,
        "affectedRows": 0,
        "failedRows": 200
      }
    ]
  }
}
]

```

注: データ統合サーバーと詳細クラスタサブタスクの場合、応答には一時ターゲットのトランスフォーメーションログエントリが含まれます。

エラーログの要求

サーバーからエラーログを要求できます。

特定のログ ID でサーバーからエラーログを要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/activity/errorLog/id

サーバーからエラーログを取得するには、次の要求を使用できます。

```

GET <server URL>/api/v2/activity/errorLog/000002C10000000002BG HTTP/1.0
Accept:application/json
icSessionId: <icSessionId>

```

サーバーは、次の例で示すようなエラーログを文字列として返します。

"Col1", "Col2", "Error"

"05/11/2015 00:00:00.000000000", "05/11/2015 00:00:00.000000000", "ERROR: Target table [test] has no keys specified."

"05/11/2015 00:00:00.000000000", "05/11/2015 00:00:00.000000000", "ERROR: Target table [test] has no keys specified."

"05/11/2015 00:00:00.000000000", "05/11/2015 00:00:00.000000000", "ERROR: Target table [test] has no keys specified."

"05/11/2015 00:00:00.000000000", "05/11/2015 00:00:00.000000000", "ERROR: Target table [test] has no keys specified."

"05/11/2015 00:00:00.000000000", "05/11/2015 00:00:00.000000000", "ERROR: Target table [test] has no keys specified."

セッションログの要求

sessionLog API を使用して、すべてのタスクタイプのセッションログをダウンロードできます。レプリケーションタスクのようなサブタスクを持つタスクでは、階層内のすべてのセッションログを含む ZIP ファイルをダウンロードできます。2つのレベルのタスクを持つレプリケーションタスクでは、すべてのセッションログを使用しない場合に itemId を指定してサブタスクのセッションログを返すことができます。3つのレベルのタスクを持つリニアタスクフローでは、itemId または childItemId を指定して特定のサブタスクのセッションログを返すことができます。

次の URI を使用してセッションログをダウンロードします。

```
/saas/api/v2/activity/activityLog/<Top_Level_Log_Entry_Id>/sessionLog?itemId=<child-log-entry-item-id>&childItemId=<child-log-entry-item-id>
```

次の例の要求には、特定のセッションログの要求およびサブタスクのセッションログの要求が含まれます。

- タスクがレプリケーションタスクまたはリニアタスクフローの場合に ZIP ファイルを返すことができるセッションログを要求するには、次の要求を使用できます。

```
/saas/api/v2/activity/activityLog/000001C1000000000591/sessionLog
```

- レプリケーションタスクまたはリニアタスクフローの特定のサブタスクでセッションログを要求するには、次の要求を使用できます。

```
/saas/api/v2/activity/activityLog/000001C1000000000591/sessionLog?itemId=233
```

- リニアタスクフローでサブタスクのセッションログを要求するには、次の要求を使用できます。

```
/saas/api/v2/activity/activityLog/000001C1000000000591/sessionLog?itemId=233&childItemId=234
```

実行中のジョブのログ

このリソースを使用して、実行中のジョブのログ情報を Monitor サービスから要求します。完了したジョブのログ情報を要求するには、activityLog リソースを使用します。

GET 要求

実行中のジョブに関するログ情報を要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/activity/activityMonitor?details=<true|false>
```

activityMonitor の GET URI では、次の属性を使用できます。

details

オプション。

Informatica Intelligent Cloud Services から返されるログの詳細。次のいずれかのオプションを使用します。

- true。タスク、リニアタスクフロー、および子オブジェクトに関するログの情報を返します。子オブジェクトには、リニアタスクフロー内のタスク、およびレプリケーションタスク内のオブジェクトを含めることができます。
- false。タスクおよびリニアタスクフローのログ情報を返します。

デフォルトは false です。このオプションの属性を省略すると、モニタは追加の詳細を返しません。

GET 応答

ログの各行で activityMonitorEntry オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

activityMonitorEntry オブジェクトには、次の GET 応答属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ログのエントリ ID。
type	String	タスクのタイプ。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MAPPING。動的マッピングタスクを実行する場合のサブジョブのジョブタイプ。 - MTT。マッピングタスク。 - MTT_DP。マッピングのデータプレビューを実行する場合のジョブタイプ。 - MTT_DP_CDIE。詳細モードでマッピングのデータプレビューを実行する場合のジョブタイプ。 - MTT_TEST。Mapping Designer の [実行] ボタンを使用する場合のジョブタイプ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。
taskId	String	タスク ID。
taskName	String	タスク名。
objectName	String	タスクで使用されるソースオブジェクト、または処理されるレプリケーションオブジェクト。
runId	Long	タスクの実行に必要な ID。
startTime	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。東部標準時 (ET) を使用します。
endTime	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。東部標準時 (ET) を使用します。
startTimeUtc	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
endTimeUtc	Date/Time	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
executionState	String	タスクの状態。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - QUEUED - INITIALIZED - RUNNING - STOPPING - FAILED FAILED は、線形タスクフローサブタスクに対してのみ返されます。
failedSourceRows	Long	ソースから読み込まれなかった行の数。
successSourceRows	Long	ソースからの読み込みに成功した行の数。
failedTargetRows	Long	ターゲットに書き込まれなかった行の合計数。
successTargetRows	Long	ターゲットへの書き込みに成功した行の数。

フィールド	タイプ	説明
errorMsg	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
entries		子オブジェクトに関する情報の開始を示します。子オブジェクトはリニアタスクフロー内のタスクまたはレプリケーションタスクのオブジェクトにすることができます。
agentId	String	アクティビティで使用するエージェント。
runtimeEnvironmentId	String	アクティビティで使用するランタイム環境。
startedBy	String	タスクを開始したユーザー。
runContextType	String	タスクの開始時に使用されたメソッド。次の値が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - UI。タスクがデータ統合ユーザーインターフェースを使用して開始されました。 - SCHEDULER。タスクがタスクスケジューラを使用して開始されました。 - REST API。タスクが REST API を使用して開始されました。 - OUTBOUND MESSAGE。タスクが送信メッセージを使用して開始されました。
scheduleName	String	スケジュール名（タスクがスケジュールによって開始された場合）。
callbackURL	String	ジョブのステータス。

GET の例

子オブジェクトに関する詳細を含むログ情報を XML で返すには、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/activity/activityMonitor?details=true
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```

要求が正常に実行されると、モニタから返された各項目の activityMonitorEntry オブジェクトが返されます。

次のテキストは、XML 形式で返されたリストのサンプルです。

```
<root>
<activityMonitorEntry>
  <id>000001C1000000000000D</id>
  <type>DSS</type>
  <objectName>dss-f2f</objectName>
  <runId>0</runId>
  <startTime>2012-07-30T13:30:00.000Z</startTime>
  <endTime></endTime>
  <startTimeUtc>2012-07-30T17:30:00.000Z</startTimeUtc>
  <endTimeUtc></endTimeUtc>
  <executionState>RUNNING</executionState>
  <failedSourceRows>0</failedSourceRows>
  <successSourceRows>938</successSourceRows>
  <failedTargetRows>0</failedTargetRows>
  <successTargetRows>596</successTargetRows>
  <errorMsg> </errorMsg>
  <entries> </entries>
  <agentId>00000C080000000000003</agentId>
  <runtimeEnvironmentId>00000C250000000000002</runtimeEnvironmentId>
</activityMonitorEntry>
<activityMonitorEntry>
  <id>000001C5000000000000L</id>
  <type>PCS</type>
  <objectName>pcs-lookup</objectName>
```



```

<runId>2</runId>
<startTime>2012-07-30T13:30:03.001Z</startTime>
<endTime>2012-07-30T13:30:03.010Z</endTime>
<startTimeUtc>2012-07-30T17:30:03.001Z</startTimeUtc>
<endTimeUtc>2012-07-30T17:30:03.010Z</endTimeUtc>
<executionState>COMPLETE</executionState>
<failedSourceRows>0</failedSourceRows>
<successSourceRows>688</successSourceRows>
<failedTargetRows>0</failedTargetRows>
<successTargetRows>688</successTargetRows>
<errorMsg> </errorMsg>
<entries> </entries>
<agentId>00000C0800000000000003</agentId>
<runtimeEnvironmentId>00000C2500000000000002</runtimeEnvironmentId>
</activityMonitorEntry>
</root>

```

監査ログ

このリソースを使用して、監査ログからのエントリを要求します。

GET 要求

監査ログの最近の 200 件のエントリを要求するには、次の URI を使用します：

/api/v2/auditlog

監査ログエントリの特定のバッチを要求するには、バッチサイズを定義し、次の URI を使用してバッチ番号を要求します：

/api/v2/auditlog?batchId=<batchId>&batchSize=<batchSize>

GET URI には次の情報が含まれています。

フィールド	必須	説明
batchSize	はい	バッチに含まれるエントリの数。
batchId	はい	表示するバッチ。 最初のバッチには 0 を使用します。これには最近の監査ログエントリが含まれます。 例えば、エントリ 26-50 を表示するには、バッチサイズに 25、要求バッチに 1 を使用します。

GET 応答

返される各監査ログエントリで auditLogEntry オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

auditLogEntry オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	監査ログのエントリ ID。
version	Int	バージョン。

フィールド	タイプ	説明
orgId	String	組織 ID
username	String	アクションを実行したユーザー。
entryTime	日付/時刻	アクションが発生した時刻。東部標準時（ET）を使用します。
entryTimeUTC	日付/時刻	アクションが発生した時刻。 協定世界時（UTC）を使用します。
objectId	String	使用されたオブジェクトの ID。
objectName	String	使用されたオブジェクト名。

フィールド	タイプ	説明
category	String	<p>監査ログエントリのカテゴリ。次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - AGENT。Secure Agent のインストール、設定、ステータス更新、および操作アクティビティ。 - AGREEMENT。サブスクリプション契約の更新、更改、および利用規約の変更。 - AUTH。ユーザーログイン、ログアウト、パスワードの変更、および権限の変更などの認証イベント。 - B2BGW_CUSTOMER。データ交換やトランザクション処理などの B2B Gateway の顧客のデータのやり取り。 - B2BGW_MONITOR。パフォーマンス追跡やイベントのログなどの B2B Gateway の監視アクティビティ。 - B2BGW_SUPPLIER。トランザクションや通信のログなどの B2B Gateway のサプライヤのデータのやり取り。 - BUNDLE。バンドルの作成、変更、およびデプロイ。 - CONNECTION。接続の作成、変更、および削除。 - CONNECTOR。Informatica Cloud コネクタのセットアップ、設定、および更新。 - CUSTOM_FUNC。マップレットまたはユーザー定義のプロセスあるいは関数。 - CUSTOM_SOURCE。保存したクエリやカスタムデータ接続などのカスタムソース。 - DATA_FILE。ファイルの作成、アップロード、ダウンロード、変更、および削除。 - DMASK。機密データに対するマスキングポリシーの適用、更新、および削除などのマスキングイベント。 - DOMAIN。ドメイン設定の変更と更新。 - DQA。データ品質チェック、レポート作成、問題解決などのデータ評価。 - DRS。レプリケーションタスクの設定と実行、およびステータス更新の取得などのレプリケーションイベント。 - DSS。同期システム間でデータを同期した際のイベント。 - DTEMPLATE。マッピングの作成、変更、および実行。 - EDITION。組織内のエディションの変更やエディションの更新などの Informatica Cloud のエディションのイベント。 - EXT_CONNECTION。ローカルの Secure Agent に保存された接続などの外部接続の作成、変更、および削除。 - GUIDE。ユーザーガイドとプロセスガイドへのアクセス、作成、および変更。 - MI_TASK。ファイル取り込みタスクの設定と実行、およびステータス更新の取得。 - MIGRATE。環境間でのデータ、設定、およびアプリケーションの移行。 - MTT。マッピングタスクの作成、変更、実行、および削除。 - OBJECT_ACL。オブジェクトに対するアクセス制御リスト (ACL) の設定、変更、および削除を含むオブジェクト権限。 - ORG。組織の作成、変更、および削除。 - ORG_EDITION。組織の新しいエディションへの再割り当てやエディション機能の更新などの組織のエディションの関連付けの変更。 - PACKAGE。パッケージの設定、更新、およびデプロイ。 - PCS。ワークフロー、マッピング、およびその他の設定を含む PowerCenter イベント。 - PROCESS。プロセスの作成、管理、および実行。 - PROCESS_OBJECT。更新、ログ、エラーレポートなどのオブジェクトの処理。 - RUNTIME_ENVIRONMENT。ランタイム環境の設定の変更、状況の変更、および更新。 - SCHEDULE。スケジュールされたタスクまたはプロセスの作成、変更、および実行。 - SCHEDULE_BLACKOUT。設定の変更、これらの期間の開始と終了を含む、スケジュールのブラックアウト期間。 - SUB_ORG。サブ組織の作成、変更、および削除。

フィールド	タイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> - SUBSCRIPTION_BILLING.請求書、支払い、または請求プランの変更。 - SYSTEM_INFO.システムステータスの更新、ログ、および設定の更新。 - TASKFLOW.タスクフローの作成、変更、および実行。 - USER.ユーザーアカウントの作成、変更、削除、およびロールの割り当ての変更。 - USER_GROUP.ユーザーグループの作成、変更、削除、およびグループメンバーシップの変更。 - WORKFLOW.リニアタスクフローの作成、変更、実行、および削除。
event	String	<p>実行されるアクションのタイプ。次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ADD_TAG - CREATE - DELETE - DEREGISTER - DISABLE - DOWNLOAD - EDIT - ENCRYPT - EXPORT - FETCHSTATE - IMPORT - LINK - LOADSTATE - MAKE_DEFAULT - MIGRATED - MOVE_CONNS_TO_AGENT - MOVE_CONNS_TO_IOD - PUBLISH - RECONCILE - REGISTER - REMOVE_TAG - RETRY_REGISTRATION - RUN - STOP - UPDATE - UPDATE_PERMISSION - VERSION1 - VERSION2 - VERSION3 - VERSION4 - VERSION5 - VERSION6 - VERSION7
eventParam	String	<p>アクションに関連するオブジェクト。</p> <p>注: 最大 1024 文字までの値を指定できます。値が 1024 文字を超える場合は切り捨てられ、先頭に「Full Value Truncated」という文字が追加されます。</p>
message	String	追加情報です。

GET の例

行 21-40 を表示するには、次の要求を使用します。

```
GET <server URL>/api/v2/auditlog?batchId=1&batchSize=20
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>
```

バンドル

REST API を使用して、バンドルの詳細を取得し、組織内のバンドルを管理できます。

REST API を使用して次のタスクを実行できます。

- バンドルの詳細の取得、およびパブリッシュされたプライベートバンドルのサブ組織へのプッシュ
- 組織にインストールされているバンドルまたは組織で使用可能なバンドルに関するライセンス情報の取得
- バンドルのインストールとアンインストール

バンドルの詳細

このリソースを使用して、特定のバンドルの詳細や、組織によってパブリッシュされたまたはインストールされたすべてのバンドルの詳細を要求します。また、パブリッシュされた非公開バンドルをサブ組織にプッシュすることもできます。

GET 要求

特定のバンドルの詳細を要求するには、URI にバンドル ID またはバンドル名を含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/bundleObject/<id>
```

```
/api/v2/bundleObject/name/<name>
```

URI にバンドル名を使用し、バンドル名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/bundleObject/name/first%20bundle
```

組織によってパブリッシュされたすべてのバンドルの詳細を要求するには、次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/bundleObject/?published=true
```

```
/api/v2/bundleObject/?published=true&installed=false
```

組織によってインストールされたすべてのバンドルの詳細を要求するには、次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/bundleObject/?installed=true
```

```
/api/v2/bundleObject/?published=false&installed=true
```

GET 応答

バンドルの詳細を要求すると、バンドルの `bundleObject` を返します。

パブリッシュされたバンドルのリストを要求すると、組織がパブリッシュした各バンドルの `bundleObject` を返します。

インストールされたバンドルのリストを要求すると、組織がインストールした各バンドルの `bundleObject` を返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

bundleObject には次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	バンドルの ID。
orgId	String	組織 ID
name	String	バンドル名。
description	String	説明。
createTime	Date/Time	バンドルが作成された時刻。
updateTime	Date/Time	バンドルが更新された時刻。
createdBy	String	バンドルを作成したユーザー。
updatedBy	String	バンドルを最後に更新したユーザー。
lastVersion	String	現在パブリッシュされているバンドルのバージョン。
revokeTime	Date/Time	この属性は現在使用されていません。
paid	Boolean	バンドルが購入されたかどうかを示します。有料の場合は true、無料の場合は false を返します。
copyable	Boolean	ユーザーがバンドルのコンテンツをローカルにダウンロードできるかどうかを決定します。true または false を返します。
accessType	String	バンドルのアクセスタイプ。BundleObjectAccessType オブジェクトの次のコードを返します。 <ul style="list-style-type: none">- PUBLIC すべての Informatica Intelligent Cloud Services 組織で使用可能。- SUBORGS。パブリッシュする組織のサブ組織で使用可能。- ACCESS_LIST。sharedWith 属性の組織 ID に使用可能。
objects		バンドル内のオブジェクト。bundleRefObject オブジェクト内の各オブジェクトに関する情報が含まれます。
objectTypeCode	String	bundleRefObject オブジェクトに含まれています。 バンドルのタイプ。次の値が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">- 17。マッピング。- 0L。マップレット。
objectId	String	bundleRefObject オブジェクトに含まれています。 バンドルで特定されるオブジェクト。
objectName	String	bundleRefObject オブジェクトに含まれています。 バンドルのオブジェクト名。
objectUpdateTime	String	bundleRefObject オブジェクトに含まれています。 バンドル内のオブジェクトの最終更新日時。
publishOrgId	String	バンドルをパブリッシュした組織の ID。

フィールド	タイプ	説明
publishOrgName	String	バンドルをパブリッシュした組織の名前。
externalId	String	バンドルの外部 ID。

POST 要求

親組織の一部として、サブ組織と非公開バンドルを共有できます。

パブリッシュされた非公開バンドルをプッシュすると、すべてのサブ組織にバンドルがインストールされます。バンドル内のオブジェクトをすべてのサブ組織ですぐに使用できるようにする場合は、パブリッシュされた非公開バンドルをプッシュします。

バンドルをサブ組織にプッシュするには、次の URI にバンドルオブジェクトの ID を使用します。

```
/api/v2/bundleObject/push/<bundleId>
```

POST 応答

要求に成功した場合に成功の応答を返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

バンドルライセンス

このリソースを使用して、組織にインストールされたバンドルまたは組織で使用するバンドルに関するライセンス情報を要求します。

GET 要求

組織に関連付けられたバンドルのライセンス情報を要求するには、次の URI にバンドル ID を使用します。

```
/api/v2/bundleObjectLicense/<bundleObjectId>
```

組織に関連付けられたすべてのバンドルのライセンス情報を要求するには、オプションのバンドル ID を省略します。

GET 応答

成功すると、要求されたバンドルの BundleObjectLicenseType が返されます。

すべてのバンドルのライセンス情報を要求すると、組織に関連付けられたすべてのバンドルの bundleObjectLicense オブジェクトが返されます。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

bundleObjectLicense オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
bundleObjectId	String	バンドルの ID。
orgId	String	組織 ID。
updateOption	String	この属性は現在使用されていません。
licenseType	String	バンドルのタイプ。次のいずれかの値を返します。 - Free - トライアル - サブスクリプション

フィールド	タイプ	説明
endDate	Date/Time	ライセンスの有効期限日。無料の公開バンドルには NULL を返します。
numberOfDaysToApply	Int	現在使用されていません。
numberOfMonthsToApply	Int	現在使用されていません。
beginDate	Date/Time	バンドルの公開日時。
bundleVersion	String	バンドルのバージョン番号。
createTime	Date/Time	バンドルの作成日時。
installed	Boolean	組織がバンドルをインストールしたかどうかを示します。インストール済みのバンドルには TRUE を、使用可能なバンドルには FALSE を返します。
active	Boolean	バンドルが使用可能かつアクティブであることを示します。TRUE を返します。
accessCode	String	ライセンス発行済みのバンドルをインストールする必要があります。非公開バンドルを共有する場合に使用されます。読み取り専用です。

バンドルのインストールとアンインストール

このリソースを使用して、バンドルをインストールおよびアンインストールします。

POST 要求

組織でバンドルをインストールするには、次の URI を使用します。

`/api/v2/bundleObjectLicense`

この URI では、bundleObjectLicense オブジェクトの次の属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
bundleObjectId	String	○	バンドルの ID。

POST 応答

要求に成功した場合に成功の応答を返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

組織からバンドルをアンインストールするには、次の URI を使用します。

`/api/v2/bundleObjectLicense?bundleObjectId=<bundleId>&updateOption=<updateOption>`

次の bundleObjectLicense Delete URI 属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
bundleObjectId	String	○	バンドルの ID。
updateOption	String		バンドル内のオブジェクトが使用されるとどうなるかを定義します。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- DELETE_EXISTING_OBJECTS。バンドルオブジェクトを使用するオブジェクトを削除します。- UPDATE_EXISTING_OBJECTS。バンドルオブジェクトを使用するオブジェクトを更新します。- EXCEPTION_IF_IS_USED。バンドルオブジェクトが使用され、アンインストールをキャンセルする場合にメッセージを返します。

DELETE 応答

要求に成功した場合に成功の応答を返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

ジョブ

このジョブリソースを使用して、線形タスクフローなど、ID または名前に基づいてタスクを開始または停止します。ジョブの完了ステータスを取得することもできます。

ID に基づいてタスクを開始または停止するには、タスクの 8 文字のオブジェクト ID またはフェデレーションタスク ID を使用します。

8 文字のオブジェクト ID を見つけるには、[「タスク」 \(ページ 106\)](#)を参照してください。ただし、このリソースから返されるタスク ID は、Default フォルダ内のタスクの実行にのみ使用できます。

組織でプロジェクトとフォルダを使用している場合は、[「ルックアップ」 \(ページ 178\)](#)または [「オブジェクト」 \(ページ 212\)](#)を参照してフェデレーションタスク ID を取得してください。

データ取り込みおよびレプリケーションのファイル取り込みとレプリケーションタスクの場合は、ファイル取り込みとレプリケーションジョブリソースを使用します。詳細については、[「第 5 章, 「ファイル取り込みとレプリケーション REST API」 \(ページ 504\)」](#)を参照してください。

ジョブステータス

ジョブ要求に callbackURL が含まれる場合は、サービスがジョブの完了時に要求をコールバック URL に送信します。サービスでは、コールバックの要求に必ず JSON を使用します。

コールバックは複数回呼び出される場合があります。例えば、次の状況では、複数のコールバックが発生する可能性があります。

- コールバックサーバーは 200 件以外の HTTP ステータスコードを返した場合。
- コールバックサーバーが 30 秒以内に応答しない場合。
- コールバックサーバーがダウンしている場合。
- 一時的なネットワーク障害がある場合。

これらのいずれかの状況では、URL 接続が切断され、サービスではこの切断が、失敗した試行としてカウントされます。サービスは、正常な応答を受信するために 3 回の試行を即座に行います。その後、試行間隔は指数関数的に増加します。例えば、最初の試行は 30 秒間隔で始まり、合計時間が 30 分に達するまでに最大 3 分間隔まで延長されます。

サービスはコールバック URL から POST 要求を実行します。次のテキストは、応答のサンプルです。

```
{
  @type: "callbackUrlResponse"
  endTime: "2013-02-27T18:57:52.000Z",
  objectId: "0034J90000000M",
  objectName: "taskName",
  runId: 5,
  status: "COMPLETED" // or "FAILED"
}
```

ジョブの開始

ジョブリソースを使用して、ジョブを開始します。

POST 要求

次の URI を使用します。

/api/v2/job

次の表に、ジョブオブジェクトで使用する属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
taskId	String	taskName または taskFederatedId が含まれていない場合は必須。	タスクまたはリニアタスクフロー ID。URI に taskId または taskName を使用します。 タスクが Default フォルダにある場合はこのタスク ID を含めることができます。
taskFederatedId	String	タスクが Default フォルダに配置されていない場合は必須。	タスクへのフォルダパスを含む、タスクのグローバル意識別子。
taskName	String	taskId または taskFederatedId が含まれていない場合は必須。	タスクまたはリニアタスクフローの名前。URI に taskId または taskName を使用します。
taskType	String	○	タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- DMASK。マスキングタスク。- DRS。レプリケーション- DSS。同期- MTT。マッピング- PCS。PowerCenter タスク。- WORKFLOW。リニアタスクフロー。
callbackURL	文字列	いいえ	公表済みの有効な URL。サービスが callbackURL にジョブステータスをポストします。
runtime		いいえ	ランタイムプロパティを定義する属性。
parameterFileName	文字列	いいえ	パラメータファイルの名前。
parameterFileDir	文字列	いいえ	Secure Agent マシン上のパラメータファイルのディレクトリ。

POST 応答

応答は、要求が成功した場合はジョブオブジェクトを返し、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

次の表にジョブオブジェクトの属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
taskId	String	タスクまたはリニアタスクフロー ID。
taskFederatedId	String	タスクへのフォルダパスを含む、タスクのグローバル一意識別子。
taskName	String	タスクまたはリニアタスクフローの名前。
taskType	String	タスクのタイプ。データ統合の次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none">- DMASK。マスキングタスク。- DRS。レプリケーションタスク。- DSS。同期タスク。- MTT。マッピングタスク。- PCS。PowerCenter タスク。- WORKFLOW。リニアタスクフロー。
runId	Long	ジョブの ID。
callbackURL	String	ジョブのステータス。

POST 要求の例

0034J90000000M という ID の線形タスクフローを開始するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/job HTTP/1.0
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>

{
  "taskId": "0034J90000000M",
  "taskType": "Workflow",
  "callbackURL": "https://MyIICSJobStatus.com",
}
```

0100000Z000009 という ID のマッピングタスクを開始するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/job HTTP/1.0
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>

{
  "@type": "job",
  "taskId": "0100000Z000009",
  "taskType": "MTT",
  "runtime": {
    "@type": "mtTaskRuntime"
  }
}
```

要求にはランタイムオブジェクトが含まれているため、他のランタイム環境でタスクを同時に実行するための追加の要求を行うことができます。

パラメータファイルを使用してマッピングタスクを開始するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/job HTTP/1.0
Content-Type: application/json
```

```

Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>

{
  "@type": "job",
  "taskId": "0116Q70Z0000000000N4",
  "taskType": "MTT",
  "runtime": {
    "@type": "mtTaskRuntime",
    "parameterFileName": "EmployeeDept.param",
    "parameterFileDir": "/root/dev/FlatFiles"
  }
}

```

次の応答が表示される場合があります。

```

{
  "@type": "job",
  "taskId": "0116Q70Z0000000000N4",
  "taskType": "MTT",
  "runId": 59,
  "taskName": "mct_03126935_Oracle_FF_Parameter",
  "runInParallel": false
}

```

ジョブの停止

ジョブリソースを使用して、ジョブを停止します。

POST 要求

次の URI を使用します。

/api/v2/job/stop

次の表に、ジョブオブジェクトで使用する属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
taskId	String	taskName が含まれていない場合は必須。	タスクまたはリニアタスクフロー ID。URI に taskId または taskName を使用します。 タスクが Default フォルダにある場合はこのタスク ID を含めることができます。
taskFederatedId	String	タスクが Default フォルダに配置されていない場合は必須。	タスクへのフォルダパスを含む、タスクのグローバル一意識別子。
taskName	String	taskId が含まれていない場合は必須。	タスクまたはリニアタスクフローの名前。URI に taskId または taskName を使用します。
taskType	String	○	タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。

POST 応答

応答は、要求が成功した場合は成功オブジェクト、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

POST 要求の例

0034J90000000M という ID の線形タスクフローを停止するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/job/stop HTTP/1.0
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>

{
  "@type": "job",
  "taskId": "0034J90000000M",
  "taskType": "Workflow"
}
```

ジョブのクリーン停止

ジョブリソースを使用して、ジョブをクリーン停止します。

POST 要求

次の URI を使用します。

/api/v2/job/stop?cleanStop=true

次の表に、ジョブオブジェクトで使用する属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
taskId	String	taskId が含まれていない場合は必須。	タスクまたはリニアタスクフロー ID。URI に taskId または taskName を使用します。 タスクが Default フォルダにある場合はこのタスク ID を含めることができます。
taskFederatedId	String	タスクが Default フォルダに配置されていない場合は必須。	タスクへのフォルダパスを含む、タスクのグローバル一意識別子。
taskName	String	taskId が含まれていない場合は必須。	タスクまたはリニアタスクフローの名前。URI に taskId または taskName を使用します。
taskType	String	○	タスクのタイプ。データ統合では、次のいずれかのコードを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- DMASK。マスキングタスク。- DRS。レプリケーションタスク。- DSS。同期タスク。- MTT。マッピングタスク。- PCS。PowerCenter タスク。- WORKFLOW。リニアタスクフロー。

POST 応答

応答は、要求が成功した場合は成功オブジェクト、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

POST 要求の例

MappingTask1 という名前のマッピングタスクをクリーン停止するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/job/stop?cleanStop=true
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>

{
```

```
"@type": "job",
  "taskName": "MappingTask1",
  "taskType": "MTT"
}
```

ログイン

REST API を使用して、Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウント、JSON Web トークン、SAML、または Salesforce で組織にログインできます。

ログインしています

このリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントを使用して組織にログインできます。

ログイン応答には、REST API セッション中に送信する要求に含めるベース URL とセッション ID の値が含まれています。

この logout リソースを使用して、セッションを終了します。

SAML シングルサインオンを使用してログインするには、[「SAML を使用したログイン」 \(ページ 63\)](#)を参照してください。

Salesforce 資格情報を使用してログインするには、[「Salesforce を使用したログイン」 \(ページ 66\)](#)を参照してください。

注: チームでは、開発用の組織とテスト用の組織など、複数の組織を使用している場合があります。ログインに使用するユーザー資格情報によって、アクセスする組織が決定されます。

POST 要求

ログインするには、次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/login`

クラウドプロバイダとリージョンの値は、組織が使用する POD（デプロイメントのポイント）の名前に対応します。次の表に、POD 名と、ログイン URL で使用する、それに対応するクラウドプロバイダとリージョンを示します。

POD 名	クラウドプロバイダ - リージョン
USW1	dm-us
USE2	dm-us
USW3	dm-us
USE4	dm-us
USW5	dm-us
USE6	dm-us
USW1-1	dm1-us

POD 名	クラウドプロバイダ - リージョン
USW3-1	dm1-us
USW1-2	dm2-us
CAC1	dm-na
APSE1	dm-ap
APSE2	dm1-apse
APNE1	dm1-ap
APNE2	dm-apne
APAUC1	dm1-apau
EMW1	dm-em
EMC1	dm1-em
UK1	dm-uk

例えば、組織で APNE1 POD を使用している場合は、次の URL を使用します。

<https://dm1-ap.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/login>

組織が使用している POD の名前がわからない場合は、組織の管理者または Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

POD 名、対応するクラウドプロバイダ、およびリージョンの詳細については、ナレッジベースの「[Product Availability Matrix \(PAM\) for Informatica Intelligent Cloud Services](#)」を参照してください。

ログインオブジェクトの次の属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
username	String	○	ログインする組織の Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。 最大長は 255 文字です。
password	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。 最大長は 255 文字です。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

応答には、後続の REST API 呼び出しのヘッダーに含める必要のある次の情報が含まれます。

- icSessionId。バージョン 2 REST API 呼び出しのヘッダーに含まれる、REST API セッション ID。セッション ID の詳細については、「[「セッション ID」 \(ページ 22\)](#)」を参照してください。
- serverURL。ログインを除くすべてのバージョン 2 のリソース URI で使用するベース URL。例えば、次のようになります。
<serverUrl>/api/v2/job

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。 注: 従来の Informatica Cloud で作成された組織では、6 文字の組織 ID である可能性があります。
orgUuid	String	組織の一意の ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
description	String	ユーザーの説明。
createTime	String	ユーザーアカウントの作成日時。
updateTime	String	ユーザーアカウントの最終作成日時。
createdBy	String	ユーザーアカウントを作成した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
sfUsername	String	Salesforce のユーザー名。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
password	String	Salesforce のユーザーパスワード。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
firstName	String	ユーザーアカウントの名。
lastName	String	ユーザーアカウントの姓。
title	String	ユーザーの役職。
phone	String	ユーザーの電話番号。
securityQuestion	String	セキュリティの質問。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none">- SPOUSE_MEETING_CITY- FIRST_JOB_CITY- CHILDHOOD_FRIEND- MOTHER_MAIDEN_NAME- PET_NAME- CHILDHOOD_NICKNAME- CUSTOM_QUESTION:"<question>"
securityAnswer	String	セキュリティの質問に対する答え。
roles		ユーザーに割り当てられた各ロールのロールオブジェクトを含むオブジェクト。

フィールド	タイプ	説明
name	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロール名。次のいずれかのコードを返します。 - サービスコンシューマ - Designer - Admin
description	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
emails	String	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。
timezone	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、「 タイムゾーンのコード 」 (ページ 599) を参照してください。
serverUrl	String	ユーザーが属する組織の Informatica Intelligent Cloud Services の URL。最も正確なバージョン 2 REST API のリソース URI のベースとして serverUrl を使用します。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
uuld	String	ユーザーの一意の ID。
icSessionId	String	バージョン 2 REST API セッションの Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。最も正確なバージョン 2 REST API 要求ヘッダーで使用します。
forceChangePassword	Boolean	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。 - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。

POST の例

所属する Informatica Intelligent Cloud Services 組織にログインするには、次の要求を使用できます。

POST https://dm-us.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/login
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```
{
  "@type": "login",
  "username": "John@infa.com",
  "password": "mypassword"
}
```

応答では、後続の呼び出しで使用する serverUrl および icSessionId の値が含まれるユーザーオブジェクトが返されます。次に例を示します。

```
{
  "id": "0101TQ030000000000007",
  "orgId": "0101TQ",
  "orgUuid": "3FNFLs1uHe2IIgTs8tRjSJ",
  "name": "John@infa.com",
  "description": "",
  "createTime": "2018-02-16T00:20:07.000Z",
  "updateTime": "2018-07-17T22:45:50.000Z",
  "createdBy": "System built-in user",
}
```

```

    "updatedBy": "John@infa.com",
    "sfUsername": null,
    "firstName": "John",
    "lastName": "Randall",
    "title": "IICS Admin",
    "password": "*****",
    "phone": "123-456-7899",
    "emails": "John@infa.com",
    "timezone": null,
    "serverUrl": "https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas",
    "securityQuestion": "In what city were you born?",
    "securityAnswer": "*****",
    "uuid": "a51jk7TB0IDcnWLwJdLaW2",
    "forceChangePassword": false,
    "roles": [
      {
        "name": "Admin",
        "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to
all licensed services."
      },
      {
        "name": "Data Preview",
        "description": "Role to preview data"
      },
      {
        "name": "Designer",
        "description": "Role for creating assets, tasks, and processes. Can configure connections,
schedules, and runtime environments. Has access to the Application Integration Console."
      }
    ]
  },
}

```

例として上記の応答のセッション ID とサーバー URL の値を使用し、GET 要求を送信して Secure Agent 情報を取得するには、次の要求を使用します。

```

GET https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/agent
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```

JSON Web トークンを使用したログイン

このリソースを使用して、JSON Web Token (JWT) アクセストークンを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインします。

JWT アクセストークンは、IDP と呼ばれる ID プロバイダによって提供されます。ID プロバイダからトークンを取得し、loginOAuth 要求に含めます。トークンは 1 つのログイン要求に対して使用することができます。

loginOAuth リソースを使用する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- 組織が SAML を使用するよう設定されている。SAML 設定の詳細については、Administrator のヘルプの「ユーザー管理」を参照してください。
- ユーザーが SAML ユーザーとして設定され、組織内でアクティブ化されている。
- 組織の ID プロバイダが登録されている。ID プロバイダの登録については、[「ID プロバイダ」 \(ページ 151\)](#) を参照してください。

次の表に、JWT アクセストークンに存在する必要がある要求を示します。

引受	説明
iss	JWT の発行者。ID プロバイダ発行者の絶対 URL が含まれます。 JWT 発行者クレームは、ID プロバイダの登録時に表示された発行者と同一である必要があります。
sub	JWT の件名。ユーザーのユーザー名または電子メールアドレスが含まれます。
aud	JWT のオーディエンス。JWT アクセストークンのオーディエンスクレームが、組織の SAML セットアップで設定された SAML エンティティ ID にマッピングされている。オーディエンスクレームは、次のいずれかの値になります: <ul style="list-style-type: none"> - api://<orgId>.<クラウドプロバイダ>-<リージョン>.informaticacloud.com - api://<クラウドプロバイダ>-<リージョン>.informaticacloud.com.<orgId> - api://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/<orgId> - https://<orgId>.<クラウドプロバイダ>-<リージョン>.informaticacloud.com - https://<クラウドプロバイダ>-<リージョン>.informaticacloud.com.<orgId> - https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/<orgId> 注: 必要に応じて、オーディエンスクレームにリソースを含めることができます。リソース名はカスタマイズ可能で、LoginResource1 や UserLoginResource などの任意の値に設定することができます。
exp	JWT の有効期限。
nbf	これより前は JWT を処理に受け入れることができない時刻。
iat	JWT が発行された時刻。この値により、JWT の経過時間を指定することができます。
jti/uti	JWT の一意の ID。この識別子を使用すると、JWT が再生されないようにして、それぞれの JWT が 1 度だけ使用されるようにすることができます。

注: 必要な要求がない場合、API は要求を拒否し、エラーを返します。

Informatica Intelligent Cloud Services にログインした後に、次の応答フィールドの値を使用して後続の要求を行います。

- icSessionId。REST API 呼び出しのヘッダーに含まれる、REST API セッション ID。セッションは、次のいずれかの値のうちより早い時点で期限切れになります。
 - 現在の時刻に 30 分を加えた時間
 - OAuth トークンの有効期限

セッション ID の期限が切れた後に、再度ログインして REST API での操作を続行します。セッションステータスの詳細取得については、[「セッション ID」 \(ページ 22\)](#)を参照してください。

- serverURL。すべてのリソース URI で使用するベース URL。

この logout リソースを使用して、セッションを終了します。

POST 要求

ログイン要求には JWT アクセストークンを含める必要があります。JWT アクセストークンを取得するには、ID プロバイダが提供するマニュアルを参照してください。

ログインするには、次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginOAuth`

クラウドプロバイダとリージョンの値のリストについては、[「ログインしています」 \(ページ 54\)](#)を参照してください。

要求に次の属性を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
oauthToken	String	○	JWT アクセストークン。
orgId	String	○	ユーザーが属する組織の ID。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

このセッション中は、後続の要求の応答で返されるベース URL とセッション ID を使用します。

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
orgUuid	String	組織の一意の ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
description	String	ユーザーの説明。
createTime	String	ユーザーアカウントの作成日時。
updateTime	String	ユーザーアカウントの最終作成日時。
createdBy	String	ユーザーアカウントを作成した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
sfUsername	String	Salesforce のユーザー名。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
password	String	Salesforce のユーザーパスワード。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
firstName	String	ユーザーアカウントの名。
lastName	String	ユーザーアカウントの姓。
title	String	ユーザーの役職。
password	String	ユーザーパスワード（難読化済み）。
phone	String	ユーザーの電話番号。

フィールド	タイプ	説明
emails	String	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。
timezone	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、「 タイムゾーンのコード 」 (ページ 599) を参照してください。
serverUrl	String	ユーザーが属する組織の Informatica Intelligent Cloud Services の URL。ほぼすべてのバージョン 2 およびバージョン 3 の REST API リソース URI のベースとして使用します。
icSessionId	String	Informatica Intelligent Cloud Services のセッション ID。ほぼすべてのバージョン 2 およびバージョン 3 の REST API 要求ヘッダーで使用します。
securityQuestion	String	セキュリティの質問。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - SPOUSE_MEETING_CITY - FIRST_JOB_CITY - CHILDHOOD_FRIEND - MOTHER_MAIDEN_NAME - PET_NAME - CHILDHOOD_NICKNAME - CUSTOM_QUESTION:"<question>"
securityAnswer	String	セキュリティの質問に対する回答（難読化済み）。
uuld	String	ユーザーの一意の ID。
forceChangePassword	Boolean	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。
roles		ユーザーに割り当てられたロールを含むオブジェクト。
name	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロール名。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - サービスコンシューマ - Designer - Admin
description	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
usergroups		ユーザーに割り当てられた usergroups を含むオブジェクト。
id	文字列	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループ ID。
orgId	String	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループが属する組織の ID。
name	文字列	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループの名前。

フィールド	タイプ	説明
description	文字列	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループの説明。
createTime	文字列	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループを作成した日時。
updateTime	文字列	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループが最後に更新された日時。
createdBy	文字列	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーアカウントを作成したユーザー。
updatedBy	String	usergroups オブジェクトに含まれます。 ユーザーアカウントを最後に更新したユーザー。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。

POST の例

JWT アクセストークンを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインするには、次の要求を使用します：

POST <https://dm-us.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginOAuth>
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```
{
  "orgId": "6xVpQpzHBAoizhbM0Lzty9",
  "oauthToken": "<JWT token>"
}
```

応答では、後続の呼び出しで使用する serverUrl および icSessionId の値が含まれるユーザーオブジェクトが返されます。次に例を示します。

```
{
  "id": "0100010300000000000002",
  "orgId": "010001",
  "orgUuid": "6xVpQpzHBAoizhbM0Lzty9",
  "name": "Larry@infa.com",
  "description": null,
  "createTime": "2023-07-20T15:13:12.000Z",
  "updateTime": "2023-07-20T15:13:32.000Z",
  "createdBy": "ma",
  "updatedBy": "Scott@infa.com",
  "sfUsername": null,
  "firstName": "Larry",
  "lastName": "Felyne",
  "title": "Manager",
  "password": "*****",
  "phone": "423435546657652",
  "emails": "Larry@infa.com",
  "timezone": null,
  "serverUrl": "https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas",
  "securityQuestion": "In what city did you meet your spouse/significant other?",
  "securityAnswer": "*****",
  "uuid": "6qnnXdzBdtUbObUTYhyW01",
  "forceChangePassword": false,
  "roles": [
    {
      "name": "Admin",

```

```

        "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to
all licensed services."
    },
    {
        "name": "Data Preview",
        "description": "Role to preview data"
    },
    {
        "name": "Designer",
        "description": "Role for creating assets, tasks, and processes. Can configure connections,
schedules, and runtime environments. Has access to the Application Integration Console."
    }
],
"usergroups": [
    {
        "id": "aRfrqNzCfg7e9SD0J3y1Yn",
        "orgId": "010001",
        "name": "G2",
        "description": "",
        "createTime": "2023-08-01T05:33:22.000Z",
        "updateTime": "2023-08-01T05:33:23.000Z",
        "createdBy": "Scott@infa.com",
        "updatedBy": "Scott@infa.com"
    }
],
"spiUrl": null
}

```

後続の要求で serverUrl 値と icSessionId 値を使用する例として、Secure Agent 情報を取得するための GET 要求を送信するには、次の要求を使用します:

```

GET https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/agent HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```

SAML を使用したログイン

このバージョン 2 の API リソースを使用して、Security Assertion Markup Language (SAML) トークンで Informatica Intelligent Cloud Services にログインします。SAML トークンは、SAML アサーションを含む Base64 でエンコードされた XML ファイルです。このトークンは、ログインが成功した後に ID プロバイダ (IDP) によって提供されます。

注: SAML トークンが SSO ログインの実行にすでに使用されている場合は、トークンの有効期限がまだ切れていなくても、API ログインの実行にこのトークンを使用することはできません。ユーザー名とパスワードを使用してログインする必要があります。

loginSaml 応答には、後続の REST API 呼び出しに含めるセッション ID とベース URL が含まれています。応答で返される次のフィールドの値を使用します。

- icSessionId。バージョン 2 の REST API 呼び出しのヘッダーに含める、30 分の REST API セッション ID。セッション ID の期限が切れたら、再度ログインして REST API での操作を続行します。セッションステータスの詳細取得については、[「セッション ID」 \(ページ 22\)](#)を参照してください。
- serverURL。loginSaml を除くすべてのバージョン 2 リソースの URI で使用するベース URL。例:
<serverUrl>/api/v2/job

この logout リソースを使用して、セッションを終了します。

POST 要求

ログイン要求には、ID プロバイダから取得できる SAML トークンが含まれている必要があります。

ログインするには、次の URL を使用します。

```
https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginSaml
```

クラウドプロバイダとリージョンの値のリストについては、「[ログインしています](#)」(ページ 54)を参照してください。

この URL では、ログインオブジェクトの次の属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
samlToken	String	○	SAML トークン。
orgId	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services の組織 ID。 組織 ID を見つけるには、ユーザーインターフェースを使用してログインし、右上隅にある組織名をクリックします。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

このセッション中は、後続の要求の応答で返されるベース URL とセッション ID を使用します。

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。 注: 従来の Informatica Cloud で作成された組織では、6 文字の組織 ID である可能性があります。
orgUuid	文字列	組織の一意的 ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
description	String	ユーザーの説明。
createTime	String	ユーザーアカウントの作成日時。
updateTime	String	ユーザーアカウントの最終作成日時。
createdBy	String	ユーザーアカウントを作成した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
firstName	String	ユーザーアカウントの名。
lastName	String	ユーザーアカウントの姓。
title	String	ユーザーの役職。
phone	String	ユーザーの電話番号。
roles		ユーザーに割り当てられたロールを含むオブジェクト。

フィールド	タイプ	説明
name	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロール名。次のいずれかのコードを返します。 - サービスコンシューマ - Designer - Admin
description	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
email	String	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。
timezone	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、「 タイムゾーンのコード 」 (ページ 599)を参照してください。
serverUrl	String	ユーザーが属する組織の Informatica Intelligent Cloud Services の URL。最も正確なバージョン 2 REST API のリソース URI のベースとして serverUrl を使用します。
icSessionId	String	バージョン 2 REST API セッションの Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。最も正確なバージョン 2 REST API 要求ヘッダーで使用します。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
uuld	String	ユーザーの一意の ID。

POST の例

SAML シングルサインオンを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインするには、次の要求を使用できます。

POST <https://dm-us.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginSaml/<URI>>
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```
{
  "@type": "login",
  "samlToken": "<SAML token>",
  "orgId": "3FNFLs1uHe2IIgTs8tRjSJ"
}
```

応答では、後続の呼び出しで使用する serverUrl および icSessionId の値が含まれるユーザーオブジェクトが返されます。次に例を示します。

```
{
  "id": "0101TQ030000000000007",
  "orgId": "3FNFLs1uHe2IIgTs8tRjSJ",
  "orgUuid": "3FNFLs1uHe2IIgTs8tRjSJ",
  "name": "John@infa.com",
  "description": "",
  "createTime": "2018-02-16T00:20:07.000Z",
  "updateTime": "2018-07-17T22:45:50.000Z",
  "createdBy": "System built-in user",
  "updatedBy": "John@infa.com",
  "sfUsername": null,
  "firstName": "John",
  "lastName": "Randall",
  "title": "IICS Admin",
  "phone": "123-456-7899",
  "emails": "John@infa.com",
  "timezone": null,
  "serverUrl": "https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas",
}
```

```

    "securityQuestion": "In what city were you born?",
    "securityAnswer": "*****",
    "uuid": "a51jk7TB0IDcnWLwJdLaW2",
    "forceChangePassword": false,
    "roles": [
      {
        "name": "Admin",
        "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to all licensed services."
      },
      {
        "name": "Data Preview",
        "description": "Role to preview data"
      },
      {
        "name": "Designer",
        "description": "Role for creating assets, tasks, and processes. Can configure connections, schedules, and runtime environments. Has access to the Application Integration Console."
      }
    ]
  },
}

```

上記のような応答を例として使用し、GET 要求を送信して Secure Agent 情報を取得するには、次の要求を使用できます。

```

GET https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/agent
Content-Type: application/json
Accept: application/json

```

Salesforce を使用したログイン

このリソースを使用して、Salesforce 資格証明を使用して Informatica Intelligent Cloud Services 組織にログインします。

ログイン応答には、後続の REST API 呼び出しに含める必要のあるセッション ID とベース URL を含めます。

注: loginSf リソースを使用してログインする前に、Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントをアクティブ化する必要があります。

Salesforce Web Services API を使用して Salesforce セッション ID を生成し、Salesforce サーバーの URL を取得します。詳細については、Salesforce の *Web Services API 開発者ガイド* を参照してください。

この logout リソースを使用して、セッションを終了します。

POST 要求

Salesforce 資格証明を使用してログインするには、次の URL を使用します。

```
https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginSf
```

クラウドプロバイダとリージョンの値のリストについては、[「ログインしています」 \(ページ 54\)](#) を参照してください。

loginSf オブジェクトの次の属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
sfSessionId	String	○	Salesforce セッション ID。Salesforce セッション ID の生成の詳細は、Salesforce の <i>Web Services API 開発者ガイド</i> を参照してください。
sfServerUrl	String	○	Salesforce サーバー URL。 Salesforce API ログインリソースの応答から Salesforce サーバー URL を取得します。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

応答には、後続の REST API 呼び出しのヘッダーに含める必要のある次の情報が含まれます。

- `icSessionId`。バージョン 2 REST API 呼び出しのヘッダーに含まれる、REST API セッション ID。セッション ID は、30 分間の非アクティブ状態の後で期限切れになります。セッション ID の期限が切れた後に、再度ログインして REST API での操作を続行します。
セッションステータスの詳細取得については、[「セッション ID」 \(ページ 22\)](#)を参照してください。
- `serverURL`。ログインを除くすべてのバージョン 2 のリソース URI で使用するベース URL。例えば、次のようになります。
`<serverUrl>/api/v2/job`

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
<code>id</code>	String	ユーザー ID。
<code>orgId</code>	String	ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。 注: 従来の Informatica Cloud で作成された組織では、6 文字の組織 ID である可能性があります。
<code>orgUuid</code>	String	組織の一意的 ID。
<code>name</code>	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
<code>description</code>	String	ユーザーの説明。
<code>createTime</code>	String	ユーザーアカウントの作成日時。
<code>updateTime</code>	String	ユーザーアカウントの最終作成日時。
<code>createdBy</code>	String	ユーザーアカウントを作成した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
<code>updatedBy</code>	String	ユーザーアカウントを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
<code>sfUsername</code>	String	Salesforce のユーザー名。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
<code>password</code>	String	Salesforce のユーザーパスワード。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
<code>firstName</code>	String	ユーザーアカウントの名。
<code>lastName</code>	String	ユーザーアカウントの姓。
<code>title</code>	String	ユーザーの役職。
<code>phone</code>	String	ユーザーの電話番号。

フィールド	タイプ	説明
securityQuestion	String	セキュリティの質問。次のいずれかのコードを返します。 - SPOUSE_MEETING_CITY - FIRST_JOB_CITY - CHILDHOOD_FRIEND - MOTHER_MAIDEN_NAME - PET_NAME - CHILDHOOD_NICKNAME - CUSTOM_QUESTION:"<question>"
securityAnswer	String	セキュリティの質問に対する答え。
roles		ユーザーに割り当てられた各ロールのロールオブジェクトを含むオブジェクト。
name	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロール名。次のいずれかのコードを返します。 - サービスコンシューマ - Designer - Admin
description	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
emails	String	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。
timezone	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、「 タイムゾーンのコード 」(ページ 599)を参照してください。
serverUrl	String	ユーザーが属する組織の Informatica Intelligent Cloud Services の URL。最も正確なバージョン 2 REST API のリソース URI のベースとして serverUrl を使用します。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
uuld	String	ユーザーの一意の ID。
icSessionId	String	バージョン 2 REST API セッションの Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。最も正確なバージョン 2 REST API 要求ヘッダーで使用します。
forceChangePassword	Boolean	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。 - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。

POST の例

所属する Informatica Intelligent Cloud Services 組織にログインするには、次の要求を使用できます。

```
POST https://dm-us.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginSf
Content-Type: application/json
Accept: application/json
```

```
{
  "@type": "loginSf",
```

```
"sfSessionId": "00Df4000000coF!ARYAQD02SvoD3eRX0rNai0b9a3Pp",
"sfServerUrl": "https://c.na41.visual.force.com/services/Soap/u/27.0/00Df4000000coF"
}
```

応答では、後続の呼び出しで使用する serverUrl および icSessionId の値が含まれるユーザーオブジェクトが返されます。次に例を示します。

```
{
  "id": "0101TQ030000000000007",
  "orgId": "0101TQ",
  "orgUuid": "3FNFLs1uHe2IIgTs8tRjSJ",
  "name": "John@infa.com",
  "description": "",
  "createTime": "2018-02-16T00:20:07.000Z",
  "updateTime": "2018-07-17T22:45:50.000Z",
  "createdBy": "System built-in user",
  "updatedBy": "John@infa.com",
  "sfUsername": "JohnR",
  "firstName": "John",
  "lastName": "Randall",
  "title": "IICS Admin",
  "password": "*****",
  "phone": "123-456-7899",
  "emails": "John@infa.com",
  "timezone": null,
  "serverUrl": "https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas",
  "securityQuestion": "In what city were you born?",
  "securityAnswer": "*****",
  "uuid": "a51jk7TB0IDcnWLwJdLaW2",
  "forceChangePassword": false,
  "roles": [
    {
      "name": "Admin",
      "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to all licensed services."
    },
    {
      "name": "Data Preview",
      "description": "Role to preview data"
    },
    {
      "name": "Designer",
      "description": "Role for creating assets, tasks, and processes. Can configure connections, schedules, and runtime environments. Has access to the Application Integration Console."
    }
  ]
}
```

上記のような応答を例として使用し、GET 要求を送信して Secure Agent 情報を取得するには、次の要求を使用できます。

```
GET https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/agent
Content-Type: application/json
Accept: application/json
```

ログアウト

REST API を使用して、組織からログアウトし、バージョン 2 の REST API セッションを終了するか、組織のすべてのバージョン 2 の REST API セッションを終了できます。

ロギング出力

このリソースを使用して、組織からログアウトし、要求で指定したバージョン 2 REST API セッションを終了します。

送信したすべての要求が実行されるまで、REST API セッションからログアウトしないでください。

POST 要求

組織からログアウトして、バージョン 2 REST API セッションを終了するには、次の URI を使用して要求ヘッダーにセッション ID を含めます。

/api/v2/user/logout

POST 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

組織からログアウトするには、次の要求を使用します。

```
POST <serverURL>/api/v2/user/logout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

ログアウトとすべてのセッションの終了

このリソースを使用して、組織からログアウトし、組織のすべてのバージョン 2 REST API セッションを終了します。

すべての API 要求が実行されるまで、セッションからログアウトしないでください。

POST 要求

組織からログアウトして組織のすべてのバージョン 2 REST API セッションを終了するには、次の URL を使用します。

https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/logoutall

この URL を使用して、logout オブジェクトの次の属性を使用します。

username

Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。

password

Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。

POST 応答

要求が成功すると、成功オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

組織とすべてのバージョン 2 REST API セッションからログアウトするには、次の要求を使用できます。

```
POST https://dm-us.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/logoutall
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>

{
```

```
"@type": "logout",
"username": "useremail@company.com",
"password": "mypassword"
}
```

組織

REST API を使用して、Informatica Intelligent Cloud Services 組織または関連するサブ組織の詳細の要求、組織または関連するサブ組織の更新、サブ組織の削除、あるいはサブ組織の作成を行うことができます。

組織管理

このリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services 組織または関連するサブ組織の詳細を要求します。このリソースを使用して、組織または関連するサブ組織を更新することができます。サブ組織を削除することもできます。

GET 要求

組織の詳細を要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/org

組織に関連するサブ組織の詳細を要求するために、URI にサブ組織 ID またはサブ組織名を含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

/api/v2/org/<sub-organization ID>

/api/v2/org/name/<sub-organization name>

URI に組織名を使用し、組織名にスペースが含まれる場合、スペースを%20 に置き換えます。以下に例を示します。

/api/v2/org/name/my%20suborg

GET 応答

組織の詳細を要求するときに、Informatica Intelligent Cloud Services はリスト形式で org オブジェクトを返します。

組織が組織階層の親組織の場合、org オブジェクトにすべてのサブ組織の ID と名前が含まれます。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

org オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	組織 ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	組織名。
description	String	組織の説明。
createTime	Date/Time	組織が作成された日時。

フィールド	タイプ	説明
updateTime	Date/Time	組織の最終更新時刻。
createdBy	String	組織を作成したユーザー。
updatedBy	String	組織を更新した最後のユーザー。
parentOrgId	String	親組織の組織 ID。 組織がスタンドアロンまたは親の組織である場合、0 を返します。
address1	String	組織の住所。
address2	String	組織の住所の追加情報。
address3	String	組織の住所の追加情報。
city	String	組織の拠点がある市区町村。
state	String	組織の拠点がある都道府県。州コードを返します。 詳細については、 「州コード」 (ページ 591) を参照してください。
zipcode	String	組織の拠点がある地域の郵便番号。
timezone	String	組織のタイムゾーン。詳細については、 「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。
country	String	組織の拠点がある国。国コードを返します。 詳細については、 「国コード」 (ページ 593) を参照してください。
employees	String	組織の従業員の範囲。
offerCode	String	Informatica Intelligent Cloud Services パートナーに割り当てられたオファーコード。
successEmails	String	正常に完了したタスクの通知を受信するための電子メールアドレス。
warningEmails	String	エラーで完了したタスクの通知を受信するための電子メールアドレス。
errorEmails	String	完了に失敗したタスクの通知を受信するための電子メールアドレス。
campaignCode	String	キャンペーンコード。
atlasProjectId	String	Atlas プロジェクト ID。
zuoraAccountId	String	Zuora アカウント ID。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。

フィールド	タイプ	説明
devOrg	Boolean	組織が開発組織であることを示します。 開発組織の場合は 1 を返します。プロダクション組織の場合は 0 を返します。
maxLogRows	Int	アクティビティログに保持する最大行数。
minPasswordLength	Int	ユーザーアカウントパスワードの最小文字数。
minPasswordCharMix	Int	各パスワードには文字を混在させる必要があります。 パスワードには、次の文字セットを混在させることができます: 小文字、大文字、数字、および特殊文字。 次のいずれかの値を返します。 - 1. 少なくとも 1 つの文字セットが含まれます。 - 2. 少なくとも 2 つの文字セットが含まれます。 - 3. 少なくとも 3 つの文字セットが含まれます。 - 4. 4 つすべての文字セットが含まれます。
passwordReuselInDays	Int	前のパスワードを再度使用できるまでの日数。 値 0 はパスワードを常に再利用できることを意味します。
passwordExpirationInDays	Int	パスワードの有効期限までの日数。 値 0 はパスワードの有効期限がないことを意味します。
subOrgLimit	Int	許可されたサブ組織数。限界がカスタマイズされている場合、REST API はカスタム制限を返します。カスタマイズされていない場合、REST API はエディションに関連付けられた制限を返します。
restApiSessionLimit	Int	許可された concurrent REST API の同時セッションの数。限界がカスタマイズされている場合、REST API はカスタム制限を返します。カスタマイズされていない場合、REST API はエディションに関連付けられた制限を返します。
parentOrgId	String	親組織の組織 ID。 0 は、組織がスタンドアロンまたは親の組織であることを示します。
jobExecUserProfile	String	コンタクト検証タスクを実行するために設定された Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウント。
orgUUID	String	組織の一意の ID。
subOrgs		各サブ組織に情報を含むオブジェクト。
id	String	subOrgs オブジェクトに含まれます。 サブ組織の ID。
name	String	subOrgs オブジェクトに含まれます。 サブ組織の名前。

POST 要求

REST API セッションを開始したユーザーが、管理者ロールを所有し、更新する組織または親組織のいずれかに属している場合、Informatica Intelligent Cloud Services 組織を更新できます。

組織に適切なライセンスがあり、REST API セッションを開始したユーザーが親組織で管理者ロールを持つ場合、サブ組織を更新できます。

親組織に関連するサブ組織の詳細を更新するには、次の URI の組織 ID を使用します。組織の詳細を更新するには、オプションの ID を省略します。

/api/v2/org/<id>

注: REST API を介して組織を更新するときに、アクションは完全に更新されます。フィールドが要求に含まれていない場合、値はデフォルトにリセットします。

組織 ID、オファークード、または組織で作成された組織管理者のユーザーアカウントは更新できません。

この URI で、**org** オブジェクトの次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	組織名。
address	String	○	組織の住所。
address2	String		組織の住所の追加情報。
address3	String		組織の住所の追加情報。
city	String	○	組織の拠点がある市区町村。
state	String	国が US の場合に必須。	組織の拠点がある都道府県。適切な州コードを使用します。 国が US に設定される場合に必須。 詳細については、付録 A、 「州コード」 (ページ 591) を参照してください。
zipcode	String	国が US の場合に必須。	組織の拠点がある地域の郵便番号。 国が US に設定される場合に必須。
country	String	○	組織の拠点がある国。適切な国コードを使用します。 詳細については、付録 A、 「国コード」 (ページ 593) を参照してください。
timezone	String		組織のタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、付録 A、 「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。
description	String		組織の説明。最大長は 255 文字です。
successEmails	String		ジョブが正常に完了したことを通知するためのデフォルトの電子メールアドレス。
warningEmails	String		ジョブ完了について警告するためのデフォルトの電子メールアドレス。
errorEmails	String		ジョブ失敗について通知するためのデフォルトの電子メールアドレス。

フィールド	タイプ	必須	説明
employees	String	○	組織の従業員の範囲。次の範囲のいずれかを使用します。 - "0_10" - "11_25" - "26_50" - "51_100" - "101_500" - "501_1000" - "1001_5000" - "5001_"
offerCode	String		Informatica Intelligent Cloud Services パートナーに割り当てられたオファーコード。
passwordReuseInDays	Int		前のパスワードを再度使用できるまでの日数。 最大日数は 730（2 年）です。 値 0 はパスワードを常に再利用できることを意味します。
passwordExpirationInDays	Int		パスワードの有効期限までの日数。 最大日数は 180 です。 値 0 はパスワードの有効期限がないことを意味します。

POST 応答

成功した場合、作成または更新した組織の org 要求オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

REST API セッションを開始したユーザーが、管理者ロールを所有し、親組織に属している場合、Informatica Intelligent Cloud Services サブ組織を削除できます。

Informatica Intelligent Cloud Services 組織を削除するには、次の URI で組織 ID を使用します。

/api/v2/org/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

ID 02340000 でサブ組織を更新するために、次の要求を使用することができます。

```
POST <serverUrl>/api/v2/org/02340000
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```

```
<org>
  <name>Dev Org</name>
  <address1>333 Main Street</address1>
  <city>City</city>
  <state>MD</state>
  <zipcode>90001</zipcode>
  <country>US</country>
  <timezone>America/Chicago</timezone>
</org>
```

成功した要求は、更新したサブ組織の org 要求オブジェクトを返します。

サブ組織の作成

このリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services サブ組織を作成します。Informatica Intelligent Cloud Services パートナーのみの場合。

組織に適切なライセンスがあり、REST API セッションを開始したユーザーが親組織で管理者ロールを持つ場合、Informatica Intelligent Cloud Services サブ組織を作成できます。

register POST 要求

Informatica Intelligent Cloud Services サブ組織を作成するには、次の URI を使用します。

/api/v2/user/register

要求ヘッダーでログイン応答からのセッション ID を使用します。ベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

登録オブジェクトでは次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
org			Informatica Intelligent Cloud Services 組織を定義する属性。
offerCode	String		org オブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services パートナーに割り当てられたオファーコード。
name	String	○	org オブジェクトに含めます。 新しい Informatica Intelligent Cloud Services 組織の名前。
address1	String	○	org オブジェクトに含めます。 組織が存在する住所。
address2	String		org オブジェクトに含めます。 組織の住所の追加情報。
address3	String		org オブジェクトに含めます。 組織の住所の追加情報。
city	String	○	org オブジェクトに含めます。 組織が存在する市区町村。
state	String	○	org オブジェクトに含めます。 組織が存在する州。適切な州コードを使用します。 米国の場合は必須です。 詳細については、付録 A、 「州コード」 (ページ 591) を参照してください。
zipcode	String	○	org オブジェクトに含めます。 組織が存在する郵便番号。
country	String	○	org オブジェクトに含めます。 組織が存在する国。適切な国コードを使用します。 詳細については、付録 A、 「国コード」 (ページ 593) を参照してください。

フィールド	タイプ	必須	説明
timezone	String		org オブジェクトに含めます。 注: Informatica Intelligent Cloud Services は、デフォルトのタイムゾーンとして America/Los_Angeles を使用します。サブ組織を作成した後、org リソースを使用してタイムゾーンを変更するか、管理者でタイムゾーンを変更できます。
employees	String	○	org オブジェクトに含めます。 組織の従業員数。次の範囲のいずれかを使用します。 - "0_10" - "11_25" - "26_50" - "51_100" - "101_500" - "501_1000" - "1001_5000" - "5001_"
user			組織の管理者ユーザーアカウントを定義する属性。
name	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者アカウントの電子メールアドレス。
password	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者アカウントのパスワード。
firstName	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者の名。
lastName	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者の姓。
title	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者の役職。
phone	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者の電話番号。
emails	String	○	ユーザーオブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services からの通知を受け取るための電子メールアドレス。
timezone	String		ユーザーオブジェクトに含めます。 組織の管理者のタイムゾーン。 注: Informatica Intelligent Cloud Services は、デフォルトのタイムゾーンとして America/Los_Angeles を使用します。サブ組織を作成した後、org リソースを使用してタイムゾーンを変更するか、管理者でタイムゾーンを変更できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
securityQuestion	String		ユーザーオブジェクトに含めます。 セキュリティの質問。次のいずれかのコードを使用してセキュリティの質問を選択します。 - SPOUSE_MEETING_CITY - FIRST_JOB_CITY - CHILDHOOD_FRIEND - MOTHER_MAIDEN_NAME - PET_NAME - CHILDHOOD_NICKNAME - CUSTOM_QUESTION:"<question>"
securityAnswer	String		ユーザーオブジェクトに含めます。 セキュリティの質問に対する答え。
forceChangePassword	Boolean		ユーザーオブジェクトに含めます。 初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。 - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。
optOutOfEmails	Boolean		ユーザーオブジェクトに含めます。 ユーザーが Informatica からのマーケティング情報の受信を承諾するかどうか。TRUE は、ユーザーがマーケティング情報の受信を望まないことを示します。
registrationCode	String		登録コード。
sendEmail	Boolean		登録が完了すると、ユーザーの電子メールアドレスに一時的なログイン情報を含む電子メールを送信します。TRUE を使用し、電子メールを送信します。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。 注: 従来の Informatica Cloud で作成された組織では、6 文字の組織 ID である可能性があります。
orgUuid	String	組織の一意の ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。

フィールド	タイプ	説明
description	String	ユーザーの説明。
createTime	String	ユーザーアカウントの作成日時。
updateTime	String	ユーザーアカウントの最終作成日時。
createdBy	String	ユーザーアカウントを作成した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
sfUsername	String	Salesforce のユーザー名。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
password	String	Salesforce のユーザーパスワード。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
firstName	String	ユーザーアカウントの名。
lastName	String	ユーザーアカウントの姓。
title	String	ユーザーの役職。
phone	String	ユーザーの電話番号。
securityQuestion	String	セキュリティの質問。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - SPOUSE_MEETING_CITY - FIRST_JOB_CITY - CHILDHOOD_FRIEND - MOTHER_MAIDEN_NAME - PET_NAME - CHILDHOOD_NICKNAME - CUSTOM_QUESTION:"<question>"
securityAnswer	String	セキュリティの質問に対する答え。
roles		ユーザーに割り当てられた各ロールのロールオブジェクトを含むオブジェクト。
name	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロール名。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - サービスコンシューマ - Designer - Admin
description	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
emails	String	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。

フィールド	タイプ	説明
timezone	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、「 タイムゾーンのコード 」 (ページ 599)を参照してください。
serverUrl	String	ユーザーが属する組織の Informatica Intelligent Cloud Services の URL。最も正確なバージョン 2 REST API のリソース URI のベースとして serverUrl を使用します。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
uuld	String	ユーザーの一意の ID。
icSessionId	String	バージョン 2 REST API セッションの Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。最も正確なバージョン 2 REST API 要求ヘッダーで使用します。
forceChangePassword	Boolean	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。 - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。

POST の例

JSON で組織を登録するには、次の要求を使用できます。

POST <serverUrl>/api/v2/user/register
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>

```
{
  "@type": "registration",
  "user": {
    "@type": "user",
    "name": "useremail@company.com",
    "emails": "useremail@company.com",
    "firstName": "firstName",
    "lastName": "lastName",
    "title": "jobTitle",
    "phone": "(0)1234 567 890",
    "timezone": null,
    "forceChangePassword": "true",
    "optOutOfEmails": "true"
  },
  "org": {
    "@type": "org",
    "offerCode": "PPC30daytrial",
    "campaignCode": "PPC",
    "name": "myOrg",
    "address1": "1 Main St",
    "city": "Mycity",
    "state": "CA",
    "zipcode": "90210",
    "country": "US",
    "employees": "5001_"
  },
  "registrationCode": "ics-standard",
  "sendEmail": true
}
```

成功した要求は作成されたユーザーオブジェクトを返し、これには作成された組織の組織 ID が含まれます。

ランタイム環境

runtimeEnvironment リソースを使用して、ランタイム環境の詳細を要求し、Secure Agent グループを管理できます。

REST API を使用して次のタスクを実行できます。

- ランタイム環境に関する詳細を取得する。
- Secure Agent グループを作成、更新、削除する。
- Secure Agent グループで Informatica Intelligent Cloud Services とコネクタを有効および無効にする。
- Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティを設定する。

ランタイム環境の詳細の取得

runtimeEnvironment リソースを使用して、ランタイム環境の詳細を取得します。

特定のランタイム環境の詳細または組織のすべてのランタイム環境の詳細を要求できます。

組織のランタイム環境情報を要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/runtimeEnvironment

特定のランタイム環境の詳細を要求する場合、URI にランタイム環境 ID または名前を含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

/api/v2/runtimeEnvironment/<id>

/api/v2/runtimeEnvironment/name/<name>

URI にランタイム環境名を使用し、ランタイム環境名にスペースが含まれる場合、スペースは%20 に置き換えます。以下に例を示します。

/api/v2/runtimeEnvironment/name/my%20runtime%20environment

GET 応答

要求されたランタイム環境のランタイム環境情報を返します。runtimeEnvironment オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ランタイム環境 ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	ランタイム環境名。
description	String	ランタイム環境の説明。
createTime	Date/Time	ランタイム環境が作成された日時。
updateTime	Date/Time	ランタイム環境が最後に更新された日時。
createdBy	String	ランタイム環境を作成したユーザー。
updatedBy	String	ランタイム環境を最後に更新したユーザー。

フィールド	タイプ	説明
agents		ランタイム環境に割り当てられているエージェント。agent リソースを参照してください。
isShared	Boolean	Secure Agent グループが共有されているかどうかを示します。次のいずれかの値を返します。 - true。Secure Agent グループは共有されています。 - false。Secure Agent グループは共有されていません。
federatedId	String	グローバル意識別子。
serverlessConfig		サーバーレスランタイム環境プロパティを定義する属性。

サーバーレスランタイム環境の情報を取得する場合、runtimeEnvironment オブジェクトには serverlessConfig オブジェクトも含まれます。serverlessConfig オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
platform	String	サーバーレスランタイム環境をホストするクラウドプラットフォーム。
applicationType	String	サーバーレスランタイム環境を使用できるアプリケーション。
status	String	サーバーレスランタイム環境のステータス。
statusMessage	String	サーバーレスランタイム環境のステータスメッセージ。
statusMessageDetails	String	サーバーレスランタイム環境の AWS からの検証エラーデータ。
cloudProviderConfig		基本のプロパティとデータ統合プロパティを定義します。
infaAccountNumber	String	cloudProviderConfig オブジェクトに含まれます。 クラウドプラットフォームでの情報のアカウント番号。
externalId	String	cloudProviderConfig オブジェクトに含まれます。 ロールに関連付ける外部 ID。
configurationName	String	cloudProviderConfig オブジェクトに含まれます。 サーバーレスランタイム環境の名前
configurationDescription	String	cloudProviderConfig オブジェクトに含まれます。 サーバーレスランタイム環境の説明。
params		AWS リソース設定プロパティを定義します。
s3	String	params オブジェクトに含まれます。 補足ファイルを保存するための Amazon S3 の場所。
subnet	String	params オブジェクトに含まれます。 サブネットの ID。

フィールド	タイプ	説明
role	String	params オブジェクトに含まれます。 サーバーレスランタイム環境が使用するロールの名前。
vpc	String	params オブジェクトに含まれます。 VPC (Amazon Virtual Private Cloud) の ID。
externalId	String	params オブジェクトに含まれます。 ロールに設定される外部 ID。
securityGroup	String	params オブジェクトに含まれます。 セキュリティグループ ID
accountNumber	String	params オブジェクトに含まれます。 クラウドプラットフォームでのアカウント番号。
referenceId	String	params オブジェクトに含まれます。 サーバーレスランタイム環境の参照に使用される内部 ID。
computeUnits	String	params オブジェクトに含まれます。 タスクが使用できるサーバーレスコンピューティングユニットの最大数。
executionTimeout	String	params オブジェクトに含まれます。 タスクが完了するまでの待機時間 (分)。
cloudInstanceId	String	params オブジェクトに含まれます。 インスタンス ID。
zone	String	params オブジェクトに含まれます。 可用性ゾーン ID。
region	String	params オブジェクトに含まれます。 クラウドプラットフォームでのリージョン。
infaAccountNumber	String	params オブジェクトに含まれます。 クラウドプラットフォームでの情報のアカウント番号。
awsTags	String	params オブジェクトに含まれます。 AWS タグ。
maxComputeUnits	String	タスクが使用できるサーバーレスコンピューティングユニットの最大数。
executionTimeout	String	タスクが完了するまでの待機時間 (分)。

GET の例

特定のランタイム環境の詳細を要求するには、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/00000425000000000004
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

次のテキストは、JSON 形式で返されたリストのサンプルです。

```
{
  "@type": "runtimeEnvironment",
  "id": "00000425000000000004",
  "orgId": "000004",
  "name": "SUT_Agent",
  "createTime": "2016-12-09T12:34:01.000Z",
  "updateTime": "2016-12-09T17:54:00.000Z",
  "createdBy": "org1@mycompany.com",
  "updatedBy": "org1@mycompany.com",
  "agents": [],
  "isShared": true,
  "federatedId": "<ID>"
}
```

次のテキストは、サーバーレスランタイム環境の戻りのサンプルです。

```
{
  "@type": "runtimeEnvironment",
  "id": "010000000000000000039",
  "orgId": "010211",
  "name": "Serverless runtime environment 1",
  "description": "My serverless runtime environment",
  "createTime": "2020-08-25T13:21:16.000Z",
  "updateTime": "2020-08-25T13:29:43.000Z",
  "createdBy": "admin",
  "updatedBy": "admin",
  "agents": [],
  "isShared": false,
  "federatedId": "<ID>",
  "serverlessConfig": {
    "platform": "AWS",
    "applicationType": "CDI",
    "status": "RUNNING",
    "statusMessage": "Serverless runtime is running",
    "cloudProviderConfig": {
      "cloudConfig": [
        {
          "infaAccountNumber": "<ACCT_NUMBER>",
          "externalId": "<EXT_ID>",
          "configurationName": "Serverless runtime environment 1",
          "configurationDescription": "My serverless runtime environment",
          "params": {
            "s3": "s3://my-bucket",
            "subnet": "subnet-12345",
            "role": "CDI_Serverless_Role",
            "vpc": "vpc-12345",
            "externalId": "<EXT_ID>",
            "securityGroup": "sg-<SG_NUMBER>",
            "accountNumber": "<ACCT_NUMBER>",
            "referenceId": "<REF_ID>",
            "computeUnits": "1",
            "executionTimeout": "2880",
            "cloudInstanceId": "i-123456789",
            "zone": "usw2-az3",
            "region": "us-west-2",
            "infaAccountNumber": "<ACCT_NUMBER>",
            "awsTags": "Key=NAME,Value=test1 Key=EMAIL,Value=test1@informatica.com"
          }
        }
      ]
    },
    "maxComputeUnits": "1",
    "executionTimeout": "2880"
  }
}
```

Secure Agent グループの作成、更新、および削除

runtimeEnvironment リソースを使用して、Secure Agent グループを作成、更新、および削除できます。

POST 要求を使用して、Secure Agent グループを作成および更新します。DELETE 要求を使用して、Secure Agent グループを削除します。

POST 要求

Secure Agent グループを作成するには、次の URI を使用します。

/api/v2/runtimeEnvironment

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	Secure Agent グループの名前。
isShared	Boolean	-	Secure Agent グループをサブ組織と共有できるかどうか。

Secure Agent グループを更新するには、次の URI に示すようにエージェントグループ ID を含めます。

/api/v2/runtimeEnvironment/<id>

エージェントを追加または削除し、Secure Agent グループの名前を変更できます。エージェントをある Secure Agent グループから別のグループに移動するには、現在のグループからエージェントを削除する要求を送信してから、新しいグループにエージェントを追加する要求を送信します。

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	Secure Agent グループの名前。
isShared	Boolean	-	Secure Agent グループをサブ組織と共有できるかどうか。
agents	配列	○	Secure Agent グループに割り当てられたエージェント。
orgId	String	○	組織 ID。
id	String	○	エージェント ID。

POST 応答

フィールド	タイプ	説明
id	String	Secure Agent グループ ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	Secure Agent グループ名。
description	String	Secure Agent グループの説明。
createTime	Date/Time	Secure Agent グループを作成した日時。

フィールド	タイプ	説明
updateTime	Date/Time	Secure Agent グループが最後に更新された日時。
createdBy	String	Secure Agent グループを作成したユーザー。
updatedBy	String	Secure Agent グループを最後に更新したユーザー。
agents	配列	Secure Agent グループに割り当てられたエージェント。詳細については、agent リソースを参照してください。
isShared	Boolean	Secure Agent グループが共有されているかどうかを示します。次のいずれかの値を返します。 - true。Secure Agent グループは共有されています。 - false。Secure Agent グループは共有されていません。
federatedId	String	グローバル一意識別子。
serverlessConfig		サーバーレスランタイム環境プロパティを定義する属性。

POST 要求の例

Secure Agent グループを作成する要求の例を以下に示します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>

{
  "@type": "runtimeEnvironment",
  "name": "14402",
  "isShared": true
}
```

Secure Agent グループにエージェントを追加する要求の例を以下に示します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/0000042500000000000004
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>

{
  "@type": "runtimeEnvironment",
  "name": "14401",
  "agents": [
    {
      "@type": "agent",
      "id": "0100030800000000000003",
      "orgId": "010003"
    }
  ],
  "isShared": false
}
```

POST 応答の例

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "@type": "runtimeEnvironment",
  "id": "0100032500000000000005",
  "orgId": "010003",
  "name": "USW1MJ02W6PP-2",
  "createTime": "2021-11-09T17:20:55.583Z",
}
```

```

    "updateTime": "2021-11-09T17:20:55.583Z",
    "createdBy": "ctan",
    "updatedBy": "ctan",
    "agents": [],
    "isShared": false,
    "federatedId": "9F4z0pY1kKqdlmLp5kYXkF",
    "createTimeUTC": "2021-11-09T22:20:55.583Z",
    "updateTimeUTC": "2021-11-09T22:20:55.583Z",
    "serverlessConfig": {
      "cloudProviderConfig": {
        "cloudConfig": []
      }
    }
  }
}

```

DELETE 要求

Secure Agent グループを削除するには、次の URI に示すようにエージェントグループ ID を含めます。

```
/api/v2/runtimeEnvironment/000004250000000000034
```

Secure Agent グループの選択の管理

runtimeEnvironment リソースを使用して、Secure Agent グループで Informatica Intelligent Cloud Services とコネクタを有効または無効にすることができます。また、選択の詳細を取得することもできます。

GET 要求を使用して、Secure Agent グループの有効化および無効化の選択に関する詳細を取得します。PUT 要求を使用して、Secure Agent グループをサービスとコネクタに割り当てます。

GET 要求

Secure Agent グループに対して有効になっている選択に関する情報を要求できます。組織のライセンスに基づいて、Secure Agent グループで使用するすべての選択に関する情報を要求することもできます。応答には、使用可能なサービスとコネクタの名前と ID が含まれます。

有効な選択に関する情報を取得するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/selections
```

Secure Agent グループで使用するすべての選択に関する情報を取得するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/selections/details
```

GET 応答

Secure Agent グループの選択を返します。成功した場合、次のフィールドを返します。

フィールド	タイプ	説明
services		サービスの選択情報を含みます。
selections		有効なサービスの情報を含みます。 要求に詳細を含める場合は、無効なサービスの選択情報も含みます。
id	String	selections オブジェクトに含まれます。 サービス ID。
name	String	selections オブジェクトに含まれます。 サービス名。
enabled	Boolean	selections オブジェクトに含まれます。 Secure Agent グループでサービスが有効になっているかどうか。

フィールド	タイプ	説明
connectors		コネクタの選択情報を含みます。
selections		有効なコネクタの情報を含みます。 要求に詳細を含める場合は、無効なコネクタの選択情報も含みます。
id	String	selections オブジェクトに含まれます。 コネクタ ID。
name	String	selections オブジェクトに含まれます。 コネクタ名。
enabled	Boolean	selections オブジェクトに含まれます。 Secure Agent グループでコネクタが有効になっているかどうか。
Additional services		Git などの追加サービスの選択情報を含みます。
selections		有効になっている追加サービスの情報を含みます。 要求に詳細を含める場合は、無効になっている追加サービスの選択情報も含みます。
id	String	selections オブジェクトに含まれます。 サービス ID。
name	String	selections オブジェクトに含まれます。 サービス名。
enabled	Boolean	selections オブジェクトに含まれます。 Secure Agent グループでサービスが有効になっているかどうか。

GET 要求の例

有効な選択に関する情報を取得する要求の例を以下に示します。

```
GET <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/00000425000000000004/selections
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

有効な選択と無効な選択に関する情報を取得する要求の例を以下に示します。

```
GET <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/00000425000000000004/selections/details
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

GET 応答の例

要求が有効な選択と無効な選択に対するものである場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "services": {
    "selections": [
      {
        "id": "00000047000000000002",
        "name": "Data Integration",
        "enabled": true
      }
    ]
  }
}
```



```

    }
  },
  "connectors": {
    "selections": [
      {
        "id": "010000000000005L",
        "name": "Amazon Redshift v2",
        "enabled": true
      },
      {
        "id": "010000000000005Q",
        "name": "Amazon S3",
        "enabled": false
      }
    ]
  },
  "additionalServices": {
    "selections": [
      {
        "id": "00000048000000000002",
        "name": "Git",
        "enabled": false
      }
    ]
  }
}

```

PUT 要求

Secure Agent グループでサービスとコネクタを有効にするには、次の URI に示すようにエージェントグループ ID を含めます。

/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/selections

使用可能なすべてのサービスとコネクタのリストを表示し、選択 ID を見つけるには、GET 要求を使用して、有効な選択と無効な選択に関する情報を取得します。

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	○	選択オブジェクト ID。
name	String	-	選択オブジェクト名。
enabled	Boolean	-	選択を有効にするか無効にするか。

PUT 要求の例

Secure Agent グループでデータ統合サービス、Amazon Redshift v2 コネクタ、および Git サービスを選択する場合、要求は次の例のようになります。

PUT <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/00000425000000000004/selections HTTP/<HTTP version>

Content-Type: application/json

Accept: application/json

icSessionId: <icSessionId>

```

{
  "services": {
    "selections": [
      {
        "id": "00000047000000000002",
        "name": "Data Integration",
        "enabled": true
      }
    ]
  }
}

```

```

    ]
  },
  "connectors": {
    "selections": [
      {
        "id": "010000000000005L",
        "name": "Amazon Redshift v2",
        "enabled": false
      },
      {
        "id": "010000000000005M",
        "name": "Amazon S3 v2",
        "enabled": false
      }
    ]
  },
  "additionalServices": {
    "selections": [
      {
        "id": "00000047000000000013",
        "name": "Self-hosted Git Repo",
        "enabled": true
      }
    ]
  }
}

```

注: ここで示されている ID は一例です。GET 要求を使用して、Secure Agent グループで使用できる選択 ID と名前を見つけてみます。

Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティの設定

runtimeEnvironment リソースを使用して、Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティを設定できます。Secure Agent グループに Secure Agent を追加すると、エージェントはデフォルトで、Secure Agent サービスのデフォルト設定ではなく、グループレベルのプロパティ設定を使用します。

Secure Agent グループに対して設定できる Secure Agent サービスプロパティは、グループに割り当てられているサービスとコネクタによって異なります。特定の Secure Agent グループの編集可能なプロパティを表示するには、設定の詳細に対する GET 要求を送信します。

Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティを設定する場合は、次のようなルールが適用されます。

- グループレベルのプロパティ設定を使用するように設定された Secure Agent グループに Secure Agent を追加すると、エージェントのプロパティ設定がグループレベルのプロパティ設定に置き換えられます。エージェントにカスタムプロパティがある場合、カスタムプロパティは削除されます。
- グループレベルのプロパティ設定を使用するように設定された Secure Agent グループからグループレベルのプロパティ設定を使用しないグループに Secure Agent を移動すると、エージェントではグループレベルで設定されたプロパティ設定が保持されます。

警告: グループレベルのプロパティ設定を使用する Secure Agent グループ内のエージェントに対して、エージェントレベルの Secure Agent サービスプロパティを設定しないでください。エージェントレベルのプロパティを設定する場合は、エージェントプロパティを設定する前に、グループレベルのプロパティ設定を削除します。

GET 要求

Secure Agent グループで設定できる編集可能な Secure Agent サービスプロパティのリストを取得するには、GET 要求を使用します。

また、Secure Agent サービスのデフォルトのプロパティ設定を上書きしたグループレベルのプロパティのリストを取得することもできます。

URI に Secure Agent グループの ID を含めます。必要に応じて、URI にプラットフォームを含めます。linux64 または win64 を使用できます。デフォルトのプラットフォームは linux64 です。

次のいずれかの URI を使用します。

- 編集可能なプロパティのリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/details/<platform>`
- Secure Agent サービスのデフォルトのプロパティ設定を上書きするグループレベルのプロパティのリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/<platform>`

GET 応答

成功時の応答は、Secure Agent サービス、プロパティタイプ、およびプロパティタイプのオブジェクトの次のフィールドを返します。

フィールド	タイプ	説明
name	String	プロパティ名。
value	String	Secure Agent グループに追加されたすべてのエージェントに使用される値。
isCustom	Boolean	プロパティがカスタムプロパティかどうかを示します。
isSensitive	Boolean	プロパティ値で機密データがマスクされているかどうかを示します。

GET 応答の例

次の例は、Secure Agent サービスのデフォルトのプロパティ設定をオーバーライドしたプロパティに関する情報を取得する要求を示しています。

```
GET <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/<platform>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>
```

Secure Agent サービスのデフォルトのプロパティ設定を上書きしたプロパティを要求すると、次の例のような応答を受け取る場合があります。

```
{
  "Data_Integration_Server": [
    {
      "TOMCAT_CFG": [
        {
          "name": "MySQL_JDBC_DRIVER_JARNAME",
          "value": "mysql-connector-java-8.0.13.jar"
        },
        {
          "name": "NetworkTimeoutPeriod",
          "value": "335"
        }
      ]
    },
    {
      "PMRDTM_CFG": [
        {
          "name": "SalesforceConnectionTimeout",
          "value": "311"
        },
        {
          "name": "customConfig-DTM-DIX-linux",
          "value": "custom-new",
          "isCustom": "true"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```
    }
  ]
}
```

PUT 要求

Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティを設定するために使用します。設定したプロパティによって、指定された Secure Agent サービスのデフォルトのプロパティ設定が上書きされます。URI に Secure Agent グループの ID を含めます。

必要に応じて、URI にプラットフォームを含めます。linux64 または win64 を使用できます。デフォルトのプラットフォームは linux64 です。

次の URI を使用します。

```
/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/<platform>
```

要求の本文には、次の例のように、Secure Agent サービス名、プロパティタイプ、およびプロパティの名前と値のペアを含めます。

```
{
  "<Secure Agent service name>": [
    {
      "<Property type 1>": [
        {
          "name": "<property name>",
          "value": "<property value>"
        },
        {
          "name": "<property name>",
          "value": "<property value>"
        }
      ]
    },
    {
      "<Property type 2>": [
        {
          "name": "<property name>",
          "value": "<property value>"
        },
        {
          "name": "<property name>",
          "value": "<property value>"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

GET 応答に示されているサービス名とプロパティ名を使用します。例えば、データ統合サーバーサービスの場合は、Data_Integration_Server を使用します。

要求に含めないプロパティでは、既存の設定が保持されます。

プロパティタイプのオブジェクトに次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	プロパティ名。
value	String	○	Secure Agent グループに追加されたすべてのエージェントに使用する値。システムのデフォルト値を使用するには、APP_DEFAULT を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
isCustom	Boolean	-	プロパティがカスタムプロパティかどうかを示します。 デフォルトは False です。
isSensitive	Boolean	-	プロパティ値で機密データがマスクするかどうかを示します。 デフォルトは False です。

成功した場合は成功コードを返し、失敗した場合はエラーを返します。

PUT 要求の例

データ統合サーバーサービスの TOMCAT_CFG プロパティタイプを設定する場合、要求は次の例のようになります。

```
PUT <serverUrl>/api/v2/runtimeEnvironment/00000425000000000004/configs
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
{
  "Data_Integration_Server": [
    {
      "TOMCAT_CFG": [
        {
          "name": "MySQL_JDBC_DRIVER_JARNAME",
          "value": "mysql-connector-java-8.0.14.jar"
        },
        {
          "name": "customConfig-Tomcat-DIS-linux",
          "value": "custom-new",
          "isCustom": "true"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

DELETE 要求

Secure Agent グループに設定された Secure Agent サービスのプロパティ設定を削除できます。グループレベルのプロパティを削除すると、グループ内のすべての Secure Agent の設定が Secure Agent サービスのデフォルト設定に変更されます。Secure Agent グループ用に作成されたカスタムプロパティは削除されます。

Secure Agent グループのプロパティ設定を削除するには、次の URI に Secure Agent グループの ID を含めます。

```
/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs
```

成功した場合は成功コードを返し、失敗した場合はエラーを返します。

スケジュール

このリソースを使用して、スケジュールの詳細、または組織の全スケジュールの詳細を要求します。スケジュールは作成または更新することができます。また、スケジュールを削除することもできます。

注: 完全なスケジュール機能を活用するには、バージョン 2 の schedule リソースではなく、バージョン 3 の schedule リソースを使用します。

GET 要求

組織の全スケジュールの詳細を表示するには、次の URI を使用します。

`/api/v2/schedule`

特定のスケジュールの詳細を要求する場合、URI にスケジュール ID またはスケジュール名を含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

`/api/v2/schedule/<id>`

`/api/v2/schedule/name/<name>`

URI にスケジュール名を使用し、スケジュール名にスペースが含まれる場合、スペースは%20 に置き換えます。以下に例を示します。

`/api/v2/schedule/name/my%20schedule`

GET 応答

成功した場合、要求されたスケジュールのスケジュールオブジェクトを返します。または、全スケジュールの詳細を要求した場合、組織の各スケジュールのスケジュールオブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

スケジュールオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	スケジュール ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	スケジュール名。
description	String	スケジュールの説明。
createTime	Date/Time	スケジュールが作成された日時。
updateTime	Date/Time	スケジュールの最終更新時刻。
createdBy	String	スケジュールを作成したユーザー。
updatedBy	String	スケジュールを最後に更新したユーザー。
startTime	Date/Time	スケジュールの実行を開始する日付と時刻。
startTimeUTC	Date/Time	スケジュールのタスクの実行を開始する日付と時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
endTime	Date/Time	スケジュールの実行を停止する日付と時刻。

フィールド	タイプ	説明
interval	String	<p>スケジュールを実行する間隔または繰り返し頻度。次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。スケジュールを繰り返しません。 - Minutely。指定した分数、日数、および時間範囲に基づく間隔でタスクを実行します。 - Hourly。スケジュールの開始時刻に基づき、タスクを 1 時間間隔で実行します。 - Daily。スケジュールの開始時刻に基づき、日次の間隔でタスクを実行します。 - Weekly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 週間間隔でタスクを実行します。 - 隔週。スケジュールの開始時刻に基づき、2 週間ごとにタスクを実行します。 - Monthly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 カ月間隔でタスクを実行します。
frequency	Int	<p>指定した間隔でスケジュールを実行する頻度。例えば、間隔が毎時の場合、頻度 2 は、2 時間ごとにタスクを実行することを意味します。</p> <p>分間隔、時間隔、日次の間隔でのみ返されます。</p>
rangeStartTime	Date/Time	<p>タスクを実行する日の時間範囲の開始時刻。</p> <p>分間隔と時間隔でのみ返されます。</p>
rangeEndTime	Date/Time	<p>タスクを実行する日の時間範囲の終了時刻。</p> <p>分間隔と時間隔でのみ返されます。</p>
sun	Boolean	<p>タスクを日曜日に実行します。</p> <p>次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true - false <p>分間隔、時間隔、週次の間隔、隔週の間隔でのみ返されます。</p>
mon	Boolean	<p>タスクを月曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
tue	Boolean	<p>タスクを火曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
wed	Boolean	<p>タスクを水曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
thu	Boolean	<p>タスクを木曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
fri	Boolean	<p>タスクを金曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
sat	Boolean	<p>タスクを土曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>

フィールド	タイプ	説明
weekDay	Boolean	タスクを平日にのみ実行します。次のいずれかのコードを返します。 - true - false 日次の間隔でのみ返されます。
dayOfMonth	Int	タスクを実行する日付。1-28 の日付を返します。 月次の間隔でのみ返されます。
weekOfMonth	String	タスクを実行する月の週数。次のいずれかのコードを返します。 - First。月の第 1 週にタスクを実行します。 - Second。月の第 2 週にタスクを実行します。 - Third。月の第 3 週にタスクを実行します。 - Fourth。月の第 4 週にタスクを実行します。 - Last。月の最後の週にタスクを実行します。 月次の間隔でのみ返されます。
dayOfWeek	String	タスクを実行する曜日。次のいずれかのコードを返します。 - Day。選択した weekOfMonth オプションに基づいて、月の最初または最後の日にタスクを実行します。 - 日曜日 - 月曜日 - 火曜日 - 水曜日 - 木曜日 - 金曜日 - 土曜日 月次の間隔でのみ返されます。
timeZone	String	スケジュールを最後に更新したユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。

POST 要求

スケジュールを更新するには、次の URI でスケジュール ID を使用します。スケジュールを作成するには、オプションのスケジュール ID を省略します。

/api/v2/schedule/<id>

部分モードを使用して部分的な更新を送信できます。部分モードを使用して要求を送信するには、JSON 要求を使用してヘッダーに次の行を含めます。

Update-Mode=PARTIAL

schedule オブジェクトでは次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	更新の場合のみ必須	スケジュール ID。
orgId	String	○	組織 ID。
name	String	○	スケジュール名。
description	String		スケジュールの説明。
startTime	Date/ Time	はい	スケジュールの実行を開始する日付と時刻。
startTimeUTC	Date/ Time	はい	スケジュールの実行を開始する日付と時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
endTime	Date/ Time		スケジュールの実行を停止する日付と時刻。このパラメータを使用しない場合、スケジュールは無制限に実行されます。

フィールド	タイプ	必須	説明
interval	String	○	<p>スケジュールを実行する間隔または繰り返し頻度。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。スケジュールの開始時間にタスクを実行します。スケジュールを繰り返しません。 - Minutely。指定した分数、日数、および時間範囲に基づく間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する分単位の頻度。 - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - startTimeRange および endTimeRange。タスクを実行する日のうちの時間範囲。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Hourly。スケジュールの開始時刻に基づき、タスクを 1 時間間隔で実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する時間単位の頻度。 - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - startTimeRange および endTimeRange。タスクを実行する日のうちの時間範囲。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Daily。スケジュールに設定された開始時刻に基づき、日次の間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する日単位の頻度。 - weekday。すべての平日にタスクを実行します。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Weekly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 週間間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - 隔週。スケジュールの開始時刻に基づき、2 週間ごとにタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Monthly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 カ月間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - dayOfMonth。タスクを実行する 1-28 の日付。 - dayOfWeek。タスクを実行する曜日。 - weekOfMonth。タスクを実行する月の週数。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 <p>タスクを実行する時を示すには、第 1 月曜日など、dayOfWeek とともに weekOfMonth を使用します。または、1 などの dayOfMonth を使用します。</p> <p>ヒント: 月の最終日にタスクを実行するには、weekOfMonth パラメータの「Last」とともに dayOfWeek パラメータの「Day」を使用します。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
frequency	Int	○	<p>タスクの繰り返し頻度。以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 分間隔の場合、次のいずれかのオプションを使用します: 5、10、15、20、30、45。 - 時間隔の場合、次のいずれかのオプションを使用します: 1、2、3、4、6、8、12。 - 日次の間隔の場合、1～30 の日数を使用します。 <p>デフォルトは 1 です。</p> <p>分間隔、時間隔、日次の間隔でのみ使用します。</p>
rangeStartTime	Date/ Time		<p>タスクを実行する日の時間範囲の開始時刻。標準の日付/時間の形式を使用して日時を入力します。時刻部分のみが使用されます。</p> <p>分間隔と時間隔でのみ使用します。</p>
rangeEndTime	Date/ Time		<p>タスクを実行する日の時間範囲の終了時刻。標準の日付/時間の形式を使用して日時を入力します。時刻部分のみが使用されます。</p> <p>分間隔と時間隔でのみ使用します。</p>
sun	Boolean		<p>日曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun - sat パラメータを使用して、週の複数の曜日でタスクを実行することができます。</p> <p>分間隔、時間隔、週次の間隔、隔週の間隔でのみ使用します。</p>
mon	Boolean		<p>月曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
tue	Boolean		<p>火曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
wed	Boolean		<p>水曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
thu	Boolean		<p>木曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
fri	Boolean		<p>金曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
sat	Boolean		<p>土曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
weekDay	Boolean		<p>平日にタスクを実行します。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - True。月曜日から金曜日にタスクを実行します。週末にはタスクを実行しません。 - False。毎日タスクを実行します。 <p>日次の間隔でのみ使用します。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
dayOfMonth	Int		<p>タスクを実行する日付。1-28 の日付を使用します。</p> <p>月次の間隔でのみ使用します。</p> <p>ヒント: 月の最終日にタスクを実行するには、weekOfMonth パラメータの「Last」とともに dayOfWeek パラメータの「Day」を使用します。</p>
weekOfMonth	String		<p>タスクを実行する月の週数。dayOfWeek とともに使用して、タスクを実行する曜日と月の週数を指定します。例えば、月の第 1 週の日または最後の水曜日です。</p> <p>次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第 1 - 第 2 - 第 3 - 第 4 - 最後 <p>月次の間隔でのみ使用します。</p>
dayOfWeek	String		<p>タスクを実行する曜日。weekOfMonth とともに使用して、タスクを実行する曜日と月の週数を指定します。例えば、月の第 1 週の日または最後の水曜日です。</p> <p>次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日 - 日曜日 - 月曜日 - 火曜日 - 水曜日 - 木曜日 - 金曜日 - 土曜日 <p>月次の間隔でのみ使用します。</p>
timeZone	String		<p>スケジュールに使用するタイムゾーン。有効なタイムゾーンが渡されない場合、Informatica Intelligent Cloud Services はユーザーのタイムゾーンを使用します。</p> <p>詳細については、付録 A、「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。</p>

POST 応答

作成または更新したスケジュールのスケジュール応答オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

スケジュールを削除するには、次の URI でスケジュール ID を使用します。

/api/v2/schedule/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

GET の例

組織の全スケジュールについての情報を要求するには、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/schedule
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

成功した要求は、組織の各オブジェクトのスケジュールオブジェクトを返します。

Secure Agent とサービス

このリソースを使用して、Secure Agent の登録、エージェントインストールプログラムのチェックサムのダウンロード、Informatica Cloud Secure Agent または Secure Agent サービスの詳細の要求、または Secure Agent の削除を行うためのインストールトークンを受け取ります。

Secure Agent インストールトークンの GET 要求およびチェックサム

Secure Agent 登録プロセスを完了できるようにインストールトークンを要求するか、エージェントインストールプログラムのチェックサムを取得するには、次のように URI にプラットフォームタイプを含めます。

```
/api/v2/agent/installerInfo/<platform>
```

プラットフォームには次のいずれかの値を使用します。

- win64
- linux64

Secure Agent インストールトークンの GET 応答およびチェックサム

要求が正常に実行されると、次の応答例に示すように、ダウンロード URL、インストールトークン、チェックサムのダウンロード URL が返されます。

```
{
  "@type": "agentInstallerInfo",
  "downloadUrl": "https://pdm.ics.dev/package-manager/files/binary/agent64_install_ng_ext/6403/win64/agent64_install_ng_ext.6403.exe",
  "installToken": "PJ7NVrQ0SGpnpbmJ8K5yte18HLDw305DwPgP_jxG1R4Ki0Y9BL6qxV7jWiv7wSEfg7mQHKRWX6kcEVph1xjswX",
  "checksumDownloadUrl": "https://pdm.ics.dev/package-manager/files/binary/agent64_install_ng_ext/6403/win64/agent64_install_ng_ext.6403_win64.sha256"
}
```

Windows でチェックサムを確認するには、HashMyFiles や 7-Zip などのサードパーティユーティリティを使用して、Secure Agent インストールプログラムのチェックサムを見つけ、checksum.txt ファイルのチェックサムと比較します。ハッシュアルゴリズムは CRC-32 です。

Linux でチェックサムを確認するには、cksum <Secure Agent installer filename> コマンドを実行し、checksum.txt ファイルのチェックサムと比較します。コマンド出力の最初の列はチェックサムです。

エージェント詳細の GET 要求

Secure Agent の詳細、または Secure Agent で実行するサービスの詳細を要求できます。

Secure Agent の詳細

組織内のすべての Secure Agent の詳細を要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/agent
```

現在どのグループにも割り当てられていないすべての Secure Agent のリストを要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/agent/?includeUnassignedOnly=true
```

特定の Secure Agent の詳細を要求するには、URI に Secure Agent ID または Secure Agent 名を含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/agent/<agent ID>
```

```
/api/v2/agent/name/<name>
```

要求に Secure Agent 名を使用し、Secure Agent 名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/agent/name/special%20agent
```

Secure Agent サービスのステータスと詳細

組織内のすべての Secure Agent で実行されているサービスのステータスを要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/agent/details
```

特定の Secure Agent で実行されているサービスのステータスを要求するには、URI にエージェント ID を次のように含めます。

```
/api/v2/agent/details/<agent ID>
```

応答にステータスに加えて Secure Agent の詳細を含める場合は、要求に次のパラメータを含めます: ?onlyStatus=false。例えば、次の要求は、指定された Secure Agent の agentEngineStatus オブジェクトと agentEngineConfigs オブジェクトを返します。

```
/api/v2/agent/details/<agent ID>?onlyStatus=false
```

エージェント詳細の GET 応答

要求された Secure Agent ID または Secure Agent 名のエージェントオブジェクトを返します。

組織内のすべての Secure Agent に関する情報を要求すると、組織内の各 Secure Agent のエージェントオブジェクトが返されます。

エージェントサービスの詳細を要求すると、エージェントオブジェクトとともに AgentEngine オブジェクトが返されます。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

エージェントオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	Secure Agent ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	Secure Agent の名前。
description	String	Secure Agent の説明。
createTime	Date/Time	Secure Agent が作成された時刻。
updateTime	Date/Time	Secure Agent が更新された最終時刻。
createdBy	String	Secure Agent を作成したユーザー。

フィールド	タイプ	説明
updatedBy	String	Secure Agent を更新したユーザー。
active	Boolean	Secure Agent がアクティブかどうかを示します。true または false を返します。
readyToRun	Boolean	Secure Agent でタスクの実行準備ができているかどうかを示します。true または false を返します。
platform	String	Secure Agent マシンのプラットフォーム。次のいずれかの値を返します。 - win64 - linux64
agentHost	String	Secure Agent マシンのホスト名。
proxyHost	String	Secure Agent が使用する送信プロキシサーバーのホスト名。
proxyPort	Int	送信プロキシサーバーのポート番号。
proxyUser	String	送信プロキシサーバーに接続するユーザー名。
agentVersion	String	Secure Agent のバージョン。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
upgradeStatus	String	アップグレードステータス。
lastUpgraded	Date/Time	Secure Agent がアップグレードされた最終時刻。
lastUpgradeCheck	Date/Time	Secure Agent のアップグレードが確認された最終時刻。
lastStatusChange	Date/Time	Secure Agent ステータスが更新された最終時刻。
packages	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
configUpdateTime	Date/Time	ユーザーが Secure Agent プロパティを更新した最終時刻。
agentGroupId	String	Secure Agent グループの ID。
agentConfigs		このオブジェクトは適用されません。これは廃止されました。
name	String	agentConfig オブジェクトに含まれています。 廃止されました。
type	String	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。
subtype	String	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。
value	String	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。

フィールド	タイプ	説明
customized	Boolean	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。
overridden	Boolean	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。
defaultValue	String	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。
platform	String	agentConfig オブジェクトに含まれています。 推奨されていません。

Secure Agent で実行するサービスの詳細を要求する場合、エージェントオブジェクトには AgentEngine オブジェクトも含まれます。AgentEngine オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
agentEngineStatus		AgentEngineStatus オブジェクトに関する情報を含むエージェントサービスのステータス。
appname	String	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 内部で使用されるサービス名。
appDisplayName	String	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 ユーザーインターフェースに表示されるサービス名。
appversion	String	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 サービスのバージョン。サービスを変更するたびにバージョン番号が変更されます。
replacePolicy	-	内部目的でのみ使用されます。
status	String	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 サービスのステータス。可能な値は次のとおりです。 - RUNNING。サービスは実行中で、ジョブを受け入れる準備が整っています。 - DEPLOYING: サービスはプロビジョニング中です。 - STOPPED。サービスは停止されています。 - ERROR。サービスはエラー状態です。 - NEED_RUNNING。開始プロセスが開始するように設定されているか、すでに開始されています。 - NEED_STOP。停止プロセスが開始するように設定されているか、すでに開始されています。
desiredStatus	-	内部目的でのみ使用されます。
subState	String	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 値 0 は、サービスが実行されていることを示します。その他のすべての値は、サービスが実行されていないことを示します。

フィールド	タイプ	説明
createTime	Date/Time	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 サービスが作成された時刻。
updateTime	Date/Time	AgentEngineStatus オブジェクトに含まれています。 サービスの最終更新時刻。
agentEngineConfigs		エーエージェントサービスのプロパティを定義します。各エーエージェントサービスプロパティでは engineConfig オブジェクトに関する情報を含みます。 要求にパラメータ statusOnly=false が含まれている場合に含まれます。
type	String	engineConfig オブジェクトに含まれています。 設定タイプ。
name	String	engineConfig オブジェクトに含まれています。 設定プロパティの名前。
value	String	engineConfig オブジェクトに含まれています。 プロパティの値。
platform	String	engineConfig オブジェクトに含まれています。 非推奨。代わりに、エーエージェントオブジェクトの [プラットフォーム] フィールドを使用してください。
customized	Boolean	engineConfig オブジェクトに含まれています。 プロパティがカスタム構成の詳細に含まれているかどうかを示します。 true または false を返します。

GET の例

10044030000000000GC という ID を持つ、JSON 形式で返される Secure Agent に関する詳細を要求するには、次の要求を使用します。

```
GET <serverUrl>/api/v2/agent/10044030000000000GC
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "@type": "agent",
  "id": "10044030000000000GC",
  "orgId": "010025",
  "name": "MyAgent",
  "createTime": "2021-02-25T00:42:39:000Z",
  "updateTime": "2021-02-25T00:42:39:000Z",
  "createdBy": "larry104",
  "updatedBy": "larry104",
  "active": "false",
  "readyToRun": "false",
  "platform": "linux64",
  "agentHost": "agentHost5",
  "serverUrl": "https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas",
  "proxyPort": "0",
  "upgradeStatus": "NotUpgrading",
  "federatedId": "6iPQu0sh1YafnJvhZWPZjI",
  "createTimeUTC": "2021-02-25T00:42:39:000Z",
}
```

```
"updateTimeUTC": "2021-02-25T00:42:39:000Z",  
"agentGroupId": "01000125000000000002"  
}
```

DELETE 要求

Secure Agent がどの接続にも関連付けられていない場合、Secure Agent を削除できます。Secure Agent を削除する前に、関連付けられている接続を更新して別の Secure Agent を使用します。

Secure Agent を削除するには、次の URI で Secure Agent ID を使用します。

```
/api/v2/agent/<id>
```

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

サーバー時間

このリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services サーバーのローカルタイムを返します。

GET 要求

Informatica Intelligent Cloud Services サーバーのローカルタイムを要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/server/serverTime
```

GET 応答

要求が成功した場合、serverTime オブジェクトを返します。エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

serverTime オブジェクトには次の属性が含まれます。

time

Informatica Intelligent Cloud Services サーバーのローカルタイム。

GET の例

Informatica Intelligent Cloud Services サーバーのローカルタイムを確認するには、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/server/serverTime  
Content-Type: application/xml  
Accept: application/xml  
icSessionId: <icSessionId>
```

タスク

このリソースを使用して、指定したタイプのタスクのリストを要求します。このリソースを使用すると、タスクの名前と ID を取得できます。

ジョブを実行するためのタスク ID を取得するのにこのリソースを使用しないでください。代わりに lookup リソースを使用します。lookup リソースは、Default フォルダにないタスクを実行するために必要なフェデレーションタスク ID を返します。

ファイル取り込みとレプリケーションタスクでは、このリソースを使用しないようにしてください。代わりに、ファイル取り込みとレプリケーションジョブリソースを使用してください。詳細については、「[「タスク」 \(ページ 517\)](#)」を参照してください。

GET 要求

指定したタイプのタスクのリストを要求するには、次の URI のタスクタイプコードを使用します。

/api/v2/task?type=<type>

URI で次の属性を使用します。

フィールド	必須	説明
タイプ	はい	データ統合では、次のいずれかのコードを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- DMASK。マスキングタスク。- DRS。レプリケーションタスク。- DSS。同期タスク。- MTT。マッピングタスク。- PCS。PowerCenter タスク。

GET 応答

要求が成功した場合、要求したタイプのタスクすべてのタスクオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

タスクオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	タスク ID。
orgId	String	組織 ID
name	String	タスク名。
description	String	説明。
createTime	String	タスクが作成された日時。
updateTime	String	タスクの最終更新時刻。
createdBy	String	タスクを作成したユーザー。
updatedBy	String	タスクを最後に更新したユーザー。

GET の例

すべての同期タスクのリストを表示するには、次の要求を使用します。

```
GET <ServerUrl>/api/v2/task?type=DSS
Content-Type: applicaion/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>
```

ユーザー

このリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントの詳細、または組織の全ユーザーアカウントの詳細を要求します。管理者特権を持っている場合にこのリソースを使用すると、ユーザーアカウントの作成または更新、ユーザーアカウントの削除を行うこともできます。組織のセキュリティを確保するため、このリソースはユーザーアカウントのパスワードを表示せず、更新しません。

注: 完全なユーザー管理機能を活用するには、バージョン 2 の user リソースではなく、バージョン 3 の users リソースを使用します。バージョン 3 の users リソースは、ユーザー、ユーザーグループ、およびロールをサポートします。バージョン 2 の user リソースは、ユーザーグループおよびロールをサポートせず、GET 要求は組織内のすべてのユーザーを返さない場合があります。

GET 要求

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/user

特定の Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントの詳細を要求する場合、URI にユーザーアカウント ID またはユーザー名を含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

/api/v2/user/<id>

/api/v2/user/name/<name>

URI にユーザー名を使用し、ユーザー名にスペースが含まれる場合、スペースは%20 に置き換えます。以下に例を示します。

/api/v2/user/name/Fred%20Smith

GET 応答

ユーザーアカウントの詳細を要求すると、Informatica Intelligent Cloud Services は要求されたユーザーアカウントのユーザーオブジェクトを返します。すべてのユーザーアカウントの詳細を要求すると、Informatica Intelligent Cloud Services は組織の各ユーザーアカウントのユーザーオブジェクトを返します。

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。 注: 従来の Informatica Cloud で作成された組織では、6 文字の組織 ID である可能性があります。
orgUuid	String	組織の一意の ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
description	String	ユーザーの説明。
createTime	String	ユーザーアカウントの作成日時。
updateTime	String	ユーザーアカウントの最終作成日時。
createdBy	String	ユーザーアカウントを作成した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。

フィールド	タイプ	説明
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
sfUsername	String	Salesforce のユーザー名。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
password	String	Salesforce のユーザーパスワード。ユーザーが Salesforce によって認証されるように設定されている場合に含まれます。
firstName	String	ユーザーアカウントの名。
lastName	String	ユーザーアカウントの姓。
title	String	ユーザーの役職。
phone	String	ユーザーの電話番号。
securityQuestion	String	セキュリティの質問。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - SPOUSE_MEETING_CITY - FIRST_JOB_CITY - CHILDHOOD_FRIEND - MOTHER_MAIDEN_NAME - PET_NAME - CHILDHOOD_NICKNAME - CUSTOM_QUESTION:"<question>"
securityAnswer	String	セキュリティの質問に対する答え。
roles		ユーザーに割り当てられた各ロールのロールオブジェクトを含むオブジェクト。
name	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロール名。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - サービスコンシューマ - Designer - Admin
description	String	ロールオブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
emails	String	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。
timezone	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。 詳細については、 「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。
serverUrl	String	ユーザーが属する組織の Informatica Intelligent Cloud Services の URL。最も正確なバージョン 2 REST API のリソース URI のベースとして serverUrl を使用します。
spiUrl	String	このフィールドは適用されなくなり、非推奨になりました。
uuld	String	ユーザーの一意の ID。

フィールド	タイプ	説明
icSessionId	String	バージョン 2 REST API セッションの Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。最も正確なバージョン 2 REST API 要求ヘッダーで使用します。
forceChangePassword	Boolean	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。 - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。

POST 要求

ユーザーを作成したり、ユーザーの詳細を更新したりするには、管理者としてログインする必要があります。既存のユーザーアカウントの詳細を更新するには、次の URI でユーザーアカウント ID を使用します。

/api/v2/user/<id>

新しい Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントを作成するには、URI でオプションのユーザーアカウント ID を省略します。

SAML シングルサインオンユーザーアカウントを作成するには、パスワードを含めません。

ユーザーオブジェクトでは次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
orgId	String	○	ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。 注: 従来の Informatica Cloud で作成された組織では、6 文字の組織 ID である可能性があります。login リソースを使用して組織の ID を検索できます。
name	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。このリソースを使用してユーザーアカウントを作成する場合、有効な電子メールアドレスである必要があります。 最大長は 255 文字です。
sfUsername	String	-	Salesforce のユーザー名。
password	String	○ (ユーザーが SAML シングルサインオンユーザーの場合を除く)	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。 ユーザーが SAML シングルサインオンユーザーであり、組織で SAML が有効な場合は含めません。 最大長は 255 文字です。
firstName	String	○	ユーザーアカウントの名。
lastName	String	○	ユーザーアカウントの姓。
title	String	○	ユーザーの役職。

フィールド	タイプ	必須	説明
phone	String	○	ユーザーの電話番号。
emails	String	-	ユーザーがアカウントパスワードを変更する際に通知される電子メールアドレス。
description	String	-	ユーザーの説明。
timezone	String	-	<p>ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。該当するタイムゾーンコードを使用します。</p> <p>有効なタイムゾーンが渡されない場合、Informatica Intelligent Cloud Services はデフォルトで America/Los_Angeles を使用します。</p> <p>詳細については、「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。</p>
securityQuestion	String	-	<p>セキュリティの質問。次のいずれかのコードを使用してセキュリティの質問を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - SPOUSE_MEETING_CITY - FIRST_JOB_CITY - CHILDHOOD_FRIEND - MOTHER_MAIDEN_NAME - PET_NAME - CHILDHOOD_NICKNAME - CUSTOM_QUESTION: "<question>"
securityAnswer	String	-	セキュリティの質問に対する答え。
roles		はい	ユーザーに割り当てられた各ロールのロールオブジェクトを含むオブジェクト。
name	String	○	<p>ロールオブジェクトに含めます。</p> <p>ユーザーに割り当てるロール。次のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - サービスコンシューマ - デザイナ - 管理者
description	String	-	<p>ロールオブジェクトに含めます。</p> <p>ロールの説明。</p>
forceChangePassword	String	-	<p>初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。次の値が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - True。ユーザーはパスワードをリセットする必要があります。 - False。ユーザーはパスワードをリセットする必要がありません。

POST 応答

要求されたユーザーアカウントのユーザー応答オブジェクトを返します。または、すべてのユーザーアカウントの情報を要求した場合は、組織の各ユーザーアカウントのユーザー応答オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

ユーザーを削除するには、次の URI でユーザーアカウント ID を使用します。

/api/v2/user/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

POST の例

新規ユーザーを作成するには、次の要求を使用できます。

POST <serverUrl>/api/v2/user/<id>

Content-Type: application/xml

Accept: application/xml

icSessionId: <icSessionId>

```
<user>
  <orgId>00342000</orgId>
  <name>username@company.com</name>
  <firstName>User</firstName>
  <lastName>Name</lastName>
  <title>developer</title>
  <password>UserPassword</password>
  <phone>5555555555</phone>
  <email>larry@company.com</email>
  <roles>
    <role>
      <name>Designer</name>
    </role>
  </roles>
  <timezone>America/Chicago</timezone>
</user>
```


第 3 章

プラットフォーム REST API バージョン 3 リソース

このセクションの REST API バージョン 3 リソースは、Informatica Intelligent Cloud Services の複数のサービスに適用されます。

バージョン 3 リソースを使用するときに、次のルールに注意してください。

- JSON 形式を使用します。
- ログイン応答の `baseApiUrl` 値をベース URL として使用します。以下に例を示します。

`https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas`

- 次の URI を使用します。

`/public/core/v3/<API name>`

- 次の要求ヘッダー形式を使用します。

```
<METHOD> <baseApiUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

次の例では、`baseApiUrl` は `https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas` で、URI は `/public/core/v3/schedule` です。

```
<METHOD> https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/schedule HTTP/1.1
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
```

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

エラスティックランタイム環境

エラスティックランタイム環境の環境設定、画像、関連付け、補足ファイル仕様、トークンなど、エラスティックランタイム環境を管理できます。

環境設定

エラスティックランタイム環境の環境設定を取得、作成、および更新するには、`ClusterConfig` リソースを使用します。

設定の詳細の取得

特定の設定の詳細を要求できます。

GET 要求

設定の詳細を取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/ClusterConfig/<config_id>

GET 応答

成功した場合、設定に関する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	設定 ID。
orgId	String	設定が属する組織の ID。
infaManaged	Boolean	設定が Informatica によって管理されているかどうか。
clusterName	String	設定の名前。
description	文字列	設定の説明。
cloudPlatform	文字列	設定をホストするクラウドプラットフォーム。
haEnabled	ブール	高可用性が有効になっているかどうか。
region	文字列	設定が配置されているリージョン。
subnets	配列	ネットワーク内で使用されるサブネット。
masterNodeInstanceType	文字列	マスタノードをホストするインスタンスのタイプ。
maxWorkerNodes	整数	使用するワーカーノードの最大数。
minWorkerNodes	整数	使用するワーカーノードの最小数。
workerNodeIdleTimeout	整数	ワーカーノードがタイムアウトするまでの時間（分単位）。
workerNodeInstanceType	String	ワーカーノードをホストするインスタンスのタイプ。
workerNodeVolumeSize	整数	ワーカーノードのボリュームサイズ。
systemDiskConfig	JSON のエスケープされた文字列表現	システムストレージのプロパティ（設定されている場合）。ファイルシステム、ソースマウント、およびアクセスポイントが含まれます。
dataDisksConfig	JSON のエスケープされた文字列表現	データストレージのプロパティ（設定されている場合）。ファイルシステム、ソースマウント、およびアクセスポイントが含まれます。
initScriptPath	文字列	使用しない。エラスティックランタイム環境では、初期化スクリプトは使用されません。

フィールド	タイプ	説明
masterNodeIAMRole	文字列	マスターノードの IAM ロール。
workerNodeIAMRole	文字列	ワーカーノードの IAM ロール。
imageRegistryHost	文字列	コンテナイメージをホストするレジストリのドメイン名または IP アドレス。
imageRegistryUser	文字列	イメージレジストリホストにログインするためのユーザー名。
imageRegistryPassword	文字列	イメージレジストリホストにログインするためのパスワード。
dateDeployed	日付	イメージがデプロイされた日付。
miscTags	JSON のエスケープされた文字列表現	クラウドエコシステムに関連付けられたタグ。

GET 応答の例

設定の詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/ClusterConfig/<config_id>
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
[
  {
    "id": "5MdLmj0YXoce2osMD2mT0r",
    "orgId": "dx7DS0IGiiPh6XQoZKpAmC",
    "infaManaged": false,
    "clusterName": "test-cluster",
    "description": "Description of the cluster",
    "cloudPlatform": "AWS",
    "haEnabled": false,
    "region": "us-west-1",
    "subnets": [
      "subnet-1",
      "subnet-2"
    ],
    "masterNodeInstanceType": "m5.large",
    "maxWorkerNodes": 10,
    "minWorkerNodes": 1,
    "workerNodeIdleTimeout": 5,
    "workerNodeInstanceType": "m5.xlarge",
    "workerNodeVolumeSize": 100,
    "systemDiskConfig": "{ \"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\" }",
    "dataDisksConfig": "[ { \"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"targetMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\" } ]",
    "initScriptPath": "/path/to/script",
    "masterNodeIAMRole": "masterRole",
    "workerNodeIAMRole": "workerRole",
    "imageRegistryHost": "registry.example.com",
    "imageRegistryUser": null,
    "imageRegistryPassword": null,
    "dateDeployed": null,
    "miscTags": "{ \"cloudEcosystemTags\": [ { \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ], \"runtimeProperties\": [ { \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ] }"
  }
]
```

設定の作成

管理者特権が付与されている場合は、ClusterConfig リソースを使用して設定を作成できます。

POST 要求

設定を作成するには、次の URI を使用して POST 要求を送信します。

/public/core/v3/ClusterConfig

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
orgId	String	○	設定が属する組織の ID。
infraManaged	Boolean	はい	設定が Informatica によって管理されているかどうか。false に設定します。
clusterName	String	○	設定の名前。
description	文字列	-	設定の説明。
cloudPlatform	文字列	○	設定をホストするクラウドプラットフォーム。AWS に設定します。
haEnabled	ブール	はい	高可用性が有効になっているかどうか。
region	文字列	○	設定が配置されているリージョン。
subnets	配列	はい	ネットワーク内で使用されるサブネット。サブネット ID ではなく、サブネット名を入力します。 注: サブネットフィールドは、haEnabled フィールドに依存しています。 - haEnabled = true の場合、サブネットには 2 つの値が必要です。 - haEnabled = false の場合、サブネットは空または NULL にする必要があります。
masterNodeInstanceType	文字列	○	このフィールドは空のままにします。
maxWorkerNodes	整数	○	使用するワーカーノードの最大数。
minWorkerNodes	整数	○	使用するワーカーノードの最小数。
workerNodeIdleTimeout	整数	○	ワーカーノードがタイムアウトするまでの時間（分単位）。
workerNodeInstanceType	String	○	ワーカーノードをホストするインスタンスのタイプ。
workerNodeVolumeSize	整数	○	ワーカーノードのボリュームサイズ。
systemDiskConfig	JSON のエスケープされた文字列表現	はい	システムストレージのプロパティ（設定されている場合）。ファイルシステム、ソースマウント、およびアクセスポイントが含まれます。
dataDisksConfig	JSON のエスケープされた文字列表現	はい	データストレージのプロパティ（設定されている場合）。ファイルシステム、ソースマウント、およびアクセスポイントが含まれます。

フィールド	タイプ	必須	説明
initScriptPath	文字列	○	使用しない。エラスティックランタイム環境では、初期化スクリプトは使用されません。
masterNodeIAMRole	String	○	マスターノードの IAM ロール。
workerNodeIAMRole	文字列	-	使用しません。
imageRegistryHost	文字列	-	使用しません。
imageRegistryUser	文字列	-	使用しません。
imageRegistryPassword	文字列	-	使用しません。
dateDeployed	日付	-	このフィールドは空のままにします。
miscTags	JSON のエスケープされた文字列表現	はい	クラウドエコシステムのタグとランタイムプロパティ。 それぞれのタグカテゴリは必須ですが、その値は空にすることができます。例: "miscTags": "{\"cloudEcosystemTags\": [],\"runtimeProperties\":[]}"

POST 応答

成功した場合、POST 要求で ClusterConfig オブジェクトを返します。

POST の例

設定を作成するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/ClusterConfig
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "orgId": "dx7DSOIGiiPh6XQoZKpAmC",
  "infraManaged": false,
  "clusterName": "test-cluster-102",
  "description": "Description of the cluster",
  "cloudPlatform": "AWS",
  "haEnabled": false,
  "region": "ap-south-1",
  "subnets": [
    "subnet-name1",
    "subnet-name2"
  ],
  "masterNodeInstanceType": "",
  "maxWorkerNodes": 10,
  "minWorkerNodes": 1,
  "workerNodeIdleTimeout": 5,
  "workerNodeInstanceType": "c4.2xlarge",
  "workerNodeVolumeSize": 100,
  "systemDiskConfig": "{\"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\"}",
  "dataDisksConfig": "[{\"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"targetMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\"}]",
  "initScriptPath": "/path/to/script",
  "masterNodeIAMRole": "masterRole",
  "workerNodeIAMRole": "workerRole",
  "imageRegistryHost": "registry.example.com",
  "imageRegistryUser": "user",
  "imageRegistryPassword": "password",
```

```

    "dateDeployed": null,
    "miscTags": "{ \"cloudEcosystemTags\": [{ \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ], \"runtimeProperties\": [{ \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ] }"
  }

```

成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```

{
  "id": "89Dnw937Al30sN40ia90at",
  "orgId": "dx7DS0IGiiPh6XQoZKpAmC",
  "infaManaged": false,
  "clusterName": "test-cluster-102",
  "description": "Description of the cluster",
  "cloudPlatform": "AWS",
  "haEnabled": false,
  "region": "ap-south-1",
  "subnets": [
    "subnet-name1",
    "subnet-name2"
  ],
  "masterNodeInstanceType": "",
  "maxWorkerNodes": 10,
  "minWorkerNodes": 1,
  "workerNodeIdleTimeout": 5,
  "workerNodeInstanceType": "c4.2xlarge",
  "workerNodeVolumeSize": 100,
  "systemDiskConfig": "{ \"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\" }",
  "dataDisksConfig": "[ { \"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"targetMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\" } ]",
  "initScriptPath": "/path/to/script",
  "masterNodeIAMRole": "masterRole",
  "workerNodeIAMRole": "workerRole",
  "imageRegistryHost": "registry.example.com",
  "imageRegistryUser": "user",
  "imageRegistryPassword": "password",
  "dateDeployed": null,
  "miscTags": "{ \"cloudEcosystemTags\": [{ \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ], \"runtimeProperties\": [{ \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ] }"
}

```

設定の更新

管理者特権が付与されている場合は、ClusterConfig リソースを使用して設定を更新できます。

PUT 要求

設定を更新するには、次の URI を使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/ClusterConfig/<advanced_config_ID>

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
ID	String	○	設定 ID。
orgId	String	○	設定が属する組織の ID。
infaManaged	Boolean	はい	設定が Informatica によって管理されているかどうか。false に設定します。
clusterName	String	○	設定の名前。
description	文字列	-	設定の説明。

フィールド	タイプ	必須	説明
cloudPlatform	文字列	○	設定をホストするクラウドプラットフォーム。AWS に設定します。
haEnabled	ブール	はい	高可用性が有効になっているかどうか。
region	文字列	○	設定が配置されているリージョン。
subnets	配列	はい	ネットワーク内で使用されるサブネット。サブネット ID ではなく、サブネット名を入力します。 注: サブネットフィールドは、haEnabled フィールドに依存しています。 - haEnabled = true の場合、サブネットには 2 つの値が必要です。 - haEnabled = false の場合、サブネットは空または NULL にする必要があります。
masterNodeInstanceType	文字列	○	このフィールドは空のままにします。
maxWorkerNodes	整数	○	使用するワーカーノードの最大数。
minWorkerNodes	整数	○	使用するワーカーノードの最小数。
workerNodeIdleTimeout	整数	○	ワーカーノードがタイムアウトするまでの時間（分単位）。
workerNodeInstanceType	String	○	ワーカーノードをホストするインスタンスのタイプ。
workerNodeVolumeSize	整数	○	ワーカーノードのボリュームサイズ。
systemDiskConfig	JSON のエスケープされた文字列表現	はい	システムストレージのプロパティ。ファイルシステム、ソースマウント、およびアクセスポイントが含まれます。
dataDisksConfig	JSON のエスケープされた文字列表現	はい	データストレージのプロパティ。ファイルシステム、ソースマウント、およびアクセスポイントが含まれます。
initScriptPath	文字列	○	使用しない。エラスティックランタイム環境では、初期化スクリプトは使用されません。
masterNodeIAMRole	String	○	マスターノードの IAM ロール。
workerNodeIAMRole	文字列	-	使用しません。
imageRegistryHost	文字列	-	使用しません。
imageRegistryUser	文字列	-	使用しません。
imageRegistryPassword	文字列	-	使用しません。

フィールド	タイプ	必須	説明
dateDeployed	日付	-	このフィールドは空のままにします。
miscTags	JSON のエスケープされた文字列表現	はい	クラウドエコシステムのタグとランタイムプロパティ。 それぞれのタグカテゴリは必須ですが、その値は空にすることができます。例: "miscTags": "{ \"cloudEcosystemTags\": [], \"runtimeProperties\": [] }"

PUT 応答

成功した場合、PUT 要求で ClusterConfig オブジェクトを返します。

PUT の例

設定を更新するには、次の例のような要求を送信します。

POST <baseApiUrl>/public/core/v3/ClusterConfig/<config_ID>

Content-Type: application/json

Accept: application/json

INFA-SESSION-ID: <sessionId>

```
{
  "id": "89Dnw937Al30sN40ia90at",
  "orgId": "dx7DSOIGiiPh6XQoZKpAmC",
  "infaManaged": false,
  "clusterName": "test-cluster-102",
  "description": "Description of the cluster",
  "cloudPlatform": "AWS",
  "haEnabled": false,
  "region": "ap-south-1",
  "subnets": [
    "subnet-name1",
    "subnet-name2"
  ],
  "masterNodeInstanceType": "",
  "maxWorkerNodes": 10,
  "minWorkerNodes": 1,
  "workerNodeIdleTimeout": 5,
  "workerNodeInstanceType": "c4.2xlarge",
  "workerNodeVolumeSize": 100,
  "systemDiskConfig": "{ \"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\" }",
  "dataDisksConfig": "[ { \"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"targetMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\" } ]",
  "initScriptPath": "/path/to/script",
  "masterNodeIAMRole": "masterRole",
  "workerNodeIAMRole": "workerRole",
  "imageRegistryHost": "registry.example.com",
  "imageRegistryUser": null,
  "imageRegistryPassword": "null",
  "dateDeployed": null,
  "miscTags": "{ \"cloudEcosystemTags\": [ { \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ], \"runtimeProperties\": [ { \"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\" }, { \"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\" } ] }"
```

成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
{
  "id": "89Dnw937Al30sN40ia90at",
  "orgId": "dx7DSOIGiiPh6XQoZKpAmC",
  "infaManaged": false,
  "clusterName": "test-cluster-102",
  "description": "Description of the cluster",
  "cloudPlatform": "AWS",
  "haEnabled": false,
  "region": "ap-south-1",
```



```

"subnets": [
  "subnet-name1",
  "subnet-name2"
],
"masterNodeInstanceType": "",
"maxWorkerNodes": 10,
"minWorkerNodes": 1,
"workerNodeIdleTimeout": 5,
"workerNodeInstanceType": "c4.2xlarge",
"workerNodeVolumeSize": 100,
"systemDiskConfig": "{\"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\"}",
"dataDisksConfig": "[{\"id\": \"\", \"sourceMount\": \"\", \"targetMount\": \"\", \"accessPoint\": \"\"}]",
"initScriptPath": "/path/to/script",
"masterNodeIAMRole": "masterRole",
"workerNodeIAMRole": "workerRole",
"imageRegistryHost": "registry.example.com",
"imageRegistryUser": null,
"imageRegistryPassword": "null",
"dateDeployed": null,
"miscTags": "{\"cloudEcosystemTags\": [{\"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\"}, {\"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\"}], \"runtimeProperties\": [{\"key\": \"k1\", \"val\": \"v1\"}, {\"key\": \"k2\", \"val\": \"v2\"}]}"
}

```

画像

エラスティックランタイム環境の画像を一覧表示するには、RuntimeApplicationImage リソースを使用します。

GET 要求

使用可能なすべてのイメージを一覧表示するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/ais/RuntimeApplicationImage?runtimeEnvironmentId=<rteId>&includeAllImageStates=<true or false>

次のパラメータを含めます。

パラメータ	タイプ	説明
rteId	文字列	イメージをダウンロードするランタイム環境 ID。
includeAllImageStates	ブール	画像のダウンロードの現在のステージを、それが完了するまでの間、返します。

次の表に、要求の潜在的なエラーコードを示します。

HTTP ステータスコード	説明
401	未認証、または未承認。
403	この API にアクセスするには、特権 get.k8s.repository.token が必要です。

GET 応答

成功すると、使用可能なイメージのリストが返されます。

GET 応答の例

ダウンロード可能なイメージを一覧表示するには、次の要求を使用します。

GET <baseApiUrl>/public/core/v3/RuntimeApplicationImage?
runtimeEnvironmentId=<rteId>&includeAllImageStates=<true or false>

```
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような「200 OK」応答が返されます。

```
[
  {
    "appSpecName": "Data_Integration",
    "appSpecVersion": "64.0",
    "dependencies": "package-Administrator_R1.226",
    "imageName": "Data_Integration",
    "imageVersion": "64.0",
    "imageRepositoryPath": "infacloud-k8s-agent-docker-dev.jfrog.io/3SLs6FMA1J0LGgyI0pMK0g/rteId1/
DataIntegration:64.0",
    "rteGroupId": "rteId1",
    "orgId": "3SLs6FMA1J0LGgyI0pMK0g",
    "imageState": "IMAGE_BAKE_COMPLETE",
    "endTime": "2022-10-31T07:06:59.000Z",
    "helmChartPath": "helmChartPath"
  },
  {
    "appSpecName": "Data_Integration",
    "appSpecVersion": "64.1",
    "dependencies": "package-Administrator_R1.226",
    "imageName": "Data_Integration",
    "imageVersion": "64.1",
    "imageRepositoryPath": "infacloud-k8s-agent-docker-dev.jfrog.io/3SLs6FMA1J0LGgyI0pMK0g/rteId1/
DataIntegration:64.1",
    "rteGroupId": "rteId1",
    "orgId": "3SLs6FMA1J0LGgyI0pMK0g",
    "imageState": "IMAGE_BAKE_COMPLETE",
    "endTime": "2022-10-31T07:06:59.000Z",
    "helmChartPath": "helmChartPath"
  }
]
```

付与された特権が不十分である場合は、次の例のような「403 Forbidden」応答を受け取ることがあります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_007",
    "message": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "debugMessage": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "requestId": "l2EpwkFqkEjrEJURclPw2",
    "details": null
  }
}
```

ランタイム環境 associations

環境設定とエラスティックランタイム環境の間の関連付けを管理するには、RuntimeEnvironment リソースを使用します。

エラスティックランタイム環境 ID によるランタイム環境の関連付けの読み取り

ランタイム環境 ID を使用して、クラスタとエラスティックランタイム環境間の関連付けに関する詳細を要求できます。

GET 要求

設定とランタイム環境間の関連付けを取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/RuntimeEnvironment/<rte_id>/Cluster

ここで、<rte_id>はランタイム環境 ID です。

GET 応答

成功した場合、関連付けに関する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
rteld	文字列	ランタイム環境 ID。
clusterId	String	設定 ID。
名前空間	文字列	使用される名前空間。
createdBy	String	関連付けを作成したユーザーの名前。

GET 応答の例

設定とランタイム環境間の関連付けを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/RuntimeEnvironment/<rte_id>/Cluster
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
{
  "rteId": "01B0IV25000000000035Y",
  "clusterId": "5gic8zWc1G7fSDQVJRpuEh",
  "namespace": "test-namespace-1",
  "createdBy": "test-user-1"
}
```

クラスタ ID によるランタイム環境の関連付けの読み取り

設定 ID を使用して、クラスタとエラスティックランタイム環境間の関連付けに関する詳細を要求できます。

GET 要求

設定とランタイム環境間の関連付けを取得するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/RuntimeEnvironment/<cluster_id>/Cluster
```

ここで、<cluster_id>は設定 ID です。

GET 応答

成功した場合、関連付けに関する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
rteld	文字列	ランタイム環境 ID。
clusterId	String	設定 ID。
名前空間	文字列	使用される名前空間。
createdBy	String	関連付けを作成したユーザーの名前。

GET 応答の例

設定とランタイム環境間の関連付けを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/RuntimeEnvironment/<cluster_id>/Cluster
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
{
  "rteId": "01B0IV2500000000035Y",
  "clusterId": "5gic8zWc1G7fSDQVJRpuEh",
  "namespace": "test-namespace-1",
  "createdBy": "test-user-1"
}
```

設定とランタイム環境の関連付け

クラスタをランタイム環境に関連付けることができます。

POST 要求

設定をランタイム環境に関連付けるには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/RuntimeEnvironment/<rte_id>/Cluster/<cluster_id>
```

ここで、<rte_id>はランタイム環境 ID、<cluster_id>は設定 ID です。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
namespace	文字列	-	設定の名前空間。

POST 応答

成功した場合、次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
rteId	文字列	ランタイム環境 ID。
clusterId	String	設定 ID。
名前空間	文字列	使用される名前空間。
createdBy	String	関連付けを作成したユーザーの名前。

POST 応答の例

設定をランタイム環境と関連付けるには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/RuntimeEnvironment/<rte_id>/Cluster/<cluster_id>
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
{
  "rteId": "01B0IV2500000000035Y",
```

```
{
  "clusterId": "5gic8zWc1G7fSDQVJRpuEh",
  "namespace": "test-namespace-1",
  "createdBy": "test-user-1"
}
```

補足ファイル

エラスティックランタイム環境の補足ファイル仕様を取得、更新、および削除するには、RuntimeEnvironment リソースを使用します。

補足ファイル仕様の取得

補足ファイル仕様を取得することで、エラスティックランタイム環境で使用可能な補足ファイルを表示できます。

GET 要求

次の URI を使用します。

/api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig

GET 応答

成功した場合は、補足ファイル仕様を返します。応答には次のフィールドが含まれます。

フィールド	タイプ	説明
rteld	文字列	ランタイム環境 ID。
仕様	オブジェクト	補足ファイル仕様。

仕様のフィールドの詳細については、「[「補足ファイル仕様の更新」 \(ページ 125\)](#)」を参照してください。

エラスティックランタイム環境に補足ファイル仕様がいない場合は、空の仕様が返されます。

GET 要求の例

次の要求の例は、エラスティックランタイム環境の補足ファイル仕様を取得するものです。

```
GET <base URL>/api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

補足ファイル仕様の更新

仕様を更新することで、エラスティックランタイム環境で使用可能な補足ファイルを更新します。

補足ファイル仕様を更新すると、影響を受けるすべての Secure Agent サービスが自動的に再起動され、更新された仕様を使用するようになります。

POST 要求

次の URI を使用します。

/api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig

ファイルのソースパスを指定する場合は、ファイルシステムのマウントポイントの下にあるサブディレクトリを使用します。例えば、ファイルシステムのマウントポイントとして使用するディレクトリとして/mnt/efsを作成し、JDBC ドライバを保存するディレクトリとして/mnt/efs/jdbcを作成する場合は、ソースパスとして/jdbc/<file name>を使用します。

データストレージ用の EFS ファイルシステムの作成とマウントの詳細については、管理者ヘルプ内のランタイム環境を参照してください。

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	説明
rteld	文字列	ランタイム環境 ID。
仕様	オブジェクト	補足ファイル仕様。
エージェント	オブジェクト	Secure Agent の設定。
specification.agent.databaseIngestion	オブジェクト	データ取り込みおよびレプリケーションファイル。各 JAR ファイルを個別にリストします。次の情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none">- jdbcDrivers- oracle
specification.agent.databaseIngestion.jdbcDrivers	オブジェクトの配列	データ取り込みおよびレプリケーションのための JDBC ドライバ。
specification.agent.databaseIngestion.jdbcDrivers[].sourcePath	文字列	JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.databaseIngestion.oracle	オブジェクト	データ取り込みおよびレプリケーションのための、Oracle ドライバおよびそのバージョン情報。次の情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none">- jdbcDrivers- ociDrivers- バージョン

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.databaseIngestion.oracle.jdbcDrivers	オブジェクトの配列	Oracle JDBC ドライバ。
specification.agent.databaseIngestion.oracle.jdbcDrivers[].sourcePath	文字列	Oracle JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.databaseIngestion.oracle.ociDrivers	オブジェクトの配列	Oracle OCI ドライバ。
specification.agent.databaseIngestion.oracle.ociDrivers[].sourcePath	文字列	Oracle OCI ドライバファイルへのパス。
specification.agent.databaseIngestion.oracle.version	文字列	Oracle のバージョン。
specification.agent.dataIntegrationServer	オブジェクト	データ統合サーバーファイル。次の情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - jdbcv2 - jdbcDrivers - odbc - odbcInst - mysql - sap - ssIs
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcv2	オブジェクト	データ統合サーバー用の JDBC V2 ドライバ。各 JAR ファイルを個別にリストします。以下のドライバタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - common - spark

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcv2.common	オブジェクトの配列	一般的な JDBC ドライバ。
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcv2.common[].sourcePath	文字列	一般的な JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcv2.spark	オブジェクトの配列	Spark 固有の JDBC ドライバ。
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcv2.spark[].sourcePath	文字列	Spark 固有の JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcDrivers	オブジェクトの配列	データ統合サーバー用の追加 JDBC ドライバ。各 JAR ファイルを個別にリストします。
specification.agent.dataIntegrationServer.jdbcDrivers.sourcePath	文字列	追加の JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.mysql	オブジェクト	データ統合サーバー用の MySQL ドライバとそのバージョン情報。各 JAR ファイルを個別にリストします。次の情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - jdbcDrivers - odbcDrivers - バージョン

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.dataIntegrationServer.mysql.jdbcDrivers	オブジェクトの配列	MySQL JDBC ドライバ。
specification.agent.dataIntegrationServer.mysql.jdbcDrivers[].sourcePath	文字列	MySQL JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.mysql.odbcDrivers	オブジェクトの配列	MySQL ODBC ドライバ。
specification.agent.dataIntegrationServer.mysql.odbcDrivers[].sourcePath	文字列	MySQL ODBC ドライバファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.mysql.version	文字列	MySQL バージョン。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc	オブジェクト	データ統合サーバー用の ODBC ドライバとその DSN。次の情報を指定します。 - ドライバ - dsns
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.drivers	オブジェクトの配列	ODBC ドライバ。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.drivers[].sourcePath	文字列	ODBC ドライバファイルへのパス。

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.dsns	オブジェクトの配列	複数の ODBC DSN エントリ。各エントリは、odbc.ini ファイルに書き込まれるので、必要なすべてのコンポーネントを含めておく必要があります。次の情報を指定します。 - name - キーと値のペアとしてのエントリ
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.dsns[].name	文字列	odbc.ini ファイルにおける ODBC の DSN 名。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.dsns[].entries	オブジェクトの配列	odbc.ini ファイルにおける、キーと値のペアとしてのエントリ。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.dsns[].entries[].key	文字列	DSN エントリのキー。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbc.dsns[].entries[].value	文字列	DSN エントリの値。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst	オブジェクト	データ統合サーバー用の ODBCINST ドライバとその DSN。次の情報を指定します。 - ドライバ - dsns
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.drivers	オブジェクトの配列	ODBCINST ドライバ。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.drivers[].sourcePath	文字列	ODBCINST ドライバファイルへのパス。

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.dsns	オブジェクトの配列	ODBCINST の DSN エントリ。各エントリは、odbcinst.ini ファイルに書き込まれるので、必要なすべてのコンポーネントを含めておく必要があります。次の情報を指定します。 - name - キーと値のペアとしてのエントリ
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.dsns[].name	文字列	odbcinst.ini ファイルにおける ODBCINST の DSN 名。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.dsns[].entries	オブジェクトの配列	odbcinst.ini ファイルにおける、キーと値のペアとしてのエントリ。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.dsns[].entries[].key	文字列	DSN エントリのキー。
specification.agent.dataIntegrationServer.odbcInst.dsns[].entries[].value	文字列	DSN エントリの値。
specification.agent.dataIntegrationServer.sap	オブジェクト	データ統合サーバー用の SAP 詳細。次の情報を指定します。 - jcos - nwrfs - hanas
specification.agent.dataIntegrationServer.sap.jcos	オブジェクトの配列	SAP JCo ライブラリファイル。
specification.agent.dataIntegrationServer.sap.jcos[].sourcePath	文字列	SAP JCo ライブラリファイルへのパス。

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.dataIntegrationServer.sap.nwrfcs	オブジェクトの配列	SAP NetWeaver RFC ライブラリファイル。
specification.agent.dataIntegrationServer.sap.nwrfcs[].sourcePath	文字列	SAP NetWeaver RFC ライブラリファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.sap.hanas	オブジェクトの配列	SAP HANA ライブラリファイル。
specification.agent.dataIntegrationServer.sap.hanas[].sourcePath	文字列	SAP HANA ライブラリファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.ssls	オブジェクトの配列	データ統合サーバー用の SSL 詳細。次の情報を指定します。 - fileCopy - importCerts
specification.agent.dataIntegrationServer.ssls[].fileCopy	オブジェクト	SSL のキーストア/トラストストアファイル。
specification.agent.dataIntegrationServer.ssls[].fileCopy.sourcePath	文字列	SSL のキーストア/トラストストアファイルへのパス。
specification.agent.dataIntegrationServer.ssls[].importCerts	オブジェクト	証明書のインポートの詳細。次の情報を指定します。 - certName - エイリアス

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.dataIntegrationServer.ssls[].importCerts.certName	文字列	インポートする証明書の名前。
specification.agent.dataIntegrationServer.ssls[].importCerts.alias	文字列	キーストアにインポートする証明書のエイリアス。
specification.agent.elasticServer	オブジェクト	エラスティックサーバーファイル。次の情報を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - javaTxResources - jdbcv2 - nativeBinResources - nativeLibResources
specification.agent.elasticServer.javaTxResources	オブジェクトの配列	エラスティックサーバー用の Java トランスフォーマーメーションリソースファイル。
specification.agent.elasticServer.javaTxResources[].sourcePath	文字列	Java トランスフォーマーメーションリソースファイルへのパス。
specification.agent.elasticServer.jdbcv2	オブジェクト	エラスティックサーバー用の JDBC V2 ドライバ。各 JAR ファイルを個別にリストします。以下のドライバタイプを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - common - spark
specification.agent.elasticServer.jdbcv2.common	オブジェクトの配列	一般的な JDBC ドライバ。
specification.agent.elasticServer.jdbcv2.common[].sourcePath	文字列	エラスティックサーバー用の一般的な JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.elasticServer.jdbcv2.spark	オブジェクトの配列	Spark 固有の JDBC ドライバ。
specification.agent.elasticServer.jdbcv2.spark[].sourcePath	文字列	エラスティックサーバー用の Spark 固有の JDBC ドライバの JAR ファイルへのパス。
specification.agent.elasticServer.nativeBinResources	オブジェクトの配列	エラスティックサーバー用のネイティブバイナリリソースファイル。
specification.agent.elasticServer.nativeBinResources[].sourcePath	文字列	ネイティブバイナリリソースファイルへのパス。
specification.agent.elasticServer.nativeLibResources	オブジェクトの配列	エラスティックサーバー用のネイティブライブラリリソースファイル。
specification.agent.elasticServer.nativeLibResources[].sourcePath	文字列	ネイティブライブラリリソースファイルへのパス。
specification.agent.executableScript	オブジェクト	実行可能スクリプト。 次の情報を指定します。 - scriptPath - scriptArgs - currentDirectory
specification.agent.executableScript.scriptPath	文字列	当該スクリプトへのパス。このスクリプトはマスタノードで実行されます。

フィールド	タイプ	説明
specification.agent.executableScript.scriptArgs	文字列型配列	当該スクリプトの実行時にそのスクリプトに渡す引数。
specification.agent.executableScript.currentDirectory	文字列	当該スクリプトが実行される作業ディレクトリ。
specification.agent.jdk	オブジェクト	JDK ポリシー。
specification.agent.jdk.policyJars	文字列型配列	JDK ポリシーの JAR ファイル。各 JAR ファイルを個別にリストします。
specification.agent.sslStore	オブジェクトの配列	SSL ストアファイル。
specification.agent.sslStore[].sourcePath	文字列	SSL ストアファイルへのパス。

POST 応答

成功した場合は、更新された補足ファイル仕様を返します。

POST 要求の例

次の POST 要求の例は、補足ファイル仕様を更新するものです。

```
POST <base URL>/api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "rteId": "rte-12345",
  "specification": {
    "agent": {
      "databaseIngestion": {
        "jdbcDrivers": [{"sourcePath": "/dbingest/jdbc1.jar"}],
        "oracle": {
```

```

        "jdbcDrivers": [{"sourcePath": "/oracle/jdbc1.jar"}],
        "ociDrivers": [{"sourcePath": "/oracle/oci1.so"}],
        "version": "19c"
    },
    "dataIntegrationServer": {
        "jdbcv2": {
            "common": [{"sourcePath": "/jdbc/common1.jar"}],
            "spark": [{"sourcePath": "/jdbc/spark1.jar"}]
        },
        "jdbcDrivers": [{"sourcePath": "/jdbc/driver1.jar"}],
        "mysql": {
            "jdbcDrivers": [{"sourcePath": "/mysql/jdbc1.jar"}],
            "odbcDrivers": [{"sourcePath": "/mysql/odbc1.so"}],
            "version": "8.0"
        },
        "odbc": {
            "drivers": [{"sourcePath": "/odbc/driver1.so"}],
            "dsns": [{"name": "dsn1", "entries": [{"key": "Server", "value": "localhost"}]}]
        },
        "odbcInst": {
            "drivers": [{"sourcePath": "/odbcinst/driver2.so"}],
            "dsns": [{"name": "dsn2", "entries": [{"key": "Port", "value": "1234"}]}]
        },
        "sap": {
            "jcos": [{"sourcePath": "/sap/jco1"}],
            "nwrfs": [{"sourcePath": "/sap/nwrfs1"}],
            "hanas": [{"sourcePath": "/sap/hana1"}]
        },
        "ssls": [
            {
                "fileCopy": {"sourcePath": "/ssl/keystore.jks"},
                "importCerts": {"certName": "mycert", "alias": "myalias"}
            }
        ]
    },
    "elasticServer": {
        "javaTxResources": [{"sourcePath": "/elastic/javaTxRes.jar"}],
        "jdbcv2": {
            "common": [{"sourcePath": "/elastic/jdbc/common2.jar"}],
            "spark": [{"sourcePath": "/elastic/jdbc/spark2.jar"}]
        },
        "nativeLibResources": [{"sourcePath": "/elastic/nativeLib.so"}],
        "nativeBinResources": [{"sourcePath": "/elastic/nativeBin"}]
    },
    "executableScript": {
        "scriptPath": "/scripts/start.sh",
        "scriptArgs": ["--env", "prod"],
        "currentDirectory": "/scripts"
    },
    "jdk": {
        "policyJars": [
            "/datadisk/jdk/policy/unlimited/US_export_policy.jar",
            "/datadisk/jdk/policy/unlimited/local_policy.jar"
        ]
    },
    "sslStore": [{"sourcePath": "/ssl/store.jks"}]
}
}
}

```

補足ファイル仕様の削除

補足ファイル仕様の削除することで、エラスティックランタイム環境で補足ファイルが使用されないようにすることができます。

補足ファイル仕様の削除すると、影響を受けるすべての Secure Agent サービスが自動的に再起動され、補足ファイルを使用しないようになります。

POST 要求

次の URI を使用します。

/api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	説明
rteId	文字列	ランタイム環境 ID。
仕様	オブジェクト	補足ファイル仕様が NULL に設定されています。

POST 応答

成功した場合、空の仕様が返されます。

POST の例

次の POST 要求の例は、補足ファイル仕様を削除するものです。

```
POST <base URL>/api/v3/RuntimeEnvironment/<runtime environment ID>/ElasticConfig
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "rteId": "<runtime environment ID>",
  "specification": null
}
```

トークン

エラスティックランタイム環境用の組織のトークンを管理するには、containerImageToken リソースを使用します。

新しいトークンの取得

Kubernetes DevOps エンジニア特権がある場合は、Artifactory にアクセスしてイメージをダウンロードするために使用できるトークンを要求できます。

GET 要求

新しいトークンを取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/containerimagetoken/create

次の表に、要求の潜在的なエラーコードを示します。

HTTP ステータスコード	説明
401	未認証、または未承認。
403	権限が不足しています。この API にアクセスするには、get.k8s.repository.token 特権が必要です。

GET 応答

成功した場合、トークン ID とトークン値を返します。

GET 応答の例

新しいトークンを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/containerimagetoken/create
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような「200 OK」応答が返されます。

```
{
  "tokenId": "<token ID>",
  "tokenValue": "<token value>"
}
```

付与された特権が不十分である場合は、次の例のような「403 Forbidden」応答を受け取ることがあります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_007",
    "message": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "debugMessage": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "requestId": "l2EpwkFoqkEjrEJURclPw2",
    "details": null
  }
}
```

トークンが取り消された場合は、次の例のような「400 Bad Request」応答を受け取ることがあります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_014",
    "message": "Token with id:<token ID> already revoked.",
    "debugMessage": "Token with id:<token ID> already revoked.",
    "requestId": "iVdlwEoafIZd3vb0LvLVmp",
    "details": null
  }
}
```

トークンの取り消し

Kubernetes DevOps エンジニア特権が付与されている場合は、トークンを取り消すことができます。

DELETE 要求

トークンを取り消すには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/containerImageToken/revoke/<tokenId>
```

次のパラメータを含めます。

パラメータ	タイプ	説明
tokenId	文字列	取り消すトークンの ID。

次の表に、要求の潜在的なエラーコードを示します。

HTTP ステータスコード	説明
400	ID:{tokenId}のトークンはすでに取り消されています。
400	ユーザー:{0}にはこのトークンを取り消す権限がありません。
401	未認証、または未承認。
403	この API にアクセスするには、特権 <code>get.k8s.repository.token</code> が必要です。

DELETE 応答

成功した場合、トークンが取り消されます。

DELETE 応答の例

トークンを取り消すには、次の要求を使用します。

```
DELETE <baseApiUrl>/public/core/v3/containerImageToken/revoke/<tokenId>
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、「200 OK」 応答が返されます。

付与された特権が不十分である場合は、次の例のような「403 Forbidden」 応答を受け取ることがあります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_007",
    "message": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "debugMessage": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "requestId": "l2EpwkFqkEjrEJURclPw2",
    "details": null
  }
}
```

トークンがすでに取り消されている場合は、次の例のような「400 Bad Request」 応答を受け取ることがあります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_014",
    "message": "Token with id:<token ID> already revoked.",
    "debugMessage": "Token with id:<token ID> already revoked.",
    "requestId": "iVdlwEoaFiZd3vb0LvLVmp",
    "details": null
  }
}
```

トークンを取り消す権限が付与されていない場合は、次の例のような「400 Bad Request」 応答を受け取る可能性があります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_013",
    "message": "User:k8s is not authorized to revoke this token :<token ID>.",
    "debugMessage": "User:k8s is not authorized to revoke this token :<token ID>.",
    "requestId": "iLhZ6l6EF6Ddb3jICTGxoj",
    "details": null
  }
}
```

組織のすべてのトークンの取得

Kubernetes DevOps エンジニア特権が付与されている場合は、組織のすべてのトークンを一覧表示できます。

GET 要求

組織のすべてのトークンを一覧表示するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/containerImageToken

次のパラメータを含めます。

パラメータ	タイプ	説明
orgId	文字列	生成されたトークンを表示するための組織 ID。

次の表に、要求の潜在的なエラーコードを示します。

HTTP ステータスコード	説明
401	未認証、または未承認。
403	この API にアクセスするには、特権 get.k8s.repository.token が必要です。

GET 応答

成功した場合、組織のすべてのトークンのリストが返されます。

GET 応答の例

ダウンロード可能なイメージを一覧表示するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/containerImageToken
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような「200 OK」応答が返されます。

```
[
  {
    "orgId": "52ZSTB0IDK6dXxaEQLUaQu",
    "userId": "admin",
    "tokenId": "<token ID>",
    "expirationTime": "2022-10-31T07:06:59.000Z"
  },
  {
    "orgId": "52ZSTB0IDK6dXxaEQLUaQu",
    "userId": "admin",
    "tokenId": "<token ID>",
    "expirationTime": "2022-10-31T07:06:59.000Z"
  }
]
```

付与された特権が不十分である場合は、次の例のような「403 Forbidden」応答を受け取ることがあります。

```
{
  "error": {
    "code": "AIS_007",
    "message": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "debugMessage": "Privilege - view.k8s.agent.config required for accessing this API.",
    "requestId": "l2EpwkFqkEjrEJURclPw2",
    "details": null
  }
}
```

エクスポートとインポート

エクスポートとインポートリソースを使用して、ある組織から別の組織にアセットやその他のオブジェクトを移行します。

export リソースと import リソースを使用するには、ソース組織とターゲット組織の両方に適切なライセンスがある必要があります。

オブジェクトを移行するには、オブジェクトをソース組織からエクスポートし、ターゲット組織にインポートします。

エクスポートジョブやインポートジョブには最大 1000 個のオブジェクトを含めることができます。

アセットをエクスポートするときに、依存オブジェクトを含めるかどうかを選択できます。インポートの操作時に、インポートするアセットを選択できます。

Informatica Intelligent Cloud Services では、アセットをエクスポートしてもスケジュール情報はエクスポートされません。インポート操作の完了後に、インポートしたアセットにスケジュールを関連付けることができます。また、スケジュールをエクスポートおよびインポートした場合、そのスケジュールは関連付けられたアセットを持ちません。

export リソースと import リソースでは、オブジェクトに関連付けられた状態はソース組織からターゲット組織に移行されません。移行するオブジェクトの状態を移行するには、fetchState リソースと loadState リソースを使用します。

Secure Agent の設定

Secure Agent の設定をエクスポートし、Secure Agent または Secure Agent のグループレベルで設定をインポートできます。Secure Agent の設定を移行して、同じ設定を個々の Secure Agent または Secure Agent グループ内のすべての Secure Agent に適用することができます。

Secure Agent の設定をエクスポートした後、インポートする前に、エクスポートパッケージに含まれる JSON ファイルの設定に変更を加えることができます。

データ統合オブジェクト

データ統合では、次のタイプのオブジェクトをエクスポートおよびインポートできます。

- マッピング
- タスク
- 詳細タスクフロー
- リニアタスクフロー
- ビジネスサービス
- 固定長構成ファイル
- 階層スキーマ
- マップレット
- 保存済みクエリ
- 接続
- スケジュール
- Secure Agent の設定

アプリケーションの統合オブジェクト

アプリケーションの統合では、次のタイプのオブジェクトをエクスポートおよびインポートできます。

- プロセス
- ガイド
- 接続
- サービスコネクタ
- プロセスオブジェクト
- Secure Agent の設定

Data Quality オブジェクト

Data Quality では、次のタイプのオブジェクトをエクスポートおよびインポートできます。

- CLEANSE
- DEDUPLICATE
- DICTIONARY
- EXCEPTION
- LABELER
- PARSE
- RULE_SPECIFICATION
- VERIFIER

MDM SaaS アセット

MDM SaaS の場合は、次のタイプのアセットをエクスポートおよびインポートできます。

- 事前定義済みおよびカスタムのビジネスエンティティ
- 参照データセット、コードリスト、およびクロスウォーク
- 階層
- リレーション
- ジョブ定義
- 認証
- ビジネスイベント
- レポートセット
- レポート
- ビジネスアプリケーション
- カスタムページ
- 事前定義済みおよびカスタムのソースシステム
- コンポーネント
- 動的プール

オブジェクトのエクスポート

このリソースとインポートリソースを一緒に使用して、オブジェクトを 1 つの組織から別の組織へと移行します。

オブジェクトのエクスポートには、一連の要求および応答が含まれます。最終的な結果はエクスポートされたオブジェクトを含む ZIP ファイルとなります。オブジェクトをエクスポートするには、次のタスクを実行します。

1. ソース組織にログインします。
2. クエリパラメータを含むオブジェクト GET 要求を送信して、エクスポートするオブジェクトのリストを取得します。エクスポートするオブジェクトが分かっている場合は、ルックアップ GET 要求を送信してそのオブジェクトのオブジェクト ID を取得します。
Informatica Intelligent Cloud Services によりオブジェクト ID が返されます。
[「オブジェクト」 \(ページ 212\)](#)および[「ルックアップ」 \(ページ 178\)](#)を参照してください。
3. objects または lookup の応答で返されたオブジェクト ID を使用して export POST 要求を送信して、export ジョブを開始します。
Informatica Intelligent Cloud Services で、エクスポートジョブのジョブ ID を返します。
[「エクスポートジョブの開始」 \(ページ 143\)](#)を参照してください。
4. エクスポート GET 要求を送信し、エクスポートパッケージのエクスポートジョブ ID を使用してエクスポートジョブのステータスを取得します。
Informatica Intelligent Cloud Services で、ジョブ ID とステータスを返します。応答には、エクスポートパッケージ内のオブジェクトのリストも含めることができます。
[「エクスポートジョブのステータスの取得」 \(ページ 146\)](#)を参照してください。
5. エクスポート GET 要求を送信して、エクスポートパッケージをダウンロードします。
Informatica Intelligent Cloud Services からエクスポートパッケージが ZIP ファイル形式で返されます。
[「エクスポートパッケージのダウンロード」 \(ページ 150\)](#)を参照してください。

注: このリソースは、動的レート制限を使用します。システムで大量の要求またはサイズが発生すると、応答が遅くなったり、「要求が多すぎます」というエラーメッセージが表示されて失敗したりすることがあります。

エクスポートジョブの開始

POST 要求を使用してエクスポートジョブを開始します。

POST 要求

アセット、接続、Secure Agent の設定、スケジュールなどのオブジェクトをエクスポートできます。エクスポートするオブジェクトを指定してエクスポートジョブを開始するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/export`

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String		エクスポートジョブの名前。名前を指定しない場合、次の形式のデフォルト名が使用されます: job- <currentTimeInMilliseconds>
objects	Collection< 複合型>	はい	エクスポートするオブジェクトのオブジェクト ID。 注: 1 つのエクスポートファイルに含めるオブジェクトは 1000 個以内にすることを勧めます。
id	String	○	objects オブジェクトに含めます。 エクスポートオブジェクトのグローバル意識別子。これは、プロジェクト、フォルダ、またはアセットの ID です。 オブジェクト ID を確認するには、「 オブジェクト 」(ページ 212) または「 ルックアップ 」(ページ 178) を参照してください。
includeDependencies	Boolean		objects オブジェクトに含めます。 アセットの依存オブジェクトをエクスポートに含めるかどうかを決定します。 デフォルトは True です。

アセットにタグが含まれている場合は、アセットのエクスポート時にタグをエクスポートできます。アセットタグをエクスポートするには、POST 要求に includeTagInformation 要求パラメータを含めます。

次の URI を使用します。

/public/core/v3/export?includeTagInformation=true

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/export
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "name": "testJob1",
  "objects": [
    {
      "id": "l7bgB85m5oGiX0bDxwnvK9",
      "includeDependencies": true
    },
    {
      "id": "1MWOGDAE1sFgnvWkvom7mK",
      "includeDependencies": false
    },
    {
      "id": "iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox"
    }
  ]
}
```


POST 応答

成功した場合、エクスポートジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	エクスポートジョブの ID。
createTime	String	エクスポートパッケージが作成された時間。
updateTime	String	エクスポートパッケージが最後に更新された時間。
name	String	インポートジョブの名前。
startTime	String	エクスポートジョブが開始された時間。
endTime	String	エクスポートジョブが終了した時間。
status	複合型	エクスポートのステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 エクスポートジョブのステータス（例: 実行中、成功、失敗）。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 エクスポートジョブのステータスメッセージ。
objects	Collection	オブジェクトのコレクション。空白の場合、NULL を返します。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "7evG9CokA1whk8ehF3opKM",
  "createTime": "2017-10-26T08:15:48.502Z",
  "updateTime": "2017-10-26T08:15:48.502Z",
  "name": "testJob1",
  "startTime": "2017-10-26T08:15:48.501Z",
  "endTime": null,
  "status": {
    "state": "IN_PROGRESS",
    "message": "In Progress"
  },
  "objects": null
}
```

エラーを受信した場合、次の例のような応答が表示されます。

```
{
  "error": {
    "code": "MigrationSvc_034",
    "message": "Invalid object id/s [[242973wgfschwasd23]]. Object resolution failed.",
    "requestId": "2ataXVlgw3ydI1Yb2MA4sq"
  }
}
```

エクスポートジョブのステータスの取得

GET 要求を使用して、エクスポートジョブのステータスを取得するか、エクスポートジョブのログをダウンロードします。

GET 要求

エクスポートジョブのステータスを取得するには、次のいずれかの URI を使用します。

- エクスポートジョブのステータスを受け取るには、次の URI を使用します。<id>はエクスポートジョブの ID です。

`/public/core/v3/export/<id>`

- エクスポートジョブ内の各オブジェクトのステータスを受け取るには、次のいずれかの URI を使用します。

`/public/core/v3/export/<id>?expand=objects`

状態が SUCCESSFUL になるまで要求のポーリングを継続します。

エクスポートジョブのログをダウンロードするには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/export/<id>/log`

GET 応答

エクスポートジョブのログを要求すると、ログがテキストファイルで返されます。

ステータスを要求すると、次のようなエクスポートステータス情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	エクスポートジョブの ID。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。
name	String	エクスポートジョブの名前。
startTime	String	エクスポートジョブの開始時刻。
endTime	String	エクスポートジョブの終了時刻。
status	複合型	エクスポートジョブのステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」などエクスポートジョブの状態。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 エクスポートジョブのステータスメッセージ。
objects	Collection	エクスポートジョブのオブジェクト。URI に?expand=objects が含まれる場合にのみ返されます。
id	String	objects オブジェクトで返されます。 要求されたエクスポートオブジェクトのグローバル一意識別子。
name	String	objects オブジェクトで返されます。 エクスポートするオブジェクトの名前。

フィールド	タイプ	説明
path	String	objects オブジェクトで返されます。 エクスポートするオブジェクトの完全なパス。
description	String	objects オブジェクトで返されます。 エクスポートするオブジェクトの説明。
status	複合型	objects オブジェクトで返されます。 個々のオブジェクトのエクスポートステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など個々のオブジェクトのエクスポート状態。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 個々のオブジェクトのエクスポートステータスメッセージ。

GET 要求の例

エクスポートジョブのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/export/7evG9CokA1whk8ehF3opKM
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

エクスポートジョブの個々のオブジェクトのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/export/7evG9CokA1whk8ehF3opKM?expand=objects
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

エクスポートジョブログを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/export/iklHoZTokKAiN095Cw9NG3/log
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

エクスポートジョブのステータスに対する要求が成功すると、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "id": "7evG9CokA1whk8ehF3opKM",
  "createTime": "2017-10-26T08:15:48.502Z",
  "updateTime": "2017-10-26T08:15:48.502Z",
  "name": "testJob1",
  "startTime": "2017-10-26T08:15:48.501Z",
  "endTime": null,
  "status": {
    "state": "IN_PROGRESS",
    "message": "In Progress."
  },
  "objects": null
}
```

要求に個々のオブジェクトのインポートステータスが含まれていた場合、成功時の応答は次の例のようになります。

```
{
  "id": "7evG9CokA1whk8ehF3opKM",
  "createTime": "2017-10-26T08:15:49.000Z",
```

```

"updateTime": "2017-10-26T08:15:50.000Z",
"name": "testJob1",
"startTime": "2017-10-26T08:15:49.000Z",
"endTime": "2017-10-26T08:15:50.000Z",
"status": {
  "state": "SUCCESSFUL",
  "message": "Export completed successfully."
},
"objects": [
  {
    "id": "1MWOGDAE1sFgnvWkvom7mK",
    "name": "Linear Taskflow",
    "path": "/ICS Taskflow",
    "type": "SAAS_LINEAR_TASKFLOW",
    "description": null,
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "1SuZ9Gf8LtpHrJn9EdHCod",
    "name": "SQL Server",
    "path": "/DSS",
    "type": "Folder",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "1Uf9PTj6kTjbsVYMK550C6",
    "name": "Synchronization Task Multi Source",
    "path": "/Default/SQL Server",
    "type": "SAAS_DSS",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "2UL9Z09Z30Jeuxbl2cYbaX",
    "name": "Synchronization Task Simple Filter",
    "path": "/Default/SQL Server",
    "type": "SAAS_DSS",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "31SzqpeEEKacy70aXXCfaD",
    "name": "Synchronization Task Multi Source",
    "path": "/DSS/SQL Server",
    "type": "SAAS_DSS",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "5FA0DnMzeuDbYZnn3hdt09",
    "name": "Default",
    "path": "/",
    "type": "Project",
    "description": "Auto-generated Default Project",
  }
]

```

```

    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "5V5VpaoJGTNkWCB2f2t4MG",
    "name": "Synchronization Task Simple Filter",
    "path": "/DSS/SQL Server",
    "type": "SAAS_DSS",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "7udJJF48H5Iizzry8gjUAb",
    "name": "SQL Server",
    "path": "/Default",
    "type": "Folder",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "fIQLvhnnsqBjXKNfjyZFaH",
    "name": "ICS Taskflow",
    "path": "/",
    "type": "Project",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "hGrgtrajWMUjNIslKQCAi",
    "name": "SQL Server Linux",
    "path": null,
    "type": "SAAS_CONNECTION",
    "description": null,
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox",
    "name": "abc_map",
    "path": "/Default",
    "type": "MAPPING",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "l7bgB85m5oGiX0bDxwnvK9",
    "name": "DSS",
    "path": "/",
    "type": "Project",
    "description": "",
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": null
    }
  }
}

```

```

    },
    {
      "id": "lQqsFQE40Sweyg77AeWwK2",
      "name": "Linux",
      "path": null,
      "type": "SAAS_RUNTIME_ENVIRONMENT",
      "description": null,
      "status": {
        "state": "SUCCESSFUL",
        "message": null
      }
    }
  ]
}

```

エクスポートジョブのログを要求した場合、返されるテキストファイルの内容は次の例のようになります。

```

> OIE_002 INFO 2019-02-05T22:50:08.788Z Starting export operation.
Execution Client: API
Job Name: m_RegionTotalNew-1549407002393
Organization: infa2.doc
RequestId: iklHoZTokKAiN095Cw9NG3
User: janer2
> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.042Z Successfully exported object [/SYS/_SYSTEM_PROJECT] of type [Project]
id [5UrdDrgV5yKerYgtJAA4IU]> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.042Z Successfully exported object [/Explore/
Accounts] of type [Project] id [8Uyq1wiZ9lye2Sou50Cq0a]
> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.126Z Successfully exported object [/SYS/_SYSTEM_FOLDER] of type [Folder] id
[b98UuCOADGEkXxF9EILUCZ]
> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.126Z Successfully exported object [/Explore/Accounts/February2018] of type
[Folder] id [cojSZpHcqcaffy6YkCBgIl]
> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.354Z Successfully exported object [/SYS/TMS26W0864] of type
[SAAS_RUNTIME_ENVIRONMENT] id [6TKTNZ3wfIIjV5yBTJmYW0]
> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.504Z Successfully exported object [/SYS/ff] of type [SAAS_CONNECTION] id
[7GgahDJzE9GbYb75xQ35GM]
> OIE_004 INFO 2019-02-05T22:50:09.765Z Successfully exported object [/Explore/Accounts/February2018/
m_RegionTotalNew] of type [MAPPING] id [4LiKwGKgegAixI2awqWgK1]
> OIE_003 INFO 2019-02-05T22:50:09.843Z Finished export operation.
Job Name: m_RegionTotalNew-1549407002393
Start Time: 2019-02-05T22:50:03.000Z
End Time: 2019-02-05T22:50:09.765Z
Started by: janer2
Start Method: API
Source Organization: infa.doc
Status: SUCCESSFUL

```

エクスポートパッケージのダウンロード

GET 要求を使用して、エクスポートパッケージをダウンロードします。

GET 要求

エクスポートパッケージをダウンロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/export/<id>/package

<id>はエクスポートジョブの ID です。

GET 応答

正常に完了すると、応答タイプ application/zip の ZIP ストリームを応答本文で受け取ります。

失敗すると、次の例のような応答を受け取ります。

```

{
  "error": {
    "code": "MigrationSvc_017",
    "message": "Export request with identifier [asdasduguyvasd8347] doesn't exist.",
    "requestId": "2ataXVlgw3ydI1yb2MA4sq"
  }
}

```

ID プロバイダ

JSON Web トークン（JWT）を OAuth アクセストークンとして使用して、Informatica Intelligent Cloud Services にログインできます。JWT アクセストークンを使用してログインするには、組織に ID プロバイダが登録されている必要があります。IdentityProviders リソースを使用して、ID プロバイダを登録および管理します。

IdentityProviders リソースを使用して、次のようなタスクを実行できます。

- ID プロバイダを登録する。
- ID プロバイダの詳細を取得する。
- ID プロバイダを更新する。
- ID プロバイダを削除する。

ID プロバイダの登録

POST 要求を使用して ID プロバイダを登録します。

注: 1 つの組織に登録できる ID プロバイダは 1 つのみです。

POST 要求

組織に ID プロバイダを登録するには、次の URI を使用します:

/public/core/v3/Orgs/<orgId>/IdentityProviders

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	○	ID プロバイダのタイプ。 サポートされているタイプは OIDC です。
endPoints	オブジェクト	はい	ID プロバイダの発行者と JWT トークンの URL を含むオブジェクト。
issuer	String	○	endPoints オブジェクトに含めます。 ID プロバイダの発行者の絶対 URL。 キー URL と同じ HTTPS スキームを使用し、キー URL のサブセットである必要があります。 最大長は 255 文字です。
keys	String	○	endPoints オブジェクトに含めます。 JWT トークンの絶対 URL。 発行者の URL と同じ HTTPS スキームを使用する必要があります。 最大長は 255 文字です。
accountPolicy	オブジェクト	はい	アカウントポリシーを定義するオブジェクト。
リンク	String	○	accountPolicy オブジェクトに含めます。 ユーザーを識別するためのプロパティを含むオブジェクト。

フィールド	タイプ	必須	説明
tokenClaim	文字列	-	リンクオブジェクトに含めます。 JWT 検証用にユーザーを識別するために使用される要求の名前。 デフォルトは sub です。 最大長は 64 文字です。
matchType	String	○	リンクオブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーを識別するための Informatica Cloud 属性名。次のいずれかの値を使用します。 - aliasName - uid 最大長は 64 文字です。
signingAlgorithm	文字列	-	トークン署名アルゴリズム。次のいずれかの値を使用します。 - HS256 - HS 384 - HS512 - RS256 - RS384 - RS512 - ES 256 - ES 384 - ES 412 - PS256 - PS384 - PS512 - EdDSA - ES256K デフォルトは RS256 です。

POST 応答

失敗した場合は、エラーオブジェクトを返します。成功した場合、次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
type	文字列	ID プロバイダのタイプ。 サポートされているタイプは OIDC です。
endPoints	オブジェクト	ID プロバイダの発行者と JWT トークンの URL を含むオブジェクト。
issuer	文字列	endPoints オブジェクトに含まれます。 ID プロバイダの発行者の絶対 URL。
keys	文字列	endPoints オブジェクトに含まれます。 JWT トークンの絶対 URL。
accountPolicy	オブジェクト	アカウントポリシーを定義するオブジェクト。

フィールド	タイプ	説明
リンク	文字列	accountPolicy オブジェクトに含まれます。 ユーザーを識別するためのプロパティを含むオブジェクト。
tokenClaim	文字列	リンクオブジェクトに含まれます。 JWT 検証用にユーザーを識別するために使用される要求の名前。
matchType	文字列	リンクオブジェクトに含まれます。 Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーを識別するための Informatica Cloud 属性名。
signingAlgorithm	文字列	トークン署名アルゴリズム。
createTime	String	ID プロバイダが登録された日時。
createdBy	String	ID プロバイダを登録した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
updateTime	String	ID プロバイダが最後に更新された日時。
updatedBy	String	ID プロバイダを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <BaseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/ppbg1k0l2Jo13b/IdentityProviders HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
https://dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/Orgs/ppbg1k0l2Jo13b/IdentityProviders
{
  "type": "OIDC",
  "endPoints": {
    "issuer": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/",
    "keys": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/keys"
  }
  {
    "accountPolicy": {
      "link": {
        "tokenClaim": "sub",
        "matchType": "uid"
      }
    }
  }
  "signingAlgorithm": "HS256"
}
```

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "4aoljyi4ppbg1k0l2Jo13b",
  "orgId": "ppbg1k0l2Jo13b"
  "type": "OIDC",
  "endPoints": {
    "issuer": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/",
    "keys": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/keys"
  }
  {
    "accountPolicy": {
```

```

    "link": {
      "tokenClaim": "sub",
      "matchType": "uid"
    }
  },
  "signingAlgorithm": "HS256",
  "createTime": "2019-03-06T22:04:00.000Z",
  "createdBy": "a@abc.com",
  "updateTime": "2019-03-06T22:04:00.000Z",
  "updatedBy": "a@abc.com"
}

```

ID プロバイダの詳細の取得

GET 要求を使用して、ID プロバイダに関する情報を取得します。

GET 要求

組織の ID プロバイダに関する情報を取得するには、次の URI を使用します：

/public/core/v3/Orgs/<orgId>/IdentityProviders

GET 応答

失敗した場合は、エラーオブジェクトを返します。成功した場合、ID プロバイダに関する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
type	文字列	ID プロバイダのタイプ。 サポートされているタイプは OIDC です。
endPoints	オブジェクト	ID プロバイダの発行者と JWT トークンの URL を含むオブジェクト。
issuer	文字列	endPoints オブジェクトに含まれます。 ID プロバイダの発行者の絶対 URL。
keys	文字列	endPoints オブジェクトに含まれます。 JWT トークンの絶対 URL。
accountPolicy	オブジェクト	アカウントポリシーを定義するオブジェクト。
リンク	文字列	accountPolicy オブジェクトに含まれます。 ユーザーを識別するためのプロパティを含むオブジェクト。
tokenClaim	文字列	リンクオブジェクトに含まれます。 JWT 検証用にユーザーを識別するために使用される要求の名前。デフォルトは sub です。
matchType	文字列	リンクオブジェクトに含まれます。 Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーを識別するための Informatica Cloud 属性名。
signingAlgorithm	文字列	トークン署名アルゴリズム。

フィールド	タイプ	説明
createTime	String	ID プロバイダが登録された日時。
createdBy	String	ID プロバイダを登録した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。
updateTime	String	ID プロバイダが最後に更新された日時。
updatedBy	String	ID プロバイダを最後に更新した Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー。

GET 要求の例

組織の ID プロバイダに関する情報を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/ppbg1k0l2Jo13b/IdentityProviders
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "4a0ljyi4ppbg1k0l2Jo13b",
    "orgId": "ppbg1k0l2Jo13b",
    "type": "OIDC",
    "endPoints": {
      "issuer": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/",
      "keys": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/keys"
    },
    "accountPolicy": {
      "link": {
        "tokenClaim": "sub",
        "matchType": "aliasName"
      }
    },
    "signingAlgorithm": "HS256",
    "createTime": "2019-03-06T22:04:00.000Z",
    "createdBy": "a@abc.com",
    "updateTime": "2019-03-06T22:04:00.000Z",
    "updatedBy": "a@abc.com"
  },
]
```

ID プロバイダの更新

PUT 要求を使用して ID プロバイダを更新します。

PUT 要求

ID プロバイダを更新するには、次の URI を使用します:

```
/public/core/v3/Orgs/<orgId>/IdentityProviders/<identity provider ID>
```

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
endPoints	オブジェクト	はい	ID プロバイダの発行者と JWT トークンの URL を含むオブジェクト。
issuer	String	○	endPoints オブジェクトに含めます。 ID プロバイダの発行者の絶対 URL。 キー URL と同じ HTTPS スキームを使用し、キー URL のサブセットである必要があります。 最大長は 255 文字です。
keys	String	○	endPoints オブジェクトに含めます。 JWT トークンの絶対 URL。 発行者の URL と同じ HTTPS スキームを使用する必要があります。 最大長は 255 文字です。
accountPolicy	オブジェクト	はい	アカウントポリシーを定義するオブジェクト。
リンク	String	○	accountPolicy オブジェクトに含めます。 ユーザーを識別するためのプロパティを含むオブジェクト。
tokenClaim	文字列	-	リンクオブジェクトに含めます。 JWT 検証用にユーザーを識別するために使用される要求の名前。 デフォルトは sub です。 最大長は 64 文字です。
matchType	String	○	リンクオブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーを識別するための Informatica Cloud 属性名。次のいずれかの値を使用します。 - aliasName - uid 最大長は 64 文字です。
signingAlgorithm	文字列	-	トークン署名アルゴリズム。次のいずれかの値を使用します。 - HS256 - HS384 - HS512 - RS256 - RS384 - RS512 - ES256 - ES384 - ES512 - PS256 - PS384 - PS512 - EdDSA - ES256K デフォルトは RS256 です。

成功した場合は 204 の応答コードを返します。エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

注: 組織の ID プロバイダを更新すると、更新された設定に準拠する JWT が受け入れられるまでに、ごくわずかな時間がかかる場合があります。

PUT 要求の例

次の例のような要求を送信できます:

```
PUT <BaseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/<orgId>/IdentityProviders/<identity provider ID>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>

https://dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/Orgs/ppbg1k0l2Jo13b/IdentityProviders/
6qnnXazBltUb0cUTYgyW01
{
  "endPoints": {
    "issuer": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/",
    "keys": "https://myidp.mycompany.com/oauth2/keys"
  },
  "accountPolicy": {
    "link": {
      "tokenClaim": "user",
      "matchType": "uid"
    }
  },
  "signingAlgorithm": "RS512",
}
```

ID プロバイダの削除

ID プロバイダを削除するには、DELETE 要求に ID プロバイダの ID を含めます。

ID プロバイダを削除するには、次の URI を使用します:

/public/core/v3/Orgs/<orgId>/IdentityProviders/<identity provider ID>

例:

```
DELETE http://dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/Orgs/ppbg1m0j8Jo14c/IdentityProviders/
6qnnXdzBdtUb0bUTYhyW01
```

成功した場合は 204 の応答コードを返します。エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

注: 組織の ID プロバイダを削除すると、削除された ID プロバイダに準拠する JWT が拒否されるまでに、ごくわずかな時間がかかる場合があります。

オブジェクトのインポート

このリソースとエクスポートリソースと一緒に使用して、オブジェクトを 1 つの組織から別の組織へと移行します。

オブジェクトのインポートには、一連の要求および応答が含まれます。オブジェクトをインポートするには、次のタスクを実行します。

1. ターゲット組織へのログイン
2. インポート POST 要求を送信して、ZIP ファイルをアップロードします。
Informatica Intelligent Cloud Services により、インポートジョブのジョブ ID が返されます。

[「インポートパッケージのアップロード」 \(ページ 158\)](#)を参照してください。

3. インポート POST 要求を送信して、オブジェクトをインポートします。

Informatica Intelligent Cloud Services では、「実行中」や「成功」などのインポートステータスを返すか、エラーメッセージを返します。また、応答にはエクスポートパッケージを作成した組織のソース組織 ID も含まれます。

[「インポートジョブの開始」 \(ページ 159\)](#)を参照してください。

4. インポート GET 要求を送信して、インポートジョブのステータスを取得します。また、ステータスをオブジェクトレベルで要求することも可能です。
Informatica Intelligent Cloud Services では、インポートジョブのステータスと、要求に応じてパッケージ内の各オブジェクトのステータスを返します。

[「インポートジョブのステータスの取得」 \(ページ 164\)](#)を参照してください。

インポートパッケージのアップロード

POST 要求を使用してインポートパッケージをアップロードします。

POST 要求

インポートパッケージをアップロードするには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/import/package`

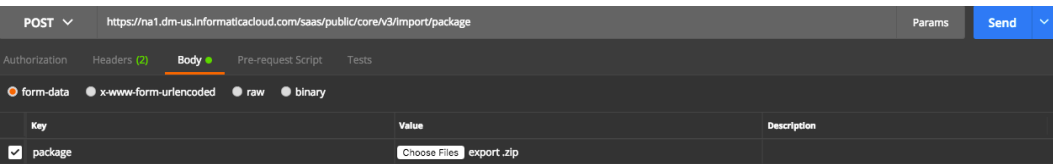
Content-Type の場合、次を使用します。

`multipart/form-data`

要求本文には、`package` の名前の部分を含めます。そのコンテンツでは、インポートするエクスポート ZIP ファイルを使用します。

Informatica Intelligent Cloud Services では、エクスポート ZIP ファイルの内容が作成後に変更されていないことを確認するためのチェックサム検証がデフォルトで使用されます。変更されたエクスポート ZIP ファイルを含むインポートパッケージをアップロードする場合は、`relaxChecksum` パラメータを含めて値を `True` に設定します。

次の図に、Postman の要求本文の例を示します。



POST 応答

成功した場合、インポートジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	インポートジョブの ID。
jobStatus	Collection	パッケージのアップロードステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」などインポートジョブのステータス。

フィールド	タイプ	説明
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 インポートジョブのステータスメッセージ。
checksumValid	Boolean	インポートパッケージのチェックサムが有効かどうかを示します。

POST 要求の例

インポートパッケージをアップロードするには、次の応答を使用します。

```
POST <BaseApiUrl>/public/core/v3/import/package
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

POST 応答の例

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn",
  "jobStatus": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": null
  },
  "checksumValid": true
}
```

インポートジョブの開始

POST 要求を使用して、インポートジョブを指定して開始します。アセット、接続、Secure Agent の設定、スケジュールなどのオブジェクトをインポートできます。

POST 要求

要求には、インポートするオブジェクトのリストと、発生する可能性のある競合を解決するためのパラメータを含めます。競合の解決の例としては、ターゲット組織にある別のアセットと同じ名前を持つアセットをインポートしようとする場合が挙げられます。

コネクタのタイプとバージョンが同じであれば、ターゲット組織に存在するランタイム環境をソースランタイム環境の代わりに使用するように指定できます。ターゲット組織のランタイム環境のリストを検索するには、ルックアップリソースを使用します。

データ統合の共有シーケンス、または入出力パラメータまたはシーケンスを含むマッピングタスクをインポートする場合は、パーシステント値を保持、リセット、または上書きすることができます。

インポートオブジェクトを指定し、インポートジョブを開始するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/import/<id>
```

<id>は、インポートパッケージのアップロードの POST 応答で受信されるインポートジョブ ID です。

要求に含めるオブジェクト ID を取得するには、ルックアップリソースを使用します。詳細については、[「ルックアップ」 \(ページ 178\)](#)を参照してください。

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	インポートジョブの名前。 デフォルトの名前は <code>job- <currentTimeInMilliseconds></code> です。
importSpecification	複合型	-	インポート仕様を指定するために使用します。指定しない場合、インポートパッケージ内のすべてのオブジェクトがインポートに含まれ、デフォルトの競合解決設定が使用されます。
defaultConflictResolution	String	-	importSpecification オブジェクトに含まれます。 既存のオブジェクトをインポートファイル内のすべてのオブジェクトで上書きするかどうかを示します。以下のオプションが含まれます。 <ul style="list-style-type: none">- OVERWRITE。既存のオブジェクトをインポートファイルのオブジェクトで上書きします。 アセットに対するデフォルト値です。- REUSE。既存のオブジェクトを使用します。オブジェクトが存在しない場合は作成されます。 接続、ランタイム環境、プロジェクト、フォルダ、およびスケジュールに対するデフォルト値です。
includeObjects	Collection<String>	-	importSpecification オブジェクトに含まれます。 インポートに含めるオブジェクト。lookup リソースを使用して、オブジェクト ID を検索できます。 指定しない場合、インポートパッケージ内のすべてのオブジェクトがインポートに含まれます。 指定したオブジェクトがプロジェクトの場合、そのプロジェクトに属するすべてのアセットと、ターゲット組織にまだ存在しないすべての依存オブジェクトがインポートに含まれます。 指定されたオブジェクトがアセットの場合、アセットのコンテナ（プロジェクト、フォルダ）が存在しないときはインポートによってこれらが作成されます。 注: 1 つのインポートジョブに含めるオブジェクトは 1000 個以内にすることをお勧めします。
objectSpecification	Collection<複合型>	-	importSpecification オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのプロパティを指定します。プロパティが特定のオブジェクトに対して指定されていない場合、インポートではデフォルトの競合の解決設定を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
conflictResolution	String	-	<p>objectSpecification オブジェクトに含まれます。既存のアセットをインポートファイルのアセットで上書きするかどうかを示します。以下のオプションが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - OVERWRITE。既存のアセットをインポートファイルのアセットで上書きします。 - REUSE。既存のオブジェクトを使用します。オブジェクトが存在しない場合は作成されます。データ統合マッピングタスク、アプリケーション統合ガイド、B2B Gateway サプライヤ、Data Quality ディクショナリなどのアセットに適用できます。プロジェクト、フォルダ、ランタイム環境、または接続には使用しないでください。 <p>注: ターゲット組織に存在しない場合、インポートには、アセットに関連付けられた接続およびランタイム環境が含まれます。</p>
sourceObjectId	String	○	<p>objectSpecification オブジェクトに含まれます。エクスポートパッケージファイルのオブジェクトID。</p> <p>objectSpecification が存在する場合は必須です。</p>
targetObjectId	String	-	<p>objectSpecification オブジェクトに含まれます。コンテナ間マッピング、および一部のアセット間マッピングに使用されます。</p> <p>ターゲット組織内に存在する接続またはランタイム環境を指定するために使用します。ターゲットオブジェクトで使用するコネクタのタイプとバージョンは、ソースオブジェクトで使用されているものと同じである必要があります。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
mergeTags	ブール	-	objectSpecification オブジェクトに含めます。 受信アセットタグをターゲットプロジェクトのアセットタグとマージするかどうかを指定します。 デフォルトは False です。
additionalProviderFlags	Collection<複合型>	-	追加のオブジェクト指定。 データ統合の共有シーケンス、または入出力パラメータやシーケンスを含むマッピングタスクをインポートするときに、キーと値のペアを使用して、永続化された値を保持、リセット、または上書きします。 新しいアセットの場合は、キー「mapping_conflict_new」と次のいずれかの値を使用します。 - RESET。ソースで定義されている初期デフォルト値を使用してアセットを作成します。 - RETAIN。ソースの現在の値を使用してアセットを作成します。 既存のアセットの場合は、キー「mapping_conflict_existing」と次のいずれかの値を使用します。 - RESET。永続化された値を初期のデフォルト値にリセットします。 - RETAIN。ソースからの値を無視します。 - REPLACE。ターゲットに保持されている値をソースの値で上書きします。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/import/2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{  "name" : "testImportName",
    "importSpecification" : {
        "defaultConflictResolution" : "REUSE",
        "includeObjects" : [
            "jJGyAmd8Q8odiyvToQhhAQ",
            "kDjmdtmJlkvfnALWYaSe2S",
            "9pJkLYz9B3ucEj4wpXjqg2",
            "OVHocWvMryobgyuGUs0bMJ",
            "7lggUXTyXQxhb81D57aKs0"
        ],
        "objectSpecification" : [{
            "sourceObjectId" : "jJGyAmd8Q8odiyvToQhhAQ",
            "conflictResolution" : "OVERWRITE",
            "additionalProviderFlags": [
                {
                    "key": "mapping_conflict_policy",
                    "value": "RESET"
                }
            ]
        }
    ],
    "sourceObjectId": "kDjmdtmJlkvfnALWYaSe2S",
    "conflictResolution": "OVERWRITE"
},
```

```

    {
      "sourceObjectId": "9pJkLYz9B3ucEj4wpXjqg2",
      "conflictResolution": "REUSE"
    },
    {
      "sourceObjectId": "0VHocWvMryobgyuGUs0bMJ",
      "conflictResolution": "REUSE"
    },
    {
      "sourceObjectId": "71ggUXTyXQxhb81D57aKs0",
      "conflictResolution": "REUSE"
    }
  ]
}
}
}

```

POST 応答

成功した場合、インポートジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	インポートジョブの ID。
createTime	String	インポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	インポートジョブの最終更新時刻。
name	String	インポートジョブの名前。
startTime	String	インポートジョブの開始時刻。
endTime	String	インポートジョブの終了時刻。
status	Collection	パッケージのアップロードステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など個々のオブジェクトのインポート状態。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 インポートジョブのステータスメッセージ。
objects	Collection	インポートジョブに含まれるオブジェクト。
sourceOrgId	String	インポートされたエクスポートパッケージを作成した組織の組織 ID。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```

{
  "id": "2oZb7vFI2Q0g4ncd4AyCGn",
  "createTime": "2024-02-26T08:40:09.000Z",
  "updateTime": "2024-02-26T08:55:53.238Z",
  "name": "ImportName",
  "startTime": "2024-02-26T08:55:53.232Z",
  "endTime": "2024-02-26T08:53:03.000Z",
  "status": {
    "state": "IN_PROGRESS",
    "message": "In Progress."
  },
  "objects": null,
}

```

```
    "sourceOrgId": "0V0x1gScNH7dLDyA4tD8yX"  
  }
```

エラーを受信した場合、次の例のような応答が表示されます。

```
{  
  "error": {  
    "code": "MigrationSvc_040",  
    "message": "User does not have required permissions.",  
    "requestId": "2ataXVlgw3ydI1Yb2MA4sq"  
  }  
}
```

インポートジョブのステータスの取得

GET 要求を使用して、インポートジョブのステータスを取得するか、インポートジョブのログをダウンロードします。

GET 要求

インポートジョブのステータスを取得するには、次のいずれかの URI を使用します。<id>はインポートジョブの ID です。

- インポートジョブのステータスを受け取るには、次のいずれかの URI を使用します。
/public/core/v3/import/<id>
- インポートジョブ内の各オブジェクトのステータスを受け取るには、次のいずれかの URI を使用します。
/public/core/v3/import/<id>?expand=objects

インポートジョブのログをダウンロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/import/<id>/log

GET 応答

インポートジョブのログを要求すると、ログがテキストファイルで返されます。

ステータスを要求すると、次のようなインポートステータス情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	インポートジョブの ID。
createTime	String	インポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	インポートジョブの最終更新時刻。
name	String	インポートジョブの名前。
startTime	String	インポートジョブの開始時刻。
endTime	String	インポートジョブの終了時刻。
status	複合型	パッケージのアップロードステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」などインポートジョブのステータス。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 インポートジョブのステータスメッセージ。

フィールド	タイプ	説明
sourceOrgId	String	インポートされたエクスポートパッケージを作成した組織の ID。
objects	コレクション	インポートに含まれるオブジェクト。
sourceObject	コレクション	objects オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクト。
id	String	sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトのグローバル一意識別子。
name	String	sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトの名前。
path	String	sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトの完全なパス。
type	String	sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトのタイプ。
description	String	sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトの説明。
targetObject	Collection	objects オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクト。
id	String	targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトのグローバル一意識別子。
name	String	targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトの名前。
path	String	targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトの完全なパス。
type	String	targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトのタイプ
description	String	targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトの説明。
status	String	targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトのステータス。
status	複合型	objects オブジェクトで返されます。 個々のオブジェクトのインポートステータス。

フィールド	タイプ	説明
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など個々のオブジェクトのインポート状態。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 個々のオブジェクトのインポートステータスメッセージ。

GET 要求の例

インポートジョブのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/import/2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

インポートジョブ内のそれぞれのオブジェクトのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/import/2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn?expand=objects
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

インポートジョブのログをダウンロードするには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/import/<id>/log
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

インポートジョブのステータスに対する要求が成功すると、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "id": "2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn",
  "createTime": "2017-10-26T08:40:09.000Z",
  "updateTime": "2017-10-26T08:55:56.000Z",
  "name": "ImportName",
  "startTime": "2017-10-26T08:55:53.000Z",
  "endTime": "2017-10-26T08:55:56.000Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Import completed successfully."
  },
  "objects": null,
  "sourceOrgId": "0V0x1gScNH7dLDyA4tD8yX"
}
```

要求に個々のオブジェクトのインポートステータスが含まれていた場合、成功時の応答は次の例のようになります。

```
{
  "id": "2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn",
  "createTime": "2017-10-26T08:40:09.000Z",
  "updateTime": "2017-10-26T08:55:56.000Z",
  "name": "ImportName",
  "startTime": "2017-10-26T08:55:53.000Z",
  "endTime": "2017-10-26T08:55:56.000Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Import completed successfully."
  },
  "objects": [
    {
      "sourceObject": {
```

```

      "id": "ejZY66c19YUccBdbGwKG4P",
      "name": "M1",
      "path": "/Default",
      "type": "MAPPING",
      "description": "ab"
    },
    "targetObject": {
      "id": null,
      "name": "M1",
      "path": "/default1",
      "type": "MAPPING",
      "description": null,
      "status": null
    },
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": "Reuse existing."
    }
  },
  {
    "sourceObject": {
      "id": "iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox",
      "name": "abc_map",
      "path": "/Default",
      "type": "MAPPING",
      "description": ""
    },
    "targetObject": {
      "id": null,
      "name": "abc_map",
      "path": "/default1",
      "type": "MAPPING",
      "description": null,
      "status": null
    },
    "status": {
      "state": "SUCCESSFUL",
      "message": "Overwrite existing."
    }
  }
],
"sourceOrgId": "0V0x1gScNH7dLDyA4tD8yX"
}

```

インポートジョブのログを要求した場合、返されるテキストファイルの内容は次の例ようになります。

```

> OIE_002 INFO 2019-02-07T01:02:24.986Z Starting import operation.
Execution Client: API
Job Name: ImportExportMapping2-1541009746833
Organization: infadoc
RequestId: 68srkYNhdSkdKCKfLBGxyd
User: janer2
> OIE_006 INFO 2019-02-07T01:02:25.416Z Successfully imported object [/Explore/ImportExport] of type [Project]
id [3z0FL8tjqEbznWvBV9LWR] to [/Explore/ImportExport]
> OIE_006 INFO 2019-02-07T01:02:25.931Z Successfully imported object [/SYS/CustFF] of type [SAAS_CONNECTION]
id [76c7oud5pBzlyAC3tdfVK2] to [/SYS/CustFF]
> OIE_006 INFO 2019-02-07T01:02:26.598Z Successfully imported object [/Explore/ImportExport/
ImportExportMapping2] of type [MAPPING] id [09wsnChCzuYL90WCy6PKIe] to [/Explore/ImportExport/
ImportExportMapping2]
> OIE_003 INFO 2019-02-07T01:02:26.598Z Finished import operation.
Job Name: ImportExportMapping2-1541009746833
Start Time: 2019-02-07T01:02:24.915Z
End Time: 2019-02-07T01:02:26.598Z
Started by: janer2
Start Method: API
Source Organization: infadoc2
Status: SUCCESSFUL

```

IP アドレス

org リソースを使用して、信頼できる IP アドレス範囲のリストを取得し、信頼できる IP アドレス範囲を追加します。また、信頼できる IP アドレスフィルタリングを有効または無効にすることもできます。

注: サブ組織の信頼済み IP 範囲は、親組織の信頼済み IP 範囲に依存していません。

GET 要求

組織またはサブ組織の信頼済み IP アドレス範囲のリストを要求するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/TrustedIP

GET 応答

要求が成功した場合、応答には組織に関する次のような情報が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
orgId	String	組織 ID
enableIP	Boolean	IP アドレスフィルタリングが有効かどうかを示します。
ipRanges	リスト	組織の信頼済み IP アドレスの範囲。
startIP	文字列	ipRanges オブジェクトに含まれます。 信頼済み IP アドレスの範囲の最初の IP アドレス。
endIP	文字列	ipRanges オブジェクトに含まれます。 信頼済み IP アドレスの範囲の最後の IP アドレス。

GET の例

組織の信頼済み IP 範囲のリストを取得するには、次の例のような要求を送信します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIvdRfUuCCCLICcI/TrustedIP
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "6MRgiMIvdRfUuCCCLICcI",
  "enableIP": false,
  "ipRanges": [
    {
      "startIP": "10.29.5.1",
      "endIP": "10.29.5.2"
    }
  ]
}
```

PUT 要求

組織またはサブ組織の信頼できる IP 範囲の値を追加し、信頼できる IP 範囲を有効または無効にするには、次の URI を使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/TrustedIP

注: 組織に信頼済み IP アドレス範囲を追加すると、既存の信頼済み IP アドレス範囲が上書きされます。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
enableIP	Boolean	いいえ	IP アドレスフィルタリングを有効にするかどうかを示します。有効にした場合、少なくとも 1 つの IP アドレス範囲を指定する必要があります。
ipRanges	リスト	いいえ	組織の IP アドレス範囲。
startIP	文字列	いいえ	ipRanges オブジェクトに含まれます。 信頼済み IP アドレスの範囲の最初の IP アドレス。
endIP	文字列	いいえ	ipRanges オブジェクトに含まれます。 信頼済み IP アドレスの範囲の最後の IP アドレス。

PUT 応答

要求が成功した場合、応答には指定した組織の信頼済み IP アドレス情報が含まれます。

PUT 要求の例

組織の信頼済み IP アドレス機能を有効にし、信頼済み IP アドレスの範囲を追加するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIvdRfUuCCCLICcI/TrustedIP
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "enableIP": true,
  "ipRanges": [
    {
      "startIP": "10.29.4.5",
      "endIP": "10.29.5.2"
    }
  ]
}
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "6MRgiMIvdRfUuCCCLICcI",
  "enableIP": true,
  "ipRanges": [
    {
      "startIP": "10.29.4.5",
      "endIP": "10.29.5.2"
    }
  ]
}
```

複数の範囲の信頼済み IP アドレスを追加するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIvdRfUuCCCLICcI/TrustedIP
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "enableIP": true,
  "ipRanges": [{ "startIP": "10.29.4.5", "endIP": "10.29.5.2"}, { "startIP": "10.29.10.1", "endIP": "10.29.10.5"}, { "startIP": "10.29.11.1", "endIP": "10.29.11.5"}]
}
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "6MRgiMIvdRfUuCCCLICcI",
```

```

    "enableIP": true,
    "ipRanges": [
      {
        "startIP": "10.29.4.5",
        "endIP": "10.29.5.2"
      },
      {
        "startIP": "10.29.10.1",
        "endIP": "10.29.10.5"
      }
    ],
    {
      "startIP": "10.29.11.1",
      "endIP": "10.29.11.5"
    }
  ]
}

```

キーのローテーション

キーリソースを使用して、組織の暗号化キーのローテーション設定に関する情報を取得し、設定を変更します。キーのローテーション設定を表示または変更するには、キー管理者のロールが必要です。

キーのローテーション間隔設定の取得

キーリソースを使用して、組織の現在のキーのローテーション間隔と有効なキーのローテーション間隔を確認できます。

GET 要求

キーのローテーション間隔の詳細を取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/key/rotationSettings

GET 応答

成功した場合、次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
validRotationIntervals	List <String>	キーの有効なローテーション間隔。現在のキーのローテーション間隔をこれらの値のいずれかに変更するには、PATCH 要求を送信します。
rotationInterval	String	組織で使用されているキーの現在のローテーション間隔。

GET 要求の例

キー間隔のローテーションの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```

GET <baseApiUrl>/public/core/v3/key/rotationSettings
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>

```

GET 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "orgId": "52ZSTB0IDK6dXxEQLUaQu",
  "validRotationIntervals": [
    "90_DAYS",
    "120_DAYS",
    "180_DAYS",
    "365_DAYS"
  ],
  "rotationInterval": "365_DAYS"
}
```

キーのローテーション間隔の変更

キーリソースを使用して、組織のキーローテーション間隔を変更できます。

PATCH 要求

キーのローテーション間隔を変更するには、次の URI を使用して PATCH 要求を送信します。

/public/core/v3/key/rotationSettings

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
rotationInterval	String	○	組織で使用するキーのローテーション間隔。以下のいずれかの値を使用します。 - 90_DAYS - 120_DAYS - 180_DAYS - 365_DAYS デフォルトは 365_DAYS です。

PATCH 応答

成功したら成功コードを、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

PATCH の例

組織のキーのローテーション間隔を変更するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/key/rotationSettings
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "rotationInterval": "120_DAYS"
}
```

ライセンス

リソースを使用して、組織のライセンス情報を取得し、ライセンスをサブ組織に割り当てます。ライセンスをサブ組織に割り当てるには、管理者として親組織にログインする必要があります。

ライセンスリソースを使用して、次の要求を送信できます。

- 組織のエディション、カスタムライセンス、カスタム制限を取得する GET 要求。
- サブ組織のライセンス情報を更新する PUT 要求。

ライセンスの詳細の取得

GET 要求を使用して、組織のエディション、カスタムライセンス、カスタム制限を取得します。

GET 要求

組織またはサブ組織のライセンス情報を要求するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/license/org/<orgId>`

GET 応答

成功したら要求されたライセンス情報を、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

成功すると、指定した組織 ID の次のライセンス情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
customLicenses	リスト	組織のカスタムライセンスに関する情報。
licenseDef	String	customLicenses オブジェクトに含まれています。 カスタムライセンスの一意の識別子。
expirationDate	String	customLicenses オブジェクトに含まれています。 ライセンスの有効期限が切れる時刻。
licenseType		カスタムライセンスオブジェクトに含まれています。 ライセンスのタイプ。 次の値が含まれます。 - TRIAL - SUBSCRIPTION - FREE - NONE
assignedEditions	リスト	エディションオブジェクトの組織のエディションに関する情報。
edition	String	エディションオブジェクトに含まれています。 制限の一意の識別子。
expirationDate	String	エディションオブジェクトに含まれています。 エディションの期限日。
customLimits	リスト	組織のカスタム制限に関する情報。

フィールド	タイプ	説明
limitDefinition	String	customLimit オブジェクトに含まれています。 制限の一意の識別子。
value	Integer	customLimit オブジェクトに含まれています。 制限の最大使用回数。 最大制限数がない場合は、-1 を使用します。

GET の例

次の例で、組織のライセンス情報に関する要求を示します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/license/org/1ax3wad2FEsz35asd2892s
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

応答には、次の例のような組織のライセンス情報が含まれます。

```
{
  "id": "1ax3wad2FEsz35asd2892s",
  "parentOrg": null,
  "customLicenses": [
    {
      "licenseType": "SUBSCRIPTION",
      "expirationDate": "2017-11-05T18:01:24Z",
      "licenseDef": "a5Xjp3VF3sjcyZUDa6UaWh"
    }
  ],
  "assignedEditions": [
    {
      "expirationDate": "2017-11-05T18:01:24Z",
      "edition": "4sdvnCrYEjfcKjTvAoigEF"
    },
    {
      "expirationDate": "2018-10-06T18:00:08Z",
      "edition": "5SPzPwEFvBEs8LzVwXX4K"
    }
  ],
  "customLimits": [
    {
      "value": -1,
      "limitDefinition": "09cX4TmilqSfrS9970RMVl"
    }
  ]
}
```

サブ組織のライセンスの更新

PUT 要求を使用して、サブ組織のライセンス情報を更新します。

PUT 要求

サブ組織のライセンスを更新するには、管理者として親組織にログインする必要があります。

この要求によって、サブ組織のライセンスを要求のライセンスで上書きします。サブ組織のライセンスを変更するには、まずサブ組織のライセンス情報を要求し、オブジェクトに変更を加えてから、それを要求本文として使用します。

サブ組織のライセンス情報を更新するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/license/org/<orgId>
```

PUT 応答

成功したら成功コードを、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

PUT の例

サブ組織のライセンスを変更するには、次の要求を使用できます。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/license/org/<orgId>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "customLicenses": [
    {
      "licenseType": "SUBSCRIPTION",
      "expirationDate": "2017-11-05T18:01:24Z",
      "licenseDef": "a5Xjp3VF3sjcyZUDa6UaWh"
    }
  ],
  "assignedEditions": [
    {
      "expirationDate": "2017-11-05T18:01:24Z",
      "edition": "4sdvnCrYEjfcKjTvAoigEF"
    },
    {
      "expirationDate": "2018-10-06T18:00:08Z",
      "edition": "5SPzPwEFvBEs8LzVwXX4K"
    }
  ],
  "customLimits": [
    {
      "value": -1,
      "limitDefinition": "09cX4TmilqSfrS997ORMYl"
    }
  ]
}
```

ログイン

ログインリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services にログインし、バージョン 3 REST API リソースを使用します。

ログイン応答には、セッション中に実行する REST API 呼び出しに含める必要があるセッション ID とベース URL が含まれています。

ログイン応答で返される次のフィールドの値を使用します。

- sessionId。REST API 呼び出しのヘッダーに含まれる、REST API セッション ID。
セッション ID の詳細については、「[「セッション ID」 \(ページ 22\)](#)」を参照してください。
- baseApiUrl。ログインを除くすべてのバージョン 3 のリソース URI で使用するベース URL。例えば、次のようになります。
<baseApiUrl>/public/core/v3/<リソース>

注: チームでは、開発用の組織とテスト用の組織など、複数の組織を使用している場合があります。ログインに使用するユーザー資格情報によって、アクセスする組織が決定されます。

POST 要求

ログインするには、次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/login`

クラウドプロバイダとリージョンの値は、組織が使用する POD（デプロイメントのポイント）の名前に対応します。次の表に、POD 名と、ログイン URL で使用する、それに対応するクラウドプロバイダとリージョンを示します。

POD 名	クラウドプロバイダ - リージョン
USW1	dm-us
USE2	dm-us
USW3	dm-us
USE4	dm-us
USW5	dm-us
USE6	dm-us
USW1-1	dm1-us
USW3-1	dm1-us
USW1-2	dm2-us
CAC1	dm-na
APSE1	dm-ap
APSE2	dm1-apse
APNE1	dm1-ap
APNE2	dm-apne
APAUC1	dm1-apau
EMW1	dm-em
EMC1	dm1-em
UK1	dm-uk

例えば、組織で APNE1 POD を使用している場合は、次の URL を使用します。

<https://dm1-ap.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/login>

組織が使用している POD の名前がわからない場合は、組織の管理者または Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

POD 名、対応するクラウドプロバイダ、およびリージョンの詳細については、ナレッジベースの「[Product Availability Matrix \(PAM\) for Informatica Intelligent Cloud Services](#)」を参照してください。

ログインオブジェクトの次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
username	String	○	ログインする組織の Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。 最大長は 255 文字です。
password	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。 最大長は 255 文字です。

POST 応答

要求が正常に実行された場合はユーザー情報を返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

このセッション中は、後続の要求の応答で返されるベース URL とセッション ID を使用します。

正常に実行された要求は次のオブジェクトを返します。

フィールド	タイプ	説明
製品	コレクション	登録された Informatica 製品。
name	String	製品名。
baseApiUrl	String	製品オブジェクトに返されます。 製品の Base API URL。REST API 要求に使用します。
userInfo	コレクション	ユーザー情報。
sessionId	String	userInfo オブジェクトに返されます。 現在のセッションの REST API セッション ID。最も正確な REST API 要求ヘッダーに使用します。
id	String	userInfo オブジェクトに返されます。 ユーザー ID。
name	String	ユーザー名。
parentOrgId	String	親組織の組織 ID。
orgId	String	userInfo オブジェクトに返されます。 ユーザーが属する組織の ID。 22 文字。
orgName	String	userInfo オブジェクトに返されます。 組織名。
groups	コレクション	ユーザーのユーザーグループ情報。
status	String	ユーザーのステータス。 次のいずれかの値を返します。 - アクティブ - 非アクティブ

POST の例

所属する Informatica Intelligent Cloud Services 組織にログインするには、次の要求を使用できます。

```
POST https://dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/login
Content-Type: application/json
Accept: application/json
```

```
{
  "username": "user@informatica.com",
  "password": "mypassword"
}
```

正常に実行された場合、次の例に示すように、応答には、後続の呼び出しに使用するために baseApiUrl および sessionId の値を含む製品と userInfo オブジェクトが含まれます。

```
{
  "products": [
    {
      "name": "Integration Cloud",
      "baseApiUrl": "https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas"
    }
  ],
  "userInfo": {
    "id": "9L1GFroXSDHe2IIg7QhBaT",
    "name": "user",
    "parentOrgId": "52ZSTB0IDK6dXxaEQLUaQu",
    "orgId": "0cuQSDTq5sikvN7x8r1xm1",
    "orgName": "MyOrg_INFA",
    "groups": {},
    "status": "Active"
  }
}
```

例として上記の応答のセッション ID とベース URL の値を使用し、GET 要求を送信してライセンス情報を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/license/org/0cuQSDTq5sikvN7x8r1xm1
Content-Type: application/json
Accept: application/json
```

ログアウト

ログアウトリソースを使用して、組織からログアウトし、要求で指定したバージョン 3 REST API セッションを終了します。

送信したすべての要求が実行されるまで、REST API セッションからログアウトしないでください。

POST 要求

組織からログアウトして、バージョン 3 REST API セッションを終了するには、次の URI を使用して要求ヘッダーにセッション ID を含めます。

```
https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/logout
```

POST 応答

要求が正常に実行された場合は 200 個の応答コードを返し、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

POST の例

組織からログアウトするには、次の要求を使用します。

```
POST https://dm-us.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/logout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

ルックアップ

ルックアップリソースを使用して、オブジェクトの ID、名前、パス、またはタイプの属性をルックアップします。

POST 要求

このリソースは、通常、エクスポート要求やジョブ要求で使用するオブジェクトの ID を取得するのに使用されます。このリソースを使用してオブジェクトの ID を取得する際には、ルックアップ要求にオブジェクトのパスとタイプを含めます。

ジョブ要求の場合は、ジョブ要求のフェデレーションタスク ID フィールドのルックアップ応答で返される ID フィールドの値を使用します。

ルックアップ情報を要求するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/lookup
```

objects オブジェクトに次のフィールドを使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	オブジェクトのパスとタイプが含まれない場合に必要です。	オブジェクトのグローバル意識別子。
path	String	オブジェクト ID が含まれない場合にタイプで必要です。	プロジェクト、フォルダ、およびオブジェクト名を含むオブジェクトのフルパス。
type	String	オブジェクト ID が含まれない場合にパスで必要です。	<p>オブジェクトのタイプ。</p> <p>次のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PROJECT - FOLDER <p>または、次のアセットタイプのいずれかを使用します。</p> <p>データ統合の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - DTEMPLATE。マッピング。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。 - DTT。データ転送タスク。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。 - MAPPLET。PowerCenter マップレット。 - CONNECTION。 - AGENT。Secure Agent。 - AGENTGROUP。ランタイム環境。 - BSERVICE。ビジネスサービス定義。 - HSCHEMA。階層スキーマ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - FWCONFIG。固定長の設定。 - CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。 - MI_FILE_LISTENER。ファイルリスナ。 - MI_TASK。ファイル取り込みとレプリケーション。 - DBMI_TASK。データベース取り込みとレプリケーション。 - APPMI_TASK。アプリケーション取り込みとレプリケーション。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - SCHEDULE - SCHEDULE_JOB - SCHEDULE_BLACKOUT。スケジュールのブラックアウト期間。 - TASKFLOW - UDF。ユーザー定義関数。 <p>アプリケーションの統合の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PROCESS - GUIDE - AI_CONNECTION - AI_SERVICE_CONNECTOR - PROCESS_OBJECT <p>Data Quality の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CLEANSE - DEDUPLICATE - DICTIONARY

フィールド	タイプ	必須	説明
			<ul style="list-style-type: none"> - EXCEPTION - LABELER - PARSE - RULE_SPECIFICATION - VERIFIER <p>B2B ゲートウェイの場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - B2BGW_MONITOR - B2BGW_CUSTOMER - B2BGW_SUPPLIER <p>オブジェクトタイプは大文字と小文字を区別しません。</p>

POST 応答

成功した場合はオブジェクト情報を、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

正常に実行された場合は、各オブジェクトの次のルックアップ情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
objects	コレクション	ルックアップが要求されるオブジェクトのコレクション。
id	String	オブジェクトのグローバル一意識別子。ジョブ要求を送信する際にはこのフィールドの値を taskFederatedId の値として使用します。
path	String	プロジェクト、フォルダ、およびオブジェクト名を含むオブジェクトのフルパス。
type	String	オブジェクトのタイプ。
description	String	オブジェクトの説明。
updatedBy	String	スケジュールを更新したユーザー。
updateTime	String	オブジェクトの最終変更日時。

POST の例

次の例は、8つのオブジェクトのルックアップ要求を示しています。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/lookup
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
```

```
{
  "objects": [{
    "id": "2iXOKghGpySlgv6ifQImyl"
  }, {
    "path": "Default/Synchronization Task1",
    "type": "DSS"
  }, {
    "id": "hTrrjm1kawScIm1BGEj6UV"
  }, {
    "path": "My Project",
    "type": "Project"
  }, {
```

```

        "path" : "My Project/DSS Tasks Folder",
        "type" : "Folder"
    }, {
        "path": "USW1R90FPZXD",
        "type": "Agent"
    }, {
        "path": "USW1R90FPZXD",
        "type": "AgentGroup"
    }, {
        "path": "FF_Conn_1",
        "type": "Connection"
    }
}

```

応答には、次の例に示されるように各オブジェクトのルックアップ情報が含まれます。

```

{
  "objects": [
    {
      "id": "2iXOKghGpySlgv6ifQImyl",
      "path": "Default/Mapping1",
      "type": "DTEMPLATE",
      "description": "My Mapping 1",
      "updateTime": "2018-04-13T20:44:37Z"
    },
    {
      "id": "1f0qrwpFvLkimAkFFvIiwl",
      "path": "Default/Synchronization Task1",
      "type": "DSS",
      "description": "Sync Data Task",
      "updateTime": "2018-04-13T20:45:44Z"
    },
    {
      "id": "hTrrjm1kawScIm1BGEj6UV",
      "path": "My Project/Linear Taskflow1",
      "type": "WORKFLOW",
      "description": null,
      "updateTime": "2018-04-13T20:50:31Z"
    },
    {
      "id": "0EzsUXQ1RnkbKD6VyOukCb",
      "path": "My Project",
      "type": "Project",
      "description": "",
      "updateTime": "2018-04-13T20:40:07Z"
    },
    {
      "id": "dRncMcUVou5lh5kihmEAWL",
      "path": "My Project/DSS Tasks Folder",
      "type": "Folder",
      "description": "DSS Tasks",
      "updateTime": "2018-04-13T20:49:17Z"
    },
    {
      "id": "1a8moeCNtm4fh5vGcUhx0j",
      "path": "USW1R90FPZXD",
      "type": "AGENT",
      "description": null,
      "updateTime": "2018-04-12T19:01:16Z"
    },
    {
      "id": "9iJP8TdB0MujA7eH2CTm8l",
      "path": "USW1R90FPZXD",
      "type": "AgentGroup",
      "description": null,
      "updateTime": "2018-04-12T19:01:17Z"
    },
    {
      "id": "5Vkw0w6Jd8Rg1XEkdDu0ya",
      "path": "FF_Conn_1",
      "type": "Connection",

```

```

        "description": null,
        "updateTime": "2018-04-12T21:34:11Z"
    }
]
}

```

メータリングデータ

組織に Intelligent Cloud Data Management 機能がある場合は、REST API を使用してメータリング使用率データをダウンロードできます。

メータリングデータをダウンロードするには、エクスポートジョブ要求を送信し、ジョブの状態を確認してから、データを含む ZIP ファイルをダウンロードします。

以下のデータをダウンロードできます。

サマリ IPU 使用率データ

指定された日付範囲における、プロダクション組織、追加プロダクション組織、サブ組織、およびサンドボックス組織のサマリ IPU 使用率データをダウンロードできます。ZIP ファイルには、要求元の組織とその配下の組織のデータが含まれています。

例えば、要求元の組織がプロダクション組織である場合、ZIP ファイルには、プロダクション組織とその追加プロダクション組織、サブ組織、およびサンドボックス組織のデータが含まれます。要求元の組織がサブ組織を持つ追加プロダクション組織である場合、ZIP ファイルには追加プロダクション組織とそのサブ組織のデータが含まれます。

すべての組織の使用状況情報は、1 つの CSV ファイルで要求するか、組織ごとに個別の CSV ファイルを受け取ることができます。

プロジェクトレベルの詳細

指定した日付範囲のプロジェクトおよびフォルダごとにメータリングデータをダウンロードできます。

デフォルトでは、ZIP ファイルには要求元の組織のデータのみが含まれます。要求元の組織とそのサブ組織のデータの受信を要求することもできます。

すべての組織の使用状況情報は、1 つの CSV ファイルで要求するか、組織ごとに個別の CSV ファイルを受け取ることができます。

アセットレベルの詳細

指定した日付範囲のアセット別にメータリングデータをダウンロードできます。要求でメーター ID を指定して、特定のメーターの使用状況情報を受け取ることもできます。

ジョブレベルの詳細

サービスがジョブレベルの詳細レポートをサポートしている場合は、指定した日付範囲のジョブレベルの詳細をダウンロードできます。特定のメーターまたはすべてのメーターのジョブレベルの詳細を要求できます。ZIP ファイルには、要求元の組織のデータが含まれます。

要求でメーター ID を指定して、特定のメーターの使用状況情報を受け取ることもできます。

注: 組織は、最大 5 つのアクティブなジョブを持つことができます。ステータスが CREATED または PROCESSING の場合、ジョブはアクティブです。

IPU 使用状況データのサマリの要求

指定された日付範囲の親組織と、追加プロダクション組織、サブ組織、およびサンドボックス組織などのリンクされた組織のサマリ IPU 使用率データをエクスポートするジョブを実行できます。

サマリ IPU 使用率データを要求して受信するには、親組織およびリンクされたすべての組織へのアクセス権が必要です。

ジョブの開始後、ジョブのステータスを確認できます。詳細については、「[メータリングデータのエクスポートジョブのステータスの取得](#)」(ページ 193)を参照してください。

ジョブが正常に完了した後に、データをダウンロードする要求を送信できます。データファイルには、次のようなカラムが含まれています。

OrgId
MeterId
MeterName
日付
BillingPeriodStartDate
BillingPeriodEndDate
MeterUsage
IPU
スカラ
MetricCategory
OrgName
OrgType
IPURate

注: IPU 使用率のサマリデータを要求するために使用できる REST API リソースは 2 つあります。これらのリソースは同じデータを返します。

新しい REST API リソースでのサマリデータの要求

すべての新しいエクスポート要求には、ExportMeteringData リソースを使用します。

POST 要求

エクスポートジョブ要求を送信するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
startDate	String	○	ISO 8601 形式の日付範囲の開始。例: 2022-08-12T00:00:00Z
endDate	String	○	ISO 8601 形式の日付範囲の終了。 サマリデータを要求する場合、範囲は最大 180 日です。
jobType	String	○	エクスポートするメータリングデータのタイプ。 SUMMARY を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
combinedMeterUsage	文字列	-	すべての組織の使用状況情報を 1 つの CSV ファイルに返すかどうかを示します。次のいずれかの値を含めます。 - TRUE。すべての組織の使用状況情報を 1 つの CSV ファイルで返します。 - FALSE。それぞれの組織の使用状況情報を個別の CSV ファイルで返します。 デフォルトは FALSE です。
allLinkedOrgs	文字列	-	親組織とそのすべてのリンクされた組織から使用状況情報を返すかどうかを示します。次のいずれかの値を含めます。 - TRUE。親組織とリンクされたすべての組織の使用状況情報を返します。 - FALSE。親組織の使用状況情報のみを返します。 デフォルトは FALSE です。
callbackUrl	文字列	-	サービスがジョブのステータスをポストする、有効かつパブリッシュされた URL。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "startDate": "2024-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2024-09-12T00:00:00Z",
  "jobType": "SUMMARY",
  "combinedMeterUsage": "TRUE",
  "allLinkedOrgs": "TRUE",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com"
}
```

POST 応答

次の表に、応答フィールドを示します。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	エクスポートジョブの ID。
status	String	エクスポートジョブのステータス。
orgId	String	要求元の組織の組織 ID。
userId	String	要求を送信したユーザーの ID。
selectedOrgId	String	要求元の組織の組織 ID。
meterId	文字列	メーター ID。
startDate	文字列	日付範囲の開始日。

フィールド	タイプ	説明
endDate	文字列	日付範囲の終了日。
callbackUrl	String	サービスがジョブステータスを送信するために使用する URL。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "CREATED",
  "orgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTS0Y",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZ0r",
  "selectedOrgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTS0Y",
  "meterId": null,
  "startDate": "2024-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2024-09-12T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": "2024-09-12T23:22:20Z",
  "updateTime": "2024-09-12T23:22:20Z"
}
```

古い REST API リソースでのサマリデータの要求

既存のエクスポート要求には、引き続き ExportMeteringDataAllLinkedOrgsAcrossRegion リソースを使用できます。

POST 要求

エクスポートジョブ要求を送信するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringDataAllLinkedOrgsAcrossRegion

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
startDate	日付/時刻	○	日付範囲の開始日。
endDate	日付/時刻	○	日付範囲の終了日。 範囲は最大 180 日です。

フィールド	タイプ	必須	説明
combinedMeterUsage	Boolean	-	すべての組織の使用状況情報を 1 つの CSV ファイルに返すかどうかを示します。次のいずれかの値を含めます。 - TRUE。すべての組織の使用状況情報を 1 つの CSV ファイルで返します。 - FALSE。それぞれの組織の使用状況情報を個別の CSV ファイルで返します。 デフォルトは FALSE です。
callbackUrl	String	-	サービスがジョブのステータスをポストする、有効かつパブリッシュされた URL。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringDataAllLinkedOrgsAcrossRegion
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "startDate": "2022-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2022-10-25T00:00:00Z",
  "combinedMeterUsage": "FALSE",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com"
}
```

POST 応答

次の表に、応答フィールドを示します。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	エクスポートジョブの ID。
status	String	エクスポートジョブのステータス。
errorMessage	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ（存在する場合）。
orgId	String	要求元の組織の組織 ID。
userId	String	要求を送信したユーザーの ID。
selectedOrgId	String	要求元の組織の組織 ID。
startDate	日付/時刻	日付範囲の開始日。
endDate	日付/時刻	日付範囲の終了日。
callbackUrl	String	サービスがジョブステータスを送信するために使用する URL。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。

フィールド	タイプ	説明
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。
combinedMeterUsage	Boolean	すべての組織の使用状況データを 1 つの CSV ファイルで返すかどうかを示します。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "CREATED",
  "orgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY",
  "startDate": "2020-01-01T10:00:00Z",
  "endDate": "2022-12-31T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": null,
  "updateTime": null,
  "combinedMeterUsage": "FALSE"
}
```

エラーが発生した場合、応答は次の例のようになります。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "FAILED",
  "errorMessage": "Exception occurred while processing request for org:
4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY. \ncom.informatica.cloud.errorutil.MicroServiceException: Get
meter usage request failed with exception: I/O error on POST request",
  "orgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY",
  "startDate": "2020-01-01T10:00:00Z",
  "endDate": "2022-12-31T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": null,
  "updateTime": null,
  "combinedMeterUsage": "FALSE"
}
```

プロジェクトレベルのメータリングデータの要求

IPU 消費データをプロジェクト別およびフォルダ別にエクスポートするジョブを実行できます。

ジョブの開始後、ジョブのステータスを確認できます。詳細については、「[メータリングデータのエクスポートジョブのステータスの取得](#)」 (ページ 193) を参照してください。

ジョブが正常に完了した後に、データをダウンロードする要求を送信できます。データファイルには、次のようなカラムが含まれています。

- 日付
- プロジェクト
- フォルダー
- 組織 ID
- 組織タイプ
- 消費量 (IPU)

注: データファイルには、Informatica 製品の Data Integration などの機能ごとにメーターに表示される使用量のみが含まれます。

POST 要求

エクスポートジョブ要求を送信するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
startDate	String	○	ISO 8601 形式の日付範囲の開始。例: 2022-08-12T00:00:00Z
endDate	String	○	ISO 8601 形式の日付範囲の終了。 プロジェクトレベルのデータを要求する場合、範囲は最大 30 日間です。
jobType	String	○	エクスポートするメータリングデータのタイプ。 PROJECT_FOLDER を使用します。
combinedMeterUsage	文字列	-	すべての組織の使用状況情報を 1 つの CSV ファイルに返すかどうかを示します。次のいずれかの値を含めます。 <ul style="list-style-type: none">- TRUE。すべての組織の使用状況情報を 1 つの CSV ファイルで返します。- FALSE。それぞれの組織の使用状況情報を個別の CSV ファイルで返します。 デフォルトは FALSE です。
allLinkedOrgs	文字列	-	親組織とそのすべてのリンクされた組織から使用状況情報を返すかどうかを示します。次のいずれかの値を含めます。 <ul style="list-style-type: none">- TRUE。親組織とリンクされたすべての組織の使用状況情報を返します。- FALSE。親組織の使用状況情報のみを返します。 デフォルトは FALSE です。
callbackUrl	文字列	-	サービスがジョブのステータスをポストする、有効かつパブリッシュされた URL。

POST 要求の例

エクスポートジョブ要求を送信するには、次の例のような要求を使用します。

```
POST <BaseApiUrl>/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "startDate": "2024-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2024-09-12T00:00:00Z",
  "jobType": "PROJECT_FOLDER",
  "combinedMeterUsage": "TRUE",
  "allLinkedOrgs": "TRUE",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com"
}
```

POST 応答

次の表に、応答フィールドを示します。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	エクスポートジョブの ID。
status	String	エクスポートジョブのステータス。
orgId	String	要求元の組織の組織 ID。
userId	String	要求を送信したユーザーの ID。
selectedOrgId	String	要求元の組織の組織 ID。
meterId	文字列	メーター ID。
startDate	文字列	日付範囲の開始日。
endDate	文字列	日付範囲の終了日。
callbackUrl	String	サービスがジョブステータスを送信するために使用する URL。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "CREATED",
  "orgId": "4wMFqGLxAKVLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "4wMFqGLxAKVLIFTixlTSOY",
  "meterId": null,
  "startDate": "2024-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2024-09-12T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": "2024-09-12T23:21:19Z",
  "updateTime": "2024-09-12T23:21:19Z"
}
```

アセットレベルのデータの要求

メータリングデータをアセット別にエクスポートするジョブを実行できます。

ジョブの開始後、ジョブのステータスを確認できます。詳細については、「[「メータリングデータのエクスポートジョブのステータスの取得」 \(ページ 193\)](#)」を参照してください。

ジョブが正常に完了した後に、データをダウンロードする要求を送信できます。データファイルには、次のようなカラムが含まれています。

メーター ID
メーター名

日付
アセット名
アセットタイプ
プロジェクト
フォルダー
組織 ID
組織タイプ
環境名
環境タイプ
層
単位あたりの IPU
使用率
消費(IPU)

POST 要求

エクスポートジョブ要求を送信するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
startDate	String	○	ISO 8601 形式の日付範囲の開始。例: 2022-08-12T00:00:00Z
endDate	String	○	ISO 8601 形式の日付範囲の終了。 アセットレベルのデータを要求する場合、範囲は最大 30 日間です。
meterId	文字列	-	単一のメーターのデータを要求するメーター ID。メーター ID を指定しない場合は、すべてのメーターのデータが含まれます。 有効な値については、「 メーター ID 」(ページ 197)を参照してください。
jobType	String	○	エクスポートするメータリングデータのタイプ。 ASSET を使用します。
callbackUrl	文字列	-	サービスがジョブのステータスをポストする、有効かつパブリッシュされた URL。

POST 要求の例

エクスポートジョブを送信するには、次の例のような要求を使用します。

```
POST <BaseApiUrl>/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "startDate": "2024-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2024-09-12T00:00:00Z",
  "meterId": "a2nB20h1o0lc7k3P9xtWS8",
  "jobType": "ASSET",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com"
}
```

POST 応答

次の表に、応答フィールドを示します。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	エクスポートジョブの ID。
status	String	エクスポートジョブのステータス。
orgId	String	要求元の組織の組織 ID。
userId	String	要求を送信したユーザーの ID。
selectedOrgId	String	要求元の組織の組織 ID。
meterId	文字列	メーター ID。
startDate	文字列	日付範囲の開始日。
endDate	文字列	日付範囲の終了日。
callbackUrl	String	サービスがジョブステータスを送信するために使用する URL。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "CREATED",
  "orgId": "4wMFqGLxAKVLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZ0r",
  "selectedOrgId": "4wMFqGLxAKVLIFTixlTSOY",
  "meterId": "a2nB20h1o0lc7k3P9xtWS8",
  "startDate": "2024-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2024-09-12T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": "2024-09-12T23:19:21Z",
  "updateTime": "2024-09-12T23:19:21Z"
}
```

ジョブレベルのメータリングデータの要求

特定のメーターについては、ジョブを実行して、特定のサービスおよび指定された日付範囲のメーターのジョブレベルの詳細をエクスポートできます。

ジョブの開始後、ジョブのステータスを確認できます。ジョブが正常に完了した後に、データをダウンロードする要求を送信できます。詳細については、「[メータリングデータのエクスポートジョブのステータスの取得](#)」(ページ 193)を参照してください。

POST 要求

エクスポートジョブ要求を送信するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/license/metering/ExportServiceJobLevelMeteringData

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
startDate	日付/時刻	○	日付範囲の開始日。
endDate	日付/時刻	○	日付範囲の終了日。 範囲は最大 180 日です。
allMeters	Boolean	meterId が空白の場合は必須です。	すべてのメーターの使用状況情報を返すかどうかを示します。次のいずれかの値を含めます。 <ul style="list-style-type: none">- TRUE。すべてのメーターの使用状況情報を返します。- FALSE。meterId フィールドで指定されたメーターの使用状況情報を返します。 デフォルトは FALSE です。
meterId	String	allMeters が FALSE の場合は必須です。	メーター ID。有効な値については、「 メーター ID 」(ページ 197)を参照してください。
callbackUrl	String	-	サービスがジョブのステータスをポストする、有効かつパブリッシュされた URL。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/license/metering/ExportServiceJobLevelMeteringData
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "startDate": "2022-08-12T00:00:00Z",
  "endDate": "2022-10-25T00:00:00Z",
  "allMeters": "FALSE",
  "meterId": "3TaYTMo6BFYeNIABfVmH0n",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com"
}
```

POST 応答

次の表に、応答フィールドを示します。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	エクスポートジョブの ID。
status	String	エクスポートジョブのステータス。
errorMessage	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ（存在する場合）。
orgId	String	要求元の組織の組織 ID。
userId	String	要求を送信したユーザーの ID。
selectedOrgId	String	要求元の組織の組織 ID。
allMeters	Boolean	すべてのメーターの使用状況情報が含まれるかどうかを示します。

フィールド	タイプ	説明
meterId	String	メーター ID。
startDate	日付/時刻	日付範囲の開始日。
endDate	日付/時刻	日付範囲の終了日。
callbackUrl	String	サービスがジョブステータスを送信するために使用する URL。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "CREATED",
  "orgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY",
  "allMeters": "FALSE",
  "meterId": "3TaYTMo6BFYeNIABfVmH0n",
  "startDate": "2020-01-01T10:00:00Z",
  "endDate": "2022-12-31T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": null,
  "updateTime": null
}
```

エラーが発生した場合、応答は次の例のようになります。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSC1tSI",
  "status": "FAILED",
  "errorMessage": "Exception occurred while processing request for org: 4wMFqGlxAKVLIFTixlTSOY.\ncom.informatica.cloud.errorutil.MicroServiceException: Get meter usage request failed with exception: I/O error on POST request",
  "orgId": "3TaYTMo6BFYeNIABfVmH0n",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "3TaYTMo6BFYeNIABfVmH0n",
  "allMeters": "FALSE",
  "meterId": "3TaYTMo6BFYeNIABfVmH0n",
  "startDate": "2020-01-01T10:00:00Z",
  "endDate": "2022-12-31T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": null,
  "updateTime": null
}
```

メータリングデータのエクスポートジョブのステータスの取得

GET 要求を使用して、メータリングデータのエクスポートジョブのステータスを取得します。

GET 要求

エクスポートジョブのステータスを取得するには、次のいずれかの URI を使用します。

/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData/<jobId>

GET 応答

応答には次のフィールドが含まれます。

フィールド	タイプ	説明
jobId	String	エクスポートジョブの ID。
status	String	エクスポートジョブのステータス。次のいずれかの値が返されます。 <ul style="list-style-type: none">- CREATED- PROCESSING- SUCCESS- FAILED- PARTIAL_SUCCESS ステータスが PARTIAL_SUCCESS の場合、ジョブは完了しましたが、エラーにより、リンクされた一部の組織のデータは収集できませんでした。
errorMessage	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ（存在する場合）。
orgId	String	要求元の組織の組織 ID。
userId	String	要求を送信したユーザーの ID。
selectedOrgId	String	要求元の組織の組織 ID。
meterId	String	メーター ID。 ジョブレベルの詳細を要求するジョブに適用されます。
startDate	日付/時刻	日付範囲の開始日。
endDate	日付/時刻	日付範囲の終了日。
callbackUrl	String	サービスがジョブステータスを送信するために使用する URL。
createTime	String	エクスポートジョブが作成された時刻。
updateTime	String	エクスポートジョブが最後に更新された時刻。

GET 要求の例

エクスポートジョブのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData/411eKlA9ngChmu6gdv3FKs
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "411eKlA9ngChmu6gdv3FKs",
  "status": "SUCCESS",
  "orgId": "4wMFqGlxAKvLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "4wMFqGlxAKvLIFTixlTSOY",
  "meterId": null,
  "startDate": "2022-08-01T10:00:00Z",
  "endDate": "2022-12-31T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
```

```
"createTime": "2022-11-23T10:04:37Z",
"updateTime": "2022-11-23T10:04:37Z"
}
```

ジョブが部分的に成功した場合、応答は次の例のようになります。

```
{
  "jobId": "cYjwJNEF70ckWEmkSc1tSI",
  "status": "PARTIAL_SUCCESS",
  "errorMessage": "Short error message: [fetchEligibleJobForExecution] Exception in executing job. org.springframework.web.client.HttpServerErrorException$ServiceUnavailable: 503 Service Unavailable: \<html><body><h1>503 Service Unavailable</h1><EOL>No server is available to handle this request.<EOL></body></html><EOL>\",
  "orgId": "4wMFqGLxAKVLIFTixlTSOY",
  "userId": "aMxRLnYzdWtlkJvDbtPZOr",
  "selectedOrgId": "4wMFqGLxAKVLIFTixlTSOY",
  "meterId": null,
  "startDate": "2020-01-01T10:00:00Z",
  "endDate": "2022-12-31T00:00:00Z",
  "callbackUrl": "https://MyExportJobStatus.com",
  "createTime": null,
  "updateTime": null
}
```

カスタム IPU アラート設定の取得

GET 要求を使用して、組織またはタグに設定したカスタム IPU アラートしきい値を取得します。

GET 要求

組織のカスタム IPU アラート設定を取得するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/metering/ipuAlert/org('<organization Id>')
```

タグのカスタム IPU アラート設定を取得するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/metering/ipuAlert/org('<organization Id')/viewTagsPreference
```

GET 応答

応答には、組織の設定の次のフィールドが含まれます。

フィールド	タイプ	説明
orgName	文字列	組織の名前。
orgId	文字列	組織の ID。
parentOrgId	文字列	親組織の ID。このフィールドは、サブ組織にのみ適用されます。それ以外の場合は NULL になります。
thresholdValue	整数	しきい値が設定されています。
ipuConsumed	BigDecimal	使用された IPU の数を指定します。このフィールドの値は ipuThresholdPrefType フィールドに関連するもので、絶対値またはパーセンテージが表示されます。
ipuThresholdPrefType	文字列	しきい値のタイプ。次のいずれかの値を返します。 - ABSOLUTE。 - PERCENTAGE。

応答には、タグの設定の次のフィールドが含まれます。

フィールド	タイプ	説明
orgId	文字列	組織の ID。
projectName	文字列	プロジェクトの名前。
folderName	文字列	フォルダの名前。プロジェクトベースのしきい値の場合、フォルダ名は NULL になります。
thresholdValue	整数	しきい値の値。
currentConsumption	BigDecimal	使用された IPU の数を指定します。このフィールドの値は ipuThresholdPrefType フィールドに関連するもので、絶対値またはパーセンテージが表示されます。
ipuThresholdPrefType	文字列	しきい値のタイプ。次のいずれかの値を返します。 <ul style="list-style-type: none">- ABSOLUTE。- PERCENTAGE。

GET 要求の例

組織のカスタム IPU アラート設定を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/metering/ipuAlert/org('3nqii4jGTiLda0M3ympy4E')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

タグのカスタム IPU アラート設定を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/metering/ipuAlert/org('3nqii4jGTiLda0M3ympy4E')/viewTagsPreference
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

成功した場合、組織の設定に関して次のような応答を受け取ることがあります。

```
{
  "orgName": "Infa",
  "orgId": "3nqii4jGTiLda0M3ympy4E",
  "parentOrgId": null,
  "thresholdValue": 35,
  "ipuConsumed": 100,
  "ipuThresholdPrefType": "ABSOLUTE"
}
```

タグの設定に対する正常な応答は、次のようになります。

```
{
  "orgId": "3nqii4jGTiLda0M3ympy4E",
  "projectName": "My Project",
  "folderName": "Mapping Jobs",
  "thresholdValue": 20,
  "currentConsumption": 10,
  "ipuThresholdPrefType": "PERCENTAGE"
}
```

メータリングデータのダウンロード

エクスポートジョブが正常に完了した後に、GET 要求を使用して、要求されたメータリングデータを含む ZIP ファイルをダウンロードします。

ZIP ファイルは、ジョブが SUCCESS または PARTIAL_SUCCESS のステータスで完了してから 3 日間ダウンロードできます。

注: ジョブのステータスが PARTIAL_SUCCESS の場合、ZIP ファイルをダウンロードできます。ただし、ZIP ファイル内のデータは完全ではない可能性があります。

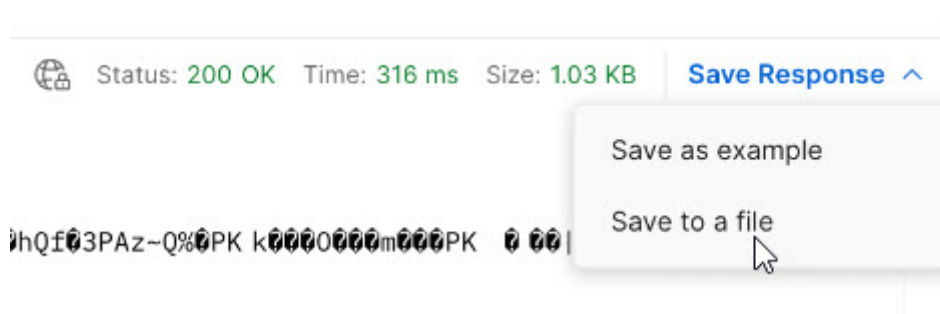
GET 要求

ZIP ファイルをダウンロードするには、次の URI を使用します。

`public/core/v3/license/metering/ExportMeteringData/<jobId>/download`

GET 応答

正常に完了すると、応答タイプ `application/zip` の ZIP ストリームを応答本文で受け取ります。ファイルをダウンロードするには、Postman を使用して、次の図に示すように応答をファイルに保存します。



メーター ID

ジョブレベルまたはアセットレベルのデータをエクスポートする要求を作成するときに、要求にメーター ID を含めて、1 つのメーターのデータを取得することができます。

次の表に、要求のタイプごとに使用できるメーター ID を示します。

メーター名	要求タイプ	メーター ID
詳細データ統合	アセットとジョブ	3TaYTMo6BFYeNIABfVmH0n
高度なサーバーレスとの詳細データ統合	アセットとジョブ	8tXWie0ZQLWIG1cyxxLwQM
詳細データ品質	アセットとジョブ	3qh0uqEkx2KjCOnnPoB786
高度なサーバーレスとの詳細データ品質	アセット	gzNg8hRHqusd8TkG3qQpws
高度なプッシュダウンの最適化	アセットとジョブ	dMN0VeTW4cThHyPovp4GEX
アプリケーション統合	ジョブ	クラシックモード - 3uIRkIV5Rt9IBbAPzeR5Kj ターボモード - 4610adb7f5e945e98da246

メーター名	要求タイプ	メーター ID
高度なサーバーレスとのアプリケーション統合	ジョブ	クラシックモード - bN6mes5n4GGciiMkuoDlCz ターボモード - 4c6fec02782546879713aa
B2B Gateway	アセット	4136oNH3dPeKfhCDzv9sl
B2B ソリューションと業種別ソリューション	アセット	68c4cbf9f1d84b6fb52e9f
PowerCenter 用 Cloud データ統合	アセットとジョブ	eNYBolrr3KDgtDN9E6lXid
PowerCenter のクラウドデータ統合 - 変更データキャプチャとリアルタイム	アセットとジョブ	5rtHwmyoQ6HjmJt8mqXTwc
PowerCenter 用 Cloud データ統合 - プッシュダウンの最適化	アセットとジョブ	8y72urWKS85gGBRvi6tJGA
Data Access Management - 処理済みの行数	アセット	8tJNWEJFAhojeO8ZA6ZGT
データ統合	アセットとジョブ	a2nB20h1o0lc7k3P9xtWS8
高度なサーバーレスとのデータ統合	アセットとジョブ	35m9fB23Tykj4Fb3rN5q2J
データ統合 - 変更データキャプチャ	アセットとジョブ	0sDTANKFZBSbjzKaXKlmb
データローダー	アセット	aBNLpHvKynqb33VYVDl3y2
データマスキング	アセット	1gUb7oRmAAxbpqr8uRyye
データ品質	アセット	cPnPIT3XYAZiLqloXtd0KC
高度なサーバーレスとのデータ品質	アセット	kFBW9yYl4QHfru384cRMmp
データ検証	アセットとジョブ	2qJ9COoAhfMrsH7mCyh86M
業種別ソリューション	アセット	7a2Fd4622Da044a38b7EB1
統合ハブ	アセットとジョブ	fqttkiGnSaHeXW255z4lCd
一括取り込みアプリケーション	アセットとジョブ	i3H6LcmMIYjhUKa9VCi7CI
一括取り込みアプリケーション - 変更データキャプチャ	アセットとジョブ	4cPkZ5cZxjzc4SK2RHoqgy
一括取り込みデータベース	アセットとジョブ	24WXkCWzeSHjFlQvLPDegF
一括取り込みデータベース - 変更データキャプチャ	アセットとジョブ	aluxJ8jOKmzdXwD0JuHRS1

メーター名	要求タイプ	メーター ID
一括取り込みファイルの Microsoft SQL Server および Azure SQL Database ターゲット	アセットとジョブ	lCwc4CfL7EEhv9773egFC8
一括取り込みストリーミング	ジョブ	hr7GsCwFFmyfvfZQFn8v81
MDM データ統合	アセット	jRkQw2YQksQjLqowj7Mveq
MDM データ品質	アセット	2uzMPIZJYORjVW2JoVSI41
PC2CDI モダナイゼーションサー ビスの評価	ジョブ	8y72urVKS85gSSRVi6tJGA
PC2CDI モダナイゼーションサー ビスの変換	ジョブ	7y82urUWS85gGBRvi6tJGA

オブジェクトの状態の同期化

オブジェクトを別の組織に移行する場合に、オブジェクトの状態とランタイム属性を組織間で同期化するには、fetchState リソースと loadState リソースを使用します。

例えば、シーケンスジェネレータートランスフォーメーションを含むマッピングタスクの NEXTVAL の値が組織 A では 3270 だったのに、同じタスクを組織 B に移行したら 0 になったとします。このような場合に、組織 A と組織 B の NEXTVAL の値がどちらも 3270 になるようにタスクの状態を組織間で同期化するには、fetchState リソースと loadState リソースを使用して NEXTVAL の値を同期化します。これにより、シーケンス番号を維持したままこのタスクを組織 B で実行できるようになります。

fetchState と loadState の呼び出し回数の上限は 1 日あたり 100 回です。

オブジェクトの状態を同期化するプロセスは、オブジェクトを移行するプロセスに似ています。オブジェクトの状態を同期化するには、fetchState リソースを使用してソース組織で状態を取得し、loadState リソースを使用してターゲット組織にロードします。

fetchState

このリソースを loadState リソースとともに使用して、オブジェクトの状態を組織間で同期化します。

fetchState リソースを使用してオブジェクトの状態パッケージを作成し、loadState リソースを使用してそれを他の組織にアップロードします。

オブジェクトの状態パッケージの作成には、アセットをエクスポートするプロセスと同様に、一連の要求および応答が含まれます。最終的な結果は、他の組織にロードするオブジェクトの状態を含む ZIP ファイルとなります。オブジェクトの状態パッケージを作成するには、次のタスクを実行します。

1. lookup GET 要求を送信して、状態を同期化するオブジェクトのオブジェクト ID を取得します。
Informatica Intelligent Cloud Services でオブジェクト ID を返します。
[「ルックアップ」 \(ページ 178\)](#)を参照してください。
2. lookup の応答で返されたオブジェクト ID を使用して fetchState POST 要求を送信して、ジョブを開始します。

Informatica Intelligent Cloud Services から fetchState ジョブのジョブ ID が返されます。

[「fetchState ジョブの開始」 \(ページ 200\)](#)を参照してください。

3. オブジェクトの状態パッケージの fetchState ジョブ ID を使用して fetchState GET 要求を送信して、ジョブのステータスを取得します。

Informatica Intelligent Cloud Services で、ジョブ ID とステータスを返します。この応答には、パッケージ内のオブジェクト ID および関連するオブジェクトの状態のリストが含まれることもあります。

[「fetchState ジョブのステータスの取得」 \(ページ 202\)](#)を参照してください。

4. fetchState GET 要求を送信して、パッケージをダウンロードします。

Informatica Intelligent Cloud Services からパッケージが ZIP ファイル形式で返されます。

[「オブジェクトの状態パッケージのダウンロード」 \(ページ 205\)](#)を参照してください。

オブジェクトの状態パッケージでは、状態情報がオブジェクトごとの JSON ファイルに含まれています。ファイル名の形式は次のとおりです。

<task name>.<task type>.runtime.json

例えば、mt_MappingTask106.MTT.runtime.json という名前のファイルには次のようなデータが含まれていると考えられます。

```
{
  "taskRun" : {
    "lastRuntime" : "2018-12-13T09:05:17.000Z"
  },
  "taskStateVariables" : [ {
    "category" : "TX_VARIABLE",
    "name" : "Sequence",
    "value" : "26908"
  } ]
}
```

オブジェクトの状態ファイルでは、以下の属性を必要に応じて変更できます。

- taskRun オブジェクトの lastRuntime
- taskStateVariables オブジェクトの value (マッピングタスクの場合のみ)

パッケージ内のファイルにその他の変更を加えると、予期しない動作やエラーが発生する可能性があります。

fetchState ジョブの開始

POST 要求を使用して fetchState ジョブを開始します。

POST 要求

ジョブを開始するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/fetchState

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String		fetchState ジョブの名前。空白の場合はデフォルトで job-<currentTimeInMilliseconds>になります。
objects	Collection<複合型>	はい	オブジェクトの状態パッケージに状態を含めるオブジェクト ID。 注: 1 つのパッケージに含めるオブジェクトは 1000 個以内にすることをお勧めします。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	○	objects オブジェクトに含まれます。 状態を要求するオブジェクトのグローバル意識別子。これは、プロジェクト、フォルダ、またはアセットの ID です。
includeDependencies	Boolean		objects オブジェクトに含まれます。 依存オブジェクトの状態を含めるかどうかを決定します。 デフォルトは True です。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/fetchstate
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "name": "fetchStateJob1",
  "objects": [
    {
      "id": "l7bgB85m5oGiX0bDxwnvK9",
      "includeDependencies": true
    },
    {
      "id": "1MWOGDAE1sFgnvWkvom7mK",
      "includeDependencies": false
    },
    {
      "id": "iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox"
    }
  ]
}
```

POST 応答

成功した場合、fetchState ジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	fetchState ジョブの ID。
createTime	String	オブジェクトの状態パッケージが作成された時刻。
updateTime	String	オブジェクトの状態パッケージの最終更新時刻。
name	String	fetchState ジョブの名前。
startTime	String	fetchState ジョブが開始された時刻。
endTime	String	fetchState ジョブが終了した時刻。
status	複合型	ジョブのステータス。

フィールド	タイプ	説明
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など、fetchState ジョブのステータス。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 ジョブのステータスメッセージ。
objects	Collection	オブジェクトおよびオブジェクトレベルのステータスのコレクション。空白の場合、NULL を返します。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "7evG9CokA1whk8ehF3opKM",
  "createTime": "2018-10-26T08:15:48.502Z",
  "updateTime": "2018-10-26T08:15:48.502Z",
  "name": "fetchStateJob1",
  "startTime": "2018-10-26T08:15:48.501Z",
  "endTime": null,
  "status": {
    "state": "IN_PROGRESS",
    "message": "In Progress"
  },
  "objects": null
}
```

エラーを受信した場合、次の例のような応答が表示されます。

```
{
  "error": {
    "code": "MigrationSvc_034",
    "message": "User does not have required permissions.",
    "requestId": "2ataXVlgw3ydI1Yb2MA4sq"
  }
}
```

fetchState ジョブのステータスの取得

GET 要求を使用して、fetchState ジョブのステータスを取得します。

GET 要求

fetchState ジョブのステータスを取得するには、次のいずれかの URI を使用します。

- fetchState ジョブのステータスを受け取るには、次の URI を使用します。<id>は fetchState ジョブの ID です。
/public/core/v3/fetchState/<job id>
- fetchState ジョブ内の各オブジェクトの状態のステータスを受け取るには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/fetchState/<job id>?expand=objects

状態が SUCCESSFUL になるまで要求のポーリングを継続します。

GET 応答

ステータスを要求すると、次のようなステータス情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	fetchState ジョブの ID。
createTime	String	fetchState ジョブが作成された時刻。
updateTime	String	fetchState ジョブの最終更新時刻。
name	String	fetchState ジョブの名前。
startTime	String	fetchState ジョブの開始時刻。
endTime	String	fetchState ジョブの終了時刻。
status	複合型	fetchState ジョブのステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など、fetchState ジョブの状態。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 ジョブのステータスメッセージ。
objects	Collection	fetchState ジョブのオブジェクト。URI に?expand=objects が含まれる場合に返されます。
id	String	objects オブジェクトで返されます。 要求されたオブジェクトのグローバル一意識別子。
name	String	objects オブジェクトで返されます。 オブジェクト名。
path	String	objects オブジェクトで返されます。 オブジェクトの完全なパス。
description	String	objects オブジェクトで返されます。 オブジェクトの説明。
status	複合型	objects オブジェクトで返されます。 オブジェクトのステータス。
state	String	objects.status オブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」、「スキップ」など、オブジェクトのステータス。
message	String	objects.status オブジェクトで返されます。 オブジェクトのステータスメッセージ。

GET 要求の例

fetchState ジョブのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/fetchState/7evG9CokA1whk8ehF3opKM
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

fetchState ジョブ内のそれぞれのオブジェクトの状態のステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/fetchState/7evG9CokA1whk8ehF3opKM?expand=objects
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

fetchState ジョブのステータスに対する要求が成功すると、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "id": "7evG9CokA1whk8ehF3opKM",
  "createTime": "2018-10-26T08:15:48.502Z",
  "updateTime": "2018-10-26T08:15:48.502Z",
  "name": "fetchStateJob1",
  "startTime": "2018-10-26T08:15:48.501Z",
  "endTime": "2018-10-26T08:15:49.501Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Export completed successfully."
  },
  "objects": null
}
```

要求に個々のオブジェクトのステータスが含まれていた場合、成功時の応答は次の例のようになります。

```
{
  "id": "7evG9CokA1whk8ehF3opKM",
  "createTime": "2017-10-26T08:15:49.000Z",
  "updateTime": "2017-10-26T08:15:50.000Z",
  "name": "fetchStateJob1",
  "startTime": "2018-10-26T08:15:49.000Z",
  "endTime": "2018-10-26T08:15:50.000Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Export completed successfully."
  },
  "objects": [
    {
      "id": "1YmwRT083Ztf004mUABaGF",
      "name": "Mapping1",
      "path": "/Mappings",
      "type": "DTEMPLATE",
      "description": "",
      "status": {
        "state": "SKIPPED",
        "message": null
      }
    },
    {
      "id": "46MhQv9oxrgb0D6qtosF8t",
      "name": "MappingTask1",
      "path": "/Tasks",
      "type": "MTT",
      "description": "",
      "status": {
        "state": "SUCCESSFUL",
        "message": null
      }
    }
  ],
  "id": "7rM2ll1YjWYgHz4xiqRQ03",
}
```

```

    "name": "Default",
    "path": "/",
    "type": "Project",
    "description": "Auto-generated Default Project",
    "status": {
      "state": "SKIPPED",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "8suj2pxCujqh5Vtmv0DsyP",
    "name": "Destination",
    "path": "null",
    "type": "Connection",
    "description": "Dst Connection",
    "status": {
      "state": "SKIPPED",
      "message": null
    }
  }
],
[
  {
    "id": "cpnXnIQMIvVkd0emLhFJ2q",
    "name": "03",
    "path": null,
    "type": "AgentGroup",
    "description": null,
    "status": {
      "state": "SKIPPED",
      "message": null
    }
  },
  {
    "id": "gJvuKZZuBifk9MfZFxtPAb",
    "name": "Source",
    "path": null,
    "type": "Connection",
    "description": "Src Connection",
    "status": {
      "state": "SKIPPED",
      "message": null
    }
  }
]
]
}

```

オブジェクトの状態パッケージのダウンロード

GET 要求を使用して、オブジェクトの状態パッケージをダウンロードします。

GET 要求

オブジェクトの状態パッケージをダウンロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/fetchState/<id>/package

<id>は fetchState ジョブの ID です。

GET 応答

正常に完了すると、応答本文で ZIP ストリームを受け取ります。応答のタイプは application/zip です。

失敗すると、次の例のような応答を受け取ります。

```

{
  "error": {
    "code": "MigrationSvc_017",
    "message": "Export request with identifier [6GnKs0tkLHdE6Hpd5nsWD] doesnt exist.",
    "debugMessage": "Export request with identifier [6GnKs0tkLHdE6Hpd5nsWD] doesnt exist.",
    "requestId": "0FrZZzXiEoafqCZUPqJsYd"
  }
}

```

```
}  
}
```

loadState

このリソースを `fetchState` リソースとともに使用して、オブジェクトの状態を複数の組織の間で同期化します。

オブジェクトの状態のロードには、一連の要求および応答が含まれます。組織に状態をロードするには、次のタスクを実行します。

1. `loadState` POST 要求を送信して、ZIP ファイルをアップロードします。
Informatica Intelligent Cloud Services から `loadState` ジョブのジョブ ID が返されます。
[「オブジェクトの状態パッケージのアップロード」 \(ページ 206\)](#) を参照してください。
2. `loadState` POST 要求を送信して、オブジェクトの状態をロードします。この要求には、`loadState` ジョブのジョブ ID と、ロードする状態に関連付けられているオブジェクト ID のリストを含めます。
Informatica Intelligent Cloud Services から、「実行中」や「成功」などのジョブステータスか、エラーメッセージが返されます。また、応答にはオブジェクトの状態パッケージを作成した組織のソース組織 ID も含まれます。
[「loadState ジョブの開始」 \(ページ 207\)](#) を参照してください。
3. `loadState` GET 要求を送信して、ジョブのステータスを取得します。また、ステータスをオブジェクトレベルで要求することも可能です。
Informatica Intelligent Cloud Services から、ジョブのステータスと、パッケージ内の各オブジェクトのステータス（要求した場合）が返されます。
[「loadState ジョブのステータスの取得」 \(ページ 210\)](#) を参照してください。

オブジェクトの状態パッケージのアップロード

POST 要求を使用して、オブジェクトの状態パッケージをアップロードします。

POST 要求

オブジェクトの状態パッケージをアップロードするには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/loadState/package`

Content-Type の場合、次を使用します。

`multipart/form-data`

要求本文には、`package` の名前の部分を含めます。そのコンテンツでは、アップロードするオブジェクトの状態 ZIP ファイルを使用します。

POST 応答

成功した場合、`loadState` ジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
<code>jobId</code>	String	<code>loadState</code> ジョブの ID。
<code>jobStatus</code>	Collection	パッケージのアップロードステータス。
<code>state</code>	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など、 <code>loadState</code> ジョブのステータス。

フィールド	タイプ	説明
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 ジョブのステータスメッセージ。
checksumValid	Boolean	オブジェクトの状態パッケージのチェックサムが有効かどうかを示します。

POST 要求の例

オブジェクトの状態パッケージをアップロードするには、次の要求を使用します。

```
POST <BaseApiUrl>/public/core/v3/loadState/package
Content-Type: multipart/form-data
Accept: multipart/form-data
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

POST 応答の例

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "jobId": "hUV9Uq1cKYtf8niqF09CWC",
  "jobStatus": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": null
  },
  "checksumValid": true
}
```

loadState ジョブの開始

POST 要求を使用して、loadState ジョブを指定して開始します。

POST 要求

オブジェクトを指定して loadState ジョブを開始するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/loadState/<id>
```

<id>は、オブジェクトの状態パッケージのアップロードの POST 応答で受信される loadState ジョブの ID です。

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String		loadState ジョブの名前。 デフォルトの名前は job-<currentTimeInMilliseconds>です。
importSpecification	複合型		含めるオブジェクトを指定するために使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
includeObjects	Collection<String>		importSpecification オブジェクトに含まれます。 ロードするオブジェクトです。 指定しない場合、オブジェクトの状態パッケージのすべての状態が含まれます。 指定したオブジェクトがプロジェクトの場合、そのプロジェクトに属するすべてのオブジェクトとすべての依存オブジェクトの状態が含まれます。
objectSpecification	Collection<複合型>		importSpecification オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのプロパティを指定します。
sourceObjectId	String	○	objectSpecification オブジェクトに含まれます。 オブジェクトの状態パッケージファイルのコンテナ ID です。 objectSpecification が存在する場合は必須です。
targetObjectId	String	○	objectSpecification オブジェクトに含まれます。 コンテナ間マッピングに使用されます。 objectSpecification が存在する場合は必須です。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/loadState/2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn HTTP/1.0
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "name" : "stateImportJob",
  "importSpecification" : {
    "includeObjects" : ["iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox", "ejZY66c19YUccBdbGwKG4P"],
    "objectSpecification" : [{
      "sourceObjectId" : "iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox"
    }],
    {
      "sourceObjectId" : "5FA0DnMzeuDbYZnn3hdto9",
      "targetObjectId" : "5KgUiEkW95NkjLRRefWkiG"
    }
  ]
}
```

POST 応答

成功した場合、loadState ジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
Id	String	loadState ジョブの ID。
createTime	String	loadState ジョブが作成された時刻。
updateTime	String	loadState ジョブの最終更新時刻。

フィールド	タイプ	説明
name	String	loadState ジョブの名前。
startTime	String	loadState ジョブの開始時刻。
endTime	String	loadState ジョブの終了時刻。
status	Collection	パッケージのアップロードステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」、「スキップ」など、個々のオブジェクトのロード状態。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 ジョブのステータスメッセージ。
objects	Collection	loadState ジョブに含まれるオブジェクトと、オブジェクトレベルのステータス。
sourceOrgId	String	オブジェクトの状態パッケージを作成した組織の組織 ID。
checksumValid	Boolean	インポートパッケージのチェックサムが有効かどうかを示します。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "a7oaBNCyc8DdhxQD4mY4uI",
  "createTime": "2019-01-10T01:35:45.000Z",
  "updateTime": "2019-01-10T21:08:41.398Z",
  "name": "job-1547154520680",
  "startTime": "2019-01-10T21:08:41.389Z",
  "endTime": null,
  "status": {
    "state": "IN_PROGRESS",
    "message": "In Progress"
  },
  "objects": null,
  "sourceOrgId": "2wy21a5fkUphzTVNkaPowg",
  "checksumValid": true
}
```

エラーを受信した場合、次の例のような応答が表示されます。

```
{
  "error": {
    "message": "Import request with identifier [a7oaBNCyc8DdhxQD4mY4u] doesnt exist.",
    "requestId": "9MopwrDFA0GbuMM9utiTqJ"
  }
}
```

loadState ジョブのステータスの取得

GET 要求を使用して、loadState ジョブのステータスを取得します。

GET 要求

loadState ジョブのステータスを取得するには、次のいずれかの URI を使用します。<id>は loadState ジョブの ID です。

- loadState ジョブのステータスを受け取るには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/loadState/<id>
- loadState ジョブ内の各オブジェクトのステータスを受け取るには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/loadState/<id>?expand=objects

GET 応答

ステータスを要求すると、次のようなインポートステータス情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	loadState ジョブの ID。
createTime	String	オブジェクトの状態パッケージが作成された時刻。
updateTime	String	オブジェクトの状態パッケージの最終更新時刻。
name	String	loadState ジョブの名前。
startTime	String	loadState ジョブの開始時刻。
endTime	String	loadState ジョブの終了時刻。
status	複合型	パッケージのアップロードステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など、loadState ジョブのステータス。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 ジョブのステータスメッセージ。
sourceOrgId	String	オブジェクトの状態パッケージを作成した組織の ID。
objects	コレクション	インポートに含まれるオブジェクト。
sourceObject	コレクション	objects オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクト。
id	String	objects.sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトのグローバル一意識別子。
name	String	objects.sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトの名前。
path	String	objects.sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトの完全なパス。

フィールド	タイプ	説明
type	String	objects.sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトのタイプ。
description	String	objects.sourceObject オブジェクトで返されます。 インポートに含まれるオブジェクトの説明。
targetObject	Collection	objects オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクト。
id	String	objects.targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトのグローバル一意識別子。
name	String	objects.targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトの名前。
path	String	objects.targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトの完全なパス。
type	String	objects.targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトのタイプ
description	String	objects.targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトの説明。
status	String	objects.targetObject オブジェクトで返されます。 ターゲットオブジェクトのステータス。
status	複合型	objects オブジェクトで返されます。 オブジェクトのロードステータス。
state	String	objects.status オブジェクトで返されます。 「実行中」、「成功」、「失敗」など、オブジェクトのロード状態。
message	String	objects.status オブジェクトで返されます。 オブジェクトのステータスメッセージ。
checksumValid	Boolean	objects.status オブジェクトで返されます。 オブジェクトのチェックサムが有効だったかどうか。

GET 応答の例

loadState ジョブのステータスに対する要求が成功すると、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "id": "2oZb7vFI2QQg4ncd4AyCGn",
  "createTime": "2017-10-26T08:40:09.000Z",
  "updateTime": "2017-10-26T08:55:56.000Z",
  "name": "stateImportJob",
  "startTime": "2017-10-26T08:55:53.000Z",
  "endTime": "2017-10-26T08:55:56.000Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Import completed successfully."
  },
}
```

```

    "objects": null,
    "sourceOrgId": "2wy21a5fkUphzTVNkaPowg",
    "checksumValid": true
  }

```

要求に個々のオブジェクトのロードステータスが含まれていた場合、成功時の応答は次の例のようになります。

```

{
  "id": "30pbyDU36UgkUhXXtvGsYA",
  "createTime": "2019-01-10T21:35:33.000Z",
  "updateTime": "2019-01-10T21:35:39.000Z",
  "name": "job-1547156138681",
  "startTime": "2019-01-10T21:35:39.000Z",
  "endTime": "2019-01-10T21:35:39.000Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Import completed successfully."
  },
  "objects": [
    {
      "sourceObject": {
        "id": "46MhQv9oxrgb0D6qtosF8t",
        "name": "MappingTask",
        "path": "/Default",
        "type": "MTT",
        "description": ""
      },
      "targetObject": {
        "id": null,
        "name": "MappingTask",
        "path": "/Default",
        "type": "MTT",
        "description": null,
        "status": null
      },
      "status": {
        "state": "SUCCESSFUL",
        "message": "Overwrite existing."
      }
    }
  ],
  "sourceOrgId": "2wy21a5fkUphzTVNkaPowg",
  "checksumValid": true
}

```

オブジェクト

objects リソースを使用して、組織のアセットのリストを取得します。このリソースを使用して、エクスポートするアセットを見つけることができます。

このリソースを使用して、アセットのオブジェクトの依存関係を見つけることもできます。

注: このリソースは、動的レート制限を使用します。システムで大量の要求またはサイズが発生すると、応答が遅くなったり、「要求が多すぎます」というエラーメッセージが表示されて失敗したりすることがあります。

アセットの検索

オブジェクトリソースを使用して、クエリパラメータで組織内のアセットを検索します。

クエリパラメータは、アセットタイプ、タグ、フォルダの場所、最終更新日時、アセットを最後に更新したユーザー、ソース管理メタデータにフィルタを含みます。取得するアセットの最大数、スキップする要素の数などを指定できます。

応答には、最大 200 個のアセットを含めることができます。要求でアセットの数が 200 個を超える結果となるクエリパラメータを使用している場合は、skip パラメータを使用して追加の要求を送信して、前の応答で受け取ったアセットをスキップできます。

読み取るための特権がないアセットは応答に含まれません。

GET 要求

アセットのリストを要求するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/objects?<query parameters>

URI で以下のクエリパラメータを使用できます。

パラメータ	タイプ	説明
q	String	クエリフィルタ。
limit	Int	取得するアセットの最大数。上限は 200 です。
skip	Int	スキップする要素の数。例えば、値を 4 に設定すると、リストの最初の 4 つのアセットが除外されます。

以下のフィールドを使用してクエリフィルタを定義できます。

フィールド	タイプ	演算子	説明
type	String	== !=	<p>アセットタイプ。タイプは、プロジェクト、フォルダ、または次のアセットタイプのいずれかになります。</p> <p>データ統合の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - DTEMPLATE。マッピング。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。 - MAPPLET。PowerCenter マップレット。 - BSERVICE。ビジネスサービス定義。 - HSCHEMA。階層スキーマ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - FWCONFIG。固定長の設定。 - CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。 - MI_TASK。一括取り込みタスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - TASKFLOW - UDF。ユーザー定義関数。 - PROJECT - FOLDER <p>アプリケーションの統合の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - PROCESS - GUIDE - AI_CONNECTION - AI_SERVICE_CONNECTOR - PROCESS_OBJECT <p>B2B ゲートウェイの場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - B2BGW_MONITOR - B2BGW_CUSTOMER - B2BGW_SUPPLIER <p>MDM SaaS の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MDM_BUSINESS_ENTITY - MDM_REFERENCE_ENTITY - MDM_HIERARCHY - MDM_RELATIONSHIP - MDM_JOB_DEFINITION - MDM_AUTHORIZATION - MDM_BUSINESS_EVENT - MDM_REPORT_SET - MDM_REPORT - MDM_DYNAMIC_POOL - MDM_APPLICATION - MDM_SRC_SYSTEM - MDM_APP_COMPONENT - MDM_APP_PAGE

フィールド	タイプ	演算子	説明
			<p>Data Quality の場合、オブジェクトは次のいずれかのタイプになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CLEANSE - DEDUPLICATE - DICTIONARY - EXCEPTION - LABELER - PARSE - RULE_SPECIFICATION - VERIFIER <p>データプロファイリングの場合、オブジェクトは PROFILE タイプになります。</p> <p>オブジェクトタイプは大文字と小文字を区別しません。</p>
location	String	==	アセットが置かれているプロジェクトおよびフォルダのパス (Default/Sales など)。
updateTime	Date	< <= == => > !=	アセットの最終更新日時。
updatedBy	String	== !=	アセットを最後に更新したユーザー。ユーザーには userName の値を使用します。
tag	String	==	アセットに関連付けられたタグ。
sourceControl.checkedOutBy	String	==, !=	アセットをチェックアウトしたユーザー。
sourceControl.checkedOutTime	Date	<, <=, ==, =>, >, !=	アセットがチェックアウトされた時間。
sourceControl.hash	String	==, !=	ソース管理ハッシュ。ワイルドカード (*) を使用する一部のハッシュをサポートします。
sourceControl.lastCheckinBy	String	==, !=	アセットに最後にチェックしたユーザー。
sourceControl.lastCheckinTime	Date	<, <=, ==, =>, >, !=	アセットがチェックインされた最終時刻。
sourceControl.lastPullTime	Date	<, <=, ==, =>, >, !=	アセットがプルされた最終時刻。
sourceControl.sourceControlled	Boolean	==, !=	アセットがソース管理されるかどうか。

フィールド	タイプ	演算子	説明
customAttributes.publishedBy	String	==, !=	アセットをパブリッシュしたユーザー。アプリケーションの統合に適合できます。
customAttributes.publicationDate	Date	<, <=, ==, >, >=, !=	アセットがパブリッシュされた日付。アプリケーションの統合に適合できます。

GET 要求の例

クエリパラメータを使用してアセットのリストを要求する例を以下に示します。

- 最終更新日が 2018 年 11 月 21 日以降のデータ統合マッピングタスクのリストを要求するには、次のような URI を使用します。
/public/core/v3/objects?q=type=='MTT' and updateTime>=2018-11-21T12:00:00Z
- 最終更新日が 2018 年 11 月 21 日以降のデータ統合マッピングタスクのリストを要求するには、次のような URI を使用します。
/public/core/v3/objects?q=type=='MTT' and updateTime>=2018-11-21T12:00:00Z
- Default/SalesOpps フォルダにある、最終更新日が 2018 年 3 月 27 日より前のアセットのリストを要求するには、次のような URI を使用します。
/public/core/v3/objects?q=location=='Default/SalesOpps' and updateTime<2018-03-27T12:00:00Z
- UpsellOpps タグが関連付けられた、最終更新日が 2018 年 1 月 10 日以降のアセットのリストを要求するには、次のような URI を使用します。
/public/core/v3/objects?q=tag=='UpsellOpps' and updateTime>=2018-01-10T12:00:00Z
- 最終更新日が 2017 年 12 月 30 日の、データ統合マッピング以外のアセットのリストを、上限を 150 として要求するには、次のような URI を使用します。
/public/core/v3/objects?q=type!='MAPPING' and updateTime=2017-12-30T12:00:00Z&max=150
- 200 個の制限を超えるアセットのリストを要求するには、追加の要求で次の URI を使用します。
/public/core/v3/objects?limit=200&skip=200

GET 応答

成功した場合は、アセットのリストと、クエリ結果に基づくアセットの数を返します。エラーが発生した場合は、エラーオブジェクトを返します。

注: 結果のサイズが大きい場合（例えば、1000 個を超えるオブジェクト）、応答で返されるカウントには最大 90 秒間の誤差がある可能性があります。取得リストは、API で戻されたカウントが変更されていない場合でも、要求に含まれる top パラメータと limit パラメータを使用してすべての結果を返します。また、カウントフィールドが応答の最初のフィールドではない場合もあります。

成功した応答には次の情報が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
count	String	フィルタクエリに一致するアセットの数。
objects	-	各アセットの情報が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	アセットのグローバル一意識別子。ジョブ要求を送信する際にはこのフィールドの値を <code>taskFederatedId</code> の値として使用します。
path	String	プロジェクト、フォルダ、およびオブジェクト名を含むアセットのフルパス。
type	String	アセットのタイプ。
description	String	アセットの説明。
updatedBy	String	アセットを前回更新したユーザーの名前。システム作成のアセット（デフォルトプロジェクト、アドオンバンドルフォルダなど）の場合、このフィールドの値は Informatica になります。
updateTime	String	アセットの最終更新日時。
tag	String	アセットに関連付けられたタグ。
sourceControl	-	アセットのソース管理メタデータを含みます。
sourceControl.checkedOutBy	String	オブジェクトをチェックアウトしたユーザー。
sourceControl.checkedOutTime	Date	アセットがチェックアウトされた時間。
sourceControl.hash	String	アセットのソース管理ハッシュ。
sourceControl.lastCheckinBy	String	オブジェクトをチェックアウトしたユーザー。
sourceControl.lastCheckinTime	Date	アセットが最後にチェックインされた時間。
sourceControl.lastPullTime	Date	アセットが最後にプルされた時間。
sourceControl.sourceControlled	Boolean	アセットがソース管理されるかどうか。
customAttributes	-	アプリケーションの統合アセットにパブリッシュしているメタデータを含みます。
customAttributes.publishedBy	String	<code>customAttributes</code> オブジェクトに含まれます。アセットをパブリッシュしたユーザー。アプリケーションの統合に適合できます。
customAttributes.publicationDate	Date	<code>customAttributes</code> オブジェクトに含まれます。アセットがパブリッシュされた日付。アプリケーションの統合に適合できます。

GET の例

次の例の要求は、P1 フォルダにあるアセットのリストを取得して、応答に含まれるアセットを 2 つまでに制限します。

```
GET /saas/public/core/v3/objects?q=location=='P1'&limit=2
Content-Type: application/json
Accept: application/json
```

INFA-SESSION-ID: 3H05q5PicfolyDXnp3N06c

応答には、次の例のように、最初の 2 つのアセットの情報が含まれます。

```
{
  "count": 4,
  "objects": [
    {
      "id": "1a3TnUrT2cfiwQGtkWQEUy",
      "path": "P1/F1",
      "type": "Folder",
      "description": "",
      "updatedBy": "mma@infa.com",
      "updateTime": "2018-12-17T00:29:29Z",
      "tags": [
        "tag3",
        "tag4"
      ],
      "sourceControl": {
        "checkedOutBy": "mma@infa.com",
        "checkedOutTime": "2020-05-05T17:37:13Z",
        "hash": "3e082fb9bcb2349e9f0a4fb516c739610c869391",
        "lastCheckinTime": "2020-05-05T04:51:09Z",
        "lastCheckinBy": "mma@infa.com",
        "lastPullTime": null,
        "sourceControlled": true
      },
      "customAttributes": {
        "publishedBy": "mma@infa.com"
      }
    },
    {
      "id": "0dGB1jBDWcuhrTxG9Gy1Kh",
      "path": "P1/Mapping1",
      "type": "DTEMPLATE",
      "description": "",
      "updatedBy": "mma@infa.com",
      "updateTime": "2018-12-10T02:25:14Z",
      "tags": [
        "tag3",
        "tag4"
      ],
      "sourceControl": {
        "checkedOutBy": null,
        "checkedOutTime": null,
        "hash": "a98327e09883bb30583574b48113bf1d3ab9d494",
        "lastCheckinTime": "2020-05-27T20:43:05Z",
        "lastCheckinBy": "mma@infa.com",
        "lastPullTime": null,
        "sourceControlled": true
      },
      "customAttributes": {
        "publishedBy": "mma@infa.com",
        "publicationDate": "2020-05-25T11:43:12Z"
      }
    }
  ]
}
```

アセットの依存関係の検索

オブジェクトリソースを使用して、アセットの依存関係のリストを取得します。アセットが使用するオブジェクトのリスト、またはアセットを使用するオブジェクトのリストを受け取ることができます。

GET 要求

アセットの依存関係のリストを要求するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/objects/<objectId>/references?<parameters>

URI で次のパラメータを使用できます。

パラメータ	タイプ	必須	説明
refType	Enum	はい	アセットが使用するオブジェクトを一覧表示するか、アセットを使用するオブジェクトを一覧表示するか。以下のいずれかの値を使用します。 <ul style="list-style-type: none">- uses。アセットが使用するオブジェクト。- usedBy。アセットを使用するオブジェクト。 1つの参照タイプを要求に含めることができます。
limit	Int	-	返すオブジェクトの最大数。上限は 50 です。 デフォルトは 25 です。
skip	Int	-	先頭からスキップする要素の数。 デフォルトは 0 です。

GET 応答

成功した場合は、依存オブジェクトのリストと、クエリ結果に基づく依存オブジェクトの数を返します。エラーが発生した場合は、エラーオブジェクトを返します。

注: 結果のサイズが大きい場合（例えば、1000 個を超えるオブジェクト）、応答で返されるカウントには最大 90 秒間の誤差がある可能性があります。取得リストは、API で戻されたカウントが変更されていない場合でも、要求に含まれる top パラメータと limit パラメータを使用してすべての結果を返します。また、カウントフィールドが応答の最初のフィールドではない場合もあります。

正常に実行された応答は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id		アセットのグローバル一意識別子。
count		依存オブジェクトの数。
references	Collection<複合型>	アセットを使用する、またはアセットが使用する各オブジェクトの情報が含まれます。
id	String	参照オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのグローバル一意識別子。
appId	String	参照オブジェクトに含まれます。 コンテキスト内のオブジェクトの ID。詳細を取得するか、オブジェクトに変更を加えるには、サービス固有の REST API 呼び出しで appId 値をオブジェクトまたはタスク ID として使用できます。 データ取り込みおよびレプリケーションとデータ統合にのみ適用されます。
path	String	参照オブジェクトに含まれます。 プロジェクト、フォルダ、およびオブジェクト名を含むオブジェクトのフルパス。
type	String	参照オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのタイプ。
description	String	参照オブジェクトに含まれます。 オブジェクトの説明。
updateTime	String	参照オブジェクトに含まれます。 オブジェクトの最終変更日時。

GET の例

次の例は、アセットが使用するオブジェクトのリストを受信する要求です。応答では 25 個のオブジェクトに制限されています。

```
GET /saas/public/core/v3/objects/1a3TnUrT2cfiwQGtkWQEUy/references?refType=Uses&skip=0&limit=25
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 3H05q5PicfolYDXnp3N06c
```

次の例に示すように、応答にはアセットが使用するオブジェクトのリストが含まれます。

```
{
  "id": "1a3TnUrT2cfiwQGtkWQEUy",
  "count": 2,
  "references": [
    {
      "id": "2iX0Kgh6pySlgv6ifQImyl",
      "appId": "NOA17000000000001J",
      "path": "Default/Mapping1",
      "type": "DTEMPLATE",
      "description": "My Mapping 1",
      "updateTime": "2018-04-12T21:34:11Z"
    },
    {
      "id": "1f0qrwpFvLkimAkFFvIiw1",

```

```
    "appContextId": "N0A1700000000001K",
    "path": "FF_Conn_1",
    "type": "Connection",
    "description": null,
    "updateTime": "2018-04-12T21:33:11Z"
  }
}
```

オブジェクト権限

objects リソースを使用して、アセット、フォルダ、プロジェクトなどのオブジェクトに対するユーザーおよびユーザーグループの権限を構成します。

オブジェクトの権限を設定するには、オブジェクトを扱う可能性のあるユーザーまたはユーザーグループごとにアクセス制御リスト（ACL）を作成します。各 ACL は、ユーザーまたはユーザーグループと、オブジェクトに対するそれらのアクセス権を指定します。

例えば、NorthDevTeam および WestDevTeam ユーザーグループに NorthwestAccounts プロジェクトへの読み取り/書き込みアクセス権を持たせるとします。NorthwestAccounts プロジェクトへの NorthDevTeam のアクセス権を指定する ACL を作成してから、NorthwestAccounts プロジェクトへの WestDevTeam のアクセス権を指定する ACL を作成します。

objects リソースを使用して、次のタスクを実行して権限を管理できます。

- オブジェクトの ACL を作成する
- オブジェクトの ACL を更新する
- オブジェクトに設定されている ACL を削除する
- ユーザーまたはユーザーグループとオブジェクトの権限の詳細を取得する
- オブジェクトに対する権限の詳細を取得する

権限の作成

ユーザーまたはユーザーグループとオブジェクトのペアごとにアクセス制御リスト（ACL）を作成します。

POST 要求

ACL を作成するには、次の URI を使用して POST 要求を送信します。

/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
プリンシパル	Object	○	ACL がユーザーまたはユーザーグループに対して定義されているかどうか、およびユーザーまたはユーザーグループの名前。
type	String	○	プリンシパルオブジェクトに含めます。 次のいずれかの値を使用します。 - USER - GROUP

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	プリンシパルオブジェクトに含めます。 オブジェクト名。
権限	Object	○	ユーザーまたはグループに割り当てるオブジェクト権限。
読み取り	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーまたはグループにオブジェクトの表示を許可するかどうか。
削除	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーまたはグループにオブジェクトの削除を許可するかどうか。
実行	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーにタスクの実行を許可するかどうか。
changePermission	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーまたはグループがオブジェクトの権限を変更できるようにするかどうか。

POST 応答

成功した場合、POST 要求に含めた詳細と ACL ID が含まれるオブジェクトが返されます。

POST の例

オブジェクトのユーザー権限を作成するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/objects/9EcgvBYZ9GGfL0Yr98Gz0H/permissions
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "principal": {
    "type": "USER",
    "name": "larry@infa.com"
  },
  "permissions": {
    "read": true,
    "update": true,
    "delete": true,
    "execute": true,
    "changePermission": true
  }
}
```

次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "0dXigiEiWRbb5rKLgPfFCe",
    "principal": {
      "type": "USER",
      "name": "larry@infa.com"
    },
    "permissions": {
      "read": true,
      "update": true,
      "delete": true,
      "execute": true,
      "changePermission": true
    }
  }
]
```

```
}  
}  
]
```

権限の更新

アクセス制御リスト（ACL）を更新して、ユーザーまたはユーザーグループがオブジェクトに対して持つアクセス権を変更できます。

PUT 要求

ACL を更新するには、次の URI を使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions/<ACL ID>

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
プリンシパル	Object	○	ユーザーまたはユーザーグループに権限が定義されているかどうか、およびユーザーまたはユーザーグループの名前。
type	String	○	プリンシパルオブジェクトに含めます。 次のいずれかの値を使用します。 - USER - GROUP
name	String	○	プリンシパルオブジェクトに含めます。 オブジェクト名。
権限	Object	○	ユーザーまたはグループに割り当てるオブジェクト権限。
読み取り	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーまたはグループにオブジェクトの表示を許可するかどうか。
削除	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーまたはグループにオブジェクトの削除を許可するかどうか。
実行	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーにタスクの実行を許可するかどうか。
changePermission	Boolean	○	権限オブジェクトに含めます。 ユーザーまたはグループがオブジェクトの権限を変更できるようにするかどうか。

PUT 応答

成功したら成功コードを、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

PUT の例

オブジェクトのユーザー権限を更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/objects/9EcgvBYZ9GGfL0Yr98Gz0H/permissions/4eMlUawPcahK4eKBmDLsI  
Content-Type: application/json  
Accept: application/json  
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "principal": {
    "type": "USER",
    "name": "scotty@infa.com"
  },
  "permissions": {
    "read": true,
    "update": true,
    "delete": true,
    "execute": false,
    "changePermission": true
  }
}
```

権限の削除

ユーザーまたはユーザーグループがオブジェクトに対して持っている権限を削除できます。また、オブジェクトに設定されているすべての権限を削除することもできます。

ユーザーまたはユーザーグループがオブジェクトに対して持っている権限を削除するには、次の URI を使用して DELETE 要求を送信します。

```
/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions/<ACL ID>
```

オブジェクトに構成されているすべての権限を削除するには、次の URI を使用して DELETE 要求を送信します。

```
/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions
```

例えば、オブジェクトのすべての権限を削除するには、次のような要求を送信します。

```
DELETE <baseUrl>/public/core/v3/objects/9EcgvBYZ9GGf10Yr98Gz0H/permissions
```

権限の詳細の取得

特定の ACL ID の権限の詳細を取得できます。また、オブジェクトのすべての権限の詳細を取得することもできます。

GET 要求

特定の ACL ID の詳細を取得するには、次の URI を使用して GET 要求を送信します。

```
/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions/<ACL ID>
```

オブジェクトのすべての権限の詳細を取得するには、次の URI を使用して GET 要求を送信します。

```
/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions
```

GET 応答

成功した場合、ACL ID について次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ACL ID
プリンシパル	Object	ユーザーまたはグループに関する情報。
type	String	プリンシパルがユーザーであるかグループであるか。
name	String	ユーザー名またはユーザーグループの名前。

フィールド	タイプ	説明
権限	Object	ユーザーまたはグループのオブジェクト権限。
読み取り	Boolean	ユーザーまたはグループがオブジェクトを表示できるかどうか。
更新	Boolean	ユーザーまたはグループがオブジェクトを更新できるかどうか。
削除	Boolean	ユーザーまたはグループがオブジェクトを削除できるかどうか。
実行	Boolean	ユーザーまたはグループがタスクを実行できるかどうか。
changePermission	Boolean	ユーザーまたはグループがオブジェクトの権限を変更できるかどうか。

GET の例

オブジェクトのすべての権限の詳細を取得するには、次の例と同様の要求を送信します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/objects/2ymkhUZCL7XbUmN7dsq6Wc/permissions
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "4D6ER3yic8cjjE1GmxEKEi",
    "principal": {
      "type": "USER",
      "name": "saki@infa.com"
    },
    "permissions": {
      "read": true,
      "update": true,
      "delete": true,
      "execute": true,
      "changePermission": true
    }
  },
  {
    "id": "6g51tCtEX08bldfh8k6cgz",
    "principal": {
      "type": "GROUP",
      "name": "Everyone"
    },
    "permissions": {
      "read": false,
      "update": true,
      "delete": true,
      "execute": false,
      "changePermission": true
    }
  }
]
```

権限の確認

特定のオブジェクトまたはアセットタイプのアクセス権を確認する要求を送信できます。応答は、現在のセッションを開始したユーザーの権限と特権に基づいています。

プロジェクトまたはフォルダにアセットを作成する前に、アクセス権を確認することをお勧めします。プロジェクトまたはフォルダに対する権限がない場合は、権限の種類ごとに「false」の値が表示されます。

GET 要求

オブジェクトのアクセス権を取得するには、次の URI を使用して GET 要求を送信します。

```
/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions/checkAccess
```

応答には、指定されたオブジェクト ID に対するアクセス権が含まれます。

プロジェクトまたはフォルダに特定のタイプのアセットを作成できるかどうかを確認するには、プロジェクトまたはフォルダの ID とアセットタイプを含む GET 要求を送信します。次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/objects/<object ID>/permissions/checkAccess?type=<asset type>
```

アセットタイプのリストについては、[「アセットの検索」 \(ページ 212\)](#)を参照してください。

GET の例

オブジェクトのアクセス権を確認するには、次の例のような要求を送信します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/objects/2ymkhUZC17XbUmN7dsq6Wc/permissions/checkAccess
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "permissions": {
    "create": true,
    "read": true,
    "update": true,
    "delete": true,
    "execute": false,
    "changePermission": true
  }
}
```

プロジェクトにデータ統合マッピングを作成する権限があるかどうかを確認するには、次の例のような要求を送信できます。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/objects/2ymkhUZC17XbUmN7dsq6Wc/permissions/checkAccess?type=DTEMPLATE
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "permissions": {
    "create": true,
    "read": true,
    "update": true,
    "delete": true,
    "execute": true,
    "changePermission": true
  }
}
```

パスワード

Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用してパスワードを管理できます。

以下のタスクが実行できます。

- 現在のパスワードの有効期限が切れていない場合に、Informatica Intelligent Cloud Services パスワードを変更します。管理者特権を持っている場合は、他のユーザーのパスワードを変更できます。
- パスワードの有効期限が切れていたりパスワードを忘れた場合にリセットします。

パスワードの変更

現在のパスワードの有効期限が切れていない場合は、Informatica Intelligent Cloud Services パスワードを変更できます。管理者特権を持っている場合は、他のユーザーのパスワードを変更できます。

POST 要求

パスワードを変更するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/Users/ChangePassword

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
newPassword	String	○	新しいパスワード
oldPassword	String	自分のパスワードを変更する場合は必須。	現在のパスワード
userId	String	管理者が別のユーザーのパスワードを変更する場合は必須。	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー ID。

POST の例

パスワードを変更するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/Users/ChangePassword
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "newPassword" : "<new password>",
  "oldPassword" : "<old password>"
}
```

成功した要求は応答を返しません。失敗した要求はエラーを返します。

パスワードのリセット

パスワードは、有効期限が切れていたりパスワードを忘れた場合、リセットできます。パスワードをリセットするには、要求にセキュリティの答えを含める必要があります。

POST 要求

パスワードをリセットするには、要求にセキュリティの答えを含めます。次の URI を使用します。

/public/core/v3/Users/ResetPassword

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
userId	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー ID。
securityAnswer	String	○	ユーザーのセキュリティの質問に対するセキュリティの答え。
newPassword	String	○	ユーザーの新しいパスワード。

POST の例

パスワードをリセットするには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/Users/ResetPassword
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "userId" : "5N9JGth6pRYfOGjGKv3Q2D",
  "securityAnswer" : "Simba",
  "newPassword" : "<password>"
}
```

成功した要求は応答を返しません。失敗した要求はエラーを返します。

特権

特権リソースを使用して、カスタムロールに使用できる権限のリストを取得します。

カスタムロールの特権の追加と更新については、[「ロール」 \(ページ 234\)](#)を参照してください。

GET 要求

現在使用ライセンスを持っている特権のリストを要求できます。または、ライセンスの期限切れにより無効になっている特権を含む、すべての特権のリストを要求できます。

有効な特権とデフォルトの特権のリストを要求するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/privileges
```

有効、無効、デフォルト、および未割り当ての特権を含む特権の完全なリストを要求するには、次の例に示すように、URI にクエリパラメータを含めます。

```
/public/core/v3/privileges?q=status==All
```

GET 応答

正常に実行された場合は、各特権の次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	特権 ID。
name	文字列	特権の名前。
description	文字列	特権の説明。

フィールド	タイプ	説明
service	String	特権に適用される Informatica Intelligent Cloud Services サービス。
status	文字列	特権のステータス。次のいずれかの値を返します。 <ul style="list-style-type: none"> - 有効。特権の使用ライセンスは有効です。 - 利用不可状態。特権の使用ライセンスは期限切れです。 - 未割り当て。この特権の使用ライセンスはありません。 - デフォルト。デフォルトで含まれている特権。

GET 要求の例

特権の完全なリストを要求するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/privileges?q=status==All
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

すべての特権を取得する要求を送信した場合、次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "0aoGhY1lAG0iS0PUeLMwoz",
    "name": "changeperm.bservice",
    "description": "",
    "service": "DI",
    "status": "Enabled"
  },
  {
    "id": "0bsvE8I4soacaMt8RHx1yT",
    "name": "update.RULE_SPECIFICATION",
    "description": "update RULE_SPECIFICATION",
    "service": "DQ",
    "status": "Unassigned"
  },
  {
    "id": "0CFJVGBp7Cae8o9EVfakYz",
    "name": "view.RULE_SPECIFICATION",
    "description": "view RULE_SPECIFICATION",
    "service": "DQ",
    "status": "Disabled"
  },
  {
    "id": "11Ai6CJ2PU8jaJwiAwyR0I",
    "name": "changeperm.folder",
    "description": "Change Permission Folder",
    "service": "Admin",
    "status": "Default"
  },
  {
    "id": "11ertBcF3aUkT7vqmn23a3",
    "name": "view.auditLog",
    "description": "view audit log",
    "service": "Admin",
    "status": "Default"
  },
  ...
]
```

プロジェクトおよびフォルダ

REST API 呼び出しを介して、プロジェクトとフォルダを作成、更新、および削除できます。

注: プロジェクト名またはフォルダ名に特殊文字、スペース文字、または国際文字が含まれている場合は、サーバーが名前を正しくデコードできるように、URI で URL エンコードを使用してください。例えば、「My Project」という名前のプロジェクトの場合、URI に次のテキストを含めます。

My%20Project

次の文字は使用できません。

? ' | { } " ^ & [] / \

プロジェクトの作成

アセットを整理するためにプロジェクトを作成します。

POST 要求

プロジェクトを作成するには、次の URI を使用して POST 要求を送信します。

/public/core/v3/projects

注: Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用して最大 500 個のプロジェクトを作成できます。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	プロジェクトの名前。
description	文字列	-	プロジェクトの説明。

POST 応答

成功した場合、次の詳細を含むプロジェクトオブジェクトを返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	プロジェクト ID。
name	String	プロジェクト名。
description	String	プロジェクトの説明。
updatedBy	String	プロジェクトを作成したユーザー。
updateTime	String	プロジェクトを作成した日時。

POST の例

プロジェクトを作成するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/projects
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
```

```
    "name": "Orders",
    "description": "Orders from all regions"
  }
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "kTKQG4Kv3uhgQlea0oUbWu",
  "name": "Orders",
  "description": "Orders from all regions",
  "updatedBy": "scotty@infa.com",
  "updateTime": "2022-04-12T23:40:40.395Z"
}
```

プロジェクトの更新

プロジェクトの更新権限がある場合は、プロジェクトの名前または説明を変更できます。

PATCH 要求

プロジェクトを更新するには、次の URI のいずれかを使用して PATCH 要求を送信します。

/public/core/v3/projects/<project ID>

/public/core/v3/projects/name/<project name>

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	-	プロジェクトの名前。
description	文字列	-	プロジェクトの説明。

PATCH 応答

成功したら成功コードを、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

PATCH の例

プロジェクトを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
PATCH <baseApiUrl>/public/core/v3/projects/kTKQG4Kv3uhgQlea0oUbWu
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name": "Requests",
  "description": "Orders from all regions"
}
```

プロジェクトの削除

プロジェクトにフォルダやアセットが含まれておらず、そのプロジェクトの削除権限がある場合は、プロジェクトを組織から削除できます。

DELETE 要求

プロジェクトを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

/public/core/v3/projects/<project ID>

/public/core/v3/projects/name/<project name>

DELETE の例

「All Orders」という名前のプロジェクトを削除するには、次の要求を送信します。

```
DELETE <baseApiUrl>/public/core/v3/projects/name/All%20Orders
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

フォルダの作成

デフォルトプロジェクトにフォルダを作成するか、別のプロジェクトを指定できます。

注: Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用して最大 5,000 個のフォルダを作成できます。

POST 要求

デフォルトプロジェクトにフォルダを作成するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/folders
```

デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにフォルダを作成するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/projects/<project ID>/folders
```

```
/public/core/v3/projects/name/<project name>/folders
```

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	フォルダの名前。
description	文字列	-	フォルダの説明です。

POST 応答

成功した場合、次の詳細を含むフォルダオブジェクトを返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	フォルダ ID。
name	String	フォルダ名。
description	String	フォルダの説明。
updatedBy	String	フォルダを作成したユーザー。
updateTime	String	フォルダを作成した日時。

POST の例

Orders プロジェクトにフォルダを作成するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/projects/name/Orders/folders
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name": "Northwest Orders",
```



```
    "description": "Orders from northwest offices"
  }
}
```

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "kTrYZ8fInr1Uw3ugQb0uWe",
  "name": "Northwest Orders",
  "description": "Orders from northwest offices",
  "updatedBy": "scotty@infa.com",
  "updateTime": "2022-04-13T18:20:40.325Z"
}
```

フォルダの更新

フォルダの更新権限がある場合は、フォルダの名前または説明を変更できます。

PATCH 要求

デフォルトプロジェクトにあるフォルダを更新するには、次の URI を使用して PATCH 要求を送信します。

```
/public/core/v3/folders/<folder ID>
```

デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにあるフォルダを更新するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/projects/<project ID>/folders/<folder ID>
```

```
/public/core/v3/projects/name/<project name>/folders/name/<folder name>
```

注: プロジェクトとフォルダの ID、またはプロジェクトとフォルダの名前を 1 つの URI に含めることはできませんが、ID と名前を 1 つの URI に含めることはできません。例えば、プロジェクト ID とフォルダ名を含めることはできません。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	-	フォルダの名前。
description	文字列	-	フォルダの説明です。

PATCH 応答

成功したら成功コードを、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

PATCH の例

Northeast Orders フォルダの名前と説明を変更するには、次の例のような要求を送信します。

```
PATCH <baseApiUrl>/public/core/v3/projects/name/Orders/folders/name/Northeast%20Orders
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name": "Northeast Requests",
  "description": "Requests from the northeast offices"
}
```

フォルダの削除

フォルダが空で、そのフォルダに対する削除権限がある場合は、フォルダを削除できます。フォルダにアセットが含まれている場合は、フォルダを削除する前に、アセットを削除または移動する必要があります。

DELETE 要求

デフォルトプロジェクトにあるフォルダを削除するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/projects/<folder ID>
```

デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにあるフォルダを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/projects/<project ID>/folders/<folder ID>
```

```
/public/core/v3/projects/name/<project name>/folders/name/<folder name>
```

注: プロジェクトとフォルダの ID、またはプロジェクトとフォルダの名前を 1 つの URI に含めることはできませんが、ID と名前を 1 つの URI に含めることはできません。例えば、プロジェクト ID とフォルダ名を含めることはできません。

DELETE の例

「Orders:West Coast」という名前のフォルダを削除するには、次の要求を送信します。

```
DELETE <baseApiUrl>/public/core/v3/projects/name/Orders/folders/name/Orders%3AWest%20Coast
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

ロール

ロールとは、ユーザーおよびグループへの割り当てが可能な特権の集まりです。roles リソースを使用して、組織のロールの詳細を取得します。このリソースを使用して、カスタムロールを作成、更新および削除することもできます。

注: このリソースは、動的レート制限を使用します。システムで大量の要求またはサイズが発生すると、応答が遅くなったり、「要求が多すぎます」というエラーメッセージが表示されて失敗したりすることがあります。

ロールの詳細の取得

組織のすべてのロールの詳細、または特定のロールの詳細を要求できます。

GET 要求

ロールの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/roles
```

特定のロールの詳細を取得するには、次のクエリパラメータを URI に追加する事ができます。

パラメータ	タイプ	説明
q	String	クエリフィルタ。次のいずれかのフィールドを使用してフィルタできます。 <ul style="list-style-type: none">- roleId。ロールの一意の ID です。- roleName。ロールの名前。
expand	String	クエリフィルタに指定したロールと関連する権限が返されます。 クエリに次のフレーズを含めます。 expand=privileges

例えば、Business Manager ロールの権限を含む詳細を取得するには、次の要求を使用できます。

/public/core/v3/roles?q=roleName=="Business Manager"&expand=privileges

GET 応答

正常に実行された場合は、各ロールの次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	ロール ID。
orgId	String	ロールが属する組織の ID。
createdBy	文字列	ロールを作成したユーザー。
updatedBy	String	ロールを最後に更新したユーザー。
createTime	文字列	ロールを作成した日時。
updateTime	文字列	ロールが最後に更新された日時。
roleName	文字列	ロールの名前。
description	文字列	ロールの説明。
displayName	文字列	ロール名はユーザーインターフェースに表示されます。
displayDescription	文字列	説明はユーザーインターフェースに表示されます。
systemRole	Boolean	ロールがシステム定義ロールであるかどうか。次のいずれかの値を返します。 <ul style="list-style-type: none">- True。ロールはシステム定義ロールです。- False。ロールはカスタムロールです。
status	文字列	ロールを使用するための組織のライセンスが有効かまたは期限切れか。次のいずれかの値を返します。 <ul style="list-style-type: none">- 有効- 無効
privileges	配列	ロールに割り当てられている権限。 URI のクエリに?expand=privileges が含まれている場合にのみ返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	権限オブジェクトに含まれます。 特権 ID。
name	文字列	権限オブジェクトに含まれます。 特権名
description	文字列	権限オブジェクトに含まれます。 特権の説明。
service	文字列	権限オブジェクトに含まれます。 特権を使用する Informatica Intelligent Cloud Services サービス。
status	文字列	権限オブジェクトに含まれます。 特権を使用するための組織のライセンスが有効かまたは期限切れか。次のいずれかの値を返します。 - 有効 - 無効

GET 要求の例

ロールの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <BaseApiUrl>/public/core/v3/roles
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID <SessionId>
```

GET 応答の例

次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "7EjAMAHsi0Tcg8v29z0Gsl",
    "orgId": "52ZSTB0IDK6dXxaEQLUaQu",
    "createdBy": "ops-post-deploy-user",
    "updatedBy": "ops-post-deploy-user",
    "createTime": "2019-03-22T21:26:46.000Z",
    "updateTime": "2019-03-22T21:26:52.000Z",
    "roleName": "Business Manager",
    "description": "Role used for business managers",
    "displayName": "Application Integration Business Manager",
    "displayDescription": "Role used for business managers",
    "systemRole": true,
    "status": "Disabled",
    "privileges": [
      {
        "id": "5Cgp0GcsmRejyxIgV4eXy1",
        "name": "view.ai.console",
        "description": "View application integration console",
        "service": "ApplicationIntegration",
        "status": "Disabled"
      },
      {
        "id": "aReU2uciLYglcq0Ntvc20b",
        "name": "view.ai.assets",
        "description": "View application integration assets",
        "service": "ApplicationIntegration",
        "status": "Disabled"
      }
    ],
    "id": "8zDe15v89cKfeMtM2FHFew",
```

```

    "name": "view.ai.designer",
    "description": "View application integration designer",
    "service": "ApplicationIntegration",
    "status": "Disabled"
  }
]

```

ロールの作成

組織のカスタムロールを作成できます。

POST 要求

カスタムロールを作成するには、次の URI を使用して POST 要求を送信します。

/public/core/v3/roles

注: ユーザー、ユーザーグループ、結合されたロールの数は、1 つの組織で 1000 を超える事は出来ません。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	ロールの名前。
description	文字列	-	ロールの説明。
privileges	配列	はい	ロールに割り当てる特権の ID。ロールには少なくとも 1 つの権限が割り当てられている必要があります。

POST 応答

成功した場合、ロールオブジェクトと、POST 要求に含めた詳細が返されます。

POST の例

カスタムロールを作成するには、次の例のような要求を送信します。

```

POST <baseApiUrl>/public/core/v3/roles
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name": "CAIviewer",
  "description": "A role to view Application Integration designer and assets",
  "privileges": ["aQwUdcM8RcQewA1yWphZ4F", "OnTOXl8dzEwlSFoM0c08gI"]
}

```

次の例のような応答を受信します。

```

{
  "id": "8j2MPlr8ubZgteIOwleSck",
  "orgId": "cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS",
  "createdBy": "a@abc.com",
  "updatedBy": "a@abc.com",
  "createTime": "2019-03-20T18:33:33.361Z",
  "updateTime": "2019-03-20T18:33:33.428Z",
  "roleName": "CAIviewer",
  "description": "A role to view Application Integration designer and assets",
  "displayName": "CAIviewer",
  "displayDescription": "A role to view Application Integration designer and assets",
  "systemRole": false,
  "status": "Enabled",
}

```

```

    "privileges": [
      {
        "id": "0nTOXl8dzEwLSFoM0c08gI",
        "name": "view.ai.designer",
        "description": "View application integration designer"
      },
      {
        "id": "aQwUdcM8RcQewA1yWphZ4F",
        "name": "view.ai.assets",
        "description": "View application integration assets"
      }
    ]
  }
}

```

ロールの更新

カスタムロールの権限を追加または削除できます。

特権の追加

カスタムロールに特権を追加するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```

/public/core/v3/roles/<role ID>/addPrivileges
/public/core/v3/roles/name/<role name>/addPrivileges

```

カスタムロールの特権名の配列を含めます。

例えば、データ転送タスクにロールの作成権限と削除権限を与えるには、次の要求を使用できます。

```

PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/roles/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/addPrivileges
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "privileges" : ["create.data.transfer.task", "delete.data.transfer.task"]
}

```

特権リソースを使用して、使用できる特権名のリストを取得できます。詳細については、[「特権」 \(ページ 228\)](#)を参照してください。

特権の削除

カスタムロールから特権を削除するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```

/public/core/v3/roles/<role ID>/removePrivileges
/public/core/v3/roles/name/<role name>/removePrivileges

```

ロールからすべての権限を削除することはできません。ロールには少なくとも 1 つの権限が割り当てられている必要があります。

カスタムロールから削除する特権名の配列を含めます。

例えば、API コレクションの作成および削除特権をロールから削除するには、次の要求を使用できます。

```

PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/roles/cPYWk053KnrUerLvYRtaMS/removePrivileges
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "privileges" : ["create.api.collection", "delete.api.collection"]
}

```

ロールの削除

組織のカスタムロールを削除できます。

ロールを削除するには、次の URI を使用して DELETE 要求を送信します。

`/public/core/v3/roles/<role ID>`

SAML グループとロールのマッピング

組織が認証と認可に SAML シングルサインオン (SSO) を使用している場合は、org リソースを使用して、SAML ロールおよび SAML グループを Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングします。org リソースを使用して、組織の SAML ロールとグループのマッピングに関する詳細を取得することもできます。

Informatica Intelligent Cloud Services ロールには、最大 200 個の SAML グループまたは SAML ロールをマッピングできます。Informatica Intelligent Cloud Services ロールのリストを見つけるには、[「ロール」 \(ページ 234\)](#) リソースを使用します。

SAML グループと SAML ロールをマッピングする前に、管理者で **[SAML グループとロールのマッピング]** が有効になっていることを確認します。

SAML グループとロールを Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングした後に、管理者または Informatica Intelligent Cloud Services REST API で SAML SSO ユーザーのユーザーロールまたはグループを個別に設定することはできません。

SAML SSO の使用に関する詳細については、管理者のヘルプの「[ユーザー管理](#)」を参照してください。

SAML グループマッピングの追加

SAML グループを Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングする SAML グループマッピングを追加します。

注: 名前に次のいずれかの文字を含む SAML グループまたは SAML ロールをマッピングすることはできません。

- パイプ (|)
- セミコロン (;)
- カンマ (,)

PUT 要求

Informatica Intelligent Cloud Services ロールと SAML グループ間のマッピングを追加するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/addSamlGroupMappings`

Informatica Intelligent Cloud Services に存在しない SAML グループをマッピングすると、Informatica Intelligent Cloud Services によってそのグループが作成されます。Informatica Intelligent Cloud Services に同じ名前のグループが存在する場合、グループを再利用するか、新しいグループを作成するかどうかを指定できます。デフォルトでは、Informatica Intelligent Cloud Services は名前に `_EXT` を追加した新しいグループを作成します。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
groupMappings	配列	はい	Informatica Intelligent Cloud Services ロールと SAML グループとのマッピングを定義するオブジェクト。
roleName	String	はい	groupMappings オブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlGroupNames	String	はい	groupMappings オブジェクトに含めます Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングする SAML グループの名前。
reuseGroup	Boolean	--	グループ名が SAML グループ名と同じ場合に、既存の Informatica Intelligent Cloud Services グループを使用するかどうか。 false の場合、Informatica Intelligent Cloud Services は新しいグループを作成します。 デフォルトは false です。

成功した場合は 204 の応答コードを返します。エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

PUT の例

Informatica Intelligent Cloud Services 管理者ロールを Security および Dev-Managers SAML グループにマッピングし、Informatica Intelligent Cloud Services デザイナーロールを Developers SAML グループにマッピングするには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIfvdrfCCLITrLCcI/addSamlGroupMappings
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "groupMappings": [
    {
      "roleName": "Admin",
      "samlGroupNames": ["Security", "Dev-Managers"]
    },
    {
      "roleName": "Designer",
      "samlGroupNames": "Developers"
    }
  ],
  "reuseGroup": "true"
}
```

別のグループマッピングを追加して、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者ロールを Administrators SAML グループにマッピングするには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIfvdrfCCLITrLCcI/addSamlGroupMappings
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "groupMappings": [
    {
      "roleName": "Admin",
      "samlGroupNames": "Administrators"
    }
  ],
  "reuseGroup": "true"
}
```


これにより、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者ロールが Security、Dev-Managers、および Administrators SAML グループにマッピングされます。

SAML ロールマッピングの追加

SAML ロールを Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングする SAML ロールマッピングを追加します。

注: 名前に次のいずれかの文字を含む SAML グループまたは SAML ロールをマッピングすることはできません。

- パイプ (|)
- セミコロン (;)
- カンマ (,)

PUT 要求

Informatica Intelligent Cloud Services ロールと SAML ロール間のマッピングを追加するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/addSamlRoleMappings

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
roleMappings	配列	はい	Informatica Intelligent Cloud Services ロールと SAML ロールとのマッピングを定義するオブジェクト。
roleName	String	はい	roleMappings オブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlRoleNames	List	はい	roleMappings オブジェクトに含めます Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングする SAML ロールの名前。

成功した場合は 204 の応答コードを返します。エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

PUT の例

Informatica Intelligent Cloud Services 開発者ロールを Data Designer および MS Deployer SAML ロールにマッピングし、Informatica Intelligent Cloud Services 管理者ロールを Operator SAML ロールにマッピングするには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIvdRfCCLITrLCcI/addSamlRoleMappings
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "roleMappings": [
    {
      "roleName": "Developer",
      "samlRoleNames": ["Data Designer", "MS Deployer"]
    },
    {
      "roleName": "Admin",
      "samlRoleNames": "Operator"
    }
  ]
}
```

SAML グループマッピングの削除

SAML グループを Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングする SAML グループマッピングを削除します。

PUT 要求

SAML グループマッピングを削除するには、次の URI を使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/removeGroupMappings

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
groupMappings	配列	はい	Informatica Intelligent Cloud Services ロールと SAML グループとのマッピングを定義するオブジェクト。
roleName	String	はい	groupMappings オブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlGroupNames	String	はい	groupMappings オブジェクトに含めます。 削除する SAML グループの名前。

PUT の例

Informatica Intelligent Cloud Services 管理者ロールと Administrators SAML グループの間のマッピングを削除するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIfvdrfCCLITrLCcI/removeSamlGroupMappings
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "groupMappings": [
    {
      "roleName": "Admin",
      "samlGroupNames": "Administrators"
    }
  ]
}
```

SAML ロールマッピングの削除

SAML ロールを Informatica Intelligent Cloud Services ロールにマッピングする SAML ロールマッピングを削除します。

PUT 要求

SAML ロールマッピングを削除するには、次の URI を使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/removeSamlRoleMappings

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
roleMappings	配列	はい	Informatica Intelligent Cloud Services ロールと SAML ロールマッピングを定義するオブジェクト。
roleName	String	はい	roleMappings オブジェクトに含めます。 Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlRoleNames	String	はい	roleMappings オブジェクトに含めます。 削除する SAML ロールの名前。

PUT の例

Informatica Intelligent Cloud Services 管理者ロールと Operator SAML ロール間のマッピングを削除するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/6MRgiMIfvdRfCCLITrLcCI/removeSamlRoleMappings
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
{
  "roleMappings": [
    {
      "roleName": "Admin",
      "samlRoleNames": "Operator"
    }
  ]
}
```

SAML グループマッピングの詳細の取得

組織のすべてのグループマッピングの詳細の取得したり、フィルタを使用して特定の Informatica Intelligent Cloud Services ロールまたは SAML グループのグループマッピングの詳細を取得したりできます。

GET 要求

グループマッピングの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

`public/core/v3/Orgs/<organization ID>/SAMLConfig/groupMappings?<query parameters>`

組織のすべてのグループマッピングの詳細を取得するには、クエリパラメータを省略します。

特定のロールまたは SAML グループの詳細を取得するには、次のクエリパラメータを URI に追加します。

パラメータ	タイプ	説明
q	String	クエリフィルタの文字列。次のいずれかのフィールドを使用してフィルタできます。 <ul style="list-style-type: none">- roleId- roleName- samlGroupNames
limit	Int	返すマッピングの最大数。 デフォルトは 200 です。
skip	Int	結果でスキップするマッピングの数。 例えば、値を 4 に設定すると、最初の 4 つのマッピングが除外されます。 デフォルトは 0 です。

以下のフィールドを使用してクエリフィルタを定義できます。

フィールド	タイプ	演算子	説明
roleId	String	==	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの ID。
roleName	String	==	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlGroupNames	String	==	SAML グループの名前。

GET 要求の例

特定の Informatica Intelligent Cloud Services ロールの ID のグループマッピングの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/SAMLConfig/groupMappings?q=roleId=="94207429"  
Content-Type: application/json  
Accept: application/json  
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答

グループマッピングの詳細を返します。エラーが発生した場合はエラーを返します。

[SAML グループとロールのマッピング] オプションが有効になっていてもマッピングが存在しない場合、応答は空になります。

成功すると、使用可能なグループマッピングの数と、各グループマッピングに関する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
count	String	使用可能なグループマッピングの数。
groupMappings	-	各グループマッピングのマッピング情報が含まれます。
roleId	String	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの ID。

フィールド	タイプ	説明
roleName	String	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlGroupNames	String	SAML グループの名前。

GET 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "count": 2,
  "groupMappings": [
    {
      "roleId": "94207429",
      "roleName": "Admin",
      "samlGroupNames": [
        "Security", "Dev-Managers"
      ]
    },
    {
      "roleId": "149021",
      "roleName": "Monitor",
      "samlGroupNames": "Developers"
    }
  ]
}
```

SAML ロールマッピングの詳細の取得

組織のすべてのロールマッピングの詳細を取得したり、フィルタを使用して特定の Informatica Intelligent Cloud Services ロールまたは SAML ロールのロールマッピングの詳細を取得したりできます。

GET 要求

ロールマッピングの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

`public/core/v3/Orgs/<organization ID>/SAMLConfig/roleMappings?<query parameters>`

組織のロールマッピングの詳細をすべて取得するには、クエリパラメータを省略します。

特定のロールまたは SAML ロールの詳細を取得するには、次のクエリパラメータを URI に追加します。

パラメータ	タイプ	説明
q	String	クエリフィルタの文字列。次のいずれかのフィールドを使用してフィルタできます。 - roleId - roleName - samlRoleNames
limit	Int	返すマッピングの最大数。 デフォルトは 200 です。
skip	Int	結果でスキップするマッピングの数。 例えば、値を 4 に設定すると、最初の 4 つのマッピングが除外されます。 デフォルトは 0 です。

以下のフィールドを使用してクエリフィルタを定義できます。

フィールド	タイプ	演算子	説明
roleId	String	==	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの ID。
roleName	String	==	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlRoleNames	String	==	SAML ロールの名前。

GET 要求の例

特定の Informatica Intelligent Cloud Services ロールの ID のロールマッピングの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/Orgs/03kEYNeduIJkVv0Qvq8NgY/SAMLConfig/roleMappings?q=roleId=="94247429"  
Content-Type: application/json  
Accept: application/json  
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答

ロールマッピングの詳細を返します。エラーが発生した場合はエラーを返します。

[SAML グループとロールのマッピング] オプションが有効になっていてもマッピングが存在しない場合、応答は空になります。

成功すると、使用可能なロールマッピングの数と、各ロールマッピングに関する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
count	String	使用可能なロールマッピングの数。
roleMappings	-	各ロールマッピングのマッピング情報が含まれます。
roleId	String	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの ID。
roleName	String	Informatica Intelligent Cloud Services ロールの名前。
samlRoleNames	String	SAML ロールの名前。

GET 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{  
  "count": 2,  
  "roleMappings": [  
    {  
      "roleId": "94247429",  
      "roleName": "Developer",  
      "samlRoleNames": [  
        "Data Designer", "MS Deployer"  
      ]  
    },  
    {  
      "roleId": "142321",  
      "roleName": "Admin",  
      "samlRoleNames": "Operator"  
    }  
  ]  
}
```

スケジュール

スケジュールリソースを使用して、組織のスケジュールの詳細を要求します。また、スケジュールの作成、更新、または削除も実行できます。

次の要求方法を使用できます。

- スケジュールの詳細を取得するには、GET 要求を使用します。
- スケジュールを作成するには、POST 要求を使用します。
- スケジュールを更新するには、PATCH 要求を使用します。
- スケジュールを削除するには、DELETE 要求を使用します。

注: スケジュールのすべての機能を利用するには、REST API バージョン 2 のスケジュールリソースの代わりにこのリソースを使用します。

スケジュールの詳細の取得

スケジュールリソースを使用して、組織内のスケジュールに関する詳細を要求します。

GET 要求

組織の全スケジュールの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/schedule`

スケジュール ID を使用してスケジュールの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/schedule/<id>`

特定のスケジュールの詳細を取得するには、クエリパラメータを使用できます。例えば、ユーザー jdoe によって作成されたすべての無効スケジュールの詳細を取得するには、次の URI を使用できます。

`/public/core/v3/schedule?q=status=='Disabled' and createdBy='jdoe'`

URI で以下のクエリパラメータを使用できます。

パラメータ	タイプ	説明
status	Boolean	スケジュールのステータス。 以下の演算子を使用できます。 - == - !=
id	String	スケジュール ID。 ==演算子を使用します。
scheduleFederatedId	String	スケジュールのグローバル意識別子。 ==演算子を使用します。
name	String	スケジュール名。 ==演算子を使用します。 スケジュール名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。

パラメータ	タイプ	説明
updateTime	Date	スケジュールの最終更新時刻（UTC 形式）。 以下の演算子を使用できます。 - < - <= - == - => - > - !=
updatedBy	String	スケジュールを更新したユーザー。 ==演算子を使用します。
createdBy	String	スケジュールを作成したユーザー。 ==演算子を使用します。
interval	String	スケジュールを実行する間隔または繰り返し頻度。以下の値を使用できます。 - なし - 毎分 - n 時間ごと - 日次 - 毎週 - 隔週 - 月別 以下の演算子を使用できます。 - == - !=

GET 応答

成功した場合、要求されたスケジュールのスケジュールオブジェクトを返します。全スケジュールの詳細を要求した場合、スケジュールオブジェクトには組織の各スケジュールの詳細が含まれます。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

タスクオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	スケジュール ID。
scheduleFederatedId	String	スケジュールのグローバル一意識別子。
name	String	スケジュール名。
status	String	スケジュールのステータス。次のいずれかの値を返します。 - 有効 - 無効
description	String	スケジュールの説明。
createTime	Date/Time	スケジュールが作成された日時。
updateTime	Date/Time	スケジュールの最終更新時刻。

フィールド	タイプ	説明
createdBy	String	スケジュールを作成したユーザー。
updatedBy	String	スケジュールを最後に更新したユーザー。
startTime	Date/Time	スケジュールの実行を開始する日付と時刻（UTC 形式）。
endTime	Date/Time	スケジュールの実行を停止する日付と時刻。
interval	String	<p>スケジュールのタスクを実行する間隔または繰り返し頻度。次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。スケジュールを繰り返しません。 - Minutely。指定した分数、日数、および時間範囲に基づく間隔でタスクを実行します。 - Hourly。スケジュールの開始時刻に基づき、タスクを 1 時間間隔で実行します。 - Daily。スケジュールの開始時刻に基づき、日次の間隔でタスクを実行します。 - Weekly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 週間間隔でタスクを実行します。 - 隔週。スケジュールの開始時刻に基づき、2 週間ごとにタスクを実行します。 - Monthly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 カ月間隔でタスクを実行します。
frequency	Int	指定した間隔でスケジュールを実行する頻度。例えば、間隔が毎時の場合、頻度 2 は、2 時間ごとにタスクを実行することを意味します。分間隔、時間隔、日次の間隔でのみ返されます。
rangeStartTime	Date/Time	タスクを実行する日の時間範囲の開始時刻。分間隔と時間隔でのみ返されます。
rangeEndTime	Date/Time	タスクを実行する日の時間範囲の終了時刻。分間隔と時間隔でのみ返されます。
sun	Boolean	<p>タスクを日曜日に実行します。次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true - false <p>分間隔、時間隔、週次の間隔、隔週の間隔でのみ返されます。</p>
mon	Boolean	<p>タスクを月曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
tue	Boolean	<p>タスクを火曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
wed	Boolean	<p>タスクを水曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
thu	Boolean	<p>タスクを木曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
fri	Boolean	<p>タスクを金曜日に実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>

フィールド	タイプ	説明
sat	Boolean	タスクを土曜日に実行します。 sun の説明を参照してください。
weekDay	Boolean	タスクを平日にのみ実行します。次のいずれかのコードを返します。 - true - false 日次の間隔でのみ返されます。
dayOfMonth	Int	タスクを実行する日付。1-28 の日付を返します。 月次の間隔でのみ返されます。
weekOfMonth	String	タスクを実行する月の週数。次のいずれかのコードを返します。 - First。月の第 1 週にタスクを実行します。 - Second。月の第 2 週にタスクを実行します。 - Third。月の第 3 週にタスクを実行します。 - Fourth。月の第 4 週にタスクを実行します。 - Last。月の最後の週にタスクを実行します。 月次の間隔でのみ返されます。
dayOfWeek	String	タスクを実行する曜日。次のいずれかのコードを返します。 - Day。選択した weekOfMonth オプションに基づいて、月の最初または最後の日にタスクを実行します。 - 日曜日 - 月曜日 - 火曜日 - 水曜日 - 木曜日 - 金曜日 - 土曜日 月次の間隔でのみ返されます。
timeZoneId	String	タスクが実行される月の特定の曜日、日、または週に使用されるタイムゾーン。

GET の例

スケジュール ID を使用してスケジュールについての情報を要求するには、次の要求を使用できます。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/schedule/0An1v84VPL3k6kyp0Lxq06D0000000000003
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

応答が成功した場合、以下の例ようになります。

```
{
  "id": "0An1v84VPL3k6kyp0Lxq06D0000000000003",
  "scheduleFederatedId": "24bDtKg6d9SbaNlqDoLHSR",
  "name": "MI_FILE_LISTENER_10107",
  "status": "enabled",
  "createTime": "2018-12-03T17:34:45.000Z",
  "updateTime": "2019-05-09T12:13:34.000Z",
  "createdBy": "clouddemo",
  "updatedBy": "vnath",
  "startTime": "2020-06-09T00:15:55.000Z",
  "interval": "Minutely",
  "frequency": 5,
  "rangeStartTime": "",
  "rangeEndTime": ""
}
```

```

"mon": true,
"tue": true,
"wed": true,
"thu": true,
"fri": true,
"sat": true,
"sun": true,
"weekDay": false,
"dayOfMonth": 0,
"weekOfMonth": null,
"dayOfWeek": null,
"timeZoneId": "America/Los Angeles"
}

```

スケジュールの作成

スケジュールリソースを使用して、組織のスケジュールを作成します。

POST 要求

スケジュールを作成するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/schedule`

スケジュールオブジェクトでは次のフィールドを使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	スケジュール名。
description	String	-	スケジュールの説明。
status	String	-	スケジュールのステータス。以下のいずれかの値を使用します。 - 有効 - 無効 デフォルトでは有効になっています。
startTime	Date/ Time	はい	スケジュールの実行を開始する日付と時刻（UTC 形式）。
endTime	Date/ Time	-	スケジュールの実行を停止する日付と時刻。このパラメータを使用しない場合、スケジュールは無制限に実行されます。

フィールド	タイプ	必須	説明
interval	String	○	<p>スケジュールのタスクを実行する間隔または繰り返し頻度。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。スケジュールの開始時間にタスクを実行します。スケジュールを繰り返しません。 - Minutely。指定した分数、日数、および時間範囲に基づく間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する分単位の頻度。 - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - startTimeRange および endTimeRange。タスクを実行する日のうちの時間範囲。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Hourly。スケジュールの開始時刻に基づき、タスクを 1 時間間隔で実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する時間単位の頻度。 - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - startTimeRange および endTimeRange。タスクを実行する日のうちの時間範囲。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Daily。スケジュールに設定された開始時刻に基づき、日次の間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する日単位の頻度。 - weekDay。すべての平日にタスクを実行します。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Weekly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 週間間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - 隔週。スケジュールの開始時刻に基づき、2 週間ごとにタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Monthly。スケジュールの開始時刻に基づき、1 カ月間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - dayOfMonth。タスクを実行する 1-28 の日付。 - dayOfWeek。タスクを実行する曜日。 - weekOfMonth。タスクを実行する月の週数。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 <p>タスクを実行する時を示すには、第 1 月曜日など、dayOfWeek とともに weekOfMonth を使用します。または、1 などの dayOfMonth を使用します。</p> <p>ヒント: 月の最終日にタスクを実行するには、weekOfMonth パラメータの「Last」とともに dayOfWeek パラメータの「Day」を使用します。</p> <p>デフォルトは間隔なしです。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
frequency	Int	○	<p>タスクの繰り返し頻度。以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 分間隔の場合、次のいずれかのオプションを使用します: 5、10、15、20、30、45。 デフォルトは 5 です。 - 時間隔の場合、次のいずれかのオプションを使用します: 1、2、3、4、6、8、12。 デフォルトは 1 です。 - 日次の間隔の場合、1～30 の日数を使用します。 デフォルトは 1 です。 <p>分間隔、時間隔、日次の間隔でのみ使用します。</p>
rangeStartTime	Date/ Time	-	<p>タスクを実行する日の時間範囲の開始時刻。標準の日付/時間の形式を使用して日時を入力します。時刻部分のみが使用されます。</p> <p>分間隔、時間隔、日次の間隔でのみ使用します。</p>
rangeEndTime	Date/ Time	-	<p>タスクを実行する日の時間範囲の終了時刻。標準の日付/時間の形式を使用して日時を入力します。時刻部分のみが使用されます。</p> <p>分間隔、時間隔、日次の間隔でのみ使用します。</p>
sun	Boolean	-	<p>日曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun - sat パラメータを使用して、週の複数の曜日でタスクを実行することができます。</p> <p>分間隔、時間隔、週次の間隔、隔週の間隔でのみ使用します。</p>
mon	Boolean	-	<p>月曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
tue	Boolean	-	<p>火曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
wed	Boolean	-	<p>水曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
thu	Boolean	-	<p>木曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
fri	Boolean	-	<p>金曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
sat	Boolean	-	<p>土曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
weekDay	Boolean	-	<p>平日にタスクを実行します。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - True。月曜日から金曜日にタスクを実行します。週末にはタスクを実行しません。 - False。毎日タスクを実行します。 <p>日次の間隔でのみ使用します。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
dayOfMonth	Int	-	<p>タスクを実行する日付。1-28 の日付を使用します。</p> <p>月次の間隔でのみ使用します。</p> <p>ヒント: 月の最終日にタスクを実行するには、weekOfMonth パラメータの「Last」とともに dayOfWeek パラメータの「Day」を使用します。</p>
weekOfMonth	String	-	<p>タスクを実行する月の週数。dayOfWeek とともに使用して、タスクを実行する曜日と月の週数を指定します。例えば、月の第 1 週の日または最後の水曜日です。</p> <p>次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 第 1 - 第 2 - 第 3 - 第 4 - 最後 <p>月次の間隔でのみ使用します。</p>
dayOfWeek	String	-	<p>タスクを実行する曜日。weekOfMonth とともに使用して、タスクを実行する曜日と月の週数を指定します。例えば、月の第 1 週の日または最後の水曜日です。</p> <p>次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日 - 日曜日 - 月曜日 - 火曜日 - 水曜日 - 木曜日 - 金曜日 - 土曜日 <p>月次の間隔でのみ使用します。</p>
timeZoneId	String	-	<p>スケジュールが dayOfMonth、weekOfMonth、dayOfWeek フィールドに使用するタイムゾーン。</p> <p>デフォルトは UTC です。</p> <p>詳細については、付録 A、「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。</p>

POST 要求の例

スケジュールを作成する場合、要求は次の例のようになります。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/schedule
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name": "my_schedule_1",
  "startTime": "2023-09-18T22:00:00.000Z",
  "interval": "Minutely",
  "frequency": 5,
  "mon": true,
  "wed": true,
  "status": "enabled"
}
```

POST 応答

作成または更新したスケジュールのスケジュール応答オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

応答が成功した場合、以下の例ようになります。

```
{
  "id": "8oKIw0ib9qMg1lGIWNPzkdD000000000000H",
  "createTime": "2023-09-10T11:48:28.000Z",
  "updateTime": "2023-09-10T11:48:28.000Z",
  "createdBy": "dev_scott",
  "updatedBy": "dev_scott",
  "name": "my_schedule_1",
  "rangeStartTime": null,
  "rangeEndTime": null,
  "status": "enabled",
  "frequency": 5,
  "description": null,
  "mon": true,
  "tue": false,
  "wed": true,
  "thu": false,
  "fri": false,
  "sat": false,
  "sun": false,
  "weekDay": false,
  "dayOfMonth": 0,
  "weekOfMonth": null,
  "dayOfWeek": null,
  "scheduleFederatedId": "1BrVocfYMAzeQHwXaaMWe7",
  "startTime": "2020-12-25T12:00:00.000Z",
  "endTime": null,
  "interval": "Minutely",
  "timeZoneId": "America/Los Angeles"
}
```

スケジュールの更新

スケジュールリソースを使用して、スケジュールを更新、有効化、または無効化します。

PATCH 要求

次の URI を使用します。

/public/core/v3/schedule/<id>

要求本文に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	-	スケジュール名。
id	String	○	スケジュール ID。 スケジュール ID は更新できません。
scheduleFederatedId	String	○	スケジュールのグローバル一意識別子。 フェデレーションスケジュール ID は更新できません。
description	String	-	スケジュールの説明。

フィールド	タイプ	必須	説明
status	String	-	スケジュールのステータス。以下のいずれかの値を使用します。 - 有効 - 無効 デフォルトでは有効になっています。
startTime	Date/ Time	-	スケジュールのタスクの実行を開始する日付と時刻（UTC 形式）。
endTime	Date/ Time	-	スケジュールのタスクの実行を停止する日付と時刻。このパラメータを使用しない場合、スケジュールは無制限に実行されます。

フィールド	タイプ	必須	説明
interval	String	-	<p>スケジュールのタスクを実行する間隔または繰り返し頻度。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - なし。スケジュールの開始時間にタスクを実行します。スケジュールを繰り返しません。 - Minutely。指定した分数、日数、および時間範囲に基づく間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する分単位の頻度。 - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - startTimeRange および endTimeRange。タスクを実行する日のうちの時間範囲。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Hourly。スケジュールの開始時刻に基づき、タスクを1時間間隔で実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する時間単位の頻度。 - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - startTimeRange および endTimeRange。タスクを実行する日のうちの時間範囲。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Daily。スケジュールに設定された開始時刻に日次の間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - frequency。タスクを実行する日単位の頻度。 - weekDay。すべての平日にタスクを実行します。すべての日でタスクを実行する場合は使用しないでください。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Weekly。スケジュールの開始時刻に基づき、1週間間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - 隔週。スケジュールの開始時刻に基づき、2週間ごとにタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - sun、mon、tue、wed、thu、fri、sat。タスクを実行する曜日。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 - Monthly。スケジュールの開始時刻に基づき、1カ月間隔でタスクを実行します。以下のパラメータを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - dayOfMonth。タスクを実行する1-28の日付。 - dayOfWeek。タスクを実行する曜日。 - weekOfMonth。タスクを実行する月の週数。 - endTime。スケジュールの実行を停止する時間。スケジュールを無制限に実行する場合は使用しないでください。 <p>タスクを実行する時を示すには、第1月曜日など、dayOfWeekとともに weekOfMonth を使用します。または、1などの dayOfMonth を使用します。</p> <p>ヒント: 月の最終日にタスクを実行するには、weekOfMonth パラメータの「Last」とともに dayOfWeek パラメータの「Day」を使用します。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
			デフォルトは間隔なしです。
frequency	Int	-	<p>タスクの繰り返し頻度。以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 分間隔の場合、次のいずれかのオプションを使用します: 5、10、15、20、30、45。 デフォルトは 5 です。 - 時間隔の場合、次のいずれかのオプションを使用します: 1、2、3、4、6、8、12。 デフォルトは 1 です。 - 日次の間隔の場合、1~30 の日数を使用します。 デフォルトは 1 です。 <p>分間隔と時間隔でのみ使用します。</p>
rangeStartTime	Date/Time	-	<p>タスクを実行する日の時間範囲の開始時刻。標準の日付/時間の形式を使用して日時を入力します。時刻部分のみが使用されます。</p> <p>分間隔と時間隔でのみ使用します。</p>
rangeEndTime	Date/Time	-	<p>タスクを実行する日の時間範囲の終了時刻。標準の日付/時間の形式を使用して日時を入力します。時刻部分のみが使用されます。</p> <p>分間隔と時間隔でのみ使用します。</p>
sun	Boolean	-	<p>日曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun - sat パラメータを使用して、週の複数の曜日でタスクを実行することができます。</p> <p>分間隔、時間隔、週次の間隔、隔週の間隔でのみ使用します。</p>
mon	Boolean	-	<p>月曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
tue	Boolean	-	<p>火曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
wed	Boolean	-	<p>水曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
thu	Boolean	-	<p>木曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
fri	Boolean	-	<p>金曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>
sat	Boolean	-	<p>土曜日の設定された時刻にタスクを実行します。</p> <p>sun の説明を参照してください。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
weekDay	Boolean	-	平日にタスクを実行します。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - True。月曜日から金曜日にタスクを実行します。週末にはタスクを実行しません。 - False。毎日タスクを実行します。 日次の間隔でのみ使用します。
dayOfMonth	Int	-	タスクを実行する日付。1-28 の日付を使用します。 月次の間隔でのみ使用します。 ヒント: 月の最終日にタスクを実行するには、weekOfMonth パラメータの「Last」とともに dayOfWeek パラメータの「Day」を使用します。
weekOfMonth	String	-	タスクを実行する月の週数。dayOfWeek とともに使用して、タスクを実行する曜日と月の週数を指定します。例えば、月の第 1 週の日または最後の水曜日です。 次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - 第 1 - 第 2 - 第 3 - 第 4 - 最後 月次の間隔でのみ使用します。
dayOfWeek	String	-	タスクを実行する曜日。weekOfMonth とともに使用して、タスクを実行する曜日と月の週数を指定します。例えば、月の第 1 週の日または最後の水曜日です。 次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - 日 - 日曜日 - 月曜日 - 火曜日 - 水曜日 - 木曜日 - 金曜日 - 土曜日 月次の間隔でのみ使用します。
timeZoneId	String	-	スケジュールが dayOfMonth、weekOfMonth、dayOfWeek フィールドに使用するタイムゾーン。 デフォルトは UTC です。 詳細については、付録 A、 「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。

PATCH の例

スケジュールを更新する場合、要求は次の例のようになります。

```
PATCH <baseApiUrl>/public/core/v3/schedule/0An1v84VPL3k6kyp0Lxq06D0000000000003
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "schedules": [
    {
      "id": "0An1v84VPL3k6kyp0Lxq06D0000000000003",
```

```

        "scheduleFederatedId": "1KiAwzRVIOtLAtCjPtzV4H",
        "name": "V3_Test_CreateSchedule_1569944878",
        "status": "disabled",
        "description": "Update version 2",
        "sat": true
      }
    ]
  }
}

```

応答が成功した場合、以下の例ようになります。

```

{
  "id": "0An1v84VPL3k6kyp01xq06D0000000000003",
  "createTime": "2022-09-24T15:34:36.000Z",
  "updateTime": "2022-10-01T15:47:59.442Z",
  "createdBy": "dev_larry",
  "updatedBy": "dev_larry",
  "name": "V3_Test_CreateSchedule_1569944878",
  "rangeStartTime": null,
  "rangeEndTime": null,
  "status": "disabled",
  "frequency": 1,
  "description": "Update version 2",
  "mon": false,
  "tue": false,
  "wed": true,
  "thu": false,
  "fri": false,
  "sat": true,
  "sun": false,
  "weekDay": false,
  "dayOfMonth": 0,
  "weekOfMonth": null,
  "dayOfWeek": null,
  "scheduleFederatedId": "1KiAwzRVIOtLAtCjPtzV4H",
  "startTime": "2022-12-25T12:00:00.000Z",
  "endTime": null,
  "interval": "Hourly",
  "timeZoneId": "America/Los Angeles"
}

```

スケジュールの削除

スケジュールリソースを使用して、スケジュールを削除します。

スケジュールを削除するには、次の URI を使用して DELETE 要求を送信します。

```
/public/core/v3/schedule/<id>
```

成功した応答は 204 応答コードを返します。エラーが発生した場合は、エラーオブジェクトが返されます。

SCIM トークン

組織が SCIM 2.0 を使用してユーザーおよびグループ情報を Informatica Intelligent Cloud Services にプッシュする場合は、scimTokens リソースを使用して SCIM トークンを管理できます。scimTokens リソースを使用して、SCIM トークンの一覧表示、作成、および削除を行います。

次の要求方法を使用できます。

- 作成した SCIM トークンを一覧表示するには、GET 要求を使用します。
- SCIM トークンを作成するには、POST 要求を使用します。

- 作成した SCIM トークンを削除するには、DELETE 要求を使用します。

SCIM トークンを変更する前に、管理者で **【SAML グループとロールのマッピング】** および **【IdP を有効にしてユーザー/グループをプッシュ (SCIM 2.0 を使用)】** オプションが有効になっていることを確認してください。ユーザーロールには、組織の読み取りおよび更新の権限が割り当てられている必要もあります。

SCIM 2.0 の使用と管理者のアセットの権限の詳細については、管理者のヘルプの「ユーザー管理」を参照してください。

SCIM トークンの一覧表示

scimTokens リソースを使用して、作成した SCIM トークンに関する詳細を要求します。

GET 要求

作成した SCIM トークンの一覧を取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/scimTokens

GET 応答

成功した場合は、作成したそれぞれの SCIM トークンとその有効期限が返されます。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

GET の例

作成した SCIM トークンを一覧表示するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/scimTokens
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

応答が成功した場合、以下の例のようになります。

```
[
  {
    "id": "im2hLfwsRCvL6WG64Geqi0",
    "value": "8fiX0aFR*****",
    "expiry": "2025-04-28T21:05:31.000Z",
    "status": "active"
  }
]
```

SCIM トークンの作成

scimTokens リソースを使用して SCIM トークンを作成します。すでに 2 つのトークンがある場合は、1 つまたは両方のトークンの有効期限が切れている場合でも、新しいトークンを作成する前に 1 つのトークンを削除する必要があります。

POST 要求

SCIM トークンを作成するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/scimTokens

POST 要求の例

トークンを作成する場合、要求は次の例のようになります。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/scimTokens
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

POST 応答

作成したトークンのトークン応答オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

応答が成功した場合、以下の例ようになります。

```
{
  "id": "hTc5rzwEFKMh761VofJoG1",
  "value": "k7UxoAAACMAAAACAQAAAEBAgAAAAyufel1d7nv0zJh5khiVmxxXrnYJl1iR23aBQtVPKPLTiB0qqLCp-davEg50diXELP4-Q==0s3URI0up6Ebu4sLzgtSGC",
  "expiry": "2025-05-06T04:54:53.594Z",
  "status": "active"
}
```

SCIM トークンの削除

scimTokens リソースを使用して、SCIM トークンを削除します。

SCIM トークンを削除するには、次の URI を使用して DELETE 要求を送信します。

/public/core/v3/scimTokens/<token_id>

成功した応答は 204 応答コードを返します。エラーが発生した場合は、エラーオブジェクトが返されます。

Secure Agent サービス

エージェントサービスリソースを使用して、Secure Agent サービスを停止または開始します。

Secure Agent サービスを開始または停止するための POST 要求を送信した後で、REST API V2 エージェントリソースを使用してサービスのステータスをチェックできます。

POST 要求

Secure Agent サービスを停止または開始するには、次の URI を使用します。

public/core/v3/agent/service

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
serviceName	String	○	開始または停止する Secure Agent サービスの名前を表示します。
serviceAction	String	○	Secure Agent サービスで実行するアクション。次のいずれかの値を含めます。 <ul style="list-style-type: none">- start。Secure Agent サービスの最新バージョンを開始します。- stop。Secure Agent サービスのすべてのバージョンを停止します。
agentId	String	○	Secure Agent サービスが配置されているエージェントの ID。 ID を検索するには、エージェントパスを含む lookup POST 要求を送信します。

POST 応答

要求が成功した場合、応答には次のいずれかのサービスの状態が含まれます。

状態	説明
NEED_RUNNING	開始プロセスは開始済みです。
NEED_STOP	停止プロセスは開始済みです。
DEPLOYING	サービスはプロビジョニング済みです。
DEPLOYED	サービスはデプロイ済みで、まもなく実行されます。
UNKNOWN	ステータスは不明です。REST API バージョン 2 エージェントリソースを使用してステータスをチェックします。 ステータスを検索するには、エージェントパスを含む lookup POST 要求を送信します。
ERROR	サービスはエラー状態です。
STARTING	サービスは起動中です。
RUNNING	サービスは実行中で、ジョブを受け入れる準備が整いました。
RESTARTING	サービスは再起動中で、まもなく実行されます。
STOPPING	サービスがシャットダウンしています。
USER_STOPPED	サービスはユーザーにより停止されました。

POST 要求の例

Secure Agent サービスを開始するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/agent/service
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "serviceName": "Data Integration Server",
  "serviceAction": "start",
  "agentId": "kiphQJoRWWJfaC3enJ1smP"
}
```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "serviceState": "STARTING",
  "message": "Successfully initiated start action. Note that only the latest version of the service will be started. Send a GET request to /v2/agent/details API to check the updated status of the service."
}
```

セキュリティログ

securityLog リソースを使用して、セキュリティログエントリを受信します。セキュリティログには、ログインアクションやユーザー、ユーザーグループ、およびロールの作成、更新、削除などのイベントに関する情報が含まれます。このリソースを使用するには、管理者ロールでログインする必要があります。

GET 要求

過去 24 時間のエントリを最大 200 エントリ要求するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/securityLog

または、クエリパラメータを使用して、返されるエントリを指定できます。例えば、次の URI は 2019 年 7 月 26 日の午前 8:00 から午後 5:00 までの間に作成されたエントリを返します。

/public/core/v3/securityLog?q=entryTime>="2019-07-26T08:00:00.000Z";entryTime<="2019-07-26T17:00:00.000Z"

URI で以下のクエリパラメータを含めることができます。

パラメータ	タイプ	説明
entryTime	文字列	エントリの開始時刻または終了時刻（UTC 形式）。 次のいずれかの形式を使用します。 - yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss'Z' - yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ssZ - yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss.SSS'Z' - yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss.SSSZ 日付の最大範囲は 14 日間です。 以下の演算子を使用できます。 - <= - >= - > - == - != デフォルトでは、過去 24 時間のエントリを最大 200 個返します。
actionCategory	文字列	セキュリティログエントリのカテゴリ。 以下の演算子を使用できます。 - == - != このクエリパラメータを使用するには、entryTime クエリパラメータを使用して有効な時刻範囲も含める必要があります。
actor	String	アクションを実行したユーザー名。 以下の演算子を使用できます。 - == - != このクエリパラメータを使用するには、entryTime クエリパラメータを使用して有効な時刻範囲も含める必要があります。
objectName	String	作用したオブジェクト名。 以下の演算子を使用できます。 - == - != このクエリパラメータを使用するには、entryTime クエリパラメータを使用して有効な時刻範囲も含める必要があります。

パラメータ	タイプ	説明
skip	Int	スキップするレコード数。 このクエリパラメータを使用するには、entryTime クエリパラメータを使用して有効な時刻範囲も含める必要があります。 デフォルトは 0 です。
limit	Int	応答に含まれるエントリの数。 指定できる最小は 100、最大は 1000 です。 デフォルトは 200 です。

GET 応答

返される各セキュリティログエントリで securityLogEntry オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

securityLogEntry オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	セキュリティログのエントリ ID。
orgId	String	組織 ID
actor	String	アクションを実行したユーザー。
entryTime	タイムスタンプ	アクションが発生した時刻。
objectId	String	使用されたオブジェクトの ID。
objectName	String	使用されたオブジェクト名。
actionCategory	String	セキュリティログエントリのカテゴリ。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - 認証 - 組織 - サブ組織。 - ユーザー - グループ - ロール - 特権 - エージェント - 特権カテゴリ - 設定
actionEvent	String	実行されるアクションのタイプ。次のいずれかのコードを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - CREATE - UPDATE - DELETE - DISABLE - AGENT_LOGIN - USER_LOGIN - LOGOUT - PASSWORD_RESET

GET の例

ユーザー「admin」が2019年7月26日の午前8:00から午後5:00までの間に実行したアクションのエントリを表示する場合、次のURIを使用できます。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/securityLog?
q=entryTime>="2019-07-26T08:00:00.000Z";entryTime<="2019-07-26T17:00:00.000Z";actor=='admin'
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

応答は以下の例のようになります。

```
{
  "entries": [
    {
      "id": "1A0qT9lYsrUhu7kl49kGsx",
      "orgId": "9l10ywsSnqadMx1NtEEbKT",
      "actor": "admin",
      "entryTime": "2019-07-23T22:28:07.000Z",
      "objectId": "9l10ywsSnqadMx1NtEEbKT",
      "objectName": "idsv3_org_1563920884151",
      "actionCategory": "Organization",
      "actionEvent": "CREATE"
    },
    {
      "id": "595EZai5YqFi6X8GIpVVu0",
      "orgId": "9l10ywsSnqadMx1NtEEbKT",
      "actor": "admin",
      "entryTime": "2019-07-23T22:28:13.000Z",
      "objectId": "9pieratUfEWkhFHnzY1r49",
      "objectName": "idsv3_user_1563920884151",
      "actionCategory": "User",
      "actionEvent": "CREATE"
    }
  ]
}
```

ソース管理

Git ソース管理リポジトリを使用することにより、プロジェクト、フォルダ、アセットなどの Informatica Intelligent Cloud Services オブジェクトに加えた変更を管理および追跡できます。

組織のグローバル Git リポジトリを使用できます。組織の管理者がプロジェクトレベルのリポジトリを有効にしている場合は、プロジェクトレベルで設定されたリポジトリを使用するか、グローバルリポジトリを使用することができます。

以下のリソースを使用できます。

- pull: オブジェクトを Informatica Intelligent Cloud Services 組織にロードします。
- pullByCommitHash: 特定のコミットによって変更されたオブジェクトを取得し、組織にロードします。
- checkout: オブジェクトをリポジトリからチェックアウトします。
- undoCheckout: 指定したオブジェクトのチェックアウトを取り消すか、チェックアウト操作に含まれていたすべてのオブジェクトのチェックアウトを取り消します。
- checkin: 更新されたオブジェクトをリポジトリにチェックインします。
- commit: コミットに関する詳細をリポジトリから取得します。
- commitHistory: 組織内の特定のオブジェクトまたはすべてのオブジェクトのコミット履歴を受け取ります。

- compare。オブジェクトの2つのバージョンを比較して、バージョン間での変更の内容を確認します。
- repositoryConnection。プロジェクトレベルのリポジトリのリポジトリ接続 ID を取得します。
- sourceControlAction: ソース管理操作のステータスを取得します。

オブジェクトのプル

pull リソースを使用して、リポジトリからアセットやプロジェクトなどのオブジェクトを取得し、組織にロードします。

プロジェクトをプルすると、プロジェクトとプロジェクトのフォルダ内のすべてのソース管理アセットがプルに含まれます。アセットがターゲット組織にすでに存在する場合、その内容は、指定されたコミットハッシュでのアセットの状態と一致するように上書きされます。プロジェクトとプロジェクトのフォルダがターゲット組織にすでに存在する場合、それらは再利用されます。

オブジェクトは、グローバルリポジトリレベルまたはプロジェクトレベルでプルすることができます。プルするオブジェクトによって、使用されるリポジトリが決定されます。例えば、プロジェクト A が Repo1 にリンクされている場合、プルは Repo1 から行います。プロジェクト B がプロジェクトレベルのリポジトリにリンクされていない場合、プルはグローバルリポジトリから行います。

他のプロジェクトにある依存オブジェクトはプルには含まれません。プルリクエストで依存オブジェクトが欠落している場合、応答には欠落している依存オブジェクトをリストするエラーメッセージが含まれます。

アセットの接続、ランタイム環境、またはスケジュールがターゲット組織に存在する場合、それらは再利用されます。アセットでターゲット組織内の別の接続またはランタイム環境を使用する場合は、objectSpecification オブジェクトを使用して、その接続またはランタイム環境を組織内の接続またはランタイム環境にマッピングできます。

例えば、アセットは開発組織では SecureAgent_dev ランタイム環境を使用し、テスト組織では SecureAgent_test ランタイム環境を使用します。objectSpecific オブジェクトを使用して、SecureAgent_dev ランタイム環境を SecureAgent_test ランタイム環境にマッピングできます。

注: プル要求に含めるオブジェクトは 1000 件未満にすることをお勧めします。

POST 要求

リポジトリから組織に最新バージョンのオブジェクトをロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/pull

注: プル操作が完了する前に POST 要求に応答を受信します。

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
commitHash	String	○	単一のコミットハッシュ。 コミットハッシュは操作中に検証されます。 GitHub リポジトリを使用する場合は、完全な文字列の代わりにハッシュの最初の7文字を送信することで、リクエストに部分的なハッシュを含めることができます。
relaxObjectSpecificationValidation	Boolean	×	objectSpecification オブジェクトで指定されたソースが、プルされるアセットに存在する必要があるかどうか。次のいずれかの値を使用します。 <ul style="list-style-type: none">- true。プルに含まれるアセットにソースが存在しない場合、objectSpecification オブジェクトは無視されます。- false。プルに含まれるアセットにobjectSpecification ソースが存在しない場合、エラーが発生します。 デフォルトは false です。
objects	List<Object>	はい	プルされるすべてのオブジェクトのリストを含みます。
path	List<String>	はい (ID が含まれない場合)。	objects オブジェクトに含めます。 プルされるオブジェクトのフルパス。
id	String	はい (パスが含まれない場合)。	objects オブジェクトに含めます。 オブジェクトの ID。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	-	<p>objects オブジェクトに含めます。</p> <p>プルされるアセットのタイプ。指定されていない場合、デフォルトは project です。</p> <p>次のいずれかのタイプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - DTEMPLATE。マッピング。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。 - MAPPLET。PowerCenter マップレット。 - BSERVICE。ビジネスサービス定義。 - HSCHEMA。階層スキーマ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - FWCONFIG。固定長の設定。 - CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。 - MI_TASK。一括取り込みタスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - TASKFLOW - UDF。ユーザー定義関数。
objectSpecification	List<Object>	-	<p>接続環境とランタイム環境のオブジェクト仕様。</p>
source	Object	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合) および relaxObjectSpecificationValidation 値が true でない	<p>objectSpecification オブジェクトに含めます。</p> <p>ソースオブジェクトに関する情報を含みます。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
path	List<String>	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	ソースオブジェクトに含めます。 リポジトリの接続またはランタイム環境のフルパス。
type	String	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	ソースオブジェクトに含めます。 アセットタイプ。次のいずれかの値を使用します。 - 接続 - AgentGroup
target	Object	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	objectSpecification オブジェクトに含めます。 ターゲットオブジェクトに関する情報を含みます。 パスとタイプまたは ID を含めます。パス、タイプ、ID が含まれる場合、ID が優先されます。
path	List<String>	はい (ID が含まれない場合)。	ターゲットオブジェクトに含めます。 マップされている接続またはランタイム環境のパス。 タイプで使います。
type	String	はい (ID が含まれない場合)。	ターゲットオブジェクトに含めます。 アセットタイプ。 パスで使います。 次のいずれかの値を使用します。 - 接続 - AgentGroup

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	はい（パスとタイプが含まれない場合）	ターゲットオブジェクトに含めます。 ターゲットオブジェクトの ID。
additionalProviderFlags	Collection<複合型>	いいえ	追加のオブジェクト指定。 キーと値のペアを使用して、入出力パラメータ値やシーケンスジェネレータ値などの追加のオブジェクト指定を指定します。

POST 応答

成功した場合、POST 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
pullActionId	String	プル操作の ID。
status	Object	プル操作のステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 プル操作の初期状態。要求が成功した場合、値は常に NOT_STARTED になります。 操作開始後にステータスを確認するには、 「ソース管理操作のステータスの取得」 （ ページ 301 ）リソースを使用します。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 プル操作のわかりやすいステータスメッセージ。

プロジェクトに対する POST 要求の例

1 回の POST 要求で、1 つ以上のアセットまたはプロジェクトにプル操作を要求できます。パスフィールドを使用して複数のプロジェクトのプル操作を要求し、プルするプロジェクトを指定するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pull
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "7c525831c247cf792f595d1663396d1ae2c85033",
  "objects": [
    {
      "path": ["Project2"]
    },
    {
      "path": ["Default"]
    }
  ]
}
```

プロジェクト ID を使用してプロジェクトのプル操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pull
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "7c525831c247cf792f595d1663396d1ae2c85033",
  "objects": [
    {
      "id": "4gmWUVziA1qe7zXbyN1l6E"
    },
    {
      "id": "4TjbmrAGrk2eal3D0wdIk8"
    }
  ]
}
```

アセットに対する POST 要求の例

POST 要求で 1 つ以上のアセットにプル操作を要求できます。パスフィールドを使用してアセットのプル操作を要求し、プルするアセットを指定するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pull
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "1013f61bf318758cccec08f2165f59bbb41e8f0",
  "objects": [
    {
      "path": ["Default", "Test_Mapping"],
      "type": "DTEMPLATE"
    }
  ]
}
```

アセット ID を使用してプル操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pull
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "1013f61bf318758cccec08f2165f59bbb41e8f0",
  "objects": [
    {
      "id": "6wLjSK4tS4rdjKq5uGuC0T"
    }
  ]
}
```

アセット ID を使用してプル操作を要求し、接続を含めるには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pull
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "1013f61bf318758cccec08f2165f59bbb41e8f0",
  "objects": [
    {
      "id": "6wLjSK4tS4rdjKq5uGuC0T"
    }
  ],
  "objectSpecification": [
```



```

    {
      "source":
      {
        "path":["ff"],
        "type":"Connection"
      },
      "target":
      {
        "path":["target_connection"],
        "type":"Connection"
      }
    }
  ]
}

```

アセット ID、ソースランタイム環境、およびターゲット ID を使用してプル操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```

POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pull
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "1013f61bf318758cccec08f2165f59bbb41e8f0",
  "objects": [
    {
      "id": "6wLjSK4tS4rdjKq5uGuC0T"
    }
  ],
  "objectSpecification": [
    {
      "source":
      {
        "path":["USW1MJ02YNFB"],
        "type":"AgentGroup"
      },
      "target":
      {
        "id": "7UPtJVbrESTj0VkcBYAcUv"
      }
    }
  ]
}

```

POST 応答の例

POST 要求が成功した場合、POST 応答は次の例のようになります。

```

{
  "pullActionId": "awRrziMMWx0l7i42aTm1ih",
  "status": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": "Initialized"
  }
}

```

コミット内のオブジェクトのプル

pullByCommitHash リソースを使用して、特定のコミットによって変更されたオブジェクトを取得し、組織にロードします。

pullByCommitHash リソースを使用する場合は、要求にコミットハッシュを含めます。そのコミットで変更されたオブジェクトがプルに含まれます。パスまたはオブジェクト ID でオブジェクトをプルする場合は、代わりに pull リソースを使用してください。

プロジェクトレベルのリポジトリを使用する場合は、repoConnectionId フィールドを pullByCommitHash 要求に含めます。プロジェクトの repoConnectionId は、repositoryConnection 要求を送信することで確認できます。repoConnectionId の検索の詳細については、[「リポジトリ接続の詳細の取得」 \(ページ 299\)](#)を参照してください。

アセットで別の接続またはランタイム環境を使用する場合は、objectSpecification オブジェクトを使用して、その接続またはランタイム環境を組織内の接続またはランタイム環境にマッピングできます。

注: プル要求に含めるオブジェクトは 1000 件未満にすることをお勧めします。

POST 要求

特定のコミットで変更されたオブジェクトをリポジトリから組織にロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/pullByCommitHash

注: プル操作が完了する前に POST 要求に応答を受信します。

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
commitHash	String	○	単一のコミットハッシュ。 コミットハッシュは操作中に検証されます。 GitHub リポジトリを使用する場合は、コミットハッシュの最初の 7 文字を送信することで、部分的なハッシュを含めることができます。他のリポジトリの場合は、完全な 40 文字のコミットハッシュを含めます。
searchCustomRepositories	Boolean	いいえ	グローバルリポジトリのコミットハッシュが見つからなかった場合にプロジェクトレベルのリポジトリを検索するかどうかを示します。
repoConnectionId	文字列	いいえ	検索するプロジェクトレベルのリポジトリの接続 ID。 指定しない場合は、グローバルリポジトリが検索されます。

フィールド	タイプ	必須	説明
relaxObjectSpecificationValidation	Boolean	×	<p>objectSpecification オブジェクトで指定されたソースが、プルされるアセットに存在する必要があるかどうか。次のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true。プルに含まれるアセットにソースが存在しない場合、objectSpecification オブジェクトは無視されます。 - false。プルに含まれるアセットに objectSpecification ソースが存在しない場合、エラーが発生します。 <p>デフォルトは false です。</p>
objectSpecification	List<Object>	いいえ	接続環境とランタイム環境のオブジェクト仕様。
source	Object	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	objectSpecification オブジェクトに含めます。 ソースオブジェクトに関する情報を含みます。
path	List<String>	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	ソースオブジェクトに含めます。 リポジトリの接続またはランタイム環境の名前。
type	String	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	<p>ソースオブジェクトに含めます。</p> <p>アセットタイプ。次のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 接続 - AgentGroup
target	Object	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	<p>objectSpecification オブジェクトに含めます。</p> <p>ターゲットオブジェクトに関する情報を含みます。</p> <p>パスとタイプまたは ID を含めます。パス、タイプ、ID が含まれる場合、ID が優先されます。</p>
path	List<String>	はい (ID が含まれない場合)。	<p>ターゲットオブジェクトに含めます。</p> <p>接続またはランタイム環境の名前。</p> <p>タイプで使います。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	はい (ID が含まれない場合)。	ターゲットオブジェクトに含めます。 アセットタイプ。 パスで使います。 次のいずれかの値を使います。 - 接続 - AgentGroup
id	String	はい (パスとタイプが含まれない場合)	ターゲットオブジェクトに含めます。 ターゲットオブジェクトの ID。
additionalProviderFlags	Collection<複合型>	いいえ	追加のオブジェクト指定。 キーと値のペアを使用して、 入出力パラメータ値やシー ケンスジェネレータ値など の追加のオブジェクト指定 を指定します。

POST 応答

成功した場合、POST 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
pullActionId	String	プル操作の ID。
status	Object	プル操作のステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 プル操作の初期状態。要求が成功した場合、値は常に NOT_STARTED になります。 操作開始後にステータスを確認するには、 「ソース管理操作のステータスの取得」 (ページ 301) リソースを使います。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 プル操作のわかりやすいステータスメッセージ。

POST 要求の例

コミットで変更されたすべてのアセットにプル操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pullByCommitHash
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "7c525831c247cf792f595d1663396d1ae2c85033"
}
```

プロジェクトレベルのリポジトリに対して行われたコミット内の変更されたすべてのアセットに対してプル操作を要求するには、次の例のような要求を送信します:

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pullByCommitHash
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "7c525831c247cf792f595d1663396d1ae2c85033",
  "searchCustomRepositories": true
}
```

コミットで変更されたすべてのアセットにプル操作を要求し、接続とランタイム環境を含めるには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/pullByCommitHash
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "commitHash": "1013f61bf318758cccec08f2165f59bbb41e8f0",
  "objectSpecification": [
    {
      "source": {
        "path": ["ff"],
        "type": "Connection"
      },
      "target": {
        "path": ["target_connection"],
        "type": "Connection"
      }
    },
    {
      "source": {
        "path": ["USW1MJ02YNFB"],
        "type": "AgentGroup"
      },
      "target": {
        "id": "2ga6h3hRNZCf9Br0ZWB7EF"
      }
    }
  ]
}
```

POST 応答の例

POST 要求が成功した場合、応答は次の例のようになります。

```
{
  "pullActionId": "iW5TmGqUjmUcdZKk4c4VQH",
  "status": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": "Initialized"
  }
}
```

オブジェクトのチェックアウト

チェックアウトリソースを使用して、ソース管理オブジェクトをチェックアウトし、変更を加えられるようにします。オブジェクトをチェックアウトすると、そのオブジェクトはロックされるため、他のユーザーはそのオブジェクトを変更できません。

1回の要求で、複数のプロジェクト、フォルダ、またはアセットをチェックアウトできます。

複数のオブジェクトがチェックアウトに含まれていて、それらのいずれかでチェックアウトが失敗した場合、どのオブジェクトもチェックアウトされません。成功したオブジェクトのステータスは [キャンセル] になります。

チェックアウトステータスの詳細については、[「ソース管理操作のステータスの取得」 \(ページ 301\)](#)を参照してください。

POST 要求

オブジェクトをリポジトリからチェックアウトするには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/checkout`

要求では、オブジェクト ID またはフルパスとオブジェクトタイプのいずれかを指定する必要があります。

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
objects	List<Object>	はい	チェックアウトされるすべてのオブジェクトのリストを含みます。
id	String	はい (パスとタイプが含まれない場合)	objects オブジェクトに含めます。 オブジェクトの ID。
path	List<String>	はい (ID が含まれない場合)。	objects オブジェクトに含めます。 チェックアウトされるオブジェクトのフルパス。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	はい (ID が含まれない場合)。	<p>objects オブジェクトに含めます。 チェックアウトされるアセットのタイプ。 次のいずれかのタイプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - DTEMPLATE。マッピング。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。 - MAPPLET。PowerCenter マップレット。 - BSERVICE。ビジネスサービス定義。 - HSCHEMA。階層スキーマ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - FWCONFIG。固定長の設定。 - CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。 - MI_TASK。一括取り込みタスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - TASKFLOW - UDF。ユーザー定義関数。 - PROCESS。アプリケーションの統合プロセス。 - AI_CONNECTION。アプリケーションの統合アプリの接続。 - AI_SERVICE_CONNECTOR。アプリケーションの統合サービスコネクタ。 - GUIDE。アプリケーションの統合ガイド。 - PROCESS_OBJECT。アプリケーションの統合プロセスオブジェクト。 - HUMAN_TASK。アプリケーションの統合ヒューマンタスク。
includeContainerAssets	Boolean	-	<p>objects オブジェクトに含めます。 プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトがチェックインに含まれているかどうか。以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true。プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトを含めます。 - false。プロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトを含めません。 <p>デフォルトは false です。</p>

POST 応答

成功した場合、POST 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
Id	String	チェックアウト操作の ID。
status	Object	チェックアウト操作のステータス。

フィールド	タイプ	説明
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 チェックアウト操作の初期状態。要求が成功した場合、値は常に NOT_STARTED になります。 操作開始後にステータスを確認するには、 「ソース管理操作のステータスの取得」 (ページ 301) リソースを使用します。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 チェックアウト操作のわかりやすいステータスメッセージ。

POST 要求の例

プロジェクトのチェックアウト操作を要求し、プロジェクトにすべてのアセットを含めるには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "id": "ejZY66c19YUccBdbGwKG4P",
      "includeContainerAssets": true
    }
  ]
}
```

プロジェクトのチェックアウト操作を要求し、プロジェクトに 2 つのアセットを含めるには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "id": "iIVBNZSpUKFg4N6g2PKUox",
      "includeContainerAssets": false
    },
    {
      "id": "l7bgB85m5oGiX0bDxwnvK9"
    },
    {
      "id": "1MW0GDAE1sFgnvWkvom7mK"
    }
  ]
}
```

Default プロジェクトにある Test_Mapping と名付けられたセットにチェックアウト操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
```



```

    "path": [
      "Default",
      "Test_Mapping"
    ],
    "type": "DTEMPLATE"
  }
]
}

```

アセット ID を使用してチェックアウト操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```

POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

```

```

{
  "objects": [
    {
      "id": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV"
    }
  ]
}

```

POST 応答の例

次の例のような応答を受信します。

```

{
  "id": "awRrziMMWxol7i42aTm1ih",
  "status": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": "Initialized"
  }
}

```

チェックアウトの取り消し

チェックアウトを元に戻すには、undoCheckout リソースを使用します。オブジェクトは、プルされた最後のバージョンに戻ります。

アセット、プロジェクト、またはフォルダのチェックアウトを取り消すことができます。チェックアウトに含まれていたすべてのオブジェクトのチェックアウトを取り消すこともできます。管理者としてログインしている場合は、別のユーザーが実行したチェックアウトを取り消すことができます。

POST 要求

チェックアウトを取り消すには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/undoCheckout
```

要求には、チェックアウトの取り消し操作を実行する各オブジェクトの ID またはパスとタイプを含めます。または、チェックアウト操作 ID を含めて、チェックアウトアクションに含まれていたすべてのオブジェクトのチェックアウトを取り消します。

注: ソース管理ログは 7 日間保持されます。チェックアウトの実行から 7 日超が経過すると、チェックアウト操作 ID は存在しなくなるため、チェックアウトの取り消し操作で使用できなくなります。

アセットで別の接続またはランタイム環境を使用する場合は、objectSpecification オブジェクトを使用して、その接続またはランタイム環境を組織内の接続またはランタイム環境にマッピングできます。

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
checkoutOperationId	String	いいえ	チェックアウト操作 ID。指定した場合、チェックアウト操作に含まれていたすべてのアセットが元の状態に戻ります。
objects	List<Object>	いいえ	チェックアウトの取り消し操作に含まれるすべてのオブジェクトのリストを含みます。
id	String	はい（オブジェクトのパスとタイプが含まれず、チェックアウト操作 ID も含まれない場合）	objects オブジェクトに含めます。オブジェクトの ID。
path	List<String>	はい（オブジェクトの ID が含まれず、チェックアウト操作 ID も含まれない場合）	objects オブジェクトに含めます。オブジェクトのフルパス。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	はい（オブジェクトの ID が含まれず、チェックアウト操作 ID も含まれない場合）	<p>objects オブジェクトに含めます。アセットのタイプ。</p> <p>次のいずれかのタイプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - DTEMPLATE。マッピング。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。 - MAPPLET。PowerCenter マップレット。 - BSERVICE。ビジネスサービス定義。 - HSCHEMA。階層スキーマ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - FWCONFIG。固定長の設定。 - CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。 - MI_TASK。一括取り込みタスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - TASKFLOW - UDF。ユーザー定義関数。 - PROCESS。アプリケーションの統合プロセス。 - AI_CONNECTION。アプリケーションの統合アプリの接続。 - AI_SERVICE_CONNECTOR。アプリケーションの統合サービスコネクタ。 - GUIDE。アプリケーションの統合ガイド。 - PROCESS_OBJECT。アプリケーションの統合プロセスオブジェクト。 - HUMAN_TASK。アプリケーションの統合ヒューマンタスク。
includeContainerAssets	Boolean	いいえ	<p>objects オブジェクトに含めます。プロジェクトとフォルダに適用されます。</p> <p>プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトがチェックアウトの取り消し操作に含まれているかどうか。以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true。プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトを含めます。 - false。プロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトを含めません。 <p>デフォルトは false です。</p>
objectSpecification	List<Object>	いいえ	<p>接続環境とランタイム環境のオブジェクト仕様。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
source	Object	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	objectSpecification オブジェクトに含めます。 ソースオブジェクトに関する情報を含みます。
path	List<String>	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	ソースオブジェクトに含めます。 リポジトリの接続またはランタイム環境のフルパス。
type	String	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	ソースオブジェクトに含めます。 アセットタイプ。次のいずれかの値を使用します。 - 接続 - AgentGroup
target	Object	はい (objectSpecification オブジェクトが含まれる場合)	objectSpecification オブジェクトに含めます。 ターゲットオブジェクトに関する情報を含みます。 パスとタイプまたは ID を含めます。 パス、タイプ、ID が含まれる場合、ID が優先されます。
path	List<String>	はい (ID が含まれない場合)。	ターゲットオブジェクトに含めます。 接続またはランタイム環境のパス。 タイプで使います。
type	String	はい (ID が含まれない場合)。	ターゲットオブジェクトに含めます。 アセットタイプ。 パスで使います。 次のいずれかの値を使用します。 - 接続 - AgentGroup
id	String	はい (パスとタイプが含まれない場合)	ターゲットオブジェクトに含めます。 ターゲットオブジェクトの ID。
additionalProviderFlags	Collection<複合型>	いいえ	追加のオブジェクト指定。 キーと値のペアを使用して、入出力パラメータ値やシーケンスジェネレータ値などの追加のオブジェクト指定を指定します。

POST 応答

成功した場合、POST 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	チェックアウトの取り消し操作の ID。
status	Object	チェックアウトの取り消し操作のステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 チェックアウトの取り消し操作の初期状態。要求が成功した場合、値は常に NOT_STARTED になります。 操作開始後にステータスを確認するには、 「ソース管理操作のステータスの取得」 （ページ 301）リソースを使用します。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 チェックアウトの取り消し操作のわかりやすいステータスメッセージ。

POST 要求の例

アセット ID を使用してチェックアウトの取り消し操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/undoCheckout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "id": "4gmWUVziA1qe7zXbyN1l6E"
    },
    {
      "id": "4TjbmrAGrk2eal3D0wdIk8"
    }
  ]
}
```

パスでアセットにチェックアウトの取り消し操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/undoCheckout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "path": ["Default", "Test_Mapping1"],
      "type": "DTEMPLATE"
    },
    {
      "path": ["Default", "Test_Mapping2"],
      "type": "DTEMPLATE"
    }
  ]
}
```

アセットにチェックアウトの取り消し操作を要求し、ソース接続およびランタイム環境をターゲット接続およびランタイム環境にマッピングするには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/undoCheckout
Content-Type: application/json
```

```
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "id": "6wLjSK4tS4rdjKq5uGuC0T"
    }
  ],
  "objectSpecification": [
    {
      "source": {
        "path": ["ff"],
        "type": "Connection"
      },
      "target": {
        "path": ["target_connection"],
        "type": "Connection"
      }
    },
    {
      "source": {
        "path": ["USW1MJ02YNFB"],
        "type": "AgentGroup"
      },
      "target": {
        "id": "2ga6h3hRNZCf9Br0ZWB7EF"
      }
    }
  ]
}
```

チェックアウト操作 ID を使用してチェックアウトの取り消し操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/undoCheckout
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "checkoutOperationId": "<checkout operation ID>"
}
```

POST 応答の例

どの要求の例でも、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "awRrziMMwXol7i42aTm1ih",
  "status": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": "Initialized"
  }
}
```

オブジェクトのチェックイン

checkin リソースを使用して、更新されたオブジェクトをリポジトリにチェックインします。

POST 要求

オブジェクトをリポジトリにチェックインするには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/checkin
```

要求では、オブジェクト ID またはフルパスとオブジェクトタイプのいずれかを指定する必要があります。

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
objects	List<Object>	はい	チェックインされるすべてのオブジェクトのリストを含みます。単一のアセットをチェックインすることも、任意の数のプロジェクトまたはフォルダをチェックインすることもできます。
id	String	はい（パスとタイプが含まれない場合）	objects オブジェクトに含めます。 オブジェクトの ID。
path	List<String>	はい（ID が含まれない場合）。	objects オブジェクトに含めます。 チェックインされるオブジェクトのフルパス。
type	String	はい（ID が含まれない場合）。	objects オブジェクトに含めます。 チェックインされるアセットのタイプ。 次のいずれかのタイプです。 <ul style="list-style-type: none"> - DTEMPLATE。マッピング。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。 - MAPPLET。PowerCenter マップレット。 - BSERVICE。ビジネスサービス定義。 - HSCHEMA。階層スキーマ。 - PCS。PowerCenter タスク。 - FWCONFIG。固定長の設定。 - CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。 - MI_TASK。一括取り込みタスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - TASKFLOW - UDF。ユーザー定義関数。 - PROCESS。アプリケーションの統合プロセス。 - AI_CONNECTION。アプリケーションの統合アプリの接続。 - AI_SERVICE_CONNECTOR。アプリケーションの統合サービスコネクタ。 - GUIDE。アプリケーションの統合ガイド。 - PROCESS_OBJECT。アプリケーションの統合プロセスオブジェクト。 - HUMAN_TASK。アプリケーションの統合ヒューマンタスク。

フィールド	タイプ	必須	説明
includeContainerAssets	Boolean	-	objects オブジェクトに含めます。 プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトがチェックインに含まれているかどうか。以下のいずれかの値を使用します。 - true。プロジェクトまたはフォルダ内のすべてのオブジェクトを含めます。 - false。プロジェクトまたはフォルダ内のオブジェクトを含めません。 デフォルトは false です。
サマリ	String	○	チェックインのサマリ。 最大長は 255 文字です。
description	String	-	チェックインの説明。

POST 応答

成功した場合、POST 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
Id	String	チェックイン操作の ID。
status	Object	チェックイン操作のステータス。
state	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 チェックイン操作の初期状態。要求が成功した場合、値は常に NOT_STARTED になります。 操作開始後にステータスを確認するには、sourceControlAction リソースを使用します。
message	String	ステータスのオブジェクトで返されます。 チェックイン操作のわかりやすいステータスメッセージ。

プロジェクトに対する POST 要求の例

1 回の POST 要求で、1 つ以上のプロジェクトにチェックイン操作を要求できます。プロジェクトのチェックイン操作を要求し、プロジェクトにすべてのアセットを含めるには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkin
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

{
  "objects": [
    {
      "id": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
      "includeContainerAssets": true
    }
  ],
  "summary": "Revised mappings",
  "description": "Revised m_custArch and m_custNew"
}
```


パスとオブジェクトタイプを使用してアセットにチェックイン操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkin
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "path": [
        "Default",
        "Test_Mapping"
      ],
      "type": "DTEMPLATE"
    }
  ]
}
```

アセットに対する POST 要求の例

POST 要求で 1 つのアセットにチェックイン操作を要求できます。Default プロジェクトにある Test_Mapping と名付けられたセットにチェックイン操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkin
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "path": [
        "Default",
        "Test_Mapping"
      ],
      "type": "DTEMPLATE"
    }
  ]
}
```

アセット ID を使用してチェックイン操作を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/checkin
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
{
  "objects": [
    {
      "id": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV"
    }
  ],
  "summary": "Revised Revised m_custArch"
}
```

POST 応答の例

POST 応答は次の例のようになります。

```
{
  "Id": "awRrziMMWxol7i42aTm1ih",
  "status": {
    "state": "NOT_STARTED",
    "message": "Initialized"
  }
}
```

コミットの詳細の取得

commit リソースを使用して、コミットに関する詳細をリポジトリから取得します。

GET 要求

コミットの詳細を取得するには、次の URI を使用します：

`/public/core/v3/commit/<commitHash>`

プロジェクトレベルのリポジトリを使用する場合は、次のパラメータの 1 つまたは両方を URI に含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
searchCustomRepositories	Boolean	-	グローバルリポジトリのコミットハッシュが見つからなかった場合にプロジェクトレベルのリポジトリを検索するかどうかを示します。
repoConnectionId	String	-	検索するプロジェクトレベルのリポジトリの接続 ID。 リポジトリ接続 ID を見つけるには、repositoryConnection 要求を送信します。詳細については、「 リポジトリ接続の詳細の取得 」 (ページ 299) を参照してください。

GET 応答

成功した場合、GET 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
hash	String	コミットの一意の ID。この値は、pullByCommitHash 要求で使用できません。
サマリ	String	コミットハッシュに関連付けられたサマリ。
description	String	コミットハッシュに関連付けられた詳細な説明。
username	String	コミットを実行したユーザーの名前。
email	String	コミットを実行したユーザーの電子メールアドレス。
date	Date	コミットが yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss.SSSZ 形式で送信されたときのタイムスタンプ
committer	String	コミットをファイル作成した Git ユーザー。
changes	List <Object>	コミットに含まれる各オブジェクトの変更の詳細を含みます。
id	String	changes オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのグローバル一意識別子。 オブジェクトが現在組織に存在する場合に含まれます。

フィールド	タイプ	説明
appId	String	changes オブジェクトに含まれます。 REST API バージョン 2 の呼び出しで使用するコンテキスト内のオブジェクトの ID。 オブジェクトが現在組織に存在する場合に含まれます。
name	String	changes オブジェクトに含まれます。 アセット、プロジェクト、またはフォルダの名前。
type	String	changes オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのタイプ。
path	List <String>	changes オブジェクトに含まれます。 オブジェクトのフルパス。
oldPath	List <String>	changes オブジェクトに含まれます。 コミット前のオブジェクトのリモートリポジトリパス。オブジェクトが移動されたかその名前が変更された場合に含まれます。
action	String	changes オブジェクトに含まれます。 コミット中にオブジェクトに加えられた変更のタイプを示します。次のいずれかの値を含みます。 - ADDED - DELETED - MODIFIED - MOVED

GET 要求の例

グローバルリポジトリを使用する場合、GET 要求は次の例のようになります。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/commit/aca30f6c44de9bef23db59ed16967653481c5e23
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

プロジェクトレベルのリポジトリを使用する場合、GET 要求は次の例のようになります。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/commit/aca30f6c44de9bef23db59ed16967653481c5e23
?searchCustomRepositories=true
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

プロジェクトレベルのリポジトリを使用していて、リポジトリ接続 ID を含める場合、GET 要求は次の例のようになります。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/commit/aca30f6c44de9bef23db59ed16967653481c5e23?
repoConnectionId=6ub6oUKHJ8Dkr3QXbGG9Sm
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

GET 応答の例

GET 応答は次の例のようになります。

```
{
  "hash": "aca30f6c44de9bef23db59ed16967653481c5e23",
  "summary": "Update. ",
  "description": "Restructured and updated.",
}
```

```

"username": "testuser",
"email": "user@gmail.com",
"date": "2019-05-13T17:50:46.000Z",
"committer": "Alexander Freeman",
"changes": [
  {
    "id": "5G15DJ19Fw3j20XGL6oooL",
    "appContextId": "NOA170000000001J",
    "name": "Mapping1",
    "type": "DTEMPLATE",
    "path": ["Versioned_Project2", "Mapping1"],
    "action": "MODIFIED"
  },
  {
    "id": "2jFx17stzKgi3lKAtVpWi3",
    "appContextId": "NOA17000000003A02",
    "name": "Versioned_Project",
    "type": "Project",
    "path": ["Versioned_Project"],
    "action": "ADDED"
  },
  {
    "id": "k3SYVglqhAafSWHuQuZdm1",
    "appContextId": "NOF17000000000291",
    "name": "Versioned_Folder",
    "type": "Folder",
    "path": ["Versioned_Project", "Versioned_Folder"],
    "oldPath": ["Versioned_Project", "Test_Folder"],
    "action": "MOVED"
  },
  {
    "id": null,
    "appContextId": null,
    "name": "Mapping2",
    "type": "DTEMPLATE",
    "path": ["Versioned_Project2", "Mapping2"],
    "action": "DELETED"
  }
]
}

```

コミット履歴の取得

commitHistory リソースを使用して、組織のソース管理オブジェクトのコミット履歴を取得します。

ソース管理オブジェクト、特定のプロジェクトまたはフォルダ、または特定のアセットすべてのコミット履歴を要求できます。クエリパラメータを使用して、特定の [エクスプローラ] ページまたは指定したページ数のオブジェクトすべてのコミット履歴を要求することもできます。

GET 要求

組織のプロジェクトとアセットのすべてのコミット履歴を要求したり、特定のプロジェクトまたはアセットの履歴を要求できます。

コミット履歴を取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/commitHistory?<query parameters>

組織のすべてのオブジェクトのコミット履歴を取得するには、クエリパラメータを省略します。

特定のプロジェクトまたはアセットのコミット履歴を取得するには、次のクエリパラメータを URI に追加します。

パラメータ	タイプ	説明
q	String	クエリフィルタの文字列。オブジェクト ID、プロジェクト名またはフォルダ名、またはアセットタイプを含めます。
perPage	String	ページごとに含まれるエントリの数。最大エントリ数は 100 です。デフォルトは 100 です。
ページ	String	結果の指定したページを示します。デフォルトはページ 1 です。

以下のフィールドを使用してクエリフィルタを定義できます。

フィールド	タイプ	演算子	説明
id	String	==	プロジェクト、フォルダ、アセットの ID。
path	String	==	アセットがあるプロジェクトまたはパス。
type	String	==	アセットタイプ。アセットのコミット履歴を受信するのに必須。 次のいずれかのタイプです。 <ul style="list-style-type: none">- DTEMPLATE。マッピング。- MTT。マッピングタスク。- DSS。同期タスク。- DMASK。マスキングタスク。- DRS。レプリケーションタスク。- DMAPPLET。データ統合で作成されたマップレット。- MAPPLET。PowerCenter マップレット。- BSERVICE。ビジネスサービス定義。- HSCHEMA。階層スキーマ。- PCS。PowerCenter タスク。- FWCONFIG。固定長の設定。- CUSTOMSOURCE。保存済みクエリ。- MI_TASK。一括取り込みタスク。- WORKFLOW。リニアタスクフロー。- TASKFLOW- UDF。ユーザー定義関数。- PROCESS。アプリケーションの統合プロセス。- AI_CONNECTION。アプリケーションの統合アプリの接続。- AI_SERVICE_CONNECTOR。アプリケーションの統合サービスコネクタ。- GUIDE。アプリケーションの統合ガイド。- PROCESS_OBJECT。アプリケーションの統合プロセスオブジェクト。- HUMAN_TASK。アプリケーションの統合ヒューマンタスク。
ブランチ	文字列	==	リポジトリブランチ（組織に設定されているブランチと異なる場合）。

クエリの例

クエリパラメータを使用して特定のオブジェクトのコミット履歴を取得する例を以下に示します。

- ID を使用する単一のアセットまたはフォルダのコミット履歴:

```
GET /public/core/v3/commitHistory?q=id=='23546'
```

- ID を使用する 2 つのプロジェクトのコミット履歴:
GET /public/core/v3/commitHistory?q=id=='23423' and id=='5645esf'
- パスを使用する 2 つのプロジェクトのコミット履歴:
GET /public/core/v3/commitHistory?q=path=='project name 1' and path=='project name 2'
- パスを使用するアセットのコミット履歴:
GET /public/core/v3/commitHistory?q=path=='ProjectName/FolderName/AssetName1' and type=='DTEMPLATE'

GET 応答

最新のコミットが最初にリストされているコミットのリストを返します。エラーが発生した場合はエラーを返します。

成功した場合、commits オブジェクトに各コミットの次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
commits	List<Object>	commits のすべてのリスト。
hash	String	コミットの一意の ID。
summary	String	コミットハッシュに関連付けられたサマリ。
description	String	コミットハッシュに関連付けられた詳細な説明。
username	String	コミットを実行したユーザーの名前。
email	String	コミットを実行したユーザーの電子メールアドレス。
date	Date	コミットが yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss.SSSZ 形式で送信されたときのタイムスタンプ
committer	String	コミットをファイル作成した Git ユーザー。
pagination	Object	ページの情報。
pageSize	Int	ページの要素数。
currentPage	Int	現在のページ番号。
hasNext	Boolean	現在のページの後に別のページがあるかどうか。 注: GitLab または GitHub を使用する際に、現在のページのサイズが合計サイズと等しい場合、または最終ページのエントリの合計サイズがページサイズと等しい場合、hasNext フラグが誤って値「true」を返す可能性があります。

GET 応答の例

コミット履歴を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/commitHistory?<query parameters>
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "commits": [
    {
      "hash": "b0bdc63a7fb9047db6c3bc29ad67d5ecbf7d1d47",
      "summary": "Default Project v1",
```

```

        "description": "Default Project v1",
        "username": "testuser@gmail.com",
        "email": "testuser@gmail.com",
        "date": "2020-03-30T22:30:19.000Z",
        "committer": "testuserinfa"
    },
    {
        "hash": "fc6fcc318ad1b4aec17017d053bc2f0d1f605096",
        "summary": "Synchronization Task1 - Copy 1 v1",
        "description": "Synchronization Task1 - Copy 1 v1",
        "username": "testuser@gmail.com",
        "email": "testuser@gmail.com",
        "date": "2020-03-30T22:22:02.000Z",
        "committer": "testuserinfa"
    },
    {
        "hash": "74d776c574dad3bc5cf7a44b22195cf423560fe9",
        "summary": "Project2 Folder1 v1",
        "description": null,
        "username": "testuser@gmail.com",
        "email": "testuser@gmail.com",
        "date": "2020-03-30T22:17:48.000Z",
        "committer": "testuserinfa"
    },
    {
        "hash": "02c8b5950df4ef2110288ba7f77a220bc6f05b0a",
        "summary": "v1 of project2",
        "description": "v1 of project2",
        "username": "testuser@gmail.com",
        "email": "testuser@gmail.com",
        "date": "2020-03-24T23:41:52.000Z",
        "committer": "testuserinfa"
    },
    ],
    "pagination": null
}

```

オブジェクトのバージョンの比較

リソースの比較を使用して、オブジェクトの 2 つのバージョンを比較し、バージョン間での変更の内容を確認します。

オブジェクトのバージョンを比較するには、プル特権が必要です。

POST 要求

オブジェクトの 2 つのバージョンを比較するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/compare/<asset ID>`

応答を JSON 形式で受け取るか、Git diff 形式を使用してテキストとして受け取るかを指定できます。

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
source	String	○	比較するアセットの基本バージョン。次のいずれかの値を使用します。 <ul style="list-style-type: none">- 比較するアセットのバージョンがリポジトリにチェックインされている場合は、値にコミットハッシュを使用します。- 比較するアセットのバージョンがチェックインされていない場合は、次の値を使用します: CURRENT-VERSION
destination	String	○	基本バージョンと比較するアセットのバージョン。 <ul style="list-style-type: none">- アセットのバージョンがリポジトリにチェックインされている場合は、値にコミットハッシュを使用します。- アセットのバージョンがチェックインされていない場合は、次の値を使用します: CURRENT-VERSION
outputFormat	String	○	応答の形式。次のいずれかの値を使用します。 <ul style="list-style-type: none">- JSON- TEXT

POST 応答

応答本文が TXT で、応答が成功した場合、アセット情報と変更が Git diff 応答形式で記録されます。

応答本文が JSON で、応答が成功した場合、POST 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
source	オブジェクト	更新されたバージョンと比較するアセットの基本バージョン。
name	String	アセットの名前。
path	String	アセットへのフルパス。
updatedAt	String	コミットが yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss.SSSZ 形式で送信されたときのタイムスタンプ
updatedAtBy	文字列	スケジュールを更新したユーザー。
commitHash	文字列	コミットから取得されたファイルのコミットハッシュ。次のいずれかの値を使用します。 <ul style="list-style-type: none">- コミットハッシュ番号。アセットのバージョンがリポジトリにコミットされている場合に含まれます。- CURRENT-VERSION。アセットの現在のバージョン。バージョンがリポジトリにコミットされていない場合に含まれます。
destination	オブジェクト	ソースバージョンと比較するアセットのバージョン。
name	文字列	アセットの名前。
path	String	アセットへのフルパス。
updatedAt	String	コミットが yyyy-MM-dd'T'HH:mm:ss.SSSZ 形式で送信されたときのタイムスタンプ
updatedAtBy	文字列	スケジュールを更新したユーザー。

フィールド	タイプ	説明
commitHash	文字列	コミットから取得されたファイルのコミットハッシュ。次のいずれかの値を指定できます。 - コミットハッシュ番号。アセットのバージョンがリポジトリにコミットされている場合に含まれます。 - CURRENT-VERSION。アセットの現在のバージョン。バージョンがリポジトリにコミットされていない場合に含まれます。
action	文字列	アセットに対して実行されたアクション。次のいずれかの値を指定できます。 - CREATE - DELETE - UPDATE - MOVE - MOVE_UPDATE - RENAME - NO_ACTION
objectId	文字列	オブジェクトのグローバル意識別子。
lineGroup	配列<オブジェクト>	ソースバージョンと送信先バージョンに対して実行された変更を記述するオブジェクト。
oldChange		変更が削除された行を一覧表示するオブジェクト。
startPosition	Int	削除された変更の最初の行番号。
noOfLinesAffected	Int	影響を受ける行の合計数。
newChange		変更が追加された行を一覧表示するオブジェクト。
startPosition	Int	追加された変更の最初の行番号。
noOfLinesAffected	Int	影響を受ける行の合計数。
unmodifiedLinesBefore	List <String>	影響を受ける行の前の、変更されていない行。最大は 3 です。
unmodifiedLinesAfter	List <String>	影響を受ける行の後の、変更されていない行。最大は 3 です。
oldChanges	List <String>	アセットファイルから削除された行。単語のインライン削除は <remove-txt> の間に表示されます。
newChanges	List <String>	アセットファイルに追加された新しい行。単語のインライン追加は <add-txt> の間に表示されます。

POST 要求の例

チェックアウトしたアセットと古いバージョンのアセットの比較を要求し、その比較を JSON 形式で受け取るには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/compare/jn94HP0UK4zLEo007eGfEq
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "source": "CURRENT-VERSION",
  "destination": "aca30f6c44de9bef23db59ed16967653481c5e23",
  "outputFormat": "JSON"
}
```

リポジトリにチェックインされている 2 つのバージョンの比較を要求し、比較結果をテキスト形式で受け取るには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/compare/2tDSXSjd2Fkg1AFPSWops3
Content-Type: application/json
Accept: application/text
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "source": "b0bdc63a7fb9047db6c3bc29ad67d5ecbf7d1d47",
  "destination": "fc6fcc318ad1b4aec17017d053bc2f0d1f605096",
  "outputFormat": "TEXT"
}
```

POST 応答の例

チェックアウトしたアセットと古いバージョンのアセットの比較を要求し、JSON 形式で応答を受け取った場合、次の例のような応答が返されることがあります。

```
{
  "source": {
    "name": "TestMapping",
    "path": "Test",
    "updatedOn": null,
    "updatedBy": null,
    "commitHash": "CURRENT-VERSION"
  },
  "destination": {
    "name": "TestMapping",
    "path": "Test",
    "updatedOn": "2025-05-08T02:15:17.842Z",
    "updatedBy": null,
    "commitHash": "95983a4fe44ee21df1933c5c4b4a5c565c68b832"
  },
  "id": "2tDSXSjd2Fkg1AFPSWops3",
  "action": "UPDATE",
  "lineGroup": [
    {
      "oldChange": {
        "startPosition": 85,
        "noOfLinesAffected": 1
      },
      "newChange": {
        "startPosition": 85,
        "noOfLinesAffected": 1
      },
      "unmodifiedLinesBefore": [
        "  ",
        "  ",
        "  "
      ],
      "unmodifiedLinesAfter": [
        "  "
      ]
    },
    {
      "oldChanges": [
        {
          "vcsExportTime": "2025-05-08T02:15:17.842Z PDT"
        }
      ],
      "newChanges": [
        {
          "vcsExportTime": "2025-05-08T02:15:17.842Z PDT"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

リポジトリにチェックインされているアセットの 2 つのバージョンの比較を要求し、テキスト形式で応答を受け取る場合、次の例のような応答が返されることがあります。

```
id: 2tDSXSjd2Fkg1AFPSWops3
action: UPDATE
source: {name='TestMapping', path='Test', updatedOn=Thu May 08 02: 14: 35 UTC 2025, updatedBy='null',
version='ed08ed8f845fe1602006130a734d4416b7b72436'}
```

```

destination: {name='TestMapping', path='Test', updatedOn=Thu May 08 02: 15: 17 UTC 2025, updatedBy='null',
version='95983a4fe44ee21df1933c5c4b4a5c565c68b832'}
}
changes:
@@ -2,
0 +2,
0 @@
{
  "content": {
+  "description": "This mapping is used for testing",
    "allowMaxFieldLength": "false",
    "bigIntConvertType": "ONLY_BIGINT",
    "documentType": "MAPPING",

@@ -84,
    1 +85,
    1 @@
  }
}
},
- "vcsExportTime": "2025-05-07 <remove-text>19:14:35<remove-text> PDT"
+ "vcsExportTime": "2025-05-07 <add-text>19:15:17<add-text> PDT"
}

```

リポジトリ接続の詳細の取得

repositoryConnection リソースを使用して、特定のプロジェクト ID のリポジトリ接続 ID やプロジェクト名などのリポジトリの詳細を取得します。1 つの要求で 1 つ以上のプロジェクトのリポジトリの詳細を取得できます。

応答に含まれるリポジトリ接続 ID を使用して、プロジェクトレベルのリポジトリ内のオブジェクトに対して pullByCommitHash 要求を送信します。

GET 要求

特定のプロジェクトのリポジトリ接続の詳細を取得するには、次の URL を使用します：

/public/core/v3/repositoryConnection

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
projectIds	文字列のリスト	-	リポジトリ接続の詳細を検索するプロジェクト ID。
projectNames	文字列のリスト	-	リポジトリ接続の詳細を検索するプロジェクト名。

GET 応答

成功した場合、GET 要求は次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
pullActionId	String	プル操作の ID。
projectRepoConnections	List <Object>	要求に含まれる各プロジェクト ID またはプロジェクト名のリポジトリの詳細を含むオブジェクト。

フィールド	タイプ	説明
projectId	String	projectRepoConnections オブジェクトで返されます。 プロジェクトの ID。要求にプロジェクト ID が含まれていた場合に含まれます。
projectNames	String	projectRepoConnections オブジェクトで返されます。 プロジェクトの名前。要求にプロジェクト名が含まれていた場合に含まれます。
gitRepositoryURL	文字列	Git リポジトリの URL。
gitRepositoryBranch	文字列	Git リポジトリのブランチ。
globalRepository	Boolean	プロジェクトがグローバル Git リポジトリで設定されているかどうかを示します。true の場合、repoConnectionId は NULL です。
repoConnectionId	文字列	プロジェクトのリポジトリ接続 ID。 プロジェクトがプロジェクトレベルの Git リポジトリで設定されていない場合は NULL です。

GET 要求の例

プロジェクト ID を使用して 2 つのプロジェクトのリポジトリ接続の詳細を要求する場合、要求は次の例のようになります:

```
GET https://{pod_link}}/saas/public/core/v3/repositoryConnection?
projectId=6ub6oUKHJ8Dkr3QXbGG9Sm,5FmdSKPASroei2vyeXwFeT
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

GET 応答の例

要求が成功した場合、GET 応答は次の例のようになります。

```
{
  "projectRepoConnections": [
    {
      "projectId": "6ub6oUKHJ8Dkr3QXbGG9Sm",
      "projectNames": "customProject2",
      "globalRepository": false,
      "gitRepositoryURL": "https://priraj@dev.azure.com/priraj/infa-cloud-vcs-azure/_git/infa-cloud-vcs-",
      "gitRepositoryBranch": "main",
      "repoConnectionId": "1rMeeN2te0TetGYVtRS3GS"
    },
    {
      "projectId": "5FmdSKPASroei2vyeXwFeT",
      "projectNames": "TestProject",
      "globalRepository": true,
      "gitRepositoryURL": "https://priraj@dev.azure.com/priraj/infa-cloud-vcs/_git/infa-cloud-vcs",
      "gitRepositoryBranch": "main",
      "repoConnectionId": null
    }
  ]
}
```

ソース管理操作のステータスの取得

sourceControlAction リソースを使用してソース管理操作のステータスを取得します。

ソース管理操作のステータスを要求することができます。

GET 要求

ソース管理操作のステータスを受け取るには、次の URI にアクション ID を含めます。

/public/core/v3/sourceControlAction/<action ID>

ソース管理操作内の各オブジェクトのステータスを受け取るには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/sourceControlAction/<action ID>?expand=objects

GET 応答

ソース管理操作に対する次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ソース管理操作の ID。
action	String	操作のタイプ。次のいずれかの値を返します。 <ul style="list-style-type: none">- CHECKIN- CHECKOUT- PULL- UNLINK- UNDO_CHECKOUT
commitHash	String	単一のコミットハッシュ。要求がチェックイン操作およびプル操作の場合に含まれます。
startTime	TimeStamp	操作の開始時刻。
endTime	TimeStamp	操作の終了時刻。
status	Object	操作のプルステータス情報が含まれます。
state	String	ステータスオブジェクトに含まれます。 操作のステータス。 次のいずれかの値を返します。 <ul style="list-style-type: none">- NOT_STARTED- IN_PROGRESS- SUCCESSFUL- FAILED- 注意 (WARNING)
message	String	ステータスオブジェクトに含まれます。 操作のわかりやすいステータスメッセージ。
objects	List<Object>	操作に含まれる各オブジェクトを一覧表示します。 URI に expand=objects が含まれるときに返されます。
target	Object	objects オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクト

フィールド	タイプ	説明
id	String	ターゲットオブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトの ID。
path	List<String>	ターゲットオブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトの完全なパス。例えば、「Default」、 「mt_MappingTask1」。
type	String	ターゲットオブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトのアセットタイプ。
status	Object	ターゲットオブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトのステータス情報。
state	String	ステータスオブジェクトに含まれます。 操作のステータス。 次のいずれかの値を返します。 - NOT_STARTED - IN_PROGRESS - SUCCESSFUL - FAILED - SKIPPED。 - CANCELLED - 注意 (WARNING)
message	String	ステータスオブジェクトに含まれます。 操作のわかりやすいステータスメッセージ。

GET 応答の例

ソース管理操作内のそれぞれのオブジェクトのステータスを取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/sourceControlAction/<action ID>?expand=objects
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "drLV4N8PFiuhAbcprur2W",
  "action": "CHECKIN",
  "commitHash": "1234567abcdefg",
  "startTime": "2020-03-24T22:07:44Z",
  "endTime": "2020-03-24T22:08:14Z",
  "status": {
    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Checkin Successful"
  },
  "objects": [
    {
      "target": {
        "path": [
          "Versioned_Project",
          "Versioned_Folder",
          "Versioned Mapping - Rename"
        ],
        "id": "2CefbUuBsYxhG6eeKXvGmh",
        "type": "MAPPING"
      },
      "status": {
```

```

    "state": "SUCCESSFUL",
    "message": "Checkin Successful"
  },
  {
    "target": {
      "path": [
        "Versioned_Project",
        "Versioned_Folder",
        "Versioned Mapping - Edit"
      ],
      "id": "2CefbUuBsYxhG6eeKXvGmh",
      "type": "MAPPING"
    },
    "status": {
      "state": "FAILED",
      "message": "Checkin Failed."
    }
  }
]
}

```

タグ

タグはアセットのグループ化に使用できるアセットプロパティです。

以下のリソースを使用できます。

- TagObjects。このリソースを使用してタグをアセットに割り当てます。
- UntagObjects。このリソースを使用してタグをアセットから削除します。

タグの割り当て

TagObjects リソースを使用して、アセットにタグを割り当てます。

POST 要求

アセットにタグを割り当てるには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/TagObjects

要求内の最大 100 個のアセットにタグを割り当てることができます。

各アセットに次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	○	オブジェクトのグローバル一意識別子。
tags	List	はい	オブジェクトに割り当てるためのタグのリスト。

POST の例

2 つのアセットにタグを割り当てるには、次の例のような POST 要求を使用します。

```

POST <baseApiUrl>/public/core/v3/TagObjects
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>

```

```
[{
  "id": "5kuZuAC30s0dycZuqGpqmM",
  "tags": ["R12 Tag", "DevQA"]
}, {
  "id": "7feHjtC50mLb44CTW4Xmon",
  "tags": ["Prod", "DevQA", "R12 Tag"]
}]
```

要求に成功した場合に 204 の応答コードを返します。要求が失敗した場合にエラーを返します。要求が部分的に成功した場合、次の例に示されるように、成功トランザクションと失敗トランザクションの情報を返します。

```
[{
  "id": "9WfGCcHsygueFigGhAdWqh",
  "status": "FAILED",
  "msg": "Object: 9WfGCcHsygueFigGhAdWqh skipped, missing READ/UPDATE permissions."
}, {
  "id": "0cLD48xB4T0gm8cNjP2kmJ",
  "status": "SUCCESS",
  "msg": "Object: 0cLD48xB4T0gm8cNjP2kmJ Operation Message: [Tag assignment succeeded for artifact 0cLD48xB4T0gm8cNjP2kmJ.]"
}]
```

タグの削除

UntagObjects を使用してタグをアセットから削除します。

POST 要求

タグをアセットから削除するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/UntagObjects

要求内の最大 100 個のアセットからタグを削除できます。

各アセットに次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	○	オブジェクトのグローバル一意識別子。
tags	List	はい	オブジェクトから削除するためのタグのリスト。

POST の例

2 つのアセットからタグを削除するには、次の例のような POST 要求を使用します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/UntagObjects
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

```
[{
  "id": "5kuZuAC30s0dycZuqGpqmM",
  "tags": ["R12 Tag", "DevQA"]
}, {
  "id": "7feHjtC50mLb44CTW4Xmon",
  "tags": ["DevQA", "R12 Tag"]
}]
```


要求に成功した場合に 204 の応答コードを返します。要求が失敗した場合にエラーを返します。要求が部分的に成功した場合、次の例に示されるように、成功トランザクションと失敗トランザクションの情報を返します。

```
[{
  "id": "9WfGCcHsygueFigGhAdWqh",
  "status": "FAILED",
  "msg": "Object: 9WfGCcHsygueFigGhAdWqh skipped, missing READ/UPDATE permissions."
}, {
  "id": "0cLD48xB4T0gm8cNjP2kmJ",
  "status": "SUCCESS",
  "msg": "Object: 0cLD48xB4T0gm8cNjP2kmJ Operation Message: [Tag assignment succeeded for artifact 0cLD48xB4T0gm8cNjP2kmJ.]"
}]
```

ユーザー

users リソースを使用して Informatica Intelligent Cloud Services ユーザー詳細の要求、ユーザーの作成、ロールとユーザーグループの割り当ての更新、およびユーザーの削除を行います。

注: このリソースは、動的レート制限を使用します。システムで大量の要求またはサイズが発生すると、応答が遅くなったり、「要求が多すぎます」というエラーメッセージが表示されて失敗したりすることがあります。

users リソースを userGroups および roles リソースとともに使用して、Informatica Intelligent Cloud Services のタスクおよびアセットのユーザー権限を管理します。ユーザーとグループは割り当てられているロールに基づいて、タスクを実行し、アセットにアクセスする事ができます。

userGroups および roles REST API リソースの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [「ロール」 \(ページ 234\)](#)
- [「ユーザーグループ」 \(ページ 313\)](#)

users、user groups および roles の全般的な情報については、Administrator のヘルプを参照してください。

ユーザーの詳細の取得

users リソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーの詳細を要求します。組織内のすべてのユーザーの詳細、または特定のユーザーの詳細を要求できます。

GET 要求

ユーザーの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/users

特定のユーザーの詳細を取得するには、次のクエリパラメータを URI に追加することができます。

パラメータ	タイプ	説明
q	文字列	クエリフィルタ。次のいずれかのフィールドを使用してフィルタできます。 <ul style="list-style-type: none">- userId。ユーザーの一意の ID。- userName。Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
limit	Int	返すユーザーの最大数。 最大は 200 です。デフォルトは 100 です。
skip	Int	結果のリストのオフセットの量。 デフォルトは 0 です。

例えば、ユーザーの ID を基にして特定のユーザーの詳細を取得するには、次の要求を使用できます。

/public/core/v3/users?q=userId==5N9JGth6pRVf0GjGKv3Q2D &limit=1 &skip=0

GET 応答

正常に実行された場合は、各ユーザーの次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	ユーザー ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
createdBy	文字列	ユーザーアカウントを作成したユーザー。
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新したユーザー。
createTime	文字列	ユーザーを作成した日時。
updateTime	文字列	ユーザーが最後に更新された日時。
userName	文字列	ユーザーアカウントのユーザー名。
firstName	文字列	ユーザーアカウントの名。
lastName	文字列	ユーザーアカウントの姓。
description	文字列	ユーザーの説明。
title	文字列	ユーザーの役職。
phone	文字列	ユーザーの電話番号。
email	文字列	ユーザーのメールアドレス。

フィールド	タイプ	説明
state	文字列	<p>ユーザーアカウントの状態。次のいずれかの値を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - アクティブ。ユーザーアカウントが存在し、ユーザーはアカウントをアクティブ化済みです。 - プロビジョニング済み。ユーザーアカウントは存在しますが、ユーザーはアカウントをアクティブ化していません。 - 利用不可状態。ログイン試行の最大数を越えたため、ユーザーアカウントが無効になっています。 <p>注: ユーザーのパスワードの有効期限が切れている場合、値は NULL になります。</p>
timeZoneId	文字列	<p>ユーザーのタイムゾーン。</p> <p>詳細については、「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。</p>
maxLoginAttempts	Int	アカウントがロックされるまでのログイン試行の回数。
authentication	文字列	<p>ユーザーがシングルサインイン (SAML) を使用して Informatica Intelligent Cloud Services にアクセスするかどうか。</p> <p>次のいずれかの値を返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 0。ネイティブ。 - 1。SAML。
forcePasswordChange	Boolean	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうか。
lastLoginTime	文字列	ユーザーが最後にログインした日時。
lastLoginMode	文字列	ユーザーが REST API 呼び出しを介してログインしたか UI を介してログインしたかを示します。
roles	配列	ユーザーアカウントに割り当てられたロール。
id	文字列	roles オブジェクトに含まれます。 ロール ID。
roleName	文字列	roles オブジェクトに含まれます。 ロール名。
description	文字列	roles オブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
displayName	String	roles オブジェクトに含まれます。 ユーザーインターフェイスに表示されるロール名。
displayDescription	String	roles オブジェクトに含まれます。 ユーザーインターフェイスに表示されるロールの説明。
groups	配列	ユーザーアカウントがメンバーになっているグループ。
id	文字列	groups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループ ID。

フィールド	タイプ	説明
userGroupName	文字列	groups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループ名。
description	文字列	groups オブジェクトに含まれます。 ユーザーグループの説明。

GET 応答の例

ユーザーの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/users
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "5N9JGth6pRYf0GjGKv3Q2D",
    "orgId": "cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS",
    "createdBy": "ma",
    "updatedBy": "a@abc.com",
    "createTime": "2019-03-06T22:04:00.000Z",
    "updateTime": "2019-03-18T22:34:53.000Z",
    "userName": "a@abc.com",
    "firstName": "a",
    "lastName": "jones",
    "description": "",
    "title": "dev",
    "phone": "1112221111",
    "email": "a@abc.com",
    "state": "Enabled",
    "timeZoneId": "America/Los_Angeles",
    "maxLoginAttempts": "10",
    "authentication": "Native",
    "forcePasswordChange": false,
    "lastLoginTime": "2020-07-31T21:50:10Z",
    "lastLoginMode": "API",
    "roles": [
      {
        "id": "9c2XrdpAz80hg29yXDBPEN",
        "roleName": "Data Preview",
        "description": "Role to preview data",
        "displayName": "Data Preview",
        "displayDescription": "Role to preview data"
      },
      {
        "id": "1VfnsGZiCT1fi25VAupQg1",
        "roleName": "Designer",
        "description": "Role for creating assets, ... and runtime environments. Has access to the Application Integration Console.",
        "displayName": "Designer",
        "displayDescription": "Role for creating assets, ... and runtime environments. Has access to the Application Integration Console."
      }
    ],
    "groups": [
      {
        "id": "a6x85hoMvH2kWUilcIRBEH",
        "userGroupName": "group_a",
        "description": ""
      }
    ]
  }
],
```

```
{
  "id": "aJWtpgg613c1VbXvRRHcV",
  "orgId": "cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS",
  "createdBy": "a@abc.com",
  "updatedBy": "a@abc.com",
  "createTime": "2019-03-13T20:15:58.000Z",
  "updateTime": "2019-03-13T20:15:58.000Z",
  "userName": "b@abc.com",
  "firstName": "b",
  "lastName": "smith",
  "description": "",
  "title": "cs",
  "phone": "1112223333",
  "email": "b@abc.com",
  "state": "Provisioned",
  "timeZoneId": "America/Los_Angeles",
  "maxLoginAttempts": "10",
  "authentication": "Native",
  "forcePasswordChange": false,
  "lastLoginTime": "2020-07-31T21:50:10Z",
  "lastLoginMode": "API",
  "roles": [
    {
      "id": "9c2XrdpAz80hg29yXDBPEN",
      "roleName": "Data Preview",
      "description": "Role to preview data",
      "displayName": "Data Preview",
      "displayDescription": "Role to preview data"
    }
  ],
  "groups": [
    {
      "id": "a6x85hoMvH2kWUilcIRBEh",
      "userGroupName": "group_a",
      "description": ""
    }
  ]
}
```

ユーザーの作成

管理者特権を持っている場合、users リソースを使用してユーザーを作成できます。

POST 要求

ユーザーを作成するには、次の URI を使用して POST 要求を送信します。

/public/core/v3/users

注: ユーザー、ユーザーグループ、結合されたロールの数は、1 つの組織で 1000 を超える事は出来ません。

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。 有効な電子メールアドレスであるか、英数字、ハイフン、アンダースコア、ピリオド、アポストロフィのみを含める必要があります。 最大長は 255 文字です。
firstName	String	○	ユーザーアカウントの名。

フィールド	タイプ	必須	説明
lastName	String	○	ユーザーアカウントの姓。
password	String	-	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。 パスワードが空の場合、ユーザーはアクティベーション電子メールを受け取ります。 最大長は 255 文字です。
description	文字列	-	ユーザーの説明。
email	String	○	ユーザーのメールアドレス。
title	文字列	-	ユーザーの役職。
phone	文字列	-	ユーザーの電話番号。
forcePasswordChange	Boolean	-	初回ログイン後、ユーザーがパスワードをリセットする必要があるかどうかを決定します。
maxLoginAttempts	Int	-	アカウントがロックされるまでのログイン試行の回数。
authentication	Int	-	ユーザーがシングルサインイン（SAML）を使用して Informatica Intelligent Cloud Services にアクセスするかどうかを決定します。 以下の値を使用します。 - 0。ネイティブ。 - 1。SAML。
aliasName	文字列	認証が 0 でない場合は必須。	サードパーティーシステムでのユーザー ID またはユーザー名。
roles	配列	グループ ID が含まれていない場合は必須。	ユーザーに割り当てるロールの ID。
groups	配列	ロール ID が含まれていない場合は必須。	ユーザーに割り当てるユーザーグループの ID。

POST 応答

成功した場合、users オブジェクトと、POST 要求に含めた詳細が返されます。

POST の例

ユーザーを作成するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <baseApiUrl>/public/core/v3/users
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name" : "c@abc.com",
  "firstName" : "c",
  "lastName" : "smith",
```

```

    "email": "c@abc.com",
    "authentication": 0,
    "roles": ["5IPgtye09EbiWqz5XXuzwC", "9gedBDoYQoQibNMohf5KCh"],
    "groups": ["a6x85hoMvH2kwUilcIRBEh"]
  }

```

次の例のような応答を受信します。

```

{
  "id": "9EcgvBYZ9GGf10Yr98Gz0H",
  "orgId": "cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS",
  "createdBy": "a@abc.com",
  "updatedBy": "a@abc.com",
  "createTime": "2020-08-20T18:29:19.987Z",
  "updateTime": "2020-08-20T18:29:20.653Z",
  "userName": "c@abc.com",
  "firstName": "c",
  "lastName": "smith",
  "description": null,
  "title": "dev",
  "phone": null,
  "email": "c@abc.com",
  "state": "Provisioned",
  "timeZoneId": "America/Los_Angeles",
  "maxLoginAttempts": "10",
  "authentication": "Native",
  "forcePasswordChange": false,
  "lastLoginTime": null,
  "lastLoginMode": "None",
  "roles": [
    {
      "id": "5IPgtye09EbiWqz5XXuzwC",
      "roleName": "test",
      "description": ""
    },
    {
      "id": "9gedBDoYQoQibNMohf5KCh",
      "roleName": "Admin",
      "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to all licensed services."
    }
  ],
  "groups": [
    {
      "id": "a6x85hoMvH2kwUilcIRBEh",
      "userGroupName": "group_a",
      "description": ""
    }
  ]
}

```

ロールの割り当ての更新

ユーザーに対するロールの割り当てを追加または削除できます。

組織で SAML シングルサインオンの [SAML グループとロールのマッピング] オプションが有効になっている場合、ユーザーのロール割り当てを更新することはできません。詳細については、Administrator ヘルプの「[ユーザー管理](#)」を参照してください。

ロールの割り当て

ユーザーにロールを割り当てるには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/users/<user ID>/addRoles

/public/core/v3/users/name/<user name>/addRoles

ユーザーに割り当てるロールの配列を含めます。

例えば、管理者とビジネスマネージャーのロールをユーザーに割り当てるには、次の要求を使用できます。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/users/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/addRoles
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "roles" : ["Admin", "Business Manager"]
}
```

roles リソースを使用して、割り当てることができるロールのリストを取得できます。詳細については、[「ロール」 \(ページ 234\)](#)を参照してください。

成功した場合は成功コード、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

ロールの削除

ユーザーからロールの割り当てを削除するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```
/public/core/v3/users/<user ID>/removeRoles
/public/core/v3/users/name/<user name>/removeRoles
```

割り当てを解除するロールの配列を含めます。

例えば、ユーザーからデザイナのロールの割り当てを削除するには、次の要求を使用できます。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/users/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/removeRoles
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "roles" : "Designer"
}
```

ユーザーグループの割り当ての更新

ユーザーのユーザーグループ割り当てを追加または削除できます。

組織で SAML シングルサインオンの [SAML グループとロールのマッピング] オプションが有効になっている場合、ユーザーのユーザーグループ割り当てを更新することはできません。詳細については、Administrator ヘルプの「[ユーザー管理](#)」を参照してください。

ユーザーグループの割り当て

ユーザーグループをユーザーに割り当てるには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```
/public/core/v3/users/<user ID>/addGroups
/public/core/v3/users/name/<user name>/addGroups
```

ユーザーに割り当てるユーザーグループの配列を含めます。

例えば、Workflow Manager と MDM 管理者のユーザーグループをユーザーに割り当てるには、次の要求を使用できます。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/users/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/addGroups
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "groups" : ["Workflow Manager", "MDM Admin"]
}
```

userGroups リソースを使用して、割り当てることができるユーザーグループのリストを取得できます。詳細については、[「ユーザーグループ」 \(ページ 313\)](#)を参照してください。

成功した場合は成功コード、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

ユーザーグループの割り当ての削除

ユーザーグループの割り当てを削除するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```
/public/core/v3/users/<user ID>/removeGroups  
/public/core/v3/users/name/<user name>/removeGroups
```

ユーザーから削除するユーザーグループ割り当ての配列を含めます。

例えば、MDM 管理者ユーザーグループの割り当てを削除するには、次の要求を使用できます。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/users/name/LarryR/removeGroups  
Content-Type: application/json  
Accept: application/json  
INFA-SESSION-ID: <sessionId>  
{  
  "groups" : ["MDM Admin"]  
}
```

ユーザーの削除

管理者特権を持っている場合、users リソースを使用してユーザーを削除できます。

DELETE 要求

ユーザーアカウントを削除するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/users/<userId>
```

例えば、次の例のような要求を送信します。

```
DELETE <baseApiUrl>/public/core/v3/users/5N9JGth6pRYf0GdGKv3Q2D  
Content-type: application/json  
Accept: application/json  
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

ユーザーグループ

このリソースを使用して、ユーザーグループを作成、更新および削除します。

userGroups リソースを users および roles リソースとともに使用して、ユーザー特権を管理します。ユーザーとグループは割り当てられているロールに基づいて、タスクを実行し、アセットにアクセスする事ができます。

次の要求を送信できます。

- すべてのユーザーグループまたは特定のユーザーグループの詳細を取得するには、GET 要求を送信します。
- ユーザーグループを作成するには、POST 要求を使用します。
- ロールまたはユーザーをユーザーグループに追加するには、PUT 要求を使用します。
- ユーザーグループを削除するには、DELETE 要求を使用します。

注: このリソースは、動的レート制限を使用します。システムで大量の要求またはサイズが発生すると、応答が遅くなったり、「要求が多すぎます」というエラーメッセージが表示されて失敗したりすることがあります。

users および roles REST API リソースの詳細は、次のトピックを参照してください。

- [「ユーザー」 \(ページ 305\)](#)
- [「ロール」 \(ページ 234\)](#)

users、user groups および roles の全般的な情報については、Administrator のヘルプを参照してください。

注: ユーザー、ユーザーグループ、結合されたロールの数は、1つの組織で 1000 を超える事は出来ません。

ユーザーグループの詳細の取得

組織内のすべてのユーザーグループの詳細、または特定のユーザーグループの詳細を要求できます。

GET 要求

組織内のすべてのユーザーグループの詳細、または特定のユーザーグループの詳細を要求できます。

ユーザーグループの詳細を取得するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/userGroups

特定のユーザーグループの詳細を取得するには、次のクエリパラメータを URI に追加する事ができます。

パラメータ	タイプ	説明
q	文字列	クエリフィルタ。次のいずれかのフィールドを使用してフィルタできます。 <ul style="list-style-type: none">- groupId。ユーザーグループを一意に識別する ID。- groupName。ユーザーグループの名前。
limit	Int	返すユーザーグループの最大数。 デフォルトは 100 です。
skip	Int	結果のリストのオフセットの量。 デフォルトは 0 です。

例えば、ユーザーグループの名前を使用して特定のユーザーグループの詳細を取得するには、次の要求を使用できます。

public/core/v3/userGroups?q=groupName=="group_a"

GET 応答

正常に実行された場合は、各ユーザーグループの次の情報を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	文字列	ユーザーグループ ID。
orgId	String	ユーザーグループが属する組織の ID。
createdBy	文字列	ユーザーアカウントを作成したユーザー。
updatedBy	String	ユーザーアカウントを最後に更新したユーザー。
createTime	文字列	ユーザーグループを作成した日時。
updateTime	文字列	ユーザーグループが最後に更新された日時。
groupName	文字列	ユーザーグループの名前。
description	文字列	ユーザーグループの説明。

フィールド	タイプ	説明
roles	配列	ユーザーグループに割り当てられたロール。
id	文字列	roles オブジェクトに含まれます。 ロール ID。
roleName	文字列	roles オブジェクトに含まれます。 ロール名。
description	文字列	roles オブジェクトに含まれます。 ロールの説明。
displayName	String	roles オブジェクトに含まれます。 ユーザーインターフェースに表示されるロール名。
displayDescription	String	roles オブジェクトに含まれます。 ユーザーインターフェースに表示されるロールの説明。
users	配列	ユーザーグループに割り当てられたユーザー。
id	文字列	users オブジェクトに含まれます。 ユーザー ID。
userName	文字列	users オブジェクトに含まれます。 ユーザー名。
description	文字列	users オブジェクトに含まれます。 ユーザーの説明。

GET 応答の例

ユーザーグループの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <baseApiUrl>/public/core/v3/userGroups
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
```

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
[
  {
    "id": "a6x85hoMvH2kWUilcIRBEh",
    "orgId": "cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS",
    "createdBy": "a@abc.com",
    "updatedBy": "a@abc.com",
    "createTime": "2019-03-19T17:27:09.000Z",
    "updateTime": "2019-03-19T17:27:09.000Z",
    "userGroupName": "group_a",
    "description": "",
    "roles": [
      {
        "id": "9gedBDoYQoQibNMohf5KCh",
        "roleName": "Admin",
        "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to all licensed services.",
        "displayName": "Admin",
        "displayDescription": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to all licensed services."
      }
    ]
  }
]
```

```

    },
    "users": [
      {
        "id": "5N9JGth6pRYf0GjGKv3Q2D",
        "userName": "a@abc.com",
        "description": ""
      }
    ]
  }
}
]

```

ユーザーグループの作成

管理者権限がある場合は、userGroups リソースを使用してユーザーグループを作成できます。

注: ユーザー、ユーザーグループ、結合されたロールの数は、1 つの組織で 1000 を超える事は出来ません。

POST 要求

ユーザーグループを作成するには、次の URI を使用して POST 要求を送信します。

/public/core/v3/userGroups

以下の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	ユーザーグループの名前。
description	文字列	-	ユーザーグループの説明。
roles	配列	はい	ユーザーグループに割り当てるロールの ID。
users	配列	-	ユーザーグループに割り当てるユーザーの ID。

POST 応答

成功した場合、userGroups オブジェクトと、POST 要求に含めた詳細が返されます。

POST の例

ユーザーグループを作成するには、次の例のような要求を送信します。

```

POST <baseApiUrl>/public/core/v3/userGroups
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "name": "user_group_1",
  "roles": ["5IPgtye09EbiWqz5XXuzwC", "9gedBDoyQoQibNMohf5KCh"],
  "users": ["9EcgvBYZ9GGfL0Yr98Gz0H"]
}

```

次の例のような応答を受信します。

```

{
  "id": "oTLmCMwX0jNdJ5SzLQC2CW",
  "orgId": "cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS",
  "createdBy": "a@abc.com",
  "updatedBy": "a@abc.com",
  "createTime": "2019-03-20T18:30:32.457Z",
  "updateTime": "2019-03-20T18:30:32.472Z",
  "userGroupName": "user_group_1",
  "description": null,
  "roles": [
    {

```

```

        "id": "9gedBDoYQoQibNMohf5KCh",
        "roleName": "Admin",
        "description": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full access to
all licensed services.",
        "displayName": "Admin",
        "displayDescription": "Role for performing administrative tasks for an organization. Has full
access to all licensed services."
    },
    {
        "id": "5IPgtye09EbiWqz5XXuzwC",
        "roleName": "test_user_1",
        "description": "",
        "roleName": "test_user_1",
        "description": ""
    }
  ],
  "users": [
    {
        "id": "9EcgvBYZ9GGf10Yr98Gz0H",
        "userName": "test_user_2",
        "description": null
    }
  ]
}

```

ユーザーグループの更新

ユーザーとロールをユーザーグループに追加したり、ユーザーとロールをユーザーグループから削除したりできます。

ロールの追加

ユーザーグループにロールを追加するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/userGroups/<user group ID>/addRoles

/public/core/v3/userGroups/name/<user group name>/addRoles

ユーザーグループに追加するロールの配列を含めます。

ユーザーグループにロールを追加するには、次の例のような要求を送信します。

```

PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/userGroups/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/addRoles
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "roles": ["Admin", "Business Manager"]
}

```

ロールの削除

ユーザーグループからロールを削除するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

/public/core/v3/userGroups/<user group ID>/removeRoles

/public/core/v3/userGroups/name/<user group name>/removeRoles

ユーザーグループから削除するロールの配列を含めます。

ユーザーグループからロールを削除するには、次の例のような要求を送信します。

```

PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/userGroups/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/removeRoles
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "roles": ["Admin", "Business Manager"]
}

```

ユーザーの追加

ユーザーグループにユーザーを追加するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```
/public/core/v3/userGroups/<user group ID>/addUsers
```

```
/public/core/v3/userGroups/name/<user group name>/addUsers
```

ユーザーグループに追加するユーザー名の配列を含めます。

ユーザーグループにユーザーを追加するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/userGroups/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/addUsers
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "users" : ["LarryR", "ScottY"]
}
```

ユーザーの削除

ユーザーグループからユーザーを削除するには、次の URI のいずれかを使用して PUT 要求を送信します。

```
/public/core/v3/userGroups/<user group ID>/removeUsers
```

```
/public/core/v3/userGroups/name/<user group name>/removeUsers
```

ユーザーグループから削除するユーザー名の配列を含めます。

ユーザーグループからユーザーを削除するには、次の例のような要求を送信します。

```
PUT <baseApiUrl>/public/core/v3/userGroups/cPYWk02I4aBeuLEvYRtaMS/removeUsers
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
{
  "users" : ["LarryR", "ScottY"]
}
```

PUT 応答

成功したら成功コードを、エラーが発生したらエラーオブジェクトを返します。

ユーザーグループの削除

組織のユーザーグループを削除できます。

ユーザーグループを削除するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/userGroups/<user group Id>
```

第 4 章

データ統合 REST API

このセクションの REST API リソースは、特にデータ統合サービスに適用されます。

ほとんどの呼び出しで、データ統合 REST API のバージョン 2 リソースを使用します。データ統合 REST API バージョン 2 リソースを使用する場合は、次のルールに注意してください。

- JSON 形式または XML 形式を使用する。
- ログイン応答から、次の URI のベース URL として `serverUrl` 値を使用します。以下に例を示します。
`https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas`
- 次の URI を使用します。
`/api/v2/<API name>`
- 次の要求ヘッダー形式を使用します。
`<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>`
`Content-Type: application/json`
`Accept: application/json`
`icSessionId: <SessionId>`

次の例では、`serverUrl` は `https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas` で、URI は `/api/v2/agent` です。

```
<METHOD> https://na4.dm-us.informaticacloud.com/saas/api/v2/agent HTTP/1.1
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: IV4w0rJmd6YUtmKa8t
```

バージョン 2 リソース以外のリソースのフォーマットルールは、該当するリソーストピックに記載されています。

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

コードタスク

コードタスク API を使用して、Scala で記述された Spark コードを詳細クラスタに送信します。CodeTask リソースを使用して、コードタスクジョブを作成、開始、およびキャンセルできます。また、セッションログにアクセスしたり、コードタスクのジョブの詳細やジョブのステータスを表示したりすることもできます。

コードタスクリソースを使用する際は、次のガイドラインを考慮してください。

- コードタスクは Scala で記述します。
- コードタスク API を使用してコードを JAR ファイルで送信します。
- AWS サーバーレスまたは非サーバーレス環境を使用します。

- 次のベース URL を使用する。
`<server URL>/disnext/api/v1/<API name>`
- 次の要求ヘッダー形式を使用します。
`<METHOD> <server URL>/<URI> HTTP/<HTTP version>`
`Content-Type: application/json`
`Accept: application/json`
`IDS-SESSION-ID: <IDS_SESSION_ID>`
- コードタスク API を作成、実行、および表示する権限があることを確認してください。
- コードタスク API で必要に応じて、次のパーシステント変数を使用します。
 - IDS_SESSION_ID
 - ORG_ID
 - CODE_TASK_ID
 - CODE_TASK_JOB_ID

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

次のタスクを実行して、Scala コードを JAR ファイルで送信し、コードタスクジョブを管理および監視します。

- [「ログイン」 \(ページ 174\)](#) を使用して、ログイン情報を送信してセッション ID を取得します。
- [「コードタスクの作成」 \(ページ 320\)](#) を使用して、コードタスクを作成してコードタスク ID を取得します。
- [「コードタスクの開始」 \(ページ 322\)](#) を使用して、コードタスクを開始してジョブ ID を取得します。
- [「コードタスクの表示」 \(ページ 323\)](#) を使用して、コードタスクの詳細を表示します。
- [「コードタスクのステータス」 \(ページ 325\)](#) を使用して、コードタスクのジョブステータスを確認します。
- [「コードタスクのキャンセル」 \(ページ 327\)](#) を使用して、コードタスクジョブをキャンセルします。
- [「コードタスクのセッションログ」 \(ページ 328\)](#) を使用して、コードタスクのセッションログにアクセスします。
- [「コードタスクの Spark タスクの結果」 \(ページ 328\)](#) を使用して、コードタスクの Spark タスクの結果にアクセスします。

コードタスクの作成

CodeTask リソースを使用してコードタスクを作成します。応答には、後続の API 呼び出しで使用できるコードタスク ID が含まれます。

POST 要求

次の URI を使用してコードタスクを作成します。

POST `<server URL>/disnext/api/v1/CodeTask`

POST 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須/オプション	説明
codeTaskName	String	必須	コードタスクの名前。
runtimeEnvironmentName	String	オプション	コードタスクに使用されるランタイム環境。 runtimeEnvironmentName または agentGroupId のいずれかが必要です。両方が指定されている場合は、agentGroupId が使用されます。
codeExecutionParameters			コードタスクのパラメータ。
agentGroupId	String	必須	コードタスクの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。 runtimeEnvironmentName または agentGroupId のいずれかが必要です。両方が指定されている場合は、agentGroupId が使用されます。
overrideTaskTimeout	Long	オプション	この実行のコードタスクタイムアウト値をオーバーライドします。値-1 は、タイムアウトがないことを意味します。
logLevel	String	オプション	セッションログ、エージェントジョブログ、Spark ドライバ、およびエグゼキューターログのログレベル。有効な値は、none、terse、normal、verboseInitialization、または verboseData です。デフォルト値は normal です。
sparkMainClass	String	必須	Spark アプリケーションのエントリポイント。以下に例を示します。 org.apache.spark.examples.company.SparkExampleApp
sparkMainClassArgs	List<String>	オプション	Spark アプリケーションの Main クラスに送信される順序付けされた引数。以下に例を示します。 --appTypeSPARK_PI_FILES_JARS-- classesToLoadcom.company.test.SparkTest1Class
sparkPrimaryResource	String	必須	コードタスクが含まれている Scala JAR ファイル。
sparkJars	List<String>	オプション	クラスタにアップロードされ、Spark ドライバとエグゼキュータークラスパスに追加される JAR ファイルのディレクトリとファイル名。
sparkFiles	List<String>	オプション	クラスタにアップロードされ、現在の作業ディレクトリで利用できる Spark ファイルのディレクトリとファイル名。
advancedCustomProperties	String	オプション	データ統合が使用する Spark プロパティまたはその他のカスタムプロパティ。以下に例を示します。 {"spark.driver.memory": "2G", "spark.executor.instances": "4"}

POST 応答

次の変数は応答属性から設定されます。

名前	応答値	注
CODE_TASK_ID	codeTaskId	コードタスクの start リソースと view リソースで使用されます。

POST 要求の例

コードタスクを作成するには、次のサンプルを参考にしてください。

```
POST <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS_SESSION_ID}}
{
  "codeTaskName": "CODETASK_API",
  "runtimeEnvironmentName": "{{RTE_NAME}}",
  "codeExecutionParameters": {
    "agentGroupId": "{{AGENT_GROUP_ID}}",
    "logLevel": "normal",
    "sparkMainClass": "org.apache.spark.examples.infa.sparkdirect.SparkDirectExampleApp",
    "sparkMainClassArgs": ["6"],
    "sparkPrimaryResource": "spark-examples_2.12-3.0.0.jar",
    "sparkJars": [],
    "sparkFiles": [],
    "advancedCustomProperties": "{\"spark.driver.memory\": \"1G\", \"spark.executor.memory\": \"1G\", \"spark.kubernetes.driverEnv.SPARK_DIRECT_TASK_SLEEP\": \"600\", \"spark.kubernetes.driverEnv.SPARK_DIRECT_APP_TYPE\": \"SPARK_PI\", \"spark.kubernetes.driverEnv.SPARK_DIRECT_KMS_ENCRYPTED_PROPS\": \"spark.sparkdirect.kms.prop\", \"spark.sparkdirect.kms.prop\": \"5pk0jS0HILDwSaw6eyxtiwB3g2TBYayjKLRFSsyxn5M=0p6v3eCvrtFkw6K78Buwal\", \"advanced.custom.property\": \"infa.spark.local=false\"}"
  }
}
```

POST 応答の例

POST 応答が成功すると、次の例のようなサマリ、コードタスク ID、およびコードタスク名が返されます。

```
{
  "summary": "Code Task created successfully",
  "codeTaskId": 3,
  "codeTaskName": "CODETASK_API"
}
```

コードタスクの開始

次の POST 要求を使用して、コードタスクジョブを開始します。応答には、後続の API 呼び出しで使用できるコードタスクジョブ ID が含まれます。

POST 要求

コードタスクを開始するには、タスク ID を使用します。コードタスク ID は、コードタスクの作成時の応答に含まれています。詳細については、[「コードタスクの作成」](#) (ページ 320) を参照してください。

次の URI を使用してコードタスクを開始します。

```
POST <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/Start
```

POST 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須/オプション	説明
codeTaskId	String	必須	create リソースからのコードタスク ID。

POST 応答

次の変数は応答属性から設定されます。

名前	応答値	注
CODE_TASK_JOB_ID	jobId	コードタスクジョブをキャンセルするか、ジョブステータス、セッションログ、または Spark タスクステータスを取得するために使用されます。

POST 要求の例

コードタスクを開始するには、次のサンプルを参考にしてください。

```
POST <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/Start
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS_SESSION_ID}}
{
  "codeTaskId" : {{CODE_TASK_ID}}
}
```

POST 応答の例

POST 応答が成功すると、次の例のようなコードタスクジョブ ID などの情報が返されます。

```
{
  "summary": "Code Task started successfully",
  "jobId": "8zcuMdImeshidZ4XVExs20",
  "codeTaskInstanceName": "Demo-2",
  "sparkCodeTaskResponseBody": {
    "agentGroupId": "01000025000000000003",
    "clusterConfigId": "Default",
    "logLevel": "normal",
    "startRunTime": "2022-04-04T20:23:57.154+00:00",
    "submitTime": "2022-04-04T20:23:57.095+00:00"
  }
}
```

コードタスクの表示

次の GET 要求を使用して、コードタスクの構成パラメータを表示します。

GET 要求

コードタスクのパラメータを要求するには、タスク ID を使用します。コードタスク ID は、コードタスクの作成時の応答に含まれています。詳細については、[「コードタスクの作成」 \(ページ 320\)](#)を参照してください。

次の URI を使用してコードタスクのパラメータを取得します。

```
GET <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/<Code task ID>
```

GET 応答

要求されたタスク ID のコードタスクオブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

次の表に、応答内のパラメータを示します。

フィールド	タイプ	説明
codeTaskName	String	コードタスクの名前。
codeTaskId	Numeric	コードタスクの ID。
agentGroupId	String	コードタスクの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。
overrideTaskTimeout	String	この実行のコードタスクタイムアウト値をオーバーライドします。値-1 は、タイムアウトがないことを意味します。
logLevel	String	セッションログ、エージェントジョブログ、Spark ドライバ、およびエグゼキューターログのログレベル。有効な値は、none、terse、normal、verboseInitialization、または verboseData です。デフォルト値は normal です。
sparkMainClass	String	Spark アプリケーションのエントリポイント。以下に例を示します。 org.apache.spark.examples.company.SparkExampleApp
sparkMainClassArgs	List<String>	Spark アプリケーションの Main クラスに送信される順序付けされた引数。以下に例を示します。 --appTypeSPARK_PI_FILES_JARS-- classesToLoadcom.company.test.SparkTest1Class
sparkPrimaryResource	String	コードタスクが含まれている Scala JAR ファイル。
sparkJars	List<String>	クラスタにアップロードされ、Spark ドライバとエグゼキュータークラスパスに追加される JAR ファイルのディレクトリとファイル名。
sparkFiles	List<String>	クラスタにアップロードされ、現在の作業ディレクトリで利用できる Spark ファイルのディレクトリとファイル名。
advancedCustomProperties	String	データ統合が使用する Spark プロパティまたはその他のカスタムプロパティ。

GET 要求の例

コードタスクのパラメータを取得するには、次のサンプルを参考にしてください。

```
GET <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/<Code task ID>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS_SESSION_ID}}
```

GET 応答の例

GET 応答が成功すると、次の例のようなコードタスクのパラメータが返されます。

```
{
  "codeTaskName": "CODETASK_API",
  "codeTaskId": 3,
  "agentGroupId": "01000025000000000003",
  "overrideTaskTimeout": null,
```

```

    "logLevel": "normal",
    "sparkMainClass": "org.apache.spark.examples.infa.sparkdirect.SparkDirectExampleApp",
    "sparkMainClassArgs": ["6"],
    "sparkPrimaryResource": "spark-examples_2.12-3.0.0.jar",
    "sparkJars": [],
    "sparkFiles": [],
    "advancedCustomProperties": "{\\"spark.driver.memory\\": \\"1G\\", \\"spark.executor.memory\\": \\"1G\\",
    \\"spark.kubernetes.driverEnv.SPARK_DIRECT_TASK_SLEEP\\": \\"600\\",
    \\"spark.kubernetes.driverEnv.SPARK_DIRECT_APP_TYPE\\": \\"SPARK_PI\\",
    \\"spark.kubernetes.driverEnv.SPARK_DIRECT_KMS_ENCRYPTED_PROPS\\": \\"spark.sparkdirect.kms.prop\\",
    \\"spark.sparkdirect.kms.prop\\": \\"5pk0jS0HILDwSaw6eyxtiwB3g2TBYayjKLRFSsyxn5M=0p6v3eCvrtFkw6K78Buwal\\",
    \\"advanced.custom.property\\": \\"infa.spark.local=false\\"}"
  }

```

コードタスクのステータス

次の GET 要求を使用して、コードタスクのジョブステータスを確認します。

GET 要求

コードタスクのジョブステータスを要求するには、コードタスクジョブ ID を使用します。コードタスクジョブ ID は、コードタスクの開始時の応答に含まれています。詳細については、「[コードタスクの開始](#)」(ページ 322)を参照してください。

次の URI を使用してコードタスクのジョブステータスパラメータを取得します。

GET <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/JobStatus/<Code task job ID>

GET 応答

要求されたジョブ ID のコードタスクのオブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

次の表に、応答内のパラメータを示します。

フィールド	タイプ	説明
codeTaskName	String	コードタスクの名前。
codeTaskId	数値	コードタスクの ID。
agentGroupId	String	コードタスクの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。
executionState	String	ジョブの状態: QUEUED、RUNNING、SUCCEEDED、FAILED、CANCELLED ジョブステータス。ジョブは、次のいずれかの状態になります。 <ul style="list-style-type: none"> - 起動。ジョブが開始されました。 - 実行中。ジョブはキューに入れられているか、実行中です。 - 成功。ジョブが正常に完了しました。 - 失敗しました。エラーが発生したため、ジョブは完了しませんでした。
sessionLogUrl	String	セッションログファイルの URL。

フィールド	タイプ	説明
assignedServerlessComputeUnits	Double	1 時間あたりのタスクが要求したサーバーレスコンピューティングユニット数。 タスクがサーバーレスランタイム環境で実行される場合、要求されたコンピューティングユニット数を表示できます。
consumedServerlessComputeUnits	Double	タスクが使用したサーバーレスコンピューティングユニットの合計数。 タスクがサーバーレスランタイム環境で実行される場合、使用されたコンピューティングユニット数を表示できます。
firstErrorMessage	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ（ある場合）。

GET 要求の例

コードタスクのジョブステータスを取得するには、次のサンプルを参考にしてください。

```
GET <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/JobStatus/<Code task job ID>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID:{{IDS_SESSION_ID}}
```

GET 応答の例

GET 応答が成功すると、次の例のようなコードタスクのジョブステータスが返されます。

```
{
  "status": "RUNNING",
  "startTime": "2022-04-04T20:23:57.000",
  "updateTime": "2022-04-04T20:23:58.000",
  "endTime": null,
  "instanceName": "Demo-2",
  "assetName": "Demo",
  "runId": 2,
  "orgId": "kuJVH54wm6gfhVj4QEdb0Y",
  "startedBy": "coder@examplecompany.com",
  "runtimeEnvId": "01000025000000000003",
  "codeTaskId": 2,
  "errorMessage": "",
  "sessionLogUrl": "logservice/api/v1/jobs/8zcuMdImeshidZ4XVExs20/logs",
  "agentJobLogUrl": null,
  "advancedLogLocation": null,
  "advancedLogDownloadUrl": null
}
```

GET 応答がエラーステータスの場合は、次の例のようなコードタスクのジョブステータスが返されます。

```
{
  "status": "FAILED",
  "startTime": "2022-03-10T17:23:29.000",
  "updateTime": "2022-03-10T17:23:34.000",
  "endTime": "2022-03-10T17:23:34.000",
  "instanceName": "Demo-2",
  "assetName": "Demo",
  "runId": 2,
  "orgId": "4nuRA6NI6lvUBYamL76P",
  "startedBy": "coder@examplecompany.com",
  "runtimeEnvId": "01000025000000000003",
  "codeTaskId": 477,
  "errorMessage": "WES_internal_error Failed to start cluster for [01000025000000000003]. Error reported while starting cluster [404 {\"code\": \"CONFIG.NOT_FOUND_id\", \"message\": \"Internal error. Cannot find an advanced configuration with ID 01000025000000000003. Contact Informatica Global Customer
```

```
Support.\",\"debugMessage\": \"Internal error. Cannot find an advanced configurati[truncated]. For more
information about the failure, check the application log.If the problem persists, contact Informatica Global
Customer Support.\"
  \"sessionLogUrl\": \"logservice/api/v1//jobs/6pqq9KTgi3l9jyVnAajei/logs\",
  \"agentJobLogUrl\": null,
  \"advancedLogLocation\": null,
  \"advancedLogDownloadUrl\": null
}
```

コードタスクのキャンセル

次の PUT 要求を使用して、コードタスクジョブをキャンセルします。

PUT 要求

コードタスクジョブをキャンセルするには、コードタスクジョブ ID を使用します。コードタスクジョブ ID は、コードタスクの開始時の応答に含まれています。詳細については、[「コードタスクの開始」 \(ページ 322\)](#)を参照してください。

次の URI を使用してコードタスクジョブをキャンセルします。

```
PUT <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/Cancel
```

PUT 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須/オプション	説明
jobId	String	必須	start リソースからのコードタスクジョブ ID。

PUT 応答

要求されたジョブ ID のコードタスクのキャンセル状態を返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

PUT 要求の例

コードタスクジョブをキャンセルするには、次のサンプルを参考にしてください。

```
PUT <server URL>/disnext/api/v1/CodeTask/Cancel
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS_SESSION_ID}}
{
  \"jobId\" : {{CODE_TASK_JOB_ID}}
}
```

PUT 応答の例

PUT 応答が成功すると、次の例のようなコードタスクジョブのキャンセル情報が返されます。

```
{
  \"state\": \"Code Task marked for cancellation.\",
  \"jobId\": \"6pqq9KTgi3l9jyVnAajei\"
}
```

コードタスクのセッションログ

jobs リソースを使用して、コードタスクのセッションログにアクセスします。

GET 要求

コードタスクのセッションログにアクセスするには、コードタスクジョブ ID を使用します。コードタスクジョブ ID は、コードタスクの開始時の応答に含まれています。詳細については、[「コードタスクの開始」 \(ページ 322\)](#)を参照してください。

次の URI を使用してコードタスクのセッションログを取得します。

```
GET <server URL>/logservice/api/v1/jobs/<Code task job ID>/logs
```

Postman の [Send and Download] オプションを使用できます。

GET 応答

要求されたジョブ ID のコードタスクの ZIP ファイルへのリンクを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

GET 要求の例

コードタスクのセッションログにアクセスするには、次のサンプルを参考にしてください。

```
GET <server URL>/logservice/api/v1/jobs/<Code task job ID>/logs
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID:{{IDS_SESSION_ID}}
```

コードタスクの Spark タスクの結果

jobs リソースを使用して、コードタスクの Spark タスクの結果にアクセスします。

GET 要求

コードタスクの Spark タスクの結果にアクセスするには、コードタスクジョブ ID を使用します。コードタスクジョブ ID は、コードタスクの開始時の応答に含まれています。詳細については、[「コードタスクの開始」 \(ページ 322\)](#)を参照してください。

次の URI を使用してコードタスクの Spark タスクの結果にアクセスします。

```
GET <server URL>/logservice/api/v1/jobs/<Code task job ID>/callback
```

GET 応答

要求されたジョブ ID のコードタスクの Spark タスクの詳細を返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

GET 要求の例

コードタスクの Spark タスクの結果にアクセスするには、次のサンプルを参考にしてください。

```
GET <server URL>/logservice/api/v1/jobs/<Code task job ID>/callback
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID:{{IDS_SESSION_ID}}
```

GET 応答の例

GET 応答が成功すると、次の例のようなコードタスクの Spark タスクの結果が返されます。

```
{
  "jobId": "73LJ52V0tiNjC2HFb2YggK",
```



```

    "callbackBody": "{\\"taskId\\": \\"73LJ52V0tiNjC2HFb2YggK\\", \\"executionId\\": \\"73LJ52V0tiNjC2HFb2YggK\\",  

    \\"sessionLogUrl\\": \\"logservice/api/v1/jobs/73LJ52V0tiNjC2HFb2YggK/logs\\", \\"executionState\\": \\"RUNNING\\"}"  

  }

```

接続

このリソースを使用して、組織の接続の詳細を要求します。また、接続の作成、更新、テスト、削除も実行できます。

GET 要求の詳細

接続の GET 要求を使用して、次の詳細を要求できます。

- 組織のすべての接続の詳細。
- 組織の特定の接続に関する詳細。
- 特定の接続でソースまたはターゲットとして使用できるオブジェクトのリスト。
- Secure Agent またはランタイム環境と関連付けられる特定のタイプの接続のリスト。
- 指定した接続のメタデータの詳細。

注: 「DI Data Preview_」で始まる名前の接続は使用しないでください。

組織内のすべての接続の詳細。

組織内のすべての接続の詳細を要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/connection
```

特定の接続の詳細

特定の接続の詳細を要求するには、URI に接続 ID または名前を含めます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/connection/<id>
```

```
/api/v2/connection/name/<name>
```

URI に接続名を使用し、その接続名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/connection/name/my%20connection
```

ソースまたはターゲットとして使用できるオブジェクトのリスト

ソースまたはターゲットとして使用できるオブジェクトを要求できます。ソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトを要求するには、URI に接続 ID または接続名のいずれかを含めることができます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/connection/source/<id>
```

```
/api/v2/connection/target/<id>
```

```
/api/v2/connection/source/name/<name>
```

```
/api/v2/connection/target/name/<name>
```

URI に接続名を使用し、その接続名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/connection/target/name/my%20connection
```

多数のオブジェクトを受け取ることが想定される場合は、次のパラメータのいずれかを含めることができます。

- **searchPattern**。searchPattern パラメータを使用して結果をフィルタリングし、指定した文字列がオブジェクト名に含まれるオブジェクトのみが応答として返されるようにします。searchPattern パラメータを使用するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/connection/<source or target>/<id>?searchPattern=<pattern>
```

例えば、次の要求では、オブジェクト名に「abc」が含まれるソースオブジェクトが返されます。

```
/api/v2/connection/source/002D42000000J?searchPattern=abc
```

- **maxRecordsCount**。maxRecordsCount パラメータを使用して、返されるオブジェクトの最大数を設定します。maxRecordsCount を使用するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/connection/<source or target>/<id>?maxRecordsCount=<max number of objects>
```

例えば、次の要求は最大 5000 個のソースオブジェクトを返します。

```
/api/v2/connection/source/002D42000000J?maxRecordsCount=5000
```

maxRecordsCount パラメータを含めない場合、この要求により最大 200 個のオブジェクトが返されます。

Secure Agent またはランタイム環境と関連付けられる特定のタイプの接続リスト

Secure Agent ID および接続タイプごとの接続リストを要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/connection/search?agentId=<agentId>&uiType=<uiType>
```

ランタイム環境 ID および接続タイプごとの接続リストを要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/connection/search?runtimeEnvironmentId=<runtimeEnvironmentId>&uiType=<uiType>
```

agentId と runtimeEnvironmentId の両方を渡した場合は、サービスで runtimeEnvironmentId が使用され、agentId は無視されます。agentId のみを渡した場合は、サービスで agentId を対応する runtimeEnvironmentId に変換してからリソースをリポジトリに保存します。

指定した接続のメタデータの詳細

指定した接続のメタデータの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/connection/source/<connection ID>/metadata
```

```
/api/v2/connection/target/<connection ID>/metadata
```

メタデータは、次の属性を含む runtimeAttribute オブジェクトに返されます。

- name
- dataType
- defaultValue
- label
- mandatory
- maxLength
- sessionVarAllowed
- possibleValues

次の接続要求 URI 属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentId	String	-	Secure Agent ID
runtimeEnvironmentId	String	-	ランタイム環境 ID。
uiType	String	○	接続タイプ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- CSVFile。CSV フラットファイル。- FTP。- MS_ACCESS。- MSD。Microsoft Dynamics CRM。- MySQL。- ODBC。- Oracle。- OCOD。Oracle CRM On Demand。- Salesforce。- SFTP。セキュア FTP。- SAP_ALE_IDoc_Reader。SAP IDoc Reader。- SAP_ALE_IDoc_Writer。SAP IDoc Writer。- SqlServer。Microsoft SQL Server 2000。- SqlServer2005。Microsoft SQL Server 2005。- SqlServer2008。Microsoft SQL Server 2008。- SqlServer2012。Microsoft SQL Server 2012。- SqlServer2014。Microsoft SQL Server 2014。- SqlServer2016。Microsoft SQL Server 2016。- SqlServer2017。Microsoft SQL Server 2017。- TOOLKIT。Informatica Cloud コネクタ。NetSuite 接続でも使用されます。- WebServicesConsumer。Web サービス。

GET 応答の詳細

要求された接続 ID の接続オブジェクトを返します。組織内のすべての接続に関する情報を要求すると、組織内の各接続に対する接続オブジェクトを返します。

ランタイム環境 ID および接続タイプに基づく接続のリストを要求すると、要件に一致する各接続の接続オブジェクトを返します。

要求した接続 ID で使用できるソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトのリストを要求すると、各使用可能なオブジェクトで connListItem オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

接続オブジェクトには、接続タイプごとに異なる情報が含まれています。

次の表で、接続オブジェクトに含まれる属性について説明します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	接続 ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	接続名。
description	String	接続の説明。

フィールド	タイプ	説明
createTime	Date/Time	接続が作成された時刻。
updateTime	Date/Time	接続の最終更新時刻。
createdBy	String	接続を作成したユーザー。
updatedBy	String	接続を最後に更新したユーザー。
agentId	String	フラットファイル、FTP/SFTP、Microsoft SQL Server、MS Access、MySQL、ODBC、Oracle、Web サービス接続の Secure Agent ID。
runtimeEnvironmentId	String	接続で使用するランタイム環境。これは、ユーザーインタフェースの [ランタイム環境] フィールドです。ユーザーインタフェースに返される応答では、この属性に agentGroupId という名前が付いています。
instanceName	String	Microsoft SQL Server インスタンス名。
host	String	FTP/SFTP、Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle 接続のホスト名。
domain	String	IFD または Active Directory 認証を使用する Microsoft Dynamics CRM 接続、および Web サービス接続のドメイン名。
dateFormat		フラットファイル、FTP、および SFTP 接続の日付形式。
database	String	以下の情報を返します。 <ul style="list-style-type: none"> - Microsoft SQL Server および MySQL 接続では、データベース名を返します。 - フラットファイル接続では、ディレクトリを返します。 - FTP および SFTP 接続では、ローカルディレクトリを返します。 - MS Access および ODBC 接続では、データソース名を返します。 - Oracle 接続では、サービス名を返します。 - SAP IDoc Writer および Reader 接続では、接続先エントリを返します。 - Web サービス接続では、サービス URL を返します。
codepage		フラットファイル、FTP、SFTP、Microsoft SQL Server、MySQL、MS Access、ODBC、Oracle、SAP のコードページ。
clientCode	String	SAP IDoc Writer 接続のクライアントコード。
authenticationType	String	Microsoft Dynamics CRM、Microsoft SQL Server、および Web サービス接続の認証タイプ。
adjustedJdbcHostName	String	ホスト名。または、Microsoft SQL Server 接続のホスト名およびインスタンス名。
accountNumber	String	NetSuite 接続のアカウント ID。
languageCode	String	SAP IDoc Writer 接続の言語コード。
remoteDirectory	String	FTP/SFTP 接続のリモートディレクトリ。

フィールド	タイプ	説明
schema	String	Microsoft SQL Server、ODBC、Oracle、および Web サービス接続のスキーマ名。
serviceUrl	String	Microsoft Dynamics CRM、Oracle CRM On Demand、および Salesforce 接続のサービス URL。
shortDescription	String	説明の最初の 50 文字。
type	String	<p>接続タイプでは、次の応答のいずれかを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CSVFile。CSV フラットファイル。 - FTP。 - MS_ACCESS。 - MSD。Microsoft Dynamics CRM。 - MySQL。 - ODBC。 - Oracle。 - OCOD。Oracle CRM On Demand。 - Salesforce。 - SFTP。セキュア FTP。 - SAP_ALE_IDoc_Reader。SAP IDoc Reader。 - SAP_ALE_IDoc_Writer。SAP IDoc Writer。 - SqlServer。Microsoft SQL Server 2000。 - SqlServer2005。Microsoft SQL Server 2005。 - SqlServer2008。Microsoft SQL Server 2008。 - SqlServer2012。Microsoft SQL Server 2012。 - SqlServer2014。Microsoft SQL Server 2014。 - SqlServer2016。Microsoft SQL Server 2016。 - TOOLKIT。Informatica Cloud コネクタ。 - WebServicesConsumer。Web サービス。 <p>注: [接続] ページに表示されるユーザーインターフェースのフィールド名は、接続によって異なります。例えば、SQL Server の場合、ユーザーインターフェースのフィールド名は [SQL Server Version] です。また、SQL Server では、ユーザーインターフェースに値を入力する REST API 属性の名前が subType となります。</p>
port	Int	FTP/SFTP、Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle 接続のポート番号。
password	String	接続のパスワード。
username	String	接続のユーザー名。
securityToken	String	Salesforce 接続のセキュリティトークン。
stsUrl	String	Active Directory 認証を使用する Microsoft Dynamics CRM 接続のセキュリティトークンサービス URL。
organizationName	String	Microsoft Dynamics CRM 接続の組織名。
timeout	Int	Web サービス接続のタイムアウト。
trustCertificatesFile	String	Web サービス接続のトラスト証明書ファイル名。
certificateFile	String	Web サービス接続の証明書ファイル名。
certificateFilePassword	String	Web サービス接続の証明書ファイルのパスワード。

フィールド	タイプ	説明
certificateFileType	String	Web サービス接続の証明書ファイルタイプ。
privateKeyFile	String	Web サービス接続のプライベートキーファイル名。
privateKeyPassword	String	Web サービス接続のプライベートキーのパスワード。
privateKeyFileType	String	Web サービス接続のプライベートキーファイルタイプ。
connParams	String	接続で使用するパラメータ。 SAP、NetSuite、Oracle CRM On Demand、ODBC、またはその他の Informatica Cloud コネクタの connParam オブジェクトの接続属性が含まれます。
federatedId	String	接続のグローバル意識別子。
内部	Boolean	接続がデータプレビューの目的でのみ内部的に作成されたかどうかを示します。
retryNetworkError	Boolean	内部目的でのみ使用されます。
supportsCCIMultiGroup	Boolean	内部目的でのみ使用されます。
connListItem		connListItem オブジェクトに含まれる接続のリスト。
id	String	connListItem オブジェクトに含まれています。 ソース ID またはターゲット ID。
name	String	connListItem オブジェクトに含まれています。 ソース名またはターゲット名。

GET 要求のテスト

接続をテストするには、次の URI に接続 ID を使用します。

```
/api/v2/connection/test/<id>
```

GET 応答のテスト

テストに成功したら、成功したオブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST 要求

接続を作成または更新できます。接続を更新するには、次の URI で接続 ID を使用します。接続を作成するには、オプションの接続 ID を省略します。

```
/api/v2/connection/<id>
```

部分モードを使用して部分的な更新を送信できます。部分モードを使用して要求を送信するには、JSON 要求を使用してヘッダーに次の行を含めます。

```
Update-Mode=PARTIAL
```

接続の POST 要求では、接続オブジェクトに追加の属性を使用します。Informatica Cloud コネクタ接続で 사용되는属性は、接続タイプごとに異なります。

Informatica Cloud コネクタ接続を作成または更新するには、接続で使用する属性に Informatica Cloud アプリケーションを検討します。connParam オブジェクトで次の表に記載されていない属性をすべて囲みます。

組織で使用可能な接続のリストおよび特定のコネクタタイプに対する属性情報を取得するには、[「コネクタ」\(ページ 351\)](#)を参照してください。

REST API を使用した接続の作成に使用される属性およびデータ型の詳細については、[「REST API の属性マッピングに対する接続のユーザーインターフェイスフィールド」\(ページ 503\)](#)および [「コネクタのデータ型」\(ページ 501\)](#)を参照してください。

POST 応答

正常に完了したら、作成または更新された接続の接続オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

接続を削除するには、次の URI の接続 ID を使用します。

/api/v2/connection/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

SAP Table 接続を更新するには、次の要求で connParam オブジェクトの SAP 属性を囲んで使用できます。

```
POST <serverUrl>/api/v2/connection/0002D420000000J
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>

<connection>
  <id>0002D420000000J</id>
  <orgId>00342000</orgId>
  <name>test dir</name>
  <type>T00LKIT</type>
  <agentId>00001Y08000000000002</agentId>
  <username>username</username>
  <password>password</password>
  <instanceName>SAPTableConnector</instanceName>
  <connParams>
    <agentId>00001Y08000000000002</agentId>
    <username>username</username>
    <password>password</password>
    <client>800</client>
    <language>EN</language>
    <Saprfc Ini Path>C:\\Windows\\SysWOW64\\Saprfc Ini Path>
    <Destination>GE6</Destination>
  </connParams>
  <runtimeEnvironmentId>00000C25000000000002</runtimeEnvironmentId>
</connection>
```

成功した要求は、更新した接続オブジェクトを返します。

CSV フラットファイル接続

CSV フラットファイル接続を作成または更新すると、接続 ID や接続名など追加の属性を設定できます。

次の表で、CSV フラットファイル接続に使用できる属性について説明します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
description	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。CSVFile を使用します。
database	フラットファイルが保存されるディレクトリ。ユーザーインターフェースでは、この属性は [ディレクトリ] フィールドです。ユーザーインターフェースに値を入力する REST API 応答では、この属性名は dirName になります。

属性	説明
dateFormat	<p>フラットファイルの日付フィールドの日付形式。次のいずれかの形式を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MM/dd/yyyy - MM-dd-yyyy - MM.dd/yyyy - dd/MM/yyyy - dd-MM-yyyy - dd.MM/yyyy - MM/dd/yyyy HH:mm - MM-dd-yyyy HH:mm - MM.dd/yyyy HH:mm - dd/MM/yyyy HH:mm - dd-MM-yyyy HH:mm - dd.MM/yyyy HH:mm - MM/dd/yyyy HH:mm:ss - MM-dd-yyyy HH:mm:ss - MM.dd/yyyy HH:mm:ss - dd/MM/yyyy HH:mm:ss - dd-MM-yyyy HH:mm:ss - dd.MM/yyyy HH:mm:ss - yyyy-MM-dd - yyyy-MM-dd HH:mm - yyyy-MM-dd HH:mm:ss - yyyy-MM-ddTHH:mm:ss.SSSZ - yyyy/MM/dd - yyyy/MM/dd HH:mm - yyyy/MM/dd HH:mm:ss - yyyyMMdd - MM/dd/yyyy HH24:mm:ss - MM/dd/yyyy HH24:mm:ss.ms - MM/dd/yyyy HH24:mm:ss.us - MM/dd/yyyy HH24:mm:ss.ns <p>デフォルトは MM/dd/yyyy HH:mm:s です。</p>
codepage	<p>フラットファイルをホストしているシステムのコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。

FTP および SFTP 接続

FTP/SFTP 接続を作成または更新する場合は、接続 ID や接続名などの追加の属性を設定できます。

次の表で、FTP/SFTP ファイル接続に使用できる属性について説明します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。

属性	説明
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。FTP または SFTP を使用します。
username	ユーザー名。
password	パスワード。
host	データベースサーバーまたは FTP/SFTP ホストをホスティングしているマシンの名前。 FTP/SFTP 接続では、IP アドレスのホスト名を入力します。
port	FTP/SFTP 接続に接続するときに使用するネットワークポート番号。デフォルトポートは、FTP の場合は 21、SFTP の場合は 22 です。
database	ローカルファイルを保存するローカルマシン上のディレクトリ。ユーザーインタフェースでは、この属性は [ディレクトリ] フィールドです。ユーザーインタフェースに値を入力する REST API 応答では、この属性名は dirName になります。 ローカルマシンでは、対応するタスクを実行するために使用する Secure Agent も稼働している必要があります。ローカルディレクトリを入力するか、[参照] ボタンを使用してローカルディレクトリを選択します。
remoteDirectory	リモートフラットファイルが保存されている FTP/SFTP ホスト上のディレクトリ。 FTP/SFTP サーバーによっては、ディレクトリを入力するためのオプションが限定されている場合があります。詳細については、FTP/SFTP サーバーのドキュメントを参照してください。
dateFormat	フラットファイルの日付フィールドの日付形式。次のいずれかの形式を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - MM/dd/yyyy - MM-dd-yyyy - MM.dd/yyyy - dd/MM/yyyy - dd-MM-yyyy - dd.MM/yyyy - MM/dd/yyyy HH:mm - MM-dd-yyyy HH:mm - MM.dd/yyyy HH:mm - dd/MM/yyyy HH:mm - dd-MM-yyyy HH:mm - dd.MM/yyyy HH:mm - MM/dd/yyyy HH:mm:ss - MM-dd-yyyy HH:mm:ss - MM.dd/yyyy HH:mm:ss - dd/MM/yyyy HH:mm:ss - dd-MM-yyyy HH:mm:ss - dd.MM/yyyy HH:mm:ss - yyyy-MM-dd - yyyy-MM-dd HH:mm - yyyy-MM-dd HH:mm:ss - yyyy-MM-ddTHH:mm:ss.SSSZ

属性	説明
codepage	フラットファイルをホストしているシステムのコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。

Microsoft Access 接続

Microsoft Access 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、Microsoft Access 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。MS_ACCESS を使用します。
database	データソース名。ユーザーインターフェースで、これはデータソース名フィールドです。
codepage	MS Access データベースと互換性のあるコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。

Microsoft Dynamics CRM 接続

Microsoft Dynamics CRM 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、Microsoft Dynamics CRM 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。MSD を使用します。
authenticationType	接続の認証タイプ。有効な認証タイプを選択してください。次のいずれかの認証タイプを使用します。 <ul style="list-style-type: none">- LIVE。Microsoft Live。同期タスクまたは PowerCenter タスクで使用します。- IFD。Internet Facing Development (IFD)。同期タスクまたは PowerCenter タスクで使用します。- AD。Active Directory.PowerCenter タスクの場合のみ使用します。
username	Microsoft Dynamics CRM ユーザー名。
password	Microsoft Dynamics CRM パスワード。
organizationName	Microsoft Dynamics CRM 組織名。
domain	Microsoft Dynamics CRM ドメイン名。 IFD および Active Directory 認証に必須です。
serviceURL	Microsoft Dynamics CRM サービスの URL。 Microsoft Live 認証の場合は、次の形式を使用します。 https://<orgname>.crm.dynamics.com IFD 認証の場合は、次の形式を使用します。 https://<server.company.com>:<port> Active Directory の場合は、次の形式を使用します。 http://<server.company.com>:<port>
stsURL	Microsoft Dynamics CRM セキュリティトークンサービス URL。例えば、https://sts1.company.com。 IFD 認証に必須です。
agentId	Secure Agent ID。 Active Directory 認証にのみ必須です。

Microsoft SQL Server 接続

Microsoft SQL Server 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、Microsoft SQL Server 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
description	オプションの接続についての説明。
type	<p>接続タイプ。次のコードのいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">- SqlServer。Microsoft SQL Server 2000。- SqlServer2005。Microsoft SQL Server 2005。- SqlServer2008。Microsoft SQL Server 2008。- SqlServer2012。Microsoft SQL Server 2012。 <p>ユーザーインターフェイスで、この属性は SQL Server のバージョンフィールドです。ユーザーインターフェイスで値を入力する REST API の応答では、この属性の名前は subType です。</p>
authenticationType	<p>接続の認証方法。次のいずれかのオプションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">- Windows。Microsoft SQL Server にアクセスするには、Microsoft Windows 認証を使用します。ユーザーが Windows のデータ統合にアクセスする場合に使用できます。- SqlServer。Microsoft SQL Server にアクセスするには、Microsoft SQL Server 認証を使用します。
username	データベースログインに使用するユーザー名。authenticationType が SqlServer のときに使用します。
password	データベースログインに使用するパスワード。authenticationType が SqlServer のときに使用します。
host	データベースサーバーをホストするマシンの名前。
port	データベースサーバーに接続するときに使用するネットワークポート番号。デフォルトのポート番号は 1433 です。
instanceName	Microsoft SQL Server データベースのインスタンス名。
database	<p>Microsoft SQL Server ターゲットのデータベース名。データベースで大文字と小文字が区別される場合は、データベース名の大文字と小文字も区別されます。最大長は 100 文字です。</p> <p>データベース名には英数字とアンダースコアのみを使用できます。</p>
schema	ターゲット接続に使用するスキーマ。

属性	説明
codepage	Microsoft SQL Server データベースのコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。

MySQL 接続

MySQL 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、MySQL 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。MySQL を使用します。
username	データベースログインに使用するユーザー名。
password	データベースログインに使用するパスワード。
host	データベースサーバーをホストするマシンの名前。
port	データベースサーバーに接続するときに使用するネットワークポート番号。デフォルトは 3306 です。
database	MySQL データベースターゲットのデータベース名。データベースで大文字と小文字が区別される場合は、データベース名の大文字と小文字も区別されます。
codepage	データベースサーバーのコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。

NetSuite 接続

NetSuite 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、NetSuite 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。NetSuite を使用します。
username	NetSuite ユーザー名。
password	NetSuite パスワード。
accountNumber	NetSuite アカウント ID。アカウント ID を検索するには、NetSuite にログインして、 [Setup] > [Integration] > [Web Services Preferences] に移動します。
serviceURL	WSDL URL。NetSuite アカウントでデフォルトの NetSuite WSDL URL を使用していない場合は、NetSuite アカウントで使用する WSDL URL を入力します。

ODBC 接続

ODBC 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、ODBC 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
description	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。ODBC を使用します。
username	データベースログインに使用するユーザー名。
password	データベースログインに使用するパスワード。
database	データソース名。

属性	説明
schema	ターゲット接続に使用するスキーマ。 Oracle データベースのスキーマ名を指定する場合は、大文字を使用します。 IBM DB2 データベースへの接続に必須。
codepage	接続に定義されているデータベースサーバーまたはフラットファイルのコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。
ODBC_SUBTYPE	特定のデータベースに接続するための ODBC 接続サブタイプ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - Azure DW - DB2 - Google BigQuery - PostgreSQL - Redshift - SAP IQ - Snowflake - Teradata - その他
authenticationType	データベースに接続するための認証方法。DB2 では必須です。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - データベース - Kerberos
kerberosProperties	Kerberos 認証を使用して DB2 に接続する追加接続プロパティ。複数のプロパティを指定する場合は、キーと値のペアをそれぞれセミコロンで区切ります。

Oracle 接続

Oracle 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、Oracle 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。Oracle を使用します。

属性	説明
username	データベースログインに使用するユーザー名。
password	データベースログインに使用するパスワード。
host	データベースサーバーをホストするマシンの名前。
port	データベースサーバーに接続するときに使用するネットワークポート番号。デフォルトは 1521 です。
database	Oracle データベースを一意に識別するサービス名。この属性はユーザーインターフェースのサービス名フィールドです。 接続に失敗する場合は、データベース管理者にお問い合わせください。
schema	ターゲット接続に使用するスキーマ。オプション。
codepage	データベースサーバーのコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	データ統合がローカル領域ネットワークのデータベースにアクセスするために使用する Secure Agent

Oracle CRM On Demand 接続

Oracle CRM On Demand 接続を作成または更新するときに、接続 ID および接続名など、追加の属性を設定することができます。

以下の表に、Oracle CRM On Demand 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。OCOD を使用します。
username	Oracle CRM On Demand ユーザー名。次の形式を使用します。 <domain>/<user name> 例: domain/jsmith@companyname.com

属性	説明
password	Oracle CRM On Demand のパスワード。
serviceUrl	Oracle CRM On Demand サービスの URL。 例: https://securecompany.crmondemand.com。

Salesforce 接続

Salesforce 接続を作成または更新する場合、接続 ID や接続名などの追加属性を設定できます。

次の表に、Salesforce 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。Salesforce を使用します。
username	Salesforce アカウントのユーザー名。 <domain>/<user name> 例: domain/jsmith@companyname.com
password	Salesforce アカウントのパスワード。
securityToken	ユーザー名とパスワードに関連付けられたセキュリティトークン。オプション。
serviceUrl	Salesforce サービスの URL。最大長は 100 文字です。

SAP IDoc Reader 接続

SAP IDoc Reader 接続を作成または更新する場合、接続 ID や接続名などの追加属性を設定できます。

次の表に、SAP IDoc Reader 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。SAP_ALE_IDoc_Reader を使用します。

属性	説明
username	S_DATASET、S_TABU_DIS、S_PROGRAM、B_BTCH_JOB の各オブジェクトに対する権限付き SAP ユーザー名
password	SAP ユーザー名のパスワード
database	saprfc.ini ファイルの Type A DEST エントリこの属性は、ユーザーインタフェースの [宛先エントリ] フィールドです。
codepage	SAP ソースと互換性のあるコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。

SAP IDoc Writer 接続

SAP IDoc Writer 接続を作成または更新する場合、接続 ID や接続名などの追加属性を設定できます。

次の表に、SAP IDoc Writer 接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。SAP_ALE_IDoc_Writer を使用します。
username	S_DATASET、S_TABU_DIS、S_PROGRAM、B_BTCH_JOB の各オブジェクトに対する権限付き SAP ユーザー名
password	SAP ユーザー名のパスワード
database	saprfc.ini ファイルの Type A DEST エントリこの属性は、ユーザーインタフェースの [接続文字列] フィールドです。
languageCode	SAP 言語に対応する言語コード。2 文字のコード (例: 英語の場合、en)。
clientCode	SAP クライアント番号。3 文字のコード。

属性	説明
codepage	SAP ターゲットと互換性のあるコードページ。次のいずれかのオプションを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> - UTF-8。Unicode Transformation Format、マルチバイト - MS1252。MS Windows Latin1 (ANSI)、Latin1 のスーパーセット - ISO-8859-15。Latin 9、Western European。 - ISO-8859-2。東ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-3。東南ヨーロッパ言語。 - ISO-8859-5。Cyrillic。 - ISO-8859-9。Latin 5、Turkish。 - IBM500IBM EBCDIC International Latin-1。
agentId	Secure Agent ID。

Web サービス接続

Web サービス接続を作成または更新する場合、接続 ID や接続名などの追加属性を設定できます。

次の表に、Web サービス接続に使用できる属性を示します。

属性	説明
id	接続 ID。
orgId	組織 ID。
name	接続名。
説明	オプションの接続についての説明。
type	接続タイプ。WebServicesConsumer を使用します。
username	S_DATASET、S_TABU_DIS、S_PROGRAM、B_BTCH_JOB の各オブジェクトに対する権限付き SAP ユーザー名
password	Web サービスログインに使用するパスワード。Web サービスでユーザー名を入力する必要がない場合は、このフィールドを空のままにします。オプション。
domain	認証用ドメイン。オプション。
serviceUrl	アクセス先の Web サービスのエンドポイント URL。WSDL ファイルは、この URL を位置要素の中で指定します。この属性は、ユーザーインターフェースの [エンドポイント URL] フィールドです。 オプション。
timeout	Secure Agent ID。 Web サービスプロバイダとの接続を待機してここに指定した秒数が経過すると、接続が閉じられ、セッションは失敗します。Informatica Intelligent Cloud Services また、SOAP 要求を送信してから SOAP 応答を待機してここに指定した秒数が経過すると、セッションは失敗します。Informatica Intelligent Cloud Services デフォルトは 60 です。オプション。

属性	説明
trustCertificatesFile	Web Services Provider の SSL 証明書の認証時に Informatica Intelligent Cloud Services が使用する信頼済み証明書のバンドルを含むファイル。デフォルトは ca-bundle.crt です。オプション。
certificateFile	クライアントの認証時に Web サービスプロバイダが使用するクライアントサーティフィケーション。Web サービスプロバイダが Informatica Intelligent Cloud Services を認証する必要がある場合にクライアント証明書ファイルを指定します。オプション。
certificateFilePassword	クライアント証明書のパスワード。Web サービスプロバイダが Informatica Intelligent Cloud Services を認証する必要がある場合に証明書ファイルのパスワードを指定します。オプション。
certificateFileType	クライアントサーティフィケーションのファイルタイプ。Web サービスプロバイダが Integration Service を認証する必要がある場合にサーティフィケーションファイルタイプを指定します。次のコードのいずれかを使用します。 - PEM - DER オプション。
privateKeyFile	クライアント証明書のプライベートキーファイル。Web サービスプロバイダが Informatica Intelligent Cloud Services を認証する必要がある場合にプライベートキーファイルを指定します。オプション。
privateKeyPassword	クライアント証明書のプライベートキーのパスワード。Web サービスプロバイダが Informatica Intelligent Cloud Services を認証する必要がある場合にキーパスワードを指定します。オプション。
privateKeyFileType	クライアント証明書のプライベートキーのファイルタイプ。Web サービスプロバイダが Informatica Intelligent Cloud Services を認証する必要がある場合にキーファイルタイプを指定します。 必要に応じて、PEM を使用します。オプション。
authenticationType	Web サービスプロバイダから認証タイプが返されない場合に使用する認証タイプ。Informatica Intelligent Cloud Services 次のいずれかのオプションを使用します。 - 自動。統合サービスによって Web サービスプロバイダの認証タイプが決定されます。 - 基本。暗号化されないユーザ名およびパスワードに基づく認証です。 - ダイジェスト。暗号化されたユーザ名およびパスワードに基づく認証です。 - NTLM。暗号化されたユーザ名、パスワード、およびドメインに基づく認証です。 デフォルトは [Auto] です。オプション。
agentId	Informatica Intelligent Cloud Services がローカルエリアネットワーク内のデータベースにアクセスするために使用する Secure Agent の ID。

接続の移行

このリソースを使用して、参照されているアセット内の古いバージョンの接続を組織内の最新の接続バージョンに移行します。この移行により、プロジェクトフォルダとアセットのコピーが作成され、アセット内の参照されている接続が最新のバージョンに更新されます。

マッピングやタスクなどのアセットから、ソース、ターゲット、およびブルックアップトランスフォーメーションで使用される古い接続を移行できます。複数のプロジェクトのアセット間で接続が使用されている場合は、参照されているすべてのアセットが更新され、現在の接続バージョンが使用されます。

POST 要求

移行する接続を指定して移行ジョブを開始するには、次の URI を使用します。

saas/api/v2/connectionMigration/migrate

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
icSessionId	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。
sourceConn	String	はい	移行するソース接続の名前。これは古いバージョンのコネクタです。
targetConn	String	○	移行先のターゲット接続名。これは、現在のバージョンのコネクタです。
projectName	String	×	プロジェクト名には、移行するソース接続の参照されているアセットが含まれています。 プロジェクト名を指定しない場合、すべてのアセットのソース接続が移行されます。

POST 要求の例

次の例のような要求を使用できます。

```
POST <baseURL>/saas/api/v2/connectionMigration/migrate
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <sessionId>
```

```
{
  "sourceConn": "Migration_V1",
  "targetConn": "Migration_V2",
  "projectName": "V1_Assets"
}
```

POST 応答

成功した場合、エクスポートジョブの次の情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	移行ジョブのグローバル一意識別子。
name	String	移行ジョブの名前。
count	Integer	依存オブジェクトの数。
status	複合型	移行のステータス。

フィールド	タイプ	説明
objects	Collection	移行ジョブ内のオブジェクト。
name	String	objects オブジェクトで返されます。コネクタを使用するアセットの名前。
type	String	objects オブジェクトで返されます。アセットのタイプ。
sourcePath	String	objects オブジェクトで返されます。古い接続で参照されているアセットの完全なパス。
targetPath	String	objects オブジェクトで返されます。現在の接続で参照されているアセットの完全なパス。 ターゲットフォルダでは、ソースフォルダと同じ名前が使用され、識別のためにこの名前に「_Migration_<移行ジョブ ID>」が追加されます。
status	String	objects オブジェクトで返されます。IN PROGRESS、SUCCESS、FAILED など、アセットで更新された接続の状態。

POST 応答の例

成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "4l1XcURpYFjjxpopb7AJ0L",
  "name": "job-1661702962208",
  "count": "1",
  "status": "SUCCESSFUL",
  "objects": [
    {
      "name": "Mapping_V1",
      "type": "DTEMPLATE",
      "sourcePath": "/AA_Migration_Doc",
      "targetPath": "/AA_Migration_Doc_Migration_4l1XcURpYFjjxpopb7AJ0L",
      "status": "SUCCESSFUL"
    }
  ]
}
```

エラーを受信した場合、次の例のような応答が表示されます。

```
{
  "error": {
    "code": "MigrationSvc_034",
    "message": "Invalid object id/s [[242973wgfschwasd23]]. Object resolution failed.",
    "requestId": "2ataXVlgw3ydI1Yb2MA4sq"
  }
}
```

connectionMigration リソースを使用してコネクタを最新バージョンに移行する方法の詳細と、移行をサポートするコネクタのリストについては、次のハウツーライブラリの記事を参照してください:

[Migrating a connector from previous versions using the Data Integration REST API](#)

コネクタ

このリソースを使用して、組織で使用できるコネクタのリストとコネクタの詳細を要求します。また、特定のコネクタタイプの属性情報を取得することもできます。特定のコネクタタイプの接続を作成する場合に、この

リソースが提供する属性のリストを使用できます。これらの属性は、特定のタイプの接続を作成する場合に指定する必要があります。

使用可能なコネクタの GET 要求および応答

組織で使用可能なコネクタのリストを要求するには、次の URI を使用して GET 要求を送信します。

/api/v2/connector

例えば、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/connector
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```

応答が成功すると、コネクタオブジェクトで次の属性を返します。

フィールド	タイプ	説明
name	String	コネクタの名前。
type	String	コネクタのタイプ。次の値が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">- Salesforce- Oracle- SqlServer- MySQL- CSVFile- ODBC- MS_ACCESS- FTP- SAP- WebServicesConsumer- MSD
publisher	String	コネクタをパブリッシュしたエンティティの名前。
connectorVersion	Int	コネクタのバージョン。
shortName	String	コネクタの略称。
isPublic	Boolean	コネクタが公開か非公開かを示します。非公開のコネクタに興味がある場合は、Informatica グローバルカスタマサポートにお問い合わせください。

コネクタメタデータの GET 要求および応答

特定のコネクタタイプのメタデータを取得するには、次の URI を使用して GET 要求を送信します。

/api/v2/connector/metadata?connectorName=<connectorName>

例えば、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/connector/metadata?connectorName=SqlServer
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```


応答が成功すると、connectorMetadata オブジェクトで次の属性を返します。

フィールド	タイプ	説明
タイプ	String	Salesforce や Oracle などのコネクタタイプ。
isStandardConnType	Boolean	コネクタが標準かカスタムかを示します。「True」値はコネクタが標準であることを示します。
attributes		特定のコネクタタイプのコネクタ属性。各コネクタオブジェクトの属性オブジェクトに関する情報が含まれます。
name	String	属性オブジェクトに含まれています。 database や codePage などの属性名。
label	String	属性オブジェクトに含まれています。 ラベル。
id	String	属性オブジェクトに含まれています。 ID。
value	String	属性オブジェクトに含まれています。 属性の値。
type	Int	属性オブジェクトに含まれています。 データ型。値については、 「コネクタのデータ型」 (ページ 501) を参照してください。
isMandatory	Boolean	属性オブジェクトに含まれています。 属性が必須かどうかを示します。
visible	Boolean	属性オブジェクトに含まれています。 属性が表示可能かどうかを示します。
list	String	属性オブジェクトに含まれています。 選択したコネクタタイプのタイプリスト。例えば、SQL Server には SqlServer2000、SqlServer2005、SqlServer2008 などのタイプが含まれます。

データプレビュー

このリソースを使用して、マッピングの設計中にデータをプレビューします。デフォルトでは、応答は指定したオブジェクトのデータを最大 10 行返します。

GET 要求

プレビューデータを要求するには、接続 ID または接続名と、URI のオブジェクト名を指定します。必要に応じて、要求にフィールド形式の情報を含めることができます。

次のいずれかの URI を使用します。

- ソースデータを要求するには、次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/connection/source/<id>/datapreview/<objectName>
```

```
/api/v2/connection/source/name/<name>/datapreview/<objectName>
```

- ターゲットデータを要求するには、次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/connection/target/<id>/datapreview/<objectName>
```

```
/api/v2/connection/target/name/<name>/datapreview/<objectName>
```

フラットファイル、Avro、Parquet、Orc、JSON 形式の応答にフィールドメタデータを受信できます。フィールドメタデータを受信するには、要求本文に形式の情報を含めます。

フラットファイル形式の場合、flatFileAttrs オブジェクトに次の情報を含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	Long	はい	フィールド ID。
delimiter	String	○	フィールドを区切るために使用される文字。
textQualifier	String	○	テキスト文字列の境界を定義する引用符。
escapeChar	String	○	引用符で囲まれていない文字列に埋め込まれたフィールド区切り文字の直前の文字、または引用符で囲まれた文字列内の引用符の直前の文字。
headerLineNo	Int	○	ヘッダー行の数。
firstDataRow	Int	○	ファイル内でデータが始まる行番号。
rowDelimiter	Int	--	改行文字。1 から 32 までの ASCII 文字の 10 進数コードを入力します。 デフォルト値は 10 で、これは改行文字です。
consecutiveDelimiter	Boolean	--	1 つ以上の連続する区切り文字を 1 つの文字として扱うかどうかを示します。 デフォルトは false です。
multiDelimitersAsAnd	Boolean	--	指定した区切り文字が複数の文字である場合に、その文字を 1 つの区切り文字として扱うか、複数の区切り文字として扱うかを示します。 デフォルトは true です。

Avro、Parquet、Orc、または JSON 形式の場合、dataFormat オブジェクトに次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
formatId	String	○	形式タイプ、例えば、Avro。
schema	String	--	スキーマ形式。

デフォルトでは、dataPreview 応答は 10 行返します。フラットファイル接続の場合、次の例に示すように、numRows パラメータを使用して行数を指定できます。

```
/api/v2/connection/source/<id>/datapreview/?objectName=<object name>&numRows=<number of rows to view>
```

次の例に示すように、startRowNum パラメータを使用して最初の行を指定することもできます。

```
/api/v2/connection/source/<id>/datapreview/?objectName=<object name>&startRowNum=<row number of row to begin with>
```

注: URI に接続名を使用し、その接続名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20で置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/connection/target/name/my%20connection/datapreview/SF_ACCOUNT.csv
```

GET 応答

要求された接続 ID か、接続名およびオブジェクト名の dataPreview オブジェクトを返します。

dataPreview オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
connId	String	接続 ID。
objectName	String	ソースまたはターゲットオブジェクトの名前。
header	String	列ヘッダー。
fieldName	String	フィールド名。
fieldBusinessName	String	ビジネスフィールド名。
data		dataPreviewEntry オブジェクトには次の属性が含まれます。
values	String	dataPreviewEntry オブジェクトに含まれています。ソースまたはターゲットオブジェクトのフィールド値。

GET 要求の例

次の例では、SF_ACCOUNT.csv オブジェクトからデータをプレビューするための要求を示しています。

```
GET <serverUrl>/api/v2/connection/target/0000010B00000000000003/datapreview/SF_ACCOUNT.csv HTTP/1.0
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

次の例では、customer.parquet オブジェクトからデータをプレビューするための要求を示しています。

```
POST <serverUrl>/api/v2/connection/source/0000010B00000000000009/datapreview?objectName=customer.parquet
1.0
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
{
  "@type": "dataFormat",
  "dformatId": "Parquet",
  "schema": "message AllData_root { optional int32 c_custkey; optional binary c_name (UTF8); optional binary c_address (UTF8); optional int64 c_nationkey; optional binary c_phone (UTF8); optional double c_acctbal; optional binary c_mktsegment (UTF8); required binary c_comment (UTF8);}"
}
```

GET 応答の例

次の例のような応答を受信します。

```
{
  "@type": "dataPreview",
  "connId": "0000010B00000000000003",
  "objectName": "SF_ACCOUNT.csv",
  "header": [
    "ID",
```

```

"ISDELETED",
"MASTERRECORDID",
"NAME",
"TYPE",
"PARENTID",
"BILLINGSTREET",
"BILLINGCITY",
"BILLINGSTATE",
"BILLINGPOSTALCODE",
"BILLINGCOUNTRY",
"BILLINGLATITUDE",
"BILLINGLONGITUDE",
"SHIPPINGSTREET",
"SHIPPINGCITY",
"SHIPPINGSTATE",
"SHIPPINGPOSTALCODE",
"SHIPPINGCOUNTRY",
"SHIPPINGLATITUDE",
"SHIPPINGLONGITUDE",
"PHONE",
"FAX",
"ACCOUNTNUMBER",
"WEBSITE"
],

"fieldName": [
  "ID",
  "ISDELETED",
  "MASTERRECORDID",
  "NAME",
  "TYPE",
  "PARENTID",
  "BILLINGSTREET",
  "BILLINGCITY",
  "BILLINGSTATE",
  "BILLINGPOSTALCODE",
  "BILLINGCOUNTRY",
  "BILLINGLATITUDE",
  "BILLINGLONGITUDE",
  "SHIPPINGSTREET",
  "SHIPPINGCITY",
  "SHIPPINGSTATE",
  "SHIPPINGPOSTALCODE",
  "SHIPPINGCOUNTRY",
  "SHIPPINGLATITUDE",
  "SHIPPINGLONGITUDE",
  "PHONE",
  "FAX",
  "ACCOUNTNUMBER",
  "WEBSITE"
],

"fieldBusinessName": [
  "ID",
  "ISDELETED",
  "MASTERRECORDID",
  "NAME",
  "TYPE",
  "PARENTID",
  "BILLINGSTREET",
  "BILLINGCITY",
  "BILLINGSTATE",
  "BILLINGPOSTALCODE",
  "BILLINGCOUNTRY",
  "BILLINGLATITUDE",
  "BILLINGLONGITUDE",
  "SHIPPINGSTREET",
  "SHIPPINGCITY",
  "SHIPPINGSTATE",
  "SHIPPINGPOSTALCODE",
  "SHIPPINGCOUNTRY",

```

```

"SHIPPINGLATITUDE",
"SHIPPINGLONGITUDE",
"PHONE",
"FAX",
"ACCOUNTNUMBER",
"WEBSITE"
],
"rows": [
  {
    "@type": "dataPreviewEntry",
    "values": [
      "001i000000KIAQGAA5",
      "0",
      "",
      "ABCPoint",
      "Customer - Channel",
      "",
      "345 ABC Park",
      "Mountain View",
      "CA",
      "94063",
      "",
      "",
      "",
      "345 ABC Park",
      "Mountain View",
      "CA",
      "94063",
      "",
      "",
      "",
      "(650) 555-3450",
      "(650) 555-9895",
      "CC978213",
      "www.ABCpoint.com"
    ]
  },
  {
    "@type": "dataPreviewEntry",
    "values": [
      "001i000000KIAQHAA5",
      "0",
      "",
      "123 United, UK",
      "Customer - Direct",
      "",
      "123 Estate,\nGateshead, Tyne and Wear NE26 3HS\nUnited Kingdom",
      "UK",
      "94063",
      "",
      "",
      "",
      "123 Estate,\nGateshead, Tyne and Wear NE26 3HS\nUnited Kingdom",
      "",
      "94063",
      "",
      "",
      "",
      "+44 123 4567899",
      "+44 123 4567899",
      "CD355119-A",
      "http://www.123United.com"
    ]
  }
]
}

```

データサービス

サービスリソースを使用して、Informatica Intelligent Cloud Services REST API を使用して業種データサービスを実行します。

業種データサービスとは、業種固有のデータ標準を解析、検証、シリアル化するように設計された、事前に構築されたデータサービスのコレクションを指します。これらのデータサービスはデータサービスリポジトリで利用でき、REST API を使用して実行できます。

サービスリソースを使用する場合は、次の要求ヘッダー形式を使用します。

```
<METHOD><base URL>  
Content-Type: application/json  
Accept: application/json  
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

POST 要求

データサービスを実行するには、次の URI を使用します。

/DSRepo/rest/api/v1/services/run/<service name>

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	要求を処理する Secure Agent グループの ID。
入力			データサービスのデフォルトの入力ポート。
type	string	はい	入力がファイルであるかデータであるかを示します。次のいずれかの値を使用します。 - FILE: 入力ファイルです。 - BUFFER: 入力はデータです。
値	string	はい	入力タイプの値。 - タイプが FILE の場合は、入力ファイルパスの値。 - タイプが BUFFER の場合、値はテキスト文字列です。
出力			データサービスのデフォルトの出力ポート。
type	String	○	出力をデータとして指定するか、ターゲットファイルパスに保存するかを示します。次のいずれかの値を使用します。 - FILE: 出力はターゲットファイルに保存されます。 - BUFFER: 出力は指定されたデータです。
値	String	タイプが FILE の場合は必須	出力ファイルパスの値。
additionalInputs	配列		データサービスの追加の入力ポート。
name	String		追加の入力ポートの名前。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String		追加の入力がファイルであるかデータであるかを示します。次のいずれかの値を使用します。 - FILE: 入力はファイルです。 - BUFFER: 入力はデータです。
値	String		追加の入力タイプの値。 - タイプが FILE の場合は、入力ファイルパスの値。 - タイプが BUFFER の場合、値はテキスト文字列です。
additionalOutputs	配列	一部のデータサービスで必要です。	データサービス用の追加の出力ポート。 HL7 の場合は、次の追加出力を指定します。 - エラー - ErrorsFound HIPAA の場合は、次の追加出力を指定します。 - エラー - ErrorsFound - ValidationReport
name	String	○	追加の出力ポートの名前。
type	String	○	追加の出力が、指定されたデータであるかターゲットファイルパスに保存されているかを示します。次のいずれかの値を使用します。 - FILE: 出力はターゲットファイルに保存されます。 - BUFFER: 出力はデータとして指定されています。
値	String	タイプが FILE の場合は必須	追加の出力ファイルパスの値。
serviceParameters	配列		サービスパラメータポートの変数。
name	String		サービスパラメータの名前。
値	String		サービスパラメータの値。

POST 要求の例

HL7 データサービスを実行するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/DSRepo/rest/api/v1/services/run/HL7_2_6_ADT_A01_Parser
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
{
  "agentGroupId": "010BM025000000000000K",
  "input": {
    "type": "FILE",
    "value": "/root/TEST/v25_s2.txt"
  },
  "output": {
    "type": "FILE",
    "value": "/root/TEST/"
  },
}
```

```

    "additionalInputs": [],
    "serviceParameters": [],
    "additionalOutputs": [
      {
        "name": "Errors",
        "type": "FILE",
        "value": "/root/TEST/"
      },
      {
        "name": "ErrorsFound",
        "type": "FILE",
        "value": "/root/TEST/"
      }
    ]
  }
}

```

POST 応答

POST 要求を使用したデータサービスが実行された場合、成功すると成功応答を返し、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```

{
  "output": "/root/TEST/HL7_2_6_ADT_A01_Parser_output.xml",
  "additionalOutputs": [
    {
      "type": "file",
      "value": "/root/TEST/HL7_2_6_ADT_A01_Parser_Errors.xml",
      "name": "Errors"
    },
    {
      "type": "file",
      "value": "/root/TEST/HL7_2_6_ADT_A01_Parser_ErrorsFound.xml",
      "name": "ErrorsFound"
    }
  ],
  "message": "Success"
}

```

動的マッピングタスク

REST API を使用して動的マッピングタスクを作成し、同じマッピングに基づくジョブをまとめることができます。タスクを実行して、ジョブの詳細を取得することもできます。

動的マッピングタスクには、次のリソースを使用します。

- Login。Informatica Intelligent Cloud Services にログインし、動的タスク REST API 呼び出しで使用するセッション ID を取得するために使用します。
- dynamictask。動的マッピングタスクを作成、表示、更新、または削除するために使用します。
- job。動的マッピングタスク実行インスタンスの開始、停止、または詳細の取得に使用します。

これらのリソースを使用するときには、次のルールに注意してください。

- JSON 形式を使用する。
- 次の URL を使用します。
<serverUrl>/batch-mapping/api/v1/<API name>

- 次の要求ヘッダー形式を使用します。

```
<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

サーバーの URL には、組織が使用する POD の名前とリージョン、および Informatica Intelligent Cloud Services ドメインの informaticacloud.com が含まれます。組織の POD の名前とリージョンがわからない場合は、ユーザーインターフェースを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインして見つけることができます。POD 情報は、ブラウザのアドレスバーにあります。

次の例では、https://usw3.dm-us.informaticacloud.com がサーバーの URL です。

https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/home

サーバー URL を REST API 呼び出しのヘッダーのベース URL として使用します。

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

ログインしています

呼び出しのヘッダーに IDS-SESSION-ID を必要とするリソースを使用する場合に、このリソースを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインします。正常なログイン応答には、IDS-SESSION-ID が含まれます。

POST 要求

次の URL を使用します。

```
<login URL>/identity-service/api/v1/Login
```

ログイン URL には、組織が存在するリージョンと Informatica Intelligent Cloud Services ドメインの informaticacloud.com が含まれます。Informatica Intelligent Cloud Services ログインページを開くと、組織のログインリージョンを見つけることができます。リージョンのログイン URL は、Informatica Intelligent Cloud Services にログインする前のブラウザのアドレスバーにあります。

次の例では、https://dm-us.informaticacloud.com がリージョン URL です。

https://dm-us.informaticacloud.com/identity-service/home

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
username	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。 最大長は 255 文字です。
password	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。 最大長は 255 文字です。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

後続の要求の応答で返されたセッション ID を使用します。

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
sessionId	String	現在のセッションの REST API セッション ID。最も正確な REST API 要求ヘッダーに使用します。
sessionExpireTime	String	セッションが期限切れになる時間。
id	String	ユーザー ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
currentOrgId	String	現在の組織 ID。
currentOrgName	String	現在の組織の名前。
parentOrgId	String	親組織の ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
orgName	String	ユーザーが属する組織の名前。
groups	String	ユーザーグループ。
effectiveRoles	String	ユーザーに割り当てられたロール。
effectivePrivileges	String	ユーザーに割り当てられた特権。
status	String	ユーザーのステータス。
timeZoneId	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。詳細については、 「タイムゾーンのコード」 (ページ 599) を参照してください。
authenticator	String	ユーザー認証方法。

動的マッピングタスクの詳細の取得

このリソースを使用して、動的マッピングタスクの詳細を要求します。動的マッピングタスクを作成、更新、または削除することもできます。

詳細を要求するか既存の動的タスクを更新するには、タスク ID が必要です。V3 ルックアップリソースを使用してタスクの ID を取得できます。V3 ルックアップリソースでオブジェクトの詳細をルックアップするには、次の URI を使用します。

/saas/public/core/v3/lookup

次の例に示すように、オブジェクトタイプとして BATCH_MAPPING を含めます。

```
{
  "objects": [
    {
      "path": "Default/DMT_API",
      "type": "BATCH_MAPPING"
    }
  ]
}
```

次の例に示すように、応答はパス内のオブジェクトに関する詳細を返します。

```
{
  "objects": [
    {
      "id": "7H67JPHH9Y4g7Hm7JyL5K2",
      "path": "Default/DMT_API",
      "type": "BATCH_MAPPING",
      "description": "",
      "updatedBy": "rl.ma",
      "updateTime": "2021-08-27T23:45:14Z"
    }
  ]
}
```

V3 ルックアップリソースの使用方法の詳細については、「[ルックアップ](#)」(ページ 178)を参照してください。

データ統合ユーザーインターフェースでタスクを開いて、タスク ID を見つけることもできます。URL の最後の文字列がタスク ID です。

例えば、次の URL のタスク ID は 771b8ZpTcfreXm8n5RZUQ5 です。

<https://na1.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/dynamicmapping/771b8ZpTcfreXm8n5RZUQ5>

GET 要求

動的マッピングタスクの詳細を要求するには、タスク ID を使用します。

次の URI を使用して、動的マッピングタスクの詳細を要求します。

/batch-mapping/api/v1/dynamictask/<id>

GET 応答

要求されたタスク ID の dynamictask オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

次の表に dynamictask オブジェクトの属性を示します。

フィールド	タイプ	説明
name	String	動的マッピングタスクの名前。
mappingId	String	タスクで使用されるマッピングの ID。
mappingDocType	String	タスクで使用されるマッピングのタイプ。
runtimeEnvironmentId	String	タスクに使用されるランタイム環境。
groups		動的マッピングタスクのグループ。
groupName	String	グループオブジェクトに含まれます。 グループの名前。
enabled	Boolean	グループオブジェクトに含まれます。 グループが有効かどうかを示します。 グループが有効な場合は true を返します。
parameters		動的マッピングタスクのパラメータ。

フィールド	タイプ	説明
name	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 パラメータの名前。
type	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 パラメータのタイプ。
txName	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 パラメータを使用するトランスフォーメーションの名前。
uniqueName	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 トランスフォーメーション名とパラメータ名。トランスフォーメーション名が存在しない場合は、パラメータ名。
scope	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 パラメータの範囲（DEFAULT または LOCAL）。
label	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 パラメータラベル。
description	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 パラメータの説明。
retentionPolicy	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 入出力パラメータに適用できます。タスクが現在のパラメータ値を保持するタイミングを決定します。
aggregationType	String	パラメータオブジェクトに含まれます。 入出力パラメータに適用できます。パラメータが実行する計算のタイプ。
job		動的マッピングタスクのジョブ。
jobName	String	ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブの名前。
jobType	String	ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブのタイプ（USER または DEFAULT）。
enabled	Boolean	ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブを有効にするかどうかを決定します。 デフォルトは false です。
stopOnError	Boolean	ジョブオブジェクトに含まれます。 エラーが発生したときにジョブを停止します。 デフォルトは false です。
stopOnWarning	Boolean	ジョブオブジェクトに含まれます。 警告が発生したときにジョブを停止します。 デフォルトは false です。

フィールド	タイプ	説明
preProcessingCmds	String	ジョブオブジェクトに含まれます。 タスクの前に実行するコマンドのリスト。
postProcessingCmds	String	ジョブオブジェクトに含まれます。 タスクの後に実行するコマンドのリスト。
advSessionProperties	マップ	ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブに設定されている詳細セッションプロパティのマップ。
group	String	ジョブオブジェクトに含まれます。 ユーザーが属しているグループの名前。
paramValueBindings		ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブのパラメータ属性。
paramDefnRef	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータの一意の名前。
type	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータのタイプ。値には次のいずれかのタイプを指定できます。 - 接続 - 文字列 - ソース - ターゲット - INOUT - シーケンス
connection		接続タイプパラメータの属性。
connectionId	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 接続 ID。
connectionType	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 接続タイプ。
runtimeAttrs	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 接続のランタイム属性。
oprRuntimeAttrs	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 読み取り/書き込みランタイム属性。
source		ソースタイプパラメータの属性。
sourceObject	Object	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ソースオブジェクト。
advancedFilterExpression	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 詳細フィルタ条件。

フィールド	タイプ	説明
filterFields	オブジェクトのリスト	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 フィルタフィールドのリスト。
sortFields	オブジェクトのリスト	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ソートフィールドのリスト。
srcFFAttrs	Object	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 フラットファイル属性。
ccmDataFormat	Object	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 データ形式
customQuery	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 カスタムクエリ
handleSpecialChars	Boolean	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 タスクが特殊文字を使用できるかどうかを決定します。
runtimeAttrs	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ランタイム属性
oprRuntimeAttrs	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 読み取り/書き込みランタイム属性。
string		文字列タイプパラメータの属性。
text	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータのテキスト値。
target		ターゲットタイプパラメータの属性。
objectName	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 既存のターゲットオブジェクトの名前。
objectLabel	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 既存のターゲットオブジェクトのラベル。
newObjectName	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 新しいターゲットファイルの名前。
truncateTarget	Boolean	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 データ統合がターゲットを切り詰めるかどうかを決定します。
bulkApiDBTarget	Boolean	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 Bulk API を使用するかどうかを決定します。
operationType	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 タスク操作。

フィールド	タイプ	説明
tgtFFAttrs	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 フラットファイル属性。
tgtObjectAttributes	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクト属性。
runtimeAttrs	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ランタイム属性
oprRuntimeAttrs	マップ	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 読み取り/書き込みランタイム属性。
ccmDataFormat	Object	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 CCI ターゲットのデータ形式。
dynamicFileName	Boolean	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ターゲットファイル名が動的であるかどうかを決定します。
handleSpecialChars	Boolean	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトが特殊文字を処理するかどうかを決定 します。
INOUT		INOUT タイプパラメータの属性。
initialValue	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 入出力パラメータの初期値。
datatype	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータのデータ型。
precision	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータの精度。
scale	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータの位取り。
retentionPolicy	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 タスクが現在のパラメータ値を保持するタイミングを決定しま す。
aggregationType	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータが実行する計算のタイプ。
currentValue	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 入出力パラメータの現在の値。
シーケンス		シーケンスタイプパラメータの属性。
txName	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの名前。

フィールド	タイプ	説明
initialValue	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの初期値。
value	String	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの現在の値。

POST 要求

動的マッピングタスクを作成するには、次の URI を使用します。

/batch-mapping/api/v1/dynamictask

タスクに場所を指定する場合、要求にコンテナ ID をクエリパラメータとして含めます。コンテナ ID が要求に含まれていない場合、タスクは Default フォルダに作成されます。データ統合ユーザーインターフェースでプロジェクトまたはフォルダのコンテナ ID を検索できます。[エクスプローラ] ページで、フォルダを選択します。URL のコンテナ ID の最後の文字列。

例えば、次の URL のコンテナ ID は dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR です。

<https://na1.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/Explore/dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR>

次の表に、dynamictask オブジェクトに含めることができる属性を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	動的マッピングタスクの名前。
mappingId	String	○	タスクで使用されるマッピングの ID。
mappingDocType	String	○	タスクで使用されるマッピングのタイプ。次のいずれかのタイプを含めます。 - MAPPING。詳細モード以外のマッピングに使用します。 - AT_SCALE_MAPPING。詳細モードのマッピングに使用します。
runtimeEnvironmentId	String	○	タスクに使用されるランタイム環境。
groups			動的マッピングタスクのグループ。
groupName	String	○	グループオブジェクトに含まれます。 グループの名前。
enabled	Boolean		グループオブジェクトに含まれます。 グループが有効かどうかを示します。
parameters			動的マッピングタスクのパラメータ。
name	String	○	パラメータオブジェクトに含まれます。 マッピングのパラメータの名前。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	○	<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>パラメータのタイプ。次のいずれかのタイプを含めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - SOURCE_CONNECTION - SOURCE_OBJECT - TARGET_CONNECTION - TARGET_OBJECT - LOOKUP_CONNECTION - LOOKUP_OBJECT - TRANSFORM_CONNECTION - STRING - GROUPBY - FIELD - EXPRESSION - EXPRESSION_FIELDS - CONDITION - FIELD_MAPPING - SORTLIST - INOUT_INT - INOUT_BIGINT - INOUT_STRING - INOUT_TEXT - INOUT_DECIMAL - INOUT_DOUBLE - INOUT_DATETIME - SEQUENCE
txName	String		<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>パラメータを使用するトランスフォーメーションの名前。</p>
uniqueName	String	○	<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>トランスフォーメーション名とパラメータ名。トランスフォーメーション名が存在しない場合は、パラメータ名。</p>
Scope	String	○	<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>パラメータのスコープ (default または local)。</p>
label	String		<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>パラメータラベル。</p>
description	String		<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>パラメータの説明。</p>
retentionPolicy	String		<p>パラメータオブジェクトに含まれます。</p> <p>入出力パラメータに適用できます。タスクが現在のパラメータ値を保持するタイミングを決定します。</p> <p>以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ON_SUCCESS_OR_WARNING - ON_SUCCESS - ON_WARNING - NEVER

フィールド	タイプ	必須	説明
aggregationType	String		パラメータオブジェクトに含まれます。 入出力パラメータに適用できます。パラメータが実行する計算のタイプ。 以下のいずれかの値を使用します。 - MAX - MIN - COUNT
job			動的マッピングタスクのジョブ。
jobName	String	○	ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブの名前。
jobType	String	○	ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブのタイプ。USER または DEFAULT のいずれかを使用します。
enabled	Boolean		ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブを有効にするかどうかを決定します。 デフォルトは false です。
stopOnError	Boolean		ジョブオブジェクトに含まれます。 エラーが発生したときにジョブを停止します。 デフォルトは false です。
stopOnWarning	Boolean		ジョブオブジェクトに含まれます。 警告が発生したときにジョブを停止します。 デフォルトは false です。
preProcessingCmds	String		ジョブオブジェクトに含まれます。 タスクの前に実行するコマンドのリスト。
postProcessingCmds	String		ジョブオブジェクトに含まれます。 タスクの後に実行するコマンドのリスト。
advSessionProperties	マップ		ジョブオブジェクトに含まれます。 ジョブに設定されている詳細セッションプロパティのマップ。
group	String	○	ジョブオブジェクトに含まれます。 ユーザーが属しているグループの名前。
paramValueBindings			各ジョブのパラメータ属性。
paramDefnRef	String	はい	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータの一意の名前。

フィールド	タイプ	必須	説明
type	String	○	paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータのタイプ。次のいずれかのタイプを使用します。 - 接続 - 文字列 - ソース - ターゲット - INOUT - シーケンス
connection			接続タイプパラメータの属性。
connectionId	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 接続 ID。
connectionType	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 接続タイプ。次のいずれかのタイプを使用します。 - SOURCE - TARGET - LOOKUP - TRANSFORM
runtimeAttrs	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 接続のランタイム属性。
oprRuntimeAttrs	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 読み取り/書き込みランタイム属性。
source			ソースタイプパラメータの属性。
sourceObject	Object		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ソースオブジェクト。
advancedFilterExpression	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 詳細フィルタ条件。
filterFields	オブジェクトのリスト		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 フィルタフィールドのリスト。
sortFields	オブジェクトのリスト		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ソートフィールドのリスト。
srcFFAttrs	Object		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 フラットファイル属性。
ccmDataFormat	Object		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 CCI ソースのデータ形式。
customQuery	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 カスタムクエリ。

フィールド	タイプ	必須	説明
handleSpecialChars	Boolean		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 タスクが特殊文字を使用できるかどうかを決定します。
runtimeAttrs	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ソースのランタイム属性。
oprRuntimeAttrs	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 読み取り/書き込みランタイム属性。
string			文字列タイプパラメータの属性。
text	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータのテキスト値。
target			ターゲットタイプパラメータの属性。
objectName	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 既存のターゲットオブジェクトの名前。
objectLabel	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 既存のターゲットオブジェクトのラベル。
newObjectName	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 新しいターゲットファイルの名前。
truncateTarget	Boolean		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 データ統合がターゲットを切り詰めるかどうかを決定します。
bulkApiDBTarget	Boolean		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 Bulk API を使用するかどうかを決定します。
operationType	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 タスク操作。
tgtFFAttrs	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 フラットファイル属性。
tgtObjectAttributes	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクト属性。
runtimeAttrs	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ランタイム属性。
oprRuntimeAttrs	マップ		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 読み取り/書き込みランタイム属性。
ccmDataFormat	Object		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 CCI ターゲットのデータ形式。

フィールド	タイプ	必須	説明
dynamicFileName	Boolean		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ターゲットファイル名が動的であるかどうかを決定します。
handleSpecialChars	Boolean		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトが特殊文字を処理するかどうかを決定します。
INOUT			INOUT タイプパラメータの属性。
initialValue	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 入出力パラメータの初期値。
datatype	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータのデータ型。
precision	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータの精度。
scale	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータの位取り。
retentionPolicy	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 タスクが現在のパラメータ値を保持するタイミングを決定します。以下のいずれかの値を使用します。 - ON_SUCCESS_OR_WARNING - ON_SUCCESS - ON_WARNING - NEVER
aggregationType	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 パラメータが実行する計算のタイプ。以下のいずれかの値を使用します。 - MAX - MIN - COUNT
currentValue	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 入出力パラメータの現在の値。
シーケンス			シーケンスタイプパラメータの属性。
txName	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの名前。
initialValue	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの初期値。
value	String		paramValueBindings オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの現在の値。

POST 応答

成功した場合、作成または更新した dynamictask オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

PUT 要求

動的マッピングタスクを更新するには、次の例に示すように、タスク ID を含めます。

/batch-mapping/api/v1/dynamictask/<Id>

動的マッピングタスクを更新するときは、POST 要求と同じ属性を含めます。

PUT 応答

次の例に示すように、タスク ID、状態、および検証エラーを返します。

```
{
  "frsId": "1JVMWZjVPMhKY4SdxcGd60",
  "state": "VALID",
  "validationErrors": []
}
```

DELETE 要求

動的マッピングタスクを削除するには、次の URI のタスク ID を使用します。

/batch-mapping/api/v1/dynamictask/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

REST API で新しい動的マッピングタスクを作成するには、次の要求を使用できます。

POST https://na1.dm-us.informaticacloud.com/batch-mapping/api/v1/dynamictask

Content-Type: application/json

Accept: application/json

IDS-SESSION-ID: jpaybAKQMsmdt7vLJ02z0s

```
{
  "orgId": "2ij4X7Pd63ibnquEQyy9wA",
  "name": "DMT_API",
  "description": "",
  "mappingId": "01003Y1700000000005X",
  "mappingDocType": "MAPPING",
  "runtimeEnvironmentId": "01003Y25000000000004",
  "scheduleId": null,
  "state": "VALID",
  "groups": [
    {
      "groupName": "Group_1",
      "enabled": true
    },
    {
      "groupName": "Group_2",
      "enabled": false
    }
  ],
  "parameters": [
    {
      "uniqueName": "Source:SrcCon",
      "name": "SrcCon",
      "txName": "Source",
      "type": "SOURCE_CONNECTION",
      "scope": "DEFAULT",
      "label": null,
      "description": "",
      "retentionPolicy": null,
    }
  ]
}
```

```

    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "Source:SrcObj",
    "name": "SrcObj",
    "txName": "Source",
    "type": "SOURCE_OBJECT",
    "scope": "LOCAL",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "Target:TrgCon",
    "name": "TrgCon",
    "txName": "Target",
    "type": "TARGET_CONNECTION",
    "scope": "DEFAULT",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "Target:TrgObj",
    "name": "TrgObj",
    "txName": "Target",
    "type": "TARGET_OBJECT",
    "scope": "LOCAL",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "Lookup:Lkcon",
    "name": "Lkcon",
    "txName": "Lookup",
    "type": "LOOKUP_CONNECTION",
    "scope": "DEFAULT",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "Lookup:LkObj",
    "name": "LkObj",
    "txName": "Lookup",
    "type": "LOOKUP_OBJECT",
    "scope": "DEFAULT",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "Lkp",
    "name": "Lkp",
    "txName": null,
    "type": "EXPRESSION",
    "scope": "LOCAL",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  },
  {
    "uniqueName": "ExParam",
    "name": "ExParam",

```

```

    "txName": null,
    "type": "EXPRESSION",
    "scope": "LOCAL",
    "label": null,
    "description": "",
    "retentionPolicy": null,
    "aggregationType": null
  }
},
"jobs": [
  {
    "jobUUID": "ae1lR3k2ccYgXNeFQe4DIT",
    "jobName": "<Default>",
    "jobType": "DEFAULT",
    "enabled": false,
    "stopOnError": false,
    "stopOnWarning": false,
    "preProcessingCmds": [],
    "postProcessingCmds": [],
    "advSessionProperties": {},
    "paramValueBindings": [
      {
        "type": "Connection",
        "paramDefnRef": "Source:SrcCon",
        "connectionId": "01003Y0B0000000000006",
        "connectionType": null,
        "runtimeAttrs": {},
        "oprRuntimeAttrs": {}
      },
      {
        "type": "Connection",
        "paramDefnRef": "Target:TrgCon",
        "connectionId": "01003Y0B0000000000001Q",
        "connectionType": null,
        "runtimeAttrs": {},
        "oprRuntimeAttrs": {}
      },
      {
        "type": "Connection",
        "paramDefnRef": "Lookup:Lkcon",
        "connectionId": "01003Y0B0000000000001Q",
        "connectionType": null,
        "runtimeAttrs": {},
        "oprRuntimeAttrs": {}
      },
      {
        "type": "Source",
        "paramDefnRef": "Lookup:LkObj",
        "sourceObject": {
          "name": "EMP",
          "label": "EMP",
          "metadataUpdated": false
        },
        "advancedFilterExpression": null,
        "userDefinedJoin": null,
        "filterFields": [],
        "sortFields": [],
        "srcFFAttrs": null,
        "overriddenFields": [],
        "ccmDataFormat": null,
        "customQuery": null,
        "handleSpecialChars": false,
        "runtimeAttrs": {},
        "oprRuntimeAttrs": {}
      }
    ],
    "group": null
  },
  {
    "jobUUID": "21rswJo8MnOgUTtfCq96AR",
    "jobName": "Job_1",

```



```

"jobType": "USER",
"enabled": true,
"stopOnError": false,
"stopOnWarning": false,
"preProcessingCmds": [],
"postProcessingCmds": [],
"advSessionProperties": {},
"paramValueBindings": [
  {
    "type": "Source",
    "paramDefnRef": "Source:SrcObj",
    "sourceObject": {
      "name": "employee.csv",
      "label": "employee.csv",
      "metadataUpdated": false
    },
    "advancedFilterExpression": null,
    "userDefinedJoin": null,
    "filterFields": [],
    "sortFields": [],
    "srcFFAttrs": null,
    "overriddenFields": [],
    "ccmDataFormat": null,
    "customQuery": null,
    "handleSpecialChars": false,
    "runtimeAttrs": {},
    "oprRuntimeAttrs": {}
  },
  {
    "type": "Target",
    "paramDefnRef": "Target:TrgObj",
    "objectName": "CONTACT",
    "objectLabel": "CONTACT",
    "newObjectName": null,
    "truncateTarget": false,
    "bulkApiDBTarget": false,
    "operationType": null,
    "tgtFieldRefs": {},
    "targetUpdateColumns": [],
    "tgtFFAttrs": null,
    "tgtObjectAttributes": {},
    "runtimeAttrs": {},
    "oprRuntimeAttrs": {},
    "handleSpecialChars": false,
    "ccmDataFormat": null,
    "dynamicFileName": false
  },
  {
    "type": "String",
    "paramDefnRef": "Lkp",
    "text": " EMP_ID||EMP_NAME"
  },
  {
    "type": "String",
    "paramDefnRef": "ExParam",
    "text": " IsNull(EMP_ID)"
  }
],
"group": "Group_1"
},
{
  "jobUUID": "6pavc0H4kwZewe1XL1khoF",
  "jobName": "Job_2",
  "jobType": "USER",
  "enabled": true,
  "stopOnError": false,
  "stopOnWarning": false,
  "preProcessingCmds": [],
  "postProcessingCmds": [],
  "advSessionProperties": {},
  "paramValueBindings": [

```

```

{
  "type": "Source",
  "paramDefnRef": "Source:SrcObj",
  "sourceObject": {
    "name": "Boston_Customers.csv",
    "label": "Boston_Customers.csv",
    "metadataUpdated": false
  },
  "advancedFilterExpression": null,
  "userDefinedJoin": null,
  "filterFields": [],
  "sortFields": [],
  "srcFFAttrs": null,
  "overriddenFields": [],
  "ccmDataFormat": null,
  "customQuery": null,
  "handleSpecialChars": false,
  "runtimeAttrs": {},
  "oprRuntimeAttrs": {}
},
{
  "type": "Target",
  "paramDefnRef": "Target:TrgObj",
  "objectName": "CUSTINFO_TYPE",
  "objectLabel": "CUSTINFO_TYPE",
  "newObjectName": null,
  "truncateTarget": false,
  "bulkApiDBTarget": false,
  "operationType": null,
  "tgtFieldRefs": {},
  "targetUpdateColumns": [],
  "tgtFFAttrs": null,
  "tgtObjectAttributes": {},
  "runtimeAttrs": {},
  "oprRuntimeAttrs": {},
  "handleSpecialChars": false,
  "ccmDataFormat": null,
  "dynamicFileName": false
},
{
  "type": "String",
  "paramDefnRef": "Lkp",
  "text": "NAME=Firstname"
},
{
  "type": "String",
  "paramDefnRef": "ExParam",
  "text": "Firstname||Lastname"
}
],
"group": "Group_2"
}
]
}

```

動的マッピングタスクの実行

REST API を使用して動的マッピングタスクを実行する場合、REST API バージョン 1 のジョブリソースを使用して、ジョブを開始または停止します。また、ジョブの詳細を取得することもできます。

動的マッピングタスクのステータスを取得する場合は、プラットフォーム REST API バージョン 2 のジョブリソースは使用しないでください。

組織でプロジェクトやフォルダを使用している場合は、REST API バージョン 3 のルックアップリソースを使用してタスク ID を取得します。これにより、フェデレーションタスク ID が返されます。POST 要求にはこの ID を含める必要があります。

GET 要求

動的マッピングタスクの詳細を取得するには、次のタスク URI を使用します。

/batch-mapping/api/v1/Job/monitor/task/<Id>/run/<runId>

GET 応答

成功した場合、ジョブのステータスを返します。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

例えば、完了した動的マッピングタスクの詳細を要求すると、次の応答が返される場合があります。

```
{
  "taskId": "jUJNIX39Z6ZbR8KZCm2ieS",
  "taskFrId": "k2AE77006oYg6Nvr0tKt6t",
  "taskName": "Dynamic Mapping Task2",
  "instanceId": 1,
  "startedBy": "user@informatica.com",
  "startTime": "2021-08-26T16:28:11.000Z",
  "updateTime": "2021-08-26T16:28:35.000Z",
  "endTime": "2021-08-26T16:28:35.000Z",
  "runtimeEnvironment": "test1",
  "runtimeEnvironmentId": "01000025000000000002",
  "status": "COMPLETED",
  "successRows": 3,
  "errorRows": 0,
  "saasMappingId": "0100001700000000000007",
  "mappingName": "dsst__copy_data_new_tgt_With_SortList",
  "mappingFrId": "5A90bRPbo00dpMQ8F2nkgy",
  "mappingDocType": "MAPPING",
  "runContext": "API",
  "scheduleName": null,
  "jobs": [
    {
      "jobName": "Job_1",
      "jobUUID": "780Z7JlUNScd09kwQWxbUf",
      "groupName": "Group_1",
      "saasJobRunId": 52,
      "saasLogId": "010000C1000000000040H",
      "startTime": "2021-08-26T16:28:18.000Z",
      "updateTime": "2021-08-26T16:28:33.000Z",
      "endTime": "2021-08-26T16:28:33.000Z",
      "errorMessage": null,
      "status": "COMPLETED",
      "failedSourceRows": 0,
      "successSourceRows": 3,
      "failedTargetRows": 0,
      "successTargetRows": 3,
      "enabled": true,
      "sessionLogUrl": null
    }
  ]
}
```

POST 要求の開始

動的マッピングタスクを作成するには、次の URI を使用します。

/batch-mapping/api/v1/Job

次の例のように、フェデレーションタスク ID を要求に含めます。

```
{
  "taskFrId": "k2AE77006oYg6Nvr0tKt6t"
}
```

POST 応答の開始

実行 ID とフェデレーションタスク ID を返します。

例えば、動的マッピングタスクを 2 回実行すると、次の応答が返されます。

```
{
  "runId": 2,
  "taskFrId": "k2AE77006oYg6Nvr0tKt6t"
}
```

POST 要求の停止

動的マッピングタスクの実行を停止するには、次の URI を使用します。

/batch-mapping/api/v1/Job/stop

次の例に示すように、タスク ID 属性とジョブ実行 ID 属性をジョブオブジェクトに含めます。

```
{
  "taskFrId": "gScmpuSzjSdcbNPFNYbbc",
  "runId": 10
}
```

POST 応答の停止

要求が成功すると、200 Success オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

フィールド

フィールドは、単一のデータ項目を表すデータ構造のサブセットです。例えば、データベーステーブルのカラムはフィールドです。ソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトのフィールドの詳細を要求および更新することができます。

フィールドの詳細の取得

フィールドリソースを使用して、ソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトのフィールド詳細を取得します。

GET 要求

ソースオブジェクトのフィールドの詳細を取得するには、次のいずれかの URI を使用します。

- ソース接続 ID を指定する場合は、/api/v2/connection/source/<id>/field/<オブジェクト名>を使用します。
- ソース接続名とソースオブジェクト名を指定する場合は、/api/v2/connection/source/name/<name>/field/<オブジェクト名>を使用します。

ターゲットオブジェクトのフィールドの詳細を取得するには、次のいずれかの URI を使用します。

- ターゲット接続 ID を指定する場合は、/api/v2/connection/target/<id>/field/<オブジェクト名>を使用します。
- ターゲット接続名とターゲットオブジェクト名を指定する場合は、/api/v2/connection/target/name/<name>/field/<オブジェクト名>を使用します。

オブジェクト名にスラッシュ (/) が含まれている場合は、次の URI を使用します。

/api/v2/connection/<source or target>/<id>/fields?objectName=<objectName>

URI に接続名を使用し、その接続名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

/api/v2/connection/source/name/my%20connection/field/customer

注: オブジェクト名は大文字と小文字が区別されます。

GET 応答

応答は、ソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトの各フィールドのフィールドオブジェクトと、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

次の表に、接続タイプに基づいて返される可能性のあるフィールドオブジェクトの属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
id	Long	フィールド ID。
name	String	フィールド名。
type	String	フィールドの種類
label	String	フィールドのラベル。
parentObject	String	親オブジェクト（該当する場合）。
precision	Int	フィールドの長さ（バイト）。
pcType	String	PowerCenter のデータ型。
scale	Int	数値の小数点以下の桁数。
columnIndex	Int	カラムのインデックス。
isKey	Boolean	フィールドがキーとして使用されるかどうかを示します。
isExternalId	Boolean	フィールドが外部 ID として使用されるかどうかを示します。
isSfIdLookup	Boolean	フィールドが Salesforce ID のルックアップフィールドとして使用されるかどうかを示します。
isNullable	Boolean	フィールドに NULL 値を含めることができるかどうかを示します。
isUnique	Boolean	フィールドに一意の値が必要かどうかを示します。
isCreateable	Boolean	フィールドが新しい値を承認するかどうかを示します。
isCalculated	Boolean	フィールドが計算されるかどうかを示します。
isUpdateable	Boolean	フィールドで更新が許可されるかどうかを示します。
isFilterable	Boolean	フィールドをフィルタできるかどうかを示します。
linkedFields	String	マスキングタスクの場合は、マップレットの入力フィールドにマップされるソースフィールド。
relatedInfos		各関連フィールドの fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれる、関連するフィールドの情報。
fieldId	Long	fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれています。 フィールド ID。

フィールド	タイプ	説明
referenceObject	String	fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれています。フィールドに含まれるオブジェクト。
relationshipName	String	fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれています。オブジェクトとのリレーション。
references		各関連フィールドの fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれる参照情報。
fieldId	Long	fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれています。フィールド ID。
referenceObject	String	fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれています。フィールドに含まれるオブジェクト。
relationshipName	String	fieldRelatedInfo オブジェクトに含まれています。オブジェクトとのリレーション。
javaType	String	Java データ型。
showLabel	Boolean	フィールドのラベルを表示するかどうかを示します。
naturalOrder	Int	ソース内のフィールドの位置番号。
customProperties		フィールドのカスタムプロパティ。

GET の例

ID が 0002D420000000J というソース接続から使用できる Customer ソースオブジェクトのフィールドの詳細を取得するには、次の要求を使用します。

```
GET <serverUrl>/api/v2/connection/source/0002D420000000J/field/Customer
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```

要求に成功すると、Customer ソースオブジェクトの各フィールドに対するフィールドオブジェクトを返します。

フラットファイル内のフィールドの更新

フィールドリソースを使用して、フラットファイル接続からソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトのフィールドを更新します。

POST 要求

次のいずれかの URI を使用します。

- ソースオブジェクトの場合は、/api/v2/connection/source/<id>/field/<objectName>を使用します。
- ターゲットオブジェクトの場合は、/api/v2/connection/target/<id>/field/<objectName>を使用します。

オブジェクト内のフィールドを更新すると、要求のフラットファイル属性でオブジェクトのデフォルトの属性が上書きされます。

次の表に、要求で指定する flatFileAttrs オブジェクトに含めることができる属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	Long	はい	フィールド ID。
delimiter	String	○	フィールドを区切るために使用される文字。
textQualifier	String	○	テキスト文字列の境界を定義する引用符。
escapeChar	String	○	引用符で囲まれていない文字列に埋め込まれたフィールド区切り文字の直前の文字、または引用符で囲まれた文字列内の引用符の直前の文字。
headerLineNo	Int	○	ヘッダー行の数。
firstDataRow	Int	○	ファイル内でデータが始まる行番号。
rowDelimiter	Int	--	改行文字。1 から 32 までの ASCII 文字の 10 進数コードを入力します。 デフォルト値は 10 で、これは改行文字です。
consecutiveDelimiter	Boolean	--	1 つ以上の連続する区切り文字を 1 つの文字として扱うかどうかを示します。 デフォルトは false です。
multiDelimitersAsAnd	Boolean	--	指定した区切り文字が複数の文字である場合に、その文字を 1 つの区切り文字として扱うか、複数の区切り文字として扱うかを示します。 デフォルトは true です。

POST 要求の例

フラットファイルソースオブジェクトのフィールドを更新するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/connection/source/0000010B000000000021/field/test_precision.csv
1.0
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId
{
  "@type": "flatFileAttrs",
  "delimiter": ",",
  "textQualifier": "'",
  "escapeChar": "\\"
}
```

非フラットファイル形式のオブジェクト内のフィールドの更新

フィールドリソースを使用して、ソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトのフィールドを Avro、Parquet、ORC、または JSON などの非フラットファイル形式で更新します。

POST 要求

Avro、Parquet、ORC、および JSON 形式の場合、形式タイプとオプションでスキーマを含めることで、ソースオブジェクトまたはターゲットオブジェクトのフィールドを更新することができます。スキーマを含めない場合は、スキーマ形式はデータファイルから継承されます。

次のいずれかの URI を使用します。

- ソースオブジェクトの場合は、`/api/v2/connection/source/<id>/fields?objectName=<オブジェクト名>`を使用します。
- ターゲットオブジェクトの場合は、`/api/v2/connection/target/<id>/fields?objectName=<オブジェクト名>`を使用します。

次の表に、dataFormat オブジェクトに含める属性とその説明を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
formatId	String	○	形式タイプ、例えば、Avro。
schema	String	--	スキーマ形式。

POST 要求の例

Parquet ソースオブジェクトのフィールドを更新するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/api/v2/connection/source/0100000B00000000000F/fields?objectName=infa.qa.bucket%2Fcustomer.parquet
1.0
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
{
  "@type": "dataFormat",
  "dformatId": "Parquet",
  "schema": "message AllData_root { optional int32 c_custkey; optional binary c_name (UTF8); optional binary c_address (UTF8); optional int64 c_nationkey; optional binary c_phone (UTF8); optional double c_acctbal; optional binary c_mktsegment (UTF8); required binary c_comment (UTF8);}"
}
```

応答が成功した場合、以下の例のようになります。

```
[
  {
    "@type": "field",
    "id": -1,
    "name": "c_custkey",
    "type": "parquet_int32",
    "uniqueName": "c_custkey",
    "label": "c_custkey",
    "parentObject": "customer_tgt.parquet",
    "pcType": "INTEGER",
    "precision": 10,
    "scale": 0,
    "columnIndex": -1,
    "isKey": false,
    "isExternalId": false,
    "isSfIdLookup": false,
    "isNullable": true,
    "isUnique": false,
    "isCreateable": false,
    "isUpdateable": true,
    "isFilterable": true,
    "isCalculated": false,
    "javaType": "java.lang.Integer",
    "showLabel": true,
    "naturalOrder": 0,
    "linkedFields": [],
    "relatedInfos": [],
    "references": []
  },
  {
    "@type": "field",
    "id": -1,
```



```

    "name": "c_address",
    "type": "parquet_string",
    "uniqueName": "c_address",
    "label": "c_address",
    "parentObject": "customer_tgt.parquet",
    "pcType": "NSTRING",
    "precision": 4000,
    "scale": 0,
    "columnIndex": -1,
    "isKey": false,
    "isExternalId": false,
    "isSfIdLookup": false,
    "isNullable": true,
    "isUnique": false,
    "isCreateable": false,
    "isUpdateable": true,
    "isFilterable": true,
    "isCalculated": false,
    "javaType": "java.lang.String",
    "showLabel": true,
    "naturalOrder": 2,
    "linkedFields": [],
    "relatedInfos": [],
    "references": []
  },
  {
    "@type": "field",
    "id": -1,
    "name": "c_nationkey",
    "type": "parquet_int64",
    "uniqueName": "c_nationkey",
    "label": "c_nationkey",
    "parentObject": "customer_tgt.parquet",
    "pcType": "BIGINT",
    "precision": 19,
    "scale": 0,
    "columnIndex": -1,
    "isKey": false,
    "isExternalId": false,
    "isSfIdLookup": false,
    "isNullable": true,
    "isUnique": false,
    "isCreateable": false,
    "isUpdateable": true,
    "isFilterable": true,
    "isCalculated": false,
    "javaType": "java.math.BigInteger",
    "showLabel": true,
    "naturalOrder": 3,
    "linkedFields": [],
    "relatedInfos": [],
    "references": []
  },
  {
    "@type": "field",
    "id": -1,
    "name": "FileName",
    "type": "string",
    "uniqueName": "FileName",
    "label": "FileName",
    "parentObject": "customer_tgt.parquet",
    "pcType": "NSTRING",
    "precision": 1024,
    "scale": 0,
    "columnIndex": -1,
    "isKey": false,
    "isExternalId": false,
    "isSfIdLookup": false,
    "isNullable": false,
    "isUnique": false,
    "isCreateable": false,

```

```

        "isUpdateable": true,
        "isFilterable": true,
        "isCalculated": false,
        "javaType": "java.lang.String",
        "showLabel": true,
        "naturalOrder": 8,
        "linkedFields": [],
        "relatedInfos": [],
        "references": []
    }
]

```

ファイルリスナ

ファイルリスナリソースを使用して、ファイルリスナを作成、更新、削除、および実行し、ファイルリスナの関連付けの所有者を、あるユーザーから別のユーザーに変更します。Informatica Intelligent Cloud Services は、ファイルリスナを使用して特定のフォルダを監視できます。監視対象のフォルダに新しいファイルが到着したり、フォルダ内のファイルが更新または削除されたりすると、コールバック API を使用して Informatica Intelligent Cloud Services に通知されます。

filelisteners リソースを使用する際には次のことに注意してください。

- JSON 形式を使用する。
- 次のベース URL を使用する。
<serverUrl>/mftsas/api/v1/<API name>
- 次の要求ヘッダー形式を使用します。
<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

ファイルリスナを実行して監視するには、次のタスクを完了します。

- GET 要求を送信して、ファイルリスナの詳細を表示します。[「ファイルリスナの詳細の取得」 \(ページ 387\)](#) を参照してください。
- POST 要求を送信して、ファイルリスナを作成します。[「ファイルリスナの作成」 \(ページ 391\)](#) を参照してください。
- PUT 要求を送信して、既存のファイルリスナを更新します。[「ファイルリスナの更新」 \(ページ 397\)](#) を参照してください。
- start POST 要求を送信して、ファイルリスナジョブを開始します。[「ファイルリスナの開始」 \(ページ 402\)](#) を参照してください。
- stop POST 要求を送信して、ファイルリスナジョブを手動で停止します。[「ファイルリスナの停止」 \(ページ 403\)](#) を参照してください。
- POST 要求を送信して、ファイルリスナの関連付けの所有者を変更します。[「ファイルリスナ関連付けの所有者の変更」 \(ページ 405\)](#) を参照してください。

ファイルリスナの詳細の取得

GET 要求を使用してファイルリスナの詳細を表示します。特定のファイルリスナの詳細を表示することも、組織のすべてのファイルリスナの詳細を表示することもできます。

GET 要求

特定のファイルリスナの詳細を表示するには、次の URI にファイルリスナ ID を含めます。

Get <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<filelistener ID>

組織のすべてのファイルリスナの詳細を表示するには、ファイルリスナ ID を省略します。

GET 応答

ファイルリスナの詳細を要求すると、次のような情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	ファイルリスナに関連付けられている ID 番号。
name	String	ファイルリスナの名前。
description	String	ファイルリスナの説明。
status	String	ファイルリスナのステータス。 - enabled。指定されたフォルダでファイルをリスニングしています。 disabled。指定されたフォルダでファイルをリスニングしていません。
agentGroup	Numeric	ファイルリスナの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。
type	String	ファイルリスナがリスニングする接続のタイプ。
connection	String	ファイルリスナがリスニングする接続。
folderPath	String	ファイルリスナがリスニングする接続上にあるフォルダへのパス。
filePattern	String	ファイルリスナがリスニングするファイル名パターン。
アクション後	String	ファイルリスナがイベントをリスニングした後にファイルリスナが実行する必要があるアクションを決定します。 ファイルパターンがインジケータファイルである場合にのみ、アクション後に【削除】を選択することができます。デフォルトは【なし】です。 次の接続タイプは、[アクション後] のオプションをサポートします。 - ローカルフォルダ - Advanced FTP V2 - Advanced FTPS V2 - Advanced SFTP V2 - Azure Data Lake Store Gen2

フィールド	タイプ	説明
patternType	String	<p>ファイルパターン。</p> <ul style="list-style-type: none"> - wildcard。ファイル名のワイルドカードパターンを使用します。 - regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> - 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルをリスニングします。<code>^(?!.*(?:out baz foo)).*\$</code> à all except - 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルをリスニングします。<code>([a-zA-Z0-9\\s_\\.\\-\\(\\):])+\\.doc \\.docx \\.pdf)\$</code> - インジケータファイル。ファイルリスナがリスニングするファイル名を使用します。
mandatory	String	ルールの値が必須かどうかを定義します。
recursive	String	ルールの値が再帰的かどうかを定義します。
type	String	ファイルリスナを実行する頻度（毎日、毎週、または毎月）。
timezone	String	開始時刻と終了時刻のタイムゾーン。
startDate	Date/Time	ファイルリスナの実行を開始する日付。
endDate	Date/Time	ファイルリスナの実行を終了する日付。
runIndefinitely	String	ファイルリスナが無期限に実行されるかどうか。
startsAt	Date/Time	ファイルリスナが実行を開始する時刻。
endsAt	Date/Time	ファイルリスナが実行を終了する時刻。
frequency	Numeric	ファイルリスナがフォルダ内のファイルをチェックする頻度。
frequencyUnit	String	ファイルリスナがフォルダ内のファイルをチェックする頻度の単位（秒、分、時間）。
listenerEvents	String	<p>ファイルリスナが、登録済みのサービスに通知を送信するタイミングを決定します。各イベントを true に設定した場合の応答は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - arrive。ファイルリスナがリスニングするフォルダにファイルが到着したときに通知を送信します。 - update。ファイルリスナがリスニングするフォルダのファイルが更新されたときに通知を送信します。 - delete。ファイルリスナがリスニングするフォルダのファイルが削除されたときに通知を送信します。

フィールド	タイプ	説明
stopWhenRulesMet	String	リスナールールに合致するとファイルリスナがフォルダのリスニングを停止するかどうか。次のいずれかの値を設定します。 - false。ファイルリスナは、登録済みのアプリケーションにイベントを通知して、後続イベントのリスニングを継続します。 - true。ファイルリスナは、フォルダで最初のファイル削除イベントが発生した時点でそのフォルダのリスニングを停止します。
checkFileStability	String	次のいずれかの値を入力します。 - false。ファイルリスナは、登録済みのサービスに通知する前に、ファイル全体がフォルダにコピーされたかどうかを確認しません。 - true。ファイルリスナは、登録済みのサービスに通知する前に、ファイル全体がフォルダにコピーされたかどうかを確認します。 デフォルトは true です。
stabilityCheckInterval	Time	ファイルリスナがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。 checkFileStability オプションが true に設定されている場合にのみ、stabilityCheckInterval フィールドに値を指定できます。
notifyExistingFiles	String	ファイルリスナが初めて実行されたときにすでにリスニング対象フォルダにファイルがあった場合に通知を送信します。
excludeFileEventsWhenNotRunning	String	ファイルリスナが実行されていないときに発生するファイルイベントを除外するかどうかを決定します。
continueOnError	String	一時的なネットワークの中断などのエラーが発生した場合に、ファイルリスナを再試行して実行し続けるかどうかを決定します。
location	String	ファイルリスナコンポーネントを含むプロジェクトフォルダの場所。
createTime	Date/Time	コンポーネントが作成された時刻。
lastupdateTime	Date/Time	コンポーネントが最後に更新された時刻。

特定のファイルリスナの GET 応答の例

ID が eX5qlosUfEHbwvNwGpRwQd のファイルリスナの詳細を表示するには、次の要求を使用します。

```
Get <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<filelistener ID>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: eX5qlosUfEHbwvNwGpRwQd
```

要求が成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
{
  "id": "eX5qlosUfEHbwvNwGpRwQd",
  "name": "FL512087",
```

```

    "description": "Demo",
    "status": "ENABLE",
    "agentGroup": "01000025000000000002",
    "connection": {
      "type": "local",
      "name": "",
      "connId": ""
    },
    "rules": [
      {
        "id": 10052,
        "folderPath": "C:\\temp1",
        "filePattern": "*.txt",
        "postAction": "NONE",
        "patternType": "wildcard",
        "mandatory": false,
        "recursive": false
      }
    ],
    "scheduleDefinition": {
      "type": "DAILY_WITH_INTERVAL",
      "timezone": "IST",
      "startDate": "20181227",
      "endDate": "20181227",
      "runIndefinitely": false,
      "startsAt": "1015",
      "endsAt": "2355",
      "frequency": 15,
      "frequencyUnit": "SECONDS"
    },
    "stopWhenRulesMet": false,
    "listenerEvents": {
      "arrive": true,
      "update": true,
      "delete": true
    },
    "checkFileStability": true,
    "stabilityCheckInterval": 10,
    "notifyExistingFiles": false,
    "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
    "continueOnError": true,
    "location": {
      "folderId": "avVCKODMMORdSmcNWDnrKi",
      "folderName": "New",
      "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
      "projectName": "Default"
    },
    "createTime": "2019-02-12T07:03:49Z",
    "lastUpdatedTime": "2019-02-12T07:03:49Z"
  }
}

```

すべてのファイルリスナを表示する応答の例

ファイルリスナの詳細を表示する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```

{
  "listeners": [
    {
      "id": "8h9hng2kRokf2Db6Xb4pA8",
      "name": "dfgdfg",
      "description": "",
      "status": "ENABLE",
      "stopWhenRulesMet": false,
      "checkFileStability": false,
      "notifyExistingFiles": false,
      "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
      "continueOnError": true,
      "location": {
        "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
        "projectName": "Default"
      }
    },
  ],
}

```

```

        "createTime": "2019-01-28T05:31:00Z",
        "lastUpdatedTime": "2019-01-28T05:31:00Z"
      },
      {
        "id": "bQdKQmGLFUUGS85AevLkqi",
        "name": "FL123",
        "description": "xsdfsdfsdf",
        "status": "ENABLE",
        "stopWhenRulesMet": false,
        "checkFileStability": true,
        "stabilityCheckInterval": 10,
        "notifyExistingFiles": false,
        "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
        "continueOnError": true,
        "location": {
          "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
          "projectName": "Default"
        },
        "createTime": "2019-01-24T05:20:26Z",
        "lastUpdatedTime": "2019-01-25T06:52:40Z"
      },
      {
        "id": "eX5qlsUfEHbwvNwGpRwQd",
        "name": "FL512087",
        "description": "Demo",
        "status": "ENABLE",
        "stopWhenRulesMet": false,
        "checkFileStability": true,
        "stabilityCheckInterval": 10,
        "notifyExistingFiles": false,
        "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
        "continueOnError": true,
        "location": {
          "folderId": "avVCKODMMORdSmcNWDnrKi",
          "folderName": "New",
          "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
          "projectName": "Default"
        },
        "createTime": "2019-02-12T07:03:49Z",
        "lastUpdatedTime": "2019-02-12T07:03:49Z"
      }
    ]
  }
}

```

すべてのファイルリスナを表示する要求が失敗した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```

File Listener not found (403 Forbidden)
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "File Listener with id 'eX5qlsUfEHbwvNwGpRwQd1' not found."
}

```

ファイルリスナの作成

POST 要求を使用して、ファイルリスナとイベントリスナを作成します。

POST 要求

次の URI を使用して、ファイルリスナとイベントリスナを作成します。

POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filelisteners

POST 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	ファイルリスナの名前。
description	String	-	ファイルリスナの説明。
status	String	○	ファイルリスナのステータス。 - enabled。指定されたフォルダでファイルをリスニングしています。 - disabled。指定されたフォルダでファイルをリスニングしていません。
agentGroup	Numeric	○	ファイルリスナの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。
connectionType	String	○	ファイルリスナがリスニングする接続のタイプ。
connection	String	○	ファイルリスナがリスニングする接続。
folderPath	String	○	ファイルリスナがリスニングする接続上にあるフォルダへのパス。
filePattern	String	○	ファイルリスナがリスニングするファイル名パターン。
アクション後	String	-	ファイルリスナがイベントをリスニングした後にファイルリスナが実行する必要があるアクションを決定します。 ファイルパターンがインジケータファイルである場合にのみ、アクション後に【削除】を選択することができます。デフォルトは「なし」です。 次の接続タイプは、[アクション後] のオプションをサポートします。 - ローカルフォルダ - Advanced FTP V2 - Advanced FTPS V2 - Advanced SFTP V2 - Azure Data Lake Store Gen2
patternType	String	○	ファイルパターン。 - wildcard。ファイル名のワイルドカードパターンを使用します。 - regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。 - 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルをリスニングします。 <code>^(?!.*(?:out baz foo)).*\$</code> à all except - 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルをリスニングします。 <code>([a-zA-Z0-9_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</code> à - インジケータファイル。ファイルリスナがリスニングするファイル名を使用します。
mandatory	String	-	ルールの値が必須かどうかを定義します。

フィールド	タイプ	必須	説明
recursive	String	-	ルールの値が再帰的かどうかを定義します。
scheduleDefinition	String	○	ファイルリスナを実行する頻度を定義します。
type	String	○	ファイルリスナを実行する頻度（毎日、毎週、または毎月）。
timezone	String	○	開始時刻と終了時刻のタイムゾーン。
startDate	Date/ Time	○	ファイルリスナの実行を開始する日付。
endDate	Date/ Time	○	ファイルリスナの実行を終了する日付。
runIndefinitely	String	-	ファイルリスナは無期限に実行されます。
startsAt	Date/ Time	○	ファイルリスナが実行を開始する時刻。
endsAt	Date/ Time	○	ファイルリスナが実行を終了する時刻。
frequency	Numeric	○	ファイルリスナがフォルダ内のファイルをチェックする頻度。
frequencyUnit	String	○	ファイルリスナがフォルダ内のファイルをチェックする頻度の単位（秒、分、時間）。
listenerEvents	String	○	<p>ファイルリスナが、登録済みのサービスに通知を送信するタイミングを決定します。各イベントを true に設定した場合の応答は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - arrive。ファイルリスナがリスニングするフォルダにファイルが到着したときに通知を送信します。 - update。ファイルリスナがリスニングするフォルダのファイルが更新されたときに通知を送信します。 - delete。ファイルリスナがリスニングするフォルダのファイルが削除されたときに通知を送信します。
stopWhenRulesMet	String	-	<p>ファイルリスナは、リスナルールに合致するとフォルダのリスニングを停止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - false。ファイルリスナは、登録済みのアプリケーションにイベントを通知して、後続イベントのリスニングを継続します。 - true。ファイルリスナは、フォルダで最初のファイル削除イベントが発生した時点でそのフォルダのリスニングを停止します。
checkFileStability	String	-	ファイルリスナは、登録済みのサービスに通知する前に、ファイル全体がフォルダにコピーされたかどうかを確認します。

フィールド	タイプ	必須	説明
stabilityCheckInterval	Time	-	ファイルリスナがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。 checkFileStability オプションが true に設定されている場合にのみ、stabilityCheckInterval フィールドに値を指定できます。
notifyExistingFiles	String	-	ファイルリスナが初めて実行されたときにすでにリスニング対象フォルダにファイルがあった場合に通知を送信します。
excludeFileEventsWhenNotRunning	String	-	ファイルリスナが実行されていないときに発生するファイルイベントを除外するかどうかを決定します。
continueOnError	String	-	一時的なネットワークの中断などのエラーが発生した場合に、ファイルリスナを再試行して実行し続けるかどうかを決定します。
emailIds	String	-	ファイルリスナにエラーが発生した場合に通知を送信するための電子メールアドレスのリスト。 リスト内の電子メールアドレスを区切るには、カンマを使用します。
location	String	-	ファイルリスナコンポーネントを含むプロジェクトフォルダの場所。

POST 要求の例

ファイルリスナを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filelisteners
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "name": "{{NEWFILELISTENER-NAME}}",
  "description": "Demo",
  "status": "ENABLE",
  "location": {
    "folderId": "avVCKODMMORdSmcNWDnrKi",
    "folderName": "New",
    "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
    "projectName": "Default"
  },
  "agentGroup": "01000025000000000002",
  "connection": {
    "type": "local",
    "name": "",
    "connId": "",
    "local": true
  },
  "listenerEvents": {
    "arrive": true,
    "update": true,
    "delete": true,
    "checkFileStability": true,
    "stabilityCheckInterval": 10,
    "notifyExistingFiles": false,
    "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
  }
}
```

```

"continueOnError": true,
"emailIDs": "test@gmail.com, info@hotmail.com",
"rules": [
  {
    "id": 10070,
    "folderPath": "C:\\temp1",
    "patternType": "wildcard",
    "filePattern": "*.txt",
    "postAction": "NONE",
    "mandatory": false,
    "recursive": false
  }
],
"scheduleDefinition": {
  "type": "DAILY_WITH_INTERVAL",
  "timezone": "IST",
  "startDate": "20181227",
  "endDate": "20181227",
  "runIndefinitely": false,
  "startsAt": "1015",
  "endsAt": "2355",
  "frequency": 15,
  "frequencyUnit": "SECONDS",
  "dayOfMonth": 0
},
"stopWhenRulesMet": false
}

```

POST 応答の例

POST 要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```

{
  "id": "eX5qlosUfEHbvwNwGpRwQd",
  "name": "FL512087",
  "description": "Demo",
  "status": "ENABLE",
  "agentGroup": "01000025000000000002",
  "connection": {
    "type": "local",
    "name": "",
    "connId": ""
  },
  "rules": [
    {
      "id": 10070,
      "folderPath": "C:\\temp1",
      "filePattern": "*.txt",
      "patternType": "wildcard",
      "postAction": "NONE",
      "mandatory": false,
      "recursive": false
    }
  ],
  "scheduleDefinition": {
    "type": "DAILY_WITH_INTERVAL",
    "timezone": "IST",
    "startDate": "20181227",
    "endDate": "20181227",
    "runIndefinitely": false,
    "startsAt": "1015",
    "endsAt": "2355",
    "frequency": 15,
    "frequencyUnit": "SECONDS",
    "dayOfMonth": 0
  },
  "stopWhenRulesMet": false,
  "listenerEvents": {
    "arrive": true,
    "update": true,

```

```

        "delete": true
    },
    "checkFileStability": true,
    "stabilityCheckInterval": 10,
    "notifyExistingFiles": false,
    "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
    "continueOnError": true,
    "emailIDs": "test@gmail.com, infa@hotmail.com",
    "location": {
        "folderId": "avVCKODMMORdSmcNWDnrKi",
        "folderName": "New",
        "projectId": "3iWWhkLbM2giVppBmJmZgV",
        "projectName": "Default"
    }
}
}

```

POST 要求の例

イベントリスナを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```

POST <serverUrl>/public/core/v1/filelisteners
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
    "name": "{{NEWEVENTLISTENER-NAME}}",
    "description": "",
    "agentGroup": "01000025000000000003",
    "sourceType": "Server",
    "location": {
        "projectId": "1UNDIQkHQYKcNLPdxeR56p",
        "projectName": "overRide"
    },
    "eventProvider": "AS2",
    "eventType": "as2_message_receive_failed",
    "rules": [
        {
            "key": "event.userName",
            "value": "Suraj",
            "operator": "NONE",
            "type": "CONTAINS"
        },
        {
            "key": "event.fileName",
            "value": "Test",
            "operator": "AND",
            "type": "STRING_EQUALS"
        },
        {
            "key": "event.fileSize",
            "value": "89",
            "operator": "OR",
            "type": "INTEGER_EQUALS"
        }
    ]
}

```

POST 応答の例

POST 要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```

{
    "id": "f11rC9Kwa0U0eg2TIjBks",
    "name": "EventFL684930",
    "description": "",
    "agentGroup": "01000025000000000003",
    "sourceType": "Server",
    "location": {
        "projectId": "1UNDIQkHQYKcNLPdxeR56p",
        "projectName": "overRide"
    }
},

```

```

"createTime": "2020-04-06T05:25:55Z",
"lastUpdateTime": "2020-04-06T05:25:55Z",
"eventProvider": "AS2",
"eventType": "as2_message_receive_failed",
"rules": [
  {
    "key": "event.userName",
    "value": "Suraj",
    "operator": "NONE",
    "type": "CONTAINS"
  },
  {
    "key": "event.fileName",
    "value": "Test",
    "operator": "AND",
    "type": "STRING_EQUALS"
  },
  {
    "key": "event.fileSize",
    "value": "89",
    "operator": "OR",
    "type": "INTEGER_EQUALS"
  }
]
}

```

ファイルリスナの更新

PUT 要求を使用してファイルリスナを更新します。

PUT 要求

次の URI を使用して既存のファイルリスナを更新します。

PUT <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<filelistener ID>

PUT 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	○	ファイルリスナに関連付けられている ID 番号。
name	String	○	ファイルリスナの名前。
description	String	-	ファイルリスナの説明。
status	String	○	ファイルリスナのステータス。 - enabled。指定されたフォルダでファイルをリスニングしています。 - disabled。指定されたフォルダでファイルをリスニングしていません。
agentGroup	Numeric	○	ファイルリスナの実行に使用される Secure Agent を含むランタイム環境。
connectionType	String	○	ファイルリスナがリスニングする接続のタイプ。
connection	String	○	ファイルリスナがリスニングする接続。
folderPath	String	○	ファイルリスナがリスニングする接続上にあるフォルダへのパス。

フィールド	タイプ	必須	説明
filePattern	String	○	ファイルリスナがリスニングするファイル名パターン。
アクション後	String	-	<p>ファイルリスナがイベントをリスニングした後にファイルリスナが実行する必要があるアクションを決定します。</p> <p>ファイルパターンがインジケータファイルである場合にのみ、アクション後に【削除】を選択することができます。デフォルトは「なし」です。</p> <p>次の接続タイプは、[アクション後] のオプションをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ローカルフォルダ - Advanced FTP V2 - Advanced FTPS V2 - Advanced SFTP V2 - Azure Data Lake Store Gen2
patternType	String	○	<p>ファイルパターン。</p> <ul style="list-style-type: none"> - wildcard。ファイル名のワイルドカードパターンを使用します。 - regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> - 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルをリスニングします。<code>^(?!.*(?:out baz foo)).*\$</code> à all except - 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルをリスニングします。<code>([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\):])+(.doc .docx .pdf)\$</code> à
mandatory	String	-	ルールの値が必須かどうかを定義します。
recursive	String	-	ルールの値が再帰的かどうかを定義します。
scheduleDefinition	String	○	ファイルリスナを実行する頻度を定義します。
type	String	○	ファイルリスナを実行する頻度（毎日、毎週、または毎月）。
timezone	String	○	開始時刻と終了時刻のタイムゾーン。
startDate	Date/Time	○	ファイルリスナの実行を開始する日付。
endDate	Date/Time	○	ファイルリスナの実行を終了する日付。
runIndefinitely	String	-	ファイルリスナは無期限に実行されます。
startsAt	Date/Time	○	ファイルリスナが実行を開始する時刻。

フィールド	タイプ	必須	説明
endsAt	Date/ Time	○	ファイルリスナが実行を終了する時刻。
frequency	Numeric	○	ファイルリスナがフォルダ内のファイルをチェックする頻度。
frequencyUnit	String	○	ファイルリスナがフォルダ内のファイルをチェックする頻度の単位（秒、分、時間）。
listenerEvents	String	○	<p>ファイルリスナが、登録済みのサービスに通知を送信するタイミングを決定します。各イベントを <code>true</code> に設定した場合の応答は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>arrive</code>。ファイルリスナがリスニングするフォルダにファイルが到着したときに通知を送信します。 - <code>update</code>。ファイルリスナがリスニングするフォルダのファイルが更新されたときに通知を送信します。 - <code>delete</code>。ファイルリスナがリスニングするフォルダのファイルが削除されたときに通知を送信します。
stopWhenRulesMet	String	-	<p>ファイルリスナは、リスナールールに合致するとフォルダのリスニングを停止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>false</code>。ファイルリスナは、登録済みのアプリケーションにイベントを通知して、後続イベントのリスニングを継続します。 - <code>true</code>。ファイルリスナは、フォルダで最初のファイル削除イベントが発生した時点でそのフォルダのリスニングを停止します。
checkFileStability	String	-	ファイルリスナは、登録済みのサービスに通知する前に、ファイル全体がフォルダにコピーされたかどうかを確認します。
stabilityCheckInterval	Time	-	<p>ファイルリスナがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p><code>checkFileStability</code> オプションが <code>true</code> に設定されている場合にのみ、<code>stabilityCheckInterval</code> フィールドに値を指定できます。</p>
notifyExistingFiles	String	-	ファイルリスナが初めて実行されたときにすでにリスニング対象フォルダにファイルがあった場合に通知を送信します。
excludeFileEventsWhenNotRunning	String	-	ファイルリスナが実行されていないときに発生するファイルイベントを除外するかどうかを決定します。
continueOnError	String	-	一時的なネットワークの中断などのエラーが発生した場合に、ファイルリスナを再試行して実行し続けるかどうかを決定します。

フィールド	タイプ	必須	説明
emailIds	String	-	ファイルリスナにエラーが発生した場合に通知を送信するための電子メールアドレスのリスト。 リスト内の電子メールアドレスを区切るには、カンマを使用します。
location	String	-	プロジェクトフォルダの場所。

PUT 要求の例

ファイルリスナを更新する際にはこの例を参考にしてください。

```
PUT <serverUrl>/public/core/v1/filelisteners
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "description": "Demo",
  "status": "ENABLE",
  "location": {
    "folderId": "avVCKODMMORdSmcNWDnrKi",
    "folderName": "New",
    "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
    "projectName": "Default"
  },
  "agentGroup": "01000025000000000002",
  "connection": {
    "type": "local",
    "name": "",
    "connId": "",
    "local": true
  },
  "listenerEvents": {
    "arrive": true,
    "update": true,
    "delete": true,
    "checkFileStability": true,
    "stabilityCheckInterval": 10,
    "notifyExistingFiles": false,
    "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
    "continueOnError": true,
    "emailIDs": "test@gmail.com,info@hotmail.com"
  },
  "rules": [
    {
      "id": 10070,
      "folderPath": "C:\\temp1",
      "patternType": "wildcard",
      "filePattern": "*.txt",
      "postAction": "NONE",
      "mandatory": false,
      "recursive": false
    }
  ],
  "scheduleDefinition": {
    "type": "DAILY_WITH_INTERVAL",
    "timezone": "IST",
    "startDate": "20181227",
    "endDate": "20181227",
    "runIndefinitely": false,
    "startsAt": "1015",
    "endsAt": "2355",
    "frequency": 15,
    "frequencyUnit": "SECONDS",
  }
}
```



```

        "dayOfMonth": 0
    },
    "stopWhenRulesMet": false
}

```

PUT 応答

ファイルリスナを更新する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```

{
  "id": "eX5qlosUfEHbwvNwGpRwQd",
  "name": "FL512087",
  "description": "Demo",
  "status": "ENABLE",
  "agentGroup": "01000025000000000002",
  "connection": {
    "type": "local",
    "name": "",
    "connId": ""
  },
  "rules": [
    {
      "id": 10070,
      "folderPath": "C:\\temp1",
      "filePattern": "*.txt",
      "patternType": "wildcard",
      "postAction": "NONE",
      "mandatory": false,
      "recursive": false
    }
  ],
  "scheduleDefinition": {
    "type": "DAILY_WITH_INTERVAL",
    "timezone": "IST",
    "startDate": "20181227",
    "endDate": "20181227",
    "runIndefinitely": false,
    "startsAt": "1015",
    "endsAt": "2355",
    "frequency": 15,
    "frequencyUnit": "SECONDS",
    "dayOfMonth": 0
  },
  "stopWhenRulesMet": false,
  "listenerEvents": {
    "arrive": true,
    "update": true,
    "delete": true
  },
  "checkFileStability": true,
  "stabilityCheckInterval": 10,
  "notifyExistingFiles": false,
  "excludeFileEventsWhenNotRunning": true,
  "continueOnError": true,
  "emailIDs": "test@gmail.com,info@hotmail.com",
  "location": {
    "folderId": "avVCKODMMORdSmcNWDnrKi",
    "folderName": "New",
    "projectId": "3iWWHkLbM2giVppBmJmZgV",
    "projectName": "Default"
  }
}

```

ファイルリスナを更新する要求が失敗した場合、次の例のようなエラーを受け取ります。

```

{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "File Listener with id 'eX5qlosUfEHbwvNwGpRwQd1' not found."
}

```

ファイルリスナの削除

DELETE 要求を使用してファイルリスナを削除します。

DELETE 要求

次の URI を使用してファイルリスナを削除します。

DELETE <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<file listener ID>

DELETE 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	説明
file listener ID	String	ファイルリスナに関連付けられている ID 番号。

DELETE 応答の例

DELETE 要求が失敗した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "Document Artifact with Id = bQdKQmGlFUUGS85AevLkqi3 not found."
}
```

ファイルリスナの開始

POST 要求を使用してファイルリスナジョブを開始します。

POST 要求

ファイルリスナを開始するには、次の URI を使用します。

POST <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<file listener ID>/start

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	説明
file listener ID	String	ファイルリスナに関連付けられている ID 番号。

POST 要求の例

ファイルリスナを開始するには、次の要求を使用します。

```
POST <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<file listener ID>/start
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

POST 応答の例

ファイルリスナを開始する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "status": "STARTED",
  "jobId": 1038
}
```

POST エラー応答の例

ファイルリスナを開始する要求が失敗した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "File listener not found for ListenerId: bQdKQmGLFUUGS85AevLkqisd"
}
```

応答: エージェントのダウン (403 Forbidden)

```
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "Agent \"01000008000000000002\" in Agent Group \"01000025000000000002\" is not accessible."
}
```

ファイルリスナの停止

POST 要求を使用してファイルリスナジョブを停止します。

POST 要求

ファイルリスナを停止するには、次の URI を使用します。

POST <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<file listener ID>/stop

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	説明
fileListenerID	String	ファイルリスナに関連付けられている ID 番号。

POST 要求の例

ファイルリスナーを停止するには、次の要求を使用します。

```
POST <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<file listener ID>/stop
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <sessionId>
```

POST 応答の例

ファイルリスナを停止する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "status": "STOPPED",
  "jobId": 1038
}
```

POST エラー応答の例

ファイルリスナを停止する要求が失敗した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "File listener not found for ListenerId: bQdKQmGLFUUGS85AevLkqisd"
}
```

応答: エージェントのダウン (403 Forbidden)

```
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "Agent \"01000008000000000002\" in Agent Group \"01000025000000000002\" is not accessible."
}
```

ファイルリスナのステータスの表示

GET 要求を使用して、ファイルリスナジョブのステータスを要求します。

GET 要求

ファイルリスナのステータスを表示するには、次の URI を使用します。

GET <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/job/<Job ID>/status

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	説明
Job ID	String	ファイルリスナジョブに関連付けられている ID 番号。

GET 要求の例

ファイルリスナジョブのステータスを表示するには、次の要求を使用します。

```
GET <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/job/<Job ID>/status
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答の例

ファイルリスナジョブのステータスを表示する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "status": "STOPPED",
  "jobId": 1038
}
```

ファイルリスナジョブのステータスを表示する要求が失敗した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "responseCode": "NOT_FOUND",
  "message": "File listener not found for TaskId: 1079"
}
```

ファイルリスナジョブの詳細の取得

GET 要求を使用して、ファイルリスナジョブの詳細を表示します。

GET 要求

ファイルリスナの詳細を表示するには、次の URI を使用します。

GET <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<Run ID>/activityLog

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	説明
実行 ID	String	ファイルリスナジョブに関連付けられている ID 番号。

GET 要求の例

ファイルリスナの詳細を表示するには、次の要求を使用します。

```
GET <server URL>/mftsaas/api/v1/filelisteners/<Run ID>/activityLog
Content-Type: application/json
```

Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

GET 応答の例

ファイルリスナジョブの詳細を表示する要求が成功した場合、次の例のような応答が返されます。

```
{
  "instanceName": "FL_1-1006",
  "jobId": 1006,
  "startTime": "2021-02-09T22:38:01Z",
  "updateTime": "2021-02-09T22:38:01Z",
  "endTime": "2021-02-09T22:38:01Z",
  "status": "Completed",
}
```

応答は、ファイルリスナのステータスによって異なります。

ファイルリスナ関連付けの所有者の変更

ファイルリスナは、タスクフローまたはファイル取り込みタスクに関連付けることができます。ファイルリスナは、ファイル取り込みタスクのソースまたはスケジュール（トリガー）として、およびタスクフローのトリガーとして使用できます。ファイルリスナの関連付けは、ファイルリスナとそれに関連付けられたファイル取り込みタスクまたはタスクフローの間の内部リンクです。ファイルリスナの関連付けの所有者は、ファイル取り込みタスクでソースまたはスケジュールとしてファイルリスナを選択した最後の人、またはファイルリスナをトリガーとしてタスクフローを公開した最後の人です。

ファイルリスナの関連付けを所有するユーザーが組織を離れるときに、ファイルリスナの関連付けの所有者を変更または転送することをお勧めします。例えば、ユーザー Alex がファイル取り込みタスクを作成し、ユーザー Beth がファイルリスナを作成し、ユーザー Clara がファイル取り込みタスクのソースまたはスケジュールとしてファイルリスナを選択した場合、Clara がファイルリスナの関連付けの所有者になります。Clara が組織を離れる場合、彼女のユーザーアカウントを削除する前に、彼女に割り当てられたファイルリスナの関連付けを他のユーザーに再割り当てする必要があります。

POST 要求

POST 要求を使用して、ファイルリスナの関連付けの所有者をあるユーザーから別のユーザーに変更します。

次の URI を使用して、ファイルリスナの関連付けの所有者を変更します。

POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/ChangeCallbackOwnership

POST 要求で次のフィールドを使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
currentOwner	String	○	現在の所有者のユーザー ID。
newOwner	String	○	新しい所有者のユーザー ID。

POST 要求の例

このサンプルを参考として使用して、ファイルリスナの関連付けの所有者を変更します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/ChangeCallbackOwnership
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "currentOwner": "{{UserIDwhoLeftTheOrganization}}",
  "newOwner": "{{NewUserID}}"
}
```

POST 応答の例

POST 要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

200 OK

ファイル転送

リモートサーバーへのファイルの送信や、リモートサーバーからのファイルの受信、REST API を介したジョブステータスの取得を行うことができます。

ファイル転送に使用するリソースは次のとおりです。

- `sendfiles`。ファイルをリモートサーバーに送信するために使用します。
- `receivefiles`。ファイルをリモートサーバーから受信するために使用します。
- `job`。`sendfiles` または `receivefiles` リソースを使用して開始した、サポートされるファイル転送ジョブのステータスを取得するために使用します。

これらのリソースを使用するときには、次のルールに注意してください。

- JSON 形式を使用します。
- 次のベース URL を使用する。
`<serverUrl>/mftsaas/api/v1/<API name>`
- 次の要求ヘッダー形式を使用する。
`<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>`
`Content-Type: application/json`
`Accept: application/json`
`IDS-SESSION-ID: <SessionId>`

注: 適切なコネクタライセンスでファイルを送信および受信する必要があります。

リモートサーバーへのファイルの転送

`sendfiles` リソースを使用してファイルをリモートサーバーに転送します。

以下の接続タイプは、`sendfiles` リソースを使用して、リモートサーバーにファイルを転送します。

- AS2
- Advanced FTP V2
- Advanced FTPS V2
- Advanced SFTP V2

`sendfiles` 要求を作成してファイルを転送する前に、サーバーへのアクセスを提供する接続の ID を取得します。この接続 ID を取得するには、`connection` リソースを使用して GET 要求を送信します。`connection` リソースから組織の各接続の情報が返されます。

POST 要求

ファイルを転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

`mftsaas/api/v1/sendfiles/<connection ID>`

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
targetConnectionType	String	○	接続タイプ。 サポートされている接続タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">- Advanced FTP V2- Advanced FTPS V2- Advanced SFTP V2- AS2
srcDirectoryPath	String	○	ファイルの転送元のディレクトリパスです。
tgtDirectoryPath	String	-	ファイル転送先のディレクトリパスです。 このオプションは、Advanced FTP V2、Advanced FTPS V2、および Advanced SFTP V2 接続タイプにのみ使用できます。 デフォルトは '/' です。
srcFilePattern	文字列	○	ソースファイルのファイル名パターン。送信するファイルを識別するファイル名パターンを指定します。その場合はこのような正規表現タイプを使用できます。
deleteSourceFiles	文字列	-	POST 要求が成功した後で、ソースファイルを削除するかどうか。以下の値を使用します。 <ul style="list-style-type: none">- true。ソースファイルを削除します。- false。ソースファイルを保存します。 デフォルトは true です。

例えば、workspace ディレクトリにある、名前が「file_」で始まるファイルを転送するには、次のような要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/sendfiles/<connection ID>
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "targetConnectionType": "as2",
  "srcDirectoryPath": "C:\\server\\userdata\\workspace",
  "srcFilePattern": "file_*"
}
```

例えば、「.txt」パターンを持つファイルを転送するには、以下の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/sendfiles/<connection ID>
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "targetConnectionType": "Advanced SFTP V2",
  "srcDirectoryPath": "C:\\docstoreLocal2",
  "tgtDirectoryPath": "C:\\server\\userdata\\workspace",
  "srcFilePattern": ".*txt"
}
```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
```

```

    "timeTaken": 0,
    "queuePriority": 0,
    "runPriority": 0,
    "runMode": "UNKNOWN",
    "submitSourceId": -1,
    "correlationId": "OWMxOTc2YjktNzI4YS00Mm",
    "runModeInteractive": false,
    "runModeBatch": false,
    "runModeDebug": false,
    "runModeUnknown": true,
    "formattedTimeTaken": "0.00",
    "id": 1000000000384,
    "runId": 385
  }
}

```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

リモートサーバーからのファイルの受信

receivefiles リソースを使用してファイルをリモートサーバーから取得します。

以下の接続タイプは、receivefiles リソースを使用して、リモートサーバーにファイルを転送します。

- Advanced FTP V2
- Advanced FTPS V2
- Advanced SFTP V2

receivefiles 要求を作成してファイルを受信する前に、サーバーへのアクセスを提供する接続の ID を取得します。この接続 ID を取得するには、connection リソースを使用して GET 要求を送信します。connection リソースから組織の各接続の情報が返されます。

POST 要求

ファイルを受信するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/receivefiles/<connection ID>

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
sourceConnectionType	String	○	接続タイプ。 サポートされているソース接続タイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - Advanced FTP V2 - Advanced FTPS V2 - Advanced SFTP V2
tgtDirectoryPath	String	○	ファイル転送先のディレクトリパスです。
srcDirectoryPath	String	-	ファイルの転送元のディレクトリパスです。 デフォルトは'/'です。
srcFilePattern	文字列	○	ソースファイルのファイル名パターン。送信するファイルを識別するファイル名パターンを指定します。その場合はこのような正規表現タイプを使用できます。
processFilesRecursively	String	-	ベースディレクトリ内のすべてのサブフォルダからファイル进行处理するかどうか。デフォルトは false です。

フィールド	タイプ	必須	説明
afterFilePickupAction	String	-	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - ソースディレクトリからファイルを削除します。 - ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイルの名前を変更する場合は、ファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。 - 別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。 <p>デフォルトは、KEEP です。</p>
skipDuplicateFiles	String	-	<p>重複したファイルは転送しないでください。同じ名前と作成日を持つファイルが転送済みである場合、タスクはファイルを再度転送せずにジョブログでファイルを重複とマークします。このオプションが選択されていない場合、タスクはすべてのファイルを転送します。</p> <p>デフォルトは false です。</p>
whenFileExists	String	-	<p>ターゲットディレクトリに同じ名前のフラットファイルがある場合に、ファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - rename - overwrite - skip - stop - error <p>デフォルトは [名前の変更] です。</p>

例えば、「.txt」パターンのファイルを転送して、ターゲットディレクトリに同じ名前のフラットファイルが存在する場合にそのファイルの名前を変更するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/sendfiles/<connection ID>
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "sourceConnectionType": "Advanced SFTP V2",
  "tgtDirectoryPath": "C:\\docstoreLocal2",
  "srcDirectoryPath": "C:\\server\\userdata\\workspace",
  "srcFilePattern": "*.txt",
  "processFilesRecursively": false,
  "afterFilePickupAction": "KEEP",
  "skipDuplicateFiles": false,
  "whenFileExists": "rename",
}
```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "correlationId": "OWMxOTc2YjktNzI4YS00Mm",
}
```

```

    "runModeInteractive": false,
    "runModeBatch": false,
    "runModeDebug": false,
    "runModeUnknown": true,
    "formattedTimeTaken": "0.00",
    "id": 1000000000384,
    "runId": 385
  }

```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ジョブステータスの取得

REST API を使用してファイルを送信または受信する際は、REST API バージョン 1 の job リソースを使用して、ファイル転送のステータスを取得します。

ファイル転送ジョブのステータスを取得する場合は、プラットフォームの REST API バージョン 2 の job リソースは使用しないでください。

GET 要求

ファイル転送ジョブのステータス要求を送信する際には、sendfiles POST 応答で返された実行 ID を含めます。次の URI を使用します。

```
mftsaas/api/v1/job/<runID>/status
```

GET 応答

成功すると、データ統合からジョブステータスが返されます。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

GET 要求の例

ファイル転送ジョブの状況を表示するには、次の要求を使用します。

```

GET <serverUrl>/mftsaas/api/v1/job/<runID>/status
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>

```

GET 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```

{
  "jobStatus": "SUCCESS"
}

```

ファイル転送タスク

filetransferTask リソースを使用して、受信ファイルを復号または解凍し、送信ファイルを暗号化または圧縮します。

次の方法でファイルを転送できます。

- ホストされているサーバー上でローカルにファイルを転送する。
- リモートサーバーとの間でファイルを転送する。

ホストされたファイルの転送タスク

サーバー上のホストされているファイルを管理し、ファイルをローカルに転送できます。

次のアクションを実行できます。

- ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリ内のフォルダにファイルを圧縮して転送する。
- アップロードされたファイルを解凍し、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリからターゲットの場所に転送する。
- ファイルを暗号化して、ソースの場所からファイルサーバーユーザーのホームディレクトリに転送する。
- ファイルを復号して、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリからターゲットの場所に転送する。

ファイルの圧縮と転送

受信ファイルを圧縮して、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリで指定されたフォルダに転送します。

POST 要求

ファイルを圧縮して転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1003

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
portalUser	String	-	ユーザーがポータルユーザーであるかどうかを示します。デフォルトは [false] です。
fileServerUsername	String	○	ファイルサーバーのユーザー名。
relativeTargetLocation	文字列	-	ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリ内の相対的なターゲットの場所。
pattern	String	○	圧縮のために収集するファイルを識別するためのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
sourceLocation	String	○	圧縮するファイルを含むソースディレクトリ。
COMPRESSION_TYPE	String	○	圧縮するファイルの形式。 次のいずれかの圧縮方式を選択します。 <ul style="list-style-type: none">- 郵便番号- Tar- Gzip 値の大文字と小文字は区別されません。

例えば、ファイルを圧縮して転送するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1003
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "agentGroupId": "0100012500000000000002",
  "fileServerUsername": "arun",
  "portalUser": true,
  "relativeTargetLocation": "",
  "pattern": "arun.csv",
```

```

    "sourceLocation": "C:\\Informatica_Source",
    "taskVariables": {
      "COMPRESSION_TYPE": "zip"
    }
  }
}

```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```

{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "runModeInteractive": false,
  "runModeBatch": false,
  "runModeDebug": false,
  "runModeUnknown": true,
  "formattedTimeTaken": "0.00",
  "id": 1000000007154,
  "runId": 13
}

```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ファイルの解凍と転送

アップロードしたファイルを解凍して、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリから目的の場所に転送します。

POST 要求

ファイルを解凍して転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1004

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
fileServerUsername	String	○	ファイルサーバーのユーザー名。
pattern	String	○	ファイルを解凍した後に、指定したターゲットの場所にリリースするファイルのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
targetLocation	String	○	解凍後にファイルが移動されるターゲットディレクトリ。
DECOMPRESSION_TYPE	String	○	解凍するファイルの形式。 次のいずれかの解凍方式を選択します。 - 郵便番号 - Tar - Gzip 値の大文字と小文字は区別されません。

フィールド	タイプ	必須	説明
PATTERN_CASE_SENSITIVE	文字列	-	ファイルパターンで大文字と小文字が区別されるかどうかを示します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは false です。
PATTERN_TO_COLLECT	String	○	ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリから解凍するために収集するファイルのパターン。正規表現を使用してファイル名のパターンを照合します。

例えば、ファイルを解凍して転送するには、次の要求を使用します

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1004
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "agentGroupId": "01000125000000000002",
  "fileServerUsername": "arun",
  "pattern": ".*csv",
  "targetLocation": "C:\\\\Informatica_Target",
  "taskVariables": {
    "PATTERN_CASE_SENSITIVE": "false",
    "DECOMPRESSION_TYPE": "unzip",
    "PATTERN_TO_COLLECT": ".*zip"
  }
}
```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "runModeInteractive": false,
  "runModeBatch": false,
  "runModeDebug": false,
  "runModeUnknown": true,
  "formattedTimeTaken": "0.00",
  "id": 1000000007161,
  "runId": 20
}
```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ファイルの暗号化と転送

ファイルを暗号化して、ソースの場所からファイルサーバーユーザーのホームディレクトリ、またはファイルサーバーユーザーのホームディレクトリ内の REST API パラメータで指定されたディレクトリに転送します。単一または複数のファイルを暗号化できます。

POST 要求

ファイルを暗号化するには、次の URI に接続 ID を含めます。

```
mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1001
```

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
portalUser	String	-	ユーザーがポータルユーザーであるかどうかを示します。デフォルトは [false] です。
fileServerUsername	String	○	ファイルサーバーのユーザー名。
relativeTargetLocation	文字列	-	ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリ内の相対的なターゲットの場所。
pattern	String	○	暗号化のために収集するファイルを識別するためのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
sourceLocation	String	○	暗号化するファイルを含むソースディレクトリ。
SIGN	文字列	-	ファイルが PGP によって署名されているかどうかを示します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは false です。
PUBLIC_KEY_ID	String	○	ファイルの暗号化に使用されるキーの ID。
SECRET_KEY_ID	String	○	SIGN 変数の値が true の場合に、ファイルの署名に使用される秘密鍵の ID。
SECRET_KEY_PASSPHRASE	String	○	SIGN 変数の値が true の場合に、秘密鍵にアクセスするために使用されるパスフレーズ。

例えば、ファイルを暗号化して転送するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1001
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "agentGroupId": "0100012500000000000002",
  "fileServerUsername": "arun",
  "portalUser": true,
  "pattern": "arun.csv",
  "relativeTargetLocation": "",
  "sourceLocation": "C:\\\\Informatica_Source",
  "taskVariables": {
    "SIGN": "false",
    "PUBLIC_KEY_ID": "0x51986F687ADACBE1",
    "SECRET_KEY_ID": "0x51986F687ADACBE1",
    "SECRET_KEY_PASSPHRASE": "TESTER"
  }
}
```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
```

```

"runMode": "UNKNOWN",
"submitSourceId": -1,
"runModeInteractive": false,
"runModeBatch": false,
"runModeDebug": false,
"runModeUnknown": true,
"formattedTimeTaken": "0.00",
"id": 1000000007155,
"runId": 14
}

```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ファイルの復号と転送

ファイルを復号して、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリからターゲットの場所に転送します。

POST 要求

ファイルを復号して転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1002

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
fileServerUsername	String	○	ファイルサーバーのユーザー名。
pattern	String	○	ファイルを復号した後に、指定したターゲットの場所にリリースするファイルのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
targetLocation	String	○	復号後にファイルが移動されるターゲットディレクトリ。
PATTERN_CASE_SENSITIVE	String	○	ファイルパターンで大文字と小文字が区別されるかどうかを示します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは false です。
PGP_PASSPHRASE	String	○	PGP パスフレーズ。
PATTERN_TO_COLLECT	String	○	PGP が収集および復号する必要があるファイルのファイル名パターン。正規表現を使用してファイル名のパターンを照合します。

例えば、ファイルを復号して転送するには、次の要求を使用します。

POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1002

Accept:application/json

IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>

```

{
  "agentGroupId": "01000125000000000002",
  "fileServerUsername": "arun",
  "pattern": ". *csv",
  "targetLocation": "C:\\Informatika_Target",
  "taskVariables": {
    "PATTERN_CASE_SENSITIVE": "false",
    "PGP_PASSPHRASE": "TESTER",
    "PATTERN_TO_COLLECT": ". *pgp"
  }
}

```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "runModeInteractive": false,
  "runModeBatch": false,
  "runModeDebug": false,
  "runModeUnknown": true,
  "formattedTimeTaken": "0.00",
  "id": 1000000007160,
  "runId": 19
}
```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

リモートファイルの転送タスク

Advanced FTP V2、Advanced FTPS V2、および Advanced SFTP V2 コネクタを使用してリモートサーバー上のファイルを管理し、リモートサーバーとの間でファイルを転送できます。

次のアクションを実行できます。

- ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリ内のフォルダにファイルを圧縮して転送する。
- アップロードされたファイルを解凍し、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリからターゲットの場所に転送する。
- ファイルを暗号化して、ソースの場所からファイルサーバーユーザーのホームディレクトリに転送する。
- ファイルを復号して、ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリからターゲットの場所に転送する。

ファイルの圧縮と転送

受信ファイルを圧縮して、リモートサーバーのホームディレクトリで指定されたフォルダに転送します。

POST 要求

ファイルを圧縮して転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1003

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
portalUser	String	-	ユーザーがポータルユーザーであるかどうかを示します。デフォルトは [false] です。
connectionId	String	○	Advanced FTP、Advanced FTPS、または Advanced SFTP V2 コネクタの接続 ID。

フィールド	タイプ	必須	説明
relativeTargetLocation	文字列	-	リモートサーバーのホームディレクトリ内の相対的なターゲットの場所。
pattern	String	○	圧縮のために収集するファイルを識別するためのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
sourceLocation	String	○	圧縮するファイルを含むソースディレクトリ。
COMPRESSION_TYPE	String	○	圧縮するファイルの形式。 次のいずれかの圧縮方式を選択します。 - 郵便番号 - Tar - Gzip 値の大文字と小文字は区別されません。

例えば、ファイルを圧縮して転送するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1003
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "agentGroupId": "01000125000000000002",
  "portalUser": "false",
  "connectionId": "01000108000000000002",
  "pattern": "arun_zip.txt",
  "relativeTargetLocation": "/",
  "sourceLocation": "C:\\FIS_Home\\DOCSTORE",
  "taskVariables": {
    "COMPRESSION_TYPE": "gzip"
  }
}
```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "runModeInteractive": false,
  "runModeBatch": false,
  "runModeDebug": false,
  "runModeUnknown": true,
  "formattedTimeTaken": "0.00",
  "id": 1000000007170,
  "runId": 29
}
```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ファイルの解凍と転送

アップロードしたファイルを解凍して、リモートサーバーのホームディレクトリから目的の場所に転送します。

POST 要求

ファイルを解凍して転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1004

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
portalUser	String	-	ユーザーがポータルユーザーであるかどうかを示します。デフォルトは [false] です。
relativeSourceLocation	文字列	-	リモートサーバーのホームディレクトリ内の相対的なソースの場所。
pattern	String	○	ファイルを解凍した後に、指定したターゲットの場所にリリースするファイルのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
targetLocation	String	○	解凍後にファイルが移動されるターゲットディレクトリ。
relativeTargetLocation	文字列	-	リモートサーバーのホームディレクトリ内の相対的なターゲットの場所。
connectionId	String	○	Advanced FTP、Advanced FTPS、または Advanced SFTP V2 コネクタの接続 ID。
afterFilePickupAction	文字列	-	ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。 以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。 <ul style="list-style-type: none">- KEEP。ソースディレクトリ内でファイルを保持します。- DELETE。ソースディレクトリからファイルを削除します。- RENAME。ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。- ARCHIVE。別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。 デフォルトは、KEEP です。
renameSuffix	String	○	afterFilePickupAction に [RENAME] が選択されている場合に、ソースディレクトリ内のファイルに追加するファイル名のサフィックス。 次のサフィックスタイプを使用できます。 <ul style="list-style-type: none">- \$date- \$time- \$runId- \$timestamp
archiveDirectoryPath	String	○	afterFilePickupAction に [ARCHIVE] が選択されている場合、ファイルをアーカイブするアーカイブディレクトリ。

フィールド	タイプ	必須	説明
skipDuplicateFiles	文字列	-	docstore の場所にすでに存在するソースファイルをスキップするかどうかを示します。デフォルトは false です。
processFilesRecursively	文字列	-	ベースディレクトリ内のすべてのサブフォルダからファイルを処理するかどうかを示します。デフォルトは false です。
DECOMPRESSION_TYPE	String	○	解凍するファイルの形式。 次のいずれかの解凍方式を選択します。 - 郵便番号 - Tar - Gzip 値の大文字と小文字は区別されません。
PATTERN_TO_COLLECT	String	○	ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリから解凍するために収集するファイルのパターン。正規表現を使用してファイル名のパターンを照合します。

例えば、ファイルを解凍して転送するには、次の要求を使用します。

POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1004

Accept:application/json

IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>

```
{
  "agentGroupId": "01000125000000000002",
  "portalUser": "false",
  "pattern": "arun_zip.txt",
  "relativeSourceLocation": "/",
  "targetLocation": "C:\\\\Informatica_Target",
  "relativeTargetLocation": "",
  "connectionId": "01000108000000000002",
  "afterFilePickupAction": "RENAME",
  "renameSuffix": "_RENAME",
  "archiveDirectoryPath": "",
  "skipDuplicateFiles": true,
  "processFilesRecursively": false,
  "taskVariables": {
    "DECOMPRESSION_TYPE": "gunzip",
    "PATTERN_TO_COLLECT": ".*gz"
  }
}
```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```
{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "runModeInteractive": false,
  "runModeBatch": false,
  "runModeDebug": false,
  "runModeUnknown": true,
  "formattedTimeTaken": "0.00",
  "id": 1000000007171,
}
```

```
    "runId": 30
  }
}
```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ファイルの暗号化と転送

ファイルを暗号化して、ソースの場所からコネクタを使用してリモートサーバーに転送するか、リモートサーバーのホームディレクトリ内の REST API パラメータで指定されたディレクトリに転送します。単一または複数のファイルを暗号化できます。

POST 要求

ファイルを暗号化するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1001

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
connectionId	String	○	Advanced FTP、Advanced FTPS、または Advanced SFTP V2 コネクタの接続 ID。
portalUser	String	-	ユーザーがポータルユーザーであるかどうかを示します。デフォルトは [false] です。
relativeTargetLocation	文字列	-	リモートサーバーのホームディレクトリ内の相対的なターゲットの場所。
pattern	String	○	暗号化のために収集するファイルを識別するためのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
sourceLocation	String	○	暗号化するファイルを含むソースディレクトリ。
SIGN	文字列	-	ファイルが PGP によって署名されているかどうかを示します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは false です。
PUBLIC_KEY_ID	String	○	ファイルの暗号化に使用されるキーの ID。
SECRET_KEY_ID	String	○	SIGN 変数の値が true の場合に、ファイルの署名に使用される秘密鍵の ID。
SECRET_KEY_PASSPHRASE	String	○	SIGN 変数の値が true の場合に、秘密鍵にアクセスするために使用されるパスフレーズ。

例えば、ファイルを暗号化して転送するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1001
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "agentGroupId": "0100012500000000000002",
  "portalUser": "false",
  "connectionId": "0100010B00000000000002",
  "pattern": "arun.txt",
  "relativeTargetLocation": "/",
  "sourceLocation": "C:\\FIS_Home\\DOCSTORE",
  "taskVariables": {
```

```

        "SIGN": "true",
        "PUBLIC_KEY_ID": "0x51986F687ADACBE1",
        "SECRET_KEY_ID": "0x51986F687ADACBE1",
        "SECRET_KEY_PASSPHRASE": "TESTER"
    }
}

```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```

{
    "projectId": 0,
    "timeTaken": 0,
    "queuePriority": 0,
    "runPriority": 0,
    "runMode": "UNKNOWN",
    "submitSourceId": -1,
    "runModeInteractive": false,
    "runModeBatch": false,
    "runModeDebug": false,
    "runModeUnknown": true,
    "formattedTimeTaken": "0.00",
    "id": 1000000007165,
    "runId": 24
}

```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

ファイルの復号と転送

ファイルを復号して、リモートサーバーのホームディレクトリからターゲットの場所に転送します。

POST 要求

ファイルを復号して転送するには、次の URI に接続 ID を含めます。

mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1002

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
agentGroupId	String	○	エージェントグループの ID。
portalUser	String	-	ユーザーがポータルユーザーであるかどうかを示します。デフォルトは [false] です。
relativeSourceLocation	文字列	-	リモートサーバーのホームディレクトリ内の相対的なソースの場所。
pattern	String	○	ファイルを復号した後に、指定したターゲットの場所にリリースするファイルのファイルパターン。正規表現パターンがサポートされています。
targetLocation	String	○	復号後にファイルが移動されるターゲットディレクトリ。
relativeTargetLocation	文字列	-	リモートサーバーのホームディレクトリ内の相対的なターゲットの場所。

フィールド	タイプ	必須	説明
connectionId	String	○	Advanced FTP、Advanced FTPS、または Advanced SFTP V2 コネクタの接続 ID。
afterFilePickupAction	文字列	-	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。以下のフィルタオプションのいずれか 1 つを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> - KEEP。ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - DELETE。ソースディレクトリからファイルを削除します。 - RENAME。ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。 - ARCHIVE。別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。 <p>デフォルトは、KEEP です。</p>
renameSuffix	String	○	<p>afterFilePickupAction に [RENAME] が選択されている場合に、ソースディレクトリ内のファイルに追加するファイル名のサフィックス。</p> <p>次のサフィックスタイプを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - \$date - \$time - \$runId - \$timestamp
archiveDirectoryPath	String	○	afterFilePickupAction に [ARCHIVE] が選択されている場合、ファイルをアーカイブするアーカイブディレクトリ。
skipDuplicateFiles	文字列	-	docstore の場所にすでに存在するソースファイルをスキップするかどうかを示します。デフォルトは false です。
processFilesRecursively	文字列	-	ベースディレクトリ内のすべてのサブフォルダからファイルを処理するかどうかを示します。デフォルトは false です。
PATTERN_CASE_SENSITIVE	String	○	ファイルパターンで大文字と小文字が区別されるかどうかを示します。値の大文字と小文字は区別されません。デフォルトは false です。
PGP_PASSPHRASE	String	○	PGP パスフレーズ。
PATTERN_TO_COLLECT	String	○	ファイルサーバーユーザーのホームディレクトリから解凍するために収集するファイルのパターン。正規表現を使用してファイル名のパターンを照合します。

例えば、ファイルを復号して転送するには、次の要求を使用します。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/filetransferTask/execute/1002
Accept:application/json
IDS-SESSION-ID: <icSessionId or INFA-SESSION-ID>
{
  "agentGroupId": "01000125000000000002",
  "portalUser": "false",
  "pattern": "arun.txt",
  "relativeSourceLocation": "/",
  "targetLocation": "C:\\\\Informatica_Target",
  "relativeTargetLocation": "",

```

```

    "connectionId": "0100010B00000000000002",
    "afterFilePickupAction": "ARCHIVE",
    "renameSuffix": "_RENAME_",
    "archiveDirectoryPath": "/ARCH",
    "skipDuplicateFiles": false,
    "processFilesRecursively": false,
    "taskVariables": {
      "PATTERN_CASE_SENSITIVE": "false",
      "PGP_PASSPHRASE": "TESTER",
      "PATTERN_TO_COLLECT": "arun.txt.pgp"
    }
  }
}

```

POST 応答

成功すると、Informatica Intelligent Cloud Services からジョブの実行 ID が返されます。その実行 ID を使用してジョブステータスを監視します。

成功時の応答の例を以下に示します。

```

{
  "projectId": 0,
  "timeTaken": 0,
  "queuePriority": 0,
  "runPriority": 0,
  "runMode": "UNKNOWN",
  "submitSourceId": -1,
  "runModeInteractive": false,
  "runModeBatch": false,
  "runModeDebug": false,
  "runModeUnknown": true,
  "formattedTimeTaken": "0.00",
  "id": 1000000007169,
  "runId": 28
}

```

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

HTTPS ファイル転送

リモート HTTPS サーバーへのファイルの送信や、リモート HTTPS サーバーからのファイルの受信、REST API を介したジョブステータスの取得を行うことができます。

リソースを HTTPS ファイル転送に使用する場合は、以下を考慮してください。

- HTTPS サーバーを介してファイルを交換するには、HTTPS ライセンスが必要です。
- API 操作を実行するには、HTTPS サーバーにログインする必要があります。

HTTPS ファイル転送には次のリソースを使用できます。

- 認証。ユーザーの認証に使用します。
- 標準操作。ファイル転送アクション中に使用します。
- ファイル転送。HTTPS サーバーとの間でファイルを転送するために使用します
- サーバー応答。サーバー応答の詳細。
- ステータスコード。HTTPS ファイル転送ステータスコードの詳細。

認証

以下のリソースを使用して、HTTP サーバーへのログインとログアウトを行います。

ログイン

HTTPS API 操作を実行するには、HTTPS サーバーにログインする必要があります。このコマンドを使用して、HTTPS サーバーにログインします。Informatica Managed File Transfer HTTPS サーバーにログインするには、ログインリソースを使用して POST 要求を送信します。クライアント証明書認証を使用しない場合は、ログイン要求を送信してユーザーセッションを開始する必要があります。

要求に次のパラメータを含めます。

- ユーザー名。サーバー上のユーザーの名前。
- パスワード。ログインに必要なパスワード。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/login?username=https_automation&password=T@1234`

ログアウト

ログアウトリソースを使用してログアウトを行い、Informatica Managed File Transfer HTTPS サーバーのユーザーセッションを終了します。GET 要求または POST 要求を行うことができます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/logout`

標準操作

以下の標準操作コマンドを使用できます。

PWD

PWD (Print Working Directory) コマンドを使用して、サーバー上の現在の作業ディレクトリを取得します。応答には、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージの一部として、現在の作業ディレクトリへの絶対パスが含まれます。パスは二重引用符で囲まれています。

例: `https://localhost:15400/fileservers/pwd`

delete

このコマンドを使用して、サーバーからファイルを削除します。file パラメータには、削除する相対ファイルパスまたは絶対ファイルパスを含めます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/delete?file=/abc/1.txt`

rename

このコマンドを使用して、サーバー上のファイルの名前を変更します。現在の作業ディレクトリに名前を変更するファイルが含まれている場合、from および to パラメータにはファイル名のみが含まれる可能性があります。rename コマンドを使用して、サーバー上のファイルを移動することもできます。ファイルを移動するには、from および to パラメータに絶対パスを含めます。

例えば、次のコマンドを使用すると、newInput.txt ファイルの名前は Input.txt に変更されます。

`https://10.60.40.11:15400/fileservers/rename?from=/newInput.txt&to=/Input.txt`

例えば、次のコマンドを使用すると、newInput.txt ファイルは現在の作業ディレクトリから親ディレクトリに移動されます。

`https://10.60.40.11:15400/fileservers/rename?from=/newInput.txt&to=/aa/newInput.txt`

要求に次のパラメータを含めます。

要求の種類	パラメータ
GET または POST	- from: 名前を変更するファイルまたはディレクトリの相対パスまたは絶対パス。 - to: 新しい名前の相対パスまたは絶対パス。

list

このコマンドを使用して、サーバー上のディレクトリのコンテンツを一覧表示します。このコマンドのパラメータとして、ターゲットディレクトリを含めます。ディレクトリを含めない場合、このコマンドにより現在の作業ディレクトリのコンテンツが一覧表示されます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/list?dir=/`

応答本文には、コンテンツタイプが `text/plain` のディレクトリのコンテンツが含まれます。次の例は、ディレクトリリストの形式を示しています。

2009-12-03 14:02:19 D 0 backup

応答には、タブ (`\t`) 文字で区切られた次の情報が含まれます。

- ファイルまたはディレクトリの最終変更日。タイムスタンプは ISO 形式の `yyyy-MM-dd HH:mm:ss` です。時間 (hh) は 24 時間表記で表示されます。
- コンテンツタイプは、ファイル、ディレクトリ、不明のいずれかになります。
- ファイルのサイズ (バイト単位)。
- ファイルまたはディレクトリの名前。

checksum

このコマンドを使用して、リモートファイルのハッシュを計算します。応答は、応答本文の最初の行で返されます。ダウンロードしたローカルファイルのハッシュ値と応答を比較することで、データの整合性を確認できます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/hash?file=/input.txt`

サポートされるハッシュアルゴリズムは、SHA1、MD5、および CRC32 です。要求に次のパラメータを含めます。

要求の種類	パラメータ
GET または POST	- file: 必須。現在の作業ディレクトリからの相対パス、またはファイルへの絶対パスです。 - algorithm: チェックサムの計算時に使用するハッシュアルゴリズム。有効な値は、SHA1、MD5、または CRC32 です。デフォルトは SHA1 です。 - length: ファイル内の開始位置。この値は、部分的なファイルチェックサムの計算に使用されます。デフォルト値は「0」で、ファイル全体に対してチェックサムを実行します。

CD (Change Directory)

このコマンドを使用して、現在の作業ディレクトリを変更します。X-GDX-Reply のヘッダーメッセージの一部として、新しい作業ディレクトリへの絶対パスが返されます。パスは二重引用符で囲まれています。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/cd?dir=/`

CDUP (Change Directory Up)

このコマンドを使用して、現在の作業ディレクトリを親ディレクトリに変更します。X-GDX-Reply のヘッダーメッセージの一部として、新しい作業ディレクトリへの絶対パスが返されます。パスは二重引用符で囲まれています。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/cdup`

MKDIR (Make Directory)

このコマンドを使用して、サーバー上に新しいディレクトリを作成します。X-GDX-Reply のヘッダーメッセージの一部として、新しく作成したディレクトリへの絶対パスが返されます。パスは二重引用符で囲まれています。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/mkdir?dir=/a/b/c/mkdri1`

file information

このコマンドを使用して、特定のファイルまたはディレクトリに関する情報を取得します。応答には、コンテンツタイプが `text/plain` の応答本文の情報が含まれます。ファイル情報の形式は、List コマンドから返されるリストと同一です。返される情報が応答本文にない場合、ファイルまたはディレクトリは存在しません。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/fileInfo?file=/TEST.txt`

ファイル転送

次のコマンドを使用して、サーバーとの間で HTTPS ファイルのアップロードとダウンロードを行います。

upload

このコマンドを使用して、ファイルをサーバーに転送します。この要求はマルチパートの POST 要求である必要があり、要求ごとに 1 つのファイルのみがアップロードされます。1 つのファイルはマルチパート要求の必須パートですが、ファイルパートに指定されたパラメータ名は無視されます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/upload`

要求には、次のパラメータが含まれています。

要求の種類	パラメータ
POST/マルチパート	<ul style="list-style-type: none">- to: アップロード先のファイルの相対パスまたは絶対パス。- file: マルチパートの要求の一部としてアップロードされるファイル。- generateUniqueId. オプション。ファイル転送タスクに一意の ID を生成して返すには、true に設定します。デフォルトは false です。- fileMetadata. オプション。JSON 形式のファイルに関連するメタデータ。

オプションの要求パラメータを含めると、応答にはそれぞれ次の戻りパラメータが含まれます。

- fileUniqueId. ファイル転送タスク用に生成された一意の ID。
- fileMetadata. JSON 形式のファイルに関連するメタデータ。

upload2

このコマンドを使用して、ファイルをサーバーに転送します。この要求はマルチパートの POST 要求である必要があり、要求ごとに 1 つのファイルのみがアップロードされます。1 つのファイルはマルチパート要求の必須パートですが、ファイルパートに指定されたパラメータ名は無視されます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/upload2`

応答には、次のパラメータが含まれます。

要求の種類	パラメータ
POST/マルチパート	<ul style="list-style-type: none">- to: アップロード先のファイルの相対パスまたは絶対パス。- append: オプション。ファイルがターゲットディレクトリに存在する場合は、このパラメータを true に設定して、既存のファイルに新しいファイルが付加されるようにします。- transferMode: バイナリ転送には B を使用し、ASCII 転送には A を使用します。デフォルトは B です。- file: マルチパートの要求の一部としてアップロードされるファイル。

upload3

このコマンドを使用して、ファイルをサーバーに転送します。この要求はマルチパートの POST 要求である必要があり、要求ごとに 1 つのファイルのみがアップロードされます。1 つのファイルはマルチパート要求の必須パートですが、ファイルパートに指定されたパラメータ名は無視されます。

例: <https://10.60.40.11:15400/fileservers/upload3>

Basic 認証では、ファイルサーバーのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

応答には、次のパラメータが含まれます。

要求の種類	パラメータ
POST/マルチパート	<ul style="list-style-type: none">- to: アップロード先のファイルの相対パスまたは絶対パス。- append: オプション。ファイルがターゲットディレクトリに存在する場合は、このパラメータを true に設定して、既存のファイルに新しいファイルが付加されるようにします。- transferMode: バイナリ転送には B を使用し、ASCII 転送には A を使用します。デフォルトは B です。- file: マルチパートの要求の一部としてアップロードされるファイル。

uploadRawData

このコマンドを使用して、データが要求本文のコンテンツであるサーバーに直接データをアップロードします。要求は POST 要求である必要があります。ファイルの名前は自動的に生成され、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージの一部として返されます。これは特別なコマンドで、アップロードされるファイルデータが要求本文に含まれている必要があります。

例: <https://10.60.40.11:15400/fileservers/uploadRawData>

uploadRawData2

このコマンドを使用して、データが要求本文のコンテンツであるサーバーに直接データをアップロードします。要求は POST 要求である必要があります。ファイルの名前は自動的に生成され、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージの一部として返されます。これは特別なコマンドで、アップロードされるファイルデータが要求本文に含まれている必要があります。

例: <https://10.60.40.11:15400/fileservers/uploadRawData2>

Basic 認証では、ファイルサーバーのユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

download

このコマンドを使用して、ファイルをサーバーからダウンロードします。ファイルは応答本文として返されます。コンテンツタイプは、常にアプリケーションまたは強制ダウンロードで、ファイルの名前を含むコンテンツ処理フィールドです。content-length ヘッダーは、ファイルのサイズを示す応答にも含まれます。

例: `https://10.60.40.11:15400/fileservers/download?file=/test&downloadReleased=true&transferMode=b`

応答には、次のパラメータが含まれます。

要求の種類	パラメータ
GET または POST	<ul style="list-style-type: none">- file: 必須。ダウンロードするファイル。これは、現在の作業ディレクトリからの相対パス、またはファイルへの絶対パスです。- offset: 部分ファイルをダウンロードするためのオフセット。ファイルのダウンロードを開始する位置を入力します。- transferMode: バイナリ転送には B を使用し、ASCII 転送には A を使用します。デフォルトは B です。

サーバー応答

すべての要求に対して、サーバーは、X-CDX-Reply ヘッダーの HTTPS サービスに固有の成功メッセージあるいはエラーコードとエラーメッセージで応答します。ヘッダーメッセージの形式は、ステータスコードの後に 1 つの空白が続き、その後にメッセージの詳細が続きます。

例: 200 Welcome, testuser!

ヘッダーコードとメッセージを確認することで、操作の成功または失敗を判断できます。

ステータスコード

応答には、次のいずれかの HTTPS ファイル転送ステータスコードが含まれる場合があります。

200-299

情報または成功のステータスコード: サーバーに対して正常に実行された操作。

500-509

内部サーバーエラー: サーバーで重大なエラーが発生しました。直ちにサーバーの管理者に連絡してください。

510-519

不正または無効な要求: 無効または不完全な情報により、サーバーは要求を処理できませんでした。詳細については、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージを参照してください。

530-539

ログインまたはアカウント関連のエラー: 無効なログインやアカウントが無効になっている場合など、アカウントまたはログインでエラーが発生したことを示します。詳細については、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージを参照してください。

550-559

権限エラー: ユーザーには、要求されたアクションの実行が許可されていないか、アクションを実行する権限がありません。詳細については、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージを参照してください。

560-569

システム上のファイルまたはディレクトリに関連するエラー: ファイルまたはディレクトリが存在しないなど、サーバー上のファイルまたはディレクトリへのアクセス中にエラーが発生しました。

580-589

ファイル I/O エラー: ファイルまたはディレクトリにアクセスしようとした際に内部サーバーエラーが発生しました。

不明なエラー: コマンドの処理中に予期しないエラーが発生しました。詳細については、X-GDX-Reply のヘッダーメッセージを参照してください。

固定幅の設定

fwConfig リソースを使用して、フラットファイルのソース、ルックアップ、およびターゲットオブジェクトのカラムの幅を設定します。

GET 要求

すべての固定幅形式を要求するには、次の URI を使用します。

/api/v2/fwConfig

特定の固定幅形式の詳細を要求するには、URI に固定幅形式の ID、固定幅のフェデレーション ID、または固定幅形式の名前を含めることができます。フェデレーション ID を含めた場合、応答には固定幅形式のプロジェクトとフォルダの場所が含まれます。次のいずれかの URI を使用します。

/api/v2/fwConfig/<id>

/api/v2/fwConfig/frs/<id>

/api/v2/fwConfig/name/<name>

URI に固定幅形式名を使用し、固定幅形式名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

/api/v2/fwConfig/name/my%20fixedwidth%20format

GET 応答

fwConfig オブジェクトで、次の属性を返します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	固定幅形式の ID。
name	String	固定幅形式名。
description	String	固定幅形式の説明。
createTime	Date/Time	固定幅形式が作成された時刻。
updateTime	Date/Time	固定幅形式が最後に更新された時刻。
createdBy	String	固定幅形式を作成したユーザー。
updatedBy	String	固定幅形式を最後に更新したユーザー。
lineSequential	Boolean	各行が改行で終わるかどうかを示します。 - True。[改行コードあり] が有効になっています。 - False。[改行コードあり] が有効になっていません。
padBytes	Int	行の最後のカラムと次の行の最初のカラムの間のバイト数。

フィールド	タイプ	説明
skipRows	Int	スキップする行数。空白やヘッダー行をスキップできます。
nullChar	String	NULL 値を表す文字。
dateFormat	String	日付形式がフラットファイル接続で指定されていない場合に使用する、デフォルトの日付形式。
nullCharType	String	NULL 文字がシングルバイトかマルチバイトかを決定します。
repeatNullChar	Boolean	単一フィールドでの NULL 文字の処理方法を決定します。 - True。[NULL 文字を繰り返す] を単一の NULL 値として読み取ります。 - False。[NULL 文字を繰り返す] を単一の NULL 値として読み取りません。
stripTrailingBlank	Boolean	文字列値内の末尾にある空白の処理方法を決定します。 - True。末尾の空白を文字列値から削除します。 - False。末尾の空白を文字列値から削除しません。
location	文字列	固定幅ファイルが存在するプロジェクトとフォルダ。
columns	String	各カラムに次の属性を含めます。 - name。カラムの名前。 - nativeType。ネイティブデータ型 - precision。フィールドの長さ (バイト)。 - scale。数値の小数点以下の桁数。

GET の例

次の例では、固定幅形式 ID を使用して固定幅形式の詳細を取得する要求を示しています。

```
GET <serverUrl>/api/v2/fwConfig/00001R29000000000002
Content-type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

次のテキストは、応答のサンプルです。

```
{
  "@type": "fwConfig",
  "id": "00001R29000000000002",
  "orgId": "00001R",
  "name": "item",
  "description": "",
  "createTime": "2016-10-06T17:08:09.000Z",
  "updateTime": "2016-10-06T17:08:09.000Z",
  "createdBy": "org1@infa.com",
  "updatedBy": "org1@infa.com",
  "lineSequential": true,
  "padBytes": 0,
  "skipRows": 0,
  "nullChar": "*",
  "nullCharType": "ASCII",
  "repeatNullChar": false,
  "stripTrailingBlank": false,
  "location": "Default\\MyProject",
  "dateFormat": "",
  "columns": [
    {
      "@type": "fwColumn",
      "name": "COLUMN_0",
      "nativeType": "string",
```

```

    "precision": 1,
    "physicalLength": 0,
    "scale": 0
  },
  {
    "@type": "fwColumn",
    "name": "COLUMN_1",
    "nativeType": "string",
    "precision": 9,
    "physicalLength": 0,
    "scale": 0
  },
  {
    "@type": "fwColumn",
    "name": "COLUMN_2",
    "nativeType": "string",
    "precision": 10,
    "physicalLength": 0,
    "scale": 0
  }
]
}

```

POST 要求

固定幅形式を作成するには、次の URI を使用します。

/api/v2/fwConfig

固定幅形式の場所を指定する場合、要求にコンテナ ID を含めます。コンテナ ID が要求に含まれていない場合、固定幅形式は Default フォルダに作成されます。データ統合ユーザーインターフェースでプロジェクトまたはフォルダのコンテナ ID を検索できます。**[エクスプローラ]** ページで、フォルダを選択します。URL の最後の文字列がコンテナ ID です。

例えば、次の URL のコンテナ ID は dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR です。

<https://na1.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/Explore/dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR>

固定幅形式を更新するには、次の URI に固定幅形式 ID を含めます。

/api/v2/fwConfig/<id>

部分モードを使用して部分的な更新を送信できます。部分モードを使用して fwColumn オブジェクト内のフィールドを更新する場合は、名前を含める必要があります。部分モードを使用して要求を送信するには、JSON 要求を使用してヘッダーに次の行を含めます。

Update-Mode=PARTIAL

fwConfig POST 要求では、次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	○	固定幅形式の ID。
name	String	○	固定幅形式名。
description	String		固定幅形式の説明。
containerId	String		リニアタスクフローを含めるためのプロジェクトまたはフォルダの ID。 要求に含まれていない場合、リニアタスクフローは Default フォルダに作成されます。

フィールド	タイプ	必須	説明
lineSequential	Boolean	はい	各行が改行で終わるかどうかを示します。 - True。[改行コードあり] が有効になっています。 - False。[改行コードあり] が有効になっていません。
padBytes	Int	○	行の最後のカラムと次の行の最初のカラムの間のバイト数。
skipRows	Int	○	スキップする行数。空白やヘッダー行をスキップできます。
nullChar	String	○	NULL 値を表す文字。
dateFormat	String	○	日付形式がフラットファイル接続で指定されていない場合に使用する、デフォルトの日付形式。
nullCharType	String	○	NULL 文字がシングルスバイトかマルチバイトかを決定します。
repeatNullChar	Boolean	はい	単一フィールドでの NULL 文字の処理方法を決定します。 - True。[NULL 文字を繰り返す] を単一の NULL 値として読み取ります。 - False。[NULL 文字を繰り返す] を単一の NULL 値として読み取りません。
stripTrailingBlank	Boolean	はい	文字列値内の末尾にある空白の処理方法を決定します。 - True。末尾の空白を文字列値から削除します。 - False。末尾の空白を文字列値から削除しません。
columns	String	○	各カラムに次の属性を含めます。 - name。カラムの名前。 - nativeType。ネイティブデータ型 - precision。フィールドの長さ (バイト)。 - scale。数値の小数点以下の桁数。

POST 応答

成功すると、作成または更新された fwConfig オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

POST <serverURL>/api/v2/fwConfig/000001030000000000004

Content-Type: application/json

Accept: application/json

```
{
  "@type": "fwConfig",
  "name": "FW_FILE_CONFIG_1",
  "description": "Test description",
  "lineSequential": false,
  "padBytes": 1,
  "skipRows": 2,
  "nullChar": "*",
  "nullCharType": "ASCII",
  "repeatNullChar": false,
  "stripTrailingBlank": false,
  "columns": [
    {
      "@type": "fwColumn",
      "name": "ASCII",
      "nativeType": "string",
      "precision": 10
    }
  ]
}
```



```
} ]  
}
```

DELETE 要求

固定幅形式を削除するには、次の URI に固定幅形式 ID を使用します。

/api/v2/fwConfig/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

階層マッパー

h2h リソースを使用して、階層データを別の階層構造に変換する階層マッパーを作成または実行します。また、h2h リソースを使用して、階層マッパーに関するメタデータを取得することもできます。

h2h リソースは、URI で階層マッパー ID を使用します。階層マッパー ID をを見つけるには、データ統合のユーザーインターフェースで階層マッパーを開きます。URL の最後の文字列が階層マッパーです。

例えば、URL <https://dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/idsm/7sQJvjkeZLIfpWg6hpYwqJ/read> である場合、階層マッパー ID は 7sQJvjkeZLIfpWg6hpYwqJ です。

階層マッパーの作成

階層マッパーを作成するには、POST 要求を送信し、階層マッパーの詳細を指定します。

POST 要求

次の URI を使用して、階層マッパーを作成します。

/h2h/api/v1/create/<hierarchical mapper ID>

次の表に、セクションのフィールドとその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
name	文字列	階層マッパーの名前。
description	文字列	階層マッパーの説明。
projectName	文字列	階層マッパーを保存するプロジェクト。
projectFolderPath	文字列	階層マッパーを保存するプロジェクト内のフォルダ。
sourceXsd	文字列	ソース XSD ファイル (EDI832__20190322_140316.xsd など)
sourceXsdDependencies	配列	ソース XSD ファイルの依存関係のリスト。
targetXsd	文字列	ターゲット XSD ファイル (X12_4010_810.xsd など)
targetXsdDependencies	配列	ターゲット XSD ファイルの依存関係のリスト。

フィールド	タイプ	説明
sourceRoot	文字列	ソース内のルート要素の名前。
targetRoot	文字列	ターゲット内のルート要素の名前。
variables		変数の詳細。変数オブジェクトには、名前、タイプ、リストインジケータ、および初期値が含まれます。
name	文字列	変数名。
タイプ	文字列	変数のデータ型
list	ブール	true または false。
initialValue	文字列	変数の初期値。
文	文字列	階層マッパー内のステートメントのカンマ区切りリスト。
encodedService	文字列	Base64 でエンコードされた ZIP ファイル。これには、ソーススキーマとターゲットスキーマのソース XSD ファイルとターゲット XSD ファイル、およびそれらの XSD ファイルの依存関係が含まれています。

POST 応答

成功した場合、API によって階層マッパーが作成されます。

POST 要求の例

次の例に、階層マッパーを作成する場合の要求を示します。

POST <serverUrl>/h2h/api/v1/service/create
 IDS-SESSION-ID: 689EaCniaW9b0YgwET5DwU
 Content-Type: application/json

```
{
  "name": "MigAsset2",
  "description": "Migrated service",
  "projectName": "Interfor_Mapping",
  "projectFolderPath": "C:\\Informatica_XMap_Interfor",
  "sourceXsd": "EDI_810_0_2_0_2_0_0.xsd",
  "sourceXsdDependencies": [],
  "targetXsd": "X12_4010_810_schema_restricted_0_0_0_1_0_0_0_0_1.xsd",
  "targetXsdDependencies": [
    "X12_4010_810_schema_segments_restricted_0_1_0_2_0_1_0_1_0_2.xsd"
  ],
  "sourceRoot": "DTedi810",
  "targetRoot": "x12:interchanges",
  "variables": [
    {
      "name": "IT_CTR",
      "type": "xs:integer",
      "list": false,
      "initialValue": "0"
    },
    {
      "name": "CTT_1",
      "type": "xs:integer",
      "list": false,
      "initialValue": "0"
    }
  ],
  "statements": "[{\"output\":\"interchange/x12:TS_810\\\", \"mode\":\"Add\\\", \"input\":\".\\\", \"onFail\": \"propagate\\\", \"statementType\":\"Group\\\", \"name\":\"INPUT_LOOP\\\", \"skip\":true, \"statements\": [{\"output
```

```

\:"ST\","mode\":"Add\","input\":"InvoiceHeader\","onFail\":"Skip\","statementType\":"Group\","name
\:"ST\","skip\":true,"statements":[{"output\":"R01\","mode\":"Add\","input\":"810\","onFail
\:"propagate\","statementType\":"Map\","name\":"1\","skip\":false,"statements":[],"statementNumber
\:"3\","output\":"R02\","mode\":"Add\","input\":"invNum\","onFail\":"propagate\","statementType
\:"Map\","name\":"2- for now it's default value\","skip\":false,"statements":[],"statementNumber
\:"4\","statementNumber\":2},{\output\":"BIG\","mode\":"Add\","input\":"InvoiceHeader\","onFail
\:"Skip\","statementType\":"Group\","name\":"BIG\","skip\":true,"statements":[{"output
\:"R01\","mode\":"Add\","input\":"replace(invDate, '-', ' ')\","onFail\":"propagate\","statementType
\:"Map\","name\":"1\","skip\":false,"statements":[],"statementNumber\":6},{\output\":"R02\","mode
\:"Add\","input\":"invNum\","onFail\":"propagate\","statementType\":"Map\","name\":"2\","skip
\:"false\","statementNumber\":7},[...]"
"encodedService": "UESDBQACAgIALiUSlKAAAAAAAAAAAAAAAAAdAAAA[...]"
}

```

簡潔にするため、ステートメントとエンコードされたサービス値は切り詰められています。

階層マッパーの実行

階層マッパーを実行するには、POST 要求を作成し、階層マッパーが処理する XML または JSON データを指定します。データは、要求本文のバッファとして、または階層マッパーに渡すファイルとして提供することができます。出力は、応答で返されるバッファにするか、ファイルに出力を書き込むことができます。

POST 要求

次の URI を使用して、階層マッパーを実行します。

/h2h/api/v1/service/run/<hierarchical mapper ID>

次の表に、セクションのフィールドとその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
agentGroupld	String	階層マッパーを実行するためのランタイム環境。 ランタイム環境を指定しない場合、階層マッパーはクラウドサーバー上でネイティブに実行されます。
入力		詳細を入力します。
type	文字列	要求本文で送信する入力のタイプ。[バッファ] または [ファイル] を使用します。
値	文字列	階層マッパーに渡す値を入力します。入力がバッファである場合は、XML または JSON データを入力します。入力がファイルである場合は、ファイルへのパスを入力します。
出力		出力の詳細。
type	文字列	応答で受信する出力のタイプ。[バッファ] または [ファイル] を使用します。
値	文字列	応答で受信する出力。出力がバッファである場合は、空の文字列を使用します。出力がファイルである場合は、ファイルへのパスを入力します。

POST 応答

成功した場合、階層マッパーはターゲット階層構造のデータを返します。

次の表に、応答内のフィールドとその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
output	String	出力値。出力は、バッファまたはファイルへのパスです。
message	文字列	応答メッセージ (Success)。

バッファからファイルへの POST 要求の例

次の要求は、XML データをバッファとして変換し、変換されたデータを出力ファイルに格納する階層マッパーを実行します。

POST <server URL>/h2h/api/v1/service/run/<hierarchical mapper ID>

Content-Type: application/json

Accept: application/json

IDS-SESSION-ID: jpaybAKQMsmtd7vLJ02z0

```
{
  "agentGroupId": "016G0R25000000000005",
  "input": {
    "type": "buffer",
    "value": "<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?'><HL7:MSH><MSH.1>1</MSH.1><MSH.2>^~\\&amp;</MSH.2><MSH.3><HD.1>GHH_ADT</HD.1></MSH.3><MSH.7>20080115153000</MSH.7><MSH.9><MSG.1>ADT</MSG.1><MSG.2>A01</MSG.2><MSG.3>ADT_A01</MSG.3></MSH.9><MSH.10>0123456789</MSH.10><MSH.11><PT.1>P</PT.1></MSH.11><MSH.12><VID.1>2.6</VID.1></MSH.12><MSH.16>AL</MSH.16></HL7:MSH>"
  },
  "output": {
    "type": "file",
    "value": "/root/idsm"
  }
}
```

成功すると、次の応答を受け取ります。

```
{
  "output": "/root/idsm/hmapper_runtime_api_5040_output.xml",
  "message": "Success"
}
```

バッファへのファイルの POST 要求の例

次の要求は、ファイル内の XML データを変換し、その出力を応答のバッファとして返す階層マッパーを実行します。

POST <server URL>/h2h/api/v1/service/run/<hierarchical mapper ID>

Content-Type: application/json

Accept: application/json

IDS-SESSION-ID: jpaybAKQMsmtd7vLJ02z0

```
{
  "agentGroupId": "016G0R25000000000005",
  "input": {
    "type": "file",
    "value": "/root/idsm/2.6_parser_response.xml"
  },
  "output": {
    "type": "buffer",
    "value": ""
  }
}
```

成功すると、次の応答を受け取ります。

```
{
  "output": "<?xml version='1.0' encoding='UTF-8'?'>\r\n<Departments>\r\n<Department name='\">\r\n\r\n<Employee>\r\n\r\n<Profile>\r\n\r\n<Id>0</Id>\r\n\r\n<FullName>1</FullName>\r\n\r\n<Skills>\r\n\r\n<FHIR4></FHIR4>\r\n\r\n<XYZ></XYZ>\r\n\r\n<hl7></hl7>\r\n\r\n<HIPAA></HIPAA>\r\n\r\n<Skills>\r\n\r\n<Profile>\r\n\r\n<Employee>\r\n\r\n<Department>\r\n\r\n</Departments>\r\n\r\n",
  "message": "Success"
}
```

```
}  "message": "Success"
```

階層マッパーのメタデータの取得

階層マッパーに関するメタデータを取得するには、GET 要求を使用して階層マッパー ID を指定します。

GET 要求

次の URI を使用して、階層マッパーに関するメタデータを取得します。

/h2h/api/v1/idsm/metadata/<hierarchical mapper ID>

GET 応答

成功すると、応答はメタデータを返します。

次の表に、応答内のフィールドとその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
srcSchemaType	文字列	ソーススキーマタイプ
tgtSchemaType	文字列	ターゲットスキーマタイプ
srcSchemaContent	文字列	Base64 でエンコードされたソーススキーマ
tgtSchemaContent	文字列	Base64 でエンコードされたターゲットスキーマ

次の表に、階層マッパーの作成に使用されたアセットに基づいて応答が返すソーススキーマタイプとターゲットスキーマタイプを示します。

アセット	スキーマタイプ
インテリジェント構造モデル	任意
データサービスリポジトリ内のデータサービス	【ネイティブ形式での入力】が選択されているかどうかに応じてネイティブまたは XML
XML ファイルからの階層スキーマ	XML
JSON ファイルからの階層スキーマ	JSON

GET の例

次の要求により、階層マッパーに関するメタデータを取得します。

```
GET <server URL>/h2h/api/v1/idsm/metadata/<hierarchical mapper ID>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: jpaybAKQMsmtd7vLJ02z0
```

成功すると、次の応答が返されます。

```
{
  "srcSchemaType": "XML",
  "tgtSchemaType": "JSON",
  "srcSchemaContent": "eJzNV+tP2zAQ/85fEWXqJ5RHk1CgoqCKthNSAY3HhvYFuY1LLSV2SNzXtD9+Zz...",
  "tgtSchemaContent": "eJzNkL00gjAUhXeegnRm0ZiYuBFwBA0/q2kylVrUPByHYjh3aVVI2nAusnS3n..."
}
```

ソースとターゲットのスキーマ値は、簡潔にするために切り詰められています。

ジョブログファイル

完了したデータ統合ジョブのログ情報を、オペレーションインサイトから要求できます。

オペレーションインサイトからログエントリを取得するには、次のリソースを使用します。

- Login。Informatica Intelligent Cloud Services にログインし、ジョブログ REST API 呼び出しで使用するセッション ID を取得するために使用します。
- jobLogEntries。完了したデータ統合ジョブのログ情報を要求するために使用します。

これらのリソースを使用するときには、次のルールに注意してください。

- JSON 形式を使用する。
- 次の URL を使用します。
<serverUrl>/cdiinsights-service/api/v1/analytical/Orgs(<orgID>)/<API name>
- 次の要求ヘッダー形式を使用します。
<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

サーバーの URL には、組織が使用する POD の名前とリージョン、および Informatica Intelligent Cloud Services ドメインの informaticacloud.com が含まれます。組織の POD の名前とリージョンがわからない場合は、ユーザーインタフェースを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインすると、組織の POD の名前とリージョンを確認することができます。POD 情報は、ブラウザのアドレスバーにあります。

次の例では、https://usw3.dm-us.informaticacloud.com がサーバーの URL です。

https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/home

サーバー URL を REST API 呼び出しのヘッダーのベース URL として使用します。

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP のバージョンを入力しないようにしてください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

ログインしています

呼び出しのヘッダーに IDS-SESSION-ID を必要とするリソースを使用する場合に、このリソースを使用して Informatica Intelligent Cloud Services にログインします。正常なログイン応答には、IDS-SESSION-ID が含まれます。

POST 要求

次の URL を使用します。

<login URL>/identity-service/api/v1/Login

ログイン URL には、組織が存在するリージョンと Informatica Intelligent Cloud Services ドメインの informaticacloud.com が含まれます。Informatica Intelligent Cloud Services ログインページを開くと、組織のログインリージョンを見つけることができます。リージョンのログイン URL は、Informatica Intelligent Cloud Services にログインする前のブラウザのアドレスバーにあります。

次の例では、https://dm-us.informaticacloud.com がリージョン URL です。

https://dm-us.informaticacloud.com/identity-service/home

次の表に、要求に含めるフィールドを示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
username	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。 最大長は 255 文字です。
password	String	○	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。 最大長は 255 文字です。

POST 応答

要求が成功すると、ユーザーオブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

後続の要求の応答で返されたセッション ID を使用します。

ユーザーオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
sessionId	String	現在のセッションの REST API セッション ID。最も正確な REST API 要求ヘッダーに使用します。
sessionExpireTime	String	セッションが期限切れになる時間。
id	String	ユーザー ID。
name	String	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
currentOrgId	String	現在の組織 ID。
currentOrgName	String	現在の組織の名前。
parentOrgId	String	親組織の ID。
orgId	String	ユーザーが属する組織の ID。
orgName	String	ユーザーが属する組織の名前。
groups	String	ユーザーグループ。
effectiveRoles	String	ユーザーに割り当てられたロール。
effectivePrivileges	String	ユーザーに割り当てられた特権。
status	String	ユーザーのステータス。
timeZoneId	String	ユーザーのタイムゾーン。タイムゾーンは夏時間を使用します。詳細については、「 タイムゾーンのコード 」(ページ 599)を参照してください。
authenticator	String	ユーザー認証方法。

ログ情報の取得

jobLogEntries リソースを使用して、完了したデータ統合ジョブのログ情報をオペレーションインサイトから要求します。このリソースを使用する場合は、組織 ID を URL に含めます。

GET 要求

すべてのログの情報を要求するか、ログの応答をフィルタリングすることができます。過去 33 日間のデータを要求できます。応答は、適用されたフィルタに対して最大 500 件のレコードを返します。

ログからの情報を要求するには、次の URI を使用します。

```
/cdiinsights-service/api/v1/analytical/Orgs(<orgID>)/JobLogEntries
```

ログ応答をフィルタリングするには、次の URI を使用します：

```
/cdiinsights-service/api/v1/analytical/Orgs(<orgID>)/JobLogEntries?<query parameters>
```

URI には次のようなフィルタを含めることができます：

パラメータ	タイプ	説明
filter	文字列	クエリフィルタ。
endTime	日付	タスクが終了した日付および時刻。 フィルタパラメータに含めます。
startswith	文字列	タスクを開始したランタイム環境、Secure Agent、またはアセット。 フィルタパラメータに含めます。
listfilter	文字列	ジョブのステータスとアセットタイプ。
status in	文字列	タスクのステータス。次のいずれかのステータスでフィルタリングすることができます。 <ul style="list-style-type: none">- COMPLETED- 注意 (WARNING)- FAILED- END- SUCCESS- 停止
assetType in	文字列	アセットのタイプ： <ul style="list-style-type: none">- MTT。マッピングタスク。- TASKFLOW。高度なタスクフロー。- MI_TASK。一括取り込みタスク。- DSS。同期タスク。- WORKFLOW。リニアタスクフロー。- DRS。レプリケーションタスク。- PCS。PowerCenter タスク。- DTT。データ転送タスク。- DLT。データローダータスク。- MAPPING- BATCH_MAPPING。動的マッピングタスク。- DMASK。データマスキングタスク。
count	Int	true の場合、適用されたフィルタで使用可能なレコードの合計を返します。
上	Int	返す要素の数。例えば、値が 25 である場合、適用されたフィルタで利用できる最初の 25 件のレコードが返されます。 最大値は 500 です。

パラメータ	タイプ	説明
skip	Int	スキップするレコード数。例えば、値を 4 に設定すると、リストの最初の 4 つのアセットが除外されます。
orderby	文字列	データを返すソート順序。

GET 要求の例

次の例に、クエリパラメータを使用してログ情報を要求する方法を示します。

- 2023 年 10 月 8 日午前 6 時から 2023 年 10 月 9 日午前 6 時の間に正常に完了したマッピングタスクのリストを要求するには、次の要求を使用します。

```
GET <serverUrl>/cdiinsights-service/api/v1/analytical/Orgs(<orgID>)/JobLogEntries?$filter=(endTime%20ge%202023-10-08T06:00:00Z)%20and%20(endTime%20le%202023-10-09T06:00:00Z)&listFilter=status%20in%20(SUCCESS)%20and%20assetType%20in%20(MTT)&$count=true&$top=500&$skip=0
Content-type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>
```

- 2023 年 10 月 1 日午前 6 時から 2023 年 10 月 31 日午前 6 時の間に完了したすべてのジョブのリストを要求し、終了時刻の降順でジョブをソートするには、次の要求を使用します。

```
GET >serverUrl>/cdiinsights-service/api/v1/analytical/Orgs(<orgID>)/JobLogEntries?$filter=(endTime%20ge%202023-10-01T06:00:00Z)%20and%20(endTime%20le%202023-11-31T06:00:00Z)&listFilter=status%20in%20(COMPLETED,WARNING,FAILED,END,SUCCESS,STOPPED)%20and%20assetType%20in%20(MTT,DTT,DMASK,PCS,DRS,DSS,MTT_TEST,BATCH_MAPPING,MAPPING,command,MI_TASK)&$count=true&$top=500&$skip=0&$orderby=endTime desc
Content-type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <SessionId>
```

GET 応答

ログの各行に対して jobLogEntry オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

ログの各行に関する情報を要求した場合、jobLogEntry オブジェクトには次のような属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
logEntryId	文字列	ログのエントリ ID。
assetId	文字列	タスクの ID。
runId	長整数型	タスクの実行に必要な ID。
assetName	文字列	アセットの名前。
instanceName	文字列	ジョブの名前を次の形式で指定します。 <asset name>-<instance number>
orgId	文字列	組織 ID。
ステータス	文字列	ジョブが正常に完了したかどうかを示します。

フィールド	タイプ	説明
assetType	文字列	<p>タスクのタイプ。データ統合ジョブの場合は、次のいずれかのコードを返します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - MTT。マッピングタスク。 - TASKFLOW。高度なタスクフロー。 - MI_TASK。一括取り込みタスク。 - DSS。同期タスク。 - WORKFLOW。リニアタスクフロー。 - DRS。レプリケーションタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。 - DTT。データ転送タスク。 - DLT。データローダータスク。 - MAPPING。 - BATCH_MAPPING。動的マッピングタスク。 - DMASK。データマスキングタスク。
startTime	日付/時刻	タスクまたはリニアタスクフローの開始時刻。東部標準時（ET）を使用します。
endTime	日付/時刻	タスクまたはリニアタスクフローの終了時刻。東部標準時（ET）を使用します。
updateTime	文字列	タスクの最終更新時刻。
duration	ストリング	タスクが実行された時間（秒単位）。
errorMessage	String	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
location	文字列	アセットの場所。
rowsProcessed	文字列	タスクによって処理された行の合計数。
successRows	文字列	タスクによって正常に処理された行の数。
errorRows	文字列	タスクによって処理されなかった行の数。
runtimeEnv	文字列	タスクを実行するランタイム環境。
runtimeEnvName	文字列	タスクが実行されているランタイム環境の名前。
startedBy	文字列	タスクを開始したユーザーまたはスケジュール。
サブタスク	文字列	タスクに含まれるサブタスクの数。
runContext	文字列	<p>タスクの開始時に使用されたメソッド。次の値が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - UI。タスクがユーザーインターフェースを使用して開始されました。 - SCHEDULER。タスクがタスクスケジューラを使用して開始されました。 - REST API。タスクが REST API を使用して開始されました。 - OUTBOUND MESSAGE。タスクが送信メッセージを使用して開始されました。
extraData	文字列	saasLogId や saasTaskId などの追加情報。
parentEntityId	文字列	親タスクの ID。

フィールド	タイプ	説明
updateDayHour	日付/時刻	タスクの最終更新時刻。
taskId	文字列	タスクの ID。
stopOnError	Boolean	致命的ではないエラーの発生時にランタイム環境でタスクを停止させるかどうかを示します。
isAtScale	Boolean	タスクに関連付けられたマッピングが詳細モードかどうかを示します。
parAssetName	文字列	親アセットの名前。
parRunId	文字列	親アセットの実行 ID。
parLocation	文字列	親アセットの場所。
parAssetType	文字列	親アセットのタイプ。
agentId	文字列	タスクを実行している Secure Agent。
agentName	文字列	タスクを実行しているエージェントの名前。
projectName	文字列	アセットが存在するプロジェクト。

GET 応答の例

マッピングタスクのジョブログ情報を要求すると、次の応答が返されることがあります:

```
{
  "@odata.context": "$metadata#JobLogEntries",
  "@odata.count": 2,
  "value": [
    {
      "logEntryId": "9hQ0Sz0u0GSeG0r73CzK8L",
      "assetId": "jn94HP0UK4zlEo007eGfEq",
      "runId": "148201",
      "assetName": "CDI_9102",
      "instanceName": "CDI_9102-148201",
      "orgId": "010cdi",
      "status": "COMPLETED",
      "assetType": "MTT",
      "correlationId": "ZGVmN2E3ZDEtMTE2MCO0NT",
      "startTime": "2023-07-20T07:55:52Z",
      "endTime": "2023-07-20T07:56:09Z",
      "updateTime": null,
      "duration": 17,
      "errorMessage": "",
      "location": "9102",
      "rowsProcessed": 2,
      "successRows": 2,
      "errorRows": 0,
      "runtimeEnv": "runtime environment",
      "runtimeEnvName": "ASH0001",
      "startedBy": "every_day",
      "subtasks": 0,
      "runContext": "SCHEDULER",
      "extraData": "{\"saasLogId\":\"010AXYC100000000RC5Q\", \"runtimeType\":\"\", \"isServerless\":\"false\", \"releaseVersion\":\"4400\", \"saasTaskId\":\"010AXY0Z0000000005EM\"}",
      "parentEntityId": null,
      "statusDisplayName": "SUCCESS",
      "updateDayHour": "2023-07-20T07:00:00Z",
      "taskId": "010AXY0Z0000000005EM",
    }
  ]
}
```

```

        "stopOnError": "0",
        "requestId": null,
        "isAtScale": 0,
        "parAssetName": null,
        "parRunId": null,
        "parLocation": "n/a",
        "parAssetType": null,
        "agentId": "010AXY08000000000003",
        "agentName": "ASH0001",
        "projectName": "9102"
    }
}
{
    "logEntryId": "7gQRt15YPsBcdK6RsozzSJ",
    "assetId": "iwm48QrytmidcBrdpMElu6",
    "runId": "145708",
    "assetName": "CDI-9845_test2",
    "instanceName": "CDI-9845_test2-145708",
    "orgId": "010cdi",
    "status": "COMPLETED",
    "assetType": "MTT",
    "correlationId": "NjNlNGFhY2QtYzFjZC00MT",
    "startTime": "2023-07-20T07:55:52Z",
    "endTime": "2023-07-20T07:56:03Z",
    "updateTime": null,
    "duration": 11,
    "errorMessage": "",
    "location": "Default",
    "rowsProcessed": 1000,
    "successRows": 1000,
    "errorRows": 0,
    "runtimeEnv": "runtime environment",
    "runtimeEnvName": "ASH0001",
    "startedBy": "CDI-9845_scheduler",
    "subtasks": 0,
    "runContext": "SCHEDULER",
    "extraData": "{\"saasLogId\":\"010AXYC100000000RC5P\", \"runtimeType\":\"\", \"isServerless\":\"false\", \"releaseVersion\":\"4400\", \"saasTaskId\":\"010AXY0Z0000000005N4\"}",
    "parentEntityId": null,
    "statusDisplayName": "SUCCESS",
    "updateDayHour": "2023-07-20T07:00:00Z",
    "taskId": "010AXY0Z0000000005N4",
    "stopOnError": "0",
    "requestId": null,
    "isAtScale": 0,
    "parAssetName": null,
    "parRunId": null,
    "parLocation": "n/a",
    "parAssetType": null,
    "agentId": "agentID",
    "agentName": "ASH0001",
    "projectName": "Default"
}

```

リニアタスクフロー

このリソースを使用して、リニアタスクフローの詳細、または組織の全リニアタスクフローの詳細を要求します。リニアタスクフローの作成、更新、または削除を行うこともできます。

GET 要求

特定のリニアタスクフローの詳細を要求する場合、URI にリニアタスクフロー ID またはリニアタスクフロー名を含めます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/workflow/<id>
```

```
/api/v2/workflow/name/<name>
```

URI にリニアタスクフロー名を使用し、リニアタスクフロー名にスペースが含まれる場合、スペースは%20 に置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/workflow/name/my%20linear%20taskflow
```

組織の全リニアタスクフローの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/workflow
```

必要に応じて、簡易モードで応答を受信して、パフォーマンスを大幅に改善することができます。簡易モードを有効にすると、応答には ScheduleId 属性と電子メール属性が含まれません。簡易モードで応答を受信するには、要求に simpleMode=true を含めます。次の URI を使用して、簡易モードで全リニアタスクフローの詳細を受信します。

```
/api/v2/workflow/?simpleMode=true
```

GET 応答

成功した場合、要求されたリニアタスクフローのワークフローオブジェクトを返します。または、組織の全リニアタスクフローの詳細を要求した場合は、組織の各リニアタスクフローのワークフローオブジェクトを返します。

エラーが発生した場合は、エラーオブジェクトを返します。

ワークフローオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	リニアタスクフロー ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	リニアタスクフロー名。
description	String	説明。
createTime	Date/Time	リニアタスクフローが作成された時間。
updateTime	Date/Time	リニアタスクフローの最終更新時刻。
createdBy	String	リニアタスクフローを作成したユーザー。
updatedBy	String	リニアタスクフローを最後に更新したユーザー。
errorTaskEmail		エラー通知用の taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。

フィールド	タイプ	説明
id	String	errorTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。ID。
emails	String	errorTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。タスクの完了が失敗すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
successTaskEmail		成功通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String	successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。ID。
emails	String	successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。タスクが正常に完了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
warningTaskEmail		警告通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String	warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。ID。
emails	String	warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。タスクがエラーで終了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
agentId	String	タスクを実行するエージェント。
runtimeEnvironmentId	String	タスクに使用されるランタイム環境。
scheduleId	String	リニアタスクフローに関連付けられたスケジュール（ある場合）。
preProcessingCmd	String	タスクの前に実行するコマンド。
postProcessingCmd	String	タスクの完了後に実行するコマンド。
tasks		リニアタスクフローに関連付けられた各タスクを定義します。各タスクの workflowTask オブジェクトが含まれます。
taskId	String	workflowTask オブジェクトに含まれます。タスク ID。
type	String	workflowTask オブジェクトに含まれます。 ワークフロータスクタイプ。次のいずれかのコードを返します。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。
name	String	workflowTask オブジェクトに含まれます。タスク名。

フィールド	タイプ	説明
stopOnError	Boolean	workflowTask オブジェクトに含まれます。 タスクを完了できない場合にリニアタスクフローを停止します。
stopOnWarning	Boolean	workflowTask オブジェクトに含まれます。 タスクが警告で完了する場合にリニアタスクフローを停止します。

POST 要求

リニアタスクフローを作成するには、次の URI を使用します。

/api/v2/workflow

リニアタスクフローの場所を指定する場合、要求にコンテナ ID を含めます。コンテナ ID が要求に含まれていない場合、リニアタスクフローは Default フォルダに作成されます。データ統合ユーザーインターフェイスでプロジェクトまたはフォルダのコンテナ ID を検索できます。**【エクスペローラ】** ページで、フォルダを選択します。URL の最後の文字列がコンテナ ID です。

例えば、次の URL のコンテナ ID は dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR です。

<https://na1.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/Explore/dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR>

リニアタスクフローを更新するには、次の例に示すように、ワークフロー ID を含めます。

/api/v2/workflow/<id>

リニアタスクフローを更新すると、データ統合は既存のリニアタスクフローを更新に置き換えます。

部分モードを使用して部分的な更新を送信できます。部分モードを使用して workflowTask オブジェクトのフィールドを更新する場合は、taskId フィールドを含める必要があります。部分モードを使用して要求を送信するには、JSON 要求を使用してヘッダーに次の行を含めます。

Update-Mode=PARTIAL

この URI で、**ワークフロー**オブジェクトには次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	リニアタスクフローの名前。
description	String		リニアタスクフローの説明。
containerId	String		リニアタスクフローを含めるためのプロジェクトまたはフォルダの ID。 要求に含まれていない場合、リニアタスクフローは Default フォルダに作成されます。
errorTaskEmail			エラー通知用の taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String		errorTaskEmail の taskEmail オブジェクトに含まれます。 ID。
emails	String		errorTaskEmail の taskEmail オブジェクトに含まれます。 タスクの完了が失敗すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。

フィールド	タイプ	必須	説明
successTaskEmail			成功通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String		successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。ID。
emails	String		successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。タスクが正常に完了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
warningTaskEmail			警告通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String		warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。ID。
emails	String		warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。タスクがエラーで終了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
tasks			workflowTask オブジェクトを使用して、リニアタスクフローに含める各タスクの以下の属性を定義します。
taskId	String	○	workflowTask オブジェクトに含まれます。タスク ID。
		はい	workflowTask オブジェクトに含まれます。 ワークフロータスクタイプ。次のコードのいずれかを使用します。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。
name	String	○	workflowTask オブジェクトに含まれます。タスクの名前。
stopOnError	Boolean		workflowTask オブジェクトに含まれます。 タスクを完了できない場合にリニアタスクフローを停止します。次のいずれかのオプションを使用します。 - 1. True。エラー時に停止します。 - 2. False。エラー時に停止しません。
stopOnWarning	Boolean		workflowTask オブジェクトに含まれます。 タスクが警告で完了する場合にリニアタスクフローを停止します。次のいずれかのオプションを使用します。 - 1. True。エラー時に停止します。 - 2. False。エラー時に停止しません。
scheduleId	String		リニアタスクフローのスケジュール。

POST 応答

成功した場合、作成または更新したリニアタスクフローのワークフロー応答オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

リニアタスクフローを削除するには、次の URI でリニアタスクフロー ID を使用します。

/api/v2/workflow/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

ID が 0000342J0000K の既存のリニアタスクフローを更新するには、次の要求を使用できます。

```
POST <serverUrl>/api/v2/workflow/0000342J0000K
Content-Type: application/json
Accept: application/json
icSessionId: <icSessionId>
```

```
{
  "@type": "workflow",
  "name": "linear taskflow",
  "tasks": [{
    "@type": "workflowTask",
    "taskId": "0000100I0000000000001G",
    "type": "DSS",
    "name": "DSS_DQ5",
    "stopOnError": "false"
  }, {
    "@type": "workflowTask",
    "taskId": "0000100Z000000000000B8",
    "type": "MTT",
    "name": "CIT_SimpleTemplate2",
    "stopOnError": "false"
  }, {
    "@type": "workflowTask",
    "taskId": "0000100G00000000000002",
    "type": "DRS",
    "name": "SF2File",
    "stopOnError": "false"
  }
]}
```

成功した要求は、更新したワークフローオブジェクトを返します。

マッピング

このリソースを使用して、組織内の 1 つのマッピングの詳細またはすべてのマッピングの詳細を要求します。

GET 要求

マッピングする GET 要求を使用して次の情報を要求できます。

- 組織内のすべてのマッピングの詳細。
- 特定のマッピングの詳細。
- マッピングのイメージ。

組織内のすべてのマッピングの詳細。

組織内のすべてのマッピングの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/mapping
```

特定のマッピングの詳細

特定のマッピングの詳細を要求するには、URI にマッピング ID またはマッピング名を含めます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/mapping/<id>
```

```
/api/v2/mapping/name/<name>
```

URI のマッピング名を使用して、マッピング名の値にスペースが含まれる場合、そのスペースを%20 に置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/mapping/name/my%20mapping
```

次の URI がある名前によって特定のマッピングを要求することもできます。

```
/api/v2/mapping/search?name=<name>
```

マッピングのイメージ

マッピングのイメージを要求するには、マッピング ID と、マッピングをデプロイするかどうかを指定します。次の URI を使用します。

```
/api/v2/mapping/<id>/image?deployed=<true|false>
```

以下に例を示します。

```
/api/v2/mapping/N0A1700000000001J/image?deployed=true
```

GET 応答

正常に実行された場合、要求したマッピングのマッピングオブジェクトを返します。

すべてのマッピングの詳細を要求した場合、パラメータの詳細を除く組織内のすべてのマッピングのマッピングオブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

マッピングオブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	マッピング ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	マッピング名。
description	String	マッピングの説明。
createTime	Date/ Time	マッピングが作成された日時。
updateTime	Date/ Time	マッピングの最終更新日時。
createdBy	String	マッピングを作成したユーザー。
updatedBy	String	マッピングを最後に更新したユーザー。

フィールド	タイプ	説明
bundleObjectId	String	マッピングを含むバンドルの ID（該当する場合）。
bundleVersion	String	マッピングを含むバンドルのバージョン（該当する場合）。
templateId	String	マッピングを表示するために内部で作成したテンプレートの ID。
deployTime	Date/ Time	マッピングがデプロイされた日時。
hasParameters	Boolean	マッピングにパラメータが含まれるかどうかを示します。true または false を返します。
valid	Boolean	マッピングが有効かどうかを示します。true または false を返します。
fixedConnection	Boolean	マッピングに固定された接続があるかどうかを示します。true または false を返します。
hasParametersDeployed	Boolean	マッピングにデプロイされたパラメータがあるかどうかを示します。true または false を返します。
fixedConnectionDeployed	Boolean	マッピングにデプロイされた固定された接続があるかどうかを示します。true または false を返します。
deployedTemplateId	String	デプロイされたマッピングを表示するために内部で作成されたテンプレートの ID。
tasks	Int	マッピングを使用するタスクの数。
parameters		マッピングで使用されるパラメータ。各パラメータの mtTaskParameter オブジェクトが含まれます。
id	Long	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。パラメータ ID。
name	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。パラメータ名。
type	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。パラメータのタイプ。
description	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。パラメータの説明。
customFuncId	String	マップレットタイプのパラメータのマップレット ID。

フィールド	タイプ	説明
uiProperties	String	<p>mtParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータのプロパティを表示します。以下の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - cnxtype。パラメータの接続タイプ。 - logcnx。論理接続。 - order。表示順序。 - wizstep。パラメータを表示するウィザードステップ。 - default。デフォルト値。 - visible。パラメータが表示可能かどうか。 - editable。パラメータが編集可能かどうか。 - required。パラメータが必要かどうか。 - paramtype。文字列パラメータの UI コントロールタイプ。次のいずれかの応答を返します。 <ul style="list-style-type: none"> - 条件。検索条件のプロンプト。 - 式。式エディタのプロンプト。 - フィールド。フィールド選択のプロンプト。 - フィールドマップ。フィールドマッピングのプロンプト。以下の属性が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> - lefttitle。フィールドマッピング表示の左側のタイトル。 - righttitle。フィールドマッピング表示の右側のタイトル。 - leftfs。フィールドマッピング表示の左側のテーブルに表示するフィールドのセット。 - rightfs。フィールドマッピング表示の右側のテーブルに表示するフィールドのセット。 - leftfilter。フィールドマッピング表示の左側のテーブルに表示されるフィールドを制限する正規表現。 - rightfilter。フィールドマッピング表示の右側のテーブルに表示されるフィールドを制限する正規表現。 - staticlist。フィールドマッピング表示の右側に表示するフィールドのリスト。
inOutParameters		マッピングに使用される入出力パラメータ。各入出力パラメータの mtTaskInOutParameter オブジェクトが含まれます。
id	Long	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ ID。
name	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ名。
description	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータの説明。

フィールド	タイプ	説明
initialValue	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。パラメータの初期値。
datatype	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。パラメータのデータ型。
precision	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。パラメータの精度。
scale	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。パラメータの位取り。
retentionPolicy	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。タスクがカレント値を保持するときを決定します。
aggregationType	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。タスクが実行されるパラメータの最後のカレント値を決定します。
currentValue	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。パラメータのカレント値。
mappingPreviewFileRecordId	String	マッピングのプレビュー時に使用されるイメージファイルの ID。
deployedMappingPreviewFileRecordId	String	デプロイされたマッピングのプレビュー時に使用されるイメージファイルの ID。
references		リファレンス情報。参照オブジェクトを返します。次の属性が含まれます。
refObjectId	String	参照オブジェクトに含まれます。
refType	String	参照オブジェクトに含まれます。

GET の例

組織内のすべてのマッピングの詳細を要求するには、次の要求を使用できます。

```
GET <serverUrl>/api/v2/mapping
Content-type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```

マッピングタスク

このリソースを使用して、マッピングタスクの詳細を要求します。マッピングタスクを作成、更新、または削除することもできます。

注: REST API を使用して、マップレットを含むマッピングを基にしたマッピングタスクを作成することはできません。

GET 要求

マッピングタスクの詳細を要求するために、タスク ID、フェデレーションタスク ID、またはタスク名を使用することができます。フェデレーションタスク ID をを見つけるには、ルックアップリソースを使用します。フェデレーションタスク ID は、ルックアップ応答の ID フィールドの値です。

次のいずれかの URI を使用します。

/api/v2/mttask/<id>

/api/v2/mttask/frs/<id>

/api/v2/mttask/name/<name>

URI のタスク名を使用して、タスク名にスペースが含まれる場合、そのスペースを%20 に置き換えます。以下に例を示します。

/api/v2/mttask/name/task%20name

GET 応答

要求されたタスク ID またはタスク名に対する mtTask オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

以下の表に、**mtTask** オブジェクトの属性を示します。

フィールド	タイプ	説明
id	String	タスク ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	タスク名。
agentId	String	タスクを実行するエージェント。
runtimeEnvironmentId	String	タスクに使用されるランタイム環境。
maxLogs	Long	データ統合が保持するセッションログファイルとインポートログファイルの数。
description	String	説明。
createTime	Date/Time	タスクが作成された日時。
updateTime	Date/Time	タスクの最終更新時刻。
createdBy	String	タスクを作成したユーザー。
updatedBy	String	タスクを最後に更新したユーザー。
schemaMode	String	データ統合がデータオブジェクトスキーマを更新するモード。
errorTaskEmail		エラー通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String	errorTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。ID。

フィールド	タイプ	説明
emails	String	errorTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。 タスクの完了が失敗すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
successTaskEmail		成功通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String	successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。 ID。
emails	String	successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。 タスクが正常に完了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
warningTaskEmail		警告通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String	warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。 ID。
emails	String	warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含まれます。 タスクがエラーで終了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
parameters		タスクに関連付けられているパラメータ。各パラメータの mtTaskParameter オブジェクトの属性が含まれます。
id	Long	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ ID。
name	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ名。
type	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータのタイプ。
text	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ値。
label	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータラベル。
description	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータの説明。
sourceConnectionId	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ソースの接続 ID。
targetConnectionId	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ターゲットの接続 ID。

フィールド	タイプ	説明
lookupConnectionId	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ルックアップの接続 ID。
transfConnectionId	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 マップレットの接続 ID。将来の使用のために予約済み。
midstreamConnectionId	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 中間ストリームトランスフォーメーションの接続 ID。
sourceObject	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ソースオブジェクト名。
sourceObjectLabel	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ソースオブジェクトラベル。
targetObject	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクト名。
targetObjectLabel	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトラベル。
lookupObject	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ルックアップオブジェクト名。
lookupObjectLabel	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ルックアップオブジェクトラベル。
midstreamObject	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 中間ストリームオブジェクト名。
midstreamObjectLabel	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 中間ストリームオブジェクトラベル。
newObject	Boolean	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 アプリケーションが新しいフラットファイルターゲットを作成するかどうか。ターゲットを作成するときに True を返します。
newObjectName	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 フラットファイルターゲットの名前。
operationType	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ターゲットのタスク操作。
truncateTarget	Boolean	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 書き込む前にアプリケーションがデータベースターゲットを切り捨てるかどうか。ターゲットを切り捨てるときに True を返します。
srcFFAttrs		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 flatFileAttrs オブジェクトにソースファイル属性を含むオブジェクト。

フィールド	タイプ	説明
tgtFFAttrs		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 flatFileAttrs オブジェクトにターゲットファイル属性含むオブジェクト。
lkpFFAttrs		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 flatFileAttrs オブジェクトにルックアップファイル属性を含むオブジェクト。
flatFileAttrs		ソース、ターゲット、ルックアップのファイルに属性を含むオブジェクト。
id	Long	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 フィールド ID。
delimiter	String	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 フィールドを区切るために使用される文字
textQualifier	String	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 テキスト文字列の境界を定義する引用符
escapeChar	String	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 引用符で囲まれていない文字列におけるフィールド区切り文字の直前の文字、または引用符で囲まれた文字列内の引用符の直前の文字。
headerLineNo	Int	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 ヘッダー行の数
firstDataRow	Int	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 ファイル内でデータが始まる行番号。
rowDelimiter	Int	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 改行文字。ASCII 文字の 10 進数コードを返します。
consecutiveDelimiter	Boolean	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 1 つ以上の連続する区切り文字を 1 つの文字として扱うかどうかを示します。
multiDelimitersAsAnd	Boolean	flatFileAttrs オブジェクトに含まれます。 区切り文字が複数の文字である場合に、その文字を 1 つの区切り文字として扱うか、複数の区切り文字として扱うかを示します。
customFuncCfg		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 タスクに使用されるマップレットに設定を定義するオブジェクト。 各マップレットの customFuncConfig オブジェクトに属性が含まれます。
id	Long	customFuncConfig オブジェクトに含まれます。 マップレット ID。

フィールド	タイプ	説明
connections		customFuncConfig オブジェクトに含まれます。 マップレットに使用される接続を定義するためのオブジェクト。 各接続に対する pcsConnection オブジェクトの情報が含まれます。
id	Long	pcsConnection オブジェクトに含まれています。
name	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続名。
type	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続タイプ。
subtype	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続のサブタイプ。
description	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続の説明。
connectionId	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続 ID。
showBusinessNames	Boolean	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 タスクがビジネス名を表示するかどうか。ビジネス名を表示するときに True を返します。
naturalOrder	Boolean	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 フィールドを表示するためにタスクが使用する順序。接続によって返される順序の場合、True を返します。アルファベット順の場合、False を返します。
isRESTModernSource	Boolean	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 拡張されたオブジェクトを有効にするには常に True に設定します。
customQuery	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 Mapping Designer またはマッピングタスククエリオプションに指定されたカスタムクエリ。
overriddenFields		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 マッピングタスクのフィールドメタデータに変更します。上書き済みフィールドごとに mtTaskOverriddenField オブジェクトの情報が含まれます。
name	String	mtTaskOverriddenField オブジェクトに含まれます。 フィールド名。
type	String	mtTaskOverriddenField オブジェクトに含まれます。 フィールドタイプ。

フィールド	タイプ	説明
precision	Int	mtTaskOverriddenField オブジェクトに含まれます。 フィールドの長さ（バイト）。
scale	Int	mtTaskOverriddenField オブジェクトに含まれます。 数値の小数点以下の桁数。
platformType	String	mtTaskOverriddenField オブジェクトに含まれます。 フィールドのプラットフォームデータ型。
tgtFieldRefs	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 Salesforce フィールド参照 ID。
extendedObject		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 複数のオブジェクトが連結したソースまたはターゲット。
targetUpdateColumns	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 ターゲットオブジェクトでレコードの更新に使用されるカラム名のリスト。
runtimeAttrs	String	mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 タスクに使用される接続の詳細接続プロパティ。 runtimeAttrs オブジェクトを使用して、詳細接続プロパティのキーと値のペアを定義します。各キーと値のペアにエントリオブジェクトを使用します。 属性名の場合、データ統合ユーザーインターフェースに表示される詳細接続プロパティ名を使用します。 詳細接続プロパティの詳細については、データ統合ヘルプを参照してください。
dataFormat		mtTaskParameter オブジェクトに含まれます。 接続によって指定されたデータ形式。 各コネクタの dataFormat オブジェクトに属性が含まれます。 dataFormat オブジェクトはすべてのコネクタには適用できません。使用しているコネクタに dataFormat が適用可能かどうかを確認するには、関連するコネクタのヘルプを参照してください。
formatId		dataFormat オブジェクトに含まれます。 FLAT、AVRO、PARQUET、JSON、または XML など、コネクタによって指定されたデータ形式の種類。
dataFormatAttributes		dataFormat オブジェクトに含まれます。 データ形式の種類の形式属性。例えば、フラットファイルの場合、dataFormatAttributes オブジェクトには escapeChar、delimiter、および qualifier などの値が含まれます。
sequences		シーケンストランスフォーメーションの値を定義します。各シーケンストランスフォーメーションの sequenceDefinition オブジェクトが含まれます。
txName	String	sequenceDefinition オブジェクトに含まれます。 シーケンストランスフォーメーションの名前。

フィールド	タイプ	説明
initialValue	String	sequenceDefinition オブジェクトに含まれます。 シーケンスの初期値。
currentValue	String	sequenceDefinition オブジェクトに含まれます。 トランスフォーメーションに追加される最後の行に使用される値。
inOutParameters		タスクに使用される入出力パラメータ。各入出力パラメータの mtTaskInOutParameter オブジェクトが含まれます。
id	Long	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ ID。
name	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータ名。
description	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータの説明。
initialValue	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータの初期値。
datatype	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータのデータ型。
precision	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータの精度。
scale	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータの位取り。
retentionPolicy	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 タスクがカレント値を保持するときを決定します。
aggregationType	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 タスクが実行されるパラメータの最後のカレント値を決定します。
currentValue	String	mtTaskInOutParameter オブジェクトに含まれます。 パラメータのカレント値。
lastRunTime	Date/Time	タスクが最後に実行した時間。
mappingId	String	マッピング ID。マッピングがタスクの基準となる場合に返されます。
scheduleId	String	タスクに関連するスケジュール（該当する場合）。
shortDescription	String	説明の最初の 50 文字。
sessionProperties	String	タスクに関連付けられた詳細セッションプロパティ。 sessionProperties オブジェクトに詳細セッションプロパティが含まれます。

フィールド	タイプ	説明
outboundMessageUrlToken	String	タスクの送信メッセージの URL トークン（存在する場合）。
outboundMessageUrlQueueTime	Long	タスクの送信メッセージの URL キュー時間（存在する場合）。
preProcessingCmd	String	タスクの前に実行するコマンド。
postProcessingCmd	String	タスクの完了後に実行するコマンド。
parameterFileName	String	タスクで使用されるパラメータファイルの名前。
verbose	Boolean	データ統合が、トラブルシューティングの目的に使用するためにログに追加のデータを生成するかどうか。True または False を返します。
connRuntimeAttrs		mtTaskParameter パラメータに含まれます。各接続の mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトを含みます。connRuntimeAttrs オブジェクトは CDC コネクタに適用されます。
id	String	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含まれます。各 mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトの内部 ID。
name	String	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含まれます。CDC コネクタの接続ランタイム属性の内部 ID。
value	String	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含まれます。名前属性に関連付けられている値。
connectionID	String	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含まれます。CDC 接続 ID。

POST 要求

マッピングタスクを作成するには、次の URI を使用します。

/api/v2/mttask/

タスクに場所を指定する場合、要求にコンテナ ID を含めます。コンテナ ID が要求に含まれていない場合、タスクは Default フォルダに作成されます。データ統合ユーザーインターフェイスでプロジェクトまたはフォルダのコンテナ ID を検索できます。**[エクスプローラ]** ページで、フォルダを選択します。URL の最後の文字列がコンテナ ID です。

例えば、次の URL のコンテナ ID は dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR です。

<https://na1.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/Explore/dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR>

マッピングタスクを更新するには、URI にタスク ID またはフェデレーションタスク ID を含めます。フェデレーションタスク ID を見つけるには、ルックアップリソースを使用します。フェデレーションタスク ID は、ルックアップ応答の ID フィールドの値です。

次のいずれかの URI を使用します。

/api/v2/mttask/<id>

/api/v2/mttask/frs/<id>

部分モードを使用して部分的な更新を送信できます。部分モードを使用してコレクション内にあるフィールドを更新する場合は、コレクションにキーフィールドを含める必要があります。以下の表に、mttask リソースのコレクションと対応するキーフィールドを示します。

コレクション	キーフィールド
mtTaskInOutParameter	name
sequenceDefinition	txName
mtTaskOverriddenField	name
mtTaskParameter	name type
オブジェクト	name

部分モードを使用して要求を送信するには、JSON 要求を使用してヘッダーに次の行を含めます。

Update-Mode=PARTIAL

以下の表に、mtTask オブジェクトに含めることができる属性を示します。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String		タスクの名前。
containerId	String		タスクを含めるためのプロジェクトまたはフォルダの ID。 要求に含まれていない場合、タスクは Default フォルダに作成されます。
description	String		タスクの説明。
runtimeEnvironmentId	String	○	タスクに使用されるランタイム環境の ID。
mappingId	String	マッピングがタスクの基準となる場合に必須。	タスクで使用されるマッピングの ID。
scheduleId	String		タスクに関連するスケジュール (該当する場合)。
sessionProperties	String		詳細セッションプロパティ。 sessionProperties オブジェクトを使用して、詳細セッションプロパティのキーと値のペアを定義します。各キーと値のペアにエントリオブジェクトを使用します。 属性名の場合、データ統合ユーザーインターフェースに表示される詳細セッションプロパティ名を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
schemaMode	String		<p>データ統合がデータオブジェクトスキーマを更新するモード。</p> <p>以下のいずれかの値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 非同期 - 動的 <p>デフォルトは「非同期」です。</p> <p>複数のマッピングタスクを同時に実行する場合、データ統合はスキーマモードに関係なく、最新のスキーマを取得します。</p>
errorTaskEmail			エラー通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String		errorTaskEmail の taskEmail オブジェクトに含めます。 ID。
emails	String		errorTaskEmail の taskEmail オブジェクトに含めます。 タスクの完了が失敗すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
successTaskEmail			成功通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String		successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。 ID。
emails	String		successTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。 タスクが正常に完了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
warningTaskEmail			警告通知に対する taskEmail オブジェクトを含むオブジェクト。
id	String		warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。 ID。

フィールド	タイプ	必須	説明
emails	String		warningTaskEmail に対する taskEmail オブジェクトに含めます。 タスクがエラーで終了すると電子メール通知を受信する電子メールアドレス。
parameters			タスクに関連付けられているパラメータ。mtTaskParameter オブジェクトを使用して、各パラメータの次の属性を定義します。
id	Long		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 システムが生成したパラメータ ID。この値は更新できません。
name	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 パラメータ名。 mtTaskParameter コレクションのキーフィールド。
type	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 パラメータのタイプ。 mtTaskParameter コレクションのキーフィールド。以下のいずれかの値を使用します。 - STRING - SOURCE - TARGET - MAPPLET - LOOKUP
text	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 パラメータ値。
label	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 パラメータラベル。
description	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 パラメータの説明。
sourceConnectionId	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ソースの接続 ID。

フィールド	タイプ	必須	説明
targetConnectionId	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ターゲットの接続 ID。
lookupConnectionId	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ルックアップの接続 ID。
newFlatFile	Boolean		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 データ統合が新しいフラットファイルターゲットを作成するかどうか。以下のいずれかの値を使用します。 - True。 - False。
flatFileName	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 フラットファイルターゲットの名前。
newObject	Boolean		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 アプリケーションが新しいフラットファイルターゲットを作成するかどうか。ターゲットを作成するときに True を返します。
newObjectName	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 フラットファイルターゲットの名前。
operationType	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ターゲットのタスク操作。 以下のいずれかの値を使用します。 - 挿入 - 更新/挿入 - Update - Delete - 行ベース 注: 行ベースの値は、ユーザーインタフェースのデータドリブンの値に対応します。

フィールド	タイプ	必須	説明
dataDrivenCondition	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 operationType が行ベースの場合に適用されます。 挿入、更新、削除、または拒否操作の行にフラグを立てる式を定義します。例: IIF(ISNULL (ISDELETED), DD_INSERT)
truncateTarget	Boolean		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 書き込む前にアプリケーションがデータベースターゲットを切り捨てるかどうか。以下のいずれかの値を使用します。 - True。 - False。
srcFFAttrs			mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ソースファイル属性のオブジェクト。flatFileAttrs オブジェクトの属性を含めます。
tgtFFAttrs			mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ターゲットファイル属性のオブジェクト。flatFileAttrs オブジェクトの属性を含めます。
lkpFFAttrs			mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 ルックアップファイル属性のオブジェクト。flatFileAttrs オブジェクトの属性を含めます。
flatFileAttrs			ソース、ターゲット、およびルックアップファイルの属性を保持するオブジェクト。
id	Long		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 フィールド ID。
delimiter	String		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 フィールドを区切るために使用される文字。
textQualifier	String		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 テキスト文字列の境界を定義する引用符。

フィールド	タイプ	必須	説明
escapeChar	String		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 引用符で囲まれていない文字列に埋め込まれたフィールド区切り文字の直前の文字、または引用符で囲まれた文字列内の引用符の直前の文字。
headerLineNo	Int		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 ヘッダー行の数。
firstDataRow	Int		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 ファイル内でデータが始まる行番号。
rowDelimiter	Int		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 改行文字。1 から 32 までの ASCII 文字の 10 進数コードを入力します。 デフォルト値は 10 で、これは改行文字です。
consecutiveDelimiter	Boolean		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 1 つ以上の連続する区切り文字を 1 つの文字として扱うかどうかを示します。デフォルトは false です。
multiDelimitersAsAnd	Boolean		flatFileAttrs オブジェクトに含めます。 区切り文字が複数の文字である場合に、その文字を 1 つの区切り文字として扱うか、複数の区切り文字として扱うかを示します。デフォルトは true です。
customFuncCfg			mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 タスクで使用されるマップレットの設定を定義するためのオブジェクト。customFuncConfig オブジェクトを使用して各マップレットを定義します。
id	Long		customFuncConfig オブジェクトに含めます。 マップレット ID。

フィールド	タイプ	必須	説明
connections			customFuncConfig オブジェクトに含めます。 マップレットに使用される接続を定義するためのオブジェクト。各接続に pcsConnection オブジェクトを使用します。 接続の詳細については、「 接続 」(ページ 329)を参照してください。
id	Long		pcsConnection オブジェクトに含めます。
name	String		pcsConnection オブジェクトに含めます。 接続名。
type	String		pcsConnection オブジェクトに含めます。 接続タイプ。
subtype	String		pcsConnection オブジェクトに含めます。 接続のサブタイプ。
description	String		pcsConnection オブジェクトに含めます。 接続の説明。
connectionId	String		pcsConnection オブジェクトに含めます。 接続 ID。
overriddenFields			mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 マッピングタスクのフィールドメタデータに変更します。上書き済みフィールドごとに mtTaskOverriddenField オブジェクトを使用します。
name	String		mtTaskOverriddenField オブジェクトに含めます。 フィールド名。 mtTaskOverriddenField コレクションのキーフィールド。
type	String		mtTaskOverriddenField オブジェクトに含めます。 フィールドタイプ。

フィールド	タイプ	必須	説明
precision	Int		mtTaskOverriddenField オブジェクトに含めます。 フィールドの長さ（バイト）。
scale	Int		mtTaskOverriddenField オブジェクトに含めます。 数値の小数点以下の桁数。
platformType	String		mtTaskOverriddenField オブジェクトに含めます。 フィールドのプラットフォームデータ型。
tgtFieldRefs	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 Salesforce フィールド参照 ID。
runtimeAttrs	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 タスクに使用される接続の詳細接続プロパティ。 runtimeAttrs オブジェクトを使用して、詳細接続プロパティのキーと値のペアを定義します。各キーと値のペアにエントリオブジェクトを使用します。 属性名の場合、データ統合ユーザーインターフェイスに表示される詳細接続プロパティ名を使用します。 詳細接続プロパティの詳細については、データ統合のヘルプを参照してください。
parameterFileName	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 タスクで使用されるパラメータファイルの名前。
parameterFileDir	String		mtTaskParameter オブジェクトに含めます。 パラメータファイルを含むディレクトリのパス。

フィールド	タイプ	必須	説明
dataFormat			<p>mtTaskParameter オブジェクトに含めます。</p> <p>接続によって指定されたデータ形式。</p> <p>各コネクタの dataFormat オブジェクトに属性を含めます。</p> <p>dataFormat オブジェクトはすべてのコネクタには適用できません。使用しているコネクタに dataFormat が適用可能かどうかを確認するには、関連するコネクタのヘルプを参照してください。</p>
formatId	String		<p>dataFormat オブジェクトに含めます。</p> <p>FLAT、AVRO、PARQUET、JSON、または XML など、コネクタによって指定されたデータ形式の種類。</p>
fwConfigId	String	formatId が Flat に設定され、固定長モードが使用されている場合に必須。	<p>dataFormat オブジェクトに含めます。</p> <p>有効な固定長形式 ID。</p>
dataFormatAttributes	String		<p>dataFormat オブジェクトに含めます。</p> <p>データ形式の種類の形式属性。例えば、フラットファイルデータ形式の場合、dataFormatAttributes オブジェクトには escapeChar、delimiter、および qualifier などの値を含めます。</p>
inOutParameters			<p>タスクに使用される入出力パラメータ。各入出力パラメータの mtTaskInOutParameter オブジェクトを含めます。</p>
id	Long		<p>mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。</p> <p>パラメータ ID。</p>
name	String		<p>mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。</p> <p>パラメータ名。</p> <p>mtTaskInOutParameter コレクションのキーフィールド。</p>
description	String		<p>mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。</p> <p>パラメータの説明。</p>

フィールド	タイプ	必須	説明
initialValue	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 パラメータの初期値。
datatype	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 パラメータのデータ型。
precision	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 パラメータの精度。
scale	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 パラメータの位取り。
retentionPolicy	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 タスクがカレント値を保持する ときを決定します。次のいずれ かの値を含めます。 - ON_SUCCESS_OR_WARNING - ON_SUCCESS - ON_WARNING - NEVER
aggregationType	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 タスクが実行されるパラメータ の最後のカレント値を決定しま す。
currentValue	String		mtTaskInOutParameter オブジェクトに含めます。 パラメータのカレント値。
outboundMessageUrlToken	String		タスクの送信メッセージの URL トークン（存在する場合）。
outboundMessageUrlQueueTime	Long		タスクの送信メッセージの URL キュー時間（存在する場合）。
preProcessingCmd	String		タスクの前に実行するコマン ド。
postProcessingCmd	String		タスクの完了後に実行するコマ ンド。

フィールド	タイプ	必須	説明
maxLogs	Long		保持するセッションログファイルとインポートログファイルの数。デフォルトでは、データ統合は各タイプのログファイルを 10 回の実行まで保存し、その後の新しい実行ではログファイルを上書きします。
verbose	Boolean		トラブルシューティングの目的に使用するためにログに追加のデータを生成するかどうか。True または False を使用してください。
agentId	String		タスクを実行するエージェント。
sequences			シーケンストランスフォーメーションの値を定義します。各シーケンストランスフォーメーションの sequenceDefinition オブジェクトを使用します。
txName	String		sequenceDefinition オブジェクトに含めます。 シーケンストランスフォーメーションの名前。 sequenceDefinition コレクションのキーフィールド。
initialValue	String		sequenceDefinition オブジェクトに含めます。 シーケンスの初期値。
currentValue	String		sequenceDefinition オブジェクトに含めます。 トランスフォーメーションに追加される最後の行に使用される値。
connRuntimeAttrs			mtTaskParameter パラメータに含めます。変更されるランタイム属性に各 CDC コネクタの mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトを含めます。 connRuntimeAttrs オブジェクトは CDC コネクタに適用されます。
id	String	connRuntimeAttrs オブジェクトで必須。	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含めます。 mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトの内部 ID を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	mtTaskConnRuntimeAttr で必須。	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含めます。 ランタイム属性には次のいずれかの名前を使用します。 - [コミットあたりの最大行数] : 101 - [コミットあたりの最小行数] : 102 - [最大待ち時間 (秒)] : 103 - [リアルタイムフラッシュ待ち時間 (ミリ秒)] : 104 - [再起動ポイント] : 105 - [再起動リビジョン] : 106 - [UOW カウント] : 107 - [削除または挿入として更新] : 108 - [再起動オプション] : 110

フィールド	タイプ	必須	説明
value	String		<p>mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含めます。</p> <p>指定した属性名に有効な値を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - コミットあたりの最大行数 0～9999999999 です。 - コミットあたりの最小行数。0～9999999999 です。 - 最大待ち時間 (秒)。2～360。 - リアルタイムフラッシュ待ち時間 (ミリ秒)。-1～9999999999。 - 再起動ポイント [再起動オプション] と組み合わせて設定します。0 (利用可能で最も早い時間)。空の文字列 (ログの末尾)。有効なタイムスタンプ (ログの指定したタイムスタンプ)。有効な PWX トークン (ログの指定したトークンで再起動)。 - 再起動リビジョン有効なりビジョン番号 (0～2147483647)。 - UOW カウント-1～9999999999。 - 削除または挿入として更新します。0 (更新としての処理)。1 (削除および挿入としての処理)。 - 再起動オプション: [再起動ポイント] と組み合わせて設定します。0 (利用可能で最も早い時間)。1 (ログの末尾)。2 (時間ベース)。3 (PWX トークン)。
connectionID	String	mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトで必須。	<p>mtTaskConnRuntimeAttr オブジェクトに含めます。</p> <p>CDC 接続 ID を含めます。</p>

POST 応答

成功した場合、作成または更新した mtTask オブジェクトを返します。エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

マッピングタスクを削除するには、次の URI のタスク ID を使用します。

/api/v2/mttask/<id>

注: フェデレーションタスク ID を使用してマッピングタスクを削除することはできません。

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

XML で新しいマッピングタスクを作成するには、次の要求を使用できます。

```
POST <serverUrl>/api/v2/mttask
Content-Type: application/xml
Accept: application/xml
icSessionId: <icSessionId>
```

```
<mtTask>
  <errorTaskEmail>
    <taskEmail>
      <emails>email_dev@company.com, email2_dev@company.com</emails>
    </taskEmail>
  </errorTaskEmail>
  <successTaskEmail>
    <taskEmail>
      <emails>reviewer@company.com</emails>
    </taskEmail>
  </successTaskEmail>
  <warningTaskEmail>
    <taskEmail>
      <emails>email_dev@company.com, email2_dev@company.com</emails>
    </taskEmail>
  </warningTaskEmail>
  <parameters>
    <mtTaskParameter>
      <name>sort convert plugin</name>
      <type>MAPPLET</type>
    </mtTaskParameter>
  </parameters>
  <parameters>
    <mtTaskParameter>
      <name>DB lookup</name>
      <type>LOOKUP</type>
    </mtTaskParameter>
  </parameters>
  <sessionProperties>
    <entry>
      <key>Java Classpath</key>
      <value>C:/test/classpathnew</value>
    </entry>
    <entry>
      <key>Pushdown Optimization</key>
      <value>To Source</value>
    </entry>
    <entry>
      <key>Write Backward Compatible Session Log File</key>
      <value>no</value>
    </entry>
  </sessionProperties>
  <runtimeEnvironmentId>00000398D00000004</runtimeEnvironmentId>
  <sequences>
    <sequenceDefinition>
      <txName>SeqGen1</txName>
      <initialValue>1</initialValue>
      <currentValue>62</currentValue>
    </sequenceDefinition>
  </sequences>
  <preProcessingCmd>echo CurrentDate is 'date'</preProcessingCmd>
  <postProcessingCmd>echo PR-PostProcess</postProcessingCmd>
  <masterTemplateId>00034234M00000R</masterTemplateId>
</mtTask>
```

成功した要求は mtTask オブジェクトを返します。

マスク方法のマスクルールパラメータ属性

マッピングタスクを実行するときに、マスクルールパラメータのパラメータ属性値を定義します。適用するマスキング方法に応じて定義する属性。

例えば、都市の置換マスキング方法で請求先都市フィールドをマスクするには、次の属性を定義します。

```
[
  {
    "referenceField": "BillingCity",
    "pcType": "string",
    "precision": 40,
    "paramMap": {
      "isSeeded": "TRUE",
      "seedValue": "190",
      "dicName": "informatica_mask_us_towns.dic",
      "outputPort": "TOWNNAMES",
    },
    "maskingType": "Substitution City"
  }
]
```

次の表に、各マスキング方法に定義する属性を示します。

マスキング方法	属性
クレジットカード	<ul style="list-style-type: none">- isSeeded- seedValue- keepCardIssuer- targetIssuer
カスタム置換	<ul style="list-style-type: none">- DicConn- DicName- outputPort- isSeeded- seedValue
電子メールアドレス	<ul style="list-style-type: none">- isSeeded- seedValue
IP アドレス	<ul style="list-style-type: none">- isSeeded- seedValue
キー日付	<ul style="list-style-type: none">- isSeeded- seedValue
キー数値	<ul style="list-style-type: none">- override- isSeeded- seedValue
キー文字列	<ul style="list-style-type: none">- isSeeded- seedValue- useMaskFormat- maskFormat- useSrcFilter- srcFilterOption- srcFilterStr- useTargetFilter- targetFilterOption- targetFilterStr

マスキング方法	属性
電話番号	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue
ランダム日付	<ul style="list-style-type: none"> - useRange - minWidth - maxWidth - useBlurring - blurringUnit - blurLow - blurHigh
ランダム数値	<ul style="list-style-type: none"> - useRange - minWidth - maxWidth - useBlurring - blurringOption - blurLow - blurHigh
ランダム文字列	<ul style="list-style-type: none"> - useRange - minWidth - maxWidth - useMaskFormat - useSrcFilter - srcFilterStr - useTargetFilter - targetFilterOption - targetFilterStr
SIN	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - startDigit - startDigitValue
SSN	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue
都市の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
国の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
女性の名前の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
姓の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort

マスキング方法	属性
男性の名前の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
名前の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
役職の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
州の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
番地の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
米国郵便番号の置換	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue - DicName - outputPort
URL	<ul style="list-style-type: none"> - isSeeded - seedValue

マスクルールパラメータ属性値

マッピングタスクを実行するときに要求されたパラメータ属性の値を定義します。

以下の表に、マスクルールパラメータに定義する属性と値を示します。

属性	説明
blurHigh	必須。ブラーの上限値。値を数字で指定できます。 デフォルトは 0 です。
blurLow	必須。ブラーの下限值。値を数字で指定できます。 デフォルトは 0 です。
blurringOption	必須。数値型ポートのブラーの単位。以下の値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> - パーセント。パーセント値に基づいてデータをブラーします。 - 固定。固定値に基づいてデータをブラーします。

属性	説明
blurringUnit	<p>必須。日付ポートのブラーの単位。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Year。年の値をブラーします。 - Month。月の値をブラーします。 - Day。日の値をブラーします。 - Hour。時の値をブラーします。 - Minute。分の値をブラーします。 - Second。秒の値をブラーします。 <p>デフォルトは年です。</p>
delimiter	<p>マスクされた電子メールアドレスで名と姓を区切るための区切り文字。次のように値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 。 - - - _
DicConn	<p>ディクショナリファイルを含む接続。ディクショナリファイルでディレクトリを指すフラットファイル接続を作成します。フラットファイル接続名を指定します。</p>
dicName	<p>フラットファイルのディクショナリファイルの名前。ディクショナリファイルは Secure Agent の rdtmDir ディレクトリにあります。</p>
domainConstantValue	<p>マスクされた電子メールアドレスで使用するドメイン名。</p> <p>デフォルトは company.com です。</p>
expText	<p>式を設定するための属性。</p>
firstNameColumn	<p>マスクされた電子メールアドレスで使用する最初の名前カラム。ポートの名前を指定します。</p>
firstNameLength	<p>マスクされた電子メールアドレスの最初の名前の長さ。値を数字で指定できます。</p> <p>デフォルトは 5 です。</p>
isSeeded	<p>再現可能な出力を設定するための属性。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。再現可能な出力でデータをマスクします。true の場合、シード値を指定します。 - FALSE。ランダムな出力でデータをマスクします。 <p>デフォルトは TRUE です。</p>
keepCardIssuer	<p>同じ発行者からのクレジットカード番号でクレジットカードフィールドをマスクします。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。マスクされたデータで同じカード発行者を保持します。 - FALSE。マスクされたデータで指定したカード発行者を使用します。false の場合、targetIssuer 属性を定義します。 <p>デフォルトは TRUE です。</p>
lastNameColumn	<p>マスクされた電子メールアドレスで使用する姓カラム。ポートの名前を指定します。</p>
lastNameLength	<p>マスクされた電子メールアドレスの姓の最大長。値を数字で入力できます。</p> <p>デフォルトは 5 です。</p>

属性	説明
maskFormat	<p>置き換える文字の種類を入力データの文字ごとに定義します。各文字の種類を英文字、数字、または英数字に制限できます。</p> <p>以下の文字を使用して、マスク形式を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - A. アルファベット - D. 数字 0-9 - N. 英数字 - X. 任意の文字 - R. 上記以外の文字 <p>ADNX+R として値を指定します。最後の文字は R にする必要があります。例えば、マスクされた出力をアルファベットで始めるには、A+R として値を入力します。</p> <p>デフォルトは R です。</p>
maxWidth	<p>必須。範囲の最小値。値は数値で入力します。</p> <p>デフォルトは 0 です。</p>
maxWidth	<p>必須。範囲の最大値。日時型の値を入力します。</p> <p>デフォルトは、01/19/2038 03:13:59 です。</p>
minWidth	<p>必須。範囲の最小値。日時型の値を入力します。</p> <p>デフォルトは、01/01/1970 00:00:00 です。</p>
minWdth	<p>必須。範囲の最小値。値は数値で入力します。</p> <p>デフォルトは 0 です。</p>
outputPort	ディクショナリからの出力ポートカラム。
seedValue	<p>シード値。1~999 の値を指定します。</p> <p>デフォルトは 190 です。</p>
srcFilterOption	<p>必須。ソースフィルタ文字に適用するフィルタのタイプ。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 指定文字のみマスク。ソース内の指定した文字のみマスクします。 - 次のもの以外をすべてマスク。指定した文字を除くソース内の文字すべてをマスクします。
srcFilterStr	必須。マスクするソース文字列内の文字を定義します。
startDigit	<p>必須。マスクされた SIN の最初の桁を定義します。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。マスクされた SIN の最初の桁として指定する数字を使用します。 - FALSE。マスクされた SIN の最初の桁としてランダムな数字を使用します。 <p>デフォルトは FALSE です。true の場合、startDigitValue 属性を定義します。</p>
startDigitValue	<p>必須。マスクされた SIN の最初の桁を定義します。0~9 の値を指定します。</p> <p>デフォルトは 0 です。</p>

属性	説明
targetFilterOption	<p>必須。ターゲットフィルタ文字に適用するフィルタのタイプ。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 指定文字のみ使用。指定するターゲット文字のみを使用します。 - 指定文字以外をすべて使用。指定する文字を除くターゲットにすべての文字を使用します。
targetFilterStr	<p>必須。ターゲット文字列の文字を、ターゲットフィルタ文字で定義した文字に置き換えます。例えば、マスクされた出力に英文字の大文字をすべて含めるよう設定するには、次の文字を入力します。 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ</p>
targetIssuer	<p>必須。マスクされた値には選択する発行者からのクレジットカード番号が含まれます。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ANY - JCB - VISA - AMEX - DISCOVER - MASTERCARD
useBlurring	<p>必須。日付の単位に適用する偏差に基づいて日付をマスクします。マスクされた日付は差異の範囲内です。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。日付の単位に指定する差異を適用します。 - FALSE。差異を適用しません。 <p>デフォルトは FALSE です。</p>
useMaskFormat	<p>マスク形式を指定します。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。指定する形式に基づいてデータをマスクします。 - FALSE。ランダムな形式でデータをマスクします。 <p>デフォルトは TRUE です。true の場合、maskFormat 属性を定義します。</p>
useRange	<p>必須。フィールドの精度に基づいて、最小値と最大値の範囲の間にある 1 つの戻り値を指定します。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。指定する範囲内でデータをマスクします。 - FALSE。データをマスクするために指定した範囲を使用しません。 <p>範囲を定義するには、範囲の上限と下限を設定するか、元のソース値に対する偏差に基づくブラー範囲を設定します。</p> <p>デフォルトは FALSE です。</p>
useSrcFilter	<p>マスクするソース文字列内の文字を指定します。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。指定するソース文字列内の文字をマスクします。 - FALSE。ソース文字列内でランダムな文字をマスクします。 <p>デフォルトは FALSE です。</p>
useTargetFilter	<p>マスクされた文字列内で使用する文字を指定します。以下の値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - TRUE。マスクされた文字列で指定する文字を使用します。 - FALSE。マスクされた文字列でランダムな文字を使用します。 <p>デフォルトは FALSE です。</p>

PowerCenter マップレット

このリソースを使用して、PowerCenter マップレットの詳細や、組織内のすべての PowerCenter マップレットのリストを要求します。また、このリソースを使用して、PowerCenter マップレットをアップロードまたは削除することもできます。

注: 組織内のすべてのマップレットのリストを要求するには、objects リソースを使用します。詳細については、「[アセットの検索](#)」 (ページ 212) を参照してください。

GET 要求

組織内のすべての PowerCenter マップレットのリストを要求するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/customFunc
```

単一のマップレットの詳細を要求するには、要求でマップレット ID またはマップレット名を使用できます。次のいずれかの URI を使用します。

```
/api/v2/customFunc/<id>
```

```
/api/v2/customFunc/name/<name>
```

マップレット名を使用し、そのマップレット名にスペースが含まれる場合は、スペースを%20 で置き換えます。以下に例を示します。

```
/api/v2/customFunc/name/my%20mapplet
```

GET 応答

マップレットのリストに関する要求が正常に実行されると、組織内のすべての PowerCenter マップレットに customFunc オブジェクトが返されますが、入出力や接続の詳細は含まれません。

単一のマップレットの詳細に関する要求が正常に実行されると、customFunc オブジェクトが返されます。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

customFunc オブジェクトには次の属性が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
id	String	マップレット ID。
orgId	String	組織 ID。
name	String	マップレット名。
description	String	マップレットの説明。
createTime	Date/Time	マップレットが作成された時刻。
updateTime	Date/Time	マップレットが最後に更新された時刻。
createdBy	String	マップレットを作成したユーザー。
updatedBy	String	マップレットを最後に更新したユーザー。
mappletName	String	マップレットで使用するマップレットトランスフォーメーションの名前。
active	Boolean	マップレットがアクティブかどうかを示します。true または false を返します。

フィールド	タイプ	説明
mappletXmlFile	String	マップレットの XML ファイル。
入力	String	<p>マップレットの入力フィールド。フィールドオブジェクトの各フィールドに関する次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - id - name - type - label - parentObject - precision - pcType - scale - columnIndex - isKey - isExternalId - isNullable - isUnique - isCreateable - isCalculated - isUpdateable - isFilterable - linkedFields - relatedInfos。fieldRelatedInfo オブジェクトには次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> - id - referenceObject - relationshipName - javaType - showLabel - naturalOrder - customProperties

フィールド	タイプ	説明
outputs	String	<p>マップレットの出力フィールド。フィールドオブジェクトの各フィールドに関する次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - id - name - type - label - parentObject - precision - pcType - scale - columnIndex - isKey - isExternalId - isNullable - isUnique - isCreateable - isCalculated - isUpdateable - isFilterable - linkedFields - relatedInfos。fieldRelatedInfo オブジェクトには次の情報が含まれています。 <ul style="list-style-type: none"> - id - referenceObject - relationshipName - javaType - showLabel - naturalOrder - customProperties
connections		マップレットの接続情報。各接続の pcsConnection オブジェクトを含みます。
id	Long	pcsConnection オブジェクトに含まれています。
name	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続名。
type	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続タイプ。
subtype	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続のサブタイプ。
description	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続の説明。
connectionId	String	pcsConnection オブジェクトに含まれています。 接続 ID。

POST 要求

新しい PowerCenter マップレットをアップロードするには、次の URI を使用します。

/api/v2/customFunc

マップレットの場所を指定する場合、要求にコンテナ ID を含めます。コンテナ ID が要求に含まれていない場合、マップレットは Default フォルダに作成されます。データ統合ユーザーインターフェースでプロジェクトまたはフォルダのコンテナ ID を検索できます。**[エクスプローラ]** ページで、フォルダを選択します。URL の最後の文字列がコンテナ ID です。

例えば、次の URL のコンテナ ID は dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR です。

`https://na1.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/Explore/dH2DuGJYda7ijgW4Sm32sR`

既存の PowerCenter マップレットを更新するには、次の URI にマップレット ID を含めます。

`/api/v2/customFunc/<id>`

注: 要求本文を multipart/form-data としてエンコードします。

この URI では、要求本文に次の属性を使用できます。

フィールド	タイプ	必須	説明
file	String	○	Informatica PowerCenter からエクスポートされたマップレットの XML ファイル。ファイルのコンテンツは UTF-8 エンコードされたバイナリ形式にする必要があります。
name	String	○	マップレット名。
description	String	-	マップレットの説明。
containerId	String	-	マップレットを含めるためのプロジェクトまたはフォルダの ID。 要求に含まれていない場合、マップレットは Default フォルダに作成されます。

POST 属性に加え、要求本文で次の情報を渡します。

- バウンダリ値。要求本文の異なる部分を定義する際に使用されます。
- ファイル名。マップレットの XML ファイル名。
- icSessionId。ログインリソースによって返される Informatica Intelligent Cloud Services セッション ID。
この情報は、カスタムヘッダーが許可されていないクライアントの要求本文で渡すことができます。要求本文の一部として icSessionId を渡せる場合は、この情報を省略できます。

customFunc POST 要求で次のテンプレートを使用します。

URL: `<serverUrl>/api/v2/customFunc/`
HTTP method: POST

```
Content-Type:multipart/form-data;boundary=<boundary value>
--<boundary value>
Content-Disposition:form-data; name="file";filename="<filename.XML>";Content-Type:text/<xml|json>

<content of the mapplet XML file encoded as UTF-8>

--<boundary value>
Content-Disposition: form-data; name="name"

<mapplet name>
--<boundary value>
Content-Disposition: form-data; name="desc"

<description of the mapplet>
--<boundary value>
Content-Disposition: form-data; name="icSessionId"

<icSessionID returned from login resource>
--<boundary value>--
```

POST 応答

正常に完了すると、作成または更新された PowerCenter マップレットに customFunc 応答オブジェクトを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

DELETE 要求

PowerCenter マップレットを削除するには、次の URI でマップレット ID を使用します。

/api/v2/customFunc/<id>

DELETE 応答

要求に成功した場合に 200 の応答コードを返します。

エラーが発生した場合にエラーオブジェクトを返します。

POST の例

IV4wOrJmd6YUtmKa8t の icSessionId で ID3 を使用して PowerCenter マップレットを更新するには、次の要求を使用します。更新されたマップレットには「Lookup Mapplet (ルックアップマップレット)」という名前が付き、lookup_mapplet.xml ファイルを使用します。XML データは UTF-8 でエンコードする必要があります。

URL: https://example.informatica.com/saas/api/v2/customFunc/3
HTTP method: POST

Content-Type: multipart/form-data; boundary=243553118520053

--243553118520053

Content-Disposition: form-data; name="file"; filename="<lookup_mapplet.xml>"; Content-Type: text/xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE POWERMART SYSTEM "powrmart.dtd">
<POWMART CREATION_DATE="05/14/2012 12:17:26" REPOSITORY_VERSION="181.90">
<REPOSITORY NAME="pc91hf1" VERSION="181" CODEPAGE="UTF-8" DATABASETYPE="Oracle">
<FOLDER NAME="test" GROUP="" OWNER="Administrator" SHARED="SHARED" DESCRIPTION="" PERMISSIONS="rwx---r--"
UUID="96f9d03b-c2c5-4034-8e3a-838026bbf6e8">
  <SOURCE BUSINESSNAME="" DATABASETYPE="Oracle" DBDNAME="ddicst" DESCRIPTION="" NAME="CUSTOMERMASTER"
OBJECTVERSION="1" OWNERNAME="CO1" VERSIONNUMBER="1">
    <SOURCEFIELD BUSINESSNAME="" DATATYPE="nvarchar2" DESCRIPTION="" FIELDNUMBER="1" FIELDPROPERTY="0"
FIELDTYPE="ELEMITEM" HIDDEN="NO" KEYTYPE="PRIMARY KEY" LENGTH="0" LEVEL="0" NAME="CUSTOMERID" NULLABLE
="NOTNULL" OCCURS="0" OFFSET="0" PHYSICALLength="30" PHYSICALOFFSET="0" PICTURETEXT="" PRECISION="30"
SCALE="0" USAGE_FLAGS=""/>
  .
  .
  .
  <ATTRIBUTE NAME="Parameter Filename" VALUE=""/>
    <ATTRIBUTE NAME="Write Backward Compatible Workflow Log File" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Workflow Log File Name" VALUE="wf_plugin_lookup.log"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Workflow Log File Directory" VALUE="$PMWorkflowLogDir&#x5c;"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Save Workflow log by" VALUE="By runs"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Save workflow log for these runs" VALUE="0"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Service Name" VALUE=""/>
    <ATTRIBUTE NAME="Service Timeout" VALUE="0"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Is Service Visible" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Is Service Protected" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Fail task after wait time" VALUE="0"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Enable HA recovery" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Automatically recover terminated tasks" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Service Level Name" VALUE="Default"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Allow concurrent run with unique run instance name" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Allow concurrent run with same run instance name" VALUE="NO"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Maximum number of concurrent runs" VALUE="0"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Assigned Web Services Hubs" VALUE=""/>
    <ATTRIBUTE NAME="Maximum number of concurrent runs per Hub" VALUE="1000"/>
    <ATTRIBUTE NAME="Expected Service Time" VALUE="1"/>
  </WORKFLOW>
```

```
</FOLDER>
</REPOSITORY>
</POWERMART>

--243553118520053
Content-Disposition: form-data; name="name"

Lookup Mapplet
--243553118520053
Content-Disposition: form-data; name="icSessionId"

IV4w0rJmd6YUtmKa8t
--243553118520053--
```

要求が正常に完了すると、更新されたマップレットに customFunc 応答オブジェクトを返します。

同期タスクの変換

同期タスクをデータ転送タスクに変換するには、変換リソースを使用します。

変換リソースを使用すると、次の要求を送信できます。

- GET 要求：これを送信することで、同期タスクがデータ転送タスクの機能と両立するかどうかをテストできる。
- POST 要求：これを送信することで、同期タスクをデータ転送タスクに変換できる。

変換リソースを使用する場合は、次の要求ヘッダー形式を使用します。

```
<METHOD><server URL><URI>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

サーバーの URL には、組織が使用する POD の名前とリージョン、および informaticacloud.com ドメインを含めます。組織の POD の名前とリージョンがわからない場合は、ユーザーインターフェースを使用してドメインにログインすることで確認できます。POD 情報は、ブラウザのアドレスバーにあります。

次の例では、https://usw3.dm-us.informaticacloud.com がサーバーの URL です。

https://usw3.dm-us.informaticacloud.com/diUI/products/integrationDesign/main/home

両立性のテスト

同期タスクをデータ転送タスクに変換できるかどうかをテストするには、変換リソースを使用します。同期タスクがデータ転送タスクの機能と両立しない場合、応答には両立しない理由が記載されます。

GET 要求

同期タスクがデータ転送タスクに変換できるかどうかを確認するには、次の URI を使用します。

/dt/dss/convert/test/<assetId>

アセット ID を確認するには、ルックアップ要求を送信します。ルックアップリソースの詳細については、[「ルックアップ」 \(ページ 178\)](#)を参照してください。

GET 応答

応答には次の情報が含まれています。

フィールド	タイプ	説明
assetId	String	変換する同期タスクの ID。
assetName	String	変換する同期タスクの名前。
dttparity	ブール	同期タスクがデータ転送タスクの機能と両立するかどうか。この値が [Yes] の場合は、同期タスクがデータ転送タスクの機能と両立し、タスクが変換できることを意味します。
errors	文字列	dttparity の値が [No] の場合、同期タスクをデータ転送タスクに変換できない理由が書き込まれます。

GET の例

次の要求は、同期タスクがデータ転送タスクの機能と両立するかどうかをチェックするものです。

```
GET <server URL>/dtt/dss/convert/test/0001R291234567891234
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7y1234T
```

次の応答は、同期タスクがデータ転送タスクに変換できることを示しています。

```
{
  "assetId": "0001R291234567891234",
  "assetName": "Sync Task 1",
  "errors": [],
  "dttparity": YES
}
```

次のテキストは、同期タスクをデータ転送タスクに変換できないときの応答の例です。

```
{
  "assetId": "0001R291234567896789",
  "assetName": "Sync Task 2",
  "errors": [
    "Multiple source objects are not supported"
  ],
  "dttparity": NO
}
```

アセットのデータ転送タスクへの変換

同期タスクをデータ転送タスクに変換するには、変換リソースを使用します。同期タスクは変換後も残りますが、削除することもできます。

POST 要求

同期タスクを変換するには、その同期タスクのアセット ID を指定した次の URI を使用します。

```
/dtt/dss/convert/<assetId>
```


要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
projectId	String	○	データ転送タスクを配置するプロジェクトまたはフォルダー。
skipSchedulerJob	ブール	--	同期タスクに含まれていたスケジュール設定を、データ転送タスクから除外するかどうか。次のいずれかの値を使用します。 - true: スケジュール設定を除外します。 - false: スケジュール設定を含めます。 デフォルトは false です。

POST 応答

次の表に、POST 応答内のフィールドとその説明を示します。

フィールド	タイプ	説明
originalAssetId	String	変換された同期タスクの ID。
originalAssetName	String	変換された同期タスクの名前。
ステータス	String	変換のステータス (SUCCESS または FAILED)。
newAssetId	文字列	新しいデータ転送タスクのアセット ID。
newAssetName	文字列	データ転送タスクの名前。これは、変換に使用された同期タスクと同じ名前になります。
newAssetType	文字列	値は常に DTT になります。
errors	文字列	ステータスが FAILED の場合に、失敗の理由を示します。

POST の例

次の要求は、同期タスクをデータ転送タスクに変換するものです。

```
POST <server URL>/dtt/dss/convert/0001R291234567891234
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7y1234T
```

```
{
  "projectId": "8Fhm00vp4Dhfl3yNr1234G",
  "skipSchedulerJob": false
}
```

成功すると、次の応答を受け取ります。

```
{
  "originalAssetId": "0100000I000000000000H",
  "originalAssetName": "Sync Task 1",
  "status": "SUCCESS",
  "newAssetId": "8Fhm00vp4Dhfl3yNr2345G",
  "newAssetName": "Sync Task 1",
  "newAssetType": "Data Transfer Task"
}
```

要求が成功しない場合は、次の応答を受け取ります。

```
{
  "originalAssetId": "0100000I000000000000H",
  "originalAssetName": "Sync Task 1",
  "status": "FAIL",
  "errors": [
    "Multiple sorting conditions are not supported"
  ]
}
```

タスクフロー

REST API を使用して、タスクフローのステータスを取得し、複数のタスクフローを同時にパブリッシュできます。

タスクフローを API として実行する方法に関する詳細については、「[Running a taskflow as an API](#)」を参照してください。

ステータスリソースを使用したタスクフローステータスの監視

Monitor でジョブの結果を表示する特権がある場合は、ステータスリソースを使用してタスクフローのステータスを取得できます。タスクフローの実行 ID をパスパラメータとして使用するか、実行 ID、実行ステータス、開始時刻、終了時刻、オフセット、行制限などのクエリパラメータを使用して、タスクフローのステータスを取得できます。

GET 要求

実行 ID をパスパラメータとして使用してタスクフローのステータスを取得するには、次の URI を使用します。

<Informatica Intelligent Cloud Services URL>/active-bpel/services/tf/status/<run ID>

以下に例を示します。

<https://na4.dm.us.informaticacloud.com/active-bpel/services/tf/status/20262247166322413568>

タスクフローステータス API の URL 内でオプションの subtaskDetails パラメータを使用することで、タスクフローのステータスのみを返し、タスクフロー内のタスクやステップのステータスを含めずに済みます。

次の URL を使用すると、タスクフローのステータスのみを返すことができます。

GET/active-bpel/services/tf/status/<runId>?subtaskDetails =<value>

タスクフローのステータスのみを返すかどうかを設定するには、本オプションパラメータの値として **[Yes]** または **[No]** を指定します。タスクフローのステータスのみを返すには、この値を **[No]** に設定します。

以下に例を示します。

<https://na4.dm.us.informaticacloud.com/active-bpel/services/tf/status/20262247166322413568?subtaskDetails=No>

subtaskDetails を **[No]** に設定した場合は、次のサンプル API 応答が得られます。

```
{
  "assetName": "Taskflow1",
  "assetType": "TASKFLOW",
  "duration": 1,
  "endTime": "2025-06-30T07:53:53Z",
  "errorMessage": "",
  "location": "Default",
  "runId": "1.1242464044289925e+18",
  "runtimeEnv": "application-integration:8443",
  "runtimeEnvName": "",
  "startedBy": "kkunal@informatica.com",
}
```

```

    "startTime": "2025-06-30T07:53:52Z",
    "status": "SUCCESS",
    "subtasks": 1,
    "updateTime": "2025-06-30T07:53:53Z",
    "subtaskDetails": {
      "details": {
        "tasks": []
      }
    }
  }
}

```

クエリパラメータを使用して、複数のタスクフローのステータスを取得することもできます。クエリパラメータでは大文字と小文字が区別されます。

GET 要求 URI には次のオプションのクエリパラメータを使用できます。

フィールド	説明
runId	タスクフローの実行 ID。 例えば、実行 ID を持つ特定のタスクフローのステータスを取得するには、次の URI を使用します。 <code>https://na4.dm.us.informaticacloud.com/active-bpel/services/tf/status?runId=20262247166322413568</code>
runStatus	タスクフローの実行ステータス。ステータスは、Success、Failed、Suspended、または Running として指定できます。 例えば、過去 24 時間に正常に実行されたすべてのタスクフローのステータスを取得するには、次の URL を使用します。 <code>https://na4.dm.us.informaticacloud.com/active-bpel/services/tf/status?runStatus=Success</code>
startTime	タスクフロー実行の開始時刻は、日付と時刻の範囲の開始時刻になります。協定世界時 (UTC) を使用します。 例えば、2021-06-10T05:48:28Z 以降に開始されたすべてのタスクフローのステータスを取得するには、次の URL を使用します。 <code>https://na4.dm.us.informaticacloud.com/active-bpel/services/tf/status?startTime=2021-06-10T05:48:28Z</code>
endTime	タスクフロー実行の開始時刻は、日付と時刻の範囲の終了時刻になります。協定世界時 (UTC) を使用します。 例えば、2021-06-10T05:48:28Z から 2021-06-11T05:48:28Z の間に開始されたすべてのタスクフローのステータスを取得するには、次の URL を使用します。 <code>https://na4.dm.us.informaticacloud.com/active-bpel/services/tf/status?startTime=2021-06-10T05:48:28Z&endTime=2021-06-11T05:48:28Z</code>
offset	スキップする行数。例えば、最初の 3 行をスキップする場合に使用します。
rowLimit	返す行の最大数。指定可能な最大数値は 50 です。このパラメータを省略すると、クエリは使用可能な行をすべて返します (最大 10 行)。

これらのクエリパラメータを任意に組み合わせて使用することで、複数のタスクフローのステータスを取得できます。例えば、次のような URI を使用できます。

```

<Informatica Intelligent Cloud Services URL>/active-bpel/services/tf/status?
startTime=<startTime>&runStatus=<runStatus>&endTime=<endTime>&rowLimit=<rowLimit>

```

注: startTime または endTime パラメータがクエリで使用されていない場合、応答には過去 24 時間に実行されたタスクフローに関するステータス情報が含まれます。

次のいずれかの方法で GET 要求を認証します。

- 基本認証を使用し、Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名およびパスワードを指定します。以下に例を示します。

```
GET <Informatica Intelligent Cloud Services URL>/active-bpel/services/tf/status/<run ID>
Accept: application/json
Authorization: Basic Auth
username: <Informatica Intelligent Cloud Services user name>
password: <Informatica Intelligent Cloud Services password>
```

- HTTP ヘッダーの INFA-SESSION-ID を使用します。以下に例を示します。

```
GET <Informatica Intelligent Cloud Services URL>/active-bpel/services/tf/status/<run ID>
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <sessionId>
```

INFA-SESSION-ID を取得するには、Platform REST API バージョン 3 ログインリソースを使用します。ログインリソースの詳細は、『*REST API リファレンス*』を参照してください。

JSON 形式を使用して要求を送信します。ヘッダーに次の行を含めます: Accept: application/json

GET 応答

成功した場合はタスクフローステータス情報が、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

成功した場合は、タスクフローの次のステータス情報が返されます。

フィールド	タイプ	説明
assetName	String	タスクフローの名前。 API または RunAJob ユーティリティを使用してタスクフローにカスタム名を追加した場合、タスクフロー名にはカスタム名も含まれます。
assetType	String	オブジェクトのタイプ。TASKFLOW 値が返されます。
duration	String	タスクフローが完了、中断、失敗、または停止するまでの実行時間 (秒)。
endTime	Date/Time	タスクフローの実行が終了した時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
location	String	タスクフローが配置されたプロジェクトおよびフォルダパス。
runId	Long	タスクフローの実行 ID。
runtimeEnv	String	タスクフローが実行するランタイム環境の ID。
runtimeEnvName	String	タスクフローが実行するランタイム環境の名前。
startTime	Date/Time	タスクフローの実行が開始した時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
startedBy	String	タスクフローを開始したユーザー。
status	String	タスクフローの実行ステータス。 タスクフローのステータスを示す、次の値のいずれかを返します。 <ul style="list-style-type: none">- RUNNING。タスクフローは実行中です。- SUCCESS。タスクフローは正常に完了しました。- FAILED。エラーが発生したため、タスクフローは完了しませんでした。- SUSPENDED。タスクフローの実行は中断しました。
サブタスク	String	タスクフローに含まれるサブタスクの数。

フィールド	タイプ	説明
updateTime	Date/Time	タスクフローの実行ステータスが更新された最終時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
errorMessage	String	エラーメッセージの文字列。
subtaskDetails	String	タスクフロー内のすべてのサブタスクのステータスの詳細を含むオブジェクト。
詳細	String	ステータスの詳細。タスクオブジェクト内の各サブタスクのステータス情報を含みます。
タスク	Collection	タスクフローが含むすべてのサブタスクのステータス情報。

タスクオブジェクトには、タスクフローが含む各サブタスクの次のステータス情報が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
assetName	String	タスクフロー内のサブタスクの名前。
assetType	String	サブタスクのタイプ。次のいずれかの値を返します。 - MTT。マッピングタスク。 - DSS。同期タスク。
duration	String	サブタスクが完了、失敗、または停止するまでの実行時間（秒）。
endTime	Date/Time	サブタスクの実行が終了した時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
errorMessage	String	エラーメッセージの文字列。
errorRows	String	サブタスクでエラーが発生した行の合計数。
location	String	サブタスクが配置されたプロジェクトおよびフォルダパス。
rowsProcessed	String	サブタスクで処理された行の合計数。
runId	Long	サブタスクの実行 ID。
runtimeEnv	String	サブタスクが実行するランタイム環境の ID。
runtimeEnvName	String	サブタスクが実行するランタイム環境の名前。
startTime	Date/Time	サブタスクの実行が開始した時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
startedBy	String	タスクを開始したユーザー。このフィールドはタスクフローを開始したユーザーと同じです。

フィールド	タイプ	説明
status	String	サブタスクの実行ステータス。 サブタスクのステータスを示す、次の値のいずれかを返します。 <ul style="list-style-type: none"> - QUEUED。サブタスクは Secure Agent でキューに追加されますが、開始される事はありません。 - STARTING。サブタスクは開始中です。 - RUNNING。サブタスクは実行中です。 - COMPLETED。サブタスクが正常に完了しました。 - SUSPENDED。サブタスクフローが中断されました。 - STOPPED。タスクフローは実行を停止しているため、サブタスクを開始出来ません。 - WARNING。サブタスクがエラーで完了しました。 - FAILED。エラーが発生したため、サブタスクは完了しませんでした。
サブタスク	String	将来の使用のために予約済み。このフィールドがサブタスクに返されると、値は常に 0 です。
successRows	String	サブタスクで正常に処理された行の合計数。
updateTime	Date/Time	サブタスクの実行ステータスが更新された最終時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。

次のいずれかの応答を受け取る場合があります。

応答	説明
消去されたログ	インスタンスのログが消去されている場合、応答は次のようになります。 <pre>{ "status": "No status available." }</pre> HTTP ステータスコードは 200 OK です。
無効な実行 ID	実行 ID が無効な場合、応答は次のようになります。 <pre>{ "error": "CMN_003-Bad request. Error message - The property '<runID>', used in a query expression, is not defined in type 'OData.job-log-service.JobLogEntry'." }</pre> HTTP ステータスコードは 400 Bad Request(From JLS)です。
無効なフィルタ句	パラメータ ID が無効な場合、応答は次のようになります。 <pre>{ "error": "JLS_007-Invalid Filter clause in OData request. RawURI = http://internal-na1-elb.infacloudops.net:443/jls-di/internal/api/v1" }</pre> HTTP ステータスコードは 400 Bad Request(From JLS)です。
使用できない JLS サービス	JLS サービスが使用できない場合、応答は次のようになります。 <pre>{ "error": "503-Service Unavailable." }</pre> HTTP ステータスコードは 503 Service Unavailable です。

実行 ID をパスパラメータとして使用する GET の例

次の例は、実行 ID をパスパラメータとして使用するタスクフローステータス要求を示しています。

```
GET https://pod.ics.dev:444/active-bpel/services/tf/status/20262247166322413568
Content-type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3
```

タスクフローの設定および要求の入力により、応答は次のタイプになります。

サブタスクなしのタスクフロー

要求が成功し、タスクフローにサブタスクが含まれない場合、次の例に示すように、応答にはタスクフローのステータス情報が含まれます。

```
{
  "assetName": "Taskflow1",
  "assetType": "TASKFLOW",
  "duration": "2",
  "endTime": "2018-12-25T15:56:39Z",
  "location": "Default",
  "runId": "262247166322413568",
  "runtimeEnv": "tf_runtime",
  "runtimeEnvName": "",
  "startTime": "2018-12-25T15:56:37Z",
  "startedBy": "sb",
  "status": "SUCCESS",
  "subtasks": "0",
  "updateTime": "2018-12-25T15:56:39Z",
  "errorMessage": {},
  "subtaskDetails": {
    "details": {}
  }
}
```

HTTP ステータスコードは **200 OK** です。

サブタスクありのタスクフロー

要求が成功し、タスクフローに複数のサブタスクが含まれる場合、次の例に示すように、応答にはタスクフローに含まれる各サブタスクのステータス情報が含まれます。

```
{
  "assetName": "Taskflow2",
  "assetType": "TASKFLOW",
  "duration": "89",
  "endTime": "2018-12-23T17:25:16Z",
  "location": "Default",
  "runId": "20262247166322413568",
  "runtimeEnv": "tf_runtime",
  "runtimeEnvName": "",
  "startTime": "2018-12-23T17:23:47Z",
  "startedBy": "sb",
  "status": "SUCCESS",
  "subtasks": "2",
  "updateTime": "2018-12-23T17:25:17Z",
  "errorMessage": {},
  "subtaskDetails": {
    "details": {
      "tasks": [
        {
          "assetName": "MTR",
          "assetType": "MTT",
          "duration": "3",
          "endTime": "2018-12-23T17:24:45Z",
          "errorMessage": "",
          "errorRows": "0",
          "location": "Default",

```

```

      "rowsProcessed": "7",
      "runId": "4",
      "runtimeEnv": "01001Q25000000000002",
      "runtimeEnvName": "tf_runtime_devagent",
      "startTime": "2018-12-23T17:24:42Z",
      "startedBy": "sb",
      "status": "COMPLETED",
      "subtasks": "0",
      "successRows": "7",
      "updateTime": "2018-12-23T17:24:46Z"
    },
    {
      "assetName": "MTR",
      "assetType": "MTT",
      "duration": "10",
      "endTime": "2018-12-23T17:23:59Z",
      "errorMessage": "",
      "errorRows": "0",
      "location": "Default",
      "rowsProcessed": "7",
      "runId": "3",
      "runtimeEnv": "01001Q25000000000002",
      "runtimeEnvName": "tf_runtime_devagent",
      "startTime": "2018-12-23T17:23:49Z",
      "startedBy": "sb",
      "status": "COMPLETED",
      "subtasks": "0",
      "successRows": "7",
      "updateTime": "2018-12-23T17:24:00Z"
    }
  ]
}

```

HTTP ステータスコードは **200 OK** です。

クエリパラメータを使用した GET の例

次の例は、クエリパラメータとして実行 ID、実行ステータス、および行制限を使用するタスクフローステータス要求を示しています。

```

GET https://pod.ics.dev:444/active-bpel/services/tf/status?
runId=20262247166322413568&runStatus=Success&rowLimit=3
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: 9KA11tLGqxVcGeul8SQBK3

```

要求が成功した場合、応答の形式はパスパラメータを使用した場合と同じですが、角括弧[]で囲まれます。

要求が成功し、タスクフローにサブタスクが含まれない場合、次の例に示すように、応答にはタスクフローのステータス情報が含まれます。

```

[
  {
    "assetName": "Taskflow1",
    "assetType": "TASKFLOW",
    "duration": "2",
    "endTime": "2018-12-25T15:56:39Z",
    "location": "Default",
    "runId": "262247166322413568",
    "runtimeEnv": "tf_runtime",
    "runtimeEnvName": "",
    "startTime": "2018-12-25T15:56:37Z",
    "startedBy": "sb",
    "status": "SUCCESS",
    "subtasks": "0",
    "updateTime": "2018-12-25T15:56:39Z",
    "errorMessage": {},
    "subtaskDetails": {
      "details": {

```



```

    "tasks": []
  }
}
]

```

HTTP ステータスコードは **200 OK** です。

パラメータなしの GET の例

次の例は、パスパラメータまたはクエリパラメータのないタスクフローステータス要求を示しています。

<Informatica Intelligent Cloud Services URL>/active-bpel/services/tf/status

応答には、過去 24 時間に実行された最後の 10 個のタスクフローのステータス情報が含まれています。

実行中のタスクフローの GET の例

status リソースを使用して実行中のタスクフローのステータスを取得する場合、応答には、次の例に示すように引用符なしで endTime を null としたタスクフローのステータス情報が含まれます。

```

{
  "assetName": "waitStatus",
  "assetType": "TASKFLOW",
  "duration": 27,
  "endTime": null,
  "errorMessage": "",
  "location": "Default",
  "runId": 737194191850250240,
  "runtimeEnv": "taskflow-preview-usw1-r40-app02.infacloudops.net:4430",
  "runtimeEnvName": "",
  "startedBy": "sb",
  "startTime": "2022-07-28T06:26:32Z",
  "status": "RUNNING",
  "subtasks": 0,
  "updateTime": "2022-07-28T06:26:32Z",
  "subtaskDetails": {
    "details": {
      "tasks": []
    }
  }
}

```

タスクフローが完了したら、正しい endTime 値が表示されます。

タスクフローの一括パブリッシュ

publish リソースを使用すると、単一または複数のタスクフローを同時にパブリッシュして時間を節約できます。

タスクフローは、リクエストペイロードで指定された順序でパブリッシュされます。一度に最大 199 個のタスクフローをパブリッシュすることができます。

1. REST クライアントでは、次の URL の POST 要求を使用します。

<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/asset/v1/publish

例: <https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel/asset/v1/publish>

2. 次のヘッダーを追加します。

キー	値
承認	application/vnd.api+json
Content-Type	application/vnd.api+json
INFA-SESSION-ID	login リソースを使用して、セッション ID を取得します。ログインリソースの詳細は、『 <i>REST API リファレンス</i> 』を参照してください。

3. 本文で `assetPaths` 属性を使用して、パブリッシュするタスクフローの 1 つ以上の場所と名前を指定します。

次の形式を使用します。

```
{
  "data": {
    "type": "publish",
    "attributes": {
      "assetPaths": [
        "Explore/<location-of-taskflow1>/<name-of-taskflow1>.TASKFLOW.xml",
        "Explore/<location of taskflow2>/<name-of-taskflow2>.TASKFLOW.xml",
        "Explore/<location-of-taskflown>/<name-of-taskflown>.TASKFLOW.xml"
      ]
    }
  }
}
```

4. POST 要求を送信します。

パブリッシュ ID と、成功応答または失敗応答が表示されます。要求が失敗した場合、応答にはエラーの詳細も含まれます。

次のスニペットは、応答の例を示しています。

```
{
  "data": {
    "type": "publish",
    "id": "690487059198201856",
    "attributes": {
      "jobState": "NOT_STARTED",
      "jobStatusDetail": {},
      "startedBy": "autouser_pod1",
      "startDate": "2022-03-21T09:09:04.000+0000",
      "totalCount": 1,
      "processedCount": 0,
      "assetPaths": [
        "Explore/Pavan/BulkPublishApi/BPTaskflow1.TASKFLOW.xml"
      ]
    }
  },
  "links": {
    "self": "https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel/asset/v1/publish/690487059198201856",
    "status": "https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel/asset/v1/publish/690487059198201856/Status"
  }
}
```

この例のパブリッシュ ID は 690487059198201856 です。

5. パブリッシュのステータスとパブリッシュジョブに関する情報を表示するには、次の URL の GET 要求を使用します。

URL	説明
<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/asset/v1/publish/<publishId>/Status	パブリッシュのステータスを表示します。
<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/asset/v1/publish/<publishId>	パブリッシュジョブの情報を表示します。

タスクフローの一括パブリッシュ解除

パブリッシュ解除リソースを使用すると、単一または複数のタスクフローを同時にパブリッシュ解除して時間を節約できます。

タスクフローは、要求ペイロードで指定されているタスクフローと同じ順序でパブリッシュ解除されます。一度に最大 199 個のタスクフローをパブリッシュ解除することができます。

- REST クライアントでは、次の URL の POST 要求を使用します。
<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/asset/v1/unpublish
例: <https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel/asset/v1/unpublish>
- 次のヘッダーを追加します。

キー	値
承認	application/vnd.api+json
Content-Type	application/vnd.api+json
INFA-SESSION-ID	login リソースを使用して、セッション ID を取得します。ログインリソースの詳細は、『 <i>REST API リファレンス</i> 』を参照してください。

- 本文で `assetPaths` 属性を使用して、パブリッシュ解除するタスクフローの 1 つ以上の場所と名前を指定します。

次の形式を使用します。

```
{
  "data": {
    "type": "unpublish",
    "attributes": {
      "assetPaths": [
        "Explore/<location-of-taskflow1>/<name-of-taskflow1>.TASKFLOW.xml",
        "Explore/<location of taskflow2>/<name-of-taskflow2>.TASKFLOW.xml",
        "Explore/<location-of-taskflown>/<name-of-taskflown>.TASKFLOW.xml"
      ]
    }
  }
}
```

- POST 要求を送信します。

パブリッシュ解除ジョブの ID と、成功応答または失敗応答が表示されます。要求が失敗した場合、応答にはエラーの詳細も含まれます。

次のスニペットは、応答の例を示しています。

```
{
  "data": {
    "type": "unpublish",
    "id": "7645874567965431",
    "attributes": {
      "jobState": "NOT_STARTED",
      "jobStatusDetail": {},
      "startedBy": "autouser_pod1",
      "startDate": "2022-03-21T09:09:04.000+0000",
      "totalCount": 1,
      "processedCount": 0,
      "assetPaths": [
        "Explore/Pavan/BulkUnpublishApi/BPTaskflow1.TASKFLOW.xml"
      ]
    }
  },
  "links": {
    "self": "https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel/asset/v1/unpublish/7645874567965431",
    "status": "https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel/asset/v1/unpublish/7645874567965431/Status"
  }
}
```

この例のパブリッシュ解除ジョブの ID は 7645874567965431 です。

5. パブリッシュ解除のステータスとパブリッシュ解除ジョブに関する情報を表示するには、次の URL による GET 要求を使用します。

URL	説明
<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/asset/v1/unpublish/<unpublishId>/Status	パブリッシュ解除のステータスを表示します。
<Informatica Intelligent Cloud Services の URL>/active-bpel/asset/v1/unpublish/<unpublishId>	パブリッシュ解除ジョブの情報を表示します。

式の検証

このリソースを使用して、式を検証します。

POST 要求

式を検証するには、次の URI を使用します。

/saas/api/v2/expression/validate

要求本文で、次の属性を使用します。

フィールド	タイプ	必須	説明
expr	String	○	検証する式。
connectionId	String	○	接続 ID。

フィールド	タイプ	必須	説明
objectName	String	○	ソースまたはターゲットオブジェクトの名前。
isSourceType	Boolean	はい	ソースオブジェクトの式かどうかを示します。値は True または False です。

式が有効な場合、応答では式が有効であることを示すメッセージを返します。式が有効ではない場合、応答でエラーが返されます。

POST の例

式の検証には、次の要求を使用できます。

```
POST <serverURL>/api/v2/expression/validate
Content-Type: application/json
Accept: application/json
INFA-SESSION-ID: <SessionId>
{
  "@type": "expressionValidation",
  "expr": "REPVERSION",
  "connectionId": "0000010B00000000000004",
  "objectName": "OPB_REPOSIT",
  "isSourceType": true
}
```

Data Integration REST API の補足情報

このセクションには、ユーザーインターフェースのフィールドに対するコネクタのデータ型や接続 REST API 属性のマッピングなどの補足情報が含まれています。

コネクタのデータ型

コネクタメタデータの要求を送信する場合、データ型が応答に含まれます。コネクタ属性のデータ型は、数値を使用して REST API 応答で返されます。

次の例は、タイプ値 2 を使用した応答を示しています。

```
{
  "name": "database",
  "label": "",
  "id": "",
  "value": "",
  "type": 2,
  "isMandatory": true,
  "visible": false,
  "list": []
},
```

タイプ値 2 とは、データベースの属性にアルファベットのみを含めることができることを意味します。

次の表に、応答に含めることのできる数値と対応するデータ型を一覧表示します。

値	データタイプ	説明
1	NUMERIC_TYPE	属性値には数字のみを含めることができます。
2	ALPHABET_TYPE	属性値にはアルファベットのみ含めることができます。
3	NUMERIC_TYPE/ ALPHABET_TYPE	属性値には数字またはアルファベットのみを含めることができます。
4	SYMBOLS_TYPE	属性値には記号のみ含めることができます。
5	NUMERIC_TYPE/ SYMBOLS_TYPE	属性値には数字と記号のみを含めることができます。
6	ALPHABET_TYPE/ SYMBOLS_TYPE	属性値にはアルファベットと記号のみ含めることができます。
7	NUMERIC_TYPE/ ALPHABET_TYPE/ SYMBOLS_TYPE	属性値にはアルファベット、数字、および記号のみ含めることができます。
8	LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストの値のみ含めることができます。
9	NUMERIC_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにある数字のみ含めることができます。
10	ALPHABET_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにある数字のみ含めることができます。
11	NUMERIC_TYPE/ ALPHABET_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにあるアルファベットと数字のみ含めることができます。
12	SYMBOLS_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにある記号のみ含めることができます。
13	NUMERIC_TYPE/ SYMBOLS_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにある数字および記号のみ含めることができます。
14	ALPHABET_TYPE/ SYMBOLS_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにあるアルファベットおよび記号のみ含めることができます。
15	NUMERIC_TYPE/ ALPHABET_TYPE/ SYMBOLS_TYPE/ LIST_TYPE	属性値には事前定義済みリストにあるアルファベット、数字、および記号のみ含めることができます。
16	BOOLEAN	属性値は boolean です。
32	PASSWORD	属性値は password です。

コネクタメタデータの要求に関する詳細については、「[コネクタ](#)」 (ページ 351) を参照してください。

REST API の属性マッピングに対する接続のユーザーインタフェースフィールド

ユーザーインタフェースの接続フィールド名の中には、接続リソースの対応する REST API 属性に直観的にマップされないものがあります。また、接続リソースの REST API GET および POST メソッドに使用される属性名の中には、ユーザーインタフェースに表示される値を入力する REST API 応答で使用する属性名と一致しないものがあります。

次の表では、混乱する可能性のある相関を持つユーザーインタフェースのフィールド、REST API GET 呼び出しと POST 呼び出しで使用される属性、およびユーザーインタフェースに対する REST API 応答で使用する属性を対応付けています。

接続	UI フィールド名	REST API GET および POST の属性名	UI に対する応答の属性名
すべての接続	ランタイム環境	runtimeEnvironmentId	agentGroupId
CSV フラットファイル	ディレクトリ	database	dirName
FTP および SFTP	ディレクトリ	database	dirName
Microsoft Access	データソース名	database	database
Microsoft SQL Server	SQL Server のバージョン	type	subType
Oracle	サービス名	database	database
SAP IDoc Reader	接続先エントリ	database	database
SAP IDoc Writer および SAP RFC/BAPI	接続文字列	database	database
Web Service Consumer	エンドポイント URL	serviceUrl	serviceUrl

第 5 章

ファイル取り込みとレプリケーション REST API

ファイル取り込みとレプリケーションリソースを使用して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクを実行および監視します。

ファイル取り込みとレプリケーションリソースを使用する場合は、次のルールに注意してください。

- JSON 形式を使用します。
- 次のベース URL を使用する。
`<serverUrl>/mftsaas/api/v1/<API name>`
- 次の要求ヘッダー形式を使用します。
`<METHOD> <serverUrl>/<URI> HTTP/<HTTP version>`
`Content-Type: application/json`
`Accept: application/json`
`IDS-SESSION-ID: <SessionId>`

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

ジョブ

job リソースを使用して、ファイル取り込みとレプリケーションジョブを開始します。また、job リソースを使用して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクのジョブステータスやジョブのログを取得することもできます。ファイル取り込みとレプリケーション REST API バージョン 1 の task リソースを使用して、タスクの ID と名前を取得します。

RUN 要求

ファイル取り込みとレプリケーションタスクジョブを開始するには、次の URI を使用します。

`mftsaas/api/v1/job`

要求に次の情報を含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
taskId	String	○	ファイル取り込みとレプリケーションの ID。
taskName	String	-	ファイル取り込みとレプリケーションの名前。

ファイル取り込みとレプリケーションジョブを開始するときは、指定したコネクタに対して次のソースディレクトリキーとターゲットディレクトリキーを使用します。

コネクタ	srcDir	tgtDir
ローカル	sourceDirectory	targetDirectory
ftp,ftps,sftp	sourceDirectory	targetDirectory
gcs	sourceDirectory	gcsTargetLocation
hdfs	sourceDirectory	hdfsTargetLocation
adlsGen2	sourceDirectory	adlsGen2TargetLocation
s3	s3SourceLocation	s3TargetLocation
blob	blobSourceLocation	blobContainer

ジョブリソース REST API を使用して、次のようなパラメータを上書きできます。

カテゴリ	パラメータ	ID
全般	ソース接続	sourceConnection
全般	ターゲット接続	targetConnection
全般	並列バッチログレベル	parallelBatch
全般	ログレベル	logLevel
ソース	ソースディレクトリ	sourceDirectory
ソース	ファイルパターン	filePattern
ソース	バッチサイズ	batchSize
ソース	サブフォルダのファイルを含む	includeSubfolder
ソース	重複するファイルをスキップ	checkDuplicate
ソース	ファイルの安定性を確認	fileStability
ソース	安定性確認間隔	stabilityCheckInterval
ターゲット	ターゲットディレクトリ	targetDirectory

注: ソース接続パラメータとターゲット接続パラメータを上書きするには、接続 ID を渡す必要があります。

次のサンプルを参照として使用して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクジョブを開始します。

```
{
  "taskId": "k1YHA1blhcBjbJvCIRQX2s",
  "taskName": "localtoLocal_param2"
}
```

次のサンプルを使用して、ユーザーインターフェースに渡されたソースオプション値を上書きします。

```
"variables": [{
  "variable": "<string>",
  "value": "<string>"
}]
```

次の例では、ジョブリソース REST API の使用中に、ユーザーインターフェースで渡されたパラメータ値が、JSON POST で指定された対応する値で上書きされます。

```
POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/job HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "taskId": "0efdVUEZeV2cB0quomeksd",
  "taskName": "localtolocal_param2",
  "parameters": {
    "category": [{
      "id": "General",
      "parameter": [
        {
          "id": "sourceConnection",
          "value": "AdvancedSFTPv2"
        },
        {
          "id": "targetConnection",
          "value": "AdvancedSFTPv2"
        },
        {
          "id": "parallelBatch",
          "value": "10"
        },
        {
          "id": "logLevel",
          "value": "DEBUG"
        }
      ]
    }, {
      "id": "Source",
      "parameter": [{
        "id": "sourceDirectory",
        "value": "/root/test1"
      }],
    }
  ]
}
```

```

    {
      "id": "filePatternType",
      "value": "reg"
    },
    {
      "id": "filePattern",
      "value": "*.txt"
    },
    {
      "id": "batchSize",
      "value": "5"
    },
    {
      "id": "includeSubfolder",
      "value": "true"
    },
    {
      "id": "checkDuplicate",
      "value": "true"
    },
    {
      "id": "fileStability",
      "value": "true"
    },
    {
      "id": "stabilityCheckInterval",
      "value": "30"
    }
  ]
},
{
  "id": "Target",
  "parameter": [{
    "id": "targetDirectory",
    "value": "/root/test2"
  }

```

```

    }}
  }
]
}
}

```

次の例は、filename を変数としてファイル取り込みとレプリケーションタスクを上書きする方法を示しています。

```

POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/job HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

```

```

{
  "taskId": "4m24k3UFWMkkqd55YDefIB",
  "taskName": "R41_Local_Local",
  "parameters": {
    "category": [
      {
        "id": "Source",
        "parameter": [
          {
            "id": "sourceDirectory",
            "value": "/${Parentfolder}"
          },
          {
            "id": "filePickupFilePath",
            "value": "${filename}"
          },
          {
            "id": "batchSize",
            "value": "5"
          }
        ]
      },
      {
        "id": "Target",
        "parameter": [
          {
            "id": "targetDirectory",
            "value": "/${Parentfolder}/Target"
          }
        ]
      }
    ]
  },
  "variables": [
    {
      "variable": "Parentfolder",
      "value": "root/Arun"
    },
    {
      "variable": "filename",
      "value": "filepath.txt"
    }
  ]
}

```

次の例は、filelist を変数としてファイル取り込みとレプリケーションタスクを上書きする方法を示しています。

```

POST <serverUrl>/mftsaas/api/v1/job HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

```

```
{
  "taskId": "4m24k3UFWMkkqd55YDefIB",
  "taskName": "R41_Local_Local",
  "parameters": {
    "category": [
      {
        "id": "Source",
        "parameter": [
          {
            "id": "sourceDirectory",
            "value": "/${Parentfolder}"
          },
          {
            "id": "filePickupFileList",
            "value": "${filelist}"
          },
          {
            "id": "batchSize",
            "value": "5"
          }
        ]
      },
      {
        "id": "Target",
        "parameter": [
          {
            "id": "targetDirectory",
            "value": "/${Parentfolder}/Target"
          }
        ]
      }
    ]
  },
  "variables": [
    {
      "variable": "Parentfolder",
      "value": "root/Arun"
    },
    {
      "variable": "filelist",
      "value": "File1.txt,File2.txt,File3.txt,File4.txt"
    }
  ]
}
```

RUN 応答

成功すると、ファイル取り込みとレプリケーションはジョブの実行 ID を返します。実行 ID を使用して、ジョブのステータスを監視したり、ジョブのログファイルを要求したりします。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

GET ステータス要求

特定のファイル取り込みとレプリケーションタスクジョブのステータスを取得するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/job/<runId>/status

GET ステータス応答

成功すると、ファイル取り込みとレプリケーションはジョブのステータスと詳細を返します。これにはファイルのリストと、各ファイルの詳細およびステータスが含まれます。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

GET ジョブのログ要求

特定のファイル取り込みとレプリケーションタスクジョブのログファイルを取得するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/job/<runId>/logs

GET ジョブのログ応答

成功すると、ファイル取り込みとレプリケーションはジョブのログファイルを返します。

失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

アクティビティログ

activityLog ソースを使用して、タスク ID、実行 ID、またはその両方を使用して、完了したジョブの詳細を取得します。

REST API バージョン 1 リソース

ファイル取り込みとレプリケーションタスク REST API バージョン 1 リソースを使用して、タスク ID、実行 ID、またはその両方を使用して、完了したジョブの詳細を取得します。

GET 要求

タスク ID を使用して完了したジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>

実行 ID を使用してアクティブなジョブまたは完了したジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?runId=<runId>

スキップする行数を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?taskId={{taskId}}&<offset>

行制限を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?taskId={{taskId}}&<rowLimit>

上記のオプションは組み合わせて使用することができます。例えば、次のような URI を使用できます。

mftsaas/api/v1/mitasks/activityLog?runId=<runId>&taskId=<taskId>&rowLimit=<rowLimit>&offset=<offset>

activityLog の GET URI には、次の属性を使用できます。

フィールド	説明
taskId	ファイル取り込みとレプリケーションタスク ID。
runId	ファイル取り込みとレプリケーションの実行 ID。
offset	スキップする行数。例えば、最初の 3 行をスキップする場合に使用します。
rowLimit	返す最大行数。指定可能な最大数値は 100 です。デフォルトは 25 です。

注: GET URI で taskId または runId 属性のいずれかを指定する必要があります。

GET 応答

activityLog オブジェクトは、次の属性を返します。

フィールド	説明
id	ファイル取り込みとレプリケーションジョブ ID。
totalJobCount	ジョブの総数。
taskId	ファイル取り込みとレプリケーションタスク ID。
runId	ファイル取り込みとレプリケーションの実行 ID。
startedBy	ファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成したユーザーの名前。
startTime	ジョブの開始時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
endTime	ジョブの終了時刻。協定世界時（UTC）を使用します。
status	ジョブが正常に完了したかどうかを示します。
messageText	ジョブに関連付けられているエラーメッセージ。
successFiles	ソースからターゲットに正常に転送されたファイルの数。
failedFiles	ソースからターゲットに転送されなかったファイルの数。

GET の例

次の例は、タスク ID を使用してファイル取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得した応答を示しています。

```
{
  "totalJobCount": 7,
  "jobActivityLog": [
    {
      "id": 1000000200272,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137205,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:55:13Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:55:15Z",
      "status": "FAILED"
    },
    {
      "id": 1000000200270,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137204,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:52:44Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:53:02Z",
      "status": "SUCCESS"
    },
    {
      "id": 1000000200268,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137202,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:49:55Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:50:12Z",
      "status": "SUCCESS"
    }
  ]
}
```

```

    },
    {
      "id": 1000000200264,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137199,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:43:27Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:43:42Z",
      "status": "SUCCESS"
    },
    {
      "id": 1000000200262,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137198,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:13:58Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:14:04Z",
      "status": "FAILED"
    },
    {
      "id": 1000000200261,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137197,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:13:09Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:13:28Z",
      "status": "SUCCESS"
    },
    {
      "id": 1000000200260,
      "taskId": 89882,
      "runId": 137196,
      "startedBy": "b2b_pod1",
      "startTime": "2021-09-13T09:12:21Z",
      "endTime": "2021-09-13T09:12:35Z",
      "status": "SUCCESS"
    }
  ]
}

```

次の例は、実行 ID を使用してファイル取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得した応答を示しています。

```

{
  "jobActivityLog": [
    {
      "jobStatusResponse": {
        "jobStatus": "FAILED",
        "errorMessage": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
        "jobDetails": {
          "jobNumber": 1000000200262,
          "status": "Failed",
          "startTime": "2021-09-13T09:13:58Z",
          "endTime": "2021-09-13T09:14:04Z",
          "messageText": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
          "successFiles": 0,
          "failedFiles": 0,
          "fileDetails": []
        }
      }
    }
  ]
}

{
  "jobActivityLog": [
    {
      "jobStatusResponse": {
        "jobStatus": "FAILED",

```



```

      "errorMessage": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
      "jobDetails": {
        "jobNumber": 1000000200262,
        "status": "Failed",
        "startTime": "2021-09-13T09:13:58Z",
        "endTime": "2021-09-13T09:14:04Z",
        "messageText": "[8008 - Create File List] Directory '/root/testnot' not found ",
        "successFiles": 0,
        "failedFiles": 0,
        "fileDetails": []
      }
    }
  }
]
}

```

REST API バージョン 2 リソース

ファイル取り込みとレプリケーションタスク REST API バージョン 2 リソースを使用して、タスク ID、実行 ID、またはその両方を使用するか、どちらも使用せずに、特定のジョブタイプの詳細を取得します。

GET 要求

ファイル取り込みとレプリケーションタスクのすべてのジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog

タスク ID を使用してすべてのジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>

実行 ID を使用してすべてのジョブの詳細を要求するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?runId=<runId>

スキップする行数を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>&offset=<offset>

行制限を指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?taskId=<taskId>&rowLimit=<rowLimit>

ジョブタイプを指定するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?jobType=<jobType>

表示するファイルイベントの数を指定し、ファイルイベントの制限を含めるには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?runId={{runID}}&fetchFileEvents=true&fileEventsLimit=10

上記のオプションは組み合わせて使用することができます。例えば、次のような URI を使用できます。

mftsaas/api/v2/mitasks/activityLog?runId=<runId>&taskId=<taskId>&rowLimit=<rowLimit>&offset=<offset>

activityLog の GET URI には、次の属性を使用できます。

フィールド	説明
taskId	ファイル取り込みとレプリケーションタスク ID。
runId	ファイル取り込みとレプリケーションの実行 ID。
offset	スキップする行数。例えば、最初の 3 行をスキップする場合に使用します。

フィールド	説明
rowLimit	返す最大行数。指定可能な最大数値は 100 です。デフォルトは 25 です。
jobType	<p>応答に含めるジョブのタイプ。次のいずれかのオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - すべて - 完了 - アクティブ <p>デフォルトは [すべて] です。</p>
fetchFileEvents	<p>ファイルイベントを表示するかどうかを決定します。次のいずれかの値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true。ファイル取り込みとレプリケーションタスクはジョブファイルイベントを表示します。 - false。ファイル取り込みとレプリケーションタスクはジョブファイルイベントを表示しません。 <p>デフォルトは false です。</p>
fileEventsLimit	返されるファイルイベントの数。fetchFileEvents が true に設定されている場合に適用されます。指定可能な最大数値は 1000 です。デフォルトは 100 です。

GET 応答

activityLog オブジェクトは、次の属性を返します。

フィールド	説明
totaljobCount	ジョブの総数。
taskId	ファイル取り込みとレプリケーションタスク ID。
runId	ファイル取り込みとレプリケーションの実行 ID。
startedBy	ファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成したユーザーの名前。
startTime	ジョブの開始時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
endTime	ジョブの終了時刻。協定世界時 (UTC) を使用します。
status	ジョブが正常に完了したかどうかを示します。
logLocation	セッションログの場所。
messageText	ジョブのステータスに関連付けられたコメント。
successFiles	ソースからターゲットに正常に転送されたファイルの数。
failedFiles	ソースからターゲットに転送されなかったファイルの数。

GET の例

次の例は、タスク ID を使用してファイル取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得する要求への応答を示しています。

```
{
  "totalJobCount": 1,
  "jobActivityLog": [
    {
      "taskId": "gS7ivoMYo0li6v7TR7MIe",
      "jobs": [
        {
          "runId": 490176,
          "startedBy": "b2b_pod1",
          "startTime": "2023-05-08T00:20:14Z",
          "endTime": "2023-05-08T00:20:19Z",
          "status": "SUCCESS",
          "logLocation": "data/taskLogs/2023-05-08/1000000916286.log",
          "messageText": "Job completed",
          "successFiles": 8,
          "failedFiles": 0
        }
      ]
    }
  ]
}
```

次の例は、fetchFileEvents が true に設定されているファイル取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得する要求への応答を示しています。

```
{
  "totalJobCount": 1,
  "jobActivityLog": [
    {
      "taskId": "34owubT0kvFe18LdELjXop",
      "jobs": [
        {
          "runId": 496420,
          "startedBy": "atl",
          "startTime": "2023-05-08T07:25:25Z",
          "endTime": "2023-05-08T07:25:54Z",
          "status": "SUCCESS",
          "logLocation": "data/taskLogs/2023-05-08/1000000855619.log",
          "messageText": "Job completed normally",
          "successFiles": 1003,
          "failedFiles": 0,
          "fileDetails": [
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_5.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 1,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            },
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_12.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 0,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            },
            {
              "path": "/root/Arun/May/Target/File_2.txt",
              "size": 12,
              "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
              "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
              "status": "SUCCESS",
              "duration": 0,
              "transferDirection": "UPLOAD"
            }
          ]
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```

        "duration": 0,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_8.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 0,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_10.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 1,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_14.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 1,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_16.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 0,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_18.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 0,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_6.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 0,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    },
    {
        "path": "/root/Arun/May/Target/File_13.txt",
        "size": 12,
        "lastModified": "2023-05-04T09:00:30Z",
        "startTime": "2023-05-08T07:25:12Z",
        "status": "SUCCESS",
        "duration": 0,
        "transferDirection": "UPLOAD"
    }
}
]
}
}
}
}

```

```
} ]
```

タスク

tasks リソースを使用して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成、更新、削除、表示します。

ファイル取り込みとレプリケーションタスクの実行と監視には、一連の要求および応答が含まれます。ファイル取り込みとレプリケーションタスクを実行する方法は次のとおりです。

- tasks GET 要求を送信して、すべてのファイル取り込みとレプリケーションタスクのリストを表示します。[「ファイル取り込みとレプリケーションタスクの表示」 \(ページ 517\)](#)を参照してください。
- tasks POST 要求を送信して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成します。[「ファイル取り込みとレプリケーションタスクの作成」 \(ページ 521\)](#)を参照してください。
- tasks PUT 要求を送信して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクを更新します。[「ファイル取り込みとレプリケーションタスクの更新」 \(ページ 527\)](#)を参照してください。
- tasks GET 要求を送信して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクの場所を表示します。[「ファイル取り込みとレプリケーションタスクの場所の表示」 \(ページ 530\)](#)を参照してください。
- tasks DELETE 要求を送信して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクを削除します。[「ファイル取り込みとレプリケーションタスクの削除」 \(ページ 531\)](#)を参照してください。

ファイル取り込みとレプリケーションタスクの表示

GET 要求を使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを表示します。

GET 要求

特定のファイル取り込みとレプリケーションタスクの詳細を表示するには、次の URI にファイル取り込みとレプリケーションを含めます。

```
mftsaas/api/v1/mitasks/{TASK-ID}
```

組織のすべてのファイル取り込みとレプリケーションタスクの詳細を表示するには、ファイル取り込みとレプリケーション ID を省略します。

```
mftsaas/api/v1/mitasks
```

例えば、以下の要求を使用します。

```
GET https://na1.dm-us.informaticacloud.com/mftsaas/api/v1/mitasks HTTP/<HTTP version>
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

GET 応答

成功した場合はタスクオブジェクトを、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

タスクオブジェクトには、組織のそれぞれのファイル取り込みとレプリケーションタスクについて以下の情報が含まれます。

フィールド	タイプ	説明
taskId	String	タスクに関連付けられている ID 番号。
taskName	String	タスクの名前。
description	String	タスクの説明。
location	String	タスクが存在するプロジェクトおよびフォルダパス。
createTime	Date/Time	タスクが作成された時刻。
updateTime	Date/Time	タスクが最後に更新された時刻。

注: 応答に含まれる作成日時と更新日時は UTC 時間です。

すべてのファイル取り込みとレプリケーションタスクを表示する GET 応答の例

次の応答の例は、組織に 3 つのファイル取り込みとレプリケーションタスクがあることを示しています。

```
{
  "mitasks": [
    {
      "id": "10NE5Vewztl0tuKROEDum",
      "name": "A01_UMAR_MITASK2318",
      "description": "",
      "sourceType": "CONNECTION",
      "sourceConnection": {
        "id": "",
        "name": "",
        "type": "local"
      },
      "targetConnection": {
        "id": "0100000B00000000000002",
        "name": "ftps",
        "type": "Advanced FTPS"
      },
      "agentGroupId": "0100002500000000000002",
      "updateTime": "2019-01-30T11:17:49Z"
    },
    {
      "id": "9D1tGkAxopJefmUWoG4s48",
      "name": "A01_UMAR_MITASK3354",
      "description": "",
      "sourceType": "CONNECTION",
      "sourceConnection": {
        "id": "0100000B00000000000000M",
        "name": "AzureBlob",
        "type": "Azure Blob"
      },
      "targetConnection": {
        "id": "0100000B00000000000000L",
        "name": "SFTP_Conn",
        "type": "Advanced SFTP"
      },
      "agentGroupId": "0100002500000000000002",
      "updateTime": "2019-01-30T06:42:19Z"
    },
    {
      "id": "4hcTFqKV0Qrl1z4d6pGUMP",
      "name": "A01_UMAR_MITASK5124",
```

```

      "description": "",
      "sourceType": "CONNECTION",
      "sourceConnection": {
        "id": "0100000B0000000004I0",
        "name": "S3",
        "type": "AmazonS3"
      },
      "targetConnection": {
        "id": "",
        "name": "",
        "type": "local"
      },
      "agentGroupId": "01000025000000000002",
      "updatedAt": "2019-01-30T06:35:01Z"
    }
  ]
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルパターンを使用したファイル取り込みとレプリケーションタスクを示す GET 応答の例

次の応答の例は、ファイル取り込みとレプリケーションタスクの詳細を示しています。

```

IDS-SESSION-ID:{{IDS-SESSION-ID}}
Accept:application/json
{
  "id": "j90LB12nqY0bykdFSump02",
  "name": "FTPSrcTarget",
  "location": {
    "projectId": "dNC6zbp2LI8ghrKP06hpwn",
    "projectName": "Hardening"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "0100000B000000000028M",
    "name": "CCI_FTPS",
    "type": "Advanced FTPS V2"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "0100000B00000000001JR",
    "name": "CCI_FTP_Lin",
    "type": "Advanced FTP V2"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "sourceTransferMode": "AUTO",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "/root/suraj/qa/test/automation/RSFiles",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetParameters": {
    "fileExistsAction": "APPEND_TIMESTAMP",
    "targetDirectory": "/",
    "targetTransferMode": "AUTO"
  },
  "agentGroupId": "01000025000000000003",
  "createdTime": "2019-02-04T10:34:08Z",
  "updatedAt": "2019-02-04T11:04:02Z",
  "filePickupOption": "PATTERN"
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルリスト（ファイルパス）を使用したファイル取り込みとレプリケーションタスクを示す GET 応答の例

次の応答の例は、filePickupOption タイプを FILELIST として、その sourceParameters に filePickupFilePath を指定したファイル取り込みとレプリケーションタスクを示しています。このタスクは指定されたピックアップファイルを読み取って、処理する必要のあるファイルを識別することを示しています。

```
{
  "id": "aFHWKrr1RwycuBRBLTtt2t",
  "name": "FilePath_CheckStability",
  "location": {
    "projectId": "OggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePickupFilePath": "test.txt",
    "sourceDirectory": "/root/test",
    "checkDuplicate": "false",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP",
    "filepickupByName": "FILEPATH",
    "batchSize": "5",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60"
  },
  "targetParameters": {
    "fileExistsAction": "OVERWRITE",
    "targetDirectory": "/root/testCheckStability"
  },
  "agentGroupId": "01001D25000000000002",
  "createdTime": "2021-08-13T09:38:03Z",
  "updatedTime": "2021-08-13T09:39:02Z",
  "logLevel": "NORMAL",
  "filePickupOption": "FILELIST"
}
```

ファイルピックアップオプションとしてファイルリストを使用したファイル取り込みとレプリケーションタスクを示す GET 応答の例

次の応答の例は、filePickupOption タイプを FILELIST とし、filepickupByName を LISTOFFILES として、その sourceParameters に filePickupFileList を指定したファイル取り込みとレプリケーションタスクを示しています。このタスクは処理する指定されたピックアップファイルを読み取って、識別することを示しています。

```
{
  "id": "2bTlAo1xbAGLE7I5qauSAW",
  "name": "DedupFilelist_pushdown",
  "location": {
    "projectId": "OggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "01001D0B00000000005PP",
    "name": "ADLSGen2",
  },
}
```



```

    "type": "Azure Data Lake Gen2"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "01001D0B0000000005PU",
    "name": "AzureDW_Gen2",
    "type": "Azure DW"
  },
  "sourceParameters": {
    "sourceDirectory": "/B2B/MI",
    "checkDuplicate": "true",
    "postPickupAction": "KEEP",
    "filePickupByName": "LISTOFFILES",
    "blockSize": "8388608",
    "filePickupFileList": "File1.txt,File2.txt",
    "batchSize": "5",
    "timeoutInterval": "60",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60"
  },
  "targetParameters": {
    "commandType": "auto",
    "targetTableName": "test1234",
    "isPushdown": "true",
    "ingestionMethod": "polybase",
    "targetSchemaName": "testing",
    "isTruncateTarget": "true"
  },
  "agentGroupId": "01001D250000000000002",
  "createdTime": "2021-04-29T08:47:57Z",
  "updatedTime": "2021-04-29T08:47:57Z",
  "logLevel": "NORMAL",
  "filePickupOption": "FILELIST"
}

```

ファイル取り込みとレプリケーションタスクの作成

POST 要求を使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成します。

POST 要求

API を使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks

要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	タスクの名前。
location	String	-	プロジェクトの場所。
projectId	String	-	プロジェクトに関連付けられている ID 番号。
projectName	String	-	プロジェクトの名前。
description	String	-	タスクの説明。
sourceConnection	String	-	ファイルの転送元のディレクトリです。

フィールド	タイプ	必須	説明
sourceType	String	○	<p>ファイルの転送タイプを決定します。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - CONNECTION。ソースとして接続を使用します。 - FILELISTENER。ソースとしてファイルリスナを使用します。
includesubfolder	String	-	<p>サブフォルダのファイルを転送に含めるかどうかを決定します。この値を true に設定すると、定義したソースディレクトリのすべてのサブフォルダからファイルが転送されます。値は true または false です。</p>
checkDuplicate	String	-	<p>重複するファイルをチェックするかどうかを決定します。値は true または false です。この値を true に設定すると、重複するファイルがチェックされてファイル転送を拒否されます。この値を false に設定すると、すべてのファイルが転送されます。</p>
filePickupOption	String	○	<p>ファイルのピックアップ方法を決定します。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - FILELIST。ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルリストに基づいてファイルをピックアップします。 - PATTERN。ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、パターン別にファイルをピックアップします。
allowConcurren cy	String	-	<p>複数のジョブを同時に実行するかどうかを決定します。複数のジョブを同時に実行する場合は、値を true に設定します。しない場合は、値を false に設定します。</p> <p>警告: ターゲットに重複ファイルが含まれている場合、同時ジョブを実行すると予期しない結果が生じる可能性があります。</p>
filePatternType	String	○	<p>これは、filePickupOption が PATTERN の場合に適用されます。転送するファイルの選択に使用するファイルパターンタイプです。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - wildcard - regex
filePattern	String	○	<p>選択したファイルパターンに応じてファイルパターンタイプを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - wildcard。以下のワイルドカード文字フィルタを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> - アスタリスク (*) はどんな数の文字とも一致します。 - 疑問符 (?) は 1 つの文字と一致します。 - regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。 <ul style="list-style-type: none"> - 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルをリスニングします。 ^(?!.*(?:out baz foo)).*\$ all except - 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルをリスニングします。([a-zA-Z0-9\s_\\.\-\\(\)\:])+(\.doc \.docx \.pdf)\$

フィールド	タイプ	必須	説明
filepickupByName	String	○	<p>これは、filePickupOption が FILELIST の場合に適用されます。次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - filepath。ピックアップするファイルのリストを含むパスを指定し、ファイルパスを入力します。 - listoffiles。ピックアップするファイルのリストを指定し、ファイル名のカンマ区切りリストを入力します。ファイル名を指定する前後にスペースがないことを確認します。
fileStability	Boolean	-	<p>ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかをタスクで確認するかどうかを決定します。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - true。ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認します。 - false。ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認しません。 <p>デフォルトは false です。</p>
stabilityCheckInterval	Int	-	<p>ファイル取り込みとレプリケーションタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>fileStability オプションが true に設定されている場合のみ、stabilityCheckInterval フィールドに値を指定できます。安定性確認間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。</p>
postPickupAction	String	-	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - KEEP。ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - DELETE。ソースディレクトリからファイルを削除します。 - RENAME。ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイル名を変更する場合は、ファイル取り込みとレプリケーションがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。 - ARCHIVE。別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。
targetConnection	String	○	ファイルの転送先ディレクトリの詳細です。
taskActions	String	-	ファイル取り込みとレプリケーションタスクのファイルを処理するアクション。複数のアクションを追加する場合、ファイル取り込みとレプリケーションはファイルを順番に処理します。

フィールド	タイプ	必須	説明
actions			<p>ファイル処理アクション。</p> <p>次のファイル処理アクションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファイルを圧縮するには、Compression と入力します。 - ファイルを圧縮解除するには、Decompression と入力します。 - ファイルを暗号化するには、Encryption と入力します。 - ファイルを復号化するには、Decryption と入力します。 - 複数のフォルダから単一のフォルダにファイルを移動し、ターゲットディレクトリ内のファイルの名前を変更するには、File Operations と入力します。 - ICAP プロトコルを使用してファイルにウイルスがないかどうかをスキャンするには、Virus Scan と入力します。
action type			<p>追加するアクションに応じたアクションタイプを入力します。</p> <p>ファイルを圧縮するには、次のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Zip - Tar - Gzip - Bzip2 <p>ファイルを圧縮解除するには、次のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Unzip - Untar - Gunzip - Bunzip2 <p>ファイルを暗号化するには、PGP を追加します。プロパティにキー ID を入力します。</p> <p>注: ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルの暗号化に PGP 方式を使用します。CLI を使用してキーリングを生成します。[キー ID] にキーリングを入力します。キーリング CLI の詳細については、『タスク』のキーリングコマンドリファレンスを参照してください。</p> <p>ファイルを復号化するには、PGP を追加します。プロパティにキーパスフレーズを入力します。</p> <p>注: ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルの暗号化に PGP 方式を使用します。CLI を使用してキーパスフレーズを生成します。[キーパスフレーズ] にキーパスフレーズを入力します。キーリング CLI の詳細については、『タスク』のキーリングコマンドリファレンスを参照してください。</p>

POST 要求の例

ファイルピックアップオプションとしてファイルパターンを使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```
POST <serverURL>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "name": "Green Green v2",
  "location": {
    "projectId": "9JDNOBX9M31e2AD1dIUv6M",
    "projectName": "Default"
```

```

    },
    "description": "",
    "sourceType": "CONNECTION",
    "sourceConnection": {
      "id": "",
      "name": "",
      "type": "local"
    },
    "sourceParameters": {
      "filePattern": "*.txt",
      "filePatternType": "WILDCARD",
      "includeSubfolder": "false",
      "sourceDirectory": "C:\\\\Monitor",
      "checkDuplicate": "false",
      "fileStability": "true",
      "stabilityCheckInterval": "60",
      "postPickupAction": "KEEP"
    },
    "targetConnection": {
      "id": "0100000B00000000000002",
      "name": "ADLS",
      "type": "Azure Data Lake"
    },
    "targetParameters": {
      "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
    },
    "agentGroupId": "0100002500000000000002",
    "filePickupOption": "PATTERN",
    "logLevel": "NORMAL",
    "allowConcurrency": "true",
    "taskActions": [
      {
        "action": "Compression",
        "actionType": "Zip",
        "properties": {}
      }
    ]
  }
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルパスを使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成する際にはこの例を参考にしてください。

```

POST <serverURL>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "name": "FilePath_RestAPI1",
  "location": {
    "projectId": "OggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePickupFilePath": "test.txt",
    "sourceDirectory": "/root/test",

```

```

        "checkDuplicate": "false",
        "fileStability": "true",
        "stabilityCheckInterval": "60",
        "postPickupAction": "KEEP",
        "filepickupByName": "FILEPATH",
        "batchSize": "5"
    },
    "targetParameters": {
        "fileExistsAction": "OVERWRITE",
        "targetDirectory": "/root/testCheckStability"
    },
    "agentGroupId": "01001D25000000000002",
    "logLevel": "NORMAL",
    "filePickupOption": "FILELIST",
    "allowConcurrency": "true"
}

```

ファイルピックアップオプションとしてファイルリストを使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを作成するにはこの例を参考にしてください。

```

POST <serverURL>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{

```

```

    "name": "DedupFilelist_RestAPI",
    "location": {
        "projectId": "0ggRhrI8ZziguyBxHBzuG0",
        "projectName": "Default"
    },
    "description": "",
    "sourceType": "CONNECTION",
    "sourceConnection": {
        "id": "01001D0B000000000005PP",
        "name": "ADLSGen2",
        "type": "Azure Data Lake Gen2"
    },
    "targetConnection": {
        "id": "01001D0B000000000005PU",
        "name": "AzureDW_Gen2",
        "type": "Azure DW"
    },
    "sourceParameters": {
        "sourceDirectory": "/B2B/MI",
        "checkDuplicate": "true",
        "postPickupAction": "KEEP",
        "filepickupByName": "LISTOFFILES",
        "blockSize": "8388608",
        "filePickupFileList": "File1.txt,File2.txt",
        "batchSize": "5",
        "timeoutInterval": "60",
        "fileStability": "true",
        "stabilityCheckInterval": "60"
    },
    "targetParameters": {
        "commandType": "auto",
        "targetTableName": "test1234",
        "isPushdown": "true",
        "ingestionMethod": "polybase",
        "targetSchemaName": "testing",
        "isTruncateTarget": "true"
    },
    "agentGroupId": "01001D25000000000002",
    "logLevel": "NORMAL",
    "filePickupOption": "FILELIST",

```

```
    "allowConcurrency": "true"
  }
}
```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "cEMWKp1bm44bNf5aMjbJ4U",
  "name": "Green Green v2",
  "location": {
    "projectId": "9JDNOBX9M31e2AD1dIUv6M",
    "projectName": "Default"
  },
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "C:\\Monitor",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "0100000B00000000000002",
    "name": "ADLS",
    "type": "Azure Data Lake"
  },
  "targetParameters": {
    "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
  },
  "agentGroupId": "0100002500000000000002",
  "createdTime": "2018-08-27T07:03:32Z",
  "updatedTime": "2018-08-29T12:14:58Z",
  "taskActions": [
    {
      "action": "Compression",
      "actionType": "Zip",
      "properties": {}
    }
  ]
}
```

注: 応答に表示される作成日時と更新日時は UTC 時間です。

ファイル取り込みとレプリケーションタスクの更新

PUT 要求を使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを更新します。

PUT 要求

ファイル取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の URI を使用します。

mftsaas/api/v1/mitasks/<taskID>

PUT 要求に次のフィールドを含めます。

フィールド	タイプ	必須	説明
id	String	-	タスクの ID 番号。
name	String	○	タスクの名前。
description	String	-	タスクの説明。
sourceType	String	○	ファイルの転送タイプを決定します。次のいずれかのオプションを入力します。 - CONNECTION。ソースとして接続を使用します。 - FILELISTENER。ソースとしてファイルリスナを使用します。
sourceConnection	String	-	ファイルの転送元のディレクトリです。
includeSubfolder	String	-	値は true または false です。この値を true に設定すると、定義したソースディレクトリのすべてのサブフォルダからファイルが転送されます。
checkDuplicate	String	-	値は true または false です。この値を true に設定すると、重複するファイルがチェックされてファイル転送を拒否されます。この値を false に設定すると、すべてのファイルが転送されます。
filePatternType	String	○	転送するファイルの選択に使用するファイル名パターンです。次のいずれかのオプションを入力します。 - Wildcard - Regex
filePattern	String	○	選択したファイルパターンに応じてパターンタイプを入力します。 - wildcard。以下のワイルドカード文字フィルタを使用できます。 - アスタリスク (*) はどんな数の文字とも一致します。 - 疑問符 (?) は 1 つの文字と一致します。 - Regex。正規表現を使用してファイルパターンを照合します。以下に例を示します。 - 次の構文を使用すると、名前に out、foo、baz を含むファイルを除くすべてのファイルをリスニングします。 <code>^(?!.*(?:out baz foo)).*\$</code> à all except - 次の構文を使用すると、拡張子が doc、docx、pdf のすべてのファイルをリスニングします。 <code>([a-zA-Z0-9_\.\-\\(\):])+(\.doc \.docx \.pdf)\$</code> à
fileStability	Boolean	-	ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかをタスクで確認するかどうかを決定します。次のいずれかの値を入力します。 - true。ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認します。 - false。ファイル取り込みとレプリケーションタスクは、ファイルをピックアップする前に、ファイルが安定しているかどうかを確認しません。 デフォルトは false です。

フィールド	タイプ	必須	説明
stabilityCheckInterval	Int	-	<p>ファイル取り込みとレプリケーションタスクがファイルの安定性を確認するために待機する時間（秒単位）。</p> <p>fileStability オプションが true に設定されている場合にのみ、stabilityCheckInterval フィールドに値を指定できます。</p> <p>安定性確認間隔は、10 秒から 300 秒の範囲です。</p>
postPickupAction	String	-	<p>ファイル転送後のソースファイルの処理を決定します。選択可能なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - KEEP。ソースディレクトリ内でファイルを保持します。 - DELETE。ソースディレクトリからファイルを削除します。 - RENAME。ソースディレクトリ内でファイルの名前を変更します。ファイル名を変更する場合は、ファイル取り込みとレプリケーションがファイル名に追加するファイル名の接尾辞を指定する必要があります。 - ARCHIVE。別の場所にファイルをアーカイブします。アーカイブディレクトリを指定する必要があります。
targetConnection	String	○	ファイルの転送先ディレクトリの詳細です。

PUT 要求の例

ファイル取り込みとレプリケーションタスクを更新するにはこの例を参考にしてください。

```
PUT <serverUrl>/public/core/v1/mitasks
Content-Type: application/json
Accept: application/json
Content-Type: application/json
IDS-SESSION-ID: {{IDS-SESSION-ID}}
{
  "id": "cEMWkpibm44bNf5aMjbJ4U",
  "name": "Green Green v2",
  "description": "Green Green v2 Description",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "C:\\\\Monitor",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "01000008000000000002",
    "name": "ADLS",
    "type": "Azure Data Lake"
  },
  "targetParameters": {
    "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
  },
  "agentGroupId": "01000025000000000002"
}
```

PUT 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "id": "cEMWKpibm44bNf5aMjbJ4U",
  "name": "Green Green v2",
  "description": "",
  "sourceType": "CONNECTION",
  "sourceConnection": {
    "id": "",
    "name": "",
    "type": "local"
  },
  "sourceParameters": {
    "filePattern": "*.txt",
    "filePatternType": "WILDCARD",
    "includeSubfolder": "false",
    "sourceDirectory": "C:\\\\Monitor",
    "checkDuplicate": "false",
    "fileStability": "true",
    "stabilityCheckInterval": "60",
    "postPickupAction": "KEEP"
  },
  "targetConnection": {
    "id": "0100000B000000000002",
    "name": "ADLS",
    "type": "Azure Data Lake"
  },
  "targetParameters": {
    "adlsTargetLocation": "/satyen/green"
  },
  "agentGroupId": "01000025000000000002",
  "createdTime": "2018-08-27T07:03:32Z",
  "updatedTime": "2018-08-29T12:14:58Z"
}
```

注: 応答に表示される作成日時と更新日時は UTC 時間です。

ファイル取り込みとレプリケーションタスクの場所の表示

GET 要求を使用して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクの場所を表示します。

GET 要求

次の URI を使用して、ファイル取り込みとレプリケーションタスクの場所を取得します。

/api/v1/mitasks?resolveLocation=true

GET 応答の例

ファイル取り込みとレプリケーションタスクのファイルの場所を取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "miTasks": [
    {
      "id": "1ONE5Vewzzt10tuKROEDum",
      "name": "A01_UMAR_MITASK2318",
      "location": {
        "folderId": "djgFZU6HMo4gCKYghtQvgD",
        "folderName": "A_01_UMAR",
        "projectId": "503RTpKDSSLwmmkwTXLQx",
        "projectName": "Default"
      },
      "description": ""
    }
  ]
}
```

```

    "sourceType": "CONNECTION",
    "sourceConnection": {
      "id": "",
      "name": "",
      "type": "local"
    },
    "targetConnection": {
      "id": "0100000B00000000000002",
      "name": "ftps",
      "type": "Advanced FTPS"
    },
    "agentGroupId": "0100002500000000000002",
    "createdTime": "2019-01-28T09:54:53Z",
    "updatedAt": "2019-01-30T11:17:49Z"
  },
  {
    "id": "9D1tGkAxopJefmUWoG4s48",
    "name": "A01_UMAR_MITASK3354",
    "location": {
      "folderId": "d1gFZU6HMo4gCKYghtQvgD",
      "folderName": "A_01_UMAR",
      "projectId": "503RTpKDSSLlwmkwTXLQx",
      "projectName": "Default"
    },
    "description": "",
    "sourceType": "CONNECTION",
    "sourceConnection": {
      "id": "0100000B00000000000000M",
      "name": "AzureBlob",
      "type": "Azure Blob"
    },
    "targetConnection": {
      "id": "0100000B00000000000000L",
      "name": "SFTP_Conn",
      "type": "Advanced SFTP"
    },
    "agentGroupId": "0100002500000000000002",
    "createdTime": "2019-01-30T06:36:28Z",
    "updatedAt": "2019-01-30T06:42:20Z"
  }
]
}

```

ファイル取り込みとレプリケーションタスクの削除

DELETE 要求を使用してファイル取り込みとレプリケーションタスクを削除します。

DELETE 要求

ファイル取り込みとレプリケーションタスクを削除するには、次の URI に API を使用してそのタスクのタスク ID を含めます。

mftsaas/api/v1/mitasks/<taskID>

第 6 章

ストリーミング取り込みとレプリケーション REST API

ストリーミング取り込みとレプリケーション REST API リソースを使用して、ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ、デプロイ解除、開始、停止、コピー、更新や、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの監視を行うことができます。

ストリーミング取り込みとレプリケーションリソースを使用する場合は、次の要求ヘッダー形式を使用してください。

```
<METHOD><base URL>  
Content-Type: application/json  
Accept: application/json  
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ、デプロイ解除、開始、および停止

dataflows リソースを使用して、ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイ、デプロイ解除、開始、および停止します。

次のベース URL を使用する。

```
<server URI>/sisvc/api/v1/Dataflows('<dataflow ID>')/OData.SI.<API name>
```

注: HTTP バージョンを自動的に含める Postman などのツールを使用する場合は、URL に HTTP バージョンを入力しないでください。HTTP バージョンが URL に 2 回出現すると、要求が失敗します。

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ

POST 要求を使用してストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイします。

POST 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイするには、次の URL を使用します。

```
<server URI>/sisvc/api/v1/Dataflows('<dataflow ID>')/OData.SI.Deploy
```

URL はデータフロー ID を渡すため、要求本文は必要ありません。

POST 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイするには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/api/v1/Dataflows('50077311-d4a4-437c-9218-c3596d1f182f')/OData.SI.Deploy
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "@odata.context": "$metadata#OData.SI.DeploymentResult",
  "successful": true,
  "code": null,
  "errorMessage": null
}
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのデプロイ解除

POST 要求を使用してストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイ解除します。

POST 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイ解除するには、次の URL を使用します。

```
<server URI>/sisvc/api/v1/Dataflows('<dataflow ID>')/OData.SI.Undeploy
```

URL はデータフロー ID を渡すため、要求本文は必要ありません。

POST 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをデプロイ解除するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/api/v1/Dataflows('50077311-d4a4-437c-9218-c3596d1f182f')/OData.SI.Undeploy
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "@odata.context": "$metadata#OData.SI.DeploymentResult",
  "successful": true,
  "code": null,
  "errorMessage": null
}
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクの開始

POST 要求を使用してストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを開始します。

POST 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを開始するには、次の URL を使用します。

```
<server URI>/sisvc/api/v1/Dataflows('<dataflow ID>')/OData.SI.Start
```

URL はデータフロー ID を渡すため、要求本文は必要ありません。

POST 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを開始するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/api/v1/Dataflows('50077311-d4a4-437c-9218-c3596d1f182f')/OData.SI.Start
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "@odata.context": "$metadata#OData.SI.DeploymentResult",
  "successful": true,
  "code": null,
  "errorMessage": null
}
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクの停止

POST 要求を使用してストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを停止します。

POST 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを停止するには、次の URL を使用します。

```
<server URI>/sisvc/api/v1/Dataflows('<dataflowID>')/OData.SI.Stop
```

URL はデータフロー ID を渡すため、要求本文は必要ありません。

POST 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを停止するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/api/v1/Dataflows('d7572789-dc4c-4c56-bbeb-3772736d61aa')/OData.SI.Stop
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
```

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "@odata.context": "$metadata#OData.SI.DeploymentResult",
  "successful": true,
  "code": null,
  "errorMessage": null
}
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクのコピー

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをコピーするには、CopyEntities リソースを使用します。

POST 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをコピーするには、次の URL を使用します。

```
<server URI>/sisvc/restapi/v1/CopyEntities
```

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
targetLocationID	String	○	オブジェクトのコピー先となるターゲットの場所の ID。
sourceEntities	配列	○	ソース接続とターゲット接続の設定。
sourceId	String	○	ソースオブジェクトの ID。
targetName	String	○	ターゲットオブジェクトの名前。
targetDescription	String	-	ターゲットオブジェクトの説明。

POST 要求の例

2 つのストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをコピーするには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/CopyEntities
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
{
  "targetLocationID": "2RGmVdwN15PbfnQP5PSoSB",
  "sourceEntities": [
    {
      "sourceId": "5Ff6jjeaSh2UfAqiV01ldKD",
      "targetName": "Test_Copy_A",
      "targetDescription": "Description_1"
    },
    {
      "sourceId": "fZnCSqcWT0QkJ0r8VCWZQE",
      "targetName": "Test_Copy_B",
      "targetDescription": "Description_2"
    }
  ]
}
```

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答

POST 要求を使用してストリーミング取り込みとレプリケーションタスクをコピーした場合、成功すると成功応答を返し、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトを返します。

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```
{
  "Status Message": "Operation succeeded on 2 artifacts.",
  "Success": {
    "Test_Copy_A": "ideNJw6l54gizxofF53HQH",
    "Test_Copy_B": "cOQ3gcWKSyiKzVqqg6IOok"
  }
}
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクの更新

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、UpdateEntity リソースを使用します。Amazon Kinesis、Amazon S3 V2、Microsoft Azure Event Hub、Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2、フラットファイル、JDBC V2、JMS、Kafka、または MQTT のコネクタを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新できます。

POST 要求

POST 要求を使用してストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新します。

ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の URL を使用します。

<server URI>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')

要求に以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	タスクの名前。
description	String	-	タスクの説明。
runtimeId	String	○	ランタイム環境の ID。
currentVersion	String	○	最新のデータフローオブジェクトバージョン。
nodes	Array	○	タスクのソース接続とターゲット接続の詳細。

nodes 配列のフィールド

配列内のフィールドは、接続の名前、タイプ、および接続 ID を指定します。これには、編集可能なキーと値のペアであるソース接続とターゲット接続の構成が含まれます。nodes 配列には以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	必須	説明
name	String	○	接続の名前。
type	String	○	接続タイプ、ソースまたはターゲット。
connectionId	String	○	接続の ID。
transformationType	String	-	該当なし。
config	Array	○	ソース接続とターゲット接続の構成。

MQTT をソースとするタスクの接続設定

タスクソースのソース接続が MQTT の場合、ソース接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
ClientID	String	-	MQTT ソースと MQTT ブローカ間の接続を識別する一意の識別子。クライアント ID は、MQTT ソースがメッセージの処理中にメッセージを格納するために使用するファイルベースの永続ストアです。 255 文字までの文字列を入力できます。
MaxQueueSize	Integer	-	プロセッサがメモリに保存できるメッセージの最大数。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
Topic	String	○	MQTT トピックの名前。

POST 要求の例

MQTT ソースとフラットファイルターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "name": "mqtt to flatfile",
  "description": "mqtt to flatfile",
  "runtimeId": "0100002500000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "mqtt to flatfile_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B0000000000010",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "ClientID",
          "value": "test"
        },
        {
          "key": "MaxQueueSize",
          "value": 1024
        },
        {
          "key": "Topic",
          "value": "test"
        }
      ]
    },
    {
      "name": "mqtt to flatfile_target",
      "type": "target",
      "connectionId": "012MGS0B0000000000002N",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "interimDirectory",
          "value": "/home/agent/test"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```

    {
      "key": "rolloverSize",
      "value": 1024
    },
    {
      "key": "rolloverEvents",
      "value": 100
    },
    {
      "key": "rolloverTime",
      "value": 300000
    },
    {
      "key": "File Name",
      "value": "test"
    }
  ]
},
"edges": [
  {
    "from": "mqtt to flatfile_source",
    "to": "mqtt to flatfile_target"
  }
]
}

```

JMS をソースとするタスクの接続設定

タスクソースのソース接続が JMS の場合、ソース接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
destinationType	String	○	<p>ソースサービスが JMS メッセージを送信する接続先のタイプ。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [キュー]。JMS プロバイダは、キューに登録されている単一のコンシューマにメッセージを配信します。 - [トピック]。JMS プロバイダは、トピックにサブスクライブしているすべてのアクティブなコンシューマにメッセージを配信します。
clientId	String	○	JMS 接続の一意の ID。255 文字までの文字列を入力できます。
sharedSubscription	String	○	<p>複数のコンシューマが単一のサブスクリプションにアクセスできるようにします。トピックの接続先タイプに適用されます。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - True - False
durableSubscription	String	○	<p>True に設定した場合、JMS ソースサービスは、非アクティブなサブスクライバがメッセージを保持し、サブスクライバが再接続したときにそれらのメッセージを配信できるようにします。トピックの接続先タイプに適用されます。次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - True - False

キー	タイプ	必須	説明
subscriptionName	String	○	サブスクリプションの名前。トピックサブスクリプションタイプが共有、継続、またはその両方である場合に、トピックの接続先タイプに適用されます。
JMS 接続先	String	○	JMS プロバイダがメッセージを配信するキューまたはトピックの名前。

POST 要求の例

JMS ソースとフラットファイルターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "name": "crud",
  "description": "JMS to FileToFile",
  "runtimeId": "01000025000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "crud_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B0000000000003",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "destinationType",
          "value": "QUEUE"
        },
        {
          "key": "clientId",
          "value": ""
        },
        {
          "key": "JMS Destination",
          "value": "test"
        }
      ]
    },
    {
      "name": "crud_target",
      "type": "target",
      "connectionId": "012MGS0B0000000000000H",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "interimDirectory",
          "value": "/home/agent/test"
        },
        {
          "key": "rolloverSize",
          "value": 1024
        },
        {
          "key": "rolloverEvents",
          "value": 100
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```

        "key": "rolloverTime",
        "value": 300000
      },
      {
        "key": "File Name",
        "value": "test"
      }
    ]
  },
  "edges": [
    {
      "from": "crud_source",
      "to": "crud_target"
    }
  ]
}

```

Microsoft Azure Data Lake Storage Gen2（ADLS Gen2）をターゲットとするタスクの接続設定

タスクターゲットのターゲット接続が ADLS Gen2 の場合、ターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
writeStrategy	String	○	ADLS Gen2 ストレージに同じ名前のファイルが存在する場合に実行するアクション。 次のいずれかの値を入力します。 - 付加。既存のファイルにデータを追加します。 - 上書き。既存のファイルを新しいファイルに置き換えます。 - 失敗。要求を失敗させます。 - ロールオーバー。現在のファイルを閉じ、設定されたロールオーバー値に基づいて新しいファイルを作成します。
rolloverSize *	Integer	-	ロールオーバーをトリガする際のターゲットファイルサイズ (KB)。ロールオーバー書き込みストラテジに適用されます。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
rolloverEvents *	Integer	-	ロールオーバーの前に蓄積するイベントまたはメッセージの数。ロールオーバー書き込みストラテジに適用されます。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
rolloverTime *	Integer	-	ロールオーバーをトリガするまでの時間（ミリ秒単位）。ロールオーバー書き込みストラテジに適用されます。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
filesystemNameOverride	String	-	接続で提供されたデフォルトのファイルシステム名をオーバーライドします。このファイルシステム名は、実行時にファイルに書き込むために使用されます。 1280 文字までの文字列を入力できます。
directoryOverride	String	-	デフォルトのディレクトリパスをオーバーライドします。データを書き込む先の ADLS Gen2 ディレクトリパス。空白の場合は、デフォルトのディレクトリパスが使用されます。 1280 文字までの文字列を入力できます。

キー	タイプ	必須	説明
compressionFormat	String	-	ストリーミング取り込みタスクがターゲットファイルにデータを書き込む前に使用する圧縮形式。 次のいずれかの値を入力します。 - なし - GZIP - BZIP2 - DEFAULT1 Zlib 形式を使用するには、この値を入力します。 - DEFAULT2 Deflate 形式を使用するには、この値を入力します。
ファイル名/式	String	○	ADLS Gen2 ファイル名または正規表現。 249 文字までの文字列を入力できます。
* これらのフィールドの少なくとも 1 つに値を入力してください。			

POST 要求の例

フラットファイルソースと ADLS Gen2 ターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

```
{
  "name": "flatfile to adls",
  "description": "flatfile to adls",
  "runtimeId": "010000250000000000003",
  "locationId": "5sJ0JdyJyWLLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "flatfile to adls_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B000000000002N",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "File",
          "value": "logfile"
        },
        {
          "key": "initialPosition",
          "value": "Current Time"
        },
        {
          "key": "rolloverPattern",
          "value": "test"
        },
        {
          "key": "tailingMode",
          "value": "Single file"
        }
      ]
    },
    {
      "name": "flatfile to adls_target",
      "type": "target",

```

```

"connectionId": "012MGS0B000000000003D",
"transformationType": "",
"config": [
  {
    "key": "writeStrategy",
    "value": "Rollover"
  },
  {
    "key": "filesystemNameOverride",
    "value": "test"
  },
  {
    "key": "File Name/Expression",
    "value": "test"
  },
  {
    "key": "compressionFormat",
    "value": "NONE"
  },
  {
    "key": "directoryOverride",
    "value": "/test"
  },
  {
    "key": "interimDirectory",
    "value": "/home/agent/test"
  },
  {
    "key": "rolloverSize",
    "value": 1024
  },
  {
    "key": "rolloverEvents",
    "value": 100
  },
  {
    "key": "rolloverTime",
    "value": 300000
  }
]
}
]
}

```

Amazon S3 をターゲットとするタスクの接続設定

タスクターゲットのターゲット接続が Amazon S3 の場合、ターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
partitionTime	String	-	ストリーミング取り込みタスクが Amazon S3 バケットにパーティションを作成する際に従う時間間隔。 次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none">- なし- 5 分- 10 分- 15 分- 20 分- 30 分- 1 時間- 1 日
minUploadPartSize	Integer	-	複数の独立したパートセットとしてサイズの大きなファイルをアップロードする場合の最小パートサイズ (MB 単位)。このプロパティを使用して、ファイルのロードを Amazon S3 に合わせます。 50 から 5120 までの数値を入力できます。
multipartUploadThreshold	Integer	-	オブジェクトを複数のパートで並行してアップロードする場合のマルチパートしきい値。 50 から 5120 までの数値を入力できます。
オブジェクト名/式	String	○	Amazon S3 ターゲットファイル名、または Amazon S3 ファイル名パターンの正規表現。

POST 要求の例

フラットファイルソースと Amazon S3 ターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "name": "flatfile to amazon S3",
  "description": "flatfile to amazon S3",
  "runtimeId": "01000025000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "flatfile to amazon S3_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B00000000002N",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "File",
          "value": "logfile"
        },
        {
          "key": "initialPosition",
```

```

        "value": "Current Time"
      },
      {
        "key": "rolloverPattern",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "tailingMode",
        "value": "Single file"
      }
    ]
  },
  {
    "name": "flatfile to amazon S3_target",
    "type": "target",
    "connectionId": "012MGS0B0000000000I7",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "partitionTime",
        "value": "None"
      },
      {
        "key": "minUploadPartSize",
        "value": 5120
      },
      {
        "key": "multipartUploadThreshold",
        "value": 5120
      },
      {
        "key": "Object Name/Expression",
        "value": "test"
      }
    ]
  }
],
"edges": [
  {
    "from": "flatfile to amazon S3_source",
    "to": "flatfile to amazon S3_target"
  }
]
}

```

Azure Event Hubs をターゲットとするタスクの接続設定

タスクターゲットのターゲット接続が Azure Event Hubs の場合、ターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
sasPolicyName	String	-	Event Hub 名前空間共有アクセスポリシーの名前。 255 文字までの文字列を入力できます。
sasPolicyPrimaryKey	String	-	Event Hub 名前空間共有アクセスポリシーのプライマリキー。 255 文字までの文字列を入力できます。
Event Hub	String	○	Azure Event Hubs の名前。 255 文字までの文字列を入力できます。名前には、小文字、大文字、数字、および特殊文字（「-」および「_」）を含めることができます。

POST 要求の例

フラットファイルソースと Azure Event Hubs ターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "name": "flatfile to azure event hub",
  "description": "flatfile to azure event hub",
  "runtimeId": "0100002500000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "flatfile to azure event hub_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B000000000002N",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "File",
          "value": "logfile"
        },
        {
          "key": "initialPosition",
          "value": "Current Time"
        },
        {
          "key": "rolloverPattern",
          "value": "test"
        },
        {
          "key": "tailingMode",
          "value": "Single file"
        }
      ]
    },
    {
      "name": "flatfile to azure event hub_target",
      "type": "target",
      "connectionId": "012MGS0B000000000001S",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "sasPolicyName",
          "value": "test"
        },
        {
          "key": "sasPolicyPrimaryKey",
          "value": "test"
        },
        {
          "key": "Event Hub",
          "value": "test"
        }
      ]
    }
  ],
  "edges": [
    {
      "from": "flatfile to azure event hub_source",
      "to": "flatfile to azure event hub_target"
    }
  ]
}
```

JDBC V2 をターゲットとするタスクの接続設定

タスクターゲットのターゲット接続が JDBC V2 の場合、ターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
Table Name	String	○	JSON 形式でデータを挿入するテーブルの名前。 988 文字までの文字列を入力します。

POST 要求の例

フラットファイルソースと JDBC V2 ターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "name": "FileFile to jdbc",
  "description": "FileToFile to jdbc target",
  "runtimeId": "01000025000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "flatfile to jdbc_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B00000000002N",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "initialPosition",
          "value": "Current Time"
        },
        {
          "key": "tailingMode",
          "value": "Single file"
        },
        {
          "key": "rolloverPattern",
          "value": "test"
        },
        {
          "key": "File",
          "value": "logfile"
        }
      ]
    },
    {
      "name": "flatfile to jdbc_target",
      "type": "target",
      "connectionId": "012MGS0B00000000000KF",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "Table Name",
          "value": "table"
        }
      ]
    }
  ],
  "edges": [
    {
```

```

    "from": "flatfile to jdbc_source",
    "to": "flatfile to jdbc_target"
  }
]
}

```

Amazon Kinesis Streams をソースおよびターゲットとするタスクの接続設定

タスクのソース接続とターゲット接続が Amazon Kinesis Streams の場合、ソース接続とターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
appendGUID	Boolean		Amazon DynamoDB テーブル名にサフィックスとして GUID を追加するかどうかを指定します。 次のいずれかの値を入力します。 - true - false
dynamoDB	String		Kinesis ソースデータのチェックポイントの詳細を保存する Amazon DynamoDB テーブル名。 128 文字までの文字列を入力できます。
Stream	String	○	データを読み取る元の Kinesis Stream の名前。 128 文字までの文字列を入力します。 ソースノードに表示されます。
Stream Name/ Expression	String	○	データを書き込む先の Kinesis Stream 名または正規表現。 128 文字までの文字列を入力します。 ターゲットノードに表示されます。

POST 要求の例

Amazon Kinesis Streams ソースと Amazon Kinesis Streams ターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```

POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>

```

```

{
  "name": "kinesis to kinesis",
  "description": "kinesis to kinesis",
  "runtimeId": "01000025000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "kinesis to kinesis_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B000000000000F",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "appendGUID",
          "value": true
        },
        {
          "key": "dynamoDB",

```

```

        "value": "table"
      },
      {
        "key": "Stream",
        "value": "test"
      }
    ]
  },
  {
    "name": "kinesis to kinesis_target",
    "type": "target",
    "connectionId": "012MGS0B00000000000F",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "Stream Name/Expression",
        "value": "trgt"
      }
    ]
  }
],
"edges": [
  {
    "from": "kinesis to kinesis_source",
    "to": "kinesis to kinesis_target"
  }
]
}

```

フラットファイルをソースおよびターゲットとするタスクの接続設定

タスクのソース接続とターゲット接続がフラットファイルの場合、ソース接続とターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
File	String	○	ソースファイルの絶対パスおよび名前。複数ファイルモードのベースディレクトリを入力します。
initialPosition	String	○	テールするファイルからデータを読み取る際の開始位置。次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> - ファイルの先頭。ファイルの先頭から読み取ります。すでにロールオーバーされているデータは取り込みません。 - 現在の時刻。ファイルの最近更新された部分から読み取ります。ロールオーバーされたデータまたは書き込まれたファイル内のデータは取り込みません。
rolloverPattern	String	-	ロールオーバーするファイルのファイル名パターン。 テールするファイルがロールオーバーした場合、Secure Agent はファイル名パターンを使用して、ロールオーバーしたファイルを識別します。ファイルのロールオーバー中に Secure Agent が停止した場合、再起動時に、中断されたポイントからファイルを取得します。 アスタリスク (*) と疑問符 (?) をワイルドカード文字として使用し、ファイルが同じディレクトリにロールオーバーされることを示すことができます。例: \${filename}.log.* と入力します。ここで、アスタリスク (*) は、ファイル名に追加される連続するバージョン番号を表します。

キー	タイプ	必須	説明
tailMode	String	○	ロギングパターンに基づいて、1 つまたは複数のファイルをテールします。次のいずれかの値を入力します。 - 単一ファイル。1 つのファイルをテールします。 - 複数ファイル。ベースディレクトリに示されているすべてのファイルをテールします。正規表現を入力して、テールするファイルを示すことができます。
File Name	String	○	ターゲットファイルの名前。
interimDirectory	String	○	Secure Agent 上のステージングディレクトリへのパス。
rolloverSize	Integer	○	タスクがファイルをステージングディレクトリからターゲットに移動する際のファイルサイズ (KB)。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
rolloverEvents	Integer	○	ファイルのロールオーバーの前に蓄積するイベントまたはメッセージの数。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
rolloverTime	Integer	-	ターゲットファイルがロールオーバーするまでの時間 (ミリ秒単位)。 1 から 2147483647 までの数値を入力できます。
edges	Array	-	データフロー実行のシーケンス。

POST 要求の例

フラットファイルソースとフラットファイルターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')

Content-Type: application/json

Accept: application/json

IDS-SESSION-ID: <SessionId>

```
{
  "name": "FileToFile",
  "description": "FileToFile_V2",
  "runtimeId": "01000025000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "FileToFile_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "0100000B000000000002",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "File",
          "value": "siagent.log"
        },
        {
          "key": "initialPosition",
          "value": "Current Time"
        },
        {
          "key": "rolloverPattern",
          "value": ""
        }
      ]
    }
  ],
}
```

```

        {
          "key": "tailingMode",
          "value": "Single file"
        }
      ],
    },
    {
      "name": "FileToFile_target",
      "type": "target",
      "connectionId": "0100000B0000000000002",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "File Name",
          "value": "testing.log"
        },
        {
          "key": "interimDirectory",
          "value": "/home/agent/infa/test_file_target"
        },
        {
          "key": "rolloverSize",
          "value": 100
        },
        {
          "key": "rolloverEvents",
          "value": 100
        },
        {
          "key": "rolloverTime",
          "value": 100
        }
      ]
    }
  ],
  "edges": [
    {
      "from": "FileToFile_source",
      "to": "FileToFile_target"
    }
  ],
  "runtimeOptions": {
    "maxLogSize": {
      "value": 10,
      "unit": "MB"
    },
    "logLevel": "INFO"
  }
}

```

Kafka をソースおよびターゲットとするタスクの接続設定

タスクのソース接続とターゲット接続が Kafka の場合、ソース接続とターゲット接続の構成配列に次のフィールドおよびキーと値のペアを含めることができます。

キー	タイプ	必須	説明
Topic	String	○	イベントの読み取り元となる Kafka ソーストピック名、または Java でサポートされている Kafka ソーストピック名パターンの正規表現。 249 文字までの文字列を入力します。
consumerProperties	String	-	必要に応じて、コンシューマ設定のプロパティのカンマ区切りリストを指定します。キーと値のペアとして値を指定します。 例: key1=value1, key2=value2 4000 文字までの文字列を入力できます。
producerProperties	String	-	プロデューサの設定プロパティ。 カンマ区切りリストを指定し、値をキーと値のペアとして指定します。 4000 文字までの文字列を入力できます。
mdFetchTimeout	Integer	-	それ以降にメタデータが取得されなくなる時間。 1〜2147483647 の範囲で値を入力してください。
batchSize	Integer	-	ストリーミング取り込みタスクがそれ以降のターゲットにデータを書き込むイベントのバッチサイズ。 1〜2147483647 の範囲で値を入力してください。
Topic Name/ Expression	String	○	Kafka トピック名または Java がサポートする Kafka トピック名パターンの正規表現。 249 文字までの文字列を入力できます。

POST 要求の例

Kafka ソースと Kafka ターゲットを使用するストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを更新するには、次の例のような要求を送信します。

```
POST <serverUrl>/sisvc/restapi/v1/UpdateEntity/Documents('<document ID>')
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: <SessionId>
```

```
{
  "name": "kafka to kafka",
  "description": "kafka to kafka",
  "runtimeId": "01000025000000000003",
  "locationId": "5sJ0JDyJyWLLrosS5qJjsQ",
  "currentVersion": "2",
  "messageFormat": "binary",
  "nodes": [
    {
      "name": "kafka to kafka_source",
      "type": "source",
      "connectionId": "012MGS0B0000000000002",
      "transformationType": "",
      "config": [
        {
          "key": "consumerProperties",
          "value": "key=value"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

```

    },
    {
      "key": "Topic",
      "value": "test"
    }
  ]
},
{
  "name": "kafka to kafka_target",
  "type": "target",
  "connectionId": "012MGS0B0000000000002",
  "transformationType": "",
  "config": [
    {
      "key": "producerProperties",
      "value": "key=value"
    },
    {
      "key": "mdFetchTimeout",
      "value": 5000
    },
    {
      "key": "batchSize",
      "value": 1048576
    },
    {
      "key": "Topic Name/Expression",
      "value": "test"
    }
  ]
}
],
"edges": [
  {
    "from": "kafka to kafka_source",
    "to": "kafka to kafka_target"
  }
]
}

```

POST 応答

REST API はアクションの実行に成功すると、200 または 201 成功応答が返されます。REST API でエラーが発生すると、適切なエラーコードが返されます。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

フィールド	タイプ	説明
name	String	タスクの名前。
description	String	ある場合は、タスクの説明。
runtimeId	String	ランタイム環境の ID。
currentVersion	String	最新のデータフローオブジェクトバージョン。
nodes	Array	タスクのソース接続とターゲット接続の詳細。

nodes 配列のフィールド

応答には、nodes 配列の以下のフィールドを含めることができます。

フィールド	タイプ	説明
name	String	接続の名前。
type	String	接続タイプ。
connectionId	String	接続の ID。
TRANSFORMATIONTYPE	String	トランスフォーメーションのタイプ。
config	String	キーと値のペアであるソース接続とターゲット接続の構成。配列内のキーは、ソース接続とターゲット接続のタイプによって異なります。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

MQTT をソースとする場合の構成配列内の構成情報

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
ClientID	String	MQTT ソースと MQTT ブローカ間の接続を識別する一意の識別子。クライアント ID は、MQTT ソースがメッセージの処理中にメッセージを格納するために使用するファイルベースの永続ストアです。
MaxQueueSize	Integer	プロセッサがメモリに保存できるメッセージの最大数。
Topic	String	MQTT トピックの名前。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```
{
  "Success": {
    "name": "mqtt to flatfile",
    "description": "mqtt to flatfile",
    "runtimeId": "01000025000000000003",
    "locationId": "5sJ0JDyJyWllrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
    "messageFormat": "binary",
    "nodes": [
      {
        "name": "mqtt to flatfile_source",
        "type": "source",
        "connectionId": "012MGS0B000000000010",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "ClientID",
            "value": "test"
          },
          {
            "key": "MaxQueueSize",
            "value": 1024
          }
        ]
      }
    ]
  }
}
```

```

    },
    {
      "key": "Topic",
      "value": "test"
    }
  ]
},
{
  "name": "mqtt to flatfile_target",
  "type": "target",
  "connectionId": "012MGS0B000000000002N",
  "transformationType": "",
  "config": [
    {
      "key": "interimDirectory",
      "value": "/home/agent/test"
    },
    {
      "key": "rolloverSize",
      "value": 1024
    },
    {
      "key": "rolloverEvents",
      "value": 100
    },
    {
      "key": "rolloverTime",
      "value": 300000
    },
    {
      "key": "File Name",
      "value": "test"
    }
  ]
}
],
"edges": [
  {
    "from": "mqtt to flatfile_source",
    "to": "mqtt to flatfile_target"
  }
]
}
}

```

JMS をソースとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
destinationType	String	ソースサービスが JMS メッセージを送信する接続先のタイプ。
clientId	String	JMS 接続の一意の ID。
sharedSubscription	String	複数のコンシューマが単一のサブスクリプションにアクセスできるようにします。トピックの接続先タイプに適用されます。
durableSubscription	String	JMS ソースサービスは、非アクティブなサブスクライバがメッセージを保持し、サブスクライバが再接続したときにそれらのメッセージを配信できるようにします。トピックの接続先タイプに適用されます。

キー	タイプ	説明
subscriptionName	String	サブスクリプションの名前。トピックサブスクリプションタイプが共有、継続、またはその両方である場合に、トピックの接続先タイプに適用されます。
JMS Destination	String	JMS プロバイダがメッセージを配信するキューまたはトピックの名前。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```
{
  "Success": {
    "name": "crud",
    "description": "JMS to FileToFile",
    "runtimeId": "0100002500000000000003",
    "locationId": "5sJQJdyJyWLlrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
    "messageFormat": "binary",
    "nodes": [
      {
        "name": "crud_source",
        "type": "source",
        "connectionId": "012MGSQB00000000000003",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "destinationType",
            "value": "QUEUE"
          },
          {
            "key": "clientId",
            "value": ""
          },
          {
            "key": "JMS Destination",
            "value": "test"
          }
        ]
      },
      {
        "name": "crud_target",
        "type": "target",
        "connectionId": "012MGSQB0000000000000H",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "interimDirectory",
            "value": "/home/agent/test"
          },
          {
            "key": "rolloverSize",
            "value": 1024
          },
          {
            "key": "rolloverEvents",
            "value": 100
          },
          {
            "key": "rolloverTime",
            "value": 300000
          },
          {
            "key": "File Name",

```

```

      "value": "test"
    }
  ],
  "edges": [
    {
      "from": "crud_source",
      "to": "crud_target"
    }
  ]
}
}
}

```

ADLS Gen2 をターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
writeStrategy	String	ADLS Gen2 ストレージにファイルが存在する場合に実行するアクション。
rolloverSize *	Integer	ロールオーバーをトリガする際のターゲットファイルサイズ (KB)。ロールオーバー書き込みストラテジに適用されます。
rolloverEvents *	Integer	ロールオーバーの前に蓄積するイベントまたはメッセージの数。ロールオーバー書き込みストラテジに適用されます。
rolloverTime *	Integer	ロールオーバーをトリガするまでの時間 (ミリ秒単位)。ロールオーバー書き込みストラテジに適用されます。
filesystemNameOverride	String	接続で提供されたデフォルトのファイルシステム名をオーバーライドします。このファイルシステム名は、実行時にファイルに書き込むために使用されます。
directoryOverride	String	デフォルトのディレクトリパスをオーバーライドします。データの書き込み先の ADLS Gen2 ディレクトリパス。空白の場合は、デフォルトのディレクトリパスが使用されます。
compressionFormat	String	ストリーミング取り込みタスクがターゲットファイルにデータを書き込む前に使用する圧縮形式。
File Name/Expression	String	ADLS Gen2 ファイル名または正規表現。
* これらのフィールドの少なくとも 1 つに値を入力してください。		

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```

{
  "Success": {
    "name": "flatfile to adls",
    "description": "flatfile to adls",
    "runtimeId": "01000025000000000003",
    "locationId": "5sJQJdyJyWLLrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
  }
}

```

```

"messageFormat": "binary",
"nodes": [
  {
    "name": "flatfile to adls_source",
    "type": "source",
    "connectionId": "012MGS0B00000000002N",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "File",
        "value": "logfile"
      },
      {
        "key": "initialPosition",
        "value": "Current Time"
      },
      {
        "key": "rolloverPattern",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "tailingMode",
        "value": "Single file"
      }
    ]
  },
  {
    "name": "flatfile to adls_target",
    "type": "target",
    "connectionId": "012MGS0B00000000003D",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "writeStrategy",
        "value": "Rollover"
      },
      {
        "key": "filesystemNameOverride",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "File Name/Expression",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "compressionFormat",
        "value": "NONE"
      },
      {
        "key": "directoryOverride",
        "value": "/test"
      },
      {
        "key": "interimDirectory",
        "value": "/home/agent/test"
      },
      {
        "key": "rolloverSize",
        "value": 1024
      },
      {
        "key": "rolloverEvents",
        "value": 100
      },
      {
        "key": "rolloverTime",
        "value": 300000
      }
    ]
  }
]
}
]

```

```
}  
}
```

Amazon S3 をターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
partitionTime	String	ストリーミング取り込みタスクが Amazon S3 バケットにパーティションを作成する際に従う時間間隔。
minUploadPartSize	Integer	複数の独立したパートセットとしてサイズの大きなファイルをアップロードする場合の最小パートサイズ (MB 単位)。このプロパティを使用して、ファイルのロードを Amazon S3 に合わせます。
multipartUploadThreshold	Integer	オブジェクトを複数のパートで並行してアップロードする場合のマルチパートしきい値。
Object Name/Expression	String	Amazon S3 ターゲットファイル名、または Amazon S3 ファイル名パターンの正規表現。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```
{  
  "Success": {  
    "name": "flatfile to amazon S3",  
    "description": "flatfile to amazon S3",  
    "runtimeId": "01000025000000000003",  
    "locationId": "5sJ0JDyJyWllrosS5qJjsQ",  
    "currentVersion": "2",  
    "messageFormat": "binary",  
    "nodes": [  
      {  
        "name": "flatfile to amazon S3_source",  
        "type": "source",  
        "connectionId": "012MGS0B00000000002N",  
        "transformationType": "",  
        "config": [  
          {  
            "key": "File",  
            "value": "logfile"  
          },  
          {  
            "key": "initialPosition",  
            "value": "Current Time"  
          },  
          {  
            "key": "rolloverPattern",  
            "value": "test"  
          },  
          {  
            "key": "tailingMode",  
            "value": "Single file"  
          }  
        ]  
      },  
      {  
        "name": "flatfile to amazon S3_target",
```

```

    "type": "target",
    "connectionId": "012MGS0B0000000000I7",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "partitionTime",
        "value": "None"
      },
      {
        "key": "minUploadPartSize",
        "value": 5120
      },
      {
        "key": "multipartUploadThreshold",
        "value": 5120
      },
      {
        "key": "Object_Name/Expression",
        "value": "test"
      }
    ]
  },
  "edges": [
    {
      "from": "flatfile to amazon S3_source",
      "to": "flatfile to amazon S3_target"
    }
  ]
}

```

Azure Event Hub をターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
sasPolicyName	String	Event Hub 名前空間共有アクセスポリシーの名前。
sasPolicyPrimaryKey	String	Event Hub 名前空間共有アクセスポリシーのプライマリキー。
Event Hub	String	Azure Event Hubs の名前。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```

{
  "Success": {
    "name": "flatfile to azure event hub",
    "description": "flatfile to azure event hub",
    "runtimeId": "01000025000000000003",
    "locationId": "5sJ0JDyJyWLLrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
    "messageFormat": "binary",
    "nodes": [
      {
        "name": "flatfile to azure event hub_source",
        "type": "source",
        "connectionId": "012MGS0B000000000002N",
        "transformationType": "",

```

```

    "config": [
      {
        "key": "File",
        "value": "logfile"
      },
      {
        "key": "initialPosition",
        "value": "Current Time"
      },
      {
        "key": "rolloverPattern",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "tailingMode",
        "value": "Single file"
      }
    ]
  },
  {
    "name": "flatfile to azure event hub_target",
    "type": "target",
    "connectionId": "012MGS0B000000000001S",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "sasPolicyName",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "sasPolicyPrimaryKey",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "Event Hub",
        "value": "test"
      }
    ]
  }
],
"edges": [
  {
    "from": "flatfile to azure event hub_source",
    "to": "flatfile to azure event hub_target"
  }
]
}

```

ターゲットとしての JDBC をターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

リクエスト要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
Table Name	String	JSON 形式でデータを挿入するテーブルの名前。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```

{
  "Success": {

```



```

"name": "FileFile to jdbc",
"description": "FileToFile to jdbc target",
"runtimeId": "01000025000000000003",
"locationId": "5sJQJDyJyWllrosS5qJjsQ",
"currentVersion": "2",
"messageFormat": "binary",
"nodes": [
  {
    "name": "flatfile to jdbc_source",
    "type": "source",
    "connectionId": "012MGSQB00000000002N",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "initialPosition",
        "value": "Current Time"
      },
      {
        "key": "tailingMode",
        "value": "Single file"
      },
      {
        "key": "rolloverPattern",
        "value": "test"
      },
      {
        "key": "File",
        "value": "logfile"
      }
    ]
  },
  {
    "name": "flatfile to jdbc_target",
    "type": "target",
    "connectionId": "012MGSQB0000000000KF",
    "transformationType": "",
    "config": [
      {
        "key": "Table Name",
        "value": "table"
      }
    ]
  }
],
"edges": [
  {
    "from": "flatfile to jdbc_source",
    "to": "flatfile to jdbc_target"
  }
]
}

```

Amazon Kinesis Streams をソースおよびターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
appendGUID	Boolean	Amazon DynamoDB テーブル名にサフィックスとして GUID を追加するかどうかを指定します。
DynamoDB	String	Kinesis ソースデータのチェックポイントの詳細を保存する Amazon DynamoDB テーブル名。
Stream	String	データの読み取り元の Kinesis Stream の名前。 Amazon Kinesis Streams をソースとして使用する場合に適用されます。
Stream Name/ Expression	String	Kinesis ストリーム名または Kinesis ストリーム名パターンの正規表現。 Amazon Kinesis Streams をターゲットとして使用する場合に適用されます。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```
{
  "Success": {
    "name": "kinesis to kinesis",
    "description": "kinesis to kinesis",
    "runtimeId": "01000025000000000003",
    "locationId": "5sJ0JDyJyWllrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
    "messageFormat": "binary",
    "nodes": [
      {
        "name": "kinesis to kinesis_source",
        "type": "source",
        "connectionId": "012MGS0B000000000000F",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "appendGUID",
            "value": true
          },
          {
            "key": "dynamoDB",
            "value": "table"
          },
          {
            "key": "Stream",
            "value": "test"
          }
        ]
      },
      {
        "name": "kinesis to kinesis_target",
        "type": "target",
        "connectionId": "012MGS0B000000000000F",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "Stream Name/Expression",
            "value": "trgt"
          }
        ]
      }
    ],
    "edges": [
```

```

    {
      "from": "kinesis to kinesis_source",
      "to": "kinesis to kinesis_target"
    }
  ]
}
}

```

フラットファイルをソースおよびターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	必須	説明
File	String	○	読み取るソースファイルの絶対パスと名前。
initialPosition	String	○	テールするファイルからデータを読み取る際の開始位置。
rolloverPattern	String	-	ロールオーバーするファイルのファイル名パターン。
tailingMode	String	○	ロギングパターンに基づいて、1 つまたは複数のファイルをテールします。
File Name	String	○	ターゲットファイルの名前。
interimDirectory	String	○	Secure Agent 上のステージングディレクトリへのパス。
rolloverSize	Integer	○	タスクがファイルをステージングディレクトリからターゲットに移動する際のファイルサイズ (KB)。
rolloverEvents	Integer	○	ファイルのロールオーバーの前に蓄積するイベントまたはメッセージの数。
rolloverTime	Integer	-	ターゲットファイルがロールオーバーするまでの時間 (ミリ秒単位)。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、次の例のような応答を受信します。

```

{
  "Success": {
    "name": "FileToFile",
    "description": "FileToFile_V2",
    "runtimeId": "01000025000000000003",
    "locationId": "5sJQJDyJyWLLrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
    "messageFormat": "binary",
    "nodes": [
      {
        "name": "FileToFile_source",
        "type": "source",
        "connectionId": "0100000B000000000002",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "File",
            "value": "siagent.log"
          }
        ]
      }
    ]
  }
}

```

```

    },
    {
      "key": "initialPosition",
      "value": "Current Time"
    },
    {
      "key": "rolloverPattern",
      "value": ""
    },
    {
      "key": "tailingMode",
      "value": "Single file"
    }
  ]
},
{
  "name": "FileToFile_target",
  "type": "target",
  "connectionId": "0100000B00000000000002",
  "transformationType": "",
  "config": [
    {
      "key": "File Name",
      "value": "testing.log"
    },
    {
      "key": "interimDirectory",
      "value": "/home/agent/infa/test_file_target"
    },
    {
      "key": "rolloverSize",
      "value": 100
    },
    {
      "key": "rolloverEvents",
      "value": 100
    },
    {
      "key": "rolloverTime",
      "value": 100
    }
  ]
}
],
"edges": [
  {
    "from": "FileToFile_source",
    "to": "FileToFile_target"
  }
],
"runtimeOptions": {
  "maxLogSize": {
    "value": 10,
    "unit": "MB"
  },
  "logLevel": "INFO"
}
}
}

```

Kafka をソースおよびターゲットとする場合の構成配列内の構成情報

応答は、要求で入力したフィールドのみを返します。

要求が成功した場合、応答は次のフィールドを返します。

キー	タイプ	説明
Topic	String	イベントの読み取り元となる Kafka ソーストピック名、または Java でサポートされている Kafka ソーストピック名パターンの正規表現。
consumerProperties	String	オプションのコンシューマ設定プロパティのカンマ区切りリスト。
producerProperties	String	プロデューサの設定プロパティ。
mdFetchTimeout	Integer	それ以降にメタデータが取得されなくなる時間。
batchSize	Integer	ストリーミング取り込みタスクがそれ以降なターゲットにデータを書き込むイベントのバッチサイズ。
Topic Name/Expression	String	Kafka トピック名または Java がサポートする Kafka トピック名パターンの正規表現。

要求が失敗すると、応答にエラーの理由が含まれます。

POST 応答の例

要求が成功した場合、Success ノードで次の例のような応答を受信することがあります。

```
{
  "Success": {
    "name": "kafka to kafka",
    "description": "kafka to kafka",
    "runtimeId": "01000025000000000003",
    "locationId": "5sJ0JDyJyWllrosS5qJjsQ",
    "currentVersion": "2",
    "messageFormat": "binary",
    "nodes": [
      {
        "name": "kafka to kafka_source",
        "type": "source",
        "connectionId": "012MGS0B000000000002",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "consumerProperties",
            "value": "key=value"
          },
          {
            "key": "Topic",
            "value": "test"
          }
        ]
      },
      {
        "name": "kafka to kafka_target",
        "type": "target",
        "connectionId": "012MGS0B000000000002",
        "transformationType": "",
        "config": [
          {
            "key": "producerProperties",
            "value": "key=value"
          },
          {
            "key": "mdFetchTimeout",
            "value": 5000
          },
          {
            "key": "batchSize",

```

```

        "value": 1048576
      },
      {
        "key": "Topic Name/Expression",
        "value": "test"
      }
    ]
  },
  "edges": [
    {
      "from": "kafka to kafka_source",
      "to": "kafka to kafka_target"
    }
  ]
}

```

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブに関する詳細の取得

jobs リソースを使用して、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得します。

GET 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの詳細を要求するには、次の URL を使用します。

```
<server URI>/sisvc/monitor/v1/jobs/<dataflow ID>/<run ID of the job>
```

GET 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得するには、次の例のような要求を送信します。

```

GET https://usw1-ing.dm2-us.informaticacloud.com/sisvc/monitor/v1/jobs/1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf/42559
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT

```

GET 応答

成功した場合はジョブオブジェクトが返され、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

成功した場合、応答には、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブに関する次の情報が含まれます。

パラメータ	タイプ	説明
assetId	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの ID。
assetName	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの名前。
duration	Integer	ジョブのデプロイに要した時間。
endTime	Integer	ジョブのデプロイの終了時刻（UTC 時間）。
startTime	Integer	ジョブのデプロイの開始時刻（UTC 時間）。

パラメータ	タイプ	説明
extraData	String	タスク ID、デプロイされたバージョン、Secure Agent グループ ID などの追加情報。
runId	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの実行 ID。ID はデプロイのたびに変わります。
orgId	String	ログインユーザーが属する組織の ID。
runtimeEnv	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブをデプロイした Secure Agent の ID。
startedBy	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを作成したユーザーの名前。
status	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータス。ジョブは、次のいずれかのステータスになります。 <ul style="list-style-type: none"> - デプロイ中。ジョブはデプロイ中です。 - 稼働中。ジョブは実行中です。 - 実行中（警告あり）。ジョブは実行中ですが警告があります。 - 実行中（エラーあり）。ジョブは実行中ですがエラーがあります。 - アンデプロイ済み。ジョブはアンデプロイされています。 - 停止。ジョブが意図的に停止されました。

GET 応答の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの詳細を取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "assetId": "1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf",
  "assetName": "testmonitor",
  "assetType": "SI_DATAFLOW",
  "correlationId": null,
  "duration": 1543,
  "endTime": "2022-02-14T04:04:13.000+0000",
  "extraData": "{\"id\":\"ORwiUUb9bVwjL67dWOKjoI\",\"version\":1,\"agentGroupId\":null}",
  "location": "Default",
  "runId": 42559,
  "orgId": "2lFy0UUNlnbjhaoT3TSqw",
  "runtimeEnv": "011ZFB2500000000000N",
  "startedBy": "siqa_new",
  "status": "Undeployed",
  "startTime": "2022-02-14T03:38:30.000+0000",
  "deployedVersion": 1
}
```

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのリストの取得

MIJobs リソースを使用して、使用可能なストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのリストを取得します。

GET 要求

使用可能なストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのリストを要求するには、次の URL を使用します。

<server URI>/mijobmonitor/api/v1/MIJobs

URI で以下のクエリパラメータを含めることができます。

パラメータ	タイプ	必須	説明
\$count	Boolean	×	データベース内の取り込みおよびレプリケーションジョブの数を表示します。
\$filter	String	×	入力に基づいてジョブをフィルタリングします。次のいずれかのフィールドを使用してフィルタできます。 <ul style="list-style-type: none">- assetName- assetType- startedBy- status 単一または複数のフィールドを使用してジョブをフィルタリングできます。
\$orderby	String	×	ジョブの順序を並べ替えます。次のフィールドを使用してジョブを並べ替えることができます。 <ul style="list-style-type: none">- assetName- assetType- status- runtimeEnv- startTime 単一または複数のフィールドを使用してジョブを並べ替えることができます。
\$skip	Integer	×	指定したストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの数をスキップします。例えば、最初の 5 つのストリーミング取り込みとレプリケーションジョブをスキップしたい場合などです。 指定している場合は、\$filter および \$orderby パラメータの値を検討してください。
\$top	Integer	×	指定した数の上位ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブを表示します。例えば、上位 10 個のストリーミング取り込みとレプリケーションジョブを確認したい場合などです。 指定している場合は、\$filter および \$orderby パラメータの値を検討してください。

GET 要求の例

使用可能なストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのリストを取得するには、次の例のような要求を送信します。

POST https://usw1-ing.dm2-us.informaticacloud.com/mijobmonitor/api/v1/MIJobs?\$count=true&\$filter=(startedBy eq 'siga_new')&\$orderby=deployTime desc&\$skip=0&\$top=25

Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT

GET 応答

成功した場合は MIJobs オブジェクトが返され、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

成功した場合、応答には、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブに関する次の情報が含まれます。

パラメータ	タイプ	説明
assetName	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの名前。
runId	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの実行 ID。ID はデプロイのたびに変わります。
orgId	String	ログインユーザーが属する組織の ID。
runtimeEnv	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブをデプロイした Secure Agent の ID。
startTime	Integer	ジョブのデプロイの開始日時 (UTC 時間)。
endTime	Integer	ジョブのデプロイの終了日時 (UTC 時間)。
deployTime	Integer	ジョブのデプロイ日時 (UTC 時間)。
undeployTime	Integer	ジョブのデプロイ解除日時 (UTC 時間)。
startedBy	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションタスクを作成したユーザーの名前。
status	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータス。ジョブは、次のいずれかのステータスになります。 <ul style="list-style-type: none">- デプロイ中。ジョブはデプロイ中です。- 稼働中。ジョブは実行中です。- 実行中 (警告あり)。ジョブは実行中ですが警告があります。- 実行中 (エラーあり)。ジョブは実行中ですがエラーがあります。- アンデプロイ済み。ジョブはアンデプロイされています。- 停止。ジョブが意図的に停止されました。
extraData	String	タスク ID、ストリーミング取り込みジョブの場所、Secure Agent ID などの追加情報。

GET 応答の例

使用可能なストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのリストを取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "@odata.context": "$metadata#Collection(OData.MI.JobMonitor.MIJob)",
  "@odata.count": 421,
  "value": [
    {
      "assetId": "7ce6bbc7-f0e2-4278-bd6d-d1187f4a1420",
      "assetName": "SIdeployJms",
      "assetType": "SI_DATAFLOW",
      "runId": 33015,
      "duration": 300000,
      "orgId": "1Pm6cSfPcAqfgeV57Fn3u4",
      "runtimeEnv": "011U5M08000000000003",
      "startTime": "2021-04-29T13:09:48.000+0000",

```

```

        "endTime": "2021-04-29T13:14:48.000+0000",
        "deployTime": "2021-04-29T13:09:48.000+0000",
        "undeployTime": "2021-04-29T13:14:48.000+0000",
        "startedBy": "siga_new",
        "status": "Undeployed",
        "outOfSync": true,
        "extraData": {"taskId": "7Z4ZZjXc9QViT4t2okiHuz", "runtimeEnv": "011U5M25000000000002", "location": "RestAutomation"},
        "deployedVersion": 1,
        "replace": null,
        "lastUpdateTime": 0
    },
    {
        "assetId": "a03b9aa1-4a4a-47ee-808d-ddc0ee7b3a4a",
        "assetName": "kafka to kafka test",
        "assetType": "SI_DATAFLOW",
        "runId": 33527,
        "duration": 204988000,
        "orgId": "1Pm6cSfPcAqfgeV57Fn3u4",
        "runtimeEnv": "011U5M08000000000002",
        "startTime": "2021-05-04T05:41:39.000+0000",
        "endTime": "2021-05-06T14:38:07.000+0000",
        "deployTime": "2021-05-04T05:41:39.000+0000",
        "undeployTime": "2021-05-06T14:38:07.000+0000",
        "startedBy": "siga_new",
        "status": "Undeployed",
        "outOfSync": true,
        "extraData": {"taskId": "8V21nib7Sqgiw3QoDRi5uK", "runtimeEnv": "011U5M25000000000002", "location": "Default"},
        "deployedVersion": 1,
        "replace": null,
        "lastUpdateTime": 0
    }
]
}

```

ジョブステータス

status リソースを使用して、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータスを取得します。

GET 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータスを要求するには、次の URL を使用します。

<server URI>/sisvc/monitor/v1/status/dataflows/<dataflow ID>

GET 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータスを取得するには、次の例のような要求を送信します。

```

GET https://usw1-ing.dm2-us.informaticacloud.com/sisvc/monitor/v1/status/dataflows/1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT

```

GET 応答

成功した場合はジョブステータスオブジェクトが返され、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

成功した場合、応答には、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータスに関する次の情報が含まれます。

パラメータ	タイプ	説明
dataflowName	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの名前。
dataflowId	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの ID。
status	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータス。ジョブは、次のいずれかのステータスになります。 <ul style="list-style-type: none"> - デプロイ中。ジョブはデプロイ中です。 - 稼働中。ジョブは実行中です。 - 実行中（警告あり）。ジョブは実行中ですが警告があります。 - 実行中（エラーあり）。ジョブは実行中ですがエラーがあります。 - アンデプロイ済み。ジョブはアンデプロイされています。 - 停止。ジョブが意図的に停止されました。
timestamp	Integer	Secure Agent がストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータスを記録する時間（ミリ秒単位）。
reports	Array	各ノードのステータスの詳細。
graph	String	ジョブのソースとターゲットのスループット情報。
runId	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの実行 ID。ID はデプロイのたびに変わります。

GET 応答の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブのステータスを取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "dataflowName": "testmonitor",
  "dataflowId": "1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf",
  "status": "Running",
  "timestamp": 1644839755000,
  "reports": [
    {
      "name": "testmonitor_testmonitor_source",
      "id": "a5684428-f41f-4d24-b73f-33c232314a91",
      "status": "Running",
      "timestamp": 1644839756000,
      "message": null
    },
    {
      "name": "testmonitor_testmonitor_target",
      "id": "4f59b5fb-b5b2-4b83-994b-0d3e56f67e22",
      "status": "Running",
      "timestamp": 1644839756000,
      "message": null
    }
  ],
  "graph": "{\n  \"agentId\": \"011ZFB0800000000000N\",\n  \"nodes\": [{\n    \"id\": \"a5684428-f41f-4d24-b73f-33c232314a91\",\n    \"name\": \"testmonitor_source\",\n    \"serviceType\": \"source\",\n    \"config\": [{\n      \"key\": \"_nativeName\", \"value\": \"src\", \"key\": \"consumerProperties\", \"value\": null\n    }],\n    \"connectionId\": \"011ZFB0800000000000KJ\",\n    \"type\": \"\", \"metaMetadata\": \"\",\n    \"id\": \"4f59b5fb-b5b2-4b83-994b-0d3e56f67e22\",\n    \"name\": \"testmonitor_target\",\n    \"serviceType\": \"target\",\n    \"config\": [{\n      \"key\": \"_nativeName\", \"value\": \"trgt\", \"key\": \"batchSize\", \"value\": \"1048576\", \"key\": \"mdFetchTimeout\", \"value\": \"5000\", \"key\": \"producerProperties\", \"value\": null\n    }],\n    \"connectionId\": \"011ZFB0800000000000KJ\",\n    \"type\": \"\", \"metaMetadata\": \"\",\n    \"edges\": [{\n      \"id\": \"6ae185ea-7e6e-4bf6-bd9e-0be5ef3a8e78\", \"name\": \"testmonitor_source_testmonitor_target\", \"from\": \"testmonitor_source\", \"to\": \"testmonitor_target\", \"type\": \"success\", \"config\": [], \"metaMetadata\": \"\", \"runtimeOptions\": null\n    }]\n  }\",
}
```

```
}
  "version": 1,
  "runId": 42563
}
```

ジョブの統計

statistics リソースを使用して、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの統計を取得します。

統計を表示するには、ストリーミング取り込みジョブが次のいずれかのステータスになっている必要があります。

- デプロイ中
- 稼働中
- 実行中(警告あり)
- 実行中(エラーあり)
- 停止

GET 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの統計を要求するには、次の URL を使用します。

<server URI>/sisvc/monitor/v1/statistics/dataflows/<dataflow ID>

URI で以下のクエリパラメータを含めることができます。

パラメータ	タイプ	必須	説明
intervals	Integer	○	ストリーミング取り込みジョブの統計を表示する時間（秒単位）。例えば、30 秒を指定すると、応答は過去 30 秒間のジョブ統計を表示します。
overall	Boolean	×	ジョブがデプロイされた時点からの統計を表示します。

GET 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの統計を要求するには、次の例のような要求を送信します。

```
GET https://usw1-ing.dm2-us.informaticacloud.com/sisvc/monitor/v1/statistics/dataflows/7f1daca9-3983-4677-930f-a9529802c56b?intervals=30&overall=true
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT
```

GET 応答

成功した場合は統計オブジェクトが返され、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

成功した場合、応答には、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの統計に関する次の情報が含まれます。

パラメータ	タイプ	説明
dataflowId	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの ID。
dataflowRunId	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの実行 ID。

パラメータ	タイプ	説明
startTime	Integer	ストリーミング取り込みジョブの開始時刻（ミリ秒単位）。
stopTime	Integer	ストリーミング取り込みジョブの停止時刻（ミリ秒単位）。
inMessages	Integer	ノードに到着するメッセージの数。ノードは、ストリーミング取り込みタスクで使用されるソース、トランスフォーメーション、またはターゲットです。ソースノードの値はゼロです。
outMessages	Integer	ノードから転送されるメッセージの数。ターゲットノードの値はゼロです。
inBytes	Integer	受信メッセージの合計サイズ（バイト単位）。ソースノードの値はゼロです。
outBytes	Integer	送信メッセージの合計サイズ（バイト単位）。ターゲットノードの値はゼロです。
nodes	Array	タスクで使用されるソースとターゲットのストリーミングデータに関する情報。
intervals	Integer	リクエストで指定した時間間隔でのジョブの統計。間隔を設定するときに適用されます。

GET 応答の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの統計を取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
{
  "dataflowId": "7f1daca9-3983-4677-930f-a9529802c56b",
  "dataflowName": "newnew",
  "dataflowVersion": 1,
  "dataflowRunId": 54231,
  "snapshotCount": 171,
  "overall": {
    "dataflowId": "7f1daca9-3983-4677-930f-a9529802c56b",
    "dataflowName": "newnew",
    "dataflowVersion": 1,
    "dataflowRunId": 54231,
    "traits": {},
    "interval": 6007,
    "startTime": 1646649995000,
    "stopTime": 1646656000000,
    "nodes": [
      {
        "name": "newnew_newnew_source",
        "id": "17a51cdf-1f27-481e-81b8-d2e8ff60ec28",
        "inMessages": 0,
        "outMessages": 0,
        "inBytes": 0,
        "outBytes": 0,
        "nodeType": "Unknown"
      },
      {
        "name": "newnew_newnew_target",
        "id": "c30d6db4-6a3b-40d3-adfb-88779a972098",
        "inMessages": 0,
        "outMessages": 0,
        "inBytes": 0,
        "outBytes": 0,
        "nodeType": "Unknown"
      }
    ]
  }
}
```

```

    }
  ],
  "intervals": {
    "30": {
      "dataflowId": "7f1daca9-3983-4677-930f-a9529802c56b",
      "dataflowName": "newnew",
      "dataflowVersion": null,
      "dataflowRunId": 54231,
      "traits": {},
      "interval": 30,
      "startTime": 1646655972683,
      "stopTime": 1646656002683,
      "nodes": []
    }
  }
}

```

ジョブ履歴

history リソースを使用して、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの履歴を取得します。

GET 要求

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの履歴を要求するには、次の URL を使用します。

<server URI>/sisvc/monitor/v1/history/dataflows/<dataflow ID>

GET 要求の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの履歴を取得するには、次の例のような要求を送信します。

```

GET https://usw1-ing.dm2-us.informaticacloud.com/siscv/monitor/v1/history/dataflows/1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf
Content-Type: application/json
Accept: application/json
IDS-SESSION-ID: 2l0oeVx22Rujiej7yTokmT

```

GET 応答

成功した場合はジョブ履歴オブジェクトが返され、エラーが発生した場合はエラーオブジェクトが返されます。

成功した場合、応答には、ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの履歴に関する次の情報が含まれます。

パラメータ	タイプ	説明
dataflowName	String	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの名前。
dataflowId	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの ID。
deployedAt	Integer	ジョブのデプロイの開始時刻（UTC 時間）。
undeployedAt	Integer	ジョブのデプロイ解除の終了時刻（UTC）。
runID	Integer	ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの実行 ID。ID はデプロイのたびに変わります。

GET 応答の例

ストリーミング取り込みとレプリケーションジョブの履歴を取得する要求が成功した場合、次の例のような応答を受け取ります。

```
[
  {
    "dataflowId": "1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf",
    "dataflowName": "testmonitor",
    "deployedAt": 1644809910000,
    "undeployedAt": 1644811453000,
    "dataflowVersion": 1,
    "runId": 42559,
    "overall": null,
    "intervals": {},
    "graph": null
  },
  {
    "dataflowId": "1948938e-3923-4602-aba8-f122e3d66faf",
    "dataflowName": "testmonitor",
    "deployedAt": 1644811513000,
    "undeployedAt": 1644838813000,
    "dataflowVersion": 1,
    "runId": 42561,
    "overall": null,
    "intervals": {},
    "graph": null
  }
]
```

第 7 章

RunAJob ユーティリティ

Informatica Intelligent Cloud Services REST API を介して直接呼び出す代わりに、RunAJob ユーティリティを使用してジョブを実行したり、ジョブのステータスを確認したりできます。

RunAJob ユーティリティは、Informatica Intelligent Cloud Services REST API を呼び出してジョブを実行する JAR ファイルを実行します。ジョブが完了すると、次のようなジョブの詳細が返されます。

- ジョブを開始したユーザー。
- ジョブが開始された時刻。
- ジョブの実行 ID。

RunAJob ユーティリティは、特定のデータ統合およびデータ取り込みおよびレプリケーションアセットタイプに使用できます。

データ統合の場合は、次のタスクとタスクフローのジョブを実行できます。

- マッピングタスク
- 同期タスク
- レプリケーションタスク
- マスキングタスク
- PowerCenter タスク
- リニアタスクフロー
- パブリッシュされたタスクフロー

データ取り込みおよびレプリケーションの場合は、ファイル取り込みタスクジョブを実行できます。

RunAJob ユーティリティを使用するには、Informatica Intelligent Cloud Services 組織で RunAJobCli パッケージが有効になっている必要があります。

ユーティリティを使用するライセンスが組織にあるかどうかを確認するには、組織にログインして **【管理】** > **【ライセンス】** をクリックし、ページの下の方で RunAJobCli パッケージを探します。このパッケージが見つからない場合は、Informatica グローバルカスタマサポートに連絡してこのパッケージを有効にしてください。

このパッケージが有効になっている場合、RunAJob ユーティリティは次の場所にあります。

<Secure Agent installation directory>\apps\runAJobCli

RunAJob ユーティリティを使用するには、Secure Agent ホストに Java バージョン 1.8 以降がインストールされている必要があります。

RunAJob ユーティリティのセットアップ

RunAJob ユーティリティを設定するには、ユーティリティに含まれているテンプレートファイルのコピーを作成し、新しいファイルを設定します。

次の表に、RunAJob ユーティリティのテンプレートファイルとその説明を示します。

ファイル名	説明
Restenv_default.properties	ログイン資格証明とジョブポーリング動作を指定します。
Set_cli_vars_default.bat	Windows マシンでは、暗号化キーを保管するキーストアのパスワード、および RunAJob ユーティリティが Java コマンドの実行に使用する初期ヒープサイズと最大ヒープサイズを指定します。
Set_cli_vars_default.sh	Linux マシンでは、暗号化キーを保管するキーストアのパスワード、および RunAJob ユーティリティが Java コマンドの実行に使用する初期ヒープサイズと最大ヒープサイズを指定します。
Log4j2_default.properties	ログファイルに返す詳細のレベルを指定します。

テンプレートファイルは次の場所にあります。

<Secure Agent installation directory>\apps\runAJobCli

RunAJob プロパティをカスタマイズするには、テンプレートファイルをコピーし、ファイル名から_defaultを削除して、プロパティを設定します。または、コピーした既存のファイルがすでに存在する場合は、それらのファイルを更新することもできます。ユーティリティに含まれているテンプレートファイルを参考にしてください。

ログインプロパティ

restenv.properties ファイルで Informatica Intelligent Cloud Services ログイン資格情報を指定するか、ログインパラメータをタスクコマンドの引数として含めます。

ネイティブの Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントのログイン資格情報を使用します。RunAJob ユーティリティに SAML ユーザーアカウントを使用することはできません。

restenv.properties ファイルまたはタスクコマンドに次のパラメータを含めます。

パラメータ	説明
baseUrl	ベース URL。 デフォルトは https://dm-us.informaticacloud.com/ma です。
username	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
password	Informatica Intelligent Cloud Services パスワードまたは暗号化されたパスワード文字列。 パスワードの暗号化の詳細については、 「Linux でのパスワードの暗号化」(ページ 578) または 「Windows でのパスワードの暗号化」(ページ 578) を参照してください。

パラメータ	説明
use.encryption	暗号化されたパスワードの使用を有効にします。暗号化されたパスワードを使用する場合は、値を <i>true</i> に設定します。
CONNECT_TIMEOUT_SECONDS	環境に固有のネットワークの問題や遅延に対応するための接続タイムアウト期間。デフォルトは 30 秒です。

次の例に、暗号化されたパスワードを含む `restenv.properties` ファイルを示します。

```
username=saki
password=:1xCgDTC0oD9B2Rmd8Sr4IZWaWwkcEmiK5fy+GkycA==
ACTIVITYMONITORWAIT=2000
TOTALWAIT=60000
PROXYHOST=
PROXYPORT=
RETRYCOUNT=30
use.encryption=true
CONNECT_TIMEOUT_SECONDS=30
```

詳細については、「[「RunAJob ユーティリティの引数」 \(ページ 582\)](#)」を参照してください。

Linux でのパスワードの暗号化

`restenv.properties` ファイルまたはタスクコマンドで指定する前に、ログインパスワードを暗号化できます。Linux マシンでは、シェルスクリプトを使用してパスワードを暗号化します。

1. テンプレートファイル `set_cli_vars_default.sh` をコピーし、名前を `set_cli_vars.sh` に変更します。
2. ファイルを編集して、暗号化キーを格納するキーストアのパスワードを設定します。次の形式を使用します: `export RUNAJOB_KEYSTORE_PASSWORD=<パスワード>`
3. ログインパスワードを暗号化するには、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - `./cli.sh encryptText -t <パスワード>`
 - `./cli.sh encryptText -text <パスワード>`

ログインパスワードに英数字以外の文字が含まれている場合は、パスワードを二重引用符で囲みます。

Windows でのパスワードの暗号化

`restenv.properties` ファイルまたはタスクコマンドで指定する前に、ログインパスワードを暗号化できます。Windows マシンでは、バッチファイルを使用してパスワードを暗号化します。

1. テンプレートファイル `set_cli_vars_default.bat` をコピーし、名前を `set_cli_vars.bat` に変更します。
2. ファイルを編集して、暗号化キーを格納するキーストアのパスワードを設定します。次の形式を使用します: `set RUNAJOB_KEYSTORE_PASSWORD=<パスワード>`
3. ログインパスワードを暗号化するには、次のいずれかのコマンドを実行します。
 - `cli.bat encryptText -t <password>`
 - `cli.bat encryptText -text <password>`

ログインパスワードに英数字以外の文字が含まれている場合は、パスワードを二重引用符で囲みます。

ジョブステータス

RunAJob ユーティリティがステータスをポーリングする頻度を `restenv.properties` ファイルで指定します。

以下のパラメータを使用できます。

パラメータ	説明
ACTIVITYMONITORWAIT	内部例外（ログインの失敗やネットワークの問題など）が発生した場合の再試行の間隔。 デフォルトは 5000 ミリ秒です。
TOTALWAIT	ジョブの完了を待機する最大時間。この時間を超えると、再びアクティビティモニタとアクティビティログでステータスのポーリングが行われます。 デフォルトは 5000 ミリ秒です。
RETRYCOUNT	ステータスをポーリングする回数。デフォルトは 6 です。このパラメータは、アクティビティモニタとアクティビティログでジョブステータスや内部例外（ネットワークの失敗など）をポーリングするために使用されます。 ログインが失敗した場合は、最大 5 回再試行されます。 注: Informatica Intelligent Cloud Services は各 API 呼び出しの間に 10 秒追加してサーバーの問題を防ぎます。

ジョブステータスをポーリングするように `restenv.properties` ファイルを設定する場合は、TOTALWAIT および RETRYCOUNT に設定する値を検討し、ジョブの実行にかかる予想時間を考慮に入れてください。

例えば、ジョブの実行に約 25 分かかると予想される場合は、次のパラメータを設定します。

```
TOTALWAIT=60000  
RETRYCOUNT=30
```

これにより、ジョブステータスが 60 秒おきに最大 30 回、それぞれの再試行の間は 10 秒でポーリングされます（合計 35 分）。ジョブの実行が 35 分を超えると、コマンドは戻りコード 6 で終了します。これは、ジョブが実行中であることを意味します。ジョブは引き続き Informatica Intelligent Cloud Services で実行されます。

内部例外用に `restenv.properties` ファイルを設定する場合は、ACTIVITYMONITOR および RETRYCOUNT に設定する値を検討してください。

例えば、次のようなパラメータを設定することができます。

```
ACTIVITYMONITORWAIT=5000  
RETRYCOUNT=30
```

これらの設定を使用すると、ネットワークに障害が発生した場合、ユーティリティは 5 秒ごとに最大 5 回ログインを再試行し、再試行の間隔はさらに 10 秒となります。

ログファイルの詳細

ログファイルに含めるジョブの詳細のレベルを `log4j2.properties` ファイルで設定できます。

デフォルトでは、詳細レベルは INFO に設定されています。このレベルでは、ログファイルには、ユーザー ID、ジョブ ID、タスクが開始された時刻などの基本情報が含まれます。デバッグ目的でログファイルにジョブの詳細を含める場合は、詳細レベルを DEBUG に変更します。または、細かい詳細を含める場合は、レベルを TRACE に変更します。

詳細レベルを設定するには、`log4j2.properties` ファイルで次のパラメータの値を変更します。

```
rootLogger.level=INFO
```

Java ヒープサイズ

仮想メモリを最適に使用するには、RunAJob ユーティリティが使用する Java コマンドの初期ヒープサイズと最大ヒープサイズを指定します。CLI_JAVA_OPTS パラメータを使用してヒープサイズの値を設定します。

CLI_JAVA_OPTS パラメータに次のプロパティを指定します。

プロパティ	説明
Xms	JVM が割り当てる初期ヒープサイズを指定します。
Xmx	JVM が割り当てることのできる最大ヒープサイズを指定します。

次の set_cli_vars.sh ファイルの例に示すように、CLI_JAVA_OPTS パラメータを設定できます。

```
@echo off
REM This variable is used to override the default KeyStore password.
set RUNAJOB_KEYSTORE_PASSWORD=
REM This variable is used to set the Java initial heap size and maximum heap size.
set CLI_JAVA_OPTS =Xms256m -Xmx512m
```

Linux での Java ヒープサイズの設定

set_cli_vars_default.sh ファイルで、Linux マシン上の Java ヒープサイズの初期サイズと最大サイズを設定します。

1. set_cli_vars.sh ファイルを開きます。
set_cli_vars.sh ファイルがない場合は、テンプレートファイル set_cli_vars_default.sh をコピーし、名前を set_cli_vars.sh に変更します。
2. ファイルを編集して、初期ヒープサイズと最大ヒープサイズを指定します。次の形式を使用します。
export CLI_JAVA_OPTS="-Xms<初期ヒープサイズ>m -Xmx<最大ヒープサイズ>m"
例: export CLI_JAVA_OPTS="-Xms256m -Xmx512m"
3. ファイルを保存します。

Windows での Java ヒープサイズの設定

set_cli_vars_default.bat ファイルで、Windows マシン上の Java ヒープサイズの初期サイズと最大サイズを設定します。

1. set_cli_vars.bat ファイルを開きます。
set_cli_vars.bat ファイルがない場合は、テンプレートファイル set_cli_vars_default.bat をコピーし、名前を set_cli_vars.bat に変更します。
2. ファイルを編集して、初期ヒープサイズと最大ヒープサイズを指定します。次の形式を使用します。
set CLI_JAVA_OPTS=-Xms<初期ヒープサイズ>m -Xmx<最大ヒープサイズ>m
例: set CLI_JAVA_OPTS=-Xms256m -Xmx512m
3. ファイルを保存します。

RunAJob ユーティリティの使用

RunAJob ユーティリティを使用するには、RunAJob ユーティリティコマンドを引数とともに入力します。

次の文字列が RunAJob ユーティリティコマンドです。

```
cli.bat runAJobCli
```

ジョブごとに、実行するタスクまたはタスクフローを指定する必要があります。データ統合タスクフローを実行するために使用する構文は、タスクを実行するために使用する構文とわずかに異なります。

実行中のタスク

次のコマンドは、名前と場所でタスクを指定してタスクを実行するための構文の例です。

```
cli.bat runAJobCli -t <tasktype> -n <task name> -fp <folder path to the task>
```

例えば、データ取り込みおよびレプリケーションファイル取り込みとレプリケーションタスクでは、次のコマンドを使用できます。

```
cli.bat runAJobCli -t MI_TASK -n mitask_Arch_2308 -fp myproject/folder1
```

次のコマンドは、フェデレーションタスク ID でタスクを指定してジョブを実行するための構文の例です。

```
cli.bat runAJobCli -t <tasktype> -fi <federated task ID>
```

例えば、フェデレーションタスク ID を使用してデータ統合の同期タスクを実行するには、次のようなコマンドを使用できます。

```
cli.bat runAJobCli -t DSS -fi kv0F40yLXyUihm7wYYskmh
```

データ統合タスクフローの実行

RunAJob ユーティリティを使用してタスクフローを実行するには、タスクフローがパブリッシュされる必要があります。また、Taskflow Designer の【許可されたユーザー】および【許可されたグループ】に値を含める必要があります。詳細については、データ統合ヘルプの「タスクフロー」を参照してください。

各ジョブに対し、タスクフローの名前を使用して実行するタスクフローを指定する必要があります。

タスクフローを実行するには、次の構文を使用します。

```
cli.bat runAJobCli -t TASKFLOW -un <taskflow name>
```

例えば、次のコマンドを使用できます。

```
cli.bat runAJobCli -t TASKFLOW -un myPublishedTaskflow
```

パラメータセットを使用したデータ統合タスクフローの実行

パラメータセットを使用して、タスクフロー入力パラメータの値を指定し、RunAJob ユーティリティを使用してタスクフローを実行できます。

RunAJob ユーティリティを使用してパラメータセットでタスクフローを実行する方法の詳細については、<https://knowledge.informatica.com/s/article/DOC-19232> を参照してください。この記事には、ユーティリティをダウンロードするためのリンクも含まれています。

パラメータセットを使用するタスクフローを実行する場合は、RunAJob ユーティリティコマンドの後に -pun または --parameterSetUniqueName 引数を指定して入力します。

RunAJob ユーティリティを使用してタスクフローを実行するには、タスクフローがパブリッシュされる必要があります。また、[Taskflow Designer] の【許可されたユーザー】および【許可されたグループ】に値を含める必要があります。詳細については、データ統合ヘルプの「タスクフロー」を参照してください。

パラメータセットを使用するタスクフローを実行するには、次の構文のいずれかを使用します。

```
cli.bat runAJobCli -t TASKFLOW -un <taskflow_name> -fp <folder_path> -pun <unique_param_set_name>
```

```
cli.bat runAJobCli -t TASKFLOW -un <taskflow_name> -fp <folder_path> --parameterSetUniqueName  
<unique_param_set_name>
```

以下に例を示します。

```
cli.bat runAJobCli -t TASKFLOW -un myTaskflow -fp myproject/folder1 -pun sampleParamSet
```

```
cli.bat runAJobCli -t TASKFLOW -un myTaskflow -fp myproject/folder1 --parameterSetUniqueName sampleParamSet
```

すべてのタスクフローは、RunAJob ユーティリティから/tf エンドポイントを使用して実行されます。

注: Linux でユーティリティを使用し、別のスクリプトまたはラッパースクリプトを使用して cli.sh を呼び出す場合、cli.sh ファイルの次の行にコメントが必要です。

```
cd "$SCRIPT_DIR"
```

この行にコメントを入れないと、次のエラーを受信する可能性があります。

```
Could not find or load main class com.informatica.saas.utilities.plugins.RunAJobPlugin.
```

タスクの場所

コマンドにフォルダパスかフェデレーションタスク ID を含めない場合、Default フォルダのタスクが実行されます。

タスクが Default フォルダにない場合や、同じ名前のタスクが複数のフォルダにある場合は、コマンドにフォルダパスかフェデレーションタスク ID を含めてください。

フェデレーションタスク ID を取得するには、REST API バージョン 3 の lookup リソースを使用して POST 要求を送信します。

RunAJob ユーティリティの引数

RunAJob ユーティリティは、引数の短いオプションと長いオプションをサポートします。短い引数の前には 1 つのハイフンを付けます。長い引数の前には 2 つのハイフンを付けます。

RunAJob コマンドでは次の引数を使用できます。

パラメータ	短い引数	長い引数	説明
username	-u	--user	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
password	-p	--password	Informatica Intelligent Cloud Services のパスワード。
baseUrl	-bu	--baseUrl	ベース URL。デフォルトは https://dm-us.informaticacloud.com/ma です。 必須。
taskId	-i	--taskId	タスク ID。 コマンドにタスク名かフェデレーションタスク ID が含まれていない場合は必須。 タスクフローには適用されません。

パラメータ	短い 引数	長い引数	説明
folderPath	-fp	--folderPath	タスクの場所へのフォルダパス (myproject/folder1 など)。 タスクが Default フォルダになく、コマンドにフェデレーションタスク ID が含まれていない場合は必須。 タスクフローには適用されません。
frsId	-fi	--frsId	グローバル一意識別子であるフェデレーションタスク ID。 タスクが Default フォルダになく、コマンドにフォルダパスが含まれていない場合は必須。 タスクフローには適用されません。
taskflowUniqueName	-un	--taskflowUniqueName	タスクフローの一意の名前。 データ統合タスクフローの場合は必須。taskName の代わりに使用してください。
taskName	-n	--taskName	タスク名。 タスクフローには適用されません。
taskType	-t	--taskType	タスクのタイプ。必須。 以下のいずれかの値を使用します。 - DMASK。マスキングタスク。 - DRS。レプリケーションタスク。 - DSS。同期タスク。 - MTT。マッピングタスク。 - PCS。PowerCenter タスク。 - Workflow。リニアタスクフロー。 - MI_TASK。ファイル取り込みとレプリケーション - TASKFLOW。タスクフロー。
parameterSetUniqueName	-pun	--parameterSetUniqueName	パラメータセットの一意の名前。タスクフローに使用できます。
parameterDir	-pd	--parameterDir	パラメータファイルのディレクトリ。parameterFile に含まれます。デフォルトは次のとおりです: <SecureAgentInstallDir>/apps/Data_Integration_Server/data/userparameters
parameterFile	-pf	--parameterFile	パラメータファイル。マッピングタスクに使用できます。
waitFlag	-w	--waitFlag	待機フラグ。ジョブの完了を待機するか、ジョブをバックグラウンドで実行するかを決定します。

パラメータ	短い引数	長い引数	説明
insecure	-k	--insecure	非セキュアモード。
instanceName	-in	--instanceName	タスクフロー名に追加されるカスタム名。

ジョブステータスコード

ジョブが成功すると、RunAJob ユーティリティから 0（成功を表す値）が返されます。ジョブが失敗した場合はエラーが返されます。

このユーティリティから返されるステータスコードは次のとおりです。

コード	説明
-1	例外
0	成功
1	警告
2	待機なし
3	失敗
4	タイムアウト
5	エラー
6	実行中
7	起動失敗

コマンドに必須のパラメータが含まれていない場合や、含まれていても無効な場合は、エラーメッセージが表示されて、その REST API 呼び出しは実行されません。

第 8 章

ParamSetCli ユーティリティ

ParamSetCli は、パラメータセットを使用するタスクフローにのみ使用される Informatica のコマンドライン インタフェースユーティリティです。

ParamSetCli を使用すると、パラメータセットに対して次のアクションを実行できます。

1. クラウドでホストされているリポジトリにパラメータセットをアップロードする。
2. クラウドでホストされているリポジトリからパラメータセットをダウンロードする。
3. クラウドでホストされているリポジトリからパラメータセットを削除する。
4. クラウドでホストされているリポジトリで使用可能なすべてのパラメータセットを一覧表示する。

次のビデオは、クラウドでホストされているリポジトリ内のパラメータセットをアップロード、ダウンロード、削除、および一覧表示する方法を示しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=zDPYS9e0ryM>

ParamSetCli ユーティリティの要件

ParamSetCli ユーティリティを実行する前に、Java Runtime Environment が必要です。

プロキシ設定で ParamSetCli ユーティリティを使用するには、ParamSetCli ユーティリティと同じマシンに Secure Agent がインストールされている必要があります。

ParamSetCli ユーティリティは、次のコミュニティ記事からダウンロードできます。

<https://network.informatica.com/docs/DOC-19232>

ParamSetCli ユーティリティのセットアップ

ParamSetCli ユーティリティをセットアップするには、ダウンロードした paramsetcli.zip ファイルを Secure Agent インストールディレクトリ以外のディレクトリに解凍します。

ParamSetCli ユーティリティには、次のファイルが含まれています。

- restenv.properties。ログイン資格情報を指定します。
- log4j.properties。ログファイルに返す詳細のレベルを指定します。

ParamSetCli プロパティをカスタマイズするには、既存の restenv.properties と log4j.properties ファイルを更新できます。

ログインプロパティ

Informatica Intelligent Cloud Services のログイン資格情報を `restenv.properties` ファイルで指定します。または、`-u` および `-p` 引数を使用して、CLI を介してログインパラメータを渡すことができます。

`password` パラメータと `PROXYPWD` パラメータには、パスワード文字列または暗号化されたパスワードを使用することができます。

暗号化されたパスワードを作成するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

```
./paramsetcli.sh encryptText -t <password>
./paramsetcli.sh encryptText -text <password>
```

Windows の場合は `paramsetcli.bat`、Unix 系オペレーティングシステムの場合は `paramsetcli.sh` を使用できます。

暗号化されたパスワード文字列をコピーし、`restenv.properties` ファイルのパスワードを暗号化された文字列に置き換えてから、`use.encrypted` フラグを `true` に設定します。

次の例は、暗号化されたパスワード、暗号化されたプロキシパスワード、および `true` に設定された `use.encrypted` フラグを持つ `restenv.properties` ファイルを示しています。

```
baseUrl=https://dm-us.informaticacloud.com/ma
username=testuser
password=:1xCGDTC0oD9B2Rmd8Sr4IZWaWwkcEmiK5fy+GkycA==
ACTIVITYMONITORWAIT=2000
PROXYHOST=
PROXYPORT=
PROXYUSERNAME=
PROXYPWD=x2UNmQ1nxXbKvKs1+Z0kvQ==
RETRYCOUNT=
use.encrypted=true
paramSetBaseUrl=https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel
```

`restenv.properties` ファイルまたはアクションコマンドに次のパラメータを含めます。

パラメータ	説明
baseUrl	Informatica Intelligent Cloud Services MA サービス URL。デフォルトは <code>https://dm-us.informaticacloud.com/ma</code> です。
username	Informatica Intelligent Cloud Services のユーザー名。
password	Informatica Intelligent Cloud Services パスワードまたは暗号化されたパスワード文字列。
ACTIVITYMONITORWAIT	内部例外（ログインの失敗やネットワークの問題など）が発生した場合の再試行の間隔。 デフォルトは 5000 ミリ秒です。
PROXYHOST	HTTP/HTTPS プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
PROXYPORT	HTTP/HTTPS プロキシサーバーのポート番号。
PROXYUSERNAME	HTTP/HTTPS プロキシサーバーの認証ユーザー名。プロキシサーバが認証を要求した場合に必要です。
PROXYPWD	認証ユーザーのパスワード、または認証ユーザーの暗号化されたパスワード文字列。プロキシサーバが認証を要求した場合に必要です。

パラメータ	説明
RETRYCOUNT	ステータスをポーリングする回数。このパラメータは、アクティビティモニタとアクティビティログでジョブステータスや内部例外（ログインの失敗やネットワークの問題など）をポーリングするために使用されます。 デフォルトは 6 です。 注: Informatica Intelligent Cloud Services は各 API 呼び出しの間に 10 秒追加してサーバーの問題を防ぎます。
use.encryption	暗号化されたパスワードの使用を有効にします。暗号化されたパスワードまたは暗号化されたプロキシパスワードを使用するには、値を [true] に設定します。
paramSetBaseUrl	サフィックスが active-bpel である Informatica Cloud データ統合のベース URL。デフォルトは https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel です。

ParamSetCli ユーティリティの使用

ParamSetCli ユーティリティを使用するには、runParamSetCli コマンドの後に引数を入力します。

Windows の場合は paramsetcli.bat runParamSetCli を使用します。Unix 系オペレーティングシステムの場合は paramsetcli.sh runParamSetCli を使用します。

実行するアクションごとに、アクションタイプを指定する必要があります。

ParamSetCli ユーティリティの引数

ParamSetCli コマンドでは次の引数を使用できます。

パラメータ	引数	説明
username	-u	必須。Informatica Intelligent Cloud Services にログインするユーザー名。
password	-p	必須。Informatica Intelligent Cloud Services にログインするためのパスワードまたは暗号化されたパスワード文字列。
baseUrl	-bu	必須。Informatica Intelligent Cloud Services MA サービス URL。デフォルトは https://dm-us.informaticacloud.com/ma です。
paramsetbaseUrl	-psbu	サフィックスが active-bpel である Informatica Cloud データ統合のベース URL。 例: https://na1.dm-us.informaticacloud.com/active-bpel paramset ベース URL は、restenv.properties ファイルで指定できます。または、-psbu 引数を使用して CLI を介して渡すことができます。両方の場所で利用できる場合は、アクションコマンドの -psbu 値が優先されます。
debug	-d	オプション。デバッグ情報を表示します。
insecure	-k	オプション。非セキュアモードを有効にします。

パラメータ	引数	説明
action	-a	<p>必須。パラメータセットに対して実行するアクションを定義します。次のいずれかのアクションを指定できます。</p> <p>upload - 一意の名前を使用して、パラメータセットをクラウドでホストされているリポジトリにアップロードします。オプションで、-f の強制引数を指定して既存のパラメータセットを上書きできます。</p> <p>download - アップロードされたパラメータセットの一意の名前を使用して、クラウドでホストされているリポジトリからパラメータセットをダウンロードします。指定されたファイルがローカルマシンにすでに存在する場合、CLI はパラメータセットをダウンロードしません。既存のファイルを強制的にダウンロードして上書きするには、-f 強制引数を使用できます。</p> <p>list - 作成者、作成日、パラメータセット名、パラメータファイル名、クラウドでホストされているリポジトリで使用可能なパラメータディレクトリなどの基本情報と一緒に、パラメータセットを一覧表示します。</p> <p>delete - 指定されたパラメータセットをクラウドでホストされているリポジトリから完全に削除します。</p>
強制	-f	オプション。パラメータセットを強制的にアップロードまたはダウンロードできます。
パラメータセットの一意の名前	-un	必須。パラメータセットのアップロード、ダウンロード、削除などのさまざまな操作を実行するとき、またはタスクフローで使用するときに、パラメータセットを識別するために使用される名前。名前は、IICS 組織内で一意である必要があります。
パラメータディレクトリ	-pd	パラメータファイルが配置されているディレクトリを指定します。
パラメータファイル名	-pf	パラメータファイルの名前。
パラメータセットリストページ	-page	オプション。ページ番号。一覧表示するページ番号を指定します。
ページサイズ	-ps	オプション。1 ページあたりのエントリ数を指定します。一覧表示できるエントリのデフォルトおよび最大数は、1 ページあたり 50 です。

ParamSetCli コマンドの実行

次のコマンドを使用して、アクション名でアクションを実行できます。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -a <actionName>
```

パラメータセットのアップロード、ダウンロード、削除などのさまざまなアクションを実行し、アップロードされたすべてのパラメータセットを一覧表示できます。アクションごとに、以下に示すように -a 引数およびアクションに固有の適切な引数を指定する必要があります。

パラメータセットのアップロード

アップロードアクションを使用して、クラウドでホストされているリポジトリにパラメータセットをアップロードできます。最大 5 MB のサイズのファイルをアップロードできます。

パラメータセットをアップロードするには、次の構文を使用します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -un <unique_param_set_name> -pf <parameter_file_name> -pd <parameter_directory> -a <action>
```

以下に例を示します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -un Paramset.params -pf Paramsetfile.params -pd C:\files -a upload
```

ここで、-un、-pf、および-pd は必須の引数です。クラウドでホストされているリポジトリにパラメータセットがすでに存在する場合、同じ名前のパラメータセットをアップロードすることはできません。ただし、既存のパラメータセットのコンテンツを強制的に更新する場合は、-f の強制引数を使用できます。

クラウドでホストされているリポジトリにアップロードした後にパラメータセットを更新する場合は、変更を有効にするためにパラメータセットを再アップロードする必要があります。

このコマンドを実行すると、クラウドでホストされているリポジトリにパラメータセットがアップロードされます。パラメータセットの一意の名前は、入力を読み取るためにタスクフローで使用されます。

パラメータセットのダウンロード

アップロードされたパラメータセットの一意の名前を使用して、クラウドでホストされているリポジトリからパラメータセットをダウンロードできます。

パラメータセットをダウンロードするには、次の構文を使用します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -un <unique_param_set_name> -pf <parameter_file_name> -pd  
<parameter_directory> -a <action>
```

以下に例を示します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -un Paramset.params -pf Paramsetfile.paramsDownload -pd C:\files -a  
download
```

ここで、-un、-pf、および-pd は必須の引数です。-pf で、パラメータセットをダウンロードするときに使用するファイル名を指定し、-pd で、パラメータセットをダウンロードするディレクトリを指定します。指定されたファイルがローカルマシンにすでに存在する場合、ParamSetCli ユーティリティはパラメータセットをダウンロードしません。既存のファイルを強制的にダウンロードして上書きするには、-f 強制引数を使用できます。

このコマンドを実行すると、パラメータセットが指定されたディレクトリにダウンロードされます。

パラメータセットの削除

パラメータセットの一意の名前を使用して、クラウドでホストされているリポジトリからパラメータセットを削除できます。

パラメータセットを削除するには、次の構文を使用します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -un <unique_param_set_name> -a <action>
```

以下に例を示します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -un Paramset.params -a delete
```

ここで、-un は必須の引数です。

このコマンドを実行すると、パラメータセットはクラウドでホストされているリポジトリから完全に削除されます。

パラメータセットの一覧表示

クラウドでホストされているリポジトリにアップロードしたパラメータセットを一覧表示できます。

パラメータセットを一覧表示するには、次の構文を使用します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -a list
```

上記のコマンドを実行すると、50 件のエントリが一覧表示された最初のページが表示されます。クラウドでホストされているリポジトリで使用可能なパラメータセットの作成者、作成日、パラメータセット名、パラメータファイル名、パラメータディレクトリなどの基本情報が表示されます。

一覧表示できるエントリのデフォルトおよび最大数は、1 ページあたり 50 です。リストをカスタマイズする場合は、要件に応じてページ数とページサイズを指定できます。

パラメータセットリストをカスタマイズするには、次の構文を使用します。

```
paramsetcli.bat runParamSetCli -a list -page <page_number> -ps <page_size>
```

例: `paramsetcli.bat runParamSetCli -a list -page <5> -ps <10>`

ここで、`-page` は一覧表示するページ数で、`-ps` はそのページに表示するエントリの数です。

このコマンドを実行すると、10 個のエントリが一覧表示された 5 番目のページが一覧表示されます。

第 9 章

REST API コード

Informatica Intelligent Cloud Services REST API は、コードを使用して国名などのデータを表します。コードを使用して REST API に情報を渡し、REST API によって返されるデータを解釈します。

Informatica Intelligent Cloud Services REST API は次の情報にコードを使用します。

- 州コード。米国の州名を表します。
- 国コード。国名を表します。
- タイムゾーンのコード。タイムゾーンを表します。

州コード

Informatica Intelligent Cloud Services REST API は次のコードを使用して米国の州名を表します。

- AL。アラバマ。
- AK。アラスカ。
- AZ。アリゾナ。
- AR。アーカンソー。
- CA。カリフォルニア。
- CO。コロラド。
- CT。コネティカット。
- DE。デラウェア。
- FL。フロリダ。
- GA。ジョージア。
- HI。ハワイ。
- ID。アイダホ。
- IL。イリノイ。
- IN。インディアナ。
- IA。アイオワ。
- KS。カンザス。
- KY。ケンタッキー。
- LA。ルイジアナ。

- ME。メイン。
- MD。メリーランド。
- MA。マサチューセッツ。
- MI。ミシガン。
- MN。ミネソタ。
- MS。ミシシッピ。
- MO。ミズーリ。
- MT。モンタナ。
- NE。ネブラスカ。
- NV。ネバダ。
- NH。ニューハンプシャー。
- NJ。ニュージャージー。
- NM。ニューメキシコ。
- NY。ニューヨーク。
- NC。ノースカロライナ。
- ND。ノースダコタ。
- OH。オハイオ。
- OK。オクラホマ。
- OR。オレゴン。
- PA。ペンシルベニア。
- RI。ロードアイランド。
- SC。サウスカロライナ。
- SD。サウスダコタ。
- TN。テネシー。
- TX。テキサス。
- UT。ユタ。
- VT。バーモント。
- VA。バージニア。
- WA。ワシントン。
- WV。ウェストバージニア。
- WI。ウィスコンシン。
- WY。ワイオミング。

国コード

Informatica Cloud の REST API では、次のコードを使用して国名を表します。

- AF。アフガニスタン。
- AX。オーランド諸島。
- AL。アルバニア。
- DZ。アルジェリア。
- AS。米領サモア。
- AD。アンドラ。
- AO。アンゴラ。
- AI。アンギラ。
- AQ。南極。
- AG。アンティグア・バーブーダ。
- AR。アルゼンチン。
- AM。アルメニア。
- AW。アルバ。
- AU。オーストラリア。
- AT。オーストリア。
- AZ。アゼルバイジャン。
- BS。バハマ。
- BH。バーレーン。
- BD。バングラデシュ。
- BB。バルバドス。
- BY。ベラルーシ。
- BZ。ベリーズ。
- BE。ベルギー。
- BJ。ベナン。
- BM。バミューダ諸島。
- BT。ブータン。
- BO。ボリビア。
- BA。ボスニア・ヘルツェゴビナ。
- BW。ボツワナ。
- BV。ブーベ島。
- BR。ブラジル。
- IO。英領インド洋地域。
- BN。ブルネイ・ダルサラーム国。
- BG。ブルガリア。
- BF。ブルキナファソ。

- BI。ブルンジ。
- KH。カンボジア。
- CM。カメルーン。
- CA。カナダ。
- CV。カーボベルデ。
- KY。ケイマン諸島。
- CF。中央アフリカ共和国。
- TD。チャド。
- CL。チリ。
- CN。中国。
- CX。クリスマス島。
- CC。ココス（キーリング）諸島
- CO。コロンビア。
- KM。コモロ諸島。
- CG。コンゴ共和国。
- CD。コンゴ民主共和国。
- CK。クック諸島。
- CR。コスタリカ。
- CI。コートジボワール。
- HR。クロアチア。
- CU。キューバ。
- CY。キプロス。
- CZ。チェコ共和国。
- DK。デンマーク。
- DM。ドミニカ国。
- DO。ドミニカ共和国。
- DJ。ジブチ共和国。
- EC。エクアドル。
- EG。エジプト。
- SV。エルサルバドル。
- GQ。赤道ギニア。
- ER。エリトリア。
- EE。エストニア。
- ET。エチオピア。
- FK。フォークランド諸島（マルビナス）。
- FO。フェロー諸島。
- FJ。フィジー。
- FI。フィンランド。

- FR。フランス。
- GF。フランス領ギアナ。
- PF。フランス領ポリネシア。
- TF。フランス領極南諸島。
- GA。ガボン。
- GM。ガンビア。
- GE。ジョージア。
- DE。ドイツ。
- GH。ガーナ。
- GI。ジブラルタル。
- GR。ギリシア。
- GL。グリーンランド。
- GD。グレナダ。
- GP。グアドループ。
- GU。グアム。
- GT。グアテマラ。
- GG。ガーンジー島。
- GN。ギニア。
- GW。ギニアビサウ。
- GY。ガイアナ。
- HT。ハイチ。
- HM。ハード島とマクドナルド諸島。
- HN。ホンジュラス。
- HK。香港。
- HU。ハンガリー。
- IS。アイスランド。
- IN。インド。
- ID。インドネシア。
- IR イラン・イスラム共和国。
- IQ。イラク。
- IE。アイルランド。
- IL。イスラエル。
- IM。マン島。
- IT。イタリア。
- JM。ジャマイカ。
- JP。日本。
- JE。ジャージー島。
- JO。ヨルダン。

- KZ。カザフスタン。
- KE。ケニア。
- KI。キリバス。
- KP。朝鮮民主主義人民共和国。
- KR。韓国。
- KW。クウェート。
- KG。キルギス。
- LA。ラオス。
- LV。ラトビア。
- LB。レバノン。
- LS。レソト。
- LR。リベリア。
- LY。リビア。
- LI。リヒテンシュタイン。
- LT。リトアニア。
- LU。ルクセンブルグ。
- MO。マカオ。
- MK。マケドニア。
- MG。マダガスカル。
- MW。マラウイ。
- MY。マレーシア。
- MV。モルディブ。
- ML。マリ。
- MT。マルタ。
- MH。マーシャル諸島。
- MR。モーリタニア。
- MU。モーリシャス。
- MQ。マルチニーク島。
- YT。マイヨット島。
- MX。メキシコ。
- FM。ミクロネシア連邦。
- MD。モルドバ共和国。
- MC。モナコ。
- MN。モンゴル。
- ME。モンテネグロ。
- MS。モンセラット。
- MA。モロッコ。
- MZ。モザンビーク。

- MM。ミャンマー。
- NA。ナミビア。
- NR。ナウル。
- NP。ネパール。
- NL。オランダ。
- AN。オランダ領アンティル
- NC。ニューカレドニア。
- NZ。ニュージーランド。
- NI。ニカラグア。
- NE。ニジェール。
- NG。ナイジェリア。
- NU。ニウエ。
- NF。ノーフォーク島。
- MP。北マリアナ諸島。
- OM。オマーン。
- PK。パキスタン。
- PW。パラオ。
- PS。パレスチナ自治区。
- PA。パナマ。
- PG。パプアニューギニア。
- PY。パラグアイ。
- PE。ペルー。
- PH。フィリピン。
- PN。ピトケアン。
- PL。ポーランド。
- PT。ポルトガル。
- PR。プエルトリコ。
- QA。カタール。
- RE。レユニオン。
- RO。ルーマニア。
- RU。ロシア連邦。
- RW。ルワンダ。
- BL。サン・バルテルミー。
- SH。セントヘレナ。
- KN。セントクリストファー・ネイビス。
- LC。セントルシア。
- MF。サン・マルタン島。
- PM。セントピーター・ミクロン。

- VC。セントビンセント・グレナディーン。
- WS。サモア。
- SM。サンマリノ。
- ST。サントメ・プリンシペ。
- SA。サウジアラビア。
- SN。セネガル。
- RS。セルビア。
- SC。セーシェル。
- SL。シェラレオネ。
- SG。シンガポール。
- SK。スロバキア。
- SI。スロベニア。
- SB。ソロモン諸島。
- SO。ソマリア。
- ZA。南アフリカ。
- GS。サウスジョージア・サウスサンドウィッチ諸島。
- ES。スペイン。
- LK。スリランカ。
- SD。スーダン。
- SR。スリナム。
- SJ。スバルバル諸島・ヤンマイエン島。
- SZ。スワジランド。
- SY。シリア。
- SE。スウェーデン。
- CH。スイス。
- TW。台湾。
- TJ。タジキスタン。
- TZ。タンザニア。
- TH。タイ。
- TL。東ティモール。
- TG。トーゴ。
- TK。トケラウ諸島。
- TO。トンガ。
- TT。トリニダード・トバゴ。
- TN。チュニジア。
- TR。トルコ。
- TC。タークス・カイコス諸島。
- TM。トルクメニスタン。

- TV。ツバル。
- UG。ウガンダ。
- UA。ウクライナ。
- AE。アラブ首長国連邦。
- GB。英国。
- US。米国。
- UM。合衆国領有小離島。
- UY。ウルグアイ。
- UZ。ウズベキスタン。
- VU。バヌアツ共和国。
- VA。バチカン。
- VE。ベネズエラ。
- VN。ベトナム。
- VG。英領バージン諸島。
- VI。米領バージン諸島。
- WF。ウォリス・フツナ。
- EH。西サハラ。
- YE。イエメン。
- ZM。ザンビア。
- ZW。ジンバブエ。

タイムゾーンのコード

Informatica Intelligent Cloud Services REST API は次のタイムゾーンコードを使用します。

- ACT
- AET
- Africa/Cairo
- Africa/Casablanca
- Africa/Johannesburg
- Africa/Nairobi
- America/Barbados
- America/Bogota
- America/Buenos_Aires
- America/Caracas
- America/Chicago
- America/Costa_Rica

- America/Dawson_Creek
- America/Denver
- America/Dominica
- America/EL_Salvador
- America/Guadeloupe
- America/Halifax
- America/Havana
- America/Jamaica
- America/La_Paz
- America/Los_Angeles
- America/Mexico_City
- America/Montreal
- America/New_York
- America/Panama
- America/Phoenix
- America/Puerto_Rico
- America/Santiago
- America/Tijuana
- America/Vancouver
- Asia/Baghdad
- Asia/Bahrain
- Asia/Dubai
- Asia/Hong_Kong
- Asia/Jerusalem
- Asia/Karachi
- Asia/Katmandu
- Asia/Kuala_Lumpur
- Asia/Kuwait
- Asia/Magadan
- Asia/Muscat
- Asia/Qatar
- Asia/Rangoon
- Asia/Riyadh
- Asia/Seoul
- Asia/Singapore
- AST
- Atlantic/Cape_Verde
- Atlantic/South_Georgia

- Australia/Lord_Howe
- Australia/Perth
- Brazil/Acre
- Brazil/DeNoronha
- Brazil/East
- Brazil/West
- BST
- CNT
- CTT
- Europe/Amsterdam
- Europe/Athens
- Europe/Belgrade
- Europe/Berlin
- Europe/Brussels
- Europe/Bucharest
- Europe/Budapest
- Europe/Copenhagen
- Europe/Istanbul
- Europe/London
- Europe/Luxembourg
- Europe/Madrid
- Europe/Moscow
- Europe/Paris
- Europe/Prague
- Europe/Rome
- Europe/Stockholm
- Europe/Vienna
- Europe/Warsaw
- Europe/Zurich
- GMT
- HST
- Indian/Mauritius
- IST
- JST
- Pacific/Apia
- Pacific/Auckland
- Pacific/Chatham
- Pacific/Enderbury

- Pacific/Fiji
- Pacific/Gambier
- Pacific/Kiritimati
- Pacific/Norfolk
- Pacific/Tahiti
- UTC
- VST

第 10 章

REST API リソースクイックリファレンス

リソースクイックリファレンスリストを使用すると、Informatica Intelligent Cloud Services プラットフォームおよびサービスによって使用される REST API リソースの簡単な説明が見つかります。

プラットフォームリソースクイックリファレンス

以下のリストには、Informatica Intelligent Cloud Services REST API プラットフォームリソースの構文と簡単な説明が含まれています。

activityLog GET

バージョン 2 リソース。

モニタサービスから情報を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/activity/activityLog/<id>  
/api/v2/activity/activityLog?runId=<runId>  
/api/v2/activity/activityLog?taskId=<taskId>  
/api/v2/activity/activityLog?offset=<offset>  
/api/v2/activity/activityLog?rowLimit=<row limit>
```

activityLog を使用してエラーログとセッションログをサーバーからダウンロードすることもできます。

次の URI のいずれかにログイン応答からの serverUrl を使用します。

```
/api/v2/activity/errorLog/<id>  
/api/v2/activity/activityLog/<Top_Level_Log_Entry_Id>/sessionLog?itemId=<child-log-entry-item-id>&childItemId=<child-log-entry-item-id>
```

activityMonitor GET

バージョン 2 リソース。

モニタサービスから情報を返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/activity/activityMonitor?details=<true|false>
```

agent GET

バージョン 2 リソース。

組織内の 1 つの Secure Agent またはすべての Secure Agent の詳細を返します。また、Secure Agent インストールトークンとチェックサムダウンロード URL を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

- Secure Agent の詳細を取得するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/api/v2/agent  
/api/v2/agent/<id>  
/api/v2/agent/name/<name>
```

- Secure Agent インストールトークンとチェックサムダウンロード URL を取得するには、次の URI を使用します。

```
/api/v2/agent/installerInfo/<install platform>
```

agent DELETE

バージョン 2 リソース。

Secure Agent を削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/agent/<id>
```

agentservice POST

バージョン 3 リソース。

Secure Agent サービスを開始または停止します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
public/core/v3/agent/service
```

auditlog GET

バージョン 2 リソース。

監査ログエントリを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/auditlog  
/api/v2/auditlog?batchId=<batchId>&batchSize=<batchSize>
```

bundleObject GET

バージョン 2 リソース。

組織内の 1 つのバンドルの詳細またはパブリッシュまたはインストールされたすべてのバンドルの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/bundleObject  
/api/v2/bundleObject/<id>  
/api/v2/bundleObject/name/<name>  
/api/v2/bundleObject/?published=true  
/api/v2/bundleObject/?published=true&installed=false  
/api/v2/bundleObject/?installed=true  
/api/v2/bundleObject/?published=false&installed=true
```

bundleObject POST

バージョン 2 リソース。

サブ組織にパブリッシュされた非公開バンドルをプッシュします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

```
/api/v2/bundleObject/push/<bundleId>
```

bundleObjectLicense GET

バージョン 2 リソース。

使用可能なバンドルまたは組織にインストールされたバンドルすべての詳細を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `serverUrl` を使用します。

`/api/v2/bundleObjectLicense/<bundleObjectId>`

bundleObjectLicense POST

バージョン 2 リソース。

バンドルをインストールします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `serverUrl` を使用します。

`/api/v2/bundleObjectLicense/`

`bundleObjectLicense` オブジェクトを使用して属性を定義します。次の必須属性を含めます: `bundleId`。

bundleObjectLicense DELETE

バージョン 2 リソース。

バンドルをアンインストールします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `serverUrl` を使用します。

`/api/v2/bundleObjectLicense?bundleObjectId=<bundleId>&updateOption=<updateOption>`

ChangePassword POST

バージョン 3 リソース。

セッションを継承したユーザーまたは指定したユーザーのパスワードを変更します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/Users/ChangePassword`

checkin POST

バージョン 3 リソース。

オブジェクトの最新バージョンでリポジトリを更新します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/checkin`

checkout POST

バージョン 3 リソース。

リポジトリからオブジェクトをチェックアウトします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/checkout`

commit GET

バージョン 3 リソース。

コミットの詳細を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/commit/<commit hash>`

commitHistory GET

バージョン 3 リソース。

最新のコミットが最初に表示されているソース管理オブジェクトのコミット履歴を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/commitHistory<parameters>`

export POST

バージョン 3 リソース。

エクスポートジョブを開始してエクスポートジョブ ID を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/export

export GET

バージョン 3 リソース。

エクスポートステータスまたはエクスポートパッケージを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- エクスポートジョブのステータスを受け取るには、次のいずれかの URI を使用します。

/public/core/v3/export/<id>
/public/core/v3/export/<id>?expand=objects

- エクスポートジョブのログをダウンロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/export/<id>/log

- エクスポートパッケージの ZIP ストリームを受け取るには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/export/<id>/package

fetchState POST

バージョン 3 リソース。

オブジェクトの状態パッケージを作成して fetchState ジョブの ID を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/fetchState

fetchState GET

バージョン 3 リソース。

fetchState ジョブのステータスまたはオブジェクトの状態パッケージを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- fetchState ジョブのステータスを受け取るには、次のいずれかの URI を使用します。

/public/core/v3/fetchState/<id>
/public/core/v3/fetchState/<id>?expand=objects

- オブジェクトの状態パッケージの ZIP ストリームを受け取るには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/fetchState/<id>/package

folders POST

バージョン 3 リソース。

デフォルトプロジェクトにフォルダを作成します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/folders

folders PATCH

バージョン 3 リソース。

デフォルトプロジェクトにあるフォルダを更新します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/folders/<folder ID>

注: デフォルトプロジェクトにないフォルダを作成または更新し、フォルダを削除するには、プロジェクトリソースを使用します。

import POST

バージョン 3 リソース。

インポートパッケージをアップロードまたはインポートジョブを開始します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- インポートパッケージをアップロードするには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/import/package
Content-Type の場合、multipart/form-data を使用します。
- インポートジョブの詳細を指定してジョブを開始するには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/import/<id>

import GET

バージョン 3 リソース。

インポートジョブのステータスを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- インポートジョブのステータスを受け取るには、次のいずれかの URI を使用します。
/public/core/v3/import/<id>
/public/core/v3/import/<id>?expand=objects
- インポートジョブのログをダウンロードするには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/import/<id>/log

job POST

バージョン 2 リソース。

タスクを開始または停止し、必要に応じてジョブステータスを指定します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

- タスクを開始するには、次の URI を使用します。
/api/v2/job
- タスクを停止するには、次の URI を使用します。
/api/v2/job/stop

ファイル取り込みタスクでは、このリソースを使用しないでください。代わりに、ファイル取り込みとレプリケーションジョブリソースを使用します。詳細については、[「ジョブ」 \(ページ 504\)](#)を参照してください。

key GET

バージョン 3 リソース。

組織のキーローテーション間隔の詳細を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/key/rotationSettings

key PATCH

バージョン 3 リソース。

組織のキーローテーション間隔を変更します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/key/rotationSettings

license GET

バージョン 3 リソース。

ログインされる組織または指定したサブ組織のライセンスの詳細を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/license/org/<id>

license PUT

バージョン 3 リソース。

サブ組織のライセンス情報を更新します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/license/org/<id>

orgLicenseAssignment オブジェクトを使用して、ライセンス情報を更新します。

loadState POST

バージョン 3 リソース。

オブジェクトの状態パッケージの ZIP ファイルをアップロードするか、オブジェクトの状態をロードします。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- オブジェクトの状態パッケージをアップロードするには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/loadState/package

Content-Type の場合、multipart/form-data を使用します。

- loadState ジョブの詳細を指定してジョブを開始するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/loadState/<id>

loadState GET

バージョン 3 リソース。

loadState ジョブのステータスを返します。

次のいずれかの URI で、ベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用し、ジョブ ID を含めます。

/public/core/v3/loadState/<id>

/public/core/v3/import/<id>?expand=objects

login POST

バージョン 3 リソース。

組織にログインし、セッション中に実行する API 呼び出しに使用するセッション ID を返します。

次の URL を使用します。

https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/login

クラウドプロバイダとリージョンの詳細については、「[ログイン](#)」(ページ 174)を参照してください。

要求ヘッダーに INFA-SESSION-ID を含めないでください。

ログインオブジェクトを使用して次のフィールドを含めます: ユーザー名、パスワード。

logout POST

バージョン 3 リソース。

組織からログアウトして要求ヘッダーに含まれた REST API セッションを終了します。

API 名を除く login POST に使用される同じ URL を使用します。次の URI を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/saas/public/core/v3/logout`

login POST

バージョン 2 リソース。

組織にログインし、セッション中に実行する API 呼び出しに使用するセッション ID を返します。

所属する Informatica Intelligent Cloud Services アカウントを使用してログインするには、次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/login`

クラウドプロバイダとリージョンの詳細については、「[ログインしています](#)」(ページ 54)を参照してください。

要求ヘッダーに icSessionId を含めないでください。

ログインオブジェクトを使用して次のフィールドを含めます: ユーザー名、パスワード。

loginSAML POST

バージョン 2 リソース。

SAML シングルサインオンユーザーの場合は、組織にログインし、他の API 呼び出しに使用できるセッション ID を返します。

組織にログインするには、次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginSaml`

クラウドプロバイダとリージョンの詳細については、「[ログインしています](#)」(ページ 54)を参照してください。

要求ヘッダーに icSessionId を含めないでください。

ログインオブジェクトに次の必須属性を含めます: orgId、samlToken。

loginSf POST

バージョン 2 リソース。

Salesforce 資格証明を使用して組織にログインし、他のリソース呼び出しに使用できるセッション ID を返します。

組織にログインするには、次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/loginSf`

クラウドプロバイダとリージョンの詳細については、「[ログインしています](#)」(ページ 54)を参照してください。

要求ヘッダーに icSessionId を含めないでください。

ログインオブジェクトに次の必須属性を含めます: sfSessionId、sfServerUrl。

logout POST

バージョン 2 リソース。

組織からログアウトして要求ヘッダーに含まれた REST API セッションを終了します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

`/api/v2/user/logout`

logoutall POST

バージョン 2 リソース。

組織からログアウトし、組織のすべてのバージョン 2 REST API セッションを終了します。

次の URL を使用します。

`https://<cloud provider>-<region>.informaticacloud.com/ma/api/v2/user/logoutall`

ログアウトオブジェクトを使用して属性を定義します。次の必須属性を含めます: username、password。

要求ヘッダーに icSessionId を含めないでください。

lookup POST

バージョン 3 リソース。

オブジェクトの ID、名前、パス、またはタイプの属性をルックアップします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

`/public/core/v3/lookup`

objects GET

バージョン 3 リソース。

クエリパラメータに基づいて組織のアセットのリストを返し、指定されたアセットのオブジェクトの依存関係のリストを返します。また、組織のアセット、プロジェクト、フォルダの権限の詳細、およびオブジェクトに対するアクセス権も返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- 組織のアセットのリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects?<parameters>`
- アセットのオブジェクト依存関係のリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/references?<parameters>`
- 特定の ACL の詳細を取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/permissions/<ACL ID>`
- オブジェクトに対するすべての権限の詳細を取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/permissions`
- ログインしたユーザーがオブジェクトに対して持つアクセス権を取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/permissions/checkAccess`
- プロジェクトまたはフォルダに特定のタイプのアセットを作成できるかどうかを確認するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/permissions/checkAccess?type=<type>`

objects POST

バージョン 3 リソース。

アクセス制御リスト (ACL) を作成または更新します。ACL は、アセット、フォルダ、およびプロジェクトに対するユーザーまたはユーザーグループの権限を定義します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- オブジェクトの ACL を作成するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/permissions`
- オブジェクトの ACL を更新するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/objects/<id>/permissions/<ACL ID>`

objects DELETE

バージョン 3 リソース。

カスタムロールを削除します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- ユーザーまたはユーザーグループがオブジェクトに対して持っている権限を削除するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/objects/<id>/permissions/<ACL ID>

- オブジェクトに構成されているすべての権限を削除するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/objects/<id>/permissions

org GET

バージョン 2 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services 組織または関連するサブ組織の詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/org/<id>
/api/v2/org/name/<name>

org POST

バージョン 2 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services 組織または関連するサブ組織の詳細を更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/org/<id>

組織オブジェクトを使用して属性を定義します。

org DELETE

バージョン 2 リソース。

関連するサブ組織を削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/org/<id>

orgs GET

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services 組織またはサブ組織の信頼済み IP アドレス範囲のリストを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/Orgs/<orgId>/TrustedIP

orgs PUT

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services 組織またはサブ組織の信頼済み IP 範囲を有効または無効にし、信頼済み IP 範囲の値を追加します。また、SAML グループおよび SAML ロールと Informatica Intelligent Cloud Services ロールとの間のマッピングを作成または削除します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- 信頼できる IP 範囲を有効化、無効化、または追加するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/Orgs/<orgId>/TrustedIP

- SAML グループと Informatica Intelligent Cloud Services ロールとの間のマッピングを追加するには、次の URI を使用します。

/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/addSamlGroupMappings

- SAML グループと Informatica Intelligent Cloud Services ロールの間のマッピングを削除するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/removeSamlGroupMappings`

- SAML ロールと Informatica Intelligent Cloud Services ロールとの間のマッピングを追加するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/addSamlRoleMappings`

- SAML ロールと Informatica Intelligent Cloud Services ロールとの間のマッピングを削除するには、次の URI を使用します。

`/public/core/v3/Orgs/<organization ID>/removeSamlRoleMappings`

privileges GET

バージョン 3 リソース。

カスタムロールで使用できる権限のリストを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `baseApiUrl` を使用します。

- 有効な特権とデフォルトの特権のリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/privileges`
- 有効、無効、デフォルト、および割り当てられていない特権の完全なリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/privileges?<parameters>`

projects POST

バージョン 3 リソース。

プロジェクトを作成します。また、デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにフォルダを作成します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `baseApiUrl` を使用します。

- プロジェクトを作成するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/projects`
- デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにフォルダを作成するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/public/core/v3/projects/<id>/folders`
`/public/core/v3/projects/name/<name>/folders`

projects PATCH

バージョン 3 リソース。

プロジェクトを更新します。デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにあるフォルダも更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `baseApiUrl` を使用します。

- プロジェクトを更新するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/public/core/v3/projects/<id>`
`/public/core/v3/projects/name/<name>`
- デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにあるフォルダを更新するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/public/core/v3/projects/<id>/folders/<id>`
`/public/core/v3/projects/name/<name>/folders/name/<name>`

注: デフォルトプロジェクトにあるフォルダを作成または更新するには、フォルダリソースを使用します。

projects DELETE

バージョン 3 リソース。

プロジェクトまたはフォルダを削除します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- プロジェクトを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/projects/<id>  
/public/core/v3/projects/name/<name>
```

- デフォルトプロジェクトにあるフォルダを削除するには、次の URI を使用します。

```
/public/core/v3/projects/<folder ID>
```

- デフォルトプロジェクト以外のプロジェクトにあるフォルダを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/projects/<id>/folders/<id>  
/public/core/v3/projects/name/<name>/folders/name/<name>
```

pull GET

バージョン 3 リソース。

注: プル操作のステータスを取得するために使用していたプル GET 要求は廃止されました。
sourceControlAction GET 要求を使用して、ソース管理操作のステータスを受け取ります。

pull POST

バージョン 3 リソース。

リポジトリからオブジェクトを取得して組織にロードします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/pull
```

pullByCommitHash POST

バージョン 3 リソース。

特定のコミットによって変更されたオブジェクトをリポジトリから取得し、組織にロードします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/pullByCommitHash
```

register POST

バージョン 2。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントに基づいた Informatica Intelligent Cloud Services サブ組織を作成します。Informatica Intelligent Cloud Services パートナーのみの場合。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/user/register
```

登録オブジェクトを使用して属性を定義します。

ResetPasswordPOST

バージョン 3 リソース。

セッションを継承したユーザーのパスワードをリセットします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/Users/ResetPassword
```

roles GET

バージョン 3 リソース。

組織のロールの詳細を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/roles`

roles POST

バージョン 3 リソース。

カスタムロールを作成します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/roles`

roles PUT

バージョン 3 リソース。

カスタムロールを更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `baseApiUrl` を使用します。

- カスタムロールに特権を追加するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/public/core/v3/roles/<id>/addPrivileges`
`/public/core/v3/roles/name/<name>/addPrivileges`
- カスタムロールから特権を削除するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/public/core/v3/roles/<id>/removePrivileges`
`/public/core/v3/roles/name/<name>/removePrivileges`

roles DELETE

バージョン 3 リソース。

カスタムロールを削除します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/roles/<id>`

runtimeEnvironment GET

バージョン 2 リソース。

組織によって使用されるランタイム環境の詳細を返します。また、Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティに関する詳細を取得することもできます。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `serverUrl` を使用します。

- 組織が使用するランタイム環境の詳細を取得するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment`
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>`
`/api/v2/runtimeEnvironment/<name>`
- Secure Agent グループに対して有効になっているサービスとコネクタを確認するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/selections`
- Secure Agent グループに対して有効および無効になっているサービスとコネクタを取得するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/selections/details`
- Secure Agent グループで設定できる編集可能な Secure Agent サービスプロパティのリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/details/<platform>`
- Secure Agent サービスのデフォルトプロパティ設定を上書きしたグループレベルプロパティのリストを取得するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/<platform>`

runtimeEnvironment POST

バージョン 2 リソース。

Secure Agent グループを作成または更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/runtimeEnvironment  
/api/v2/runtimeEnvironment/<id>
```

runtimeEnvironment PUT

バージョン 2 リソース。

サービスとコネクタを有効にし、Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティを設定します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

- Secure Agent グループのサービスとコネクタを有効にするには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/selections`
- Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティを設定するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs/<platform>`

runtimeEnvironment DELETE

バージョン 2 リソース。

Secure Agent グループを削除するか、Secure Agent グループの Secure Agent サービスプロパティ設定を削除します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

- Secure Agent グループを削除するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>`
- Secure Agent グループのプロパティ設定を削除するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/runtimeEnvironment/<id>/configs`

schedule GET

バージョン 3 リソース。

組織内の 1 つのスケジュールまたはすべてのスケジュールの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- 組織の全スケジュールの詳細を取得するには、次の URI を使用します。
`/public/core/v3/schedule`
- 特定のスケジュールの詳細を取得するには、次の URI のいずれかを使用します。
`/public/core/v3/schedule/<id>`
`/public/core/v3/schedule/<parameter>`

schedule POST

バージョン 3 リソース。

スケジュールを作成します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/schedule
```

schedule PATCH

バージョン 3 リソース。

スケジュールを更新します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/schedule/<id>

schedule DELETE

バージョン 3 リソース。

スケジュールを削除します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/schedule/<id>

schedule GET

バージョン 2 リソース。

組織内の 1 つのスケジュールまたはすべてのスケジュールの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/schedule/<id>

/api/v2/schedule/name/<name>

schedule POST

バージョン 2 リソース。

スケジュールを作成または更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/schedule/<id>

注: 完全なスケジュール機能を活用するには、バージョン 2 の schedule リソースではなく、バージョン 3 の schedule リソースを使用します。

schedule DELETE

バージョン 2 リソース。

スケジュールを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/schedule/<id>

securityLog GET

バージョン 3 リソース。

ログインアクションや権限変更などのイベントを含むセキュリティログエントリを返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/securityLog

serverTime GET

バージョン 2 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services サーバーのローカルタイムを返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/server/serverTime

sourceControlAction GET

バージョン 3 リソース。

指定されたオブジェクトのソース管理操作のステータスを返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- ソース管理操作のステータスを取得するには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/sourceControlAction/<actionId>
- ソース管理操作に含まれる各オブジェクトのステータスを取得するには、次の URI を使用します。
/public/core/v3/sourceControlAction/<actionId>?expand=objects

TagObjects POST

バージョン 3 リソース。

タグをアセットに割り当てます。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/TagObjects

task GET

バージョン 2 リソース。

指定されたタイプのタスクのリストを返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/task?type=<type>

undoCheckout POST

バージョン 3 リソース。

チェックアウトを元に戻し、オブジェクトを元の状態に戻します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/undoCheckout

UntagObjects POST

バージョン 3 リソース。

アセットに割り当てられたタグを削除します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

/public/core/v3/UntagObjects

user GET

バージョン 2 リソース。

組織内の 1 つの Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントまたはすべてのユーザーアカウントの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/user/<id>
/api/v2/user/name/<name>

注: 完全なユーザー管理機能を活用するには、バージョン 2 の user リソースではなく、バージョン 3 の users リソースを使用します。バージョン 3 の users リソースは、ユーザー、ユーザーグループ、およびロールをサポートします。バージョン 2 の user リソースは、ユーザーグループおよびロールをサポートせず、GET 要求は組織内のすべてのユーザーを返さない場合があります。

user POST

バージョン 2 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントを作成または更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として `serverUrl` を使用します。

`/api/v2/user/<id>`

注: バージョン 2 `user` リソースではなく、バージョン 3 `users` リソースを使用する事を推奨します。バージョン 2 `user` リソースはユーザーグループまたはユーザーロールをサポートしていません。

user DELETE

バージョン 2 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として `serverUrl` を使用します。

`/api/v2/user/<id>`

userGroups GET

バージョン 3 リソース。

組織内のすべてのユーザーグループの詳細、または特定のユーザーグループの詳細を返します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/userGroups`

userGroups POST

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーグループを作成します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/userGroups`

`/public/core/v3/userGroups/<id>`

userGroups PUT

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーグループを更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として `baseApiUrl` を使用します。

- ユーザーグループにロールを追加するには、次の URI のいずれかを使用します。

`/public/core/v3/userGroups/<id>/addRoles`

`/public/core/v3/userGroups/name/<name>/addRoles`

- ユーザーグループからロールを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

`/public/core/v3/userGroups/<id>/removeRoles`

`/public/core/v3/userGroups/name/<name>/removeRoles`

- ユーザーグループにユーザーを追加するには、次の URI のいずれかを使用します。

`/public/core/v3/userGroups/<id>/addUsers`

`/public/core/v3/users/name/<name>/addGroups`

- ユーザーグループからユーザーを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

`/public/core/v3/userGroups/<id>/removeUsers`

`/public/core/v3/users/name/<name>/removeGroups`

userGroups DELETE

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーグループを削除します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの `baseApiUrl` を使用します。

`/public/core/v3/userGroups/<id>`

users GET

バージョン 3 リソース。

組織内のすべてのユーザーの詳細、または特定のユーザーの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/users  
/public/core/v3/users?<parameter>
```

users POST

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントを作成します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/users
```

users PUT

バージョン 3 リソース。

ユーザーのロールとユーザーグループの割り当てを更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として baseApiUrl を使用します。

- ユーザーにロールを割り当てるには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/users/<id>/addRoles  
/public/core/v3/users/name/<name>/addRoles
```

- ユーザーからロールを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/users/<id>/removeRoles  
/public/core/v3/users/name/<name>/removeRoles
```

- ユーザーグループをユーザーに割り当てるには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/users/<id>/addGroups  
/public/core/v3/users/name/<name>/addRGroups
```

- ユーザーグループの割り当てを削除するには、次の URI のいずれかを使用します。

```
/public/core/v3/users/<id>/removeGroups  
/public/core/v3/users/name/<name>/removeGroups
```

users DELETE

バージョン 3 リソース。

Informatica Intelligent Cloud Services ユーザーアカウントを削除します。

次の URI のベース URL としてログイン応答からの baseApiUrl を使用します。

```
/public/core/v3/users/<id>
```

データ統合リソースクイックリファレンス

次のリストには、データ統合リソースの構文および簡単な説明が含まれています。

CodeTask POST

disnext バージョン 1 リソース。

コードタスクを作成または開始します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI に対するベース URL としてサーバー URL を使用します。

- コードタスクを作成するには、次の URI を使用します。
`/disnext/api/v1/CodeTask`
- コードタスクを開始するには、次の URI を使用します。
`/disnext/api/v1/CodeTask/Start`

CodeTask GET

disnext バージョン 1 リソース。

コードタスクの詳細またはステータスを取得します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI に対するベース URL としてサーバー URL を使用します。

- コードタスクの詳細を取得するには、次の URI を使用します。
`/disnext/api/v1/CodeTask/<codeTaskId>`
- コードタスクのステータスを取得するには、次の URI を使用します。
`/disnext/api/v1/CodeTask/JobStatus/<jobId>`

CodeTask PUT

disnext バージョン 1 リソース。

コードタスクジョブをキャンセルします。

次の URI のベース URL としてログイン応答からのサーバー URL を使用します。

`/disnext/api/v1/CodeTask/Cancel`

connection GET

バージョン 2 リソース。

組織の接続に関連する情報を返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として `serverUrl` を使用します。

以下の情報を要求できます。

- 接続の詳細。特定の接続または組織のすべての接続の詳細を要求するには、次のいずれかの URI を使用します。
`/api/v2/connection`
`/api/v2/connection/<id>`
`/api/v2/connection/name/<name>`
- 接続オブジェクト。指定した接続のソースまたはターゲットとして使用できるオブジェクトのリストを要求するには、次のいずれかの URI を使用します。
`/api/v2/connection/source/<id>`
`/api/v2/connection/target/<id>`
- ランタイム環境別の接続の詳細。特定のランタイム環境を使用する、組織のすべての接続のリストを要求するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/connection/<runtimeEnvironmentId>`
- Secure Agent および接続タイプ別の接続。Secure Agent ID および接続タイプごとの接続リストを要求するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/connection/search?agentId=<id>&uiType=<uiType>`
- メタデータの詳細。接続でメタデータの詳細を要求するには、次の URI を使用します。
`/api/v2/connection/<source or target>/<id>/metadata`
- テスト接続。接続をテストするには、次の URI を使用します。
`/api/v2/connection/test/<id>`

connection POST

バージョン 2 リソース。

接続を作成または更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/connection/<id>

接続オブジェクトを使用して属性を定義します。

connection DELETE

バージョン 2 リソース。

接続を削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/connection/<id>

connector GET

バージョン 2 リソース。

組織で使用可能なコネクタ、または指定したコネクタタイプの属性値のリストを返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/connector
/api/v2/connector/metadata?connectorType=<type>

customFunc GET

バージョン 2 リソース。

単一の PowerCenter マップレットの詳細、または組織内のすべての PowerCenter マップレットの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/customFunc
/api/v2/customFunc/<id>
/api/v2/customFunc/name/<name>

customFunc POST

バージョン 2 リソース。

PowerCenter マップレットをアップロードします。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/customFunc/<id>

要求本文の属性を定義し、要求本文を multipart/form-data としてエンコードします。必須属性 (file、name) を含みます。

customFunc DELETE

バージョン 2 リソース。

PowerCenter マップレットを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/customFunc/<id>

dataPreview GET

バージョン 2 リソース。

マッピングの設計中にデータをプレビューします。指定したオブジェクトのソースまたはターゲットデータを戻す行の数を指定します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/connection/<source or target>/<connection ID>/datapreview/<object name>  
/api/v2/connection/<source or target>/name/<name>/datapreview/<object name>
```

dynamictask GET

batch-mapping バージョン 1 リソース。

動的マッピングタスクの詳細を返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/batch-mapping/api/v1/dynamictask/<id>
```

dynamictask POST

batch-mapping バージョン 1 リソース。

動的マッピングタスクを作成します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/batch-mapping/api/v1/dynamictask
```

dynamictask PUT

batch-mapping バージョン 1 リソース。

動的マッピングタスクを更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/batch-mapping/api/v1/dynamictask/<id>
```

dynamictask DELETE

batch-mapping バージョン 1 リソース。

動的マッピングタスクを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/batch-mapping/api/v1/dynamictask/<id>
```

expressionValidation POST

バージョン 2 リソース。

式を検証し、成功応答またはエラー応答を返します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/expression/validate
```

field GET

バージョン 2 リソース。

ソースまたはターゲットオブジェクトのフィールドの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/connection/<source or target>/<id>/field/<name>  
/api/v2/connection/<source or target>/name/<name>/field/<name>  
/api/v2/connection/<source or target>/<id>/fields?objectName=<name>
```

field POST

バージョン 2 リソース。

ソースまたはターゲットオブジェクトのフラットファイル属性を更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

```
/api/v2/connection/<source or target>/<id>/field/<name>
```

要求内で指定されたフラットファイル属性は、接続オブジェクトで指定されたデフォルトの属性を上書きします。

filelisteners GET

mftsaas バージョン 1 リソース。

ファイルリスナの詳細およびジョブステータスを取得します。

ファイルリスナの詳細を取得するには、次の URI のベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

api/v1/filelisteners/<id>

ファイルリスナジョブのステータスを取得するには、次の URI のベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

mftsaas/api/v1/filelisteners/job/<id>/status

filelisteners POST

mftsaas バージョン 1 リソース。

ファイルリスナを作成します。

ファイルリスナを作成するには、次の URI のベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

api/v1/filelisteners

ファイルリスナを開始するには、次の URI のベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

mftsaas/api/v1/filelisteners/<id>/start

ファイルリスナを停止するには、次の URI のベース URL としてログイン応答からの serverUrl を使用します。

mftsaas/api/v1/filelisteners/<id>/stop

filelisteners PUT

mftsaas バージョン 1 リソース。

既存のファイルリスナを更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

mftsaas/api/v1/filelisteners/<id>

filelisteners DELETE

mftsaas バージョン 1 リソース。

既存のファイルリスナを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

mftsaas/api/v1/filelisteners/<id>

fwConfig GET

バージョン 2 リソース。

固定幅形式の詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/fwConfig/<id>

/api/v2/fwConfig/name/<name>

fwConfig POST

バージョン 2 リソース。

固定幅形式をアップロードします。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/fwConfig/<id>

fwConfig DELETE

バージョン 2 リソース。

固定幅形式を削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/fwConfig/<id>

mapping GET

バージョン 2 リソース。

単一のマッピングの詳細や、組織内のすべてのマッピングの詳細を返します。また、マッピングのイメージを返すこともできます。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/mapping/<id>
/api/v2/mapping/name/<name>
/api/v2/mapping/search?name=<name>
/api/v2/mapping/<id>/image?deployed=<true|false>

mttask GET

バージョン 2 リソース。

マッピングタスクの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/mttask/<id>
/api/v2/mttask/frs/<federated task ID>
/api/v2/mttask/name/<name>

mttask POST

バージョン 2 リソース。

マッピングタスクを作成または更新します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/mttask/<id>
/api/v2/mttask/frs/<federated task ID>

mttask オブジェクトを使用して属性を定義します。

mttask DELETE

バージョン 2 リソース。

マッピングタスクを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/mttask/<id>

sendfiles POST

AS2 ファイル転送のバージョン 1 API。

AS2 接続を使用してファイルをリモート AS2 サーバーに転送します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

mftsaas/api/v1/sendfiles/<connection name>

workflow GET

バージョン 2 リソース。

単一のリニアタスクフローの詳細や、組織内のすべてのリニアタスクフローの詳細を返します。

ログイン応答から、次のいずれかの URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/workflow/<id>
/api/v2/workflow/name/<name>
/api/v2/workflow/?simpleMode=true

workflow POST

バージョン 2 リソース。

リニアタスクフローを作成または更新します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/workflow/<id>

ワークフローオブジェクトを使用して属性を定義します。

workflow DELETE

バージョン 2 リソース。

リニアタスクフローを削除します。

ログイン応答から、次の URI のベース URL として serverUrl を使用します。

/api/v2/workflow/<id>

索引

A

activityLog
REST API リソース [27](#)
activityMonitor
REST API リソース [38](#)
Advanced FTP V2 [416](#)
AS2 サーバー
sendfiles リソース [406](#)
auditlog
REST API リソース [41](#)

B

bundleObject
REST API リソース [45](#)
bundleObjectLicense
REST API リソース [47](#), [48](#)

C

changePassword リソース [227](#)
checkin リソース [286](#)
Cloud アプリケーション統合コミュニティ
URL [11](#)
Cloud 開発者コミュニティ
URL [11](#)
ClusterConfig リソース
設定の更新 [118](#)
CodeTask
REST API [319](#)
commitHistory リソース [292](#)
commit リソース
コミットの詳細の取得 [290](#)
compress
REST API リソース [411](#)
customFunc
REST API リソース [482](#)

D

dataPreview
REST API リソース [353](#)
Date/Time 形式
REST API [20](#)
decompress
REST API リソース [412](#)
decrypt
REST API リソース [415](#)

E

encrypt
REST API リソース [413](#), [420](#)
expressionValidation
REST API リソース [500](#)

F

fetchState
REST API v3 リソース [199](#)
folders リソース
フォルダの更新 [233](#)
フォルダの作成 [232](#)
フォルダの削除 [234](#)
fwConfig
REST API リソース [429](#)

G

guidelines
REST API [25](#)

H

h2h
REST API リソース [433](#)

I

ID プロバイダ
JWT アクセストークン [151](#)
Informatica Intelligent Cloud Services
Web サイト [11](#)
Informatica グローバルカスタマサポート
連絡先情報 [12](#)
IP アドレス [168](#)

L

loadState
REST API v3 リソース [206](#)
loginSaml
REST API リソース [58](#), [63](#)
loginSf
REST API リソース [66](#)
logout
REST API v3 リソース [177](#)
REST API リソース [70](#)
logoutall
REST API リソース [70](#)

M

mttask
REST API リソース [453](#)

O

OAuth
JWT の ID プロバイダ [151](#)
objects
REST API v3 リソース [212](#)
objects リソース
権限 [221](#)
org
REST API リソース [71](#)
org リソース
IP アドレス [168](#)
SAML グループマッピングの削除 [242](#)
SAML グループマッピングの詳細の取得 [243](#)
SAML グループマッピングの追加 [239](#)
SAML ロールマッピングの削除 [242](#)
SAML ロールマッピングの詳細の取得 [245](#)
SAML ロールマッピングの追加 [241](#)
ロールと SAML グループおよび SAML ロールのマッピング [239](#)

P

POD [14](#)
privileges リソース [228](#)
projects リソース
プロジェクトの更新 [231](#)
プロジェクトの作成 [230](#)
プロジェクトの削除 [231](#)
pullByCommitHash resource
オブジェクトのプル [273](#)
pull リソース
オブジェクトのプル [267](#)

R

receivefiles
REST API リソース [408](#)
register
REST API リソース [76](#)
ResetPassword リソース [227](#)
responses
REST API [23](#)
REST API
activityLog リソース [27](#)
activityMonitor リソース [38](#)
bundleObjectLicense リソース [47, 48](#)
CodeTask [319](#)
Data Integration クイックリファレンス [619](#)
dataPreview リソース [353](#)
Date/Time 値 [20](#)
expressionValidation [500](#)
fwConfig resource:fwConfig リソース [429](#)
guidelines [25](#)
h2h [433](#)
history [574](#)
job resource:ジョブリソース [49](#)
JSON の例 [18](#)
login resource:ログインリソース [54, 174](#)
loginSaml [58, 63](#)
loginSf リソース [66](#)

REST API (続く)
logoutall リソース [70](#)
MIJobs [566, 568](#)
org リソース [71](#)
PowerCenter マップレット用の customFunc リソース [482](#)
receivefiles リソース [408](#)
register リソース [76](#)
responses [23](#)
runtimeEnvironment リソース [81](#)
schedule リソース [93](#)
sendfiles リソース [406](#)
serverTime リソース [106](#)
statistics [572](#)
status [570](#)
user リソース [108](#)
XML の例 [18](#)
エージェントサービス [262](#)
エージェントリソース [101](#)
エラーオブジェクト [24](#)
オブジェクト ID の取得と使用 [21](#)
コード [591](#)
ストリーミング取り込みジョブのステータス [570](#)
ストリーミング取り込みジョブの詳細 [566](#)
ストリーミング取り込みジョブの統計 [572](#)
ストリーミング取り込みジョブの履歴 [574](#)
ストリーミング取り込みタスクのコピー [534](#)
ストリーミング取り込みタスクのデプロイ [532](#)
ストリーミング取り込みタスクのデプロイ解除 [533](#)
ストリーミング取り込みタスクの開始 [533](#)
ストリーミング取り込みタスクの更新 [536-538, 540, 543, 544, 546-548, 551, 553, 554, 556, 558-561, 563, 564](#)
ストリーミング取り込みタスクの停止 [534, 552](#)
タイムゾーンのコード [599](#)
タスクの詳細を表示する task リソース [106](#)
バージョン [14](#)
バンドルの詳細を表示する bundleObject リソース [45](#)
ファイル取り込みおよびレプリケーションタスク [517](#)
ファイル取り込みおよびレプリケーションタスクの更新 [527](#)
ファイル取り込みおよびレプリケーションタスクの作成 [521](#)
ファイル取り込みおよびレプリケーションタスクの削除 [531](#)
フィールドリソース [380](#)
プラットフォームのクイックリファレンス [603](#)
ヘッダーの設定 [15](#)
マッピングタスクを使用するための mttask リソース [453](#)
マッピングを使用するためのマッピングリソース [449](#)
マニュアルの表記規則 [25](#)
リソースの移行 [350](#)
リニアタスクフローの workflow リソース [445](#)
ログアウトリソース [70](#)
監査エントリを表示する auditlog リソース [41](#)
使用可能なストリーミング取り込みジョブのリスト [568](#)
州コード [591, 593](#)
接続リソース [329](#)
本文の設定 [16](#)
戻りリスト [17](#)
REST API v3
fetchState リソース [199](#)
license resource:ライセンスリソース [172](#)
loadState リソース [206](#)
objects リソース [212](#)
schedule リソース [247](#)
securityLog [264](#)
インポートリソース [157](#)
キーリソース [170](#)
リソースのエクスポート [143](#)
ルックアップリソース [178](#)
ログアウトリソース [177](#)
変換リソース [487](#)

REST API リソース

タイプ [13](#)

roles リソース

ロールの詳細の取得 [234](#)

特権の更新 [238](#)

RunAJob ユーティリティ

Java ヒープサイズ [580](#)

ジョブステータス [579](#)

ジョブステータスコード [584](#)

ジョブの実行 [581](#)

セットアップ [577](#)

タスクフォルダ [582](#)

ログインプロパティ [577](#)

ログファイルの詳細 [579](#)

引数 [582](#)

概要 [576](#)

runtimeEnvironment

REST API リソース [81](#)

Secure Agent グループに対するデフォルトのプロパティの設定 [90](#)

Secure Agent グループのサービスとコネクタの選択 [87](#)

Secure Agent グループの更新 [85](#)

Secure Agent グループの作成 [85](#)

Secure Agent グループの削除 [85](#)

詳細の要求 [81](#)

S

SAML グループとロール

SAML グループマッピングの削除 [242](#)

SAML グループマッピングの詳細の取得 [243](#)

SAML グループマッピングの追加 [239](#)

SAML ロールマッピングの削除 [242](#)

SAML ロールマッピングの詳細の取得 [245](#)

SAML ロールマッピングの追加 [241](#)

SCIM トークン [260](#)

Secure Agent グループ

サービスとコネクタの選択 [87](#)

デフォルトのプロパティ 設定 [90](#)

更新 [85](#)

作成 [85](#)

削除 [85](#)

Secure Agent サービス

開始 [262](#)

停止 [262](#)

securityLog

REST API v3 リソース [264](#)

sendfiles

REST API リソース [406](#)

serverTime

REST API リソース [106](#)

serverURL [14](#)

sourceControlAction リソース [301](#)

T

TagObjects リソース [303](#)

tags

アセットからの削除 [304](#)

アセットへの割り当て [303](#)

@type

JSON REST API とともに使用 [16](#)

U

undoCheckout リソース [281](#)

UntagObjects リソース [304](#)

userGroups リソース [313](#)

userGroup リソース

ユーザーグループの更新 [317](#)

users リソース

ユーザーグループの割り当ての更新 [312](#)

ロールの割り当ての更新 [311](#)

W

Web サイト [11](#)

あ

アセット

依存関係 [219](#)

検索 [212](#)

組織内 [212](#)

アセットの移行

インポート [157](#)

エクスポート [143](#)

アップグレード通知 [12](#)

い

インポート

REST API v3 リソース [157](#)

え

エージェント

REST API リソース [101](#)

エクスポート

REST API v3 リソース [143](#)

エラーオブジェクト

REST API [24](#)

エラーログ [27](#)

エラスティックランタイム 環境

設定の詳細の取得 [114](#)

お

オブジェクト

ACL 権限の作成 [221](#)

権限の確認 [226](#)

権限の更新 [223](#)

権限の詳細の取得 [224](#)

オブジェクト ID

REST API の取得 [21](#)

オブジェクトの依存関係 [219](#)

オブジェクトの移行

インポート [157](#)

エクスポート [143](#)

オブジェクトの状態の同期化

fetchState リソース [199](#)

状態のエクスポート [199](#)

状態のロード [206](#)

オブジェクトの設定

REST API、XML および JSON [16](#)

オブジェクト権限

削除 [224](#)

か

カスタムロール
作成 [237](#)
削除 [239](#)
特権の追加と削除 [238](#)

き

キーのローテーション
REST API v3 リソース [170](#)
キーのローテーション間隔の変更 [171](#)
キーのローテーション間隔設定の取得 [170](#)

く

クイックリファレンス
Data Integration リソース [619](#)
プラットフォームリソース [603](#)

こ

コネクタ
組織で使用可能 [329](#)
コネクタタイプのデータ型 [501](#)

さ

サービスの REST API リソース [13](#)

し

システムステータス [12](#)
ジョブ
REST API リソース [49](#)
ジョブステータス
job resource:ジョブリソース [49](#)
RunAJob ユーティリティ [579](#)

す

スケジュール
REST API v3 リソース [247](#)
REST API リソース [93](#)
ステータス
Informatica Intelligent Cloud Services [12](#)
ステータスリソース
タスクフロー [490](#)
ストリーミング取り込みおよびレプリケーションタスク
REST API [532-534](#)
ストリーミング取り込みジョブ
REST API [568, 570, 572, 574](#)
ストリーミング取り込みタスク
REST API [534, 536-538, 540, 543, 544, 546-548, 551-554, 556, 558-561, 563, 564](#)

せ

セッション ID
REST API バージョンの違い [14](#)
セッションステータス [22](#)

セッションログ [27](#)

そ

ソース管理
オブジェクトのチェックアウト [277](#)
オブジェクトのチェックイン [286](#)
オブジェクトのバージョンの比較 [295](#)
オブジェクトのプル [267](#)
コミットの詳細の取得 [290](#)
コミットハッシュのオブジェクトのプル [273](#)
コミット履歴の取得 [292](#)
ステータス [301](#)
チェックアウトの取り消し [281](#)

た

タイムゾーンのコード
REST API [599](#)
タグの削除 [304](#)
タスク
REST API リソース [106](#)

ち

チェックアウトリソース [277](#)

と

トークン
一覧表示 [140](#)

は

バージョン管理 [266](#)
パスワード
リセット [227](#)
変更 [227](#)
パスワードのリセット [227](#)
パスワードの変更 [227](#)

ふ

ファイルリスナ [386](#)
ファイル取り込みおよびレプリケーションタスク
REST API [517, 521, 527, 531](#)
ファイル転送
REST API を使用した監視 [410](#)
フィールド
REST API リソース [380](#)
プラットフォーム REST API リソース [13](#)

へ

ベース URL
REST API バージョンの違い [14](#)
ヘッダーの設定
REST API [15](#)

ま

マッピング
REST API リソース [449](#)

め

メータリング
REST API v3 リソース [182](#)
メーター ID [197](#)
メンテナンスの停止 [12](#)

ゆ

ユーザ
オブジェクト権限の割り当て [221](#)
ユーザーグループからの削除 [317](#)
ユーザーグループへの追加 [317](#)
削除 [313](#)
ユーザー
REST API リソース [108](#)
オブジェクトの権限の更新 [223](#)
ユーザーの詳細の取得 [305](#)
作成 [309](#)
削除 [309](#)
ユーザーグループ
オブジェクトの権限の更新 [223](#)
オブジェクト権限の割り当て [221](#)
ユーザーグループの割り当ての更新 [312](#)
ユーザーグループの詳細の取得 [314](#)
作成 [316](#)
削除 [318](#)

ら

ライセンス
REST API v3 リソース [172](#)

ランタイム環境 [81](#)

り

リソースの比較 [295](#)
リニアタスクフロー
workflow リソース [445](#)
リモート
REST API リソース [416](#)
リモートファイルの転送タスク
REST API リソース [416](#)

る

ルックアップ
REST API v3 リソース [178](#)

ろ

ロール
ユーザーグループからの削除 [317](#)
ユーザーグループへの追加 [317](#)
ロールの割り当ての更新 [311](#)
ログイン
REST API リソース [54](#), [174](#)
Salesforce 資格証明の使用 [66](#)
V2 login リソースの使用 [54](#)
V3 login リソースの使用 [174](#)
ログファイルの詳細
RunAJob ユーティリティ [579](#)

わ

ワークフロー
REST API リソース [445](#)